青森県埋蔵文化財調査報告書　第593集

沢部（1）遺跡

－ 県営小栗山地区通作条件整備事業に伴う遺跡発掘調査報告 －

２０１８年３月

青森県教育委員会

青森県埋蔵文化財調査報告書　第593集

沢部（1）遺跡

－ 県営小栗山地区通作条件整備事業に伴う遺跡発掘調査報告 －

２０１８年３月

青森県教育委員会

沢部（1）遺跡調査区全景　西から

調査区丘陵部から東側斜面の遺構群　西から

大溝（壕跡）と丘陵頂部の遺構群　西から

第６号竪穴建物跡　炭化物出土状況　東から

第６号竪穴建物跡　炭化種実塊（イネ・アワ）出土状況　北から

第２号製鉄関連遺構　完掘状況　北から

第２号製鉄関連遺構出土　製鉄関連遺物

第24号竪穴建物跡内土坑1　鉄滓（上段）・炭化物（下段）出土状況　南から

第15号竪穴建物跡　鉄鉗出土状況　北西から

第14号溝跡出土　越州窯系青磁皿

古代の土器類

序

青森県埋蔵文化財調査センターでは、県営小栗山地区通作条件整備事業予定地内に所在する沢部（１）遺跡・沢部（２）遺跡の発掘調査を平成 27・28 年度に実施しました。本報告書はそのうち沢部（１）遺跡発掘調査の調査成果をまとめたものです。

調査の結果、縄文時代、また、古代の遺構や遺物が確認され、縄文時代と古代の複合遺跡であることがわかりました。縄文時代ではフラスコ状土坑や土器、石器等、古代では竪穴建物跡や掘立柱建物跡、製鉄・鍛冶関連、土坑等の遺構が検出され、遺物は土師器、須恵器、土製品、石製品、金属製品、木製品、布製品等が出土しました。特に古代の製鉄・鍛冶関連遺構や布製品は、この地域では貴重な検出例として注目されます。

この調査成果が今後、埋蔵文化財の保護のために広く活用されるとともに、地域の歴史を理解する一助となることを期待します。

最後に、日頃から埋蔵文化財の保護に対してご理解をいただいている青森県農林水産部農村整備課に厚くお礼申し上げるとともに、発掘調査の実施と調査報告書の作成にあたり、ご指導、ご協力をいただきました関係各位に対し、心より感謝いたします。

平成３０年３月

青森県埋蔵文化財調査センター
所　長　田　村　博　美

例　　言・凡　　例

1　本書は、青森県農林水産部農村整備課による県営小栗山地区通作条件整備事業に伴い、青森県埋蔵文化財調査センターが平成 28 年度に発掘調査を実施した弘前市沢部（１）遺跡の発掘調査報告書である。発掘調査面積は 6,400 ㎡である。

2　沢部（１）遺跡の所在地は青森県弘前市大字小栗山字沢部地内、青森県遺跡番号は 202001 である。

3　発掘調査及び整理作業・報告書作成の経費は、調査を委託した青森県農林水産部農村整備課が負担した。

4　本報告書に関する発掘調査から整理・報告書作成までの期間は、以下のとおりである。

発掘調査期間	平成 28 年４月 19 日～同年 11 月 18 日
整理・報告書作成期間	平成 29 年４月１日～平成 30 年３月 31 日

5　本書は青森県埋蔵文化財調査センターが編集し、青森県教育委員会が作成した。執筆と編集は青森県埋蔵文化財調査センター齋藤岳総括主幹、永嶋豊文化財保護主幹、工藤忍文化財保護主査、久保友香理文化財保護主事が担当した。依頼原稿については文頭に執筆者名を記した。なお、発掘調査成果の一部は、遺跡見学会、発掘調査報告会等において公表しているが、これらと本書の内容が異なる場合においては本書が優先する。

6　発掘調査から整理・報告書作成にあたり、以下の業務については委託により実施した。

空中写真撮影	株式会社　シン技術コンサル
放射性炭素年代測定	株式会社　加速器分析研究所
石器図化作業の一部	株式会社　アルカ
炭化種実塊分析	株式会社　パレオ・ラボ
大型植物遺体同定	株式会社　パレオ・ラボ
樹種同定	株式会社　パレオ・ラボ
炭化布・樹皮素材分析	株式会社　パレオ・ラボ
鉄関連遺物分析	株式会社　古環境研究所
有機質遺物の保存処理	株式会社　吉田生物研究所
遺構図編集	株式会社　知立造園
遺物の写真撮影	シルバーフォト、有限会社無限、Photo Shop いなみ
遺物写真切り抜き	ワタナベサービス株式会社

7　石器の石質鑑定は調査員の根本直樹氏に依頼した。

8　地形図（遺跡位置図等）は、国土地理院発行の地図を合成・加工して使用した。

9　測量原点の座標値は、世界測地系（JGD2000）に基づく平面直角座標第Ｘ系による。挿図中の方位は、 すべて世界測地系の座標北を示している。

10　遺構については、その種類を示すアルファベットの略号と算用数字を組合わせた番号を付した。基本的な略号は、以下のとおりである。

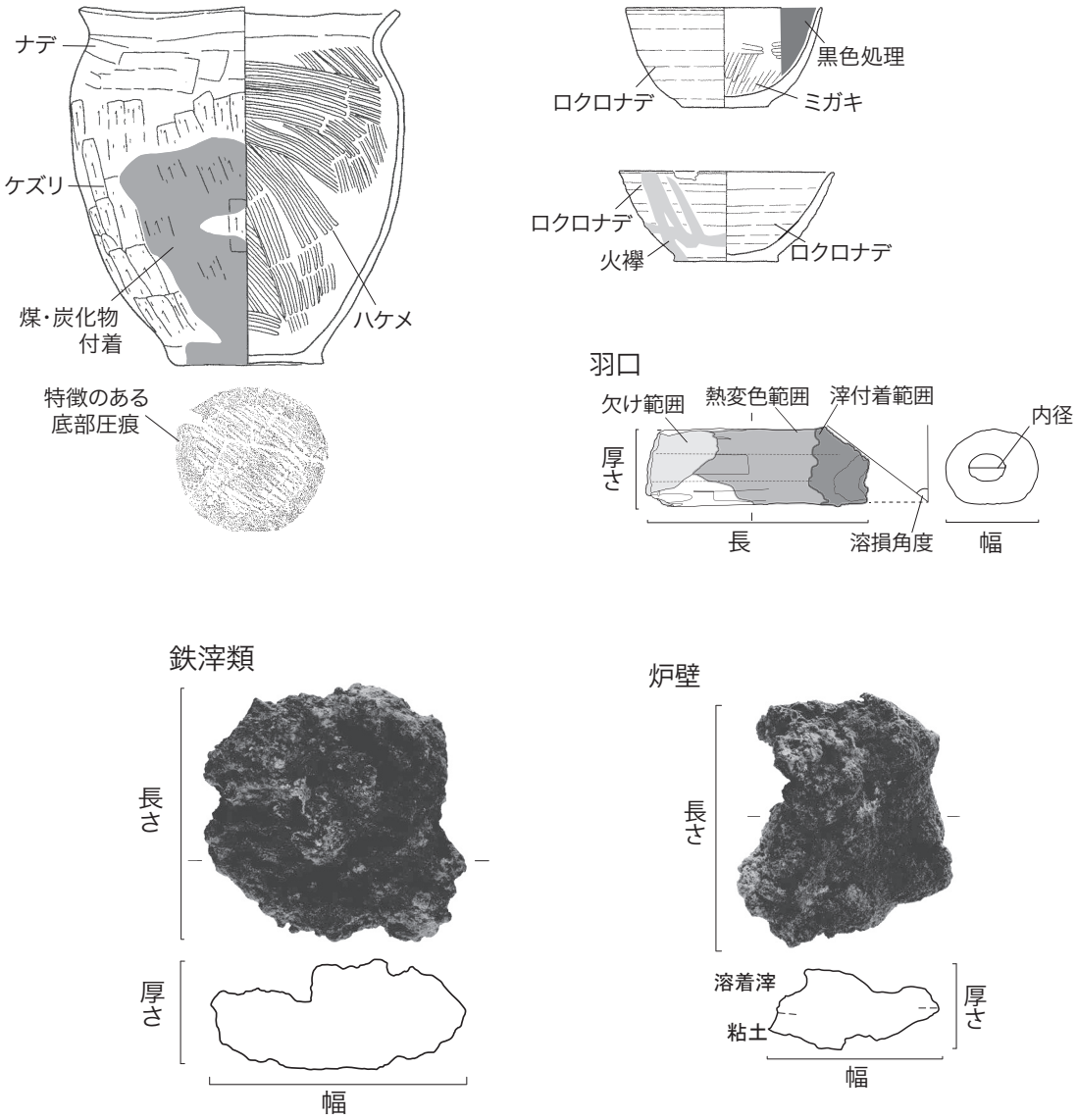
ＳＩ－竪穴建物跡、ＳＢ－掘立柱建物跡、ＳＫ－土坑、ＳＤ－溝跡、ＳＥ－井戸跡、ＳＳ－製鉄関連遺構、ＳＸ－性格不明遺構、Ｐｉｔ－柱穴

11　遺物については、取り上げ順に種別ごとの略号と番号を付した。略号は、以下のとおりである。

Ｐ－土器　Ｓ－石器　Ｆ－鉄製品等　Ｃ－炭化材

12　土層の色調表記には、『新版土色帖』（小山正忠・竹原秀雄）を用い、遺跡の基本土層にはローマ数字、遺構内堆積土には算用数字を使用した。土層断面図には、水準点を基にした海抜標高を付した。

13　図版中で使用した網掛けの説明は各図中に記したが、一部は観察表中に記したものもある。
遺物実測図で用いた表現方法については以下の通りである。



14　遺構実測図および遺物実測図の各図版には、スケールを付している。

15　遺物観察表における（　）内計測値は推定値を示す。

16　遺物写真には、遺物実測図の図番号を付した。縮尺は不同である。

17　発掘調査及び整理・報告書作成における出土品・実測図・写真等は現在、青森県埋蔵文化財調査センターが保管している。

18　発掘調査及び本報告書の作成に際して、下記の機関・諸氏からご指導ご協力を得た（敬称略、順不同）。
弘前市教育委員会、福岡市埋蔵文化財センター、九州歴史資料館、岩井浩介、東海林心、成田正彦、設楽政健、大庭康時、宇部則保、藤原弘明

目　次

巻頭写真
序
例言・凡例
目次
図版目次
表目次
写真図版目次

第１章　調査概要
　第１節　調査に至る経緯 ･････････････････ 1
　第２節　調査の方法 ･･････････････････････ 1
　　1　発掘作業の方法 ･･････････････････ 1
　　2　整理・報告書作成作業の方法 ･････ 2
　第３節　作業の経過 ･･････････････････････ 3
　　1　発掘作業の経過 ･･････････････････ 3
　　2　整理・報告書作成作業の経過 ･････ 4
第２章　遺跡周辺の環境
　第１節　遺跡の位置と環境 ･･････････････ 7
　第２節　周辺の遺跡 ･･････････････････････ 7
　第３節　基本層序 ･･････････････････････････ 8
第３章　検出遺構と出土遺物
　第１節　遺跡の概要 ･･････････････････････15
　第２節　検出遺構と遺構内出土遺物 ･････ 15
　　1　竪穴建物跡 ･･････････････････････ 15
　　2　掘立柱建物跡 ･･････････････････････ 57
　　3　製鉄関連遺構 ･･････････････････････ 58
　　4　井戸跡 ･･････････････････････････････ 59
　　5　土坑 ･･････････････････････････････････ 61
　　6　溝跡 ･･････････････････････････････････ 62
　　7　性格不明遺構 ･･････････････････････ 67
　第３節　遺構外出土遺物 ･････････････････ 237
　　1　土器 ･･････････････････････････････････ 237
　　2　鉄関連遺物 ･･････････････････････････ 237
　　3　石器 ･･････････････････････････････････ 238
第４章　自然科学分析
　第１節　沢部（１）遺跡出土イネの分析
　　･････････････････････････････ 239
　第２節　沢部（１）遺跡から出土した炭化種実塊の構造分析 ･････････････････ 243
　第３節　沢部（１）遺跡出土の樹皮素材と布の素材植物の同定 ･････････････････ 248
　第４節　沢部（１）遺跡出土木材の樹種同定
　　･････････････････････････････ 254
　第５節　沢部（１）遺跡出土の大型植物遺体
　　･････････････････････････････ 261
　第６節　沢部（１）遺跡における放射性炭素年代測定（AMS 測定）･････････････････ 267
　　沢部（１）遺跡における放射性炭素年代測定（AMS 測定）２･････････････ 272
　第７節　沢部（１）遺跡鉄関連遺物分析委託報告 ･･････････････････････････ 277
第５章　総括
　第１節　青磁について ･･････････････････ 289
　第２節　鉄関連遺構・遺物について ････ 290
　第３節　沢部（１）遺跡古代集落の概要
　　･････････････････････････････ 297
遺物観察表 ･･････････････････････････････････ 299
写真図版
報告書抄録

挿図目次

図１　製鉄関連遺物分類作業の流れ
図２　基本層序
図３　路線図
図４　周辺の遺跡
図５　遺構配置全体図
図６　遺構配置分割図（１）
図７　遺構配置分割図（２）
図８　遺構配置分割図（３）
図９　第１号竪穴建物跡
図 10　第４・６号竪穴建物跡（１）
図 11　第４・６号竪穴建物跡（２）
図 12　第４・６号竪穴建物跡（３）
図 13　第４・６号竪穴建物跡（４）
図 14　第７号竪穴建物跡
図 15　第９・32・34・35 号竪穴建物跡（１）
図 16　第９・32・34・35 号竪穴建物跡（２）
図 17　第９・32・34・35 号竪穴建物跡（３）
図 18　第９・32・34・35 号竪穴建物跡（４）
図 19　第９・32・34・35 号竪穴建物跡（５）
図 20　第９・32・34・35 号竪穴建物跡（６）
図 21　第９・32・34・35 号竪穴建物跡（７）
図 22　第９・32・34・35 号竪穴建物跡（８）
図 23　第 11 号竪穴建物跡
図 24　第 12・15 号竪穴建物跡
図 25　第 13・14 号竪穴建物跡
図 26　第 16・17・18・19 号竪穴建物跡
図 27　第 20・29 号竪穴建物跡（１）
図 28　第 20・29 号竪穴建物跡（２）
図 29　第 21 号竪穴建物跡（１）
図 30　第 21 号竪穴建物跡（２）
図 31　第 22 号竪穴建物跡・14 号性格不明遺構
図 32　第 24 号竪穴建物跡
図 33　第 25 号竪穴建物跡
図 34　第 27・28 号竪穴建物跡
図 35　第 27 号竪穴建物跡
図 36　第 30・61 号竪穴建物跡
図 37　第 36・37・38・39 号竪穴建物跡（１）
図 38　第 36・37・38・39 号竪穴建物跡（２）
図 39　第 36・37・38・39 号竪穴建物跡（３）
図 40　第 36・37・38・39 号竪穴建物跡（４）
図 41　第 40 号竪穴建物跡
図 42　第 41・42・43・46・117 号竪穴建物跡（１）
図 43　第 41・42・43・46・117 号竪穴建物跡（２）
図 44　第 41・42・43・46・117 号竪穴建物跡（３）
図 45　第 41・42・43・46・117 号竪穴建物跡（４）
図 46　第 41・42・43・46・117 号竪穴建物跡（５）
図 47　第 44・45・48 号竪穴建物跡（１）
図 48　第 44・45・48 号竪穴建物跡（２）
図 49　第 50・51 号竪穴建物跡
図 50　第 53 号竪穴建物跡
図 51　第 55・56・77 号竪穴建物跡
図 52　第 57・58 号竪穴建物跡（１）
図 53　第 57・58 号竪穴建物跡（２）
図 54　第 57・58 号竪穴建物跡（３）
図 55　第 59 号竪穴建物跡
図 56　第 62・68 号竪穴建物跡
図 57　第 62A・62B・62C・66A 号竪穴建物跡
図 58　第 63・64 号竪穴建物跡
図 59　第 66A・66B・67A・67B 号竪穴建物跡
図 60　第 71・72 号竪穴建物跡（１）
図 61　第 71・72 号竪穴建物跡（２）
図 62　第 73 号竪穴建物跡（１）
図 63　第 73 号竪穴建物跡（２）
図 64　第 75・76 号竪穴建物跡
図 65　第 79・80 号竪穴建物跡（１）
図 66　第 79・80 号竪穴建物跡（２）
図 67　第 81・82 号竪穴建物跡
図 68　第 83・85・86・88 号竪穴建物跡（１）

図 69　第 83・85・86・88 号竪穴建物跡（２）
図 70　第 83・85・86・88 号竪穴建物跡（３）
図 71　第 83・85・86・88 号竪穴建物跡（４）
図 72　第 87 号竪穴建物跡
図 73　第 91 号竪穴建物跡（１）
図 74　第 91 号竪穴建物跡（２）
図 75　第 91 号竪穴建物跡（３）
図 76　第 94・97 号竪穴建物跡（１）
図 77　第 94・97 号竪穴建物跡（２）
図 78　第 94・97 号竪穴建物跡（３）
図 79　第 94・97 号竪穴建物跡（４）
図 80　第 94・97 号竪穴建物跡（５）
図 81　第 96 号竪穴建物跡
図 82　第 101・102 号竪穴建物跡
図 83　第 103 号竪穴建物跡
図 84　第 104A・104B・106 号竪穴建物跡
図 85　第 105・116 号竪穴建物跡
図 86　第 111・112・113・114 号竪穴建物跡
図 87　第１号掘立柱建物跡
図 88　第２号掘立柱建物跡
図 89　第１号製鉄関連遺構
図 90　第２号製鉄関連遺構（１）
図 91　第２号製鉄関連遺構（２）
図 92　第２号製鉄関連遺構（３）
図 93　第３号製鉄関連遺構
図 94　第１・２・３・４号井戸跡
図 95　土坑（１）
図 96　土坑（２）
図 97　土坑（３）
図 98　土坑（４）
図 99　土坑（５）
図 100　土坑（６）
図 101　土坑（７）
図 102　土坑（８）
図 103　土坑（９）
図 104　土坑（10）
図 105　土坑（11）
図 106　土坑（12）
図 107　第２・３・４号溝跡
図 108　第５・６・９・10 号溝跡
図 109　第 11・12・13・22 号溝跡
図 110　第 14・15・17・18・20 号溝跡
図 111　第 19・21・25・28 号溝跡
図 112　第 31・34・71・85・86・101・103 号溝跡
図 113　第 102・104・105・107 号溝跡
図 114　第 106・109・111 号溝跡
図 115　第 112 ～ 118 号溝跡
図 116　第 121・122・125 号溝跡
図 117　第 126・128・129 号溝跡
図 118　第１・５・７・９・21 号性格不明遺構
図 119　第 22・89・90・112 ～ 115 号性格不明遺構
図 120　遺構内出土土器（１）
図 121　遺構内出土土器（２）
図 122　遺構内出土土器（３）
図 123　遺構内出土土器（４）
図 124　遺構内出土土器（５）
図 125　遺構内出土土器（６）
図 126　遺構内出土土器（７）
図 127　遺構内出土土器（８）
図 128　遺構内出土土器（９）
図 129　遺構内出土土器（10）
図 130　遺構内出土土器（11）
図 131　遺構内出土土器（12）
図 132　遺構内出土土器（13）
図 133　遺構内出土土器（14）
図 134　遺構内出土土器（15）
図 135　遺構内出土土器（16）
図 136　遺構内出土土器（17）
図 137　遺構内出土土器（18）
図 138　遺構内出土土器（19）
図 139　遺構内出土土器（20）
図 140　遺構内出土土器（21）

図 141　遺構内出土土器（22）
図 142　遺構内出土土器（23）
図 143　遺構内出土土器（24）
図 144　遺構内出土土器（25）
図 145　遺構内出土土器（26）
図 146　遺構内出土土器（27）
図 147　遺構内出土土器（28）
図 148　遺構内出土土器（29）
図 149　遺構内出土土器（30）
図 150　遺構内出土土器（31）
図 151　遺構内出土土器（32）
図 152　遺構内出土土器（33）
図 153　遺構内出土土器（34）
図 154　遺構内出土土器（35）
図 155　遺構内出土土器（36）
図 156　遺構内出土土器（37）
図 157　遺構内出土土器（38）
図 158　遺構内出土土器（39）
図 159　遺構外出土土器（１）
図 160　遺構外出土土器（２）
図 161　鉄製品（１）
図 162　鉄製品（２）
図 163　鉄滓（１）
図 164　鉄滓（２）
図 165　鉄滓（３）
図 166　鉄滓（４）
図 167　羽口（１）
図 168　羽口（２）
図 169　羽口（３）
図 170　遺構内出土石器（１）
図 171　遺構内出土石器（２）
図 172　遺構内出土石器（３）・遺構内出土石製品
図 173　遺構外出土石器
図 174　木製品
図 175　製錬炉・排滓場出土遺物重量割合

表目次

表１　鉄製品点数集計表
表２　遺構内出土鉄滓類重量表
表３　遺構外出土鉄滓類・羽口重量表
表４　遺構内土器観察表
表５　遺構外土器観察表
表６　鉄滓類観察表
表７　鉄製品観察表
表８　羽口観察表
表９　石器・石製品観察表
表 10　木製品観察表

写真目次

写真１　遺跡の地形と検出遺構群
写真２　炭化したカバノキ属樹皮巻きとアサ糸製布
写真３　第１号竪穴建物跡
写真４　第４・６号竪穴建物跡（１）
写真５　第４・６号竪穴建物跡（２）
写真６　第４・６号竪穴建物跡（３）
写真７　第４・６号竪穴建物跡（４）
写真８　第６号竪穴建物跡（５）
写真９　第７号竪穴建物跡
写真 10　第９・32・34・35 号竪穴建物跡（１）
写真 11　第９・32・34・35 号竪穴建物跡（２）
写真 12　第９・32・34・35 号竪穴建物跡（３）
写真 13　第９・32・34・35 号竪穴建物跡（４）
写真 14　第９・32・34・35 号竪穴建物跡（５）
写真 15　第９・32・34・35 号竪穴建物跡（６）
写真 16　第９・32・34・35 号竪穴建物跡（７）
写真 17　第９・32・34・35 号竪穴建物跡（８）
写真 18　第 11 号（新）竪穴建物跡
写真 19　第 11 号（古）竪穴建物跡
写真 20　第 12・15 号竪穴建物跡
写真 21　第 13・14 号竪穴建物跡
写真 22　第 16・17・19 号竪穴建物跡（１）
写真 23　第 19 号竪穴建物跡（２）
写真 24　第 19 号竪穴建物跡（３）
写真 25　第 20 号竪穴建物跡
写真 26　第 21 号竪穴建物跡
写真 27　第 22 号竪穴建物跡
写真 28　第 24 号竪穴建物跡（１）
写真 29　第 24 号竪穴建物跡（２）
写真 30　第 25 号竪穴建物跡
写真 31　第 27 号竪穴建物跡（１）
写真 32　第 27・28 号竪穴建物跡（２）
写真 33　第 30・61 号竪穴建物跡
写真 34　第 36・37・38・39 号竪穴建物跡（１）
写真 35　第 36・37・38・39 号竪穴建物跡（２）
写真 36　第 36・37・38・39 号竪穴建物跡（３）
写真 37　第 36・37・38・39 号竪穴建物跡（４）
写真 38　第 36・37・38・39 号竪穴建物跡（５）
写真 39　第 40 号竪穴建物跡
写真 40　第 41 号竪穴建物跡（１）
写真 41　第 41・42 号竪穴建物跡（２）
写真 42　第 43・117、44・45・48 号竪穴建物跡
写真 43　第 50・51、53 号竪穴建物跡
写真 44　第 55・56・77 号竪穴建物跡
写真 45　第 57・58、59 号竪穴建物跡
写真 46　第 62 号竪穴建物跡
写真 47　第 63 ・64 号竪穴建物跡
写真 48　第 66 ・66A 号竪穴建物跡
写真 49　第 67A・B 号竪穴建物跡
写真 50　第 71 ・72 号竪穴建物跡（１）
写真 51　第 71 ・72 号竪穴建物跡（２）
写真 52　第 73 号竪穴建物跡（１）
写真 53　第 73 号竪穴建物跡（２）
写真 54　第 75 号竪穴建物跡
写真 55　第 76 号竪穴建物跡
写真 56　第 79 ・80 号竪穴建物跡（１）
写真 57　第 79 ・80 号竪穴建物跡（２）
写真 58　第 81 ・83 号竪穴建物跡
写真 59　第 85 ・86・88・87 号竪穴建物跡
写真 60　第 91 号竪穴建物跡
写真 61　第 94 号竪穴建物跡
写真 62　第 96 ・101 ～ 106・116 号竪穴建物跡
写真 63　第 111 ～ 114 号竪穴建物跡（１）
写真 64　第 111 ～ 114 号竪穴建物跡（２）
写真 65　掘立柱建物跡
写真 66　製鉄関連遺構（１）

写真 67　製鉄関連遺構（２）
写真 68　製鉄関連遺構（３）
写真 69　製鉄関連遺構（４）
写真 70　製鉄関連遺構（５）
写真 71　土坑（１）
写真 72　土坑（２）
写真 73　土坑（３）
写真 74　土坑（４）
写真 75　土坑（５）
写真 76　土坑（６）
写真 77　土坑（７）
写真 78　土坑（８）
写真 79　土坑（９）
写真 80　土坑（10）
写真 81　土坑（11）
写真 82　土坑（12）
写真 83　土坑（13）
写真 84　土坑（14）
写真 85　土坑（15）
写真 86　土坑（16）
写真 87　土坑（17）
写真 88　井戸跡（１）
写真 89　井戸跡（２）
写真 90　溝跡（１）
写真 91　溝跡（２）
写真 92　溝跡（３）
写真 93　溝跡（４）
写真 94　溝跡（５）
写真 95　溝跡（６）
写真 96　溝跡（７）
写真 97　溝跡（８）
写真 98　溝跡（９）
写真 99　溝跡（10）
写真 100 溝跡（11）
写真 101 溝跡（12）
写真 102 性格不明遺構（１）
写真 103 性格不明遺構（２）
写真 104　性格不明遺構（３）
写真 105　土器（１）
写真 106　土器（２）
写真 107　土器（３）
写真 108　土器（４）
写真 109　土器（５）
写真 110　土器（６）
写真 111　土器（７）
写真 112　土器（８）
写真 113　土器（９）
写真 114　土器（10）
写真 115　土器（11）
写真 116　土器（12）
写真 117　遺構外出土土器
写真 118　鉄製品
写真 119　羽口
写真 120　石器
写真 121　木製品

第１章　調査概要

第１節　調査に至る経緯

県営小栗山地区通作条件整備事業予定地内に所在する埋蔵文化財の取り扱いについては、平成23年度に青森県農林水産部農村整備課及び中南地域県民局地域農林水産部から事業計画が示され、青森県教育庁文化財保護課（以下県文化財保護課）が事業者と継続的に協議を重ねてきた。平成25年度には県文化財保護課が事業予定地の試掘確認調査を行い遺構・遺物を確認したことから、鷲ノ巣（１）遺跡、鷲ノ巣（３）遺跡、沢部（１）遺跡、沢部（２）遺跡の計４遺跡について工事施工前の本発掘調査が必要であるとした（青森県教育委員会2014）。この結果を受け、再度県文化財保護課と事業者との間で協議を行い、工事優先箇所の決定や他調査事業との調整を経た上で、平成26年度に県文化財保護課が鷲ノ巣（１）遺跡と鷲ノ巣（３）遺跡を、平成27・28年度には青森県埋蔵文化財調査センターが沢部（２）遺跡と沢部（１）遺跡の本発掘調査をそれぞれ実施することとした。沢部（１）遺跡については、平成26年４月に中南地域県民局長から文化財保護法第94条第１項の通知があったことから、青森県教育委員会教育長が工事着手前の本発掘調査（記録保存調査）を指示している（平成26年４月15日付け青教文第166号）。

第２節　調査の方法

１　発掘作業の方法

沢部（１）遺跡（沢部Ⅰ号遺跡）は昭和48年度に弘前南部地区広域営農団地農道（通称アップルロード）の整備事業に伴い、青森県教育委員会が弘前大学の村越潔に依頼し工事着手前の本発掘調査を行っている（青森県教育委員会1973）。また、平成９年度には民間開発事業に伴い、弘前市教育委員会が試掘確認調査を行っている（弘前市教育委員会1998）。昭和48年度に行われた調査では遺構の検出はなかったものの、縄文時代や古代の遺物が出土している。平成９年度に行われた調査では縄文時代の遺構・遺物の他、溝（壕）に囲まれた大規模な古代の集落跡が確認され、遺構の重複も多数認められている。これら過年度の調査結果を踏まえ、今回の発掘調査では検出遺構の新旧関係や層位的な調査に主眼をおいて発掘作業を進めることとした。

［測量基準点・水準点の設置とグリッドの設定］　測量基準点と水準点については、世界測地系に基づく既知点を利用し、調査区に任意杭を設置して使用した。グリッド法を採用し、世界測地系による公共座標値（Ｘ＝62050、Ｙ＝－30050）を基準点とし、一辺４ｍで設定した。各グリッドは南から北にアルファベット、西から東に算用数字を付したが、アルファベットは文字１巡による重複を防ぐためローマ数字を併用したほかＺは使用せず、Ｙの次はＡとした。よってグリッド名は南北及び東西の組み合わせによる南西隅交点杭の杭名を用いてＩＳ－19やⅡＴ－20のように表記した。

［基本層序］　基本層序は任意の地点を掘り下げて確認し、上位からローマ数字を付して呼称した。

［表土等の掘削］　表土等の掘削作業・排土移動は、重機を使用して省力化を図った。出土遺物にはグリッド名と基本層序に基づく層位を記録し取り上げた。

［遺構の調査］ 検出遺構は、原則として確認順に種別毎の略号と算用数字を組み合わせた遺構番号を付して精査した。堆積土観察用のセクションベルトは、遺構の形態と大きさに応じて、基本的に４分割または２分割で設定した。遺構の平面図、堆積土層断面図、遺構配置図、地形測量図等の作成の一部は株式会社知立造園に委託し、株式会社 CUBIC 製の「遺構実測支援システム」及びトータルステーションを用いた。遺構内の出土遺物は層位毎に取り上げ、状況に応じて遺物出土状況図や遺物分布図を作成した。

［写真撮影］ 写真撮影は、35 ㎜モノクローム、35 ㎜リバーサル、1,800 万画素のデジタルカメラを用い、発掘作業状況、土層の堆積状態、遺構の精査状況、完掘後の全景について記録した。また、空中写真撮影については株式会社シン技術コンサルに委託した。

［自然科学分析］ 遺構の構築年代の推定、植物利用の実態等を解明するため、炭化材、土壌等を適宜採取した。その際、層位と採取位置の記録を行ったのち、金属製の道具を用い採取し梱包した。

２　整理・報告書作成作業の方法

［図面類の整理］ 図面整理では、株式会社 CUBIC 製「遺構実測支援システム」で作成された遺構の平面図と堆積土層断面図等の調整を行った。また、図面の測量点等についてはエクセルファイル（.xlsx 形式及び .csv 形式）で HDD 及び DVD － R に収納した。

［遺物の洗浄・注記と接合・復元］ 遺構内出土遺物を優先的に洗浄し、その後、遺構外出土遺物を洗浄した。遺物の注記は調査年度、遺跡名、遺構名、層位、取り上げ番号を略記したが、土器細片や剥片石器、金属器、製鉄関連遺物等、直接注記できないもの及び礫石器については、収納したポリ袋に注記した。接合･復元にあたっては、同一個体の出土地点･出土層位等の整理を併せて行った。

［報告書掲載遺物の選別］ 遺物全体の分類を適切に行った上で、遺構に伴って使用・廃棄された資料、遺構の構築・廃絶時期等を示す資料、遺存状態が良く同類の中で代表的な資料、時期・型式・器種等の分かる資料に加え、特異で類例に乏しい資料を選別した。鉄滓類は、洗浄後、タジマツール製のピックアップMによる磁着の確認とＫＤＳ社製の METAL　CHECKER　MR － 50 による磁着遺物の中からメタル反応のある鉄塊系遺物の回収作業を行った。メタル度については、Ｌ・Ｍ・Ｈ・銹化の４つに分類した。鉄滓類の分類については、遺構内遺物を青森市教育委員会の設楽政健氏に鑑定していただき、遺構外遺物は設楽氏の鑑定を基に久保が分類した。製鉄関連遺物の分類の流れは図１のとおりである（青森県埋蔵文化財調査センター　2017『鳴戸（３）遺跡Ⅱ』を一部改変して作成）。メタル度については、鉄関連遺物の分析評価研究グループ編　2005『鉄関連遺物の分析評価に関する研究会報告』を参考とした。遺構内の土壌は１㎜メッシュ篩による微細な鉄滓や砂鉄の回収に努めた。

［遺物の観察・図化］ 肉眼により充分観察した上で、遺物の特徴を適切に分かり易く表現するように図化したほか、選別した遺物については、法量を計測した観察表を作成した。また、石器の実測図作成作業については一部委託により行った。

［遺物の写真撮影］ 委託により行い、実測図等では表現しがたい質感・雰囲気・製作技法・文様表現等を伝えられるように留意した。

［自然科学分析］ 炭化物及び炭化材の放射性炭素年代測定を委託により行った。その他、遺跡の性

格を特徴づける鉄関連遺物の分析や炭化種実塊、樹皮・布等の分析、脆弱遺物については必要に応じ保存処理を委託により行った。石器の石質鑑定は調査員の根本直樹氏に依頼した。

［トレース・版下作成］　遺構・遺物実測図のトレースは、株式会社 CUBIC 製「遺構実測支援システムと同「トレースくん」を用いてデジタルトレースを行い、一部は委託により行った。実測図版及び写真図版の版下等は、主に Adobe 社製 CreativeSuite6 を用いて作成した。

［遺構の検討・分類・整理］　遺構毎に種類・構造的特徴・出土遺物・他の遺構との重複関係等に関するデータを整理し、構築時期や同時性・性格等について検討を加えた。また、検討結果が調査時の所見と異なる場合には、適宜遺構番号の変更・重複関係の修正等を行った。

［遺物の検討・分類・整理］　遺物を時代・時期・種類毎に整理し、出土遺物全体の分類・器種組成・個体数等について検討した。また、遺物の計測等を行い法量の検討を行った。

［調査成果の検討］　遺構の種類と構造的特徴、構築時期・性格等について検討し、遺構・遺物の検討結果を踏まえて、遺跡の時期・種別・構造・特徴等について検討整理した。

第３節　作業の経過

１　発掘作業の経過

発掘調査体制は、以下のとおりである。

調査主体　　青森県埋蔵文化財調査センター

所長	田村　博美
次長	川上　彰雄（総務ＧＭ兼務・現：次長）
調査第二ＧＭ	笹森　一朗
総括主幹	齋藤　岳（発掘調査担当者）
文化財保護主幹	永嶋　豊（発掘調査担当者）
文化財保護主査	工藤　忍（発掘調査担当者）
文化財保護主事	久保　友香理（発掘調査担当者）
文化財保護主事	最上　法聖（発掘調査担当者、現・福島県教育庁派遣）
文化財保護主事	髙橋　哲（発掘調査担当者、現・青森県教育庁文化財保護課三内丸山遺跡保存活用推進室文化財保護主事）
文化財保護主事	中澤　寛将（発掘調査担当者、現・青森県企画政策部世界文化遺産登録推進室主事）

専門的事項に関する指導・助言

調　査　員	藤沼　邦彦	前国立大学法人弘前大学人文学部教授（考古学）
〃	関根　達人	国立大学法人弘前大学人文社会科学部教授（考古学）
〃	三浦　圭介	青森中央学院大学非常勤講師（考古学）
〃	宇田川　浩一	秋田県教育庁払田柵調査事務所副主幹兼班長（考古学）
〃	柴　正敏	国立大学法人弘前大学大学院理工学研究科教授（地質学）
〃	根本　直樹	国立大学法人弘前大学大学院理工学研究科講師（地質学）

発掘作業の経過は以下のとおりである。

〔平成 28 年度〕

4 月 19 日　発掘調査器材などを搬入し調査を開始した。排土は調査区内での移動を基本とした。

5 月上旬　調査区の西側から遺構が検出され、精査を行った。

5 月中旬　調査区東側の調査に着手した。遺構検出を進めた結果、弘前市教育委員会の試掘確認調査でも検出された大溝（壕）跡を境にして東側の調査区は遺構密度が濃い状況を確認した。

5 月下旬　遺構検出及び遺構精査、遺物取り上げを行った。

6 月上旬　遺構検出、遺構精査、遺物取り上げ作業を継続した。複数回の建て替えが行われている遺構が確認できた。

6 月中旬　引き続き、遺構検出、遺構精査、遺物取り上げ作業を行った。検出遺構の大部分は重複が認められた。

6 月下旬　遺構検出、遺構精査、遺物取り上げ作業を継続した。鉄生産関連遺構が検出された。

7 月上旬　引き続き、遺構検出、遺構精査、遺物取り上げ作業を行った。

7 月中旬　遺構精査、遺物取り上げ作業を継続した。鉄生産に関連する遺構が建物跡内外から複数基検出された。

7 月下旬　遺構精査、遺物取り上げ作業を継続した。

8 月上旬　遺構検出、遺構精査、遺物取り上げ作業を行った。旧農作業用道路下部から深度の深い遺構が多数検出された。

8 月中旬　遺構精査、遺物取り上げ作業を継続した。鉄生産関連遺構が調査区東部からも検出された。

8 月下旬　遺構精査、遺物取り上げ作業を継続した。竪穴建物跡内から布片が出土した。溝跡から青磁片が出土した。

9 月上旬　引き続き、遺構検出、遺構精査、遺物取り上げ作業を行った。

9 月中旬　遺構精査、遺物取り上げ作業を継続した。井戸跡と考えられる遺構が複数基検出され、現在でも湧水が確認された。

9 月下旬　遺構精査、遺物取り上げ作業を継続した。重複する遺構も数多く、密に検出され進捗に遅れが生じた。事業者を交えた協議の結果、当初予定していた調査期間を 11 月中旬まで延長することとなった。

10 月上旬　引き続き、遺構検出、遺構精査、遺物取り上げ作業を行った。

10 月中旬　遺構精査、遺物取り上げ作業を継続した。

10 月下旬　引き続き、遺構精査、遺物取り上げ作業を行った。

11 月上旬　遺構精査、遺物取り上げ作業を継続した。

11 月 18 日　すべての作業を終了し、出土品等を搬出した後、現地から撤収した。

2　整理・報告書作成作業の経過

整理・報告書作成体制は、基本的に発掘調査に携わった職員で構成する。体制は以下のとおりである。

整理主体　　青森県埋蔵文化財調査センター
　　総括主幹　　齋藤　岳
　　文化財保護主幹　永嶋　豊
　　文化財保護主査　工藤　忍
　　文化財保護主査　岩井　美香子
　　文化財保護主事　久保　友香理

報告書刊行事業は平成 29 年度から実施することになったが、写真類の整理作業及び遺構図面の整理作業の一部は、発掘調査終了後の平成 28 年 11 月中に終了している。この他の整理・報告書作成作業は平成 29 年４月１日から平成 30 年３月 31 日までの期間で行った。調査区からは縄文時代の遺構・遺物の他、古代の竪穴建物跡や製鉄・鍛冶関連の遺構が数多く検出され、遺物も遺構堆積土中から多数出土した。報告書の総頁は 442 頁で、遺構や遺物の数に応じて各々の記載にあてることにした。

整理・報告書作成作業の経過は以下のとおりである。

〔平成 29 年度〕

４～５月　　出土遺物の接合・復元作業を行った。

６月～　　引き続き、出土遺物の接合・復元作業を行うとともに、遺構や土層断面図等の修正作業を行った。

７月～　　出土遺物の接合・復元作業を行うとともに、出土遺物の図化作業を行った。また、図面のトレース作業を開始した。

８～９月　　引き続き、出土遺物の図化・トレース作業や図面のトレース作業を行った。

10 月～　　出土遺物の図化・トレース作業、図面のトレース作業を行うとともに、各種図版作成作業を開始した。また、報告書掲載遺物観察表の作成を開始した。

11 月～　　報告書掲載遺物の写真撮影を行うとともに各種図版作成作業を継続した。また、原稿執筆作業を開始した。

12 月～　　原稿･版下が揃ったので、報告書の割付･編集作業を行い、印刷業者を入札･選定した。

12 月中旬～　印刷業者との契約事務が完了した後、原稿及び版下を入稿した。

３月 23 日　　３回の校正を経て、報告書を刊行した。

３月下旬　　記録類、出土遺物等を整理して収納した。

【製鉄関連遺物の分類】

［羽口］製鉄炉内に風を送り込むために炉壁に装着する土製の管である。炉内側は溶損し、多量の鉄滓が付着する。**［炉壁］**炉を形成する壁部分の破片。内面が被熱を受け変色しているものや、ガラス状に溶解したり、滓や砂鉄が付着したりしているものがある。断面で稲藁が観察できるものがある。**［粘土質溶解物］**炉壁内面や羽口の強く熱を受けた部分が溶解したもの。**［炉内滓］**製鉄炉内で固結した滓。破面がギラギラとした光沢を持つものが多い。**［流動滓］**炉内外で流動状に固結したもの。平面形状は棒状のものが多く、底面に砂粒が付着しているものがみられる。**［椀形滓］**炉内の窪みに沿って椀形に固結した滓。先にできた椀形滓をずらし、数回にわたって作業を行った結果､数段に重なっているものがある。**［鍛冶滓］**鍛冶工程で生成した滓で､椀形以外の形態を持つもの。**［流出孔滓］**炉内から流出孔を通り炉外へ流れる途中で、流出孔の内部で固結した滓。**［流出溝滓］**

炉内から炉外へ流れ出る途中で、流出溝の内部で固結した滓。［**再結合滓**］鉄錆によって周辺土砂に加え、滓や木炭等が噛み合って二次的に固結したもの。［**砂鉄焼結塊**］製鉄炉内に投入した砂鉄が溶け残った状態で固結したもの。［**鉄塊系遺物**］黒錆が表面に顕著に確認され、磁着反応があり、メタル度がＬ(●)のものを鉄塊系遺物として取り扱った。［**含鉄遺物**］黒錆が表面に顕著に確認され、磁着反応があり、メタル度がＭ（◎）及びＨ（○）のものを含鉄遺物として取り扱った。［**銹化遺物**］黒錆が表面に顕著に確認され、磁着反応があり、メタルチェッカーに反応しなかったものを銹化遺物として取り扱った。［**砂鉄**］製鉄炉内から回収された堆積土のうち、磁着する砂泥を砂鉄として取り扱った。

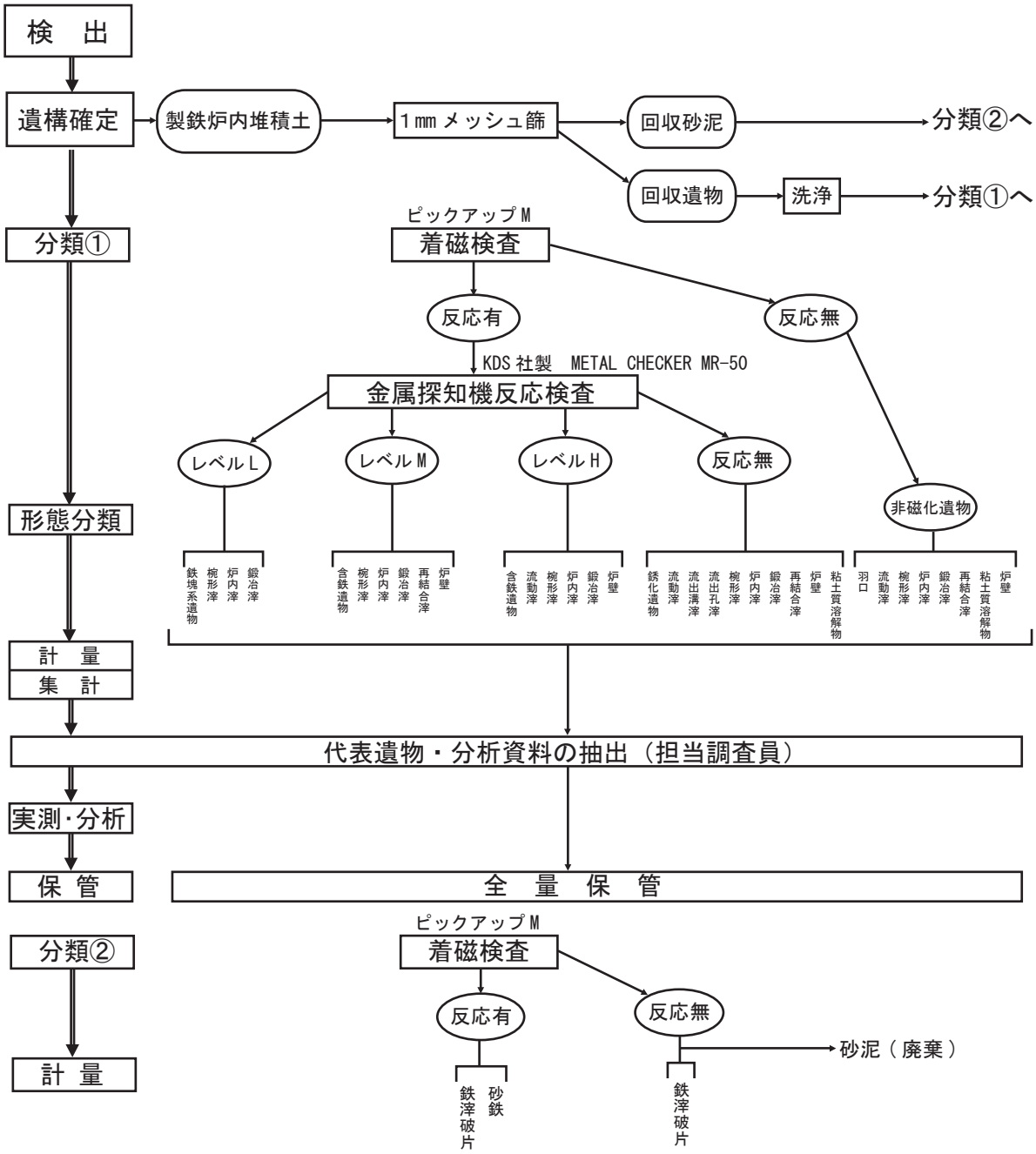


図１　製鉄関連遺物分類作業の流れ

第２章　遺跡周辺の環境

第１節　遺跡の位置と環境

沢部（１）遺跡は弘前市大字小栗山字沢部地内に所在する。遺跡は弘前市の南部、弘前市役所から南へ約 5.4 ㎞に立地している。北西側は一級河川平川の支流である大和沢川が北流し、南側は土筆森（標高 401.4m）などが連なる山地となり、大鰐を経て遠く秋田県境へと険しい山脈が続いている。遺跡はこのような山地を源とする大和沢川や平川に注ぐ小河川によって開析された南北に長い舌状の、東は稲刈沢川、西は天王沢に挟まれた標高 100 ～ 120m 程の丘陵上に位置している。遺跡の南東部には小栗山集落から小栗山神社へと続く参道が北東から南西方向へ、また、遺跡の南部には弘前南部地区広域営農団地農道が東西方向へ通っている。これらの道路周辺の山地に連なる丘陵には弘前市の特産品であるリンゴを主体とした果樹園や山林等が広がり、北～北東側に続く低位の扇状地、津軽平野南端部には広く住宅地、水田や畑地等が形成されている。

第２節　周辺の遺跡

沢部（１）遺跡の周辺には縄文時代から中・近世までの遺跡が数多く分布している。大和沢川右岸の同一丘陵で沢部（１）遺跡の南西部には沢部（２）遺跡、その南部の天王沢の右岸には天王沢遺跡、南東部には近接して鷲ノ巣（１）遺跡、鷲ノ巣（２）遺跡、北部には小栗山館遺跡、天王沢を挟んだ西側の別丘陵には鷲ノ巣（３）遺跡が位置している。また、大和沢川左岸の丘陵には大和沢沢田（２）遺跡、その南部には大和沢沢田（１）遺跡、大和沢館等の遺跡が確認されている。これらの遺跡には過去に発掘調査が行われた事例も少なくない。

昭和 48 年度には弘前南部地区広域営農団地農道建設に先立ち、青森県教育委員会が弘前大学の村越潔に依頼して沢部（１）遺跡（沢部Ⅰ号遺跡）、沢部（２）遺跡（沢部Ⅱ号遺跡）、天王沢遺跡の発掘調査を実施している（青森県教育委員会 1974）。この調査では３遺跡全て竪穴建物跡は確認されなかったが、沢部（１）遺跡では縄文時代後期前葉の十腰内Ⅰ式土器と古代の土師器・須恵器、沢部（２）遺跡では縄文時代前期中葉の円筒下層 a･b 式土器や石器、土製品･石製品、炭化堅果類等、天王沢遺跡では縄文時代後期の土器や石器が出土し、人々の生活や行動の痕跡を垣間見ることができる。

平成８年度からは小栗山地区周辺の開発事業に伴い、弘前市教育委員会が小栗山館遺跡（弘前市教育委員会 1997, 1999, 2000, 2014）、沢部（１）遺跡（弘前市教育委員会 1998）、鷲ノ巣（１）遺跡（弘前市教育委員会 2003）の試掘確認調査及び本発掘調査を実施している。

丘陵の北端部に位置する小栗山館遺跡は古くから中世城館として古文書に登場するとともに、近世においては弘前藩の御仮屋があったところとしても知られており、市道建設や個人住宅建設に伴い弘前市教育委員会が継続的、断続的に発掘調査を実施し、縄文時代早期から晩期、弥生時代前期の遺物、古代の集落跡やそれに伴う遺物、中世や近世の遺物が確認されている。特に古代の集落跡からは鉄関連遺物が多数出土しており、沢部（１）遺跡との関連性も注目される。

沢部（１）遺跡は民間開発事業に伴い試掘確認調査が実施され、縄文時代晩期初頭の土坑のほか平安時代の溝（壕）に区画された大規模な集落跡が確認されており、縄文時代中期から晩期、弥生時代後期、平安時代の遺物が出土している。なお、前述の青森県教育委員会調査報告の中で村越は「小

栗山部落の西にある大池西岸一帯に縄文時代晩期の大洞Ｂ式土器を出土する新遺跡の存在が確認されている」と記述しており、小栗山館遺跡の南東側に接する丘陵と沢部（１）遺跡北側に接する丘陵には未登録の遺跡が存在する可能性が指摘されている。大溜池（大池）と呼ばれていた灌漑用水用の溜池は数年前に埋め立てられ、現在では小栗山農村交流公園の一部となっており、当時の様子をうかがい知ることはできない。

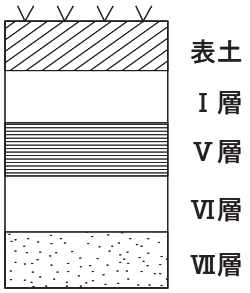
鷲ノ巣（１）遺跡は平成 10 年度に古代の遺跡として登録され、平成 14 年度には市道稲刈沢線の交差点改良事業に伴い弘前市教育委員会が試掘確認調査を実施し縄文時代後期の土器が出土している。また、平成 25 年度には県文化財保護課が県営小栗山地区通作条件整備事業に伴い試掘確認調査を実施している（青森県教育委員会 2015）。続く平成 26 年度の本発掘調査においては古代の竪穴建物跡や堀跡を検出している。竪穴建物跡は同一箇所で複数回の建替がみられるなど類似性もあることから、近接する沢部（１）遺跡との関連性が指摘される（青森県教育委員会 2016）。

鷲ノ巣（３）遺跡も鷲ノ巣（１）遺跡と同様に県文化財保護課の試掘確認調査が行われた遺跡（青森県教育委員会 2015）であり、平成 26 年度の本発掘調査においては縄文時代前期中葉の竪穴建物跡を初めとした遺構や遺物、縄文時代後期の遺構や遺物の他、縄文時代晩期や弥生時代後期の遺物が出土している（青森県教育委員会 2016）。鷲ノ巣（３）遺跡の北東には、天王沢を挟んで同時期の遺跡と考えられる沢部（２）遺跡が位置している。沢部（２）遺跡は昭和 48 年度の調査後、平成 27 年度にも発掘調査が行われ、本報告書同様今年度末に報告書が刊行される（青森県教育委員会 2018）。両遺跡の立地にはかなりの比高差があるが相互の関係が注目される。

第３節　基本層序

基本層序は、後世の耕作や造成等により著しく改変されている箇所もみられるが、調査区を通して概ね同様の層序となる。以下、基本層序の模式図を示した。

上から順に表土、Ⅰ層、Ⅴ層、Ⅵ層、Ⅶ層と定め、調査を行った。表土には後世の耕作土や造成土等が含まれる。Ⅰ層は平安時代の遺物包含層で、Ⅴ・Ⅵ層から漸移する箇所もある。表土直下のため、削平を受けている。Ⅴ～Ⅶ層は平成 27 年度調査の沢部 (2) 遺跡と同様の堆積と判断し、層番を合わせた。そのため、遺物包含層が単層であった本遺跡ではⅡ～Ⅳ層を欠く。Ⅴ層は千曳浮石層に相当すると考えられ、所々に堆積する。調査区東側では堆積の割合が増加する。Ⅵ層はにぶい黄褐色を呈し、硬く締まるロームで、Ⅶ層の風化層とみられる。Ⅶ層は褐色を呈する硬い粘質のロームで、白色粘土やマンガン粒を含む。詳しくは本遺跡と同年度刊行の沢部（２）遺跡の報告書を参考されたい。



表土　耕作土・造成土
Ⅰ層　10YR3/3 暗褐色土　平安時代の遺物包含層　Ⅴ･Ⅵ層から漸位する箇所がある
Ⅴ層　10YR4/6 褐色土　千曳浮石に相当する可能性
Ⅵ層　10YR5/3 にぶい黄褐色土 粘性弱 しまり強
Ⅶ層　10YR4/4 褐色土　白色粘土、マンガン粒を含む 粘性強

図２　基本層序（模式図）

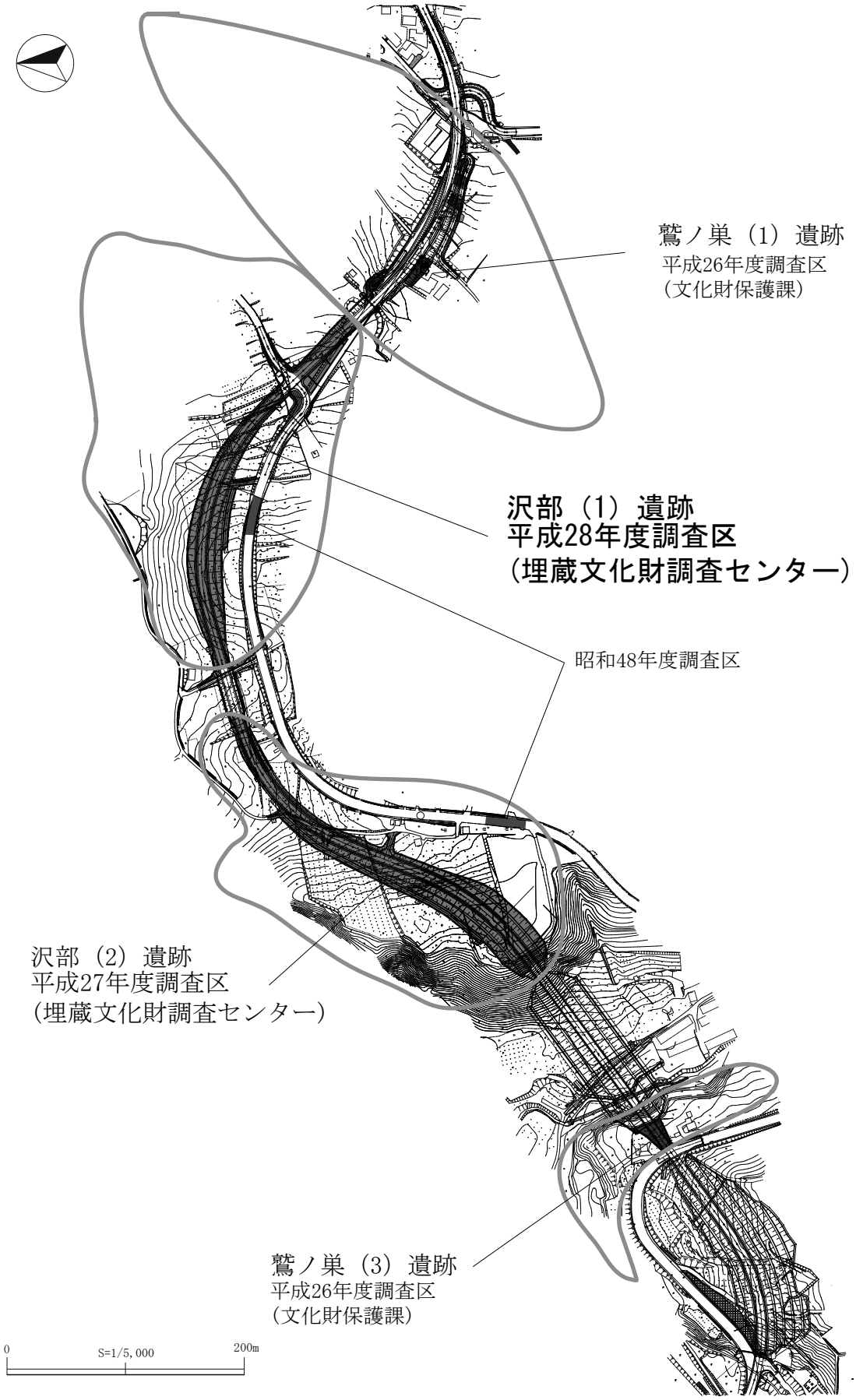

鷲ノ巣（1）遺跡
平成26年度調査区
（文化財保護課）
沢部（1）遺跡
平成28年度調査区
（埋蔵文化財調査センター）
昭和48年度調査区
沢部（2）遺跡
平成27年度調査区
（埋蔵文化財調査センター）
鷲ノ巣（3）遺跡
平成26年度調査区
（文化財保護課）
0
S=1/5,000
200m

図３　路線図

遺跡番号	遺跡名	時代
202001	沢部(1)遺跡	縄文（中・後・晩）、続縄文、弥生（中・後）、平安
202002	沢部(2)遺跡	縄文（早・前・中・後・晩）、弥生、平安
202003	天王沢遺跡	縄文（後・晩）
202014	大和沢沢田(1)遺跡	縄文（後）
202039	笹森山遺跡	縄文（後）
202058	鷹ノ巣遺跡	縄文（中・後・晩）
202082	鷲ノ巣(1)遺跡	縄文、平安
202107	小栗山館遺跡	縄文、平安、中世、近世
202108	大和沢館	平安、中世
202315	大沢大久保遺跡	縄文（前）
202316	芹沢遺跡	縄文（中・後・晩）、平安
202317	鷲ノ巣(2)遺跡	縄文、平安
202318	大和沢沢田(2)遺跡	縄文（後・晩）、平安
202450	鷲ノ巣(3)遺跡	縄文（中）

図４　周辺の遺跡

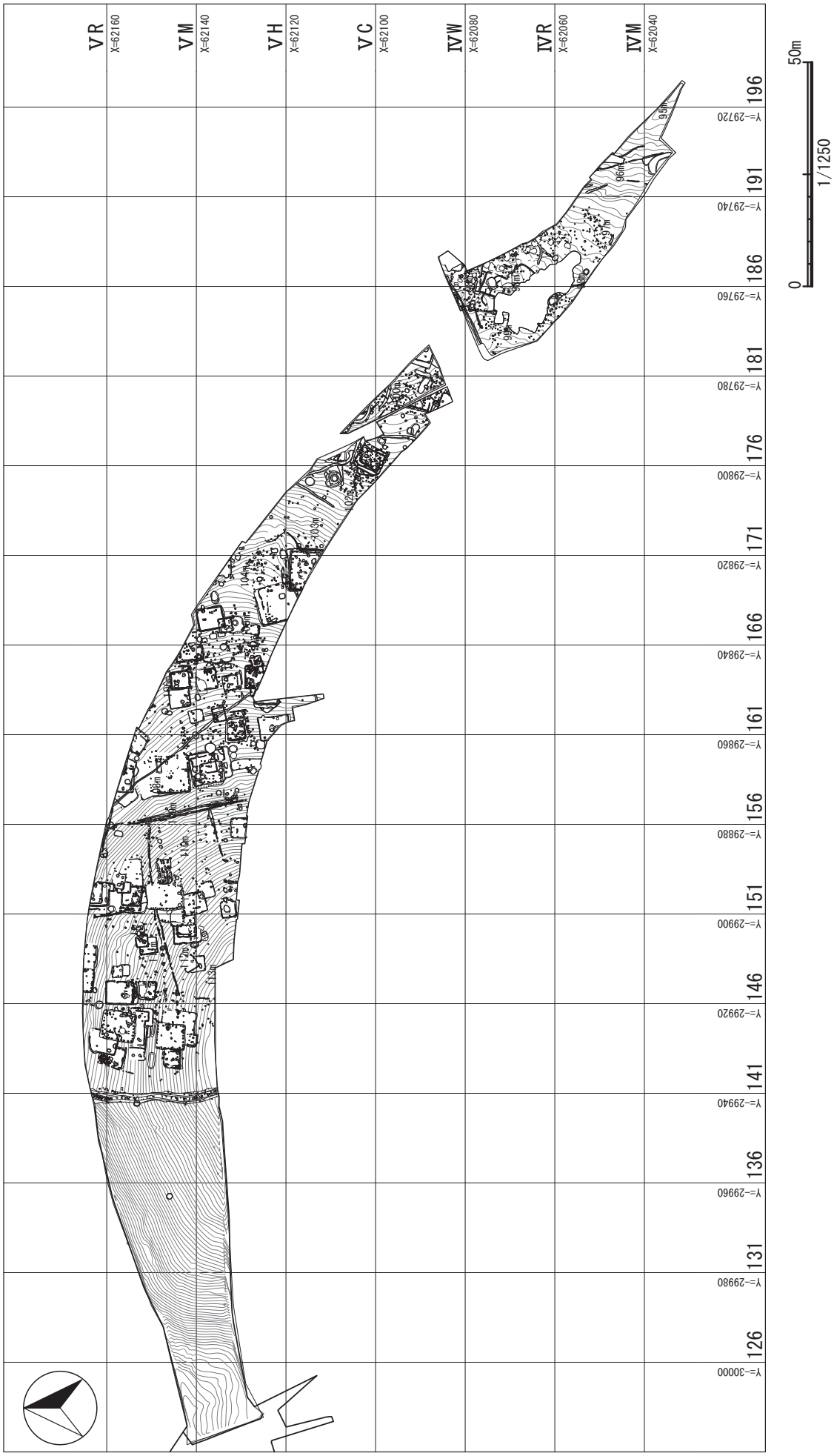

ⅤR
X=62160
ⅤM
X=62140
ⅤH
X=62120
ⅤC
X=62100
ⅣW
X=62080
ⅣR
X=62060
ⅣM
X=62040
Y=-30000
126
Y=-29980
131
Y=-29960
136
Y=-29940
141
Y=-29920
146
Y=-29900
151
Y=-29880
156
Y=-29860
161
Y=-29840
166
Y=-29820
171
Y=-29800
176
Y=-29780
181
Y=-29760
186
Y=-29740
191
Y=-29720
196
0
50m
1/1250

図５　遺構配置全体図

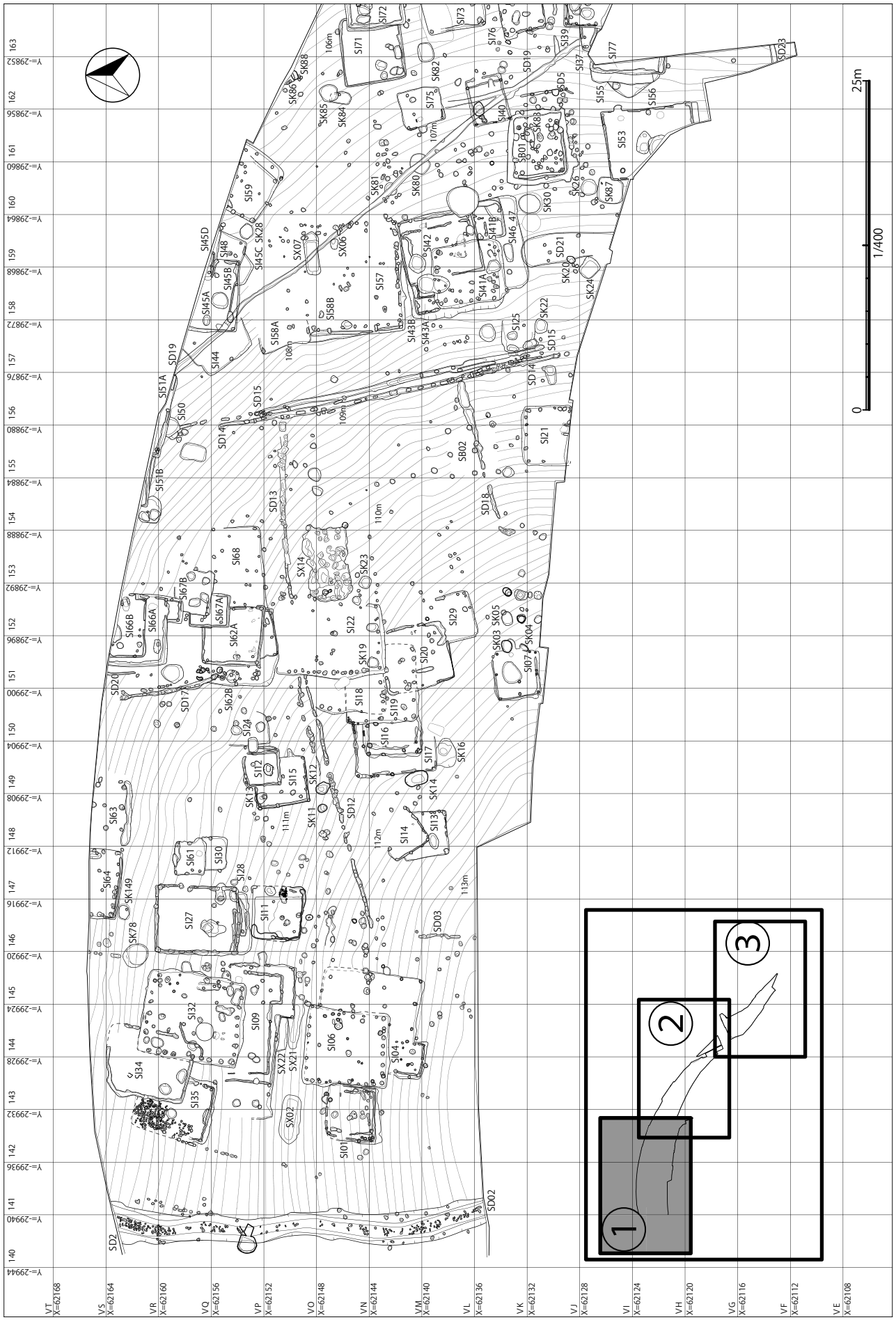


図６　遺構配置分割図（１）

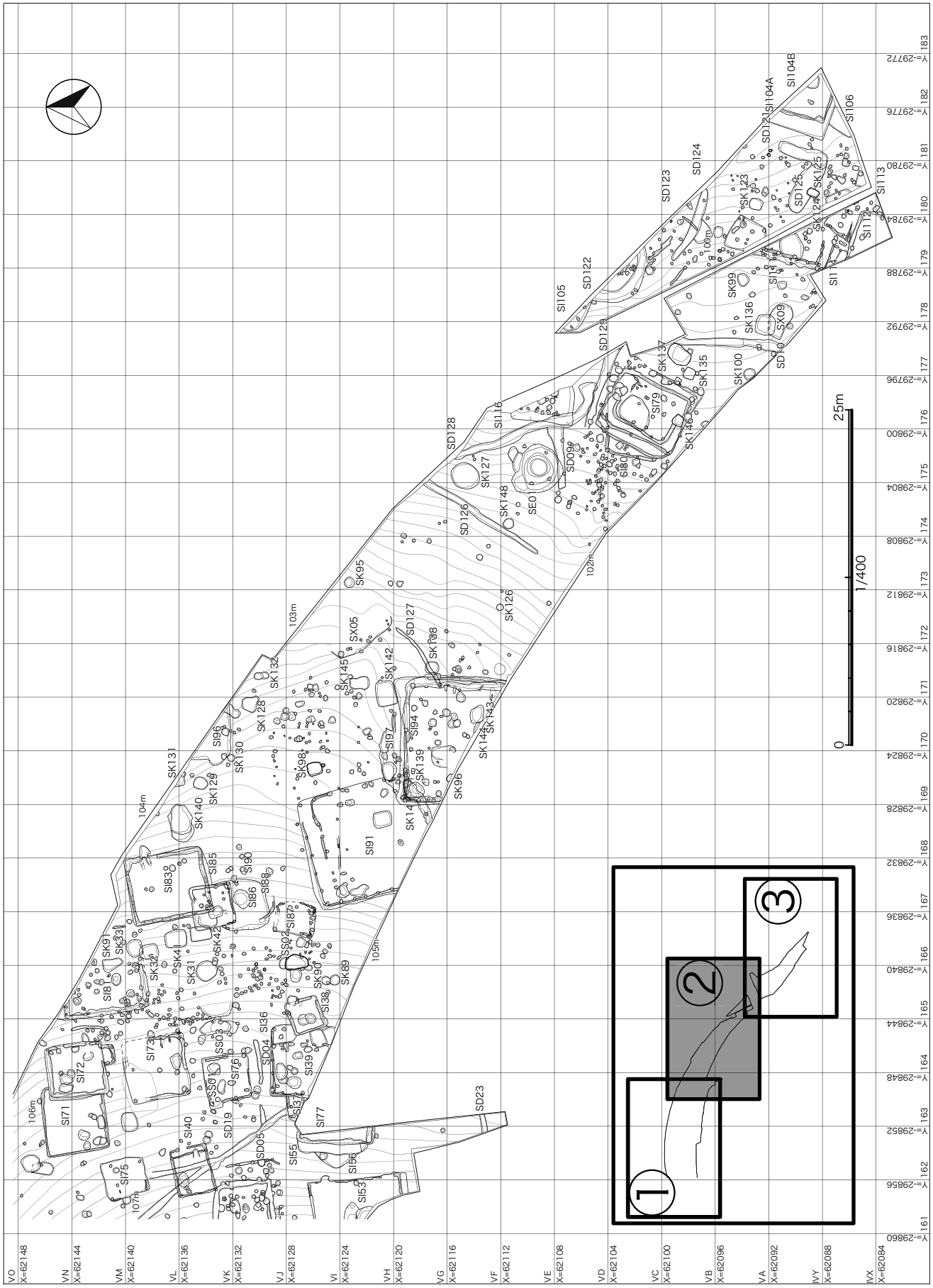

1/400
25m
0
1
2
3
SI105
SD122
SD123
SD124
SI104B
SI104A
SD121
SI106
SK125
SD125
SK123
SI113
SI112
SK99
SK136
SX09
SD10
SK100
SK135
SK137
SI79
SK146
SD129
SD128
SI116
SK127
SD098
SK148
SE01
SD126
SK95
SX05
SK145
SK142
SD127
SK098
SK126
SK132
SK128
SK130
SI96
SK129
SK131
SK140
SI83
SI85
SI90
SI88
SI86
SI87
SK42
SK41
SK31
SK32
SK91
SK33
SI18
SI72
SI71
SI73
SS01
SS02
SI76
SD04
SI36
SI39
SK90
SK89
SI38
SI91
SK97
SI94
SK139
SK144
SK143
SK96
SD23
SI77
SI55
SI56
SI53
SD05
SD19
SI40
SI75
100m
102m
103m
104m
105m
106m
107m
Y=-29772
Y=-29776
Y=-29780
Y=-29784
Y=-29788
Y=-29792
Y=-29796
Y=-29800
Y=-29804
Y=-29808
Y=-29812
Y=-29816
Y=-29820
Y=-29824
Y=-29828
Y=-29832
Y=-29836
Y=-29840
Y=-29844
Y=-29848
Y=-29852
Y=-29856
Y=-29860
183
182
181
180
179
178
177
176
175
174
173
172
171
170
169
168
167
166
165
164
163
162
161
VO X=62148
VN X=62144
VM X=62140
VL X=62136
VK X=62132
VJ X=62128
VI X=62124
VH X=62120
VG X=62116
VF X=62112
VE X=62108
VD X=62104
VC X=62100
VB X=62096
VA X=62092
IVY X=62088
IVX X=62084

図７　遺構配置分割図（２）

1
2
3
SD118
SD114
SD115
SD117
SD116
SD113
SD112
SD212
SK122
SD101
SK104
SD103
SK115
SX04
SD102
SK106
SK114
SD107
SK109
SK90
SD85
SD86
SK89
SD110
SK112
SK119
SK111
SK121
SK118
SK117
SK110
SD72
SK69
SI103
SK103
SD104
SK108
SK103
SI102
SD109
SI101
SE03
SE02
SK107
SK102
99m
98m
97m
96m
95m
1/400
0
25m

図８　遺構配置分割図（３）

第３章　検出遺構と出土遺物

第１節　遺跡の概要

前述のように、平成28年度の調査区は、平成９年に民間開発に伴って弘前市教育委員会が試掘確認調査を行なった範囲と重複する部分がある。

当調査区の主体は、10世紀後半以降の平安時代後期の大規模集落跡であるが、縄文時代後晩期と考えられるフラスコ状のものを含む土坑が数基と縄文時代晩期初頭の竪穴建物跡の一部が検出されている。また丘陵頂部付近では弥生時代中後期の土器片が遺構外より出土している。SB03とした柱穴内からも弥生時代の土器片が1片出土しているが、遺構の時期を示すかは不明である。

弘前市教育委員会の調査によって、古代の各種遺構の存在は確認されていたが、本調査では予想以上の遺構が検出され、その密度も高いものであった。

調査区は西側の尾根状部分と東側の緩やかな斜面と東端部の井戸跡が３基検出された平坦部に、大きく３区に分けられる。西側の尾根部分を東西に分かつように、南北方向の大溝（SD02）が配置されており、明らかに集落西端部を意識した施設であることがわかる。今年度調査区の中で、これ以西には平安時代の遺構は確認されておらず、大溝以東が集落の居住域と明確に意識されていたようである。

平安時代の竪穴建物跡は、91軒が検出されている。他の掘立柱建物跡３棟、土坑82基、井戸跡4基、溝跡53条、製鉄関連遺構10基、性格不明遺構12基も多くが平安時代のものと考えられ、以下に竪穴建物跡、掘立柱建物跡、製鉄関連遺構、土坑、井戸跡、溝跡、性格不明遺構の順に報告する。

注目される遺構は、重複の激しい竪穴建物跡群、それらの占有地を区画する溝跡、集落西端を画する大溝、周溝を有する掘立柱建物跡、炭窯上位を再利用した製鉄遺構、羽口を炉の芯材に用いた製鉄遺構、円形周溝の可能性のある弧状の溝跡、上端直径4mにおよぶ大型の井戸があげられる。

遺物は土師器・須恵器、鉄製品・鉄関連遺物、石器・石製品に縄文土器・弥生土器・石器が出土し、遺構内外で分けて報告する。注目される遺物はSD14から出土した越州窯系青磁皿、焼失竪穴建物跡から出土した炭化種実塊（イネ・アワ）、アサ製糸の織物、鉄製品では鉄鉗・鑿・鈴等があげられる。

第２節　検出遺構と遺構内出土遺物

１　竪穴建物跡

第１号竪穴建物跡(SI01)　（図９･120･162･163、写真３･105･118）

【位置・確認】Ｖ0143、ＶN143グリッドに位置する。Ⅵ層で検出した。

【重複】なし。

【平面形・規模】東西・南北軸4.2ｍを測り、方形を呈する。検出面からの深さは19㎝である。

【堆積土】18層に分層した。褐色土を主体とする。全体的にロームブロックや粘土ブロック等の混入物がみられることから、人為堆積と考えられる。

【壁・床面】壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。壁際には壁溝が巡るが北壁では途切れる箇所がみられる。東側と西側の壁では、壁沿いの溝の内側にもう１条溝が確認でき、この溝は床面と平坦になるように埋められていたことから、拡張を行ったと考えられる。床面はⅥ・Ⅶ層を掘り込み構築されていて、比較的平坦である。

【柱穴・施設】柱穴は壁溝付近を中心に17基検出された。主柱穴は確認できなかった。本遺構の中央では鍛冶炉が確認された。浅い掘り込みに掛かるように火床面が形成されている。鍛冶炉の確認面では鉄滓が出土した。
【カマド】東壁の北寄りに位置する。袖石等は出土せず、火床面のみ検出した。
【出土遺物】土師器甕、土師器坏、須恵器甕、鏃、不明鉄製品、炉壁、鍛冶滓、鉄塊系遺物、銹化遺物が堆積土から出土した。うち、土師器甕８点、土師器坏１点、須恵器甕２点、不明鉄製品１点、炉壁１点、鍛冶滓１点、鉄塊系遺物１点を図示した。120-05～09は底面に簾状圧痕がみられる。162-16は不明鉄製品で、薄い材を湾曲させている。
【小結】出土遺物から、平安時代10世紀後半以降に構築され廃絶したと考えられる。　　（久保）

第２号竪穴建物跡(SI02)

発掘調査時は第２号竪穴建物跡として精査したが、精査の結果、第４号竪穴建物跡(SI04)の一部と判明したため、欠番とした。

第３号竪穴建物跡(SI03)

発掘調査時は第３号竪穴建物跡として精査したが、精査の結果、第６号竪穴建物跡(SI06)の一部と判明したため、欠番とした。

第４号竪穴建物跡(SI04)　（図10～13･121･170、写真４～８･105･120）

【位置・確認】ＶM144・145グリッドに位置する。Ⅵ層で検出した。
【重複】第６号竪穴建物跡と重複しており、本遺構が古い。
【平面形・規模】東西・南北軸7.6ｍを測り、方形を呈する。検出面からの深さは42㎝である。南壁の西寄りに張出し部を持つ。本遺構の北側は、後世の耕作により削平されている。
【堆積土】13層に分層した。褐色土を主体とする。全体的にロームブロックや炭化物が混入していることから、人為堆積と考えられる。
【壁・床面】壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。張出し部の壁際には壁溝が巡る。床面はⅥ・Ⅶ層を掘り込み構築されていて、比較的平坦である。
【柱穴・施設】柱穴は壁際付近を中心に21基検出された。主柱穴は確認できなかった。南壁際の柱穴からほぼ等間隔で連続する柱穴と、それらと対になる柱穴が本遺構の東側で確認されており、付属掘立の可能性がある。
【カマド】東壁の中央南寄りにSP87とした浅いPitが確認され、位置関係からカマドの一部である可能性があるが、火床面等が確認できなかったため、詳細は不明である。
【出土遺物】土師器甕、須恵器甕、釘、鏃、石匙が堆積土から出土した。うち、土師器甕５点、須恵器甕２点、石匙１点を図示した。121-06は土師器の甕で、底面に布目状圧痕がみられる。
【小結】出土遺物から、平安時代10世紀後半以降に構築され廃絶したと考えられる。　　（久保）

第５号竪穴建物跡(SI05)

発掘調査時は第５号竪穴建物跡として精査したが、精査の結果、第４号竪穴建物跡(SI04)の一部と判明したため、欠番とした。

第６号竪穴建物跡(SI06)　(図10～13･121･162･171、写真４～８･105･118･120)

【位置・確認】VN144・145・146グリッドに位置する。Ⅵ層で検出した。精査中に焼土と炭化物が多量に確認されたため、焼失住居と認定した。

【重複】第４号竪穴建物跡と重複しており、本遺構が新しい。

【平面形・規模】5.9×4.9mを測り、方形を呈する。検出面からの深さは48㎝である。

【堆積土】21層に分層した。暗褐色土、褐色土を主体とする。12～14層では焼土や炭化物が多量に確認された。

【壁・床面】壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。床面はⅥ・Ⅶ層を掘り込み構築されていて、比較的平坦である。床面直上で炭化材が多数出土した。遺存状況は良好で、東側で長軸が東西方向と南北方向の炭化材が重なって出土したことから、桁や垂木であった可能性がある。炭化材の一部で樹種同定を行った。アスナロを主体とし、その他の樹種も含めて建築材であったと考えられる。樹種15はイネ科(稈)で、屋根材であった可能性がある。樹種５は板材であった。

【柱穴・施設】柱穴は43基検出された。主柱穴は確認できなかった。壁沿いに壁柱穴が巡る。南壁際の柱穴からほぼ等間隔で連続する柱穴と、それらと対になる柱穴が本遺構の東側で確認されており、付属掘立の可能性がある。

【カマド】建物内東壁寄りに位置する。袖石等は出土せず、火床面のみ検出した。Pit31・41を埋めた上から火を焚いている。Pit41に焼土ブロックや炭化物が含まれることから、使用後に掻き出した炭化物等で埋めた可能性がある。

【出土遺物】土師器甕、土師器坏、須恵器甕、須恵器壺、釘、鏃、銹化遺物、砥石、炭化米が堆積土から出土した。うち、土師器甕９点、土師器坏３点、須恵器甕３点、須恵器壺１点、鏃１点、砥石１点を図示した。122-08は須恵器壺の頸部で、刻書がみられる。162-10は鏃である。台状関で、先端は平たくなっているが、欠損しているため形状は不明である。カマド南側では碗状及び板状に潰れた状態の炭化米が出土した。

【小結】出土遺物から、平安時代10世紀後半以降に構築され廃絶したと考えられる。　　(久保)

第７号竪穴建物跡(SI07)　(図14･122･123、写真９･105)

【位置・確認】VK152グリッドに位置する。Ⅵ層で検出した。

【重複】第３・４号土坑と重複しており、本遺構が古い。

【平面形・規模】東西・南北軸3.5mを測り、方形を呈する。検出面からの深さは42㎝である。

【堆積土】31層に分層した。暗褐色土とにぶい黄褐色土を主体とする。全体的にロームブロックや炭化物等の混入物がみられることから、人為堆積と考えられる。６層は貼床である。

【壁・床面】壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。東側を除く壁際には壁溝が巡る。床面はⅥ・Ⅶ層を掘り込み構築されていて、比較的平坦である。

【柱穴・施設】柱穴が10基、土坑が１基検出された。Pit1・4・6・8は建物の四隅に構築されてい

る。張床の下でSK1が確認された。壁溝も貼床により埋められていることから、本遺構には新旧があったと考えられる。

【カマド】東壁のやや北寄りに位置する。火床面と若干残存していた粘土袖を検出した。

【出土遺物】土師器甕、土師器坏、流動滓、羽口が堆積土から出土した。うち、土師器甕11点、土師器坏１点を図示した。122-15、123-02は土師器甕の口縁部で、外面でケズリ、ナデ、内面でナデ調整が施されるが、粘土接合痕が残る。

【小結】出土遺物から、平安時代10世紀後半以降に構築され廃絶したと考えられる。　（久保）

第８号竪穴建物跡(SI08)

発掘調査時は第８号竪穴建物跡として精査したが、精査の結果、壁の立ち上がりが緩やかであったことから竪穴建物跡ではないとし、第22号性格不明遺構に振替、欠番とした。

第９号竪穴建物跡(SI09)　（図15～22･123、写真10～17･105）

【位置・確認】V0・VP143～145グリッドに位置する。Ⅵ層で検出した。本遺構は、平成９年度の弘前市教育委員会による調査で、一部トレンチ調査が行われており、南壁張出し部以外が第７号住居跡、張出し部内側の溝から内側が第８号住居跡、溝から外側の張出し部が第９号住居跡として報告されている。

【重複】第32号竪穴建物跡と重複しており、本遺構が古い。北側が後世の耕作により削平されているが、位置関係から、第34・35号竪穴建物跡とも重複し、本遺構が古いと考えられる。

【平面形・規模】東西・南北軸8.5mを測ると考えられ、方形を呈する。検出面からの深さは36cmである。南壁の東側に張出し部を持つ。本遺構の北側は、後世の耕作により削平されている。

【堆積土】25層に分層した。にぶい黄褐色土と黄褐色土を主体とする。いずれの層でもロームブロックが混入し、人為堆積と考えられる。

【壁・床面】壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。東壁の一部と南壁の東寄りには壁溝が巡る。壁の内側には溝が１条、西側ではその外側にもう１条溝が巡り、建て替えが行われたと考えられる。カマド①付近の溝は、カマド①の火床面を掘り込んでいたことから、建物を縮小したと考えられる。床面はⅥ・Ⅶ層を掘り込み構築されていて、比較的平坦である。

【柱穴・施設】柱穴が15基、土坑が６基検出された。主柱穴はSK１～６の可能性がある。SK2はSK3を掘り込み、SK6は溝とSK5に掘り込まれていることから、必要に応じて建て替えていたと考えられる。Pit3、Pit7、Pit8は建物の角に構築されている。

【カマド】東壁に２基確認された。カマド①は火床面と若干袖の粘土が残る。カマド①は建物縮小時の溝に掘り込まれていることから先に構築されたカマドで、カマド②は火床面のみの検出であるが、縮小時の溝の内側で確認されたことから、建物縮小に伴い構築されたカマドである。

【出土遺物】土師器甕、土師器坏、須恵器甕、須恵器坏、釘が堆積土から出土した。うち、土師器甕３点、土師器坏１点、須恵器甕１点、須恵器壺３点を図示した。123-09は土師器甕で、内面に炭化物が付着する。123-11は土師器坏で、内面黒色処理が施されている。

【小結】出土遺物から、平安時代10世紀後半以降に構築され廃絶したと考えられる。　（久保）

第10号竪穴建物跡(SI10)

発掘調査時は第10号竪穴建物跡として精査したが、精査の結果、第９号竪穴建物跡(SI09)の一部と判明したため、欠番とした。

第11号（古)竪穴建物跡（SI11古）(図23・124、写真19・106)

【位置・確認】VN・VM146・147グリッドに位置する。第11号(新)竪穴住居跡の精査中に検出した。

【重複】第11号(新)竪穴住居跡と重複し、本遺構が古い。

【平面形・規模】長軸4.0m・短軸3.9mを測り、方形を呈する。検出面からの深さは９㎝～20㎝である。第11号(新)竪穴住居跡に大きく破壊される。

【堆積土】褐色土を主体にする。人為堆積である。

【壁・床面】北東部は削平を受け壊されている。床は北に向かって傾斜している。壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。壁際には壁溝が巡るが確認できたのは南西隅付近である。北壁と西壁沿いが比較的深く、西壁沿いのものは幅が広い。南西壁側の一部が掘り残されている。床面はⅠ・Ⅴ層を掘り込み構築されていて、比較的平坦である。

【柱穴・施設】柱穴は検出されなかった。

【カマド】東壁の北寄りに位置する。第11号(新)竪穴住居跡に破壊され、火床面のみ検出した。

【出土遺物】土師器甕・壺４点を図示した。

【小結】出土遺物から、平安時代の構築・廃絶と考えられる。　(工藤)

第11号（新)竪穴建物跡（SI11新）(図23・124、写真18・106)

【位置・確認】V0・VP146・147グリッドに位置する。第Ⅰ層上面で検出した。

【重複】第11号(古)竪穴住居跡と重複し、本遺構が新しい。

【平面形・規模】東西3.3m・南北軸3.3mを測り、方形を呈する。検出面からの深さは26㎝である。

【堆積土】焼土を含む暗褐色土を主体とする。人為堆積である。

【壁・床面】南壁の残存が比較的良好である。北部は削平により破壊されている。壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。南壁際に壁溝を検出した。床面は第11号古を黄褐色土で埋めて構築され、一部貼床を施し凹凸がある。

【柱穴・施設】柱穴は７基検出した。

【カマド】天井部が崩落し、かつ削平を受けた状態で検出した。カマドの袖部分は人為的に破壊され残存しなかった。本体から煙道部は、平滑に加工した凝灰岩を主に、土師器の破片にて構成された心材に、粘土を充填し構築されていた。体部から煙道部の長さは１mを測り、堆積土には人為的に壊された土師器の破片が多く混入していた。火床部はⅤ層を掘り込み構築され、その被熱は底面から厚さ約18㎝に及ぶ。

【出土遺物】土師器甕３点を図示した。また鉄関連遺物（炉壁、鍛冶滓）が出土した。土師器がカマド南側に比較的集中して出土したほか、本住居跡中央付近の堆積土から横倒しの土師器長胴甕が出土した(図124-１)。

【小結】重複する遺構や出土遺物から平安時代11世紀以降の構築・廃絶と考えられる。　(工藤)

第12号竪穴建物跡（SI12）（図24・124・125、写真20・106）

【位置・確認】V0・VP149グリッドに位置する。第Ⅰ層上面で検出した。

【重複】第15号住居跡と重複し、第15号竪穴住居跡より新しい。

【平面形・規模】長軸3.7m・短軸（2.5m）を測り、方形を呈する。検出面からの深さは31cmを測る。

【堆積土】上層は暗褐色土を主体とし、下層は黄褐色土を主体とする。

【壁・床面】壁は底面からやや垂直に立ち上がる。壁際に周溝が巡り、壁溝の深さは、８cm～20cmを測る。床面は貼床を施し、一部地山を掘り込み床とする。貼床は焼土が混入する。

【柱穴・施設】柱穴は４基検出し、うち３基は周溝内から検出した。中央南寄りに長軸60cm、深さ20cmの、東西に軸を持つ、土坑状に凹む箇所がある。床からの落ち際はなだらかに傾斜し、底面は凹凸を有するものである。意図的に明確に掘り込んだ形跡は観察できなかった。

【カマド】検出されなかった。

【出土遺物】床面から10cmほど上で土師器甕が集中して出土した。また礫が散在して出土した。遺物出土状況から、住居廃絶後に人為的に埋める際に意図的に混入された可能性が高い。土師器坏、甕、埚５点、刀子を図示した。また鉄関連遺物（炉壁、流動滓、椀型滓、鍛冶滓）を出土した。

【小結】出土遺物から、平安時代10世紀の構築・廃絶と考えられる。（工藤）

第13号竪穴建物跡（SI13）（図25、写真21）

【位置・確認】VM147・148グリッドに位置する。第Ⅰ層上面で検出した。

【重複】第14号竪穴住居跡と重複し、本遺構が古い。

【平面形・規模】長軸（3.2m）・短軸（3.1m）を測る隅丸方形を呈する。検出面からの深さは32cmを測る。北部から北東部を第14号竪穴住居跡に破壊され南部のみ残存する。

【堆積土】平成９年度の弘前市教育委員会による発掘調査により失われていたため不明である。

【壁・床面】壁は南壁・西壁の残存が良好であり、東壁の大部分は削平により破壊されている。壁際に小穴が列をなし検出され、壁溝の痕跡とみられる。床は凹凸がある。地山を掘り込み床とする。

【柱穴・施設】柱穴は壁際に８基検出した。小穴が多く、主柱穴は南東・南西隅に検出される。中央部やや南西部に土坑を検出した。床からの落ち際は明瞭である。

【カマド】検出できなかった。

【出土遺物】遺物は出土しなかった。

【小結】本遺構は、弘前市教育委員会により調査した後に再発掘したものである。遺構形態や出土遺物から、平安時代の構築・廃絶と考えられる。（工藤）

第14号竪穴建物跡（SI14）（図25・125、写真21・106）

【位置・確認】VM147・148グリッドに位置する。第Ⅰ層上面で検出した。

【重複】第13号竪穴住居跡と重複し、本遺構が新しい。

【平面形・規模】長軸（3．2m）・短軸が（3．0m）の方形を呈する。検出面からの深さは16cmを測る。

【堆積土】不明である。

【壁・床面】壁は北西隅の残存が良好であり、壁際に壁周溝を北壁の一部、南東壁、南西壁で検出した。床の状況は不明である。北西側は削平を受け破壊されている。
【柱穴・施設】柱穴は４基検出した。壁柱穴は東隅、南隅、西隅で検出した。
【カマド】検出されなかった。
【出土遺物】土師器甕１点(図125-6)を図示した。
【小結】本遺構は、弘前市教育委員会により調査された後に再発掘したものである。遺構形態や出土遺物から、平安時代の構築・廃絶と考えられる。（工藤）

第15号竪穴建物跡（SI15）（図24・125・161、写真20・106・118）

【位置・確認】V0・VP148・149グリッドに位置する。第Ⅰ層上面で検出した。
【重複】第12号竪穴住居跡と重複し、本遺構が古い。
【平面形・規模】長軸（3.9m）、短軸3.5mを測る隅丸方形を呈する。
検出面からの深さは53cmを測る。東北部を第12号竪穴住居跡に破壊される。
【堆積土】暗褐色土を主体にし、にぶい黄褐色土を混入する。不明火山灰を斑状に含む。人為堆積とみられる。
【壁・床面】壁は底面から垂直に立ち上がる。Ⅰ層を掘り込み床としている。床はほぼ平坦である。
【柱穴・施設】柱穴は９基検出した。壁溝の深さは最大21cmを測る。壁溝には小Pitを伴っているが、南西壁には小ピットが配置されない箇所がある。
【カマド】長軸1m30cmを測る。煙道部の上部は削平により、炉体部は完全に壊された後に埋められ、原型をとどめていない。床面には火焼面が認められる。
【出土遺物】土師器坏、甕、埚３点、鉄製品（鉄鉗）を図示した。鉄製品（鉄鉗）は、中央南壁から出土した（図161－４）。また図示はしていないが刀子、棒状鉄製品、鉄関連遺物（炉壁）が出土している。
【小結】鉄鉗の出土から、SI24と同時期の構築とみられる。出土遺物から、平安時代10世紀の構築・廃絶と考えられる。（工藤）

第16号（古）竪穴建物跡（SI16）（図26・126、写真22・24）

【位置・確認】VM149・150グリッドに位置する。第Ⅰ層上面で検出した。
【重複】第19号竪穴住居跡、第16号(新)竪穴住居跡より古く、第17号竪穴住居跡より新しい。
【平面形・規模】残存する長軸4.4m、短軸（2.0m）を測り、隅丸方形を呈する。東部を第19号竪穴住居跡に破壊される。
【堆積土】褐色土を主体にする土で焼土や炭化物を多量に混入する。人為堆積である。
【壁・床面】壁溝の幅は12cmから39cmを測り、深さは1～4cmを測る。床面は破壊されているため不明である。
【柱穴・施設】住居跡隅に小Pit３基を検出した。
【カマド】第19号竪穴住居跡に破壊され、検出できなかった。
【出土遺物】遺物は出土していない。

【小結】第16号(新)竪穴住居跡を縮小させた形態である。平安時代の構築・廃絶と考えられる。（工藤）

第16号（新）竪穴建物跡（SI16）（図26・126・170、写真22・24・107・120）

【位置・確認】VM149・150グリッドに位置する。第Ⅰ層上面で検出した。

【重複】第19号竪穴住居跡より古く第17号竪穴住居跡や第16号竪穴住居跡(古)より新しい。

【平面形・規模】長軸4.4m、短軸（3.1m）を測り、隅丸方形を呈するとみられる。東壁が第19号竪穴住居跡に壊されている。

【堆積土】黒褐色土を主体にする土で、床上10cmに炭化物と焼土が多く堆積している。炭化物はまとまりが無く、散在して出土した。人為堆積である。

【壁・床面】壁溝の幅は10cmから42cmを測り、深さは2cm～11cmを測る。床面は平坦である。

【柱穴・施設】11基検出された。うち6基は周溝内の検出である。

【カマド】検出されなかった。

【出土遺物】土師器甕１点と縄文土器片１点、磨石、石皿を図示した。ほか鉄関連遺物（炉壁）が出土している。

【小結】第16号竪穴住居跡(古)を拡張し、本遺構を構築している。炭化物の出土状況から、住居の廃絶後に、住居の構成材の焼却を行った可能性がある。出土遺物と重複関係から、平安時代の構築・廃絶と考えられる。（工藤）

第17号竪穴建物跡（SI17）（図26・126、写真22・24）

【位置・確認】VL・VM・VN149・150グリッドに位置する。第Ⅰ層上面で検出した。

【重複】第16号(古)・(新)竪穴住居跡、第19号竪穴住居跡より古い。第14号土坑との新旧は不明である。

【平面形・規模】長軸が6.2m、短軸（4.1m）を測り、隅丸方形を呈するとみられる。検出面からの深さは２～８cmである。

【堆積土】暗褐色土を主体にする土で浮石を多量に混入する。人為堆積とみられる。

【壁・床面】床の深さは2cm～8cmである。底面は凹凸がある。残存するところでは、壁は壁溝から垂直に立ち上がる。壁溝は北・西・南隅で検出、幅9cmから34.6cm、深さ1cm～12cmを測る。

【柱穴・施設】壁溝内に小Pit９基検出した。4隅に小Pitが付属する可能性がある。

【カマド】検出できなかった。

【出土遺物】土師器２点、須恵器１点図示した。鉄関連遺物（炉壁）が出土した。図示していないが、紡錘車が出土した。

【小結】第16号・第19号竪穴住居跡との重複と出土遺物から、平安時代の構築・廃絶と考えられる。（工藤）

第18号竪穴建物跡（SI18）（図26・126、写真107）

【位置・確認】VN・V0150・151グリッドに位置する。第Ⅰ層上面で検出した。

【重複】第19号・第22号竪穴住居跡より古い。

【平面形・規模】西壁のみ検出した。東部を第22号竪穴住居跡に破壊される。
【堆積土】にぶい黄褐色土を主体にする土である。
【壁・床面】西壁のみ検出した。床面は、Ｖ層を掘り込んで構築され、検出面からの床の深さは30cmである。床は凹凸があり、やや北に傾斜している。
【柱穴・施設】柱穴は10基検出した。いずれも壁柱穴である。
【カマド】検出できなかった。
【出土遺物】土師器甕、把手付土器、須恵器壺４点を図示した。鉄関連遺物（炉壁）が出土した。
【小結】第19号・第22号竪穴住居跡、また後世の地盤削平により破壊され、西壁の一部しか残存していない。重複関係や出土遺物から、平安時代11世紀の構築・廃絶と考えられる。（工藤）

第19号竪穴建物跡（SI19・SI23）（図26・126、写真23・24・107）

【位置・確認】VM150グリッドに位置する。第Ｉ層上面で検出した。
【重複】第18竪穴住居跡よりも新しく、第20・22号竪穴住居跡よりも古い。
【平面形・規模】短軸5.4m、長軸5.5mを測る方形を呈するとみられる。検出面からの深さは25cmを測る。
【堆積土】褐色土を主体にする土で黄褐色土が混入する。人為堆積とみられる。
【壁・床面】残存する壁は南西隅壁である。壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。壁溝は検出できなかった。Ｉ層を掘り込み、床は平坦でありやや北に傾斜している。
【柱穴・施設】柱穴は15基検出し、壁際に並んで構築される。
【カマド】第22号竪穴住居跡に壊されており、不明である。
【出土遺物】土師器坏、須恵器壺を図示した。
【小結】第20号建物に破壊されたのち、削平により破壊され、特に北東壁側の様相が不明である。残存する壁柱穴の状況から、北と東壁にも柱穴が伴っていた可能性がある。重複する遺構や出土遺物、柱穴の配置などから、平安時代の構築・廃絶と考えられる。（工藤）

第20号竪穴建物跡（SI20）（図27・127・162、写真25・107・118）

【位置・確認】V0・VP151・152グリッドに位置する。第Ｉ層上面で検出した。
【重複】第561号ピット、第18・29号竪穴住居跡より新しく、第22号竪穴住居跡より古い。
【平面形・規模】長軸が5.1m、短軸が（4.3m）の隅丸方形を呈する。検出面からの深さは34cmで、北部を第22号竪穴住居跡に破壊される。
【堆積土】にぶい黄褐色土と灰黄褐色土を主体にする土である。人為堆積とみられる。
【壁・床面】壁は床面から垂直に立ち上がる。床はＩ層を掘り込んで構築され、ほぼ平坦であり、やや北に傾斜している。
【柱穴・施設】柱穴は東側に位置するものを含め13基検出した。
【カマド】削平され破壊を受けていたが、長軸50cm、単軸40cmの火床面が残存していた。被熱深は12cmである。
【出土遺物】土師器甕２点、坏１点、須恵器壺１点を図示した。刀子、釘も出土している。

【小結】壁溝を伴う竪穴住居跡である。重複する遺構や出土遺物から、平安時代の構築・廃絶と考えられる。（工藤）

第21号竪穴建物跡（SI21）（図29・30・127、写真26・107）

【位置・確認】VJ・K155・156グリッドに位置する。床面中央付近から炭化物が出土し、焼失建物と考えられる。

【重複】なし。

【平面形・規模】東西軸4.3m・南北軸3.6mを測り、長方形を呈する。検出面からの深さは30～54cmである。南側の壁は調査区外へと続く。

【堆積土】暗褐色土を主体にする。ロームブロックを多く含み、人為堆積である。

【壁・床面】壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。ほぼ全面に貼床がなされ、平坦である。

【柱穴・施設】主柱な無く、壁柱穴が巡る。

【カマド】南壁のやや東寄りに位置する。両袖と火床面を検出したが、煙道は調査区外にある。カマド覆土上位より扁平な礫が出土した。

【出土遺物】土師器甕8点・坏1点、須恵器甕2点を図示した。ほとんどがカマド付近より出土したものである。また鉄製品２点(釘１点・刀子１点)が出土した。鉄滓は鍛冶滓、含鉄鉄滓が出土した。

【小結】出土遺物から、平安時代10世紀後半以降に廃絶したと考えられる。（永嶋）

第22号竪穴建物跡（SI22）（図31・128、写真27・107）

【位置・確認】VM・VN・V0151・152・153グリッドに位置する。第Ⅰ層上面で検出した。

【重複】第18号・第19号・第20号竪穴住居跡、第14号不明遺構と重複し、第18号・第19号・第20号竪穴住居跡より新しい。第14号不明遺構との新旧関係は不明である。

【平面形・規模】長軸が12m、短軸が（7.5m）の長方形を呈するとみられる。検出面からの深さは34.9cmで、北部と東部の遺構範囲が削平により不明瞭である。

【堆積土】暗褐色土を主体にする土で人為堆積とみられる。

【壁・床面】壁は底面から垂直に立ち上がる。床面はⅥ層を掘り込み構築される。床はやや北に傾斜している。

【柱穴・施設】確実に伴う柱穴は28基である。第19号土坑を南西隅に検出し、堆積土中に白色粘土が置かれた状態で出土した。位置、規模から、第22号竪穴住居跡付属1号土坑や第23号土坑も本遺構に伴う可能性が高い。

【カマド】検出しなかった。削平により破壊されたと考えられる。

【出土遺物】土師器坏を図示した。鉄関連遺物（流動滓・炉内滓・流出孔滓）が出土した。

【小結】削平のため破壊された影響と考えられるが、北壁と東壁の壁柱列が見られない。重複する遺構や出土遺物から、平安時代の構築・廃絶と考えられる。（工藤）

第23号竪穴建物跡（SI23）

発掘調査時は第23号竪穴住居跡として精査したが、精査の結果、第19号竪穴住居跡の一部と判明し

たため、欠番とした。

第24号竪穴建物跡（SI24）（図32・図128・163、写真28・29）

【位置・確認】V0・VP149・150グリッドに位置する。第Ⅰ層上面で、炭化物と鉄滓の集積を確認した。

【重複】第1号溝跡よりも新しい。

【平面形・規模】長軸が2.0m、短軸が約1.5mの範囲に炭化物が集積し、炭化物を除去したところ硬化面1カ所、土坑2基を検出した。硬化面はほぼ検出面付近であり、削平による破壊が著しい。

【堆積土】炭化物を主体とする。

【壁・床面】壁は検出しなかった。床面は焼土が混入する硬化面である。

【柱穴・施設】柱穴6基、土坑2基検出した。１つは西部に検出し（SK1）、硬化面から西方に突出する形態で検出した。平面形態は長軸0.8m、短軸0.6m、深さ20cmを測り、隅丸方形の平面形を有する。最上層に碗型滓や流動滓を伴う。堆積土は底面付近に炭化物集積層、中層に炭化物や焼土を混入するにぶい褐色土が堆積し、上面に鉄滓が集中して検出された。底面はⅠ層が強い被熱により硬化しており、壁には赤変の様子が観察された。もう1つは北部から検出したもので(SK2)、平面形態は長軸0.7m、短軸0.6m、深さ0.3mを測る、円形を呈する。検出時に確認した炭化物の多くは、本土坑に南方向から流入した形で堆積していた。

【カマド】検出しなかった。

【出土遺物】土坑2基のうち、SK1は炭化物が底部から堆積土上層にかけて検出されるもので、堆積土上層の炭化物は第24号竪穴遺構を広く覆うように観察された。SK2 は炭化物や鉄滓を多く出土し、土師器甕1点を図示した。全体から、多くの鉄関連遺物（羽口、炉壁・流動滓・炉内滓・再結合滓・鉄塊系遺物・含鉄遺物・銹化遺物）が出土した。また図示していないが、土玉１点も出土した。

【小結】明確な壁を有する竪穴は確認できなかったが、焼土を混入する硬化部を一部で確認し、わずかな落ち込みが認められることから、工房跡と考えられる。SK1は炭化物の残存状況と壁の被熱状況から、炭窯と考えられ、炭材はエノキ属、アサダ、カツラ、シオジ節が確認された。青森県では平安時代の燃料材に多様な広葉樹を利用する傾向があり(第４章第５節)、本竪穴遺構は、炭窯跡を利用した鉄製錬遺構とみられ、その年代は平安時代10世紀の構築・廃絶の可能性が考えられる。　　（工藤）

第25号竪穴建物跡（SI25）（図33、写真30）

【位置・確認】VJ･K157グリッドに位置する。斜面下位の東側壁が未検出である。第Ⅳ層上面で検出した。

【重複】斜面上位に第15号溝が隣接する。

【平面形・規模】東西・南北軸2.0mを測り、方形を呈する。検出面からの最深部は30cmを測る。

【堆積土】暗褐色土を主体とし、人為堆積と考えられる。

【壁・床面】壁は底面からやや垂直に立ち上がる。

【柱穴・施設】柱穴は検出されず、床面中央北寄りに長軸70cmの住居内坑内を有する。斜面上位の西壁にも長楕円の掘り込みがある。

【カマド】検出されなかった。
【出土遺物】炉内滓が出土した。
【小結】周辺の遺構同様に、平安時代の遺構と考えられる。（永嶋）

第26号竪穴建物跡（SI26）

発掘調査時は第26号竪穴住居跡として精査したが、精査の結果、第62A号竪穴住居跡の一部と判明したため、欠番とした。

第27号竪穴建物跡（SI27）（図34・35・129・161・162、写真31・32・107・118）

【位置・確認】VR・VQ・VP146・147グリッドに位置する。第Ⅰ層上面で検出した。
【重複】第28号竪穴住居跡と重複し、本遺構が新しい。
【平面形・規模】長軸が約6.3m、短軸が約5.2mの方形を呈する。検出面からの深さは39cmである。
【堆積土】にぶい黄褐色土や褐色土を主体とする。人為堆積とみられる。
【壁・床面】壁はほぼ垂直に立ち上がる。床は第Ⅰ層を掘り込み構築されている。壁溝を四方に巡らすが、カマドの位置は構築していない。このうち南壁には二本検出され、第28号竪穴住居跡の存在と合わせて複数回の拡張がみられた。
【柱穴・施設】柱穴は床面に2基、周溝に7基検出した。中央部付近に1基土坑が検出された。
【カマド】東壁北寄りと南寄りに2基検出した。2基とも削平により破壊されるが火床面が残存している。南部の1号カマドは煙道部や体部が一部残存している。このうち北部の2号カマドは、被熱筒所から１m西方に灰の集積を検出し、上位に貼床の施工を確認したことから、２号カマドが古く、１号カマドが新しいと判断した。
【出土遺物】土師器坏、甕、須恵器甕、手鎌、釘、紡錘車、鉄鏃、鉄関連遺物(炉壁・炉内滓)が出土した。うち土師器坏、甕、須恵器甕、手鎌、紡錘車、釘を図示した。
【小結】本遺構は、第28号竪穴住居跡を拡張して構築されたと考えられる。平安時代の構築・廃絶と考えられる。（工藤）

第28号竪穴建物跡（SI28）（図34・129、写真32・107）

【位置・確認】VP145・146・147グリッドに位置する。第Ⅰ層上面で検出した。
【重複】第27号竪穴住居跡と重複し、本遺構が古い。
【平面形・規模】短軸（1.1m）、長軸が4.7mの隅丸方形を呈する。南壁のみの検出である。他はすべて第27号竪穴住居跡に破壊される。
【堆積土】にぶい黄褐色土を主体にする人為堆積とみられる。
【壁・床面】壁はほぼ垂直に立ち上がる。
【柱穴・施設】南部に2条の壁溝があり、層位から同時に存在した可能性がある。出入り口の痕跡の可能性がある。
【カマド】検出できなかった。第27号竪穴住居跡の第2号カマドが本遺構に伴う可能性がある。
【出土遺物】土師器甕２点を図示した。他に鉄関連遺物(炉壁)や釘が出土した。

【小結】重複遺構や出土遺物から、平安時代の構築・廃絶と考えられる。　（工藤）

第29号竪穴建物跡（SI29）(図27・129)

【位置・確認】VK・VL151・152グリッドに位置する。第Ⅰ層上面で検出した。

【重複】第20号竪穴住居跡より古い。

【平面形・規模】短軸が（2.0m）、長軸が3.5mの方形を呈する。

【堆積土】にぶい黄褐色土を主体にし、自然堆積とみられる。

【壁・床面】壁はほぼ垂直に立ち上がる。Ⅰ層を掘り込み床としている。床は北方に傾斜する。

【柱穴・施設】南東隅に柱穴1基と壁際に小Pit4基を検出した。

【カマド】検出できなかった。

【出土遺物】土師器甕、須恵器甕を図示した。鉄関連遺物(流動滓)が出土した。

【小結】　出土遺物から、平安時代の構築・廃絶と考えられる。　（工藤）

第30号竪穴建物跡（SI30）（図36・129、写真33・107）

【位置・確認】VP・VQ147・148グリッドに位置する。第Ⅰ層上面で検出した。

【重複】第61号竪穴住居跡より古い。

【平面形・規模】長軸が2.5m、短軸が（1.5m）の隅丸方形を呈する。検出面からの深さは12cmである。

【堆積土】暗褐色土を主体にする土で人為堆積とみられる。

【壁・床面】削平により壁はほぼ残存しない。

【柱穴・施設】柱穴は２基検出した。直径は約10cmである。

【カマド】検出できなかった。

【出土遺物】土師器坏を４点図示した。

【小結】平安時代の構築・廃絶と考えられる。　（工藤）

第31号竪穴建物跡(SI31)

発掘調査時は第31号竪穴建物跡として精査したが、精査の結果、第９号竪穴建物跡(SI09)の一部と判明したため、欠番とした。

第32号竪穴建物跡(SI32)　（図15～22･130･161･162･163･170･174、写真10～17･107･118･120･121）

【位置・確認】VP・VQ144・145グリッドに位置する。Ⅵ層で検出した。

【重複】第９・34号竪穴建物跡と重複しており、本遺構が新しい。

【平面形・規模】7.1m×6.4mを測り、方形を呈する。検出面からの深さは66cmである。

【堆積土】33層に分層した。褐色土を主体とする。27層は貼床である。貼床上部の層は全体的にロームブロック、焼土ブロック、炭化物が混入し、人為堆積と考えられる。

【壁・床面】壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。北壁の一部に壁溝が巡る。床面はⅥ・Ⅶ層を掘り込み構築されていて、比較的平坦である。

【柱穴・施設】柱穴が51基、土坑が７基検出された。主柱穴は確認できなかった。壁沿いに壁柱穴が巡る。本遺構では、南西側で鍛冶炉が１基検出された。火床面の北側に掘り込みがあり、南側には袖石と思われる一対の川原石が配置されていた。これらの礫は土を盛った上に設置されていた。

【カマド】東側に３基確認された。カマド①は中央北よりに構築されており、火床面は確認できなかった。カマド②はカマド①の南西側で確認された。石囲状で、西側が開口している。礫は土を盛ったところに設置されていた。石囲範囲の内、火床面は開口部側に寄っていた。カマド③は南側で検出された。火床面は確認できなかった。カマド３基は重複がなく、新旧は不明である。

【出土遺物】土師器甕、土師器坏、土師器把手付土器、土師器ミニチュア土器、須恵器甕、須恵器鉢、鋤鍬先、釘、刀子、紡錘車、鏃、炉壁、流動滓、炉内滓、含鉄遺物、銹化遺物、敲石、樹皮巻きが堆積土から出土した。うち、土師器甕２点、土師器坏８点、土師器把手付土器１点、土師器ミニチュア土器１点、須恵器甕１点、須恵器鉢１点、鋤鍬先１点、鏃１点、炉壁１点、炉内滓１点、流動滓１点、椀形滓１点、含鉄遺物１点、敲石１点、樹皮巻き１点を図示した。130-14は土師器坏で、内面黒色処理が施されている。130-02は把手付土器の把手で、中空である。161-１は鋤鍬先で、刃部が幅広である。風呂部はいずれも先端が欠損する。162-11は鏃である。台状関で、頸部関から先は平たくなっているが、欠損しているため形状は不明である。163-19は椀形滓で、２個の椀形滓が上下に癒着し、１つの滓となっている。断面にギラギラとした光沢がみられる。174-7は樹皮巻きで、第４章第３節の分析により、カバノキ属との結果が得られた。

【小結】出土遺物から、平安時代11世紀後半以降に構築され廃絶したと考えられる。　　（久保）

第33号竪穴建物跡（SI33）

発掘調査時は第33号竪穴建物跡として精査したが、精査の結果、第32号竪穴建物跡（SI32）の一部と判明したため、欠番とした。

第34号竪穴建物跡（SI34）　（図15～22・131・161・162、写真10～17・108・118）

【位置・確認】VQ143・144、VR143グリッドに位置する。Ⅵ層で検出した。精査中に焼土と炭化物が多量に確認されたため、焼失住居と認定した。

【重複】第32・35号竪穴建物跡と重複しており、本遺構が第32号竪穴建物跡より古く、第35号竪穴建物跡より新しい。

【平面形・規模】6.1×4.9mを測り、方形を呈する。検出面からの深さは30㎝である。本遺構の北側は、後世の耕作により削平されている。

【堆積土】11層に分層した。褐色土を主体とする。全体的に焼土ブロックや炭化物が確認されている。

【壁・床面】壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。床面はⅥ・Ⅶ層を掘り込み構築されていて、比較的平坦である。床面直上で炭化材が多数出土した。遺存状況はあまり良くないが、やや残りの良い南側で、炭化物の木目が建物の中心に向かってある程度縦に揃っているように思われた。

【柱穴・施設】柱穴は検出できなかった。土坑は２基検出された。西側全てと南北側３分の２、東側の一部の壁沿いに壁柱穴が巡る。東側の壁溝は第32号竪穴建物跡の貼床下から検出された。

【カマド】検出できなかった。
【出土遺物】土師器甕、土師器坏、須恵器壺、釘、鐸、棒状鉄製品、炉壁が堆積土から出土した。うち、土師器甕２点、土師器坏１点、須恵器壺１点、釘１点、鐸１点を図示した。131-03は土師器坏で、内面黒色処理が施されている。底面には糸切痕が残る。161-6は釘で、頭部が方形に整えられている。162-14は鐸である。鐸は錫杖状鉄製品の一部で、薄い板材を筒状に丸めている。
【小結】出土遺物から、平安時代10世紀後半以降に構築され廃絶したと考えられる。　　（久保）

第35号竪穴建物跡(SI35)　（図15～22･131、写真10～17･108）

【位置・確認】ＶQ142・143グリッドに位置する。Ⅵ層で検出した。
【重複】第34号竪穴建物跡と重複しており、本遺構が古い。
【平面形・規模】5.5×4.6mを測り、方形を呈する。検出面からの深さは18cmである。本遺構の北側は、後世の耕作により削平されている。
【堆積土】13層に分層した。暗褐色土を主体とする。いずれの層でもロームブロックが混入し、全体的に焼土ブロックや炭化物などが混入することから人為堆積と考えられる。
【壁・床面】壁は底面からやや緩やかに立ち上がる。残存する南壁と東西壁の一部には壁溝が巡る。床面はⅥ・Ⅶ層を掘り込み構築されていて、比較的平坦である。床面西半では竪穴建物を構築する際に掘削した工具痕が検出された。
【柱穴・施設】柱穴が４基、土坑が１基検出された。Pit3・4は建物の角に配置されている。
【カマド】検出できなかった。
【出土遺物】土師器甕、鏃、炉壁が堆積土から出土した。うち、土師器甕１点を図示した。131-05は外面体部のほぼ全面にケズリが入る。
【小結】出土遺物から、平安時代10世紀後半以降に構築され廃絶したと考えられる。　　（久保）

第36号竪穴建物跡(SI36)　（図37～40･131･132、写真34～38･108）

【位置・確認】ＶI164グリッドに位置する。Ⅵ層で検出した。精査中に焼土と炭化物が多量に確認されたため、焼失住居と認定した。
【重複】第37・38・39・77号竪穴建物跡と重複しており、本遺構が新しい。
【平面形・規模】東西・南北軸5.2mを測ると考えられ、方形を呈する。検出面からの深さは42cmである。本遺構の南側は、調査区外に位置する。
【堆積土】９層に分層した。暗褐色土を主体とする。５層で炭化物が多量に混入する。
【壁・床面】壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。床面はⅥ・Ⅶ層を掘り込み構築されていて、比較的平坦である。北側の一部の壁沿いに壁溝が巡る。壁溝が第39号竪穴建物跡のものから連続して構築されているようにみえることから、本遺構は第39号竪穴建物跡を拡張したものである可能性がある。床面直上で炭化材が多数出土した。遺存状況は比較的良好で、建物の東西に偏って出土した。西側で一部長軸が東西方向と南北方向の炭化材が重なって出土したことから、桁や垂木であった可能性がある。炭化物の一部で樹種同定を行い、クリとブナという結果が得られた。
【柱穴・施設】柱穴が４基、土坑が１基検出された。Pit1は壁柱穴の可能性がある。

【カマド】東側に１基確認された。火床面の両脇とその東側に扁平で方形状の凝灰岩の袖石が倒れた状態で出土した。礫の上面が被熱していたことから、立っていた状態から外側に倒れたと考えられる。
【出土遺物】土師器甕、須恵器甕、須恵器壺、炉壁、炉内滓、流動滓、含鉄遺物、羽口が堆積土から出土した。うち、土師器甕６点、須恵器甕２点、須恵器甕１点を図示した。131-06・07・09～11、132-02はカマド上面からの出土で、焼土より下からの出土であることから、竪穴建物廃絶時に廃棄されたものと考えられる。131-10・11は土師器甕で、比較的残りが良い。いずれも小型で、底面に131-10には木葉痕、131-11には簾状圧痕が残る。
【小結】出土遺物から、平安時代10世紀後半以降に構築され廃絶したと考えられる。　　（久保）

第37号竪穴建物跡(SI37)　（図37～40･132、写真34～38･108）

【位置・確認】ⅤI163グリッドに位置する。Ⅵ層で検出した。
【重複】第36・39・77号竪穴建物跡と重複しており、本遺構が古い。
【平面形・規模】残存部で1.8m×1.6mを測り、方形を呈すると考えられる。検出面からの深さは48㎝である。
【堆積土】３層に分層した。黒褐色土と暗褐色土を主体とする。２・３層では粘土ブロックが混入する。
【壁・床面】壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。北壁には壁溝がみられる。床面はⅥ・Ⅶ層を掘り込み構築されていて、比較的平坦である。
【柱穴・施設】柱穴は２基検出された。主柱穴は確認できなかった。
【カマド】検出できなかった。
【出土遺物】土師器甕、須恵器甕、流動滓、炉内滓が堆積土から出土した。うち、土師器甕１点、須恵器甕１点を図示した。132-04は土師器甕で、内面胴部にナデがみられる。
【小結】出土遺物から、平安時代10世紀後半以降に構築され廃絶したと考えられる。　　（久保）

第38号竪穴建物跡(SI38)　（図37～40･132･170、写真34～38･108･120）

【位置・確認】ⅤI164・165グリッドに位置する。Ⅵ層で検出した。精査中に焼土と炭化物が多量に確認されたため、焼失住居と認定した。
【重複】第36号竪穴建物跡と重複しており、本遺構が古い。
【平面形・規模】東西・南北軸2.9mを測り、方形を呈する。検出面からの深さは42㎝である。本遺構の南側は、調査区外に位置する。
【堆積土】11層に分層した。黒褐色土を主体とする。８層では焼土ブロックが多量に混入し、11層は粉状の炭化物層であった。
【壁・床面】壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。東壁の一部を除いて壁溝が巡る。床面はⅥ・Ⅶ層を掘り込み構築されていて、比較的平坦である。
【柱穴・施設】柱穴が１基、土坑が２基検出された。主柱穴は確認できなかった。
【カマド】検出できなかった。
【出土遺物】土師器甕、土師器坏、須恵器壺、釘、石匙が堆積土から出土した。うち、土師器甕１

点、土師器坏１点、須恵器壺１点、石匙１点を図示した。132-07は小型の須恵器壺である。頸部が比較的短い。

【小結】出土遺物から、平安時代10世紀後半以降に構築され廃絶したと考えられる。　　（久保）

第39号竪穴建物跡(SI39)　（図37～40･132、写真34～38･108）

【位置・確認】ＶI163・164グリッドに位置する。Ⅵ層で検出した。

【重複】第36・37・77号竪穴建物跡と重複しており、本遺構は第36号竪穴建物跡より古く、第37・77号竪穴建物跡より新しい。

【平面形・規模】東西・南北軸４ｍを測り、方形を呈すると考えられる。検出面からの深さは18㎝である。本遺構の南側は、調査区外に位置する。

【堆積土】４層に分層した。暗褐色土を主体とする。一括性が高いことから人為堆積と考えられる。

【壁・床面】壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。床面はⅥ・Ⅶ層を掘り込み構築されていて、比較的平坦である。北西側と東側の一部の壁沿いに壁溝が巡る。床面直上で炭化物集中範囲を確認した。遺存状況は悪く、粉状であった。

【柱穴・施設】柱穴が19基、土坑が７基検出された。北西壁沿いに壁柱穴が巡る。

【カマド】東側に１基確認された。火床面のみの検出で、配置から、SK1は灰の掻き出しなどに使用されていた可能性がある。

【出土遺物】土師器甕、須恵器甕、刀子、炉壁、炉内滓、流動滓、含鉄遺物が堆積土から出土した。うち、土師器甕４点、須恵器甕１点を図示した。132-11は土師器甕で、内外面上半に炭化物が付着する。132-12も土師器甕で、残りが良く、外面にケズリが口縁部に及ぶ。底面には木葉痕が残る。

【小結】出土遺物から、平安時代10世紀後半以降に構築され廃絶したと考えられる。　　（久保）

第40号竪穴建物跡(SI40)　（図41･133、写真39･109）

【位置・確認】ＶK162グリッドに位置する。Ⅵ層で検出した。

【重複】第１号掘立柱建物跡、第19号溝跡と重複しており、本遺構は第19号溝跡より古く、第１号掘立柱建物跡より新しい。

【平面形・規模】3.7×2.8ｍを測り、長方形を呈する。検出面からの深さは21㎝である。

【堆積土】７層に分層した。黒褐色土を主体とする。全体的にロームブロックや炭化物などの混入物がみられることから、人為堆積と考えられる。

【壁・床面】壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。壁際には壁溝が巡る。東側のみ二重で、外側の溝の北寄りが一部開口している。床面はⅥ・Ⅶ層を掘り込み構築されていて、比較的平坦である。

【柱穴・施設】柱穴が６基、土坑が３基検出された。Pit1・2・5・6は建物の四隅に配置されている。Pit1・6が壁溝を掘り込み、その間に南北方向の溝がみられ、その溝の間にカマド構築されていることから、本遺構は建て替えにより縮小された可能性がある。

【カマド】東壁の南寄りに位置する。浅い掘り込みの内部に火床面を検出した。掘り込みの西側は開口している。

【出土遺物】土師器甕、土師器坏が堆積土から出土した。うち、土師器甕４点、土師器坏２点を図示

した。133-04は土師器甕で、底面に簾状圧痕が残る。133-06は土師器坏で、内外面に炭化物が付着する。

【小結】出土遺物から、平安時代10世紀後半以降に構築され廃絶したと考えられる。　（久保）

第41号竪穴建物跡（SI41）（図42～46・133・134・161、写真40・41・109・118）

【位置・確認】ＶＫ・Ｌ158・159グリッドに位置する。第Ⅵ層上面で検出した。炭化物を多く含む焼失建物である。

【重複】第42･43A･43B･46･117号竪穴住居跡と重複し、本遺構が最も新しい。

【平面形・規模】主軸4.4m、横軸4.8mのやや横長の隅丸方形を呈する。検出面からの深さは66cmを測る。

【堆積土】黒褐色土を主体にする。ロームブロックや粘土の混入が目立ち、人為堆積とみられる。

【壁・床面】壁は底面から垂直に立ち上がる。Ｖ層を掘り込み床としている。床はほぼ平坦である。

【柱穴・施設】壁柱穴を含む多くの小Pitを検出した。主柱相当のものは確認出来なかった。南壁寄りに長軸84cmの住居内土坑（SI41Pit26）が見られた。また北壁沿いにも長軸1.0mほどの土坑（SI41SK3）を検出した。

【カマド】当建物跡に伴う可能性のあるカマド３基（Ａ～Ｃ）を検出した。うちカマドＡとＣは確実に当建物跡に伴い、カマドＢはあるいはSI42に伴う炉の可能性もある。カマドＡには袖芯材の凝灰岩の残存も確認された。煙道部は削平により未確認である。

【出土遺物】土師器甕4点・坏5点と鉄製品１点と支脚２点を図示した。図示した鉄製品は釘１点であるが、他に刀子片１点も出土した。支脚は石製のもので、断面六角形に削り出されており、被熱痕が著しい。また、図示はしていないが、炉壁、炉内滓、流動滓、含鉄遺物、銹化遺物といった製鉄関連遺物が出土した。

【小結】重複する第42号竪穴建物跡や出土遺物から、平安時代10世紀後半以降の構築・廃絶と考えられる。　（永嶋）

第42号竪穴建物跡（SI42）（図42～46・134～135・161、写真41・109・118）

【位置・確認】ＶＫ～M158・159グリッドに位置する。第Ⅵ層上面で検出した。炭化物を多く含む焼失建物である。

【重複】第41･43B･117号竪穴住居跡と重複し、第41号竪穴建物に次いで新しい。

【平面形・規模】主軸4.6m、横軸5.6mの横長の長方形を呈する。検出面からの深さは24cmを測る。

【堆積土】褐色土を主体にする。ロームブロックの混入が目立ち、人為堆積とみられる。

【壁・床面】壁は底面から垂直に立ち上がる。Ｖ層を掘り込み床としている。床はほぼ平坦である。

【柱穴・施設】床面中央付近で数基の小Pitを検出した。主柱相当のものは確認出来なかった。幅10～20cmの壁周溝がほぼ全周巡る。第41号建物跡カマドＢは当建物跡に伴う炉の可能性がある。建物跡外の東側に小Pitが並ぶように検出され、当建物跡に伴う付属建物の可能性がある。

【カマド】東壁やや北寄りに火床面とカマド右袖芯材を検出した。煙道部は削平により未確認である。

【出土遺物】注目される遺物に炭化材下より出土した平織りの布製品がある。分析の結果、アサ製であることが判明した（第４章第３節）。その他、土師器甕６点、鍋１点、把手付土器２点、須恵器甕の破片３点を図示した。鉄製品は刀子2点、鑿1点、鏃1点、釘3点、不明鉄製品１点が出土し、うち、良好に残存していた鑿１点を図示した。この鑿は袋状の着柄部の中に木質部が残存していた。炉内滓、流動滓、銹化遺物も出土している。

【小結】重複する第41・43号竪穴建物跡や出土遺物から、平安時代10世紀以降の廃絶と考えられる。

（永嶋）

第43A号竪穴建物跡（SI43）（図42・45、写真42）

【位置・確認】ＶＬ・M158グリッドに位置する。

【重複】第41･43B号竪穴住居跡と重複し、本遺構が最も古い。

【平面形・規模】現存東西軸1.1ｍ・現存南北軸1.7ｍを測る。北西隅部分と西壁上端のみ残存していた。南壁はSI41構築により破壊されているが、確認したコーナー部から本来の南北軸は6.2m前後と考えられる。検出面からの深さは66cmである。

【堆積土】記録なし。

【壁・床面】残存した北西隅付近では、壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。床面はＶ層を掘り込み構築されていて平坦である。

【柱穴・施設】小Pitが２基検出された。幅10cm前後の周溝が見られる。

【カマド】残存しない。

【出土遺物】当遺構に伴うと考えられる遺物は出土しなかった。

【小結】重複関係や堆積土、出土遺物から、平安時代10世紀後半以降に廃絶したと考えられる。

（永嶋）

第43B号竪穴建物跡（SI43）（図42・45）

【位置・確認】ＶＬ・M158グリッドに位置する。

【重複】第41･42･43B号竪穴住居跡と重複する。第42A号竪穴建物より新しく、第41･42号竪穴建物跡より古い。

【平面形・規模】現存東西軸1.0ｍ・現存南北軸1.3ｍを測る。北西隅部分が残存していた。第42号竪穴建物跡床面内側から検出した周溝は当建物跡に伴う可能性がある。検出面からの深さは24cmである。

【堆積土】記録なし。

【壁・床面】残存した北西隅付近では、壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。床面はＶ層を掘り込み構築されていて平坦である。

【柱穴・施設】長軸1.1mの建物内土坑を検出した。幅10cm前後の周溝が見られる。

【カマド】残存しない。

【出土遺物】当遺構に伴うと考えられる遺物は出土しなかった。

【小結】重複関係や堆積土、出土遺物から、平安時代10世紀後半以降に構築され廃絶したと考えられ

る。　（永嶋）

第44号（新）竪穴建物跡（SI44）（図47・48・136、写真42）

【位置・確認】ＶＰ・Q156・157グリッドに位置する。第Ⅵ層上面で検出した。

【重複】第45号A竪穴住居跡と第19号溝跡と重複し、本遺構が最も古い。

【平面形・規模】現存主軸3.2m・現存横軸4.0～4.5mを測る。検出面からの深さは24cmである。

【堆積土】暗褐色土を主体とする。Ⅵ･Ⅶ層由来のロームブロックを多く含む人為堆積である。

【壁・床面】南西壁と南東壁は緩やかに立ち上がる。

【柱穴・施設】小Pitを２基検出した

【カマド】確認されなかった。

【出土遺物】土師器等の出土はあったが、小片のため図示していない。炉内滓と椀形滓が出土している。

【小結】重複する第45号竪穴建物跡より、平安時代10世紀以降の廃絶と考えられる。　（永嶋）

第45A竪穴建物跡（SI45A）（図47・48・136・161、写真42・110・118）

【位置・確認】ＶＰ・Q157～159グリッドに位置する。第Ⅵ層上面で検出した。

【重複】第44号･45B･45C･4D･48竪穴住居跡と第19号溝跡と重複し、第44号･45C･48号竪穴建物跡より新しく、第45B･45D号竪穴建物跡と第19号溝跡より古い。

【平面形・規模】主軸5.3m・確認横軸3.4mを測る。検出面からの深さは70cmである。

【堆積土】暗褐色土を主体とする。人為堆積である。

【壁・床面】南壁の残存が比較的良好である。北部は削平により破壊されている。壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。貼床なし。

【柱穴・施設】壁際および隅部に小Pit3基を検出した。南壁と東壁際に周溝を確認した。うち南壁際のものは壁から約0.5m離れたものであり、建物跡拡張前のものかもしれない。

【カマド】天井部が崩落した状態で検出した。右袖粘土は良好に残存していたが、左袖は調査区外である。煙道と火床面の一部は第45D号竪穴建物跡により破壊されていた。

【出土遺物】土師器甕２点・内黒の坏１点・ミニチュア土器１点、須恵器壷１点・甕１点を図示した。また鉄釘１点も図示した。炉内滓、流動滓、含鉄遺物も出土した。

【小結】出土遺物から平安時代10世紀以降の構築・廃絶と考えられる。　（永嶋）

第45B竪穴建物跡（SI45B）（図47・48、写真42）

【位置・確認】ＶＰ158･159グリッドに位置する。第45A号竪穴建物跡の南東隅調査中に、5～10cmの床面の高まりを確認した。第45A竪穴建物跡に伴う施設もしくは先行する竪穴建物跡の床面の可能性がある。

【重複】第45A竪穴住居跡の中におさまる。

【平面形・規模】現存部は0.8×1.1mを測る。

【堆積土】記録なし。

【壁・床面】貼床なし。
【柱穴・施設】未検出。
【カマド】未検出。
【出土遺物】遺物出土なし。
【小結】第45A号竪穴建物跡と同時期あるいはやや先行する、平安時代10世紀以降の廃絶と考えられる。（永嶋）

第45C竪穴建物跡（SI45C）（図47・48・136、写真42・110）

【位置・確認】ＶＰ158･159グリッドに位置する。第Ⅵ層上面で検出した。
【重複】第45A･48竪穴住居跡と重複し、最も古い。
【平面形・規模】現存部0.8m×1.6mを測る。
【堆積土】記録なし。
【壁・床面】壁は底面から緩やかに立ち上がる。貼床なし。
【柱穴・施設】未検出。
【カマド】未検出。
【出土遺物】土師器小型鉢１点を図示した。
【小結】重複する第45A竪穴建物跡や出土遺物から平安時代10世紀後半以降の廃絶と考えられる。（永嶋）

第45D竪穴建物跡（SI45D）（図47・48、写真42）

【位置・確認】ＶＰ158･159グリッドに位置する。第Ⅵ層上面で検出した。
【重複】第45A･48竪穴住居跡と重複し、最も新しい。
【平面形・規模】東西軸3.4m･確認南北軸0.3mを測る。検出面からの深さは48cmである。
【堆積土】暗褐色土と主体とし、人為堆積と考えられる。
【壁・床面】壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。貼床なし。
【柱穴・施設】南壁際一部に幅20cm弱の周溝と小Pit３基を確認した。
【カマド】未検出。
【出土遺物】土師器等が出土したが、小片のため図示していない。
【小結】重複する第45竪穴建物跡や出土遺物から平安時代10世紀後半以降の構築・廃絶と考えられる。（永嶋）

第46竪穴住居跡（SI46）（図42･45･46･136）

【位置・確認】ＶＫ158～160グリッドに位置する。
【重複】第41･117号竪穴住居跡と重複する。第41号竪穴建物跡より古く、第117号竪穴建物跡との前後関係は不明である。
【平面形・規模】現存東西軸1.6ｍ・南北軸6.8ｍを測る。検出面からの深さは24cmである。
【堆積土】暗褐色土と主体とし、ロームブロックを多く混入することから人為堆積と考えられる。
【壁・床面】壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。床面はⅤ層を掘り込み構築されていて平坦であ

る。

【柱穴・施設】長軸1.2mの建物内土坑を検出した。建物外東側に小Pit列が検出されており、当建物跡に伴う付属建物が存在した可能性がある。

【カマド】残存しない。

【出土遺物】土師器甕２点・坏２点・内黒の坏１点・須恵器壺１点を図示した。また流動滓も出土した。

【小結】重複関係や堆積土、出土遺物から、平安時代10世紀後半以降に廃絶したと考えられる。

（永嶋）

第48号竪穴建物跡（SI48）（図47･48・136、写真42）

【位置・確認】ＶＰ159グリッドに位置する。第Ⅵ層上面で検出した。

【重複】第45A･45C･45D竪穴住居跡と重複し、第45C竪穴建物跡より新しく、第45A・45D竪穴建物跡より古い。

【平面形・規模】現存東西軸1.8m･現存南北軸2.0mを測る。

【堆積土】記録なし。

【壁・床面】壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。貼床なし。

【柱穴・施設】南壁際一部に幅20cm弱の周溝を検出した。小Pit３基も検出した。

【カマド】未検出。

【出土遺物】土師器甕３点を図示した。炉壁・流動滓も出土している。

【小結】重複する第45号竪穴建物跡や出土遺物から平安時代10世紀後半以降の構築・廃絶と考えられる。

（永嶋）

第50号竪穴建物跡（SI50）（図49・136、写真43）

【位置・確認】ＶＱ155 ･156グリッドに位置する。第Ⅵ層上面で検出した。

【重複】第51号A竪穴住居跡と重複し、本遺構が古い。

【平面形・規模】現存部0.7ｍ×1.1mを測る。検出面からの深さは42cmである。

【堆積土】暗褐色土を主体とする。Ⅴ･Ⅶ層由来のロームブロックを含む人為堆積である。

【壁・床面】壁は緩やかに立ち上がる。

【柱穴・施設】未検出。

【カマド】未検出。

【出土遺物】当遺構に伴う遺物は出土していない。

【小結】重複する第51号竪穴建物跡や堆積土から平安時代10世紀後半以降の廃絶と考えられる。検出時には竪穴建物跡と考えたが、完掘時の形状から土坑である可能性がある。

（永嶋）

第51A号竪穴建物跡（SI51A）（図49・136、写真43・110）

【位置・確認】ＶＱ･Ｒ155・156グリッドに位置する。第Ⅵ層上面で検出した。

【重複】第50･51号B竪穴住居跡と重複し、本遺構が最も新しい。

【平面形・規模】東西軸6.6m・現存南北軸0.6mを測る。検出面からの深さは66cmである。
【堆積土】褐色と暗褐色土を主体とする。Ⅶ層由来のロームブロックを多く含む人為堆積である。
【壁・床面】壁は垂直に立ち上がる。
【柱穴・施設】南壁と西壁際に幅20～25cmの壁溝と小Pit数基を検出した。
【カマド】未検出。
【出土遺物】土師器甕2点と須恵器鉢1点を図示した。
【小結】出土遺物から平安時代10世紀以降の廃絶と考えられる。（永嶋）

第51B号竪穴建物跡（SI51B）（図49、写真43）

【位置・確認】ＶＲ154・155グリッドに位置する。第Ⅵ層上面で検出した。
【重複】第51号A竪穴住居跡と重複し、本遺構が古い。
【平面形・規模】現存東西軸3.7m・現存南北軸0.4mを測る。検出面からの深さは54cmである。
【堆積土】暗褐色土を主体とする。Ⅶ層由来のロームブロックを含む人為堆積である。
【壁・床面】壁は垂直に立ち上がる。床面は東側がやや下がる。貼床なし。
【柱穴・施設】南壁と西壁際に幅10～20 cmの壁溝を検出した。
【カマド】未検出。
【出土遺物】土師器片等が出土したが、小片のため図示しなかった。
【小結】重複する第51A号竪穴建物跡から平安時代10世紀後半以降の構築・廃絶と考えられる。
（永嶋）

第53号竪穴建物跡（SI53）（図50・137、写真43）

【位置・確認】ＶＧ～Ｉ160～162グリッドに位置するが、南西部は調査区外へ続く。第Ⅵ層上面で検出した。
【重複】南側に当竪穴建物跡構築に先行する竪穴建物跡の壁を検出した。
【平面形・規模】主軸5.3m、横軸6.8mの横長の長方形を呈する。検出面からの深さは30cmを測る。
【堆積土】暗褐色土を主体にする。Ｖ～Ⅶ層由来のロームブロックの混入が目立ち、人為堆積である。
【壁・床面】壁は底面から垂直に立ち上がる。Ｖ層を掘り込み床とし、平坦である。
【柱穴・施設】全壁面に幅10～20cmの壁溝を検出したが、一部で途切れる部分もある。小Pit２基と長軸1.2～1.3mほどの土坑（SI53SK1･2）を検出した。
【カマド】カマド２基（A～Ｂ）を検出した。共に良く被熱した火床面が残存しており、カマドＡは両袖の粘土の残存も良好であり、芯材は見られない。
【出土遺物】土師器甕３点と坏１点と須恵器甕２点を図示した。また炉内滓と流動滓も出土した。
【小結】堆積土や出土遺物から、平安時代10世紀以降の廃絶と考えられる。（永嶋）

第55号竪穴建物跡(SI55)　（図51･137･138･162･163･164･167、写真44･110･118･119）

【位置・確認】ＶＩ・ＶH162グリッドに位置する。Ⅵ層で検出した。

【重複】第56・77号竪穴建物跡と重複しており、本遺構が新しい。
【平面形・規模】東西・南北軸5.2mを測り、方形を呈すると考えられる。検出面からの深さは66㎝である。本遺構の東側は、調査区外に位置する。
【堆積土】11層に分層した。暗褐色土を主体とする。１層は鉄滓出土範囲①にあたり、鉄滓が多量に出土する。７層は後世の耕作土で、11層は貼床である。全体的にロームブロックや炭化物などの混入物がみられることから、人為堆積と考えられる。
【壁・床面】南北壁は底面からほぼ垂直に立ち上がり、西壁はやや緩やかに立ち上がる。床面はⅥ・Ⅶ層を掘り込み構築されていて、比較的平坦である。
【柱穴・施設】柱穴は検出できなかった。
【カマド】検出できなかった。
【出土遺物】土師器甕、土師器坏、土師器ミニチュア土器、須恵器甕、須恵器壺、刀子、鏃、炉壁、炉内滓、流動滓、椀形滓、再結合滓、鉄塊系遺物、含鉄遺物、銹化遺物、羽口が堆積土から出土した。うち、土師器甕５点、土師器坏２点、土師器ミニチュア土器１点、須恵器甕１点、須恵器壺２点、刀子１点、炉壁２点、炉内滓５点、流動滓２点、椀形滓４点、鉄塊系遺物３点、含鉄遺物１点、羽口４点を図示した。137-12・13は土師器坏で、いずれも内面黒色処理が施されている。138-02は土師器のミニチュア土器で、器体の大きさの割に比較的厚手である。手づくねにより成形されている。137-14は須恵器長頸壺で、肩部に刻書がみられる。鉄関連遺物については、調査時に鉄滓出土範囲①・②及びSI55覆土として分けたが、設楽政健氏の鑑定によりいずれも製錬滓に分類されているため、同時期に廃棄された可能性がある。162-３は刀子の刃部で、若干反るように湾曲している。先端と茎部が欠損する。図163-21・22は炉壁で、22は溶着滓が表面のほぼ全面に付着し、比較的ガス質である。163-23～27は炉内滓で、25の裏面には砂粒が多量付着する。163-30・31、164-１・２は椀形滓で、30は第４章第７節の分析で、製錬滓との結果が得られた。１は３個、２は２個の小型の椀形滓が上下に癒着し、１つの滓となっている。
【小結】出土遺物から、平安時代10世紀後半以降に構築され廃絶したと考えられる。また、鉄関連遺物が多量に出土していることから、廃滓場として利用されていた可能性がある。（久保）

第56号竪穴建物跡（SI56）（図51･138、写真44）

【位置・確認】ⅥI・ⅥH162グリッドに位置する。Ⅵ層で検出した。
【重複】第55・77号竪穴建物跡と重複しており、本遺構が古い。
【平面形・規模】残存部で東西・南北軸2.1mを測り、方形を呈すると考えられる。検出面からの深さは36㎝である。本遺構の東側は、調査区外に位置する。
【堆積土】大部分が第55・77号竪穴建物跡に壊され、確認できなかった。
【壁・床面】壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。床面はⅥ・Ⅶ層を掘り込み構築されていて、比較的平坦である。
【柱穴・施設】柱穴は検出できず、土坑が１基確認された。
【カマド】検出できなかった。
【出土遺物】土師器甕、土師器坏、炉壁が堆積土から出土した。うち、土師器甕１点、土師器坏１点

を図示した。138-05は土師器甕で、外面体部にはケズリが施される。

【小結】出土遺物から、平安時代10世紀後半以降に構築され廃絶したと考えられる。　（久保）

第57号竪穴住居跡（SI57）（図52～54・138～139・164、写真45・110）

【位置・確認】VM～Ｏ157・159グリッドに位置する。第Ⅳ層上面で検出した。炭化物を多く含む焼失建物である。東側にPit群が検出されており、当竪穴建物跡に付属する建物跡を構成する可能性がある。

【重複】第58号竪穴住居跡と重複し、当竪穴建物跡が新しい。

【平面形・規模】SI58BPit1･5･6を結んだラインを北壁、SI57Pit17とSI57SN2を結んだラインを東壁とする拡張前は想定主軸5.4m･想定横軸7.2mの極端な横長の長方形を呈する。SI58APit3･4･7ラインを北壁SI42Pit8からSX07東側へと続く小Pit列を東壁とする拡張後は想定主軸8.5m･想定横軸8.6mの正方形を呈する。付属建物は想定東西軸7.6m･想定南北軸7.8mである。竪穴建物跡と付属建物を合わせると実に主軸方向約16mにおよぶ大型の建物であった可能性がある。竪穴建物跡は検出面からの深さは40cmを測る。

【堆積土】暗褐色土を主体にする。ロームブロックの混入が目立ち、人為堆積とみられる。

【壁・床面】壁は底面から垂直に立ち上がる。Ｖ層を掘り込み床としている。床は平坦である。

【柱穴・施設】SI57Pit3とSI58Pit4は主柱穴とも考えられるが、小規模で浅い。西壁･南壁際に幅15～25cmの壁溝を検出した。また全周に壁柱穴が巡っており、建物外の東側で検出された小Pitは付属建物を形成していた可能性がある。一部において貼床が見られ、床面中央やや南西寄りの床下で、還元面を有する焼け面が見られ、屋内鍛冶炉と判断した。またカマド袖状の粘土が両サイドに付設されたSI57SN3は壁から極端に離れており、還元面を欠くものの鍛冶炉であった可能性もある。

【カマド】SI57SN1･2は拡張前のカマド火床面の可能性があるが、袖部や煙道は除去されていた。

【出土遺物】土師器甕3点・坏2点・壷1点・蓋1点、須恵器甕１点・壷２点、炉内滓2点と流動滓1点を図示した。他に不明鉄製品1点や炉壁が出土している。

【小結】出土遺物から、平安時代10世紀後半以降の構築・廃絶と考えられる。　（永嶋）

第58号竪穴建物跡（SI58）（図52～54・139、写真45）

【位置・確認】ＶＯ･Ｐ157グリッドに位置する。第Ⅵ層上面で検出した。

【重複】第57号竪穴住居跡と重複し、本遺構が古い。

【平面形・規模】現存東西軸0.8m・現存南北軸2.8mを測る。検出面からの深さは30cmである。

【堆積土】暗褐色土を主体とする。Ⅶ層由来のロームブロックを多く含む人為堆積である。

【壁・床面】壁は緩やかに立ち上がる。

【柱穴・施設】北壁と南壁際に幅15～25cmの壁溝の一部と思われる凹みを確認した。

【カマド】未検出。

【出土遺物】土師器甕１点、須恵器壺１点を図示した。

【小結】重複する第57号竪穴建物跡や出土遺物から平安時代10世紀後半以降の廃絶と考えられる。

（永嶋）

第59号竪穴建物跡（SI59）（図55・139、写真45）

【位置・確認】ＶＯ･Ｐ159･161グリッドに位置する。第Ⅵ層上面で検出した。

【重複】重複はないが、拡張の痕跡を確認した。

【平面形・規模】拡張前東西軸3.7ｍ・現存南北軸3.2ｍを測る。拡張後東西軸4.4m･現存東西軸3.2mを測る。検出面からの深さは54cmである。

【堆積土】黒褐色土を主体とする。Ⅵ層由来のロームブロックを多く含む人為堆積である。

【壁・床面】壁は緩やかに立ち上がる。

【柱穴・施設】全面で壁柱穴と小Pitを検出した。

【カマド】未検出。【出土遺物】土師器甕1点、須恵器甕1点を図示した。

【小結】出土遺物から平安時代10世紀後半以降の廃絶と考えられる。（永嶋）

第61号竪穴建物跡（SI61）（図36・39、写真33）

【位置・確認】ＶQ147・148グリッドに位置する。第Ｉ層上面で検出した。

【重複】第30号竪穴住居跡より新しい。

【平面形・規模】長軸が2.8ｍ、短軸が2.5ｍの隅丸方形を呈する。検出面からの深さは５cmで、北部を第11号(新)竪穴住居跡に破壊され南部のみ残存する。

【堆積土】暗褐色土を主体にする土で人為堆積とみられる。

【壁・床面】壁は検出できなかった。北壁際に溝を検出したが、壁溝か否かは判断できなかった。

【柱穴・施設】柱穴は５基検出した。

【カマド】煙道部と体部は検出できなかった。火焼面を検出した。

【出土遺物】土師器坏･須恵器甕を図示した。

【小結】平安時代の構築・廃絶と考えられる。（工藤）

第62A号竪穴建物跡（SI62A）（図56・57・128、写真46・107）

【位置・確認】ＶＰ ・ＶQ151・152グリッドに位置する。第Ｉ層上面で検出した。

【重複】SI第62C号竪穴住居跡 ・SI第62B号竪穴住居跡・SI第 67A号竪穴遺構・SI67B号竪穴遺構と重複し、第62B号・第62C号竪穴住居跡より新しく、第67A 号竪穴住居跡・第67B号竪穴住居跡より古い。

【平面形・規模】長軸が4.5ｍ、短軸が4.4ｍの方形を呈する。検出面からの深さは90～20cmcmで、北東部を第67A号竪穴遺構に破壊される。

【堆積土】褐色土を主体にする土である。床上南半部に炭化物や焼土が検出された。北半部からは検出できず、削平により破壊されたとみられる。人為堆積である。

【壁・床面】やや開きながら立ち上がる。壁溝は四方に巡る。床はやや北に傾く。床の比高差は19cmである。

【柱穴・施設】破壊を免れた3カ所の隅部に柱穴を検出した。また床面から3カ所柱穴を検出した。

【カマド】検出できなかった。

【出土遺物】堆積土中の炭化物や焼土の上に、須恵器甕の1/2個体が破片でまとまって出土した。土

師器甕１点、須恵器甕３点壺１点を図示した。鉄関連遺物（炉壁・粘土質溶解物・流動滓）が出土した。

【小結】炭化物の出土状況や住居跡中央に残る焼土の痕跡から、焼失住居とみられる。平安時代の構築・廃絶と考えられる。（工藤）

第62B号竪穴建物跡（SI62B）（図57、写真46）

【位置・確認】V0・VP151・152グリッドに位置する。第Ⅰ層上面で検出した。

【重複】第62C号・第62竪穴住居跡と重複し、第62C号竪穴住居跡より新しく、第62C竪穴住居跡との新旧関係は不明である。

【平面形・規模】長軸が約3.6m、短軸が（1.2m）の隅丸方形を呈する。北部を第11号(新)竪穴住居跡に破壊され南部のみ残存する。残存部における検出面からの深さは40cmから50cmである。

【堆積土】灰黄褐色土を主体にする土で人為堆積とみられる。

【壁・床面】壁は垂直に立ち上がる。床面はほぼ平坦である。南壁と東壁に壁溝を検出した。

【柱穴・施設】柱穴は壁溝端部に4基、床面に3基を検出した。

【カマド】検出しなかった。

【出土遺物】出土しなかった。

【小結】平安時代の構築・廃絶と考えられる。（工藤）

第62C号竪穴建物跡（SI62C）（図57、写真46）

【位置・確認】V0・VP・VQ 151グリッドに位置する。第Ⅰ層上面で検出した。

【重複】第62A号・第62B号竪穴住居跡と重複し、第62A号竪穴住居跡よりも古く、第62号B竪穴住居跡との新旧関係は不明である。

【平面形・規模】長軸が約5.0m、短軸が1.5mの隅丸方形を呈する。検出面からの深さは60cmで、北部を第11号(新)竪穴住居跡に破壊され南部のみ残存する。

【堆積土】暗褐色土を主体にする土で人為堆積とみられる。

【壁・床面】壁は検出できなかった。北壁際に溝を検出したが、壁溝かどうかは判断できなかった。

【柱穴・施設】柱穴は５基検出した。

【カマド】煙道部と体部は検出できなかった。火床面を検出した。

【出土遺物】遺物は出土しなかった。

【小結】平安時代の構築・廃絶と考えられる。（工藤）

第63号竪穴建物跡（SI63）（図58・139、写真47・110）

【位置・確認】VR・VS148・149グリッドに位置する。第Ⅰ層上面で検出した。

【重複】第64号竪穴住居跡と重複し、本遺構が古い。

【平面形・規模】長軸が5.0m、短軸が（3m）の隅丸方形を呈する。検出面からの深さは11cmである。

【堆積土】暗褐色土とにぶい黄褐色土を主体とする人為堆積層とみられる。

【壁・床面】床から開きながら立ち上がる。
【柱穴・施設】柱穴は９基検出した。
【カマド】検出できなかった。
【出土遺物】土師器甕２点、須恵器甕１点、壺１点を図示した。鉄関連遺物(炉壁・炉内滓・流動滓)が出土した。
【小結】出土遺物から、平安時代10世紀の構築・廃絶と考えられる。（工藤）

第64号竪穴建物跡（SI64）（図58・図140、写真47）

【位置・確認】VS・VR146・147グリッドに位置する。第Ⅰ層上面で検出した。
【重複】第63号竪穴住居跡と重複し、本遺構が新しい。
【平面形・規模】長軸が約5.2m、短軸が（2.5m）の隅丸方形を呈する。検出面からの深さは39cmである。
【堆積土】褐色土を主体にする土で人為堆積と思われる。
【壁・床面】壁は底面から垂直に立ち上がる。壁際に柱穴が巡る。周溝は検出できなかった。
【柱穴・施設】柱穴は15基検出した。うち12基は壁柱穴であり、床からの深さはおおよそ20cmから40cm内におさまる。
【カマド】検出できなかった。
【出土遺物】土師器坏、甕、須恵器甕を図示した。鉄関連遺物(炉壁・炉内滓・流動滓)が出土した。
【小結】出土遺物から、平安時代の構築・廃絶と考えられる。（工藤）

第66A号竪穴建物跡（SI66A）（図59・141、写真48・111）

【位置・確認】VR・VQ151・152グリッドに位置する。第Ⅰ層上面で検出した。
【重複】第66号B号竪穴住居跡より新しい。
【平面形・規模】長軸が5.5m、短軸が（4.5m）の隅丸方形を呈する。検出面からの深さは39cmである。
【堆積土】暗褐色土を主体にする土で人為堆積と思われる。
【壁・床面】壁は底面から垂直に立ち上がる。壁際に柱穴が巡り、全周する。床はほぼ平坦である。
【柱穴・施設】柱穴は10基検出のうち、張り出し部に4基壁際に検出される。このうちSI66Apit4は主柱穴とみられる。深さは9から24cm程度である。張り出し部の床面は、本体部の床面より10cm程高くなっている。
【カマド】1基検出した。東壁に検出した。他に火床面を東壁際に1カ所検出した。
【出土遺物】土師器坏、甕を図示した。鉄関連遺物(炉壁)が出土した。
【小結】平安時代11世紀の構築・廃絶と考えられる。（工藤）

第66号B号竪穴建物跡（SI64B）（図59・141）

【位置・確認】VR・VQ151・152グリッドに位置する。第Ⅰ層上面で検出した。
【重複】第66号A号竪穴住居跡より古い。

【平面形・規模】長軸が5.5m、短軸が（2.5m）の方形を呈する。
【堆積土】ほぼ全域が第66号A号竪穴住居跡により破壊され、堆積土の観察はできなかった。
【壁・床面】床はほぼ平坦である。
【柱穴・施設】柱穴の精査はできなかった。
【カマド】1基検出した。東壁に検出した。
【出土遺物】土師器坏、甕３点、須恵器２点出土した。
【小結】平安時代の構築・廃絶と考えられる。（工藤）

第67A号竪穴建物跡（SI67A）（図59･142、写真49・111）

【位置・確認】VP・VQ152グリッドに位置する。第Ⅰ層上面で検出した。
【重複】第66号B竪穴住居跡より本遺構が新しい。
【平面形・規模】長軸が３m、短軸が2.5mの方形を呈する。検出面からの深さは39cmである。
【堆積土】暗褐色土を主体にする土で人為堆積と思われる。
【壁・床面】壁は底面から垂直に立ち上がる。壁際に柱穴が巡り、全周する。床はほぼ平坦である。
【柱穴・施設】柱穴は10基検出のうち、張り出し部に4基壁際に検出される。このうちSI67Apit4は主柱穴である。深さは9から24cm程度である。張り出し部の床面は、本体部の床面より10cm程高くなっている。
【カマド】1基検出した。東壁に検出した。他に火床面を東壁際に1カ所検出した。
【出土遺物】第67号B号竪穴住居跡と共通で、土師器坏、甕、堝を図示した。
【小結】出土遺物から、平安時代の構築・廃絶と考えられる。（工藤）

第67B号竪穴建物跡（SI67B）（図59、写真49）

【位置・確認】VP・VQ152・153グリッドに位置する。第Ⅰ層上面で検出した。
【重複】第66号B竪穴住居跡より本遺構が新しい。
【平面形・規模】長軸が約3.2m、短軸が2.9mの不整な方形を呈する。検出面からの深さは30cmである。
【堆積土】不明である。
【壁・床面】壁は底面から垂直に立ち上がる。床はほぼ平坦である。
【柱穴・施設】柱穴は10基検出のうち、張り出し部に4基壁際に検出される。このうちSI66Apit4は主柱穴である。深さは9から24cm程度である。張り出し部の床面は、本体部の床面より10cm程高くなっている。
【カマド】検出できなかった。
【出土遺物】第67号A号竪穴住居跡を参照。
【小結】平安時代の構築・廃絶と考えられる。（工藤）

第68号竪穴建物跡（SI68）（図56・142、写真111）

【位置・確認】VP・VQ152・153グリッドに位置する。第Ⅰ層上面で検出した。

【重複】第62A号竪穴住居跡、第67A号竪穴住居跡より本遺構が古い。
【平面形・規模】長軸が6.0m、短軸が3.1mの隅丸方形を呈する。検出面からの深さは３㎝である。
【堆積土】灰黄褐色土を主体とする人為堆積層である。
【壁・床面】壁は底面から開くように立ち上がる。床面はやや凹凸があり、北に向かって傾斜する。
【柱穴・施設】本遺構に伴うとみられる柱穴は20基である。配置に規則性は見られない。
【カマド】検出できなかった。
【出土遺物】土師器把手付土器、甕を図示した。
【小結】平安時代11世紀の構築・廃絶と考えられる。（工藤）

第71号竪穴建物跡(SI71)　(図60･61･142･143、写真50･51･111)

【位置・確認】VM・VN162・163グリッドに位置する。Ⅵ層で検出した。
【重複】第72号竪穴建物跡と重複しており、本遺構が古い。
【平面形・規模】5.2×4.7mを測り、方形を呈する。検出面からの深さは54㎝である。
【堆積土】10層に分層した。暗褐色土を主体とする。１層は自然堆積と考えられる。10層は粉状の炭化物が薄く堆積している。全体的にロームブロックや炭化物などの混入物がみられることから、人為堆積と考えられる。
【壁・床面】壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。いずれの壁際にも壁溝が巡る。床面はⅥ・Ⅶ層を掘り込み構築されていて、比較的平坦である。
【柱穴・施設】柱穴は検出できず、土坑が７基検出された。
【カマド】検出できなかった。
【出土遺物】土師器甕、土師器坏、須恵器壺、釘、紡錘車、炉壁、炉内滓、流動滓、椀形滓、再結合滓、鉄塊系遺物、含鉄遺物、銹化遺物が堆積土から出土した。うち、土師器甕１点、土師器坏13点、須恵器壺２点を図示した。土師器坏が多く出土しており、142-12、143-01～05には火襷がみられる。143-6・7は内面黒色処理が施されている。
【小結】出土遺物から、平安時代10世紀後半以降に構築され廃絶したと考えられる。（久保）

第72号竪穴建物跡(SI72)　(図60･61･143･144･162･171、写真50･51･111･112･118･120)

【位置・確認】VM・VN163・164グリッドに位置する。Ⅵ層で検出した。
【重複】第71号竪穴建物跡と重複しており、本遺構が新しい。
【平面形・規模】東西・南北軸4.2mを測り、方形を呈する。検出面からの深さは36㎝である。南壁の東側に張出し部を持つ。
【堆積土】11層に分層した。暗褐色土を主体とする。１層は自然堆積と考えられる。10層は炭化物を多く含む。全体的にロームブロックや炭化物などの混入物がみられることから、人為堆積と考えられる。
【壁・床面】壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。東壁の一部を除き、壁際には壁溝が巡る。床面はⅥ・Ⅶ層を掘り込み構築されていて、比較的平坦である。
【柱穴・施設】柱穴が７基、土坑が５基検出された。Pit2・3・4・5は建物の角に配置されている。
【カマド】東壁の南寄りに位置する。火床面はSK5が埋没した後に形成されていることから、SK5は建

物構築前から存在し、カマド構築にあたり埋められた可能性がある。

【出土遺物】土師器甕、土師器坏、須恵器甕、須恵器壺、手鎌、刀子、紡錘車、刀装具、棒状鉄製品、炉壁、粘土質溶解物、流動滓、含鉄遺物、銹化遺物、砥石が堆積土から出土した。うち、土師器甕４点、土師器坏４点、須恵器甕１点、須恵器壺２点、刀子１点、刀装具１点、砥石２点を図示した。144-06は須恵器短頸壺で、ロクロ成形の後、下半外面にケズリが施され、内面にナデがみられる。162-４は刀子で、茎部が欠損する。区が棟側にあり、刃部が反る。区から切先に向け刃部の幅が狭くなる。162-13は刀装具で、元は帯状の板を丸めて環状にした責金具と考えられる。

【小結】出土遺物から、平安時代10世紀後半以降に構築され廃絶したと考えられる。　　（久保）

第73号竪穴建物跡(SI73)　（図62･63･145･146、写真52･53･112･113）

【位置・確認】VL163・164グリッドに位置する。Ⅵ層で検出した。

【重複】なし。

【平面形・規模】東西・南北軸4.7mを測り、方形を呈する。検出面からの深さは42cmである。本遺構の東側は、後世の耕作により削平されている。

【堆積土】18層に分層した。暗褐色土を主体とする。１層は自然堆積と考えられる。５層はカマド②袖の粘土である。全体的にロームブロックや炭化物などの混入物がみられることから、人為堆積と考えられる。

【壁・床面】壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。いずれの壁にも壁際には一部壁溝が巡る。床面はⅥ・Ⅶ層及び北西側は風倒木を掘り込み構築されていて、比較的平坦である。

【柱穴・施設】柱穴が９基、土坑が１基検出された。Pit1・7・9は建物の四隅に配置されており、削平された北東角にも本来は柱穴が存在したと思われる。

【カマド】東壁の南寄りで２基検出された。カマド①は火床面が確認できなかったが、土を平にならしたところに一対の川原石が配置されていたことからカマドと判断した。中央付近に土師器の甕(145-02)が配置されており、出土時は割れていたが、支脚であった可能性がある。カマド②は袖に扁平な川原石と粘土が使用されていた。また、天井部分に利用された凝灰岩の扁平礫が割れ落ちた状態で出土している。左右袖の間では火床面が検出された。カマド①・②のいずれも地山直上ではなく、土を充填した上に構築されていた。しかし、下部には土坑などのような明確な掘り込みはなく、整地したものと考えられる。

【出土遺物】土師器甕、土師器坏、土師器ミニチュア土器、須恵器甕、須恵器壺、手鎌、板状鉄製品、不明鉄製品、炉壁、炉内滓、流動滓、椀形滓、含鉄遺物が堆積土から出土した。うち、土師器甕８点、土師器坏７点、土師器ミニチュア土器１点、須恵器甕３点、須恵器壺１点を図示した。土師器坏は赤みを帯びた胎土を使用しているものがみられる。また、146-03のように丸みを帯びた形状の坏もみられる。146-04・05は火襷がみられる。145-01・04・06～08はカマド②の割れ落ちた天井石上からの出土のため、カマド廃絶時に廃棄されたと考えられる。146-08は土師器のミニチュア土器で、割れ口から、底部の厚みがかなりあるものと考えられる。

【小結】出土遺物から、平安時代10世紀後半以降に構築され廃絶したと考えられる。　　（久保）

第74号竪穴建物跡(SI74)

発掘調査時は第74号竪穴建物跡として精査したが、精査の結果、第73号竪穴建物跡(SI73)の一部と判明したため、欠番とした。

第75号竪穴建物跡(SI75)　(図64･147、写真54･113)

【位置・確認】VL・VM161・162グリッドに位置する。Ⅵ層で検出した。

【重複】なし。

【平面形・規模】3.2m×2.5mを測り、方形を呈する。検出面からの深さは18cmである。

【堆積土】13層に分層した。黒褐色土を主体とする。全体的にロームブロックや粘土ブロックなどの混入物がみられることから、人為堆積と考えられる。

【壁・床面】壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。南及び西壁際には一部壁溝が巡る。床面はⅥ・Ⅶ層を掘り込み構築されていて、比較的平坦である。

【柱穴・施設】柱穴が６基検出された。Pit1・4・5・6が主柱穴と考えられる。

【カマド】西壁の北寄りに位置する。火床面を検出し、その北側で出土した扁平礫を位置関係から袖石としたが、火床面を覆う８層上面に存在することから、原位置を保っていない可能性がある。

【出土遺物】土師器甕、流動滓が堆積土から出土した。うち、土師器甕２点を図示した。147-01は土師器甕で、外面底部近くまで下方向のケズリが施されている。

【小結】出土遺物から、平安時代10世紀後半以降に構築され廃絶したと考えられる。　(久保)

第76号竪穴建物跡(SI76)　(図64･147、写真55)

【位置・確認】VL・VM161・162グリッドに位置する。Ⅵ層で検出した。

【重複】なし。

【平面形・規模】東西・南北軸3.2mを測り、方形を呈する。検出面からの深さは36cmである。

【堆積土】４層に分層した。黒褐色土を主体とする。４層は貼床である。全体的にロームブロックや炭化物などの混入物がみられることから、人為堆積と考えられる。

【壁・床面】壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。いずれの壁際でも一部壁溝が巡る。床面はⅥ・Ⅶ層を掘り込み構築されていて、比較的平坦である。

【柱穴・施設】柱穴が８基、土坑が１基検出された。主柱穴は確認できなかった。

【カマド】検出できなかった。

【出土遺物】土師器甕、土師器坏、須恵器甕、炉壁、炉内滓、流動滓、再結合滓が堆積土から出土した。うち、土師器甕１点、土師器坏１点、須恵器甕１点を図示した。147-04は土師器坏で、内面黒色処理が施されている。

【小結】出土遺物から、平安時代10世紀後半以降に構築され廃絶したと考えられる。　(久保)

第77号竪穴建物跡(SI77)　(図51･147、写真44･113)

【位置・確認】VJ・VK163・164グリッドに位置する。Ⅵ層で検出した。

【重複】第37・55・56号竪穴建物跡と重複しており、本遺構は第55号竪穴建物跡より古く、第37・56

号竪穴建物跡より新しい。

【平面形・規模】東西・南北軸5.2mを測り、方形を呈すると考えられる。検出面からの深さは66㎝である。本遺構の東側は、調査区外に位置する。

【堆積土】９層に分層した。褐色土と暗褐色土を主体とする。１層は混入物が少なく自然堆積と考えられ、２～９層はロームブロックを多量に含み、人為堆積と考えられる。

【壁・床面】壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。床面はⅥ・Ⅶ層を掘り込み構築されていて、比較的平坦である。

【柱穴・施設】柱穴は検出できなかった。

【カマド】検出できなかった。

【出土遺物】土師器坏、須恵器甕、炉壁が堆積土から出土した。うち、土師器坏１点、須恵器甕１点を図示した。147-06は土師器坏で、内面黒色処理が施されている。

【小結】出土遺物から、平安時代10世紀後半以降に構築され廃絶したと考えられる。　　（久保）

第78号竪穴建物跡(SI78)

発掘調査時は第78号竪穴建物跡として精査したが、精査の結果、第１号井戸跡(SE01)に振替、欠番とした。

第79号竪穴建物跡(SI79)　(図65･66･147･162、写真56･57･113･118･120)

【位置・確認】VB・VC175・176グリッドに位置する。Ⅴ・Ⅵ層で検出した。精査中に焼土と炭化物が多量に確認されたため、焼失住居と認定した。

【重複】第80号竪穴建物跡と重複しており、本遺構が新しい。

【平面形・規模】6.6×5.9mを測り、方形を呈する。検出面からの深さは18㎝である。

【堆積土】19層に分層した。暗褐色土を主体とする。７・８・18層は貼床である。全体的に焼土ブロックと炭化物が混入する。

【壁・床面】壁は遺構上面が削平されているため、確認し難い。東側の一部を除き壁溝が巡る。溝が東側で二重、西側で三重になっていることから、２～３回の建て替えを行っていると考えられる。床面はⅤ・Ⅵ・Ⅶ層を掘り込み構築されていて、比較的平坦である。北壁付近の床面に西側の開口する方形状の浅い掘り込みがあり、その南側の一部に溝がみられる。火床面などが検出されていないため、カマドかは不明である。床面直上で炭化材が多数出土した。遺存状況はあまり良くない。西側の内側から２番目の壁溝までで炭化物の出土が止まることから、先に1番外側の壁溝に壁がある建物が存在し、建て替えにより東側にずらした後、廃絶したと考えられる。炭化材の一部で樹種同定を行ったところ、アスナロとクリという結果が得られた。

【柱穴・施設】柱穴が30基、土坑が１基検出された。主柱穴は確認できなかった。

【カマド】検出できなかった。

【出土遺物】土師器甕、土師器坏、土師器ミニチュア土器、土師器埚、須恵器壺、釘、鈴、炉壁、炉内滓、流動滓、含鉄遺物、砥石が堆積土から出土した。うち、土師器甕３点、土師器坏３点、土師器埚１点、土師器ミニチュア土器１点、須恵器壺１点、鈴１点を図示した。147-10は土師器甕で、他と

比較して小型である。147-14は土師器のミニチュア土器で、欠損しているため全体形状は不明だが、内外面にナデを施している。162-15は鈴で、下半のみの出土である。薄手で、詳細は不明であるが、鐃であった可能性がある。

【小結】出土遺物から、平安時代10世紀前半以降に構築され廃絶した可能性がある。　（久保）

第80号竪穴建物跡(SI80)　(図65･66･148、写真56･57･114)

【位置・確認】VC175グリッドに位置する。Ⅴ・Ⅵ層で検出した。

【重複】第79号竪穴建物跡と重複しており、本遺構が古い。

【平面形・規模】東西・南北軸3.9mを測り、方形を呈すると考えられる。検出面からの深さは12cmである。

【堆積土】３層に分層した。黒褐色土を主体とする。全体的にロームブロックや炭化物などの混入物がみられることから、人為堆積と考えられる。

【壁・床面】壁は遺構上面が削平されているため、確認し難い。残存する全ての壁際に壁溝が巡る。床面はⅤ・Ⅵ・Ⅶ層を掘り込み構築されていて、比較的平坦である。

【柱穴・施設】柱穴は７基検出された。Pit1・7は建物の角に配置されている。

【カマド】検出できなかった。

【出土遺物】土師器坏、須恵器甕、炉内滓が堆積土から出土した。うち、須恵器１点、須恵器鉢１点を図示した。148-01は須恵器の底部である。内面に炭化物が付着している。

【小結】重複関係から、平安時代10世紀前半以前に構築され廃絶した可能性がある。　（久保）

第81号竪穴建物跡（SI81）(図67・148・162、写真58・118)

【位置・確認】ＶＬ･Ｎ165 ･166グリッドに位置する。第Ⅰ層上面で検出した。当初SI81･82の2軒の重複と考えたが、調査進行により1軒のものと判断した。

【重複】第32･33･91号土坑と重複し、第33･91号土坑より新しく、第32号土坑より古い。

【平面形・規模】東西軸6.3m･南北軸6.2mを測り、正方形を呈する。検出面からの深さは18cmである。

【堆積土】暗褐色土を主体とする。ロームブロックを含む人為堆積である。

【壁・床面】壁はほぼ垂直に立ち上がる。床面はやや傾斜し、凹凸を有する。

【柱穴・施設】全面で小Pitを検出した。SI81Pit7･8･40は主柱穴の可能性が有る。壁際に幅20～30cmの壁溝が見られる。

【カマド】未検出。

【出土遺物】土師器甕3点・坏1点、須恵器壺2点、刀子1点を図示した。他に鉄釘1点、炉壁･炉内滓･流動滓･椀形滓･銹化遺物が出土している。

【小結】出土遺物から平安時代10世紀後半以降の構築・廃絶と考えられる。　（永嶋）

第83号竪穴住居跡（SI83）(図68･69・148、写真58・114)

【位置・確認】ＶＫ・Ｌ166～168グリッドに位置する。第Ⅰ層上面で検出した。

【重複】第85号竪穴住居跡と重複し、本遺構が新しい。
【平面形・規模】主軸4.9m、横軸5.9mの横長の隅丸長方形を呈する。検出面からの深さは60cmを測る。
【堆積土】黒褐色土と褐色土を主体に、ロームブロックの混入が目立ち、人為堆積と考えられる。
【壁・床面】壁は底面から垂直に立ち上がる。Ｖ層を掘り込み床としている。床はほぼ平坦である。
【柱穴・施設】小ピットを数基検出した。カマド構築部を除き、全壁際に幅20～30cmの壁溝とその中に壁柱穴が見られる。
【カマド】東壁の北寄りに半地下式のカマドを確認した。両袖共に安山岩を３～４個並べて立てて芯材とし、粘土で袖と天井部と煙道を構築していた。煙道の幅は60cm程度で、煙道から火床面の長さは1.9mほどを確認した。焚き口右袖寄りに土師器底部転用の支脚が設置されたままになっていた。
【出土遺物】土師器5点、須恵器甕2点を図示した。炉壁と炉内滓も出土した。　（永嶋）

第85号竪穴建物跡（SI85）（図68･70・149、写真59・114）

【位置・確認】ＶＪ･Ｋ166・167グリッドに位置する。第Ｉ層上面で検出した。
【重複】第82･86号竪穴住居跡と重複し、第82号竪穴建物に次いで新しい。
【平面形・規模】東西軸3.1m、南北軸2.8mのほぼ正方形を呈する。検出面からの深さは12cmと浅い。
【堆積土】にぶい黄褐色土を主体にする。覆土上位に第82号竪穴建物跡の貼床が形成されている。
【壁・床面】壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。Ｖ層を掘り込み床としている。床はやや凹凸を有する。
【柱穴・施設】床面中央や壁際で数基の小Pitを検出した。主柱相当のものは確認出来なかった。幅10～25cmの壁溝が各壁際に見られるが、北西隅付近では確認出来なかった。床面中央付近に袖を有する火床面が検出された。
【カマド】明確に壁際に構築されたカマドは確認出来なかった。しかし前述の床面中央部の袖付の火床面が確認された。更に南西隅のSI86火床面2としたものはあるいは、この竪穴建物跡に伴うカマド火床面の可能性も残る。
【出土遺物】土師器甕3点、坏3点を図示した。炉壁、炉内滓、流動滓、流出孔滓、含鉄遺物、銹化遺物が出土している。
【小結】重複する第83号竪穴建物跡や出土遺物から、平安時代10世紀後半以降の構築・廃絶と考えられる。　（永嶋）

第86号竪穴建物跡（SI86）（図68･71・図149、写真59・114）

【位置・確認】ＶＪ・Ｋ166･167グリッドに位置する。
【重複】第85･88号竪穴住居跡と重複し、第85号竪穴建物跡に続いて新しい。
【平面形・規模】主軸3.3m・横軸3.1mを測る。北西隅部分と西壁上端のみ残存していた。北壁は第86号竪穴建物跡に破壊されていた。検出面からの深さは36cmである。
【堆積土】記録なし。

【壁・床面】壁は底面から緩やかにに立ち上がる。床面はⅤ層を掘り込み構築され、やや凹凸を有する。

【柱穴・施設】壁柱穴が数基検出された。

【カマド】東壁北寄りに半地下式のカマドを検出した。左袖は第86竪穴建物跡に破壊されており、火床面と右袖および煙道の一部のみ検出された。

【出土遺物】土師器甕1点を図示した。炉壁･炉内滓･流動滓･含鉄遺物も出土している。

【小結】重複関係や堆積土、出土遺物から、平安時代10世紀後半以降に構築され廃絶したと考えられる。（永嶋）

第87号竪穴建物跡（SI87）（図72・149、写真59）

【位置・確認】ＶＩ・Ｊ166･167グリッドに位置する。

【重複】重複なし。

【平面形・規模】東西軸2.4m・南北軸2.9mを測り長方形を呈する。検出面からの深さは12㎝である。

【堆積土】黒褐色土を主体とする。

【壁・床面】壁は僅かな立ち上がりのみ確認した。床面はⅥ層を掘り込み、やや凹凸を有する。

【柱穴・施設】壁柱穴と幅10～20㎝の壁溝が一部で確認された。

【カマド】未検出。

【出土遺物】土師器甕1点、須恵器甕1点を図示した。炉壁･炉内滓･流動滓･砂鉄焼結塊･含鉄遺物･銹化遺物も出土してる。

【小結】出土遺物や覆土の特徴から、平安時代10世紀後半以降に構築され廃絶したと考えられる。（永嶋）

第88号竪穴建物跡（SI88）（図68･71・149、写真59）

【位置・確認】ＶＪ166･167グリッドに位置する。

【重複】第86･88号竪穴住居跡と重複し、本竪穴建物跡が古い。

【平面形・規模】第85号竪穴建物構築時にほとんど削平されており、南西側の壁溝のみが残存した状態で規模等は不明である。

【堆積土】記録なし。

【壁・床面】壁は残存せず、床面も僅かな残存であった。

【柱穴・施設】南西側に幅20㎝の壁溝が確認された。壁際に縄文時代晩期の埋設土器が検出された。

【炉】未検出である。

【出土遺物】縄文時代晩期土器初頭の台付深鉢がPitより1点出土した。

【小結】出土遺物から、縄文時代晩期初頭の竪穴建物跡が僅かに残存したものと考えられる。（永嶋）

第91号竪穴建物跡（SI91）（図73～75・149・164、写真60・114・119）

【位置・確認】ＶＧ～Ｉ167～169グリッドに位置する。第Ⅵ層上面で検出した。カマドが付設された東壁外側にPit群と土坑が検出されており、当竪穴建物跡に付属する建物跡を構成していた可能性が

ある。

【重複】第94･97号竪穴住居跡と重複し、当竪穴建物跡が古い。

【平面形・規模】主軸方向は8.2ｍであるが、横軸方向に2回の拡張が確認され、当初SI91pit16－20を結んだラインを北壁とする現存横軸8.0m、その後北側のSI91Pit7－14ラインへと0.9m拡張し、その後更にSI91Pit15－1～5を結ぶラインへと0.9m拡張されており、最終的には現存横軸9.8mの長方形の大型竪穴建物跡となる。また東壁外に分布するPit群も横軸方向の拡張痕のような分布を示している、竪穴建物跡は検出面からの深さ47cmを測る。

【堆積土】暗褐色土を主体にする。粘土の混入が目立ち、人為堆積とみられる。

【壁・床面】壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。Ｖ層を掘り込んだ床は平坦である。

【柱穴・施設】壁際に幅20cmの壁溝と壁柱穴を検出した。また長軸120cm･深さ60cmのSK94はこの竪穴建物跡内土坑と考えた。東外側に位置するSK98は当竪穴建物跡と軸方向を同じくすることから、付属建物内土坑の可能性が高い。

【カマド】３基の焼土面を検出し、それぞれカマド１～３としたが、袖部や煙道は見られなかった。

【出土遺物】土師器坏3点と把手付土器1点を図示した。製鉄関連遺物の出土が多く、炉壁･炉内滓･流動滓･椀形滓･流出孔滓･再結合滓･鉄塊系遺物･含鉄遺物･銹化遺物が出土しており、特徴的なものを図化した。

【小結】出土遺物から、平安時代10世紀後半以降の廃絶と考えられる。最低２回の拡張の跡が見られ、東側には付属建物跡が伴っていた可能性がある。（永嶋）

第94号竪穴建物跡（SI94）（図76～80・150・151・161・164、写真61・114・115・118）

【位置・確認】ＶＦ～Ｉ169～171グリッドに位置する。第Ｉ・Ｖ層上面で検出した。調査当初は第94･107号の２軒の竪穴建物跡と考えていたが、最終的には大型の１軒の竪穴建物跡であることが判明した。カマドが付設された東壁外側にPitと土坑が検出されており、当竪穴建物跡に付属する建物跡を構成していた可能性がある。

【重複】第91･97号竪穴住居跡と重複し、当竪穴建物跡が新しい。

【平面形・規模】主軸9.5m･現存横軸7.2m、検出面からの深さは30cm弱である。

【堆積土】黒褐色･暗褐色･にぶい黄褐色土を主体にする。ロームブロックの混入が目立ち、人為堆積とみられる。

【壁・床面】壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。Ｖ層を掘り込んだ床はやや凹凸をで有する。

【柱穴・施設】壁際に幅20cmの壁溝と壁柱穴を検出した。東壁沿いの壁溝は50cmの幅広となる部分もある。また長軸160cm･深さ40cmのSK97はこの竪穴建物跡内土坑と考えた。東外側に位置するSK138は当竪穴建物跡と軸方向を同じくすることから、付属建物内土坑の可能性がある。竪穴建物穴内に１基、付属建物内に３基の鍛冶炉を検出した（図80）。竪穴建物跡内鍛冶炉は長軸30cm弱の焼土面内に僅かな還元面が見られる。住居中央側に長軸50cmの掘り込みを伴い、一連のものと捉えた。付属建物内鍛冶炉１～３はそれぞれ、長軸20cm、12cm、30cmの焼土範囲が見られ、周縁部が赤色化し内側は黒色を帯びたものである。

【カマド】２基の焼土面を検出し、カマド１・２とした。カマド２のみ袖部が残存していた。

【出土遺物】竪穴建物跡出土遺物では、土師器甕1点･壷1点･坏1点･皿1点を図示した。竪穴建物跡内第141号土坑出土遺物は、土師器甕2点･壷1点･坏1点、同第143号土坑出土遺物は土師器甕1点･坏1点を図示した。鉄製品は釘2点･鏃2点が出土し、それぞれ1点ずつ図示した。製鉄関連遺物は、炉壁･炉内滓･流動滓･椀形滓･銹化遺物が出土した。

【小結】出土遺物から、平安時代10世紀後半以降の廃絶と考えられる。最低２回の拡張の跡が見られ、東側には付属建物跡が伴っていた可能性がある。（永嶋）

第96号竪穴建物跡（SI96）（図81、写真62）

【位置・確認】ＶＫ169･170グリッドに位置する。

【重複】西壁側に土坑様のふくらみが確認される。

【平面形・規模】東西軸3.2m･南北軸2.6ｍを測る。検出面からの深さは30㎝である。

【堆積土】記録なし。

【壁・床面】壁はほぼ垂直に立ち上がる。床面はⅥ層を掘り込み構築され、やや凹凸を有する。西壁に重複した土坑が存在した可能性がある。

【柱穴・施設】壁柱穴が僅かに確認された。

【カマド】未検出。

【出土遺物】土師器片等が出土したが、小片のため図示していない。

【小結】堆積土の状況から平安時代に構築され廃絶したと考えられる。（永嶋）

第97号竪穴建物跡（SI97）（図76～78・151）

【位置・確認】ＶＧ・Ｈ169～171グリッドに位置する。

【重複】第91･94号竪穴住居跡と重複し、第94号竪穴建物跡に続いて新しい。

【平面形・規模】現存東西軸6.2ｍ・現存南北軸1.3ｍを測る。北端のみ残存し、大部分を第94号竪穴建物跡に破壊されていた。検出面からの深さは20㎝である。

【堆積土】記録なし。

【壁・床面】壁は底面から緩やかにに立ち上がる。床面はＶ層を掘り込み構築され、やや凹凸を有する。

【柱穴・施設】幅20㎝と幅30を超える壁溝2条が見られる。壁柱穴と小Pitが数基検出された。

【カマド】未検出。

【出土遺物】土師器のミニチュア壺１点を図示した。その他、流動滓と銹化遺物も出土している。

【小結】重複関係や堆積土、出土遺物から、平安時代10世紀以降に構築され廃絶したと考えられる。（永嶋）

第101号竪穴建物跡（SI101）（図82・151、写真62）

【位置・確認】ⅣＵ･Ｖ184･185グリッドに位置する。

【重複】第102号竪穴建物跡、第２・３号井戸、第105号溝跡と重複し、本遺構が最も古い。

【平面形・規模】現存東西軸3.4ｍ・現存南北軸4.0ｍを測り、長方形を呈する。検出面からの深さは

10㎝以下であり、床面で確認した部分も多い。

【堆積土】黒褐色土を主体とし、ロームブロックを多く含む人為堆積である。

【壁・床面】西壁のみ僅かな立ち上がりのみ確認した。床面はⅥ層を掘り込んで構築され、平坦である。

【柱穴・施設】西壁沿いで壁柱穴が並んで確認された。

【カマド】未検出。

【出土遺物】土師器甕1点、須恵器壺1点を図示した。その他、炉壁と炉内滓も出土している。

【小結】出土遺物や遺構の特徴から、平安時代に構築され廃絶したと考えられる。　（永嶋）

第102号竪穴建物跡（SI102）（図82・151、写真62）

【位置・確認】ⅣＴ～Ｖ185･186グリッドに位置し、床面と壁溝の検出で本遺構を確認した。

【重複】第101号竪穴建物跡と第105号溝跡と第103号土坑と重複し、第101号竪穴建物跡に次いで古い。

【平面形・規模】東西軸5.1m・南北軸4.8mを測り、ほぼ正方形を呈する。床面で検出した。

【堆積土】記録なし。

【壁・床面】壁は確認出来なかった。床面はⅥ層を掘り込んで構築され、平坦である。

【柱穴・施設】西壁沿いで壁柱穴が並んで確認された。

【カマド】未検出。

【出土遺物】土師器甕底部1点を図示した。

【小結】出土遺物や遺構の特徴から、平安時代に構築され廃絶したと考えられる。　（永嶋）

第103号竪穴建物跡（SI103）（図83、写真62）

【位置・確認】ⅣＶ･W184･185グリッドに位置し、床面の検出で本遺構を確認した。

【重複】第101号竪穴建物跡と第106号溝跡と第２号井戸と重複し、第106号溝跡と第２号井戸跡より古いが、第101号竪穴建物跡との前後関係は不明である。

【平面形・規模】現存東西軸3.5m・南北軸2.4mを測る。床面で検出した。

【堆積土】Ⅳ層の床面と貼床のみ残存し、黒褐色土とロームブロックが混じった土が用いられていた。

【壁・床面】壁面は未検出である。床面は平坦である。

【柱穴・施設】南壁近くに長軸70㎝ほどの焼土範囲を検出した。

【カマド】未検出であるが、南壁近くの焼土範囲がカマド火床面であった可能性もある。

【出土遺物】土師器片等が出土したが小片のため図示していない。

【小結】遺構や堆積土の特徴から、平安時代の遺構と考えられる。　（永嶋）

第104A号竪穴建物跡（SI104A）（図84、写真62）

【位置・確認】ⅣＸ･Ｙ181･182グリッドに位置し、Ⅵ層上面で確認した。

【重複】第104B号竪穴建物跡と第106号竪穴建物跡と重複し、本遺構が最も新しい。

【平面形・規模】現存東西軸3.0m・南北軸4.8mを測る。
【堆積土】黒褐色土を主体とし、ロームブロックを多く含み、人為堆積と考えられる。
【壁・床面】壁面はほぼ垂直に立ち上がり、床面は平坦である。。
【柱穴・施設】未検出。
【カマド】未検出。
【出土遺物】土師器片等が出土したが小片のため図示していない。
【小結】遺構や堆積土の特徴から、平安時代の遺構であり、第104B号竪穴建物跡を拡張したものと考えられる。（永嶋）

第104B号竪穴建物跡（SI104B）（図84、写真62）

【位置・確認】ⅣＸ・Ｙ181･182グリッドに位置し、Ⅵ層上面で確認した。
【重複】第104B号竪穴建物跡と第106号竪穴建物跡と重複し、第104A号竪穴建物跡に次いで新しい。
【平面形・規模】現存東西軸3.3m・南北軸3.0mを測る。
【堆積土】黒褐色土を主体とし、ロームブロックを多く含み、人為堆積と考えられる。
【壁・床面】壁面はほぼ垂直に立ち上がり、床面は平坦である。
【柱穴・施設】床面中央付近に長軸96cmの土坑(SI104BSK1)、壁際に幅25cmほどの壁溝を検出した。
【カマド】未検出。
【出土遺物】土師器片等が出土したが小片のため図示していない。
【小結】遺構や堆積土の特徴から、平安時代の遺構と考えられる。（永嶋）

第105号竪穴建物跡（SI105）（図85、写真62）

【位置・確認】ＶＤ177･178グリッドに位置し、Ⅵ層上面で確認した。
【重複】第122号溝跡と重複し、本遺構が古い。
【平面形・規模】現存部0.6×2.4mを測る。
【堆積土】黒褐色土を主体とし、ロームブロックを多く含み、人為堆積と考えられる。
【壁・床面】壁面はほぼ垂直に立ち上がり、床面は平坦である。
【柱穴・施設】未検出。
【カマド】未検出。
【出土遺物】土師器片等が出土したが小片のため図示していない。
【小結】遺構や堆積土の特徴から、平安時代の遺構と考えられる。（永嶋）

第106号竪穴建物跡（SI106）（図84、写真62）

【位置・確認】ⅣＸ181グリッドに位置し、Ⅵ層上面で確認した。
【重複】第104A・B号竪穴建物跡と重複し、最も古い。
【平面形・規模】現存部1.0×2.3mを測る。
【堆積土】黒褐色土を主体とし、ロームブロックを多く含み、人為堆積と考えられる。
【壁・床面】壁面はほぼ垂直に立ち上がり、床面は平坦である。

【柱穴・施設】未検出。
【カマド】未検出。
【出土遺物】土師器片等が出土したが小片のため図示していない。
【小結】重複した第104号竪穴建物跡や堆積土の特徴から、平安時代の遺構と考えられる。　（永嶋）

第111号竪穴建物跡(SI111)　(図86･151･162、写真63･64･115･118)

【位置・確認】ⅣX・Y179グリッドに位置する。Ⅴ・Ⅵ層で検出した。
【重複】第112・114号竪穴建物跡と重複しており、本遺構が古い。
【平面形・規模】残存部で4.9×3.8mを測り、方形を呈すると考えられる。検出面からの深さは12㎝である。本遺構の北東側は、調査区外に位置する。
【堆積土】後世の削平などにより、遺構上面の大部分が壊されていることから、堆積土により新旧を判断することができなかった。そのため、第111・112・113・114号竪穴建物跡の土層を合わせて13層に分層した。黒褐色土を主体とする。４・５・９層では、Ⅴ層由来のロームブロックが多く混入する。全体的にロームブロックや焼土ブロックなどの混入物がみられることから、人為堆積と考えられる。
【壁・床面】壁は遺構上面が削平されているため、確認し難い。西壁及び南壁の一部に壁溝が巡る。床面はⅤ・Ⅵ・Ⅶ層を掘り込み構築されていて、比較的平坦である。
【柱穴・施設】柱穴が27基、土坑が１基検出された。壁溝を掘り込み壁柱穴が並ぶ。主柱穴は確認できなかった。
【カマド】検出できなかった。
【出土遺物】土師器甕、土師器坏、須恵器壺、紡錘車、炉内滓、羽口が堆積土から出土した。うち、土師器甕１点、土師器坏２点、須恵器壺１点、紡錘車１点を図示した。151-11は須恵器壺、151-12は土師器甕で、いずれも刻書がみられる。162-９は紡錘車で、軸の大部分が欠損する。
【小結】出土遺物から、平安時代10世紀後半以降に構築され廃絶したと考えられる。　（久保）

第112号竪穴建物跡(SI112)　(図86･151、写真63･64･115)

【位置・確認】ⅣX179グリッドに位置する。Ⅴ・Ⅵ層で検出した。
【重複】第111・113・114号竪穴建物跡と重複しており、本遺構が新しい。
【平面形・規模】残存部で3.9×2.7mを測り、方形を呈すると考えられる。検出面からの深さは12㎝である。本遺構の南西側は、調査区外に位置する。
【堆積土】後世の削平などにより、遺構上面の大部分が壊されていることから、堆積土により新旧を判断することができなかった。そのため、第111・112・113・114号竪穴建物跡の土層を合わせて13層に分層した。黒褐色土を主体とする。４・５・９層では、Ⅴ層由来のロームブロックが多く混入する。全体的にロームブロックや焼土ブロックなどの混入物がみられることから、人為堆積と考えられる。
【壁・床面】壁は遺構上面が削平されているため、確認し難い。北壁に壁溝が巡る。壁の北側に壁溝と平行する溝が２条みられることから、建て替えを行った可能性があるが、詳細は不明である。床面はⅤ・Ⅵ・Ⅶ層を掘り込み構築されていて、比較的平坦である。

【柱穴・施設】柱穴は４基検出された。主柱穴は確認できなかった。
【カマド】検出できなかった。
【出土遺物】土師器坏、釘、炉壁、炉内滓、椀形滓、羽口が堆積土から出土した。うち、土師器坏２点を図示した。151-13・14は土師器坏で、いずれも外面に刻書がみられる。
【小結】出土遺物から、平安時代10世紀後半以降に構築され廃絶したと考えられる。　（久保）

第113号竪穴建物跡(SI113)　（図86、写真63･64）

【位置・確認】ⅣX179グリッドに位置する。Ⅴ・Ⅵ層で検出した。
【重複】第111・112・114号竪穴建物跡と重複しており、本遺構は第112号竪穴建物跡古く、第111・114号竪穴建物跡より新しい。
【平面形・規模】残存部で4.2×2.3mを測り、方形を呈すると考えられる。検出面からの深さは33cmである。本遺構の南東側は、調査区外に位置する。
【堆積土】後世の削平などにより、遺構上面の大部分が壊されていることから、堆積土により新旧を判断することができなかった。そのため、第111・112・113・114号竪穴建物跡の土層を合わせて13層に分層した。黒褐色土を主体とする。４・５・９層では、Ⅴ層由来のロームブロックが多く混入する。全体的にロームブロックや焼土ブロックなどの混入物がみられることから、人為堆積と考えられる。
【壁・床面】壁は遺構上面が削平されているため、確認し難い。西壁に壁溝が巡る。床面はⅤ・Ⅵ・Ⅶ層を掘り込み構築されていて、比較的平坦である。
【柱穴・施設】柱穴は15基検出された。主柱穴は確認できなかった。
【カマド】検出できなかった。
【出土遺物】なし。
【小結】重複関係から、平安時代10世紀後半以降に構築され廃絶したと考えられる。　（久保）

第114号竪穴建物跡(SI114)　（図86、写真63･64）

【位置・確認】ⅣX179グリッドに位置する。Ⅴ・Ⅵ層で検出した。
【重複】第111・112・113号竪穴建物跡と重複しており、本遺構は第112・113号竪穴建物跡古く、第111号竪穴建物跡より新しい。
【平面形・規模】残存部で2.7×1.3mを測り、方形を呈すると考えられる。検出面からの深さは18cmである。本遺構の南西側は、調査区外に位置する。
【堆積土】後世の削平などにより、遺構上面の大部分が壊されていることから、堆積土により新旧を判断することができなかった。そのため、第111・112・113・114号竪穴建物跡の土層を合わせて13層に分層した。黒褐色土を主体とする。４・５・９層では、Ⅴ層由来のロームブロックが多く混入する。全体的にロームブロックや焼土ブロックなどの混入物がみられることから、人為堆積と考えられる。
【壁・床面】壁は遺構上面が削平されているため、確認し難い。北壁に壁溝が巡る。床面はⅤ・Ⅵ・Ⅶ層を掘り込み構築されていて、比較的平坦である。

【柱穴・施設】柱穴は５基検出された。主柱穴は確認できなかった。
【カマド】検出できなかった。
【出土遺物】なし。
【小結】重複関係から、平安時代10世紀後半以降に構築され廃絶したと考えられる。　（久保）

第115号竪穴建物跡(SI115)

発掘調査時は第115号竪穴建物跡として精査したが、精査の結果、地山の落ち込みと判断し、欠番とした。

第116号竪穴建物跡（SI116）（図85、写真62）

【位置・確認】ＶＤ･Ｅ176グリッドに位置し、Ⅳ層上面で確認した。
【重複】第128号溝跡と重複し、本遺構が古い。
【平面形・規模】東西軸2.2m･南北軸3.9mを測る。
【堆積土】黒褐色土を主体とし、ロームブロックを多く含み、人為堆積と考えられる。
【壁・床面】壁面は緩やかにに立ち上がり、床面はやや凹凸を有する。
【柱穴・施設】壁柱穴を含む小Pitを多数検出した。
【カマド】未検出。
【出土遺物】土師器片等が出土したが小片のため図示していない。
【小結】遺構や堆積土の特徴から、平安時代の遺構と考えられる。　（永嶋）

第117竪穴建物跡（SI117）（図42・45、写真42）

【位置・確認】ＶＫ159･160グリッドに位置する。
【重複】第42･46号竪穴住居跡と重複する。第42号竪穴建物跡より古く、第46号竪穴建物跡との前後関係は不明である。
【平面形・規模】東西軸2.8m・現存南北軸2.0mを測る。検出面からの深さは24cmである。
【堆積土】記録なし。
【壁・床面】壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。床面Ｖ層を掘り込み構築されていて平坦である。
【柱穴・施設】南壁と西壁に幅20cm前後の周溝が見られる。
【カマド】残存しない。
【小結】重複関係や堆積土から平安時代10世紀後半以降に廃絶したと考えられる。　（永嶋）

２　掘立柱建物跡

第１号掘立柱建物跡(SB01)　（図87･152･172、写真65･115･120）

【位置・確認】ＶJ161グリッドに位置する。Ｖ・Ⅶ層で検出した。
【重複】第40号竪穴建物跡と重複しており、本遺構が古い。
【平面形・規模】４本柱建物の周囲に溝が巡る。柱穴は直径約36cm、深さ24～48cmの円形を呈する。柱間は東西3.3m×南北2.9mを測る。周溝は幅48cm、深さ18cmである。周溝の南西内側には、幅24

cm、深さ12cmの細い溝が確認され、溝の作り替えを行った可能性がある。
【出土遺物】須恵器甕、須恵器壺、有孔石製品が堆積土から出土した。うち、須恵器甕１点、須恵器壺２点、有孔石製品１点を図示した。152-02は須恵器甕で、外面はタタキ目がみられ、内面はナデによる調整がみられる。172-1は有孔石製品で、表裏面及び右側面を磨りにより平坦に仕上げている。形態から、縄文時代の所産であると考えられ、流れ込みの可能性がある。
【小結】重複関係から、平安時代10世紀後半以降に構築され廃絶したと考えられる。　（久保）

第２号掘立柱建物跡（SB02）（図88）
【位置・確認】ＶＫ・ＶＬ155グリッドに位置する。Ⅵ層で検出した。
【重複】なし。
【平面形・規模】２間×２間の総柱建物である。柱穴は直径約42cm、深さ12～36cmの円形を呈する。柱間は1.4mを測る。
【出土遺物】なし。
【小結】帰属時期の詳細は不明であるが、周辺の平安時代の竪穴建物跡と軸方向が同じであるため、同時期に存在していたと考えられる。　（久保）

第３号掘立柱建物跡（SB03）（図６）
【位置・確認】SD23の西の延長上、ＶＮ・ＶＯ-147～148グリッドに位置する。Ⅵ層で検出した。
【重複】なし。
【平面形・規模】5mの間に４基の柱穴が直線上に並ぶ。
【出土遺物】弥生土器片が１点出土した。
【小結】帰属時期の詳細は不明であるが、周辺の平安時代の竪穴建物跡と軸方向が同じであるため、同時期に存在していた可能性がある。　（永嶋）

３　製鉄関連遺構

第１号製鉄関連遺構（SS01）（図89･165、写真66）
【検出位置】ＶK163グリッドに位置する。Ⅵ層で検出した。
【重複】なし。
【規模と形状】長軸約111cm・短軸約54cmの歪な楕円形状を呈する。壁は緩やかに立ち上がる。検出面からの深さは９cmで、断面皿状を呈する。底面はほぼ平坦である。南北壁中央付近が被熱している。
【堆積土】３層に分層した。黒色土主体である。１層では焼土粒と鉄滓が多量に出土し、２層は炭化物が多量に出土した。３層は被熱している。
【出土遺物】手鎌、鏃、鐸？、炉壁、炉内滓、流動滓、再結合滓、含鉄遺物、銹化遺物が出土した。うち、炉壁１点、炉内滓２点、流動滓１点、再結合滓３点、含鉄遺物２点、銹化遺物２点を図示した。なお、本遺構の東側にあるSP1434は本遺構と一連の遺構である可能性があり、併せて図示した（165-１～11）。１は炉壁で、内面に錆が溶けきらずに付着している。２・３は炉内滓、５～７は再

結合滓で、ほぼ全面が錆に覆われている。その他、鉄製品が出土しているが、流れ込みと考えられる。

【小結】遺構の形状から、平安時代の製錬炉の底面と考えられる。（久保）

第２号鉄関連遺構（SS02）（図90～92・153・161・165・166・168、写真66～69・118・119）

【検出位置】ＶＩ165・166グリッドに位置する。Ⅵ層上面で、緩やかな斜面に対して等高線に直交して構築された当遺構を検出した。

【重複】なし。

【規模と形状】製鉄炉と前庭部で構成され、両者の掘方長軸は2.07ｍである。

［製鉄炉］ 掘方は長軸0.93m、短軸0.84mの楕円形を呈し、深さ0.33cmである。掘方底面は楕円状で壁面は斜めに緩やかに立ち上がる。炉の斜面下位東側には幅0.45cmの掘方開口部がみられ、南北方向に長軸をもつ前庭部が検出された。

楕円形の掘方掘削後に粘土を貼り付けて、斜面下位の前庭部側には直角の２隅を構築している。一部が残存していた斜面上位側は焼け面の状況から判断すると、幅を狭めて、やや突出するような形状と考える。斜面上側炉底部に還元面が確認された。前庭部側の粘土壁の上位には使用済の羽口（羽口5）を横方向に設置し、また南側の壁には３点の使用済の羽口（羽口1・2・4）を立てて、炉芯材として再利用されていた。なお調査時には羽口2に隣接して羽口3を確認していたが、整理段階で被熱した粘土塊であることが判明した。

［前庭部］ 製鉄炉の斜面下位の東側に位置し、楕円形を呈する。長軸1.14m、短軸1.71m、深さが0.57ｍである。底面はやや段を有するものの概ね平坦であり、製鉄炉側の壁はほぼ垂直に立ち、それ以外はやや傾斜を有して立ち上がる。

【堆積土】炉と前庭部で32層に分層したが、一部に土層の記録がない。黒色と黒褐色土主体である。焼土塊、粘土ブロック、鉄滓が多く混じっていた。

【出土遺物】内黒の土師器坏底部1点と須恵器壺1点を図示した。鉄製品は釘1本を図示し、他に棒状と不明鉄製品が1点ずつ出土している。前述した炉芯材とした4点を含め、6点の羽口が出土し、図化した。製鉄関連遺物は、炉壁･粘土質溶解物･炉内滓･流動滓･椀形滓･流出孔滓･再結合滓･砂鉄焼塊･含鉄遺物・銹化遺物などが多量に出土している。

【小結】使用済の羽口４点を炉芯材に転用した平安時代の製錬炉である。（永嶋）

第３号製鉄関連遺構（SS03）（図93・153・161・162・166・169、写真70・118・119）

【検出位置】ＶＪ・K164グリッドに位置する。Ⅵ層で検出し、当初製鉄炉と考えた。

【重複】なし。

【規模と形状】長軸約2.37ｍ・短軸約0.99ｍの歪な楕円形状を呈する。壁はやや垂直に立ち上がる部分と緩やかに立ち上がる部分がある。検出面からの深さは0.30ｍで、断面皿状を呈する。底面は凹凸を有する。

【堆積土】12層に分層した。黒褐色土主体である。焼土塊や炭化物、粘土塊が多く見られる。

【出土遺物】　土師器甕の口頸部片と土師器坏底部を図示した。鉄製品は釘1本と刀子1点が出土し、

共に図示した。製鉄関連遺物は、炉壁・炉内滓・流動滓・椀形滓・流出孔滓・再結合滓・鉄塊系遺物・含鉄遺物・銹化遺物が出土し羽口2点と共に多数図示した。

【小結】確認当初は製鉄炉と考えて調査を進めたが、進行後に平安時代の廃滓場であることが判明した。凹凸を有する掘方に周辺の製鉄炉で排出された製鉄関連遺物が廃棄されたものと考えられる。

４　井戸跡

第１号井戸跡（SE01）（図94･153･174、写真88･115･121）

【検出位置】VE175グリッドに位置する。第Ⅴ・Ⅵ層で検出した。

【重複】なし。

【規模と形状】長軸約3.9m、短軸約3.4mの円形状を呈する。壁は上部では緩やかに立ち上がり、中部では急斜になる。下部では中部より直径が一回り小さくなり、ほぼ垂直に立ち上がる。検出面からの深さは5.1mで、底面はほぼ垂直である。上部では、横穴状のPitが３基検出された。

【堆積土】14層に分層した。黒褐色土主体である。自然堆積と考えられ、崩落により土層がずれている箇所がみられる。拳大の礫が多数出土した。下層は湧水のため図化できなかったが、ロームブロックや炭化物などが多量に混入し、人為堆積と考えられる。

【出土遺物】土師器甕、土師器坏、土師器ミニチュア土器、須恵器甕、須恵器壺、釘、炉壁、炉内滓、流動滓、椀形滓、銹化遺物、木製品が堆積土から出土した。うち、土師器甕２点、土師器坏４点、土師器ミニチュア土器１点、須恵器甕１点、須恵器壺２点、木製品５点を図示した153-09・10は土師器坏で、内面黒色処理が施されている。153-11はミニチュア土器で、手づくねにより成形されており、坏型を呈する。174-１～４は棒状木製品で、１は片側端部が摩滅し丸みを帯びている。もう片側は木目と垂直方向に加工が加えられている。２・４も同じく端部が摩滅し、４には一部樹皮が残る。３は１と同様の木目と垂直方向の加工が行われている。５は板状木製品で、板材の角を削るように加工が行われている。

【小結】出土遺物から、平安時代10世紀後半以降に構築され廃絶したと考えられる。　（久保）

第２号井戸跡（SE02）（図94・153、写真88）

【検出位置】ⅣV185・186グリッドに位置する。

【重複】第101号竪穴建物跡と重複し、本遺構が新しい。

【規模と形状】長軸約2.1m、短軸約1.3mの楕円形状を呈する。円形の井戸と隅丸方形の前庭部で構成されている。井戸部分は上端が1.3m×1.3m、深さ１m、前庭部は上端0.7m×1.1m、深さ0.2と浅い。井戸の底は１辺0.5mほどの隅丸方形を呈し、西側へ向かって50°の角度で立ち上がり、東の前庭部側へは55°とやや急傾斜を為す。地下水位が高い地点であることから、調査時にも水が湧き出しており、前庭部に下りれば容易に水を汲むことが可能であったと考えられる。

【堆積土】黒褐色土を主体に、５層に分層した。

【出土遺物】回転糸切痕を有する土師器坏底部と須恵器壺頸部が出土した。

【小結】出土遺物より、周辺の遺構と同様に平安時代と考えられる。　（永嶋）

第３号井戸跡（SE03）（図94、写真89）

【検出位置】ⅣＵ184グリッドに位置する。

【重複】第101号竪穴建物跡と重複し、本遺構が新しい。遺構南側は攪乱によって破壊されている。

【規模と形状】現存する上端は隅丸長方形を呈し、長軸1.3m、短軸0.8m、深さは0.7mである。底面は0.4×0.6mの隅丸長方形を呈し、ほぼ垂直に立ち上がり、中端より斜め上方へと傾斜を有する。第２号井戸同様に水位が高い地点であることから、調査時にも湧水が多く見られ、満水状態であった。

【堆積土】黒色土を主体に、３層に分層した。

【出土遺物】なし。

【小結】遺物出土はなかったが、覆土の状況から周辺の遺構と同様に平安時代と考えられる。（永嶋）

第４号井戸跡（SE04）（図94・153、写真89・115）

【検出位置】ⅣＰ186グリッドに位置する。

【重複】なし。

【規模と形状】掘方は一辺約1.2mの隅丸方形状を呈する。板状のクリ材を用い上面で方形の井戸枠を構築している。下位には隅柱・桟木・縦板等は見られない。地下水位が高い地点であることから、調査時にも多くの水が湧き出ていた。

【堆積土】湧水により上位のみの記録となったが、黒褐色土主体の３層を確認した。

【出土遺物】土師器甕の小片が出土したが、図示していない。また銹化遺物1点も出土した。

【小結】出土遺物より、平安時代と考えられる。当遺構堆積土中からは多様な植物遺体が得られ、井戸稼働期および埋没過程の周辺環境や当時の栽培植物等が類推できるデータが得られた。第４章第５節に詳しい。（永嶋）

５　土坑（図95～106・154～155、写真71～87・115・116）

82基を土坑として報告する。大部分の土坑が本遺跡の主要時期を占める平安時代後半期のものであると考えられるが、出土遺物が無く詳細時期についての判断を保留し、帰属時期不明としたものも多い。また単独の土坑として調査したものでも、その後住居内施設（土坑）や掘立柱建物跡を構成する柱穴としたものは、ここでは触れないものが多く、主に帰属遺構の中で報告した。また各担当者が手持ちの遺構番号を用いて、土坑番号を命名していったことから、使用せずに欠番となったものも多い。

本遺跡で土坑としたものは、大きく縄文時代と平安時代のものであり、時期別、形態別に概要を述べて、各遺構の法量等は表にて記載した。

①　縄文時代のフラスコ状土坑

縄文時代のフラスコ状土坑としたものは、第１･28･30･78･149号土坑の５基である。いずれも断面がフラスコ形を呈し、貯蔵穴と捉えられるものである。

５基のうち２基は詳細時期の想定が可能であったが、残りの３基は不明である。

第30号土坑は、底面に縄文時代晩期初頭の小型深鉢２点が置かれたような状態で出土している。本来貯蔵穴であったフラスコ状土坑が、墓に転用された可能性もある。

第78号土坑は、直径２m、深さも1.5mを超す大型のものである。覆土より僅かに出土した縄文時代後期前葉のやや大型の土器片から、それ以前のものと判断した。

第149号土坑は第78号土坑と同一グリッド内で近接しており、同様の時期の可能性もある。

第28号土坑は斜面下位の平坦面という立地は、第30号土坑に共通する。第１号土坑は１基のみ西側の斜面部において確認されたもので、小型であることから縄文時代後晩期におさまるだろう。

②　平安時代の土坑

上記の縄文時代の土坑５基を除いた77基の大部分は平安時代の可能性が高い。柱穴様のもの、楕円形、円形、隅丸方形のものに大別される。そのうち方形のものには、一定の傾向がうかがえる。

Y軸163ライン以東に、竪穴建物跡に隣接した方形の土坑が目に付く。第32・33・41・42・82・94・135・137・142号土坑が相当し、内外において建物跡と同一方向を指向するもので、無関係とは考えにくい。特に第32・33・41・42号土坑は、僅かに重複するが整然と並んでおり、建物跡に近接して意図的な配置がなされたように見える。第79・91・94号竪穴建物跡の内側やカマドが付設する東壁外側にも方形や長方形の土坑が付くのも特徴的である。

第17号竪穴建物跡西壁に隣接し、軸方向をほぼ同じくする第14号土坑は、楕円形を呈しあたかも縄文時代の楕円形の土坑墓のような形態を見せる。　（永嶋）

６　溝跡（図107～117・156～157・161・169、写真90～101・114・118・119）

53条の溝跡を報告する。全ての溝に、帰属時期を示す良好な遺物出土があったわけではない。しかし、平安時代の遺構群と同様の堆積土で埋まっており、また平安時代の遺構と同じ主軸方向を有するものも多いことから、ほぼ全てが当遺跡の主体を占める平安時代後半期に帰属するものと考えた。

中でも、区画施設と考えられるもの、他の施設の一要素であるものが目に付き、その他のものは性格を明らかにすることは出来なかった。

ここでは特徴的な溝跡の概要を述べ、各遺構の法量等については、表にて記載した。他の遺構同様に、使用しなかった溝跡番号が残り、欠番が多く生じた。

①　区画施設と考えられるもの（SD02・12・13・14・15・18・19・22など）。

本遺跡では10世紀から11世紀代と考えられる集落跡を検出した。

調査区の西端部では、幅約2.5mの大型のSD02（第２号溝跡）が検出された。調査区の丘陵頂部のやや西側を南北に25mにわたって走り、南北共に調査区外へと続く。壁は底面より急斜に立ち上がり、上位では緩やかとなる。平坦な底面には、掘削時の工具痕が多数検出されている。堆積土の観察により、人為堆積ではなく自然に埋没したことがわかる。当遺構以西の斜面部には、平安時代の遺構は皆無である。このことから丘陵頂部を含む壕以東の集落を、西側と分断する目的の「壕」と考えられる。

集落内の平安時代の竪穴建物の多くは同一区域内で、数度にわたる建替えがなされており、重複した建物跡の集中が数箇所において確認された。

溝跡の中には、これらの竪穴建物群を区画するような配置を示すものがある。調査区西側の丘陵部を東西に走る幅30cmほどのSD12は、溝跡の中にピットが連続しており、柱列を何らかの素材で繋ぐ塀のような構造物が存在したのであろう。SD12は第22号竪穴建物跡によって壊されるが、それ以前は

土坑番号	位置	重複	平面形	断面形	長軸長	短軸長	深さ	出土遺物	時期・その他
SK001	Ⅴ N135	なし	円形	一部フラスコ状	150	120	78	鉄関連遺物（覆土）	1～4層：自然堆積、5～10層：人為堆積、縄文時代のフラスコ状土坑
SK003	Ⅴ K151	SI7 ＜本遺構	円形	不正形	90	78	36		平安時代以降
SK004	Ⅴ J151 Ⅴ K151	SI7 ＜本遺構	楕円形	方形状	66	42	12		人為堆積。平安時代以降
SK005	Ⅴ K152	SP515 ＜本遺構	楕円形	皿状	108	81	33	土師器	帰属時期不明
SK014	Ⅴ L149 Ⅴ M149	なし	長楕円形	歪な逆台形状	174	96	30		SI16･17と同軸であり、平安時代の可能性
SK016	Ⅴ L149 Ⅴ L150	本遺構＜SI 17	長楕円形	歪な皿状	216	150	36		
SK019	Ⅴ M151 Ⅴ N151	SI 22 内土坑	円形	皿状	90	78	18		平安時代
SK020	Ⅴ j159	SD21 ＜本遺構	楕円形	逆三角形	66	54	36		帰属時期不明
SK021	Ⅴ J157 Ⅴ J158	SI 25 ＜本遺構	隅丸長方形	皿状	108	90	9		帰属時期不明
SK022	Ⅴ K157	なし	不正円形	逆台形状	132	120	36		帰属時期不明
SK023	Ⅴ M152 Ⅴ M153 Ⅴ N152 Ⅴ N153	なし	円形	方形状	93	84	33	鉄関連遺物	帰属時期不明
SK024	Ⅴ I158 Ⅴ I159 Ⅴ J158	なし	隅丸方形	不正形状	150	120	36		帰属時期不明
SK025	Ⅴ L156 Ⅴ L157	なし	長楕円形	方形状	150	84	66		帰属時期不明
SK026	Ⅴ I160	小 Pit より古い	円形	長方形状	114	114	30		帰属時期不明
SK027	Ⅴ Q155	なし	隅丸長方形	長方形状	186	120	24		帰属時期不明
SK028	Ⅴ P159	なし	不正円形	フラスコ状	96	96	72		帰属時期不明
SK029	Ⅴ Q154 Ⅴ R154	本遺構＜ SI52B	不正円形	不正形	210	168	48		帰属時期不明
SK030	Ⅴ J160 Ⅴ K160	なし	円形	フラスコ状	186	162	42	縄文時代晩期初頭の完形深鉢2点出土。	完形土器2点出土。縄文時代晩期初頭期の墓の可能性。
SK031	Ⅴ K165 Ⅴ K166	本遺構＜ SP734	円形	長方形状	156	144	24	鉄関連遺物	帰属時期不明
SK032	Ⅴ L166	SI 81 ＜本遺構＜ SK33	隅丸長方形	長方形状	144	108	30		平安時代の可能性
SK033	Ⅴ L166	SI 81 ＜ SK32 ＜本遺構	隅丸方形	長方形状	132	114	24	鉄関連遺物	平安時代の可能性
SK041	Ⅴ K166 Ⅴ L166	なし	隅丸長方形	長方形状	162	132	36	土師器、鉄関連遺物	平安時代の可能性
SK042	Ⅴ K166	SI85 ＜本遺構	隅丸長方形	長方形状	156	132	30	須恵器、鉄関連遺物	平安時代の可能性
SK061	Ⅴ O150 Ⅴ P150	本遺構＜ SI24	長楕円形	方形状	75	66	12		帰属時期不明
SK062	Ⅴ Q151	なし	円形	逆台形状	168	138	30		帰属時期不明
SK069	Ⅳ V185	SI 103 との前後関係不明	円形	皿状	78	72	9		帰属時期不明
SK078	Ⅴ R145 Ⅴ R146	なし	円形	フラスコ状土坑	210	170	160	縄文時代後期前葉の土器片、土師器	縄文時代後期前葉のフラスコ状土坑
SK080	Ⅴ L160 Ⅴ L161 Ⅴ M160 Ⅴ M161	本遺構＜ SD19	円形	皿状	159	147	12		帰属時期不明
SK081	Ⅴ M160	本遺構＜ SD19	円形	皿状	102	90	21		帰属時期不明
SK082	Ⅴ L162 Ⅴ L163 Ⅴ M162 Ⅴ M163	なし	隅丸方形	逆台形状	144	120	33		帰属時期不明
SK083	Ⅴ J161･ Ⅴ K161	SP1455・1456 ＜本遺構＜ SP1451 ～ 1454	隅丸方形	逆台形状	99	78	27	須恵器、鉄関連遺物（覆土）	帰属時期不明
SK084	Ⅴ N162	ＳＫ 85 ＜本遺構	楕円形	皿状	162	96	42		人為堆積後、自然堆積。帰属時期不明
SK085	Ⅴ N162	本遺構＜ＳＫ 85	円形	方形状	150	132	66	土師器	自然堆積，帰属時期不明
SK086	Ⅴ O162	SK88 ＜本遺構	隅丸方形	逆台形状	93	60	21		自然堆積，帰属時期不明
SK087	Ⅴ I160	本遺構＜ SI53	隅丸方形	方形状	198	198	36	土師器	平安時代
SK088	Ⅴ O162	本遺構＜ＳＫ 86	隅丸方形	皿状	66	48	15	鉄関連遺物（覆土）	帰属時期不明
SK089	Ⅴ H165 Ⅴ I165	SK90 ＜本遺構	円形	皿状	81	72	12		自然堆積，帰属時期不明
SK090	Ⅴ I165	本遺構＜ＳＫ 89	円形	台形状	72	63	12		帰属時期不明
SK091	Ⅴ M165 Ⅴ M166	SI81 内土坑の可能性	不正長方形	歪な皿状	150	96	30		
SK094	Ⅴ H168	SI91 内土坑	隅丸方形	逆台形状	138	114	30	鉄関連遺物	平安時代
SK095	Ⅴ H173	なし	円形	長方形状	78	72	18		帰属時期不明
SK098	Ⅴ I169	本遺構＜ SP1486	隅丸方形	方形状	114	99	36	鉄関連遺物（覆土）	帰属時期不明
SK099	Ⅴ A178	SP1478 ＜本遺構	円形	皿状	87	87	18		帰属時期不明
SK100	Ⅴ A176 Ⅴ A177	なし	不正円形	皿状	108	75	27		帰属時期不明
SK101	Ⅳ V186	なし	楕円形	方形状	78	60	24		帰属時期不明
SK102	Ⅳ T183	小 Pit より古い新しい	楕円形	逆三角形＋方形	90	72	30		帰属時期不明
SK103	Ⅳ U185 Ⅳ U186	SI102 ＜本遺構	楕円形	皿状	276	198	30	土師器、鉄関連遺物	SK08 との前後関係不明。帰属時期不明。
SK104	Ⅳ R188	なし	楕円形？	逆台形状	96	36	36		帰属時期不明

土坑番号	位置	重複	平面形	断面形	長軸長	短軸長	深さ	出土遺物	時期・その他
SK106	Ⅳ Q185 Ⅳ R184 Ⅳ R185	なし	不正楕円形	長方形状	204	180	36	土師器、須恵器	帰属時期不明
SK107	Ⅳ T185	なし	楕円形	不正形	78	48	18		帰属時期不明
SK108	Ⅳ U185	Sk103 との前後関係不明	半円形	長方形状	66	54	18		帰属時期不明
SK109	Ⅳ U187	なし	円形	逆台形状	66	54	66		帰属時期不明
SK110	Ⅳ W186	小 Pit との前後関係不明	円形	不正形	72	72	48		φ 18cm の柱痕有り
SK111	Ⅳ V186 Ⅳ W186	なし	不正円形	椀形	60	54	30		帰属時期不明
SK112	Ⅳ V186	小 Pit との前後関係不明	不正形	不正形	66	54	30		帰属時期不明
SK113	Ⅳ V186 Ⅳ V187	なし	半円形	長方形状	114	54	42		帰属時期不明
SK114	Ⅳ Q185	なし	楕円形	隅丸長方形状	60	36	42	土師器	帰属時期不明
SK115	Ⅳ Q187 Ⅳ R187	なし	楕円形	フラスコ状	126	120	36		帰属時期不明
SK117	Ⅳ W186	なし	円形	方形状	54	54	36	土師器	帰属時期不明
SK118	Ⅳ W186	なし	隅丸方形	方形状	42	42	18		帰属時期不明
SK119	Ⅳ W187	なし	楕円形	逆三角形状	42	30	30		帰属時期不明
SK121	Ⅳ W186	なし	円形	方形状	42	36	30		柱穴、帰属時期不明
SK122	Ⅳ Q189	なし	隅丸方形	長方形状	30	24	42		柱穴、帰属時期不明
SK123	Ⅴ A180	なし	隅丸方形	歪な長方形状	96	84	30		帰属時期不明
SK124	Ⅳ Y180	本遺構＜ SK125	隅丸方形	歪な方形状	42	36	18		帰属時期不明
SK125	Ⅳ Y180	SD125･SK124 ＜本遺構	隅丸方形	不正形	90	60	36		帰属時期不明
SK126	Ⅴ E172 Ⅴ F172	なし	円形	方形状	48	48	30		帰属時期不明
SK127	Ⅴ F174 Ⅴ F175	なし	円形	皿状	190	156	24	土師器、鉄関連遺物	帰属時期不明
SK128	Ⅴ J170 Ⅴ J171	なし	不正楕円形	不正形	138	120	36	鉄関連遺物	帰属時期不明
SK129	Ⅴ K169	なし	隅丸方形	片フラスコ状	102	90	24		帰属時期不明
SK130	Ⅴ J169 Ⅴ K169	なし	円形	方形状	54	54	48	土師器	柱痕 24cm 有り。帰属時期不明。
SK131	Ⅴ K169 Ⅴ L169	なし	隅丸方形？	逆三角形状	126	48	60		帰属時期不明
SK132	Ⅴ J171	なし	楕円形	不正形	114	48	48		帰属時期不明
SK135	Ⅴ B176 Ⅴ B177	本遺構＜ SX９	隅丸方形	方形状	150	150	39	土師器	帰属時期不明
SK136	Ⅳ Y177 Ⅳ Y178 Ⅴ A177 Ⅴ A178	SP1487 ＜本遺構	隅丸方形	逆台形状	87	87	39	土師器	帰属時期不明
SK137	Ⅴ B177	なし	楕円形	皿状	183	126	48	須恵器	帰属時期不明
SK140	Ⅴ K168 Ⅴ L168	本遺構＜風倒木	不明	椀状？	174	54	36	縄文時代晩期初頭土器。土師器。	Btm 堆積の風倒木痕より古い。平安時代以前。
SK142	Ⅴ G170 Ⅴ G171 Ⅴ H170 Ⅴ H171	SI94 に隣接	隅丸長方形	皿状	186	144	18	土師器、鉄関連遺物	帰属時期不明
SK145	Ⅴ H171	なし	隅丸長方形	皿状	144	60	18		帰属時期不明
SK146	Ⅴ B176	なし	隅丸方形	逆台形状	84	84	33		帰属時期不明
SK148	Ⅴ E174	なし	円形	長方形状	78	78	24		帰属時期不明
SK149	Ⅴ R146	なし	楕円形	フラスコ状	120	96	72		縄文時代の可能性有り。近くに縄文時代後期前葉の SK78 有り。

遺構名	位置	重複	断面形	長さ（m）	横幅（m）	深さ（cm）	出土遺物	時期その他
SD002	ⅤK～ⅤS-140・141	なし	逆台形状	28	2.5	96～126	土師器、須恵器、鉄関連遺物（覆土）、石器	平成９年度に弘前市教委が一部トレンチ調査し、「掘跡」と報告。底面で掘削工具痕を多数検出。自然堆積。平安時代。
SD003	ⅤL-146	なし	逆台形状	3.2	0.25	6		平安時代
SD004	ⅤJ163 ⅤJ164	本遺構＜SD19	逆台形状	6.3	0.4	6		平安時代
SD005	ⅤJ162　ⅤK162	なし	逆台形状	4	0.2	3		平安時代
SD006	ⅤM164	本遺構＜SP714	皿状	2.1	0.2	9		自然堆積、平安時代
SD009	ⅤD174　ⅤD175 ⅤD176　ⅤE175 ⅤE176	SI78＜本遺構＜SD128	逆台形状	4.7	0.6	9		平安時代
SD010	ⅣY177　ⅤA177 ⅤB177	SK137＜本遺構＜SP1165・1166	皿状	7.8	0.7	18	須恵器、鉄関連遺物（覆土）	自然堆積、平安時代
SD011	ⅤN146	本遺構＜SP38・67	皿状	2	0.5	6		平安時代
SD012	ⅤM146　ⅤN146 ⅤN147　ⅤN148 ⅤN149　ⅤN150 ⅤO150　ⅤO151	本遺構＜ＳＩ22	方形状	20	0.3	30	土師器	SD13と一連のもの、平安時代
SD013	ⅤO152　ⅤO153 ⅤO154　ⅤO155	本遺構＜ＳＩ22	方形状	14.8	0.4	30	鉄関連遺物	SD12と一連のもの、平安時代
SD014	ⅤJ157　ⅤK156 ⅤK157　ⅤL156 ⅤL157　ⅤM156 ⅤN156　ⅤO156 ⅤP155　ⅤP156	なし	方形状	26.4	.0.4	24	越州窯青磁片、土師器、須恵器、鉄製品	溝中に柱穴を伴う。SD15と平行し、SD13・18とは直交する。平安時代。
SD015	ⅤJ157　ⅤK157 ⅤL156　ⅤL157 ⅤM156　ⅤN156 ⅤO156　ⅤP156	ＳＩ50との前後関係不明	方形状	28.3	0.6	30	鉄製品	ＳＤ14と平行。平安時代
SD017	ⅤP151　ⅤQ150 ⅤQ151　ⅤR150	SI62A・I62C＜本遺構	逆台形状	7.8	0.4	12		平安時代
SD018	ⅤK153　ⅤK154 ⅤK155　ⅤK156 ⅤL155　ⅤL156	なし	逆台形状	12.2	0.5	18		平安時代
SD019	ⅤP・Q-157、ⅤO・P-158、ⅤN・O-159、ⅤM・N-160、ⅤK・L-161、ⅤK-16	SI40・44・45、SK80・81、SD04、SX07＜本遺構	方形状	66	0.9	12	土師器、鉄関連遺物（覆土）	平安時代以降
SD020	ⅤR151	なし	逆台形状	2.1	0.2	12		平安時代
SD021	ⅤI159　ⅤJ159 ⅤK159	ＳＩ46＜本遺構＜SK22	皿状	7.1	2.2	12	土師器	平安時代
SD022	ⅤＮ149 ⅤＯ149～151	本遺構＜SI22	逆台形状	7.6	0.4	12		SD12と平行する溝。西延長上に柱穴が並ぶ。平安時代。
SD023	ⅤF162・163	なし	逆台形状	1.3	0.5	18		平安時代以降
SD025	ⅤG168　ⅤG169	本遺構＜SI91・94	逆台形状	2	0.7	24	鉄製品	平安時代
SD028	ⅣW185	SI103＜本遺構	逆台形状	1.6	2.4	12		平安時代以降
SD031	ⅤG171　ⅤG171 ⅤG172	SI94＜本遺構	半円状	5.5	0.3	18		平安時代以降
SD034	ⅣW185	SI103	不明	0.9	―	―		平安時代以降
SD071	ⅣV185　ⅣV186	本遺構＜ＳＩ102	皿状	3.9	0.8	24		平安時代
SD085	ⅣT187	なし	逆台形状	2	0.3	18		平安時代の可能性
SD086	ⅣT187	なし	逆三角形状	0.8	0.3	12		SD102と平行に走る。
SD101	ⅣR187　ⅣR188 ⅣS188	SD103＜本遺構	逆台形状	6.3	0.5	30	土師器、須恵器、鉄関連遺物	平安時代の可能性
SD102	ⅣS186　ⅣS187 ⅣT186　ⅣT187	なし	皿状	7.6	0.5	6		平安時代の可能性
SD103	ⅣR187　ⅣR188	本遺構＜SD101	底面平坦な逆三角形状	2.7	0.4	30		平安時代の可能性
SD104	ⅣT186　ⅣU184～186、ⅣV185	SI101・102＜本遺構＜SK103	逆台形状	.7.0	0.3	18		途切れる箇所有り、平安時代
SD105	ⅣU185　ⅣU186	SI101・102＜本遺構＜SK103	逆台形状	4.2	0.2	6		平安時代の可能性
SD106	ⅣV183・184、ⅣW184～186、ⅣX186	ＳＩ103＜本遺構	逆台形状	17.1	0.4	12		平安時代以降
SD107	ⅣQ185	本遺構＜SK106	椀状	1.8	0.8	30		平安時代以降
SD109	ⅣU186、ⅣV186	SI103＜本遺構	隅丸方形状	1.2	0.2	12		平安時代以降
SD110	ⅣV186　ⅣV187	本遺構＜SI102	底面平坦な逆三角形状	4.5	0.2	24		平安時代
SD111	ⅣN188	小Pit群より古い	逆三角形状	2.5	0.5	12		平安時代の可能性

遺構名	位置	重複	断面形	長さ（m）	横幅（m）	深さ（cm）	出土遺物	時期その他
SD112	Ⅳ O191　Ⅳ P191	なし	皿状	4.9	0.4	6		平安時代の可能性
SD113	Ⅳ O191　Ⅳ P191	なし	逆三角形状	1.8	0.3	12		平安時代の可能性
SD114	Ⅳ N192　Ⅳ N193 Ⅳ O192　Ⅳ O193	SD115 ＜本遺構＜ SD118	皿状	4	1.8	18	鉄関連遺物	平安時代の可能性
SD115	Ⅳ M193　Ⅳ N193	本遺構＜ SD114	長方形状	6	0.2	12		平安時代の可能性
SD116	Ⅳ K93　Ⅳ L192 Ⅳ 193	SD117 ＜本遺構	皿状	6.9	1.7	24	土師器	平安時代の可能性
SD117	Ⅳ K193　Ⅳ L192 Ⅳ L193　Ⅳ M192 Ⅳ M93	本遺構＜ SD116	皿状	4.2	1.7	10		平安時代の可能性
SD118	Ⅳ K193　Ⅳ L193 Ⅳ M192　Ⅳ M193 Ⅳ N192　Ⅳ O192	SD114・117 ＜本遺構	逆三角形状	14.6	0.2	18		平安時代の可能性
SD119	Ⅳ M191	なし	逆台形状	2.6	0.2	6		平安時代の可能性
SD120	Ⅳ L191	なし	逆台形状	0.6	0.2	6		平安時代の可能性
SD121	Ⅳ X180・181 Ⅳ Y180　Ⅳ Y181	SD125・ＳＩ 105 ＜本遺構	長方形状	3.8	0.9	30	土師器	人為堆積、平安時代の可能性
SD122	Ⅴ C178　Ⅴ C179 Ⅴ D178	SD125 ＜本遺構	半円状	5.7	0.8	42		円形周溝の可能性有り、SD122-1 層はマウンド層の可能性も。主体部は未検出、調査区外に存在か？
SD123	Ⅴ B179	SD124 ＜本遺構	逆台形状	1.5	0.2	12		平安時代の可能性
SD124	Ⅴ B179　Ⅴ B180	本遺構＜ SD123	長方形状	5.9	0.6	24	鉄関連遺物	人為堆積、平安時代の可能性
SD125	Ⅳ X180　Ⅳ Y180	SK125　SD121	長方形状	4.2	1.4	42	土師器	人為堆積、平安時代の可能性
SD126-1	Ⅴ E173　Ⅴ E174 Ⅴ F174　Ⅴ G174 Ⅴ G175	なし	逆台形状	9.4	0.5	24		平安時代の可能性
SD128	Ⅴ D176　Ⅴ E175 Ⅴ E176　Ⅴ F175	SD129 ＜本遺構＜ SI116	皿状	10.4	1	12	土師器、須恵器、鉄製品、鉄関連遺物	人為堆積、平安時代の可能性
SD129	Ⅴ D174 ～ 176 ⅤＥ 176	SD128	皿状	6.4	0.6	12		平安時代の可能性

SD13に繋がり、他のSD14・15、17、18と共に、各戸敷地の境界を区切ったものと考えられる。

丘陵が東へ向かって標高を下げ、傾斜がやや平坦となった所に、SI41・42、SI57などの竪穴建物群が構築されている。それらも数度にわたる建替えの痕跡が見られ、一定期間この区域を占有したことが想定される。SD14・15は、これらの住居群と同一方向に南北に平行に走る溝である。やや幅広の40cmほどの溝中に、柱穴が連続する部分があり、丘陵部と斜面下位の建物群を隔てる意図が感じられる。このSD14からは、９世紀末葉～10世紀中葉の生産とされる越州窯系の青磁皿の口縁部片が土師器片と共に、出土した。

④　他の施設の一部のもの（SD102・122）

SD102は、壁溝を全周有する第102号竪穴建物跡と隣接しており、あるいは同様に住居床面を欠した建物跡の壁溝の可能性がある。

SD122は幅80cmほどの弧状の溝である。弧状溝の内側にはマウンドの可能性があるSD126-1層が堆積しており、あるいは推定直径5.5mほどの円形周溝を構成する可能性がある。大部分が調査区外へと伸びており、主体部様の土坑は未検出であった。（永嶋）

７　性格不明遺構

第１号性格不明遺構（SX01）（図118、写真100）

【検出位置】Ｖ0142・143グリッドに位置する。Ⅵ層で検出した。

【重複】なし。

【規模と形状】長軸約3.7m・短軸約1.5mの楕円形状を呈する。壁は緩やかに立ち上がる。検出面からの深さは15cmで、断面皿状を呈する。底面はほぼ平坦である。

【堆積土】５層に分層した。暗褐色土主体である。崩落土や流入土による自然堆積と考えられる。

【出土遺物】土師器等が出土したが、小片のため図示しなかった。

【小結】帰属時期の詳細は不明であるが、軸方向が周辺の遺構と同じであることから、平安時代と考えられる。（久保）

第２号性格不明遺構（SX02）

発掘調査時は第２号性格不明遺構として精査したが、精査の結果、製鉄関連遺構と判明したため、第１号製鉄関連遺構（SS01）に振替、欠番とした。

第３号性格不明遺構（SX03）

発掘調査時は第３号性格不明遺構として精査したが、精査の結果、製鉄関連遺構と判明したため、第２号製鉄関連遺構（SS02）に振替、欠番とした。

第４号性格不明遺構（SX04）

発掘調査時は第４号性格不明遺構として精査したが、精査の結果、製鉄関連遺構と判明したため、第３号製鉄関連遺構（SS03）に振替、欠番とした。

第５号性格不明遺構（SX05）（図118・158、写真102）

【検出位置】ＶＨ171・172、ＶＩ171グリッドに位置する。Ⅵ層で検出した。

【重複】北東側は現代の耕作によって削平されている。

【規模と形状】長軸約5.1ｍ・短軸約1.1ｍの東側を開口した隅丸長方形を呈する。壁は垂直に立ち上がる。検出面からの深さは10㎝で、底面は全体に凹凸を有する。

【堆積土】黒褐色土に浮石や焼土が混じっていた。

【出土遺物】底部を欠く土師器坏片を１点図示した。

【小結】底面の凹凸の状況や出土した遺物から、平安時代の竪穴建物跡の掘方部分の可能性がある。

（永嶋）

第７号性格不明遺構（SX07）（図118、写真103）

【検出位置】ＶＮ・Ｏ158・159に位置する。Ⅵ層で検出した。

【重複】第57・58号竪穴建物跡、第19号溝跡と重複し、第19号溝跡の次に本遺構が新しい。

【規模と形状】長軸約3.3ｍ・短軸約1.0ｍの隅丸長方形状を呈する。短軸側の壁は緩やかに立ち上がり、長軸側はほぼ垂直に立ち上がる。検出面からの深さは60㎝で、断面は箱形を呈する。底面はほぼ平坦である。

【堆積土】６層に分層した。褐色土主体であり、炭化物や焼土粒を少量含む。

【出土遺物】なし。

【小結】帰属時期の詳細は不明であるが、覆土の特徴から平安時代と考えられる。また、形状から炭窯の可能性がある。（永嶋）

第９号性格不明遺構（SX09）（図118、写真85）

【検出位置】ⅣY177・178グリッドに位置する。Ⅴ・Ⅵ層で検出した。

【重複】第136号土坑と重複しており、本遺構が新しい。

【規模と形状】長軸約2.6ｍ・短軸約1.5ｍの歪な楕円形状を呈する。壁はほぼ垂直に立ち上がる。検出面からの深さは27㎝で、断面方形状を呈する。底面はほぼ平坦である。

【堆積土】１層に分層した。黒褐色土である。比較的大ぶりなロームブロックなどが混入し、人為堆積と考えられる。

【出土遺物】土師器等が出土したが、小片のため図示しなかった。

【小結】重複関係から、平安時代10世紀後半以降に構築され廃絶したと考えられる。（久保）

第21号性格不明遺構（SX21）（図118、写真103）

【検出位置】Ⅴ0144グリッドに位置する。Ⅵ層で検出した。

【重複】第９号竪穴建物跡と重複しており、本遺構が古い。

【規模と形状】長軸約４ｍ・短軸約１ｍの歪な楕円形状を呈する。壁は緩やかに立ち上がる。検出面からの深さは18㎝で、断面皿状を呈する。底面は丸底である。

【堆積土】２層に分層した。黒褐色土である。崩落土や流入土による自然堆積と考えられる。
【出土遺物】土師器等が出土したが、小片のため図示しなかった。
【小結】帰属時期の詳細は不明であるが、軸方向が周辺の遺構と同じであることから、平安時代と考えられる。（久保）

第22号性格不明遺構（SX22）（図119）

【検出位置】Ｖ0144グリッドに位置する。Ⅵ層で検出した。本遺構は、平成９年度の弘前市教育委員会による調査で、一部トレンチ調査が行われており、第６号住居跡として報告されている。
【重複】第９号竪穴建物跡と重複しており、本遺構が古い。
【規模と形状】残存部で長軸約2.6m・短軸約60㎝の長方形状を呈する。壁は緩やかに立ち上がる。検出面からの深さは12㎝で、断面皿状を呈する。底面は丸底である。
【堆積土】弘前市教育委員会調査によると、上層が黒褐色土、下層が暗褐色土の２層に分層されている。
【出土遺物】土師器等が出土したが、小片のため図示しなかった。
【小結】帰属時期の詳細は不明であるが、軸方向が周辺の遺構と同じであることから、平安時代と考えられる。（久保）

第89号性格不明遺構（SX89）（図119）

【検出位置】ⅣＴ187グリッドに位置する。Ⅵ層で検出した。
【重複】なし。
【規模と形状】長軸約96㎝・短軸約72㎝の隅丸長方形状を呈する。壁は段を有して緩やかに立ち上がる。検出面からの深さは18㎝で、底面はほぼ平坦である。
【出土遺物】なし。
【小結】帰属時期の詳細は不明であるが、周辺遺構同様に平安時代の可能性がある。（永嶋）

第90号性格不明遺構（SX90）（図119）

【検出位置】ⅣＴ187グリッドに位置する。Ⅵ層で検出した。
【重複】なし。
【規模と形状】長軸約66㎝・短軸約60mの歪な形を呈する。壁は一部垂直であるが、他は緩やかに立ち上がる。検出面からの深さは24㎝で、底面はほぼ平坦である。
【出土遺物】なし。
【小結】帰属時期の詳細は不明であるが、周辺遺構同様に平安時代の可能性がある。（永嶋）

第112号性格不明遺構（SX112）（図119・158、写真104）

【検出位置】ⅣW186・187グリッドに位置する。Ⅵ層で検出した。
【重複】東側を現代の攪乱によって欠する。
【規模と形状】長軸約2.2m・短軸約1.9mであり、本来は隅丸方形あるいは隅丸長方形を呈するもの

と考えられる。壁はほぼ垂直に立ち上がる。検出面からの深さは30㎝で、断面箱形を呈する。底面は平坦である。

【堆積土】３層に分層した。暗褐色土主体であり、ロームブロックの混入が多く、人為堆積と考えられる。

【出土遺物】覆土の上位で、土師器甕の底部片と須恵器甕の胴部片が出土した。粘土質溶解物も出土した。

【小結】出土遺物より、平安時代と考えられる。（永嶋）

第113号性格不明遺構（SX113）（図119・158，写真104）

【検出位置】ＶＡ179グリッドに位置する。Ⅵ層で検出した。

【重複】なし。

【規模と形状】一辺約2.5ｍのやや歪な隅丸方形を呈する。壁はほぼ垂直立ち上がる。検出面からの深さは20～30㎝で、底面はほぼ平坦である。

【堆積土】６層に分層した。黒色土主体であり、ロームブロックを多く含んでおり、人為堆積と考えられる。

【出土遺物】覆土中より、土師器甕の底部破片が出土した。

【小結】出土遺物より、平安時代と考えられる。（永嶋）

第114号性格不明遺構（SX114）（図119、写真104）

【検出位置】ⅣＸ180グリッドに位置する。Ⅵ層で検出した。

【規模と形状】長軸約1.1ｍ・短軸約0.8ｍの楕円形状を呈する。壁は緩やかに立ち上がる。検出面からの深さは18㎝で、断面椀状を呈する。底面はほぼ平坦である。

【堆積土】周辺部と共にロームブロックを多く含む黒褐色土が堆積していた。

【出土遺物】なし。

【小結】帰属時期の詳細は不明であるが、覆土の特徴より平安時代と考えられる。また周辺部と同じ堆積土で埋まっており、本来は周辺を含めたより大きな遺構であったと考えられる。（永嶋）

第115号性格不明遺構（SX115）（図119、写真104）

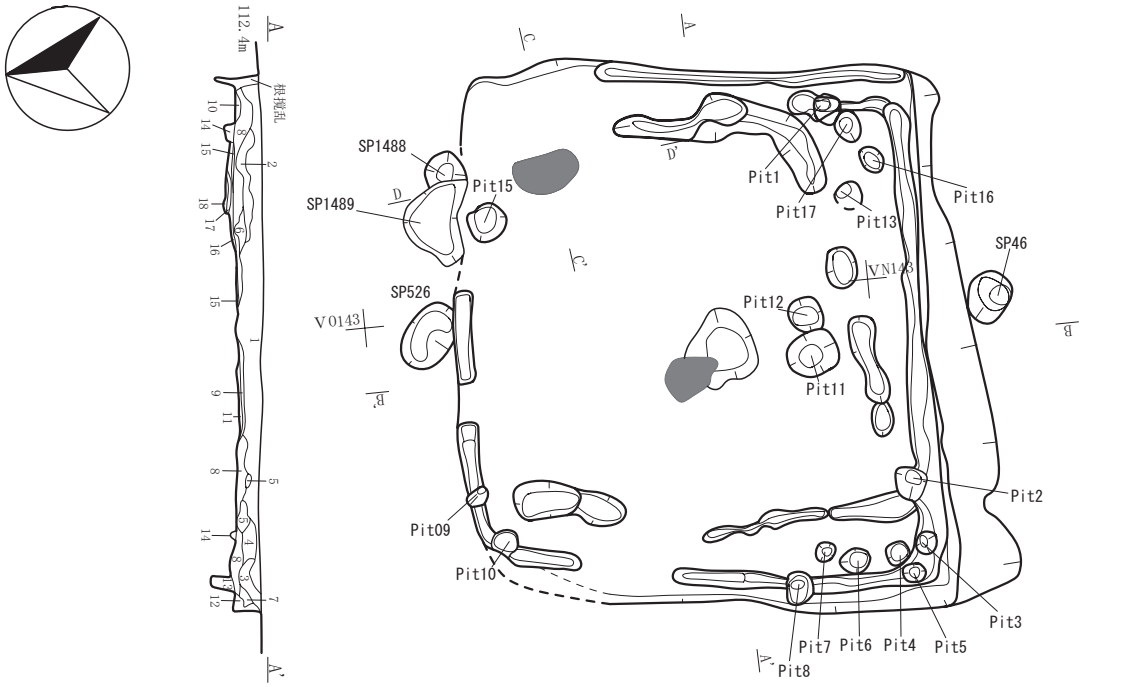
【検出位置】ⅣＸ180グリッドに位置する。Ⅵ層で検出した。

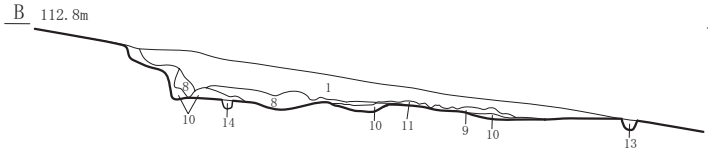
【重複】なし。

【規模と形状】長軸約1.9ｍ・短軸約0.5ｍである。検出面からの深さは12㎝で、断面箱形を呈する。底面はほぼ平坦である。

【出土遺物】なし。

【小結】帰属時期の詳細は不明であるが、周辺遺構と同様に平安時代と考えられる。（永嶋）





火床面範囲

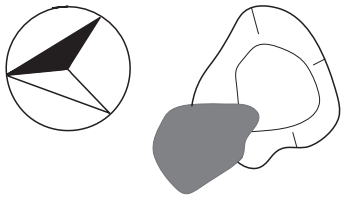
0　2m

1/60

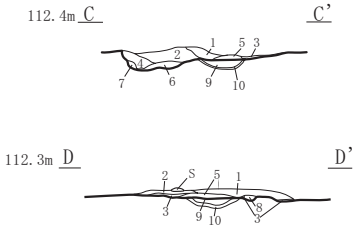
SI01

1層　10YR4/4褐色土　Ⅴ層由来ロームブロック(φ1～3mm)3%　炭化物(φ～1mm)1%
2層　10YR4/3にぶい黄褐色土　Ⅶ層由来ロームブロック(φ1～10mm)3%　炭化物(φ～5mm)1%
3層　10YR5/4にぶい黄褐色土　Ⅴ層由来ロームブロック(φ～5mm)1%　粘土ブロック(φ～100mm)80%
4層　10YR4/3にぶい黄褐色土　Ⅴ層由来ロームブロック(φ1～80mm)20%　炭化物(φ1～3mm)1%
5層　10YR5/4にぶい黄褐色土　Ⅴ層由来ロームブロック(φ～2mm)1%　粘土ブロック(φ1～50mm)50%
6層　10YR4/3にぶい黄褐色土　Ⅴ層由来ロームブロック(φ1～3mm)3%
7層　10YR5/6黄褐色土　Ⅴ層由来ロームブロック(φ1～50mm)70%
8層　10YR4/4褐色土　Ⅴ層由来ロームブロック(φ1～5mm)1%
9層　10YR3/4暗褐色土　炭化物(φ～1mm)80%
10層　10YR4/3にぶい黄褐色土　Ⅶ層由来ロームブロック(φ1～100mm)60%
11層　10YR4/4褐色土　Ⅴ層由来ロームブロック(φ1～5mm)1%　鍛冶炉火床面
12層　10YR3/4暗褐色土　Ⅴ層由来ロームブロック(φ1～10mm)10%
13層　10YR5/4にぶい黄褐色土　Ⅴ層由来ロームブロック(φ～1mm)1%
14層　10YR3/3暗褐色土　炭化物(φ1～3mm)1%　浮石(φ1～3mm)1%
15層　10YR5/6黄褐色土　炭化物(φ1～2mm)1%　焼土ブロック(φ1～3mm)1%
16層　10YR4/2灰黄褐色土　Ⅴ層由来ロームブロック(φ1～3mm)3%　Ⅵ層由来ロームブロック(φ1～5mm)1%
　　炭化物(φ1～2mm)1%　焼土ブロック(φ1～3mm)1%　小礫(φ1～5mm)3%
17層　10YR5/4にぶい黄褐色土　粘土ブロック(φ5～10mm)3%
18層　10YR3/3暗褐色土　Ⅴ層由来ロームブロック(φ～1mm)1%

SI01鍛冶炉



SI01カマド



SI01カマド

1層　10YR5/3にぶい黄褐色土　炭化物(φ1mm～5cm)3%　焼土ブロック(φ1～3mm)1%
2層　10YR3/2黒褐色土　炭化物(φ1～5mm)1%　焼土ブロック(φ1mm～1cm)5%　天井の崩落土
3層　10YR3/3暗褐色土　炭化物(φ～1mm)1%　焼土ブロック(φ5～8mm)3%
4層　10YR2/2黒褐色土　炭化物(φ～1mm)1%
5層　5YR4/6赤褐色土　焼土
6層　10YR4/3にぶい黄褐色土　Ⅶ層由来のロームブロック(φ1～2mm)1%
7層　10YR3/3暗褐色土　Ⅶ層由来のロームブロック(φ～1mm)1%
8層　10YR3/2黒褐色土　炭化物(φ1～5mm)1%　焼土ブロック(φ1～2mm)1%
9層　10YR4/6赤褐色土　火床面
10層　10YR4/4褐色土　軽石(φ1～5mm)1%　火床面

火床面範囲

0　1m

1/30

図９　第１号竪穴建物跡

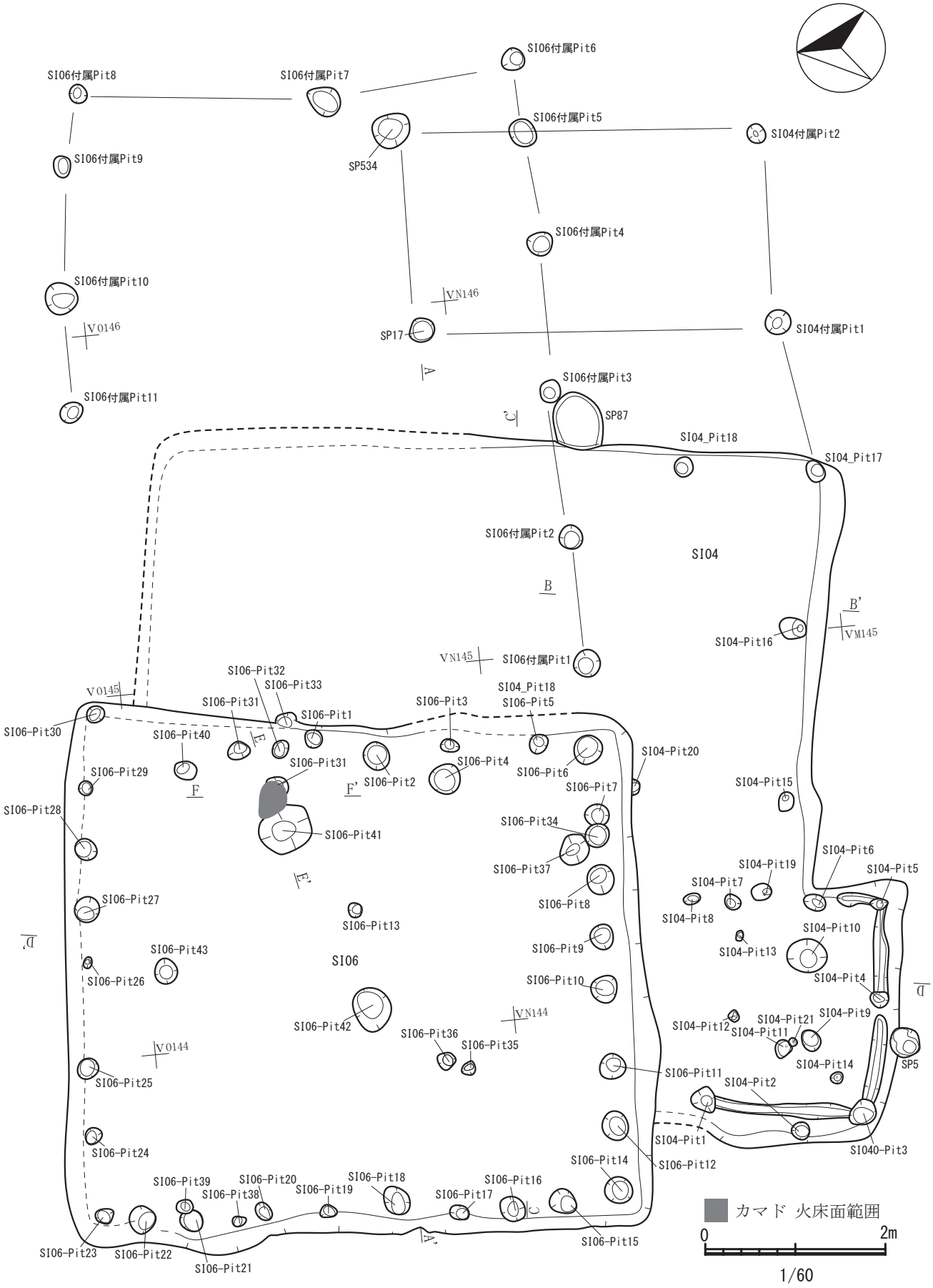
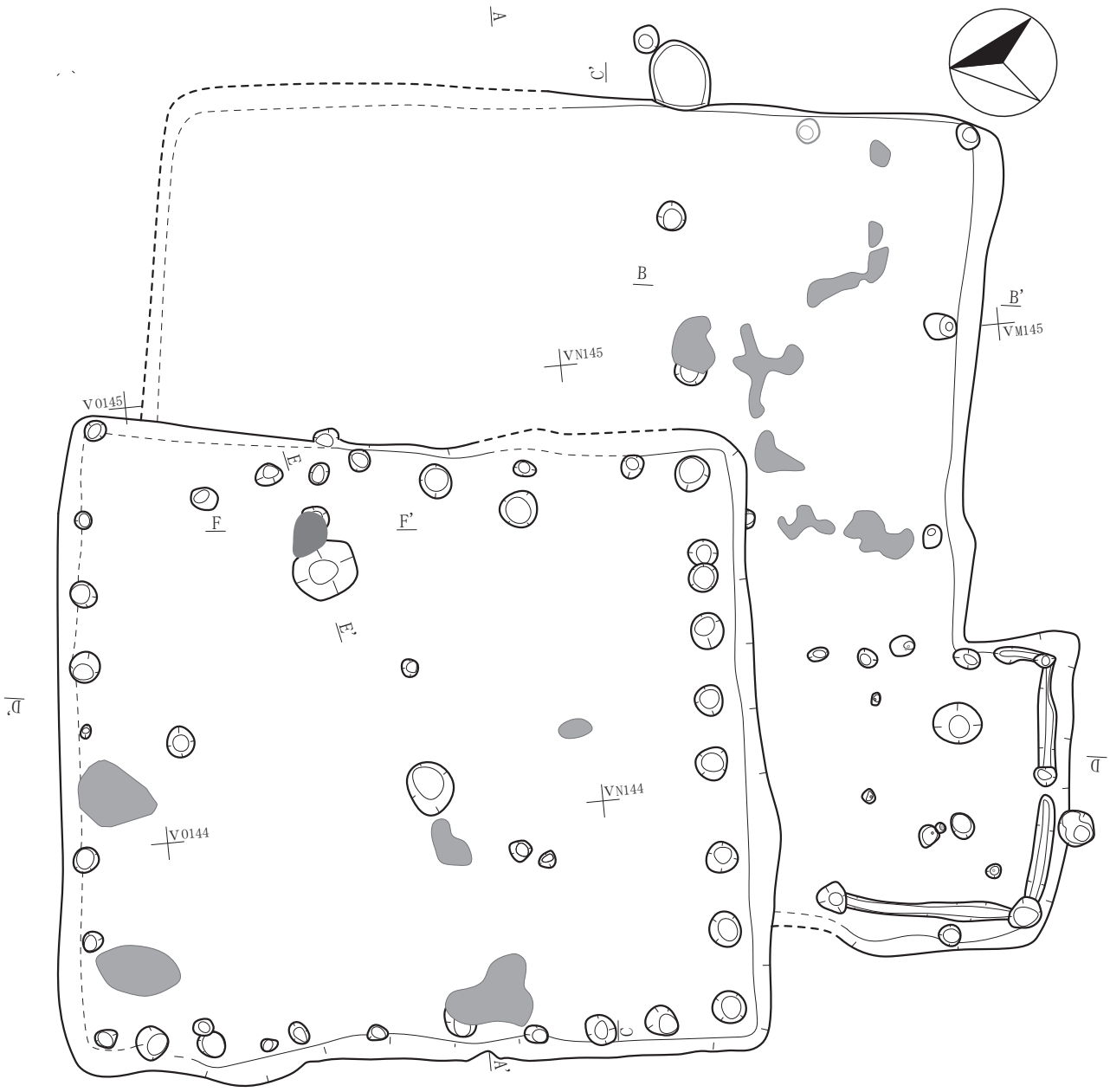
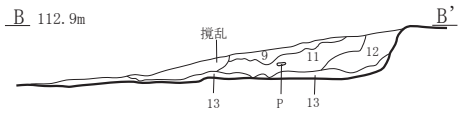


図10　第４・６号竪穴建物跡（１）





SI04

1層 10YR2/2黒褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ～1mm）1%
2層 10YR3/3暗褐色土
3層 10YR4/2灰黄褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～5mm）1% 炭化物（φ1～5mm）1%
焼土ブロック（φ1～5mm）1%
4層 10YR3/4暗褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～5mm）1% 炭化物（φ1～3mm）1%
焼土ブロック（φ1～3mm）1%
5層 10YR4/6 褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～10㎜）1% 炭化物（φ1～10）1%
焼土ブロック（φ1～15㎜）2%
6層 10YR5/4 にぶい黄褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～5㎜）3% 炭化物（φ1～15㎜）2%
焼土ブロック（φ1～3㎜）1% Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～20㎜）7%
7層 10YR5/4 にぶい黄褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～8㎜）1% 炭化物（φ1～8㎜）3%
8層 10YR5/3 にぶい黄褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～8㎜）1% 炭化物（φ1～5㎜）1%
9層 10YR3/4 暗褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～8㎜）1%
10層 10YR4/6 褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～8㎜）1%　炭化物（φ1～5㎜）3%
11層 10YR4/4 褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～8㎜）1%　炭化物（φ5～10㎜）7%
12層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～8㎜）1% 炭化物（φ1～5㎜）3%
13層 10YR3/4 暗褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～8㎜）1%

焼土範囲
カマド 火床面範囲
0　2m
1/60

図11　第４・６号竪穴建物跡（２）

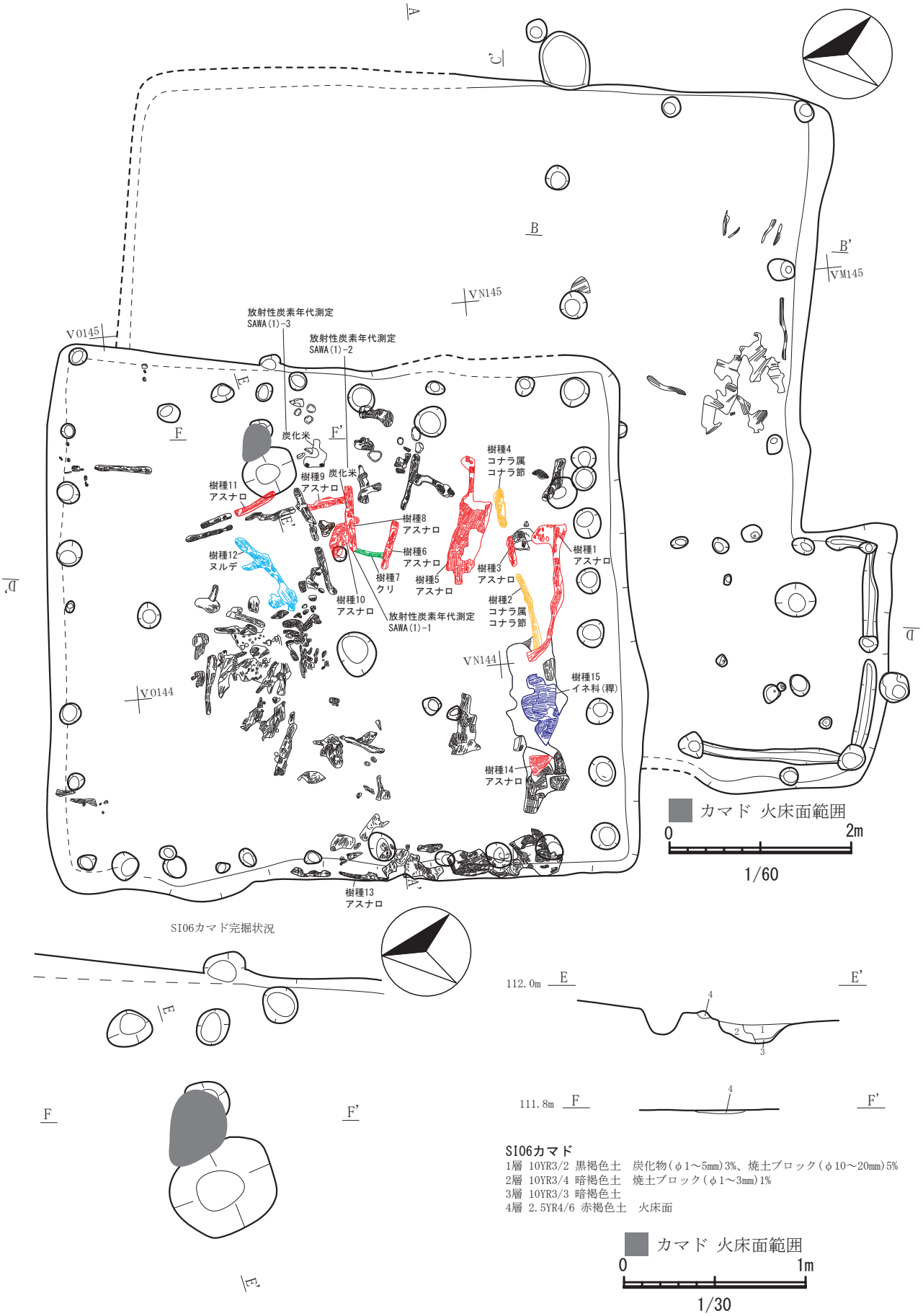
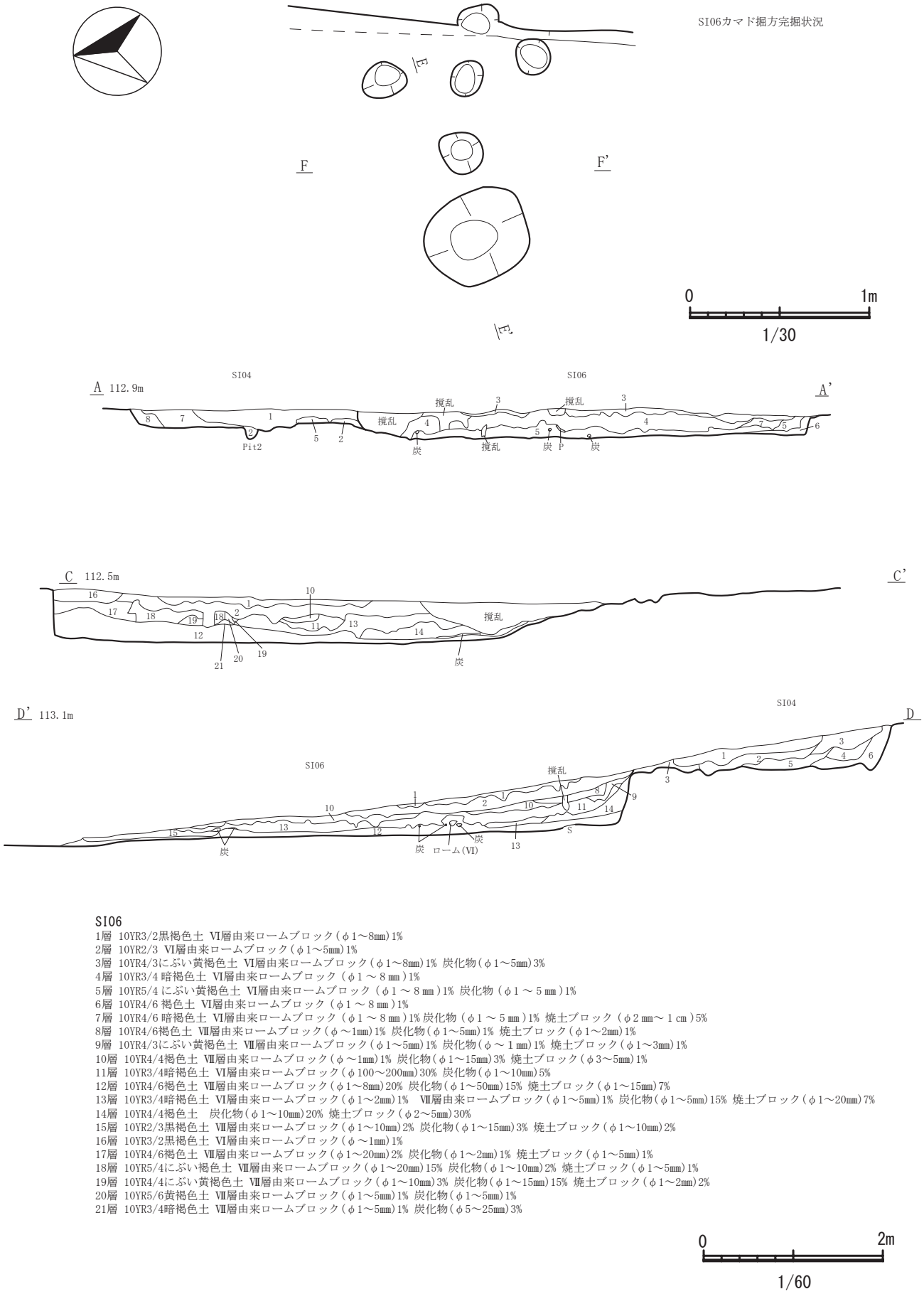


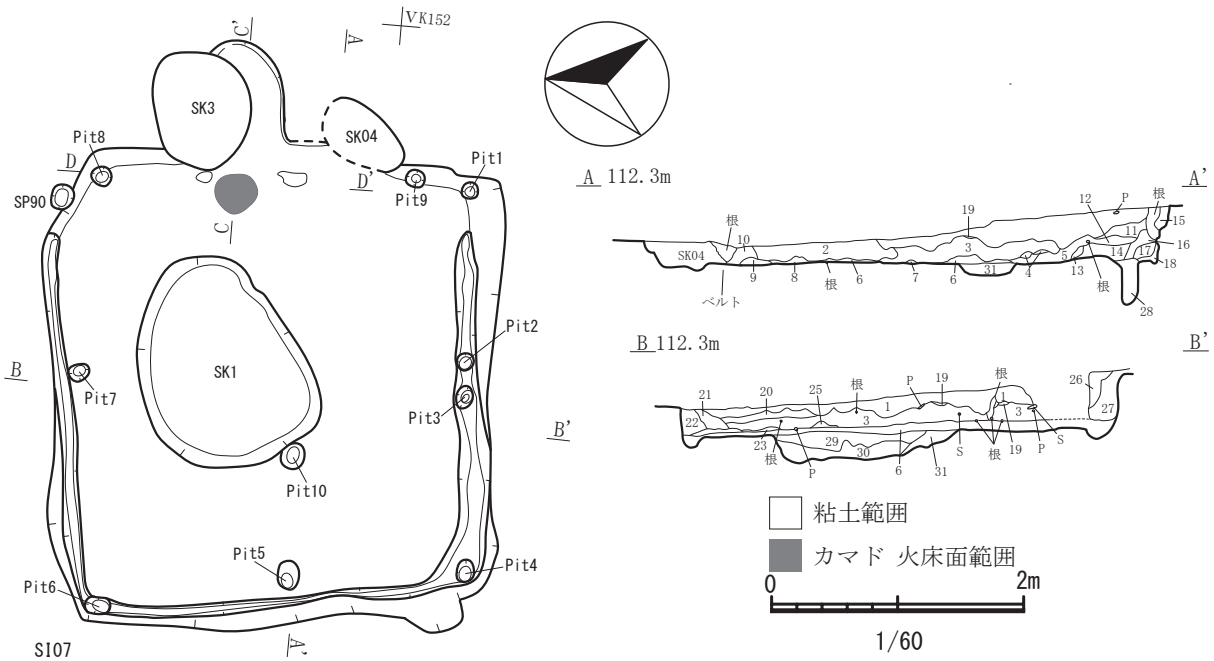
図12 第４・６号竪穴建物跡（３）



SI06
1層 10YR3/2黒褐色土 VI層由来ロームブロック(φ1～8mm)1%
2層 10YR2/3 VI層由来ロームブロック(φ1～5mm)1%
3層 10YR4/3にぶい黄褐色土 VI層由来ロームブロック(φ1～8mm)1% 炭化物(φ1～5mm)3%
4層 10YR3/4 暗褐色土 VI層由来ロームブロック (φ1 ～ 8 mm)1%
5層 10YR5/4 にぶい黄褐色土 VI層由来ロームブロック (φ1 ～ 8 mm)1% 炭化物 (φ1 ～ 5 mm)1%
6層 10YR4/6 褐色土 VI層由来ロームブロック (φ1 ～ 8 mm)1%
7層 10YR4/6 暗褐色土 VI層由来ロームブロック (φ1 ～ 8 mm)1% 炭化物 (φ1 ～ 5 mm)1% 焼土ブロック (φ2 mm～ 1 cm)5%
8層 10YR4/6褐色土 VII層由来ロームブロック(φ～1mm)1% 炭化物(φ1～5mm)1% 焼土ブロック(φ1～2mm)1%
9層 10YR4/3にぶい黄褐色土 VII層由来ロームブロック(φ1～5mm)1% 炭化物(φ～1mm)1% 焼土ブロック(φ1～3mm)1%
10層 10YR4/4褐色土 VII層由来ロームブロック(φ～1mm)1% 炭化物(φ1～15mm)3% 焼土ブロック(φ3～5mm)1%
11層 10YR3/4暗褐色土 VI層由来ロームブロック(φ100～200mm)30% 炭化物(φ1～10mm)5%
12層 10YR4/6褐色土 VII層由来ロームブロック(φ1～8mm)20% 炭化物(φ1～50mm)15% 焼土ブロック(φ1～15mm)7%
13層 10YR3/4暗褐色土 VI層由来ロームブロック(φ1～2mm)1%　VII層由来ロームブロック(φ1～5mm)1% 炭化物(φ1～5mm)15% 焼土ブロック(φ1～20mm)7%
14層 10YR4/4褐色土　炭化物(φ1～10mm)20% 焼土ブロック(φ2～5mm)30%
15層 10YR2/3黒褐色土 VII層由来ロームブロック(φ1～10mm)2% 炭化物(φ1～15mm)3% 焼土ブロック(φ1～10mm)2%
16層 10YR3/2黒褐色土 VI層由来ロームブロック(φ～1mm)1%
17層 10YR4/6褐色土 VII層由来ロームブロック(φ1～20mm)2% 炭化物(φ1～2mm)1% 焼土ブロック(φ1～5mm)1%
18層 10YR5/4にぶい褐色土 VII層由来ロームブロック(φ1～20mm)15% 炭化物(φ1～10mm)2% 焼土ブロック(φ1～5mm)1%
19層 10YR4/4にぶい黄褐色土 VII層由来ロームブロック(φ1～10mm)3% 炭化物(φ1～15mm)15% 焼土ブロック(φ1～2mm)2%
20層 10YR5/6黄褐色土 VII層由来ロームブロック(φ1～5mm)1% 炭化物(φ1～5mm)1%
21層 10YR3/4暗褐色土 VII層由来ロームブロック(φ1～5mm)1% 炭化物(φ5～25mm)3%

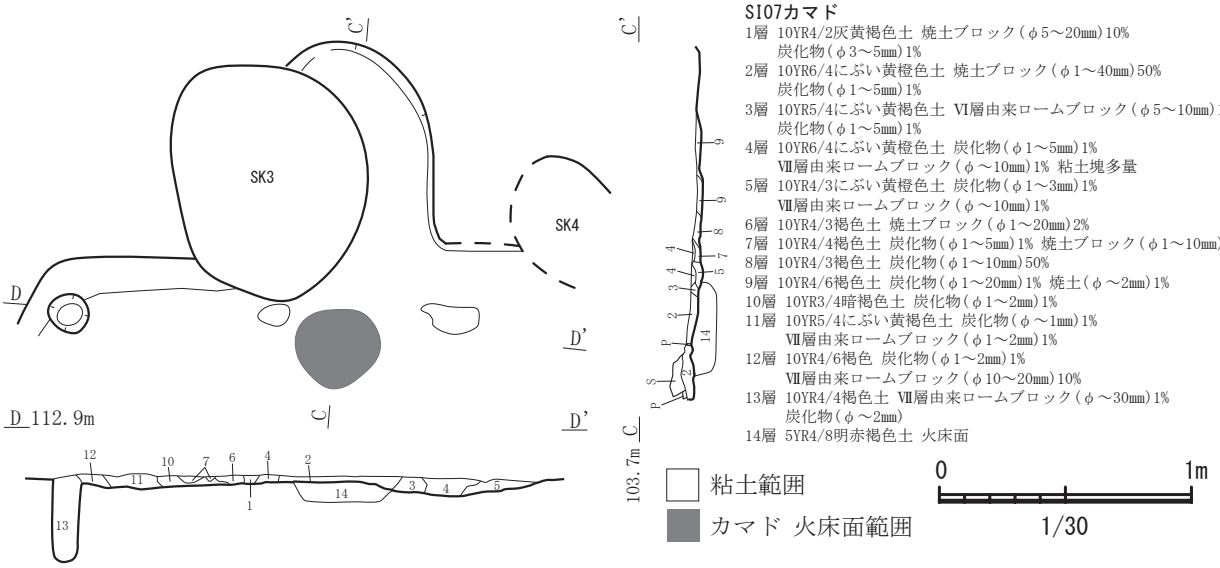
0　2m
1/60

図13　第４・６号竪穴建物跡（４）



SI07

1層 10YR4/4褐色土 Ⅶ層由来ロームブロック（φ～30mm）1% Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～45mm）5% 炭化物（φ1～15mm）3% 焼土ブロック（φ1～20mm）2%
2層 10YR5/4にぶい黄褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～5mm）3% 炭化物（φ5～10mm）1%
3層 10YR3/4暗褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～30mm）3% 焼土ブロック（φ5～20mm）1% 炭化物（φ1～3mm）1% Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～5mm）1%
4層 10YR5/4にぶい黄褐色土 粘土ブロック（φ5～30mm）60%
5層 10YR4/3にぶい黄褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～5mm）1% 焼土ブロック（φ1～3mm）1% 炭化物（φ3～10mm）1%
6層 10YR3/4暗褐色土 Ⅶ層由来ロームブロック（φ2～5mm）1%
7層 10YR2/3黒褐色土 炭化物（φ～5mm）10%
8層 10YR5/4にぶい黄褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ5～10mm）2% 炭化物1%（φ2～5mm）1% 焼土ブロック（φ2～40mm）15%
9層 10YR3/4暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ10～40mm）7% 炭化物（φ1～3mm）1%
10層 10YR3/4暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ～8mm）1% 炭化物（φ1～6mm）2%
11層 10YR4/4褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～30mm）7% 炭化物（φ1～2mm）1%
12層 10YR5/4にぶい黄褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ3～10mm）3% Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～3mm）2% 炭化物（φ1～2mm）1%
13層 10YR5/4にぶい黄褐色土 Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～2mm）1%
14層 10YR4/3にぶい黄褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～3mm）2% Ⅵ層由来ロームブロック（φ2～15mm）3% 炭化物（φ3～5mm）1%
15層 10YR4/4にぶい黄褐色土 Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～2mm）1% 炭化物（φ6mm）1%
16層 7.5YR4/6褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～15mm）2% 炭化物（φ～2mm）1%
17層 10YR5/4にぶい黄褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～15mm）5% 炭化物（φ1～3mm）1%
18層 10YR4/6褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ10～40mm）15%
19層 10YR5/4にぶい黄褐色土 炭化物（φ～1mm）1% Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～3mm）1% Ⅶ層由来ロームブロック（φ～3mm）1%
20層 10YR3/4暗褐色土 焼土ブロック（φ2～5mm）1% Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～3mm）1% Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～15mm）5% 炭化物（φ1～10mm）1%
21層 10YR3/4暗褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～30mm）7% 炭化物（φ～1mm）1% Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～100mm）5%
22層 10YR3/4暗褐色土 焼土ブロック（φ～10mm）1% 炭化物（φ～1mm）1% Ⅶ層由来ロームブロック（φ～50mm）20%
23層 10YR4/3にぶい黄褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～40mm）30%
24層 7.5YR4/6褐色土 Ⅶ層由来ロームブロック（φ～200mm）70%
25層 10YR3/4暗褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～5mm）2% 炭化物（φ1～2mm）1%
26層 10YR3/4暗褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ～3mm）1% 炭化物（φ～5mm）1%
27層 10YR3/4暗褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～3mm）1% 炭化物（φ1～2mm）1% Ⅶ層由来ロームブロック（φ～70mm）3%
28層 10YR3/4暗褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～5mm）1% 炭化物（φ～1mm）1% Pit5覆土
29層 10YR5/4にぶい黄褐色土 炭化物（φ5～10mm）1% Ⅶ層由来ロームブロック（φ50～100mm）50% Ⅴ層由来ロームブロック（φ10～30mm）1% 焼土ブロック（φ～10mm）1%
30層 10YR3/4暗褐色土 炭化物（φ～5mm）1% Ⅴ層由来ロームブロック（φ～10mm）1% Ⅶ層由来ロームブロック（φ5～50mm）30%
31層 10YR3/4黄褐色土 Ⅶ層由来ロームブロック（φ10～50mm）30% 炭化物（φ1～5mm）1%



SI07カマド

1層 10YR4/2灰黄褐色土 焼土ブロック（φ5～20mm）10%
炭化物（φ3～5mm）1%
2層 10YR6/4にぶい黄橙色土 焼土ブロック（φ1～40mm）50%
炭化物（φ1～5mm）1%
3層 10YR5/4にぶい黄褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ5～10mm）1%
炭化物（φ1～5mm）1%
4層 10YR6/4にぶい黄橙色土 炭化物（φ1～5mm）1%
Ⅶ層由来ロームブロック（φ～10mm）1% 粘土塊多量
5層 10YR4/3にぶい黄橙色土 炭化物（φ1～3mm）1%
Ⅶ層由来ロームブロック（φ～10mm）1%
6層 10YR4/3褐色土 焼土ブロック（φ1～20mm）2%
7層 10YR4/4褐色土 炭化物（φ1～5mm）1% 焼土ブロック（φ1～10mm）1%
8層 10YR4/3褐色土 炭化物（φ1～10mm）50%
9層 10YR4/6褐色土 炭化物（φ1～20mm）1% 焼土（φ～2mm）1%
10層 10YR3/4暗褐色土 炭化物（φ1～2mm）1%
11層 10YR5/4にぶい黄褐色土 炭化物（φ～1mm）1%
Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～2mm）1%
12層 10YR4/6褐色 炭化物（φ1～2mm）1%
Ⅶ層由来ロームブロック（φ10～20mm）10%
13層 10YR4/4褐色土 Ⅶ層由来ロームブロック（φ～30mm）1%
炭化物（φ～2mm）
14層 5YR4/8明赤褐色土 火床面

図14　第７号竪穴建物跡

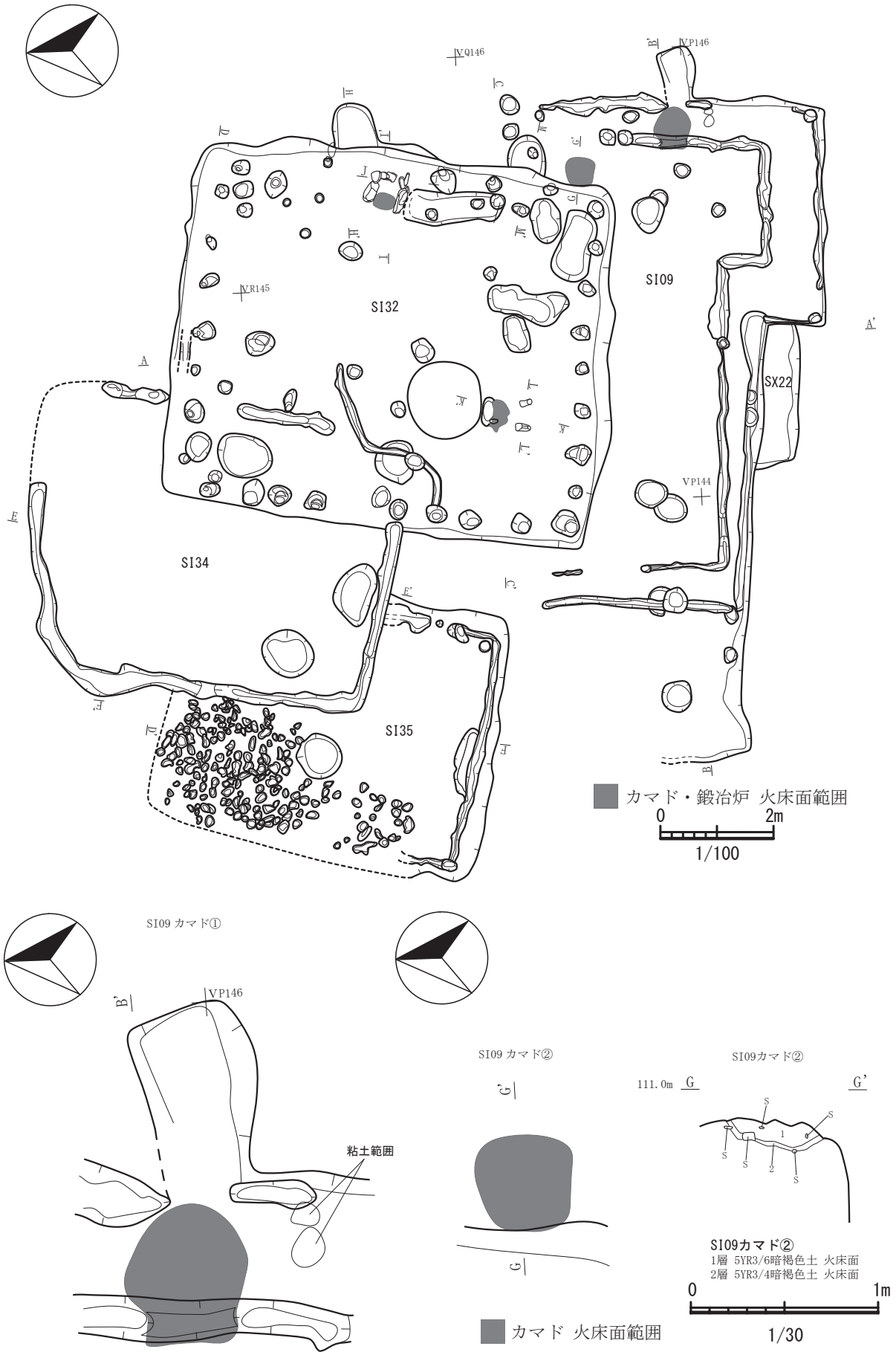


図15　第９・32・34・35号竪穴建物跡（１）

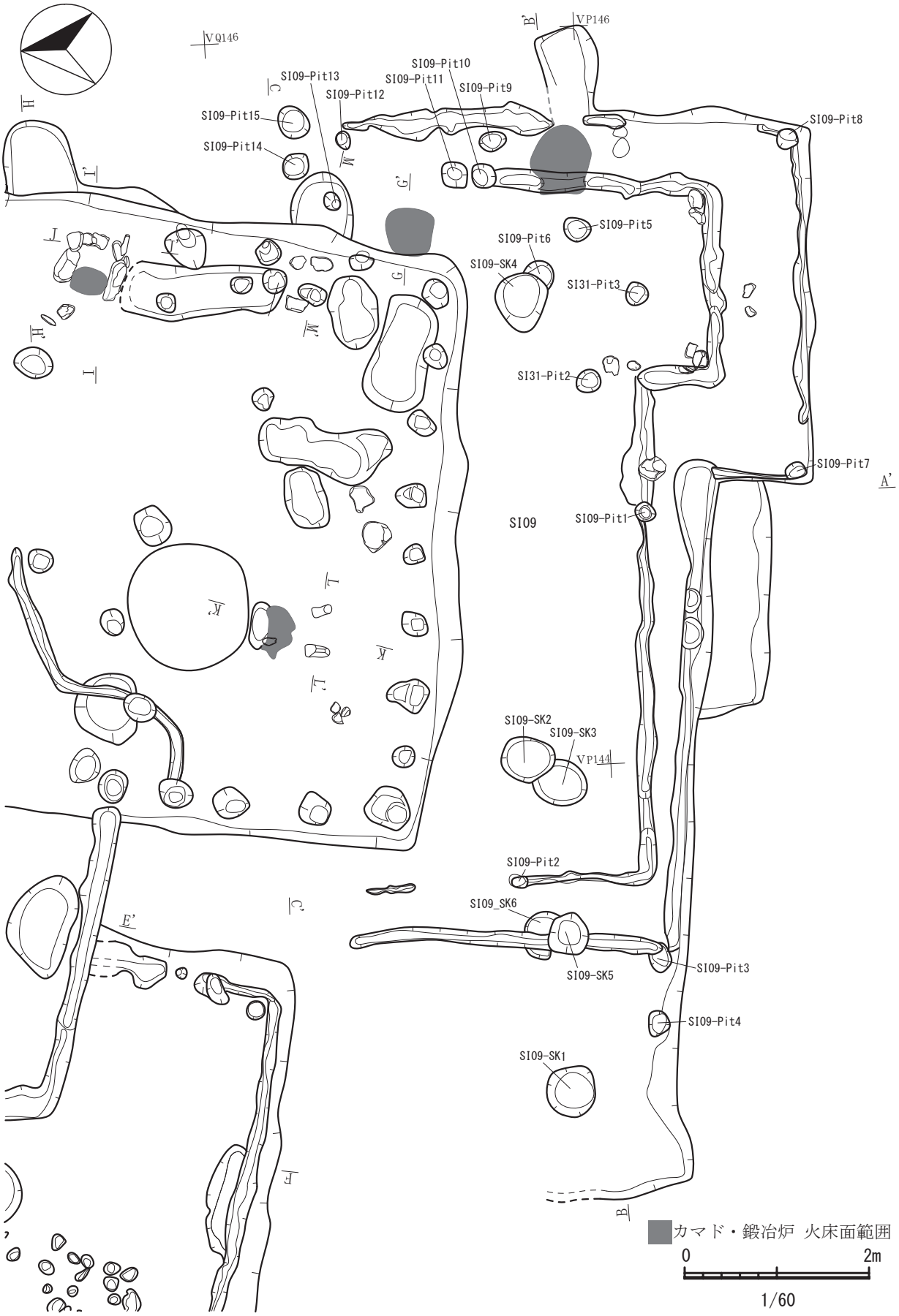


図16　第９・32・34・35号竪穴建物跡（２）

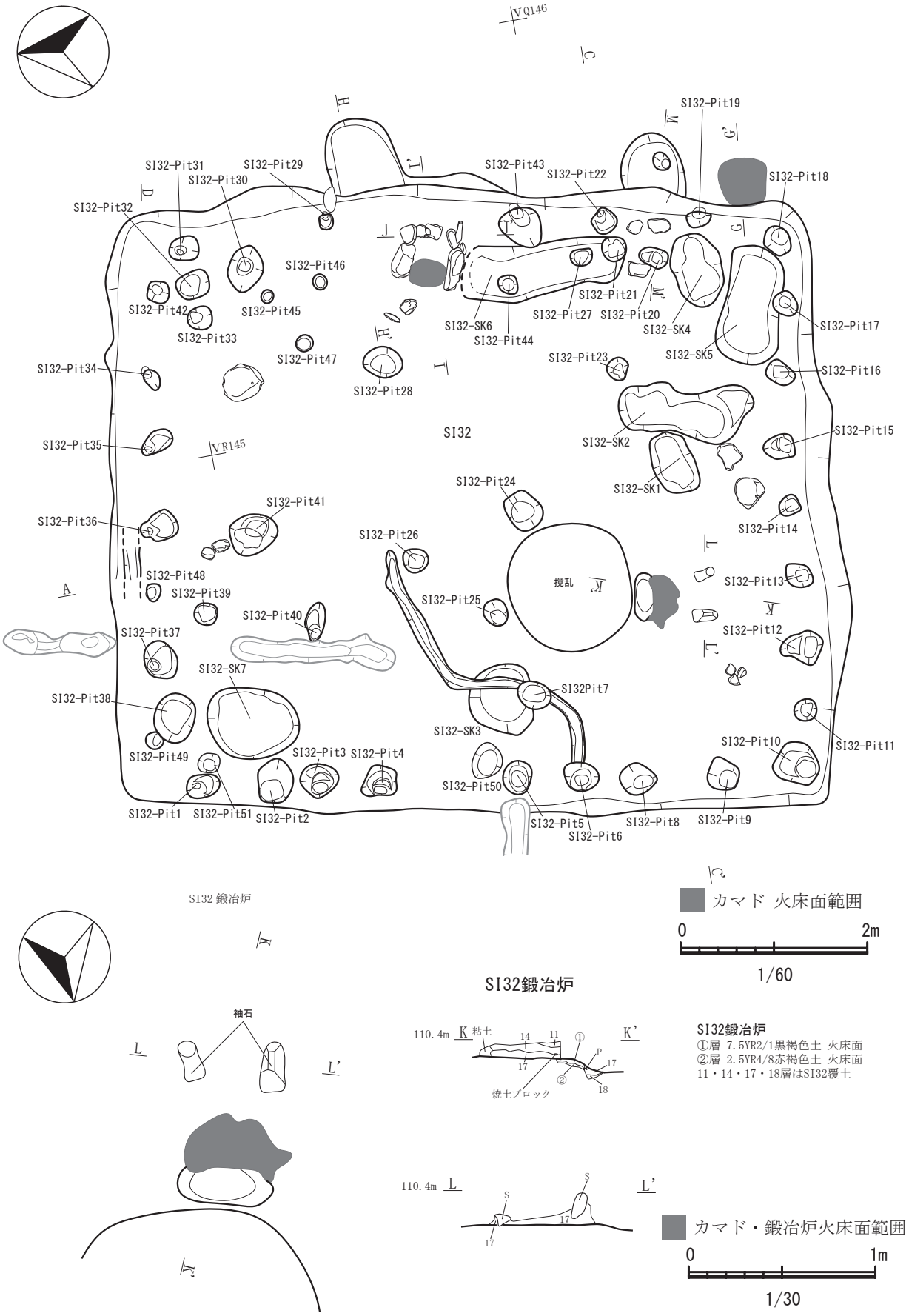
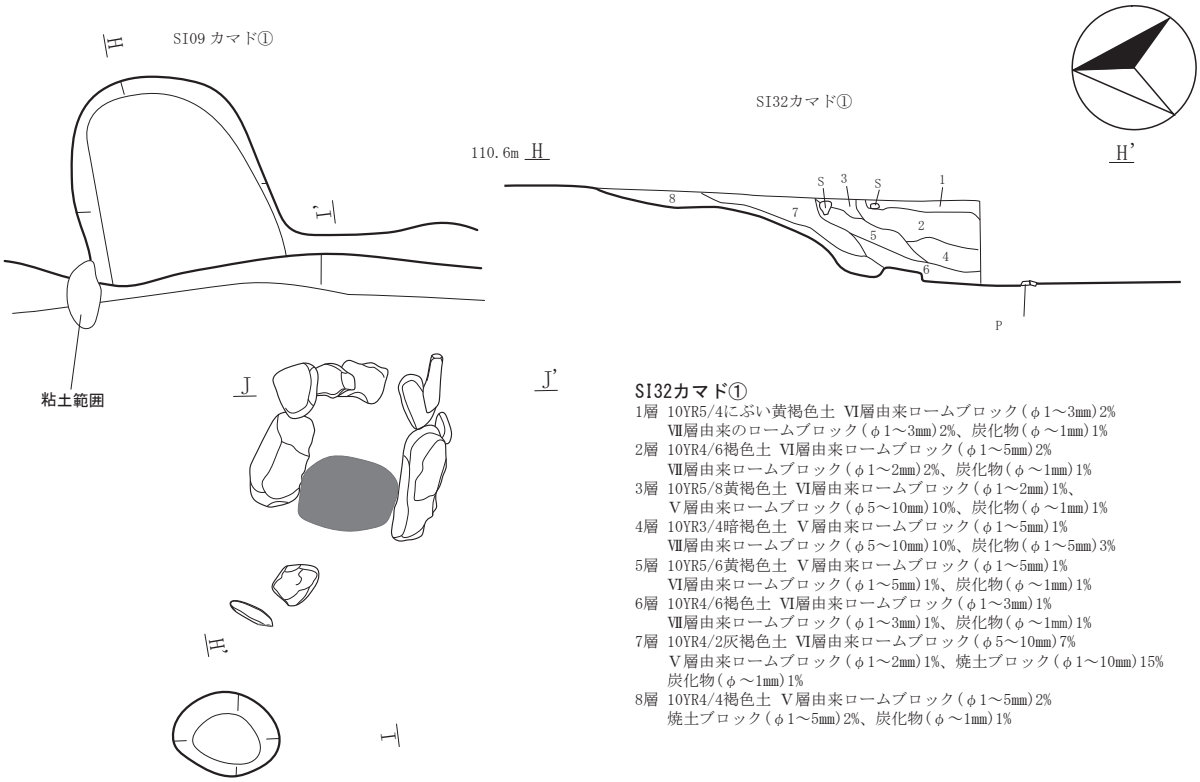
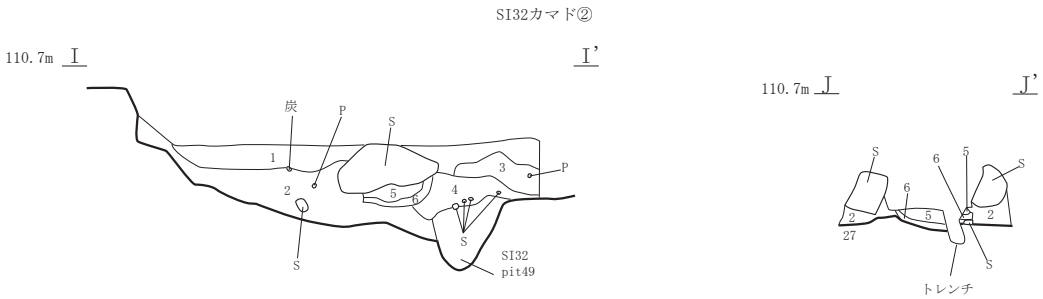


図17　第９・32・34・35号竪穴建物跡（３）



SI32カマド①

1層 10YR5/4にぶい黄褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～3mm）2%
Ⅶ層由来のロームブロック（φ1～3mm）2%、炭化物（φ～1mm）1%
2層 10YR4/6褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～5mm）2%
Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～2mm）2%、炭化物（φ～1mm）1%
3層 10YR5/8黄褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～2mm）1%、
Ⅴ層由来ロームブロック（φ5～10mm）10%、炭化物（φ～1mm）1%
4層 10YR3/4暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～5mm）1%
Ⅶ層由来ロームブロック（φ5～10mm）10%、炭化物（φ1～5mm）3%
5層 10YR5/6黄褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～5mm）1%
Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～5mm）1%、炭化物（φ～1mm）1%
6層 10YR4/6褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～3mm）1%
Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～3mm）1%、炭化物（φ～1mm）1%
7層 10YR4/2灰褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ5～10mm）7%
Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～2mm）1%、焼土ブロック（φ1～10mm）15%
炭化物（φ～1mm）1%
8層 10YR4/4褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～5mm）2%
焼土ブロック（φ1～5mm）2%、炭化物（φ～1mm）1%



SI32カマド②

1層 10YR /4褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ～20mm）1% 焼土ブロック（φ1～15mm）5% 炭化物（φ1～3mm）1% 小礫（φ1～25mm）7%
2層 10YR3/4暗褐色土 焼土ブロック（φ～30mm）10% 炭化物（φ1～30mm）3% 小礫（φ1～10mm）1% SI32貼床
3層 10YR4/6褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ3～20mm）1% 焼土ブロック（φ1～10mm）2% 炭化物（φ～5mm）1%
4層 10YR4/6褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～2mm）1% 焼土ブロック（φ1～10mm）3% 炭化物（φ5～20mm）2% 小礫（φ1～35mm）3%
5層 5YR3/6暗赤褐色土 火床面
6層 7.5YR3/4暗褐色土 焼土（φ～5mm）30% 炭化物（φ～3mm）1%
SI32pit49 10YR2/1黒色土 炭化物（φ1～10mm）80%

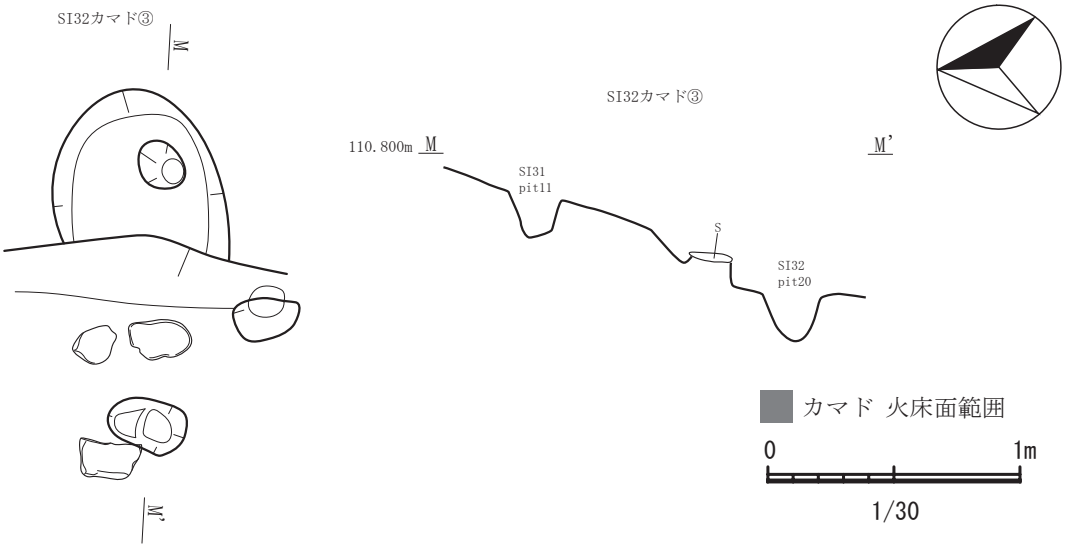


図18　第９・32・34・35号竪穴建物跡（４）

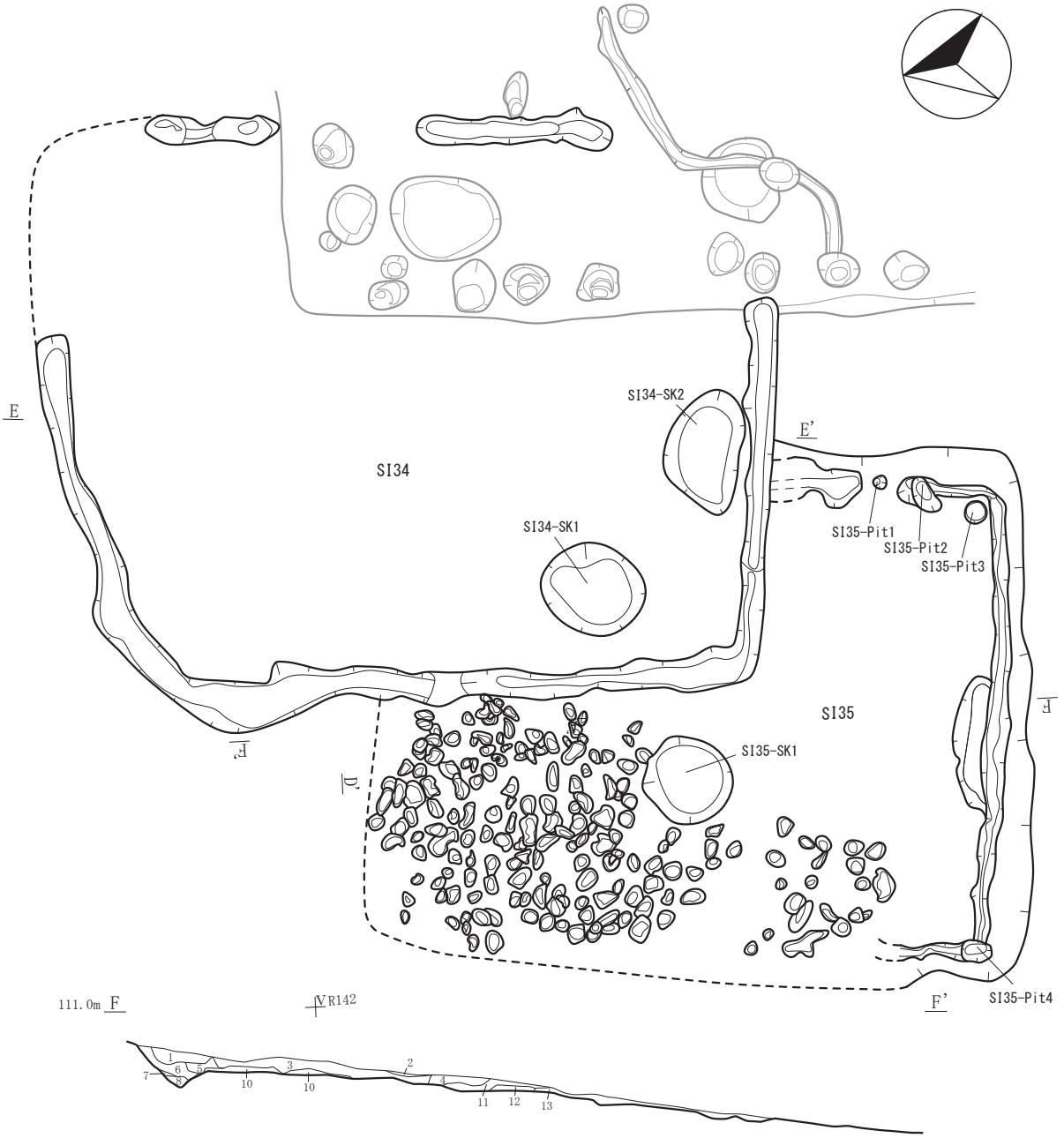
図19　第９・32・34・35号竪穴建物跡（５）

SI09
1層 10YR4/3にぶい褐色土 Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～2㎜）1% 焼土ブロック（φ5～10㎜）7% 炭化物少
2層 10YR4/2灰黄褐色土 Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～2㎜）1% 焼土ブロック（φ1～2㎜）1% 炭化物少
3層 10YR3/4暗褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～5㎜）2% Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～5㎜）3% 焼土ブロック1%以下 炭化物有
4層 10YR4/3にぶい黄褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～10㎜）10%以上 Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～5㎜）2% 炭化物少
5層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～10㎜）10% Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～2㎜）1% 焼土ブロック（φ1～2㎜）1% 炭化物少
6層 10YR4/4 褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～20㎜）2% Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～10㎜）3% Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～10㎜）1%
炭化物（φ1～10㎜）1%
7層 10YR4/6 褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～10㎜）1% Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～10㎜）2% 炭化物極小
8層 10YR5/6 黄褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ～20㎜）1% Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～10㎜）2% Ⅶ層由来ロームブロック（φ20～70㎜）3% 炭化物極小
9層 10YR5/4にぶい黄褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～2㎜）1% 炭化物（φ～1㎜）1%
10層 10YR5/4にぶい黄褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～3㎜）1%
11層 10YR5/4にぶい褐褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ～5㎜）2% 炭化物（φ1～2㎜）1%
12層 10YR5/6黄褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～3㎜）10% Ⅵ層由来ロームブロック（φ～1㎜）10% 炭化物（φ1～10㎜）1% 浮石（φ～30㎜）
13層 10YR4/4褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～20㎜）10% Ⅵ層由来ロームブロック（φ5～10㎜）5% 浮石（φ10～20㎜）5%
14層 10YR5/3にぶい黄褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ～10㎜）10% 炭化物（φ1～5㎜）20% 浮石（φ1～5㎜）1% Ⅶ層由来ロームブロック30%
15層 10YR4/4褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～5㎜）1% Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～5㎜）1% Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～5㎜）1% 炭化物（Φ1㎜）1%
16層 10YR5/4にぶい黄褐色土 Ⅶ層由来ロームブロック50% Ⅵ層由来ロームブロック（φ～1㎜）1% 炭化物（φ～1㎜）1%
17層 10YR5/6黄褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～5㎜）40% Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～5㎜）5%
18層 10YR5/4にぶい黄褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～5㎜）1% Ⅶ層由来ロームブロック（φ～5㎜）1%
19層 10YR4/6 褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～5㎜）3% Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～7㎜）2% Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～20㎜）5%
焼土ブロック（φ～1㎜）1% 炭化物（φ1～5㎜）1%
20層 10YR5/4 にぶい黄褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～10㎜）2% Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～5㎜）1% Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～10㎜）2%
炭化物（φ1～5㎜）1%
21層 5YR4/4 にぶい赤褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～2㎜）1% Ⅶ層由来ロームブロック（φ50～100㎜）90% 炭化物（φ1～10㎜）2%
22層 10YR5/4 にぶい黄褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～2㎜）1% 焼土ブロック（φ～1㎜）1% 炭化物（φ1～3㎜）1%
23層 10YR5/6 黄褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～3㎜）1% Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～3㎜）1% 炭化物（φ1～2㎜）1%
24層 10YR5/6 黄褐色土 焼土ブロック（φ～1㎜）1%
25層 5YR3/6暗赤褐色土 SI09カマド①火床面

SI32
1 層 10YR2/3 黒褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ2～5㎜）1% Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～5㎜）1% 焼土ブロック（φ1～5㎜）1% 炭化物（φ1～10㎜）1%
2 層 10YR3/3 暗褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～5㎜）2% Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～10㎜）1% 焼土ブロック（φ1～2㎜）1% 炭化物（φ1～3㎜）2%
3 層 10YR2/3 黒褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～10㎜）1% Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～15㎜）2% 焼土ブロック（φ1～10㎜）2%
炭化物（φ1～5㎜）1%
4 層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～2㎜）1% Ⅶ層由来ロームブロック（φ～1㎜）1% 焼土ブロック（φ～1㎜）1% 炭化物（φ～1㎜）1%
5 層 10YR2/3 黒褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～10㎜）40% 焼土ブロック（φ～1㎜）1%
6 層 10YR4/4 褐色土 焼土ブロック（φ1～2㎜）1% 炭化物（φ～1㎜）1%
7 層 10YR2/3 黒褐色土 Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～5㎜）1% 炭化物（φ1～2㎜）1%
8 層 10YR3/2 黒褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～2㎜）1% Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～3㎜）1% 焼土ブロック（φ1～10㎜）1% 炭化物（φ1～10㎜）1%
9 層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ～1㎜）1% Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～30㎜）10% 焼土ブロック（φ1～2㎜）1%
炭化物（φ1～10㎜）1%
10 層 10YR3/4 暗褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～5㎜）1% Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～100㎜）25% 焼土ブロック（φ1～15㎜）2%
炭化物（φ1～10㎜）2%
11 層 10YR4/6 褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～2㎜）1% Ⅶ層由来ロームブロック（φ10～100㎜）25% 焼土ブロック（φ2～5㎜）1%
炭化物（φ1～5㎜）1%
12 層 10YR3/4 褐色土 Ⅶ層由来ロームブロック（φ～1㎜）1% 炭化物（φ～1㎜）1%
13 層 10YR3/3 暗褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～10㎜）1% Ⅶ層由来ロームブロック（φ5～30㎜）7% 焼土ブロック（φ2～10㎜）1%
炭化物（φ1～15㎜）2%
14 層 10YR3/4 暗褐色土 Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～50㎜）2% 焼土ブロック（φ2～15㎜）1% 炭化物（φ～1㎜）1%
15 層 10YR4/6 褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ～1㎜）1% 焼土ブロック（φ～1㎜）1% 炭化物（φ～1㎜）1%
16 層 10YR4/4 褐色土 Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～20㎜）2% 炭化物（φ1～5㎜）1%
17 層 10YR2/3 暗褐色土 Ⅶ層由来ロームブロック（φ5～20㎜）30% 焼土ブロック（φ1～2㎜）8% 炭化物（φ1～30㎜）30% カマド③覆土
18 層 5YR4/4 にぶい赤褐色土 焼土ブロック（φ1～10㎜）20% 炭化物（φ1～2㎜）1% カマド③覆土
19 層 7.5YR3/4 暗褐色土 Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～5㎜）1% 焼土ブロック（φ1～10㎜）10% 炭化物（φ1～5㎜）1% カマド③覆土
20 層 10YR5/6 黄褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～5㎜）1% Ⅵ層由来ロームブロック（φ2～5㎜）1% Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～20㎜）3%
焼土ブロック（φ1～2㎜）1% 炭化物（φ1～3㎜）1%
21 層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～20㎜）1% Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～5㎜）1% 炭化物（φ～1㎜）1%
22 層 10YR3/4 暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ2～5㎜）1% Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～2㎜）1% 炭化物（φ～1㎜）1%
23 層 10YR3/3 暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～3㎜）1% Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～20㎜）7% Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～25㎜）20%
焼土ブロック（φ1～2㎜）1% 炭化物（φ1～20㎜）2%
24 層 10YR3/4 暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～2㎜）1% Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～20㎜）7% 焼土ブロック（φ1～2㎜）1% 炭化物（φ1～3㎜）1%
25 層 10YR4/2灰黄褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～5㎜）2% 炭化物（φ～1㎜）1% SI09カマド①火床面
26 層 10YR5/4 にぶい黄褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～2㎜）1% Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～2㎜）1% 焼土ブロック（φ1～2㎜）1% 炭化物（φ～1㎜）1%
27 層 10YR4/6 褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～2㎜）1% Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～3㎜）% Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～50㎜）30% 炭化物（φ1～2㎜）1% 貼床
28 層 10YR4/4褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～30㎜）5% Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～40㎜）30% 焼土ブロック（φ1～50㎜）20% 炭化物（φ1～10㎜）3%
29 層 10YR4/6褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～2㎜）1% Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～2㎜）3% 炭化物（φ1～2㎜）1%
30 層 10YR4/4褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～10㎜）2% Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～70㎜）30% 粘土ブロック（φ2～100㎜）20% 焼土ブロック（φ1～10㎜）1%
炭化物（φ1～10㎜）1%
31 層 10YR6/4にぶい褐橙色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～10㎜）2% Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～50㎜）30% 粘土ブロック（φ10～70㎜）30%
焼土ブロック（φ1～15㎜）2% 炭化物（φ1～20㎜）2%
32 層 10YR4/4褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ～1㎜）1% Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～10㎜）1% Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～15㎜）2%
粘土ブロック（φ5～20㎜）3% 焼土ブロック（φ1～10㎜）2% 炭化物（φ2～3㎜）1%
33 層 10YR4/6褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～2㎜）1% Ⅶ層由来ロームブロック（φ5～100㎜）80% 粘土ブロック（φ10～20㎜）5% 焼土ブロック（φ～10㎜）1%
炭化物（φ1～5㎜）1%

SI34
1層 10YR3/4暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～10㎜）2% 焼土ブロック（φ1～20㎜）5% 炭化物（φ1～10㎜）3%
2層 10YR4/4褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～5㎜）3% Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～10㎜）3% 焼土ブロック（φ1～10㎜）3% 炭化物（φ1～3㎜）1%
3層 10YR4/6褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～2㎜）2% Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～2㎜）2% 焼土ブロック（φ1～2㎜）1% 炭化物（φ1～2㎜）10%
4層 10YR5/6黄褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～15㎜）3% Ⅵ層由来ロームブロック（φ5～50㎜）20% Ⅶ層由来ロームブロック（φ5～50㎜）10%
焼土ブロック（φ1～3㎜）1% 炭化物（φ1～5㎜）3%
5層 10YR5/6黄褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～3㎜）1% Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～5㎜）1% 炭化物（φ1～2㎜）1%
6層 10YR5/4にぶい黄褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～2㎜）1% 焼土ブロック（φ1～10㎜）2% 炭化物（φ1～2㎜）1%
7層 10YR3/2黒褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～3㎜）2% Ⅵ層由来ロームブロック（φ2～60㎜）25% 焼土ブロック（φ1～3㎜）2% 炭化物（φ1～10㎜）2%
8層 10YR4/4にぶい黄褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～5㎜）1% 焼土ブロック（φ1～3㎜）1% 炭化物（φ1～10㎜）2%
9層 10YR4/6褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～15㎜）2% 焼土ブロック（φ1～3㎜）2% 炭化物（φ1～5㎜）2%
10層 10YR4/4褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～3㎜） 1% Ⅶ層由来ロームブロック（φ2～15㎜）2% 焼土ブロック（φ1～3㎜）1% 炭化物（φ1～2㎜）2%
11層 10YR4/3にぶい黄褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～10㎜）2% Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～20㎜）2% Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～20㎜）2%
粘土ブロック（φ1～15㎜）2% 焼土ブロック（φ1～20㎜）2% 炭化物（φ1～10㎜）3%

図20　第９・32・34・35号竪穴建物跡（６）



SI35

1層　10YR3/4暗褐色土　Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～30mm）10%　Ⅵ層由来ロームブロック（φ5～30mm）10%　Ⅶ層由来ロームブロック（φ10～20mm）1%
　焼土ブロック（φ1～3mm）1%　炭化物（φ3～10mm）1%
2層　10YR3/4暗褐色土　Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～5mm）1%　Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～5mm）1%　Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～10mm）1%
　焼土ブロック（φ～1mm）1%　炭化物（φ1～10mm）1%
3層　10YR4/6褐色土　Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～30mm）3%　Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～20mm）1%　Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～40mm）3%
　焼土ブロック（φ1～3mm）1%　炭化物（φ1～10mm）1%
4層　10YR3/4暗褐色土　Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～5mm）1%　Ⅵ層由来ロームブロック（φ2～30mm）1%　Ⅶ層由来ロームブロック（φ5～20mm）1%
　焼土ブロック（φ1～10mm）1%　炭化物（φ1～10mm）1%
5層　10YR3/4暗褐色土　Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～20mm）5%　Ⅵ層由来ロームブロック（φ10～30mm）20%　Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～5mm）1%
6層　10YR3/4暗褐色土　Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～20mm）10%　Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～20mm）1%　Ⅶ層由来ロームブロック（φ～10mm）1%
　炭化物（φ3～10mm）1%
7層　10YR2/3黒褐色土　Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～10mm）1%　Ⅶ層由来ロームブロック（φ～10mm）1%　炭化物（φ～1mm）1%
8層　10YR3/4暗褐色土　Ⅴ層由来ロームブロック（φ～15mm）1%　Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～50mm）50%　Ⅶ層由来ロームブロック（φ～30mm）5%　炭化物（φ1～5mm）1%
10層　10YR4/6褐色土　焼土ブロック（φ～1mm）1%　炭化物（φ～1mm）1%　Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～10mm）1%　Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～10mm）1%
　Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～50mm）20%
11層　10YR3/3暗褐色土　Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～10mm）1%　Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～10mm）1%　Ⅶ層由来ロームブロック（φ5～10mm）1%
　焼土ブロック（φ1～5mm）1%　炭化物（φ1～10mm）1%
12層　10YR3/4暗褐色土　Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～5mm）1%　Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～50mm）40%　炭化物（φ1～3mm）1%
13層　10YR3/4暗褐色土　Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～10mm）1%　Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～30mm）5%　焼土ブロック（φ～1mm）1%　炭化物（φ～1mm）1%

0　2m
1/60

図21　第９・32・34・35号竪穴建物跡（７）

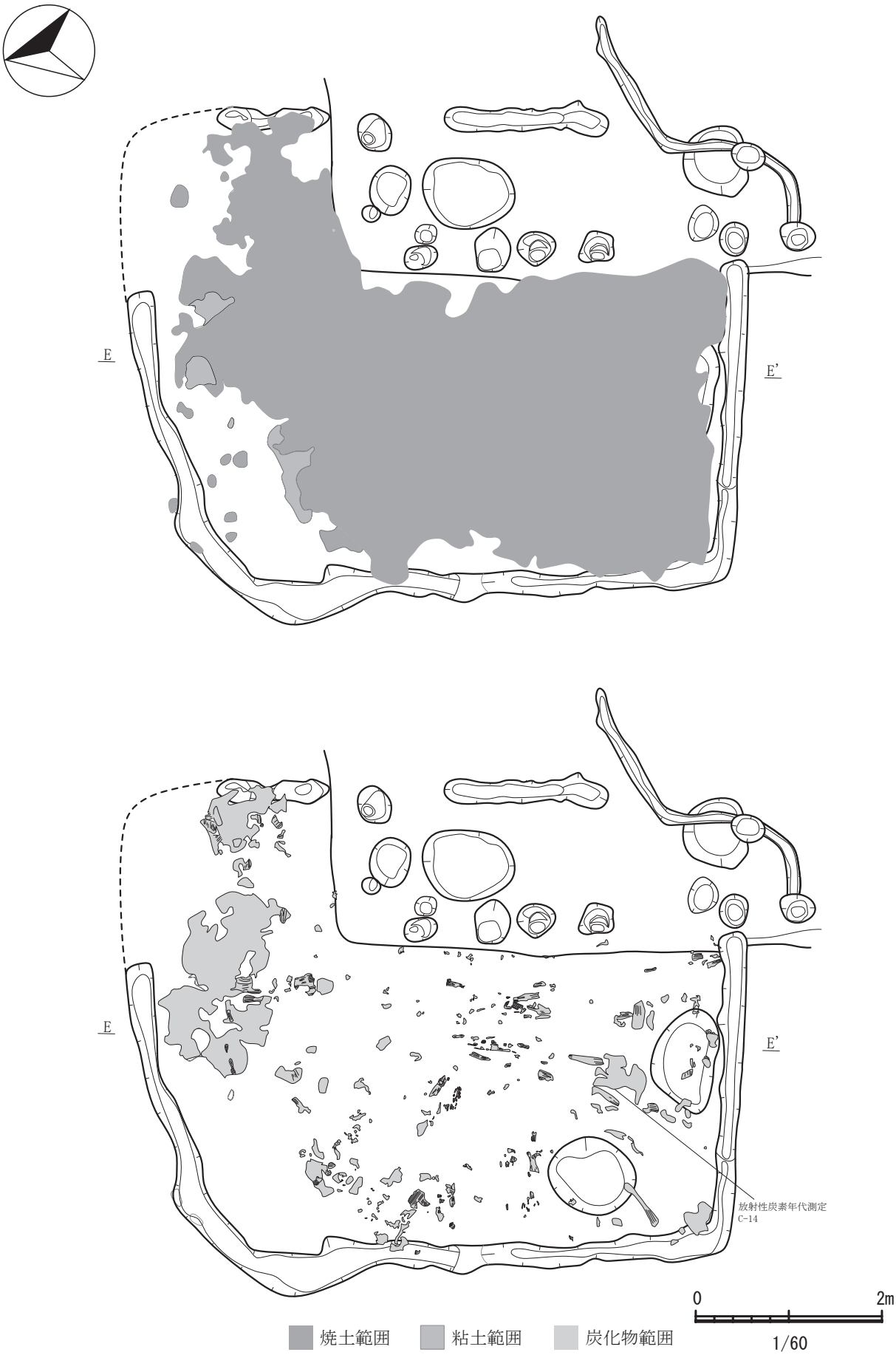
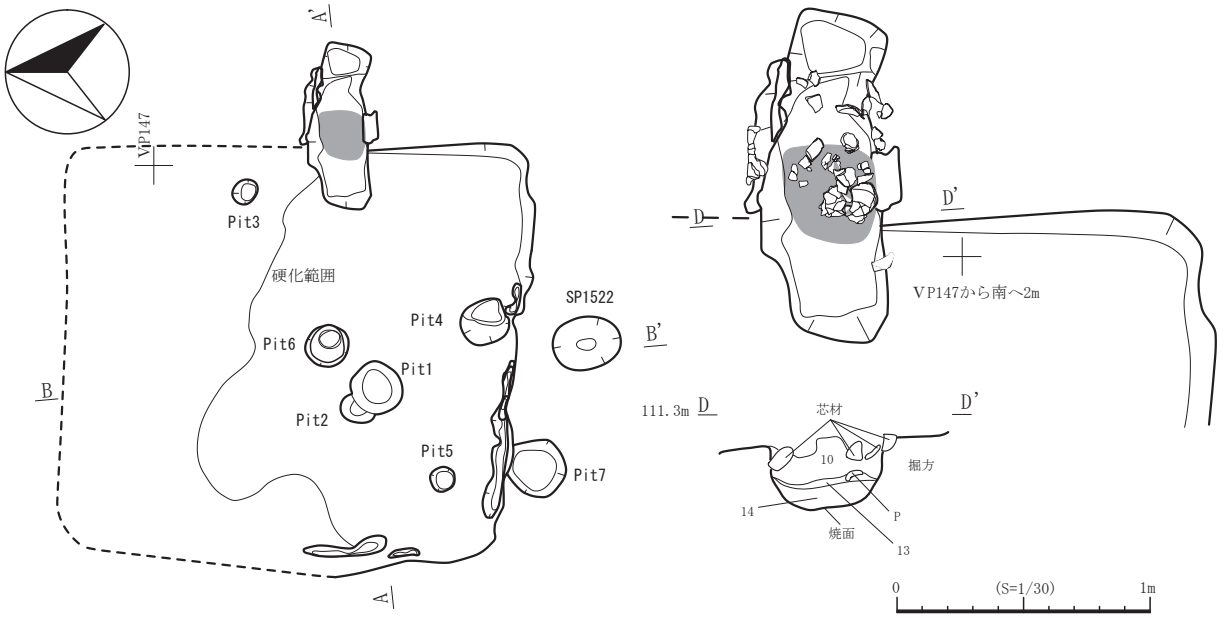
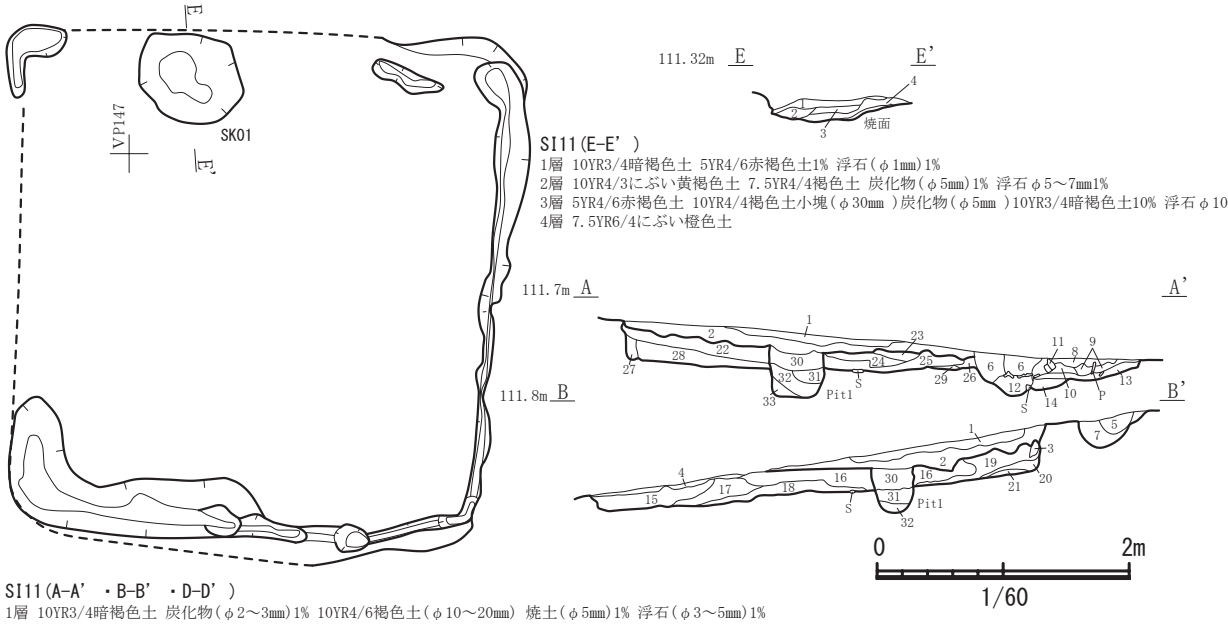


図22　第９・32・34・35号竪穴建物跡（８）

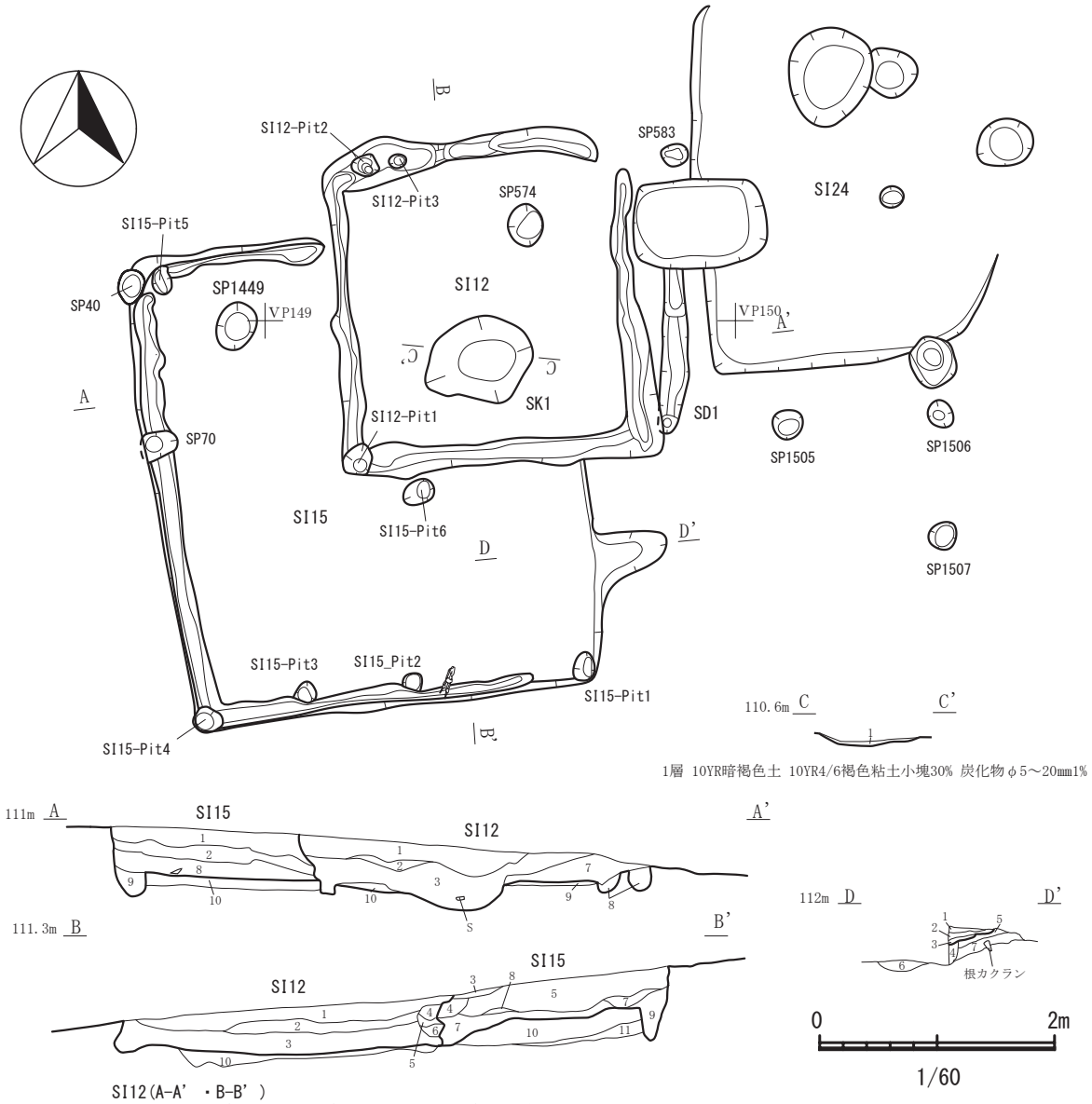




SI11(E-E')
1層 10YR3/4暗褐色土 5YR4/6赤褐色土1% 浮石(φ1mm)1%
2層 10YR4/3にぶい黄褐色土 7.5YR4/4褐色土 炭化物(φ5mm)1% 浮石φ5～7mm1%
3層 5YR4/6赤褐色土 10YR4/4褐色土小塊(φ30mm)炭化物(φ5mm)10YR3/4暗褐色土10% 浮石φ10mm
4層 7.5YR6/4にぶい橙色土

SI11(A-A'・B-B'・D-D')
1層 10YR3/4暗褐色土 炭化物(φ2～3mm)1% 10YR4/6褐色土(φ10～20mm) 焼土(φ5mm)1% 浮石(φ3～5mm)1%
2層 10YR3/4暗褐色土 10YR4/6褐色土20% 炭化物(φ2～15mm)2% 7.5YR5/8明褐色土1% 焼土(φ3～5mm)1% 焼成粘土塊(φ20mm)1点 浮石(φ3mm)1%
3層 10YR2/3黒褐色土 10YR4/3にぶい黄褐色土1%
4層 10YR4/3にぶい黄褐色土 炭化物1% 7.5YR4/6褐色土1%
5層 7.5YR4/3褐色土 10YR5/6黄褐色土1% 10YR4/6褐色土1% 炭化物(φ2mm)1% 浮石(φ2～10mm)1%
6層 10YR2/3黒褐色土 10YR4/3にぶい黄褐色土1% 炭化物(φ3mm)(1% 浮石(φ7mm)
7層 10YR3/4暗褐色土 10YR4/3にぶい黄褐色土1% 10YR5/8黄褐色土1%　炭化物(φ2～7mm) 1% 浮石(φ2～7mm)1%
8層 10YR3/4暗褐色土 10YR4/6褐色土2% 炭化物(φ2～3mm)1% 浮石(φ3mm)1% 7.5YR4/4褐色土
9層 10YR3/4暗褐色土 10YR4/6褐色土2% 2.5YR4/8赤褐色7mm1% 7.5YR4/6褐色土1% 炭化物(φ2～10mm)1% 浮石20mm1%
11層 10YR8/2灰白色土
10層 10YR4/4褐色土 10YR3/4暗褐色土1% 10YR5/8黄褐色土1% 浮石(φ7mm)1%
12層 10YR3/3暗褐色土 10YR3/4暗褐色土10% 10YR4/6褐色土10%
13層 10YR4/2灰黄褐色土 焼土25% 炭化物1%
14層 10YR4/3にぶい黄褐色土 焼土5% 炭化物1%混入
15層 10YR3/4暗褐色土 10YR4/6褐色粘土(φ10～20mm)2% 7.5YR4/6褐色土(φ5～15mm)1% 7.5YR3/4暗褐色土(φ15mm)1% 炭化物(φ12mm)1%
16層 10YR4/6褐色土 10YR4/4褐色土20% 10YR2/3黒褐色土10% 10YR5/8黄褐色土(φ15mm)1% 炭化物(φ5mm)1% 浮石(φ2～10mm)1% 7.5YR4/6褐色土φ5mm%
17層 10YR4/6褐色土 10YR4/4褐色土20% 10YR4/6褐色粘土小塊20mm 炭化物(φ10mm)1% 浮石(φ2～10mm)1%
18層 10YR4/6褐色土 10YR3/4暗褐色土10% 10YR5/6黄褐色粘土(φ20mm)5% 10YR6/8明黄褐色土(φ20mm)1% 7.5YR4/6褐色土2% 炭化物(φ2mm)1% 浮石φ5～10mm1%
19層 10YR4/6褐色土 10YR2/3黒褐色土1% 浮石(φ5mm)1% 炭化物(φ2mm)1%
20層 10YR4/4褐色土 10YR4/6褐色土1% 浮石(φ2mm)1%
21層 10YR4/4褐色土 10YR4/4褐色粘土40% 浮石 (φ2mm)1%
22層 10YR4/6褐色土 10YR5/8黄褐色土30% 5YR5/8明赤褐色土1% 炭化物(φ3mm)1% 浮石(φ3～10mm)1%
23層 10YR4/6褐色土 10YR5/6黄褐色土小塊(φ52mm)1% 10YR3/4暗褐色土1% 炭化物(φ2～3mm)1%　浮石(φ2～5mm)6%
24層 10YR3/4暗褐色土 10YR4/4褐色土10% 10YR5/6黄褐色土10% 5YR4/8赤褐色土(φ2～7mm)1%　炭化物(φ2～5mm)1% 浮石(φ2～5mm)1%
25層 10YR4/6褐色土 10YR4/6褐色粘土塊(φ50～80mm)　10YR3/4暗褐色土5% 10YR5/4にぶい黄褐色土7% 10YR6/8明黄褐色土(φ2～10mm)1% 炭化物φ3～5mm1% 浮石φ2～10mm1%
26層 10YR3/4暗褐色土 10YR4/4褐色土2% 5YR4/8赤褐色土(φ10mm)　炭化物(φ3～10mm)1%　浮石(φ2～10mm)1%
27層 10YR4/6褐色土 10YR2/3黒褐色土1% 炭化物(φ2mm)1% 浮石10mm1%
28層 10YR4/6褐色土 7.5YR褐色粘土(φ15～30mm)1% 浮石(φ5～15mm)1%
29層 10YR4/6褐色土 10YR3/4暗褐色土1% 10YR4/6褐色粘土(φ20mm1%) 炭化物(φ2mm)1% 浮石(φ2mm)1%
30層 10YR3/4暗褐色土 10YR4/6褐色土1% 5YR4/8赤褐色土(φ20mm)1%　炭化物(φ2～5mm)1% 浮石(φ5mm)1%
31層 10YR3/4暗褐色土 5YR4/8赤褐色土3% 10YR5/6黄褐色土2% 炭化物(φ2mm) 1%
32層 10YR3/4暗褐色土 7.5YR4/6褐色土3% 7.5YR5/8明褐色土(φ10mm)1% 炭化物(φ3mm)1%　浮石(φ2～5mm)1%
33層 7.5YR5/8明褐色粘土 10YR4/6褐色土10% 10YR3/4暗褐色土1% 浮石(φ5～10mm)1%

図23　第11号竪穴建物跡

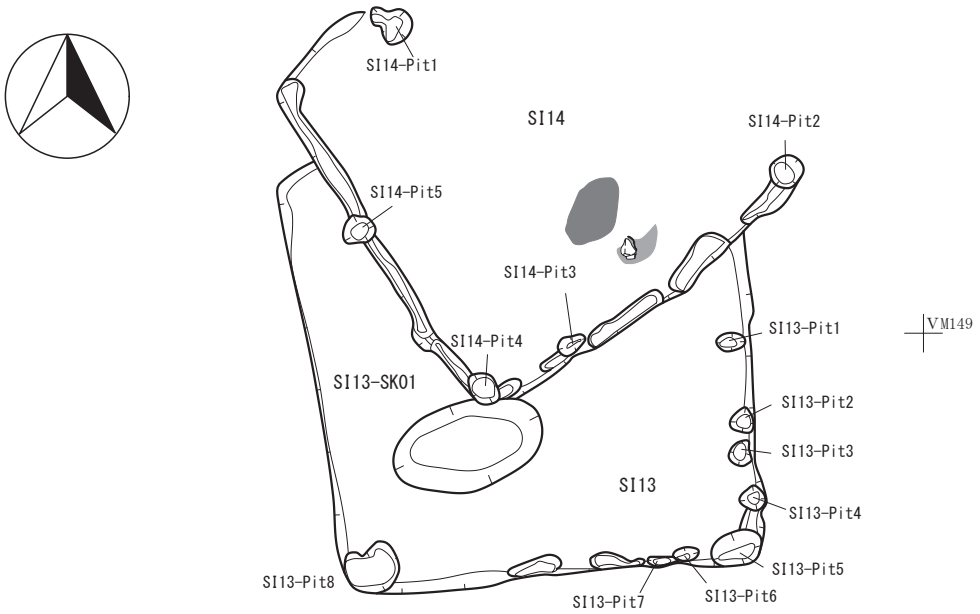


SI12(A-A'・B-B')
1層 10YR3/3暗褐色土 10YR4/6褐色土1% 7.5YR5/8明褐色土3% 炭化物(φ1～20mm)1% 浮石(φ2～10mm)1%
2層 10YR黒褐色土 7.5YR4/4褐色粘土10% 炭化物(φ2～20mm)1% 浮石(φ15mm)1%
3層 10YR2/3黒褐色 10YR5/6黄褐土10%7.5YR4/6褐色土1% 炭化物(φ2～20mm)1% 浮石(φ1～5mm)1%
4層 10YR3/3暗褐色土 10YR4/4褐色土1% 10YR4/6褐色土(φ3mm)1% 炭化物(φ1～5mm)1% 浮石(φ5mm)1%
5層 10YR3/3暗褐色土 Ⅴ層由来土1% 10YR4/6褐色土(φ30mm)1%
6層 10YR3/3暗褐色土 Ⅴ層由来土小塊(φ70mm)20%
7層 10YR4/3にぶい黄褐色土 Ⅴ層由来土小塊(φ10～50mm)
8層 10YR6/6明黄褐色土 Ⅴ層土由来土小塊(φ30mm)
9層10YR5/8黄褐色土(φ5mm)1%、10YR3/4暗褐色土5%、炭化物(φ3mm)1%
10層 10YR5/4にぶい黄褐色土、堅く締まる

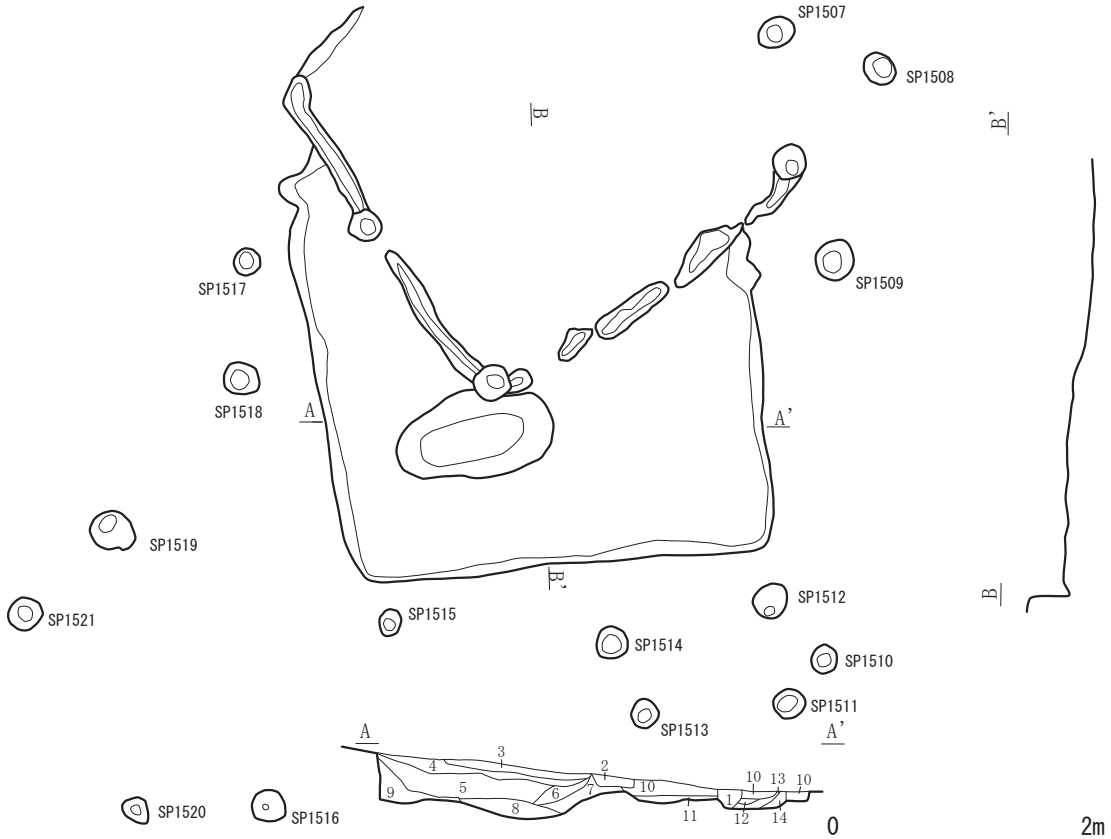
SI15(A-A'・B-B')
1層10YR2/3黒褐色土Ⅴ層由来土１%、10YR3/4暗褐色粘土1%、角礫(φ2～10mm)1%
2層10YR3/4暗褐色土10YR4/6褐色粘土10%、7.5YR 4/6褐色粘土1%、浮石(φ2～10mm)、炭化物1%
3層10YR3/4暗褐色土10YR6/6明黄褐色土1%,浮石(φ1mm)1%
4層10YR3/3暗褐色土10YR4/6褐色粘土２%、10YR5/4にぶい黄褐色粘土１%、炭化物1mm1%、浮石(φ1～3mm)1%
5層10YR3/3暗褐色土10YR5/4にぶい黄褐色粘土小塊(φ10～70mm)3%10YR4/6褐色土(φ5～10mm)1%炭化物(φ1～5mm)1%
6層10YR3/3暗褐色土10YR5/4にぶい黄褐色粘土(φ5mm) １%10YR2/2黒褐色土 1%
7層10YR3/4暗褐色土10YR5/4にぶい黄褐色粘土小塊(φ10～100mm)10%7.5YR4/6褐色土(φ20mm)1%炭化物(φ1～20mm)5%浮石φ1～5mm1%
8層10YR6/6明黄褐色土(φ20mm)小塊、浮石φ5～10mm１%、Ⅵ層由来小塊微量
9層10YR5/4にぶい黄褐色土Ⅶ層由来小塊20%
10層10YR4/3にぶい黄褐色土、Ⅴ層由来土小塊40%
11層10YR3/3暗褐色土 Ⅴ層由来土小塊20%

SI15(D-D')
1層 10YR3/3暗褐色土 10YR6/3にぶい黄橙褐色土20% 10YR6/6明黄褐色土10% 浮石(φ1mm～2mm)1%
2層 10YR4/2灰黄褐色粘土 10YR4/3黄褐色土50% 10YR6/3にぶい黄橙色土10% 炭化物(φ5mm)1%
3層 10YR4/3黄褐色土 10YR5/3にぶい黄褐色土30% 5YR6/6橙色土10mm2%
4層 10YR6/にぶい黄橙色粘土 10YR5/3にぶい黄褐色土20% 5YR6/4にぶい橙色土(φ10mm)2% 炭化物(φ3mm)1%
5層 5YR4/4褐色土 10YR5/3にぶい黄褐色土20% 10YR6/2灰黄褐色土20% 浮石(φ1mm～3mm)1% 10YR2/2黒褐色土1% 10YR5/8黄褐色土10%
6層 5YR3/6暗赤褐色土 7.5YR4/4褐色土10% 浮石(φ1mm)1%
7層 10YR4/6褐色土 Ⅴ層由来2% 炭化物(φ1mm)1% 浮石φ1mm1%

図24　第12・15号竪穴建物跡



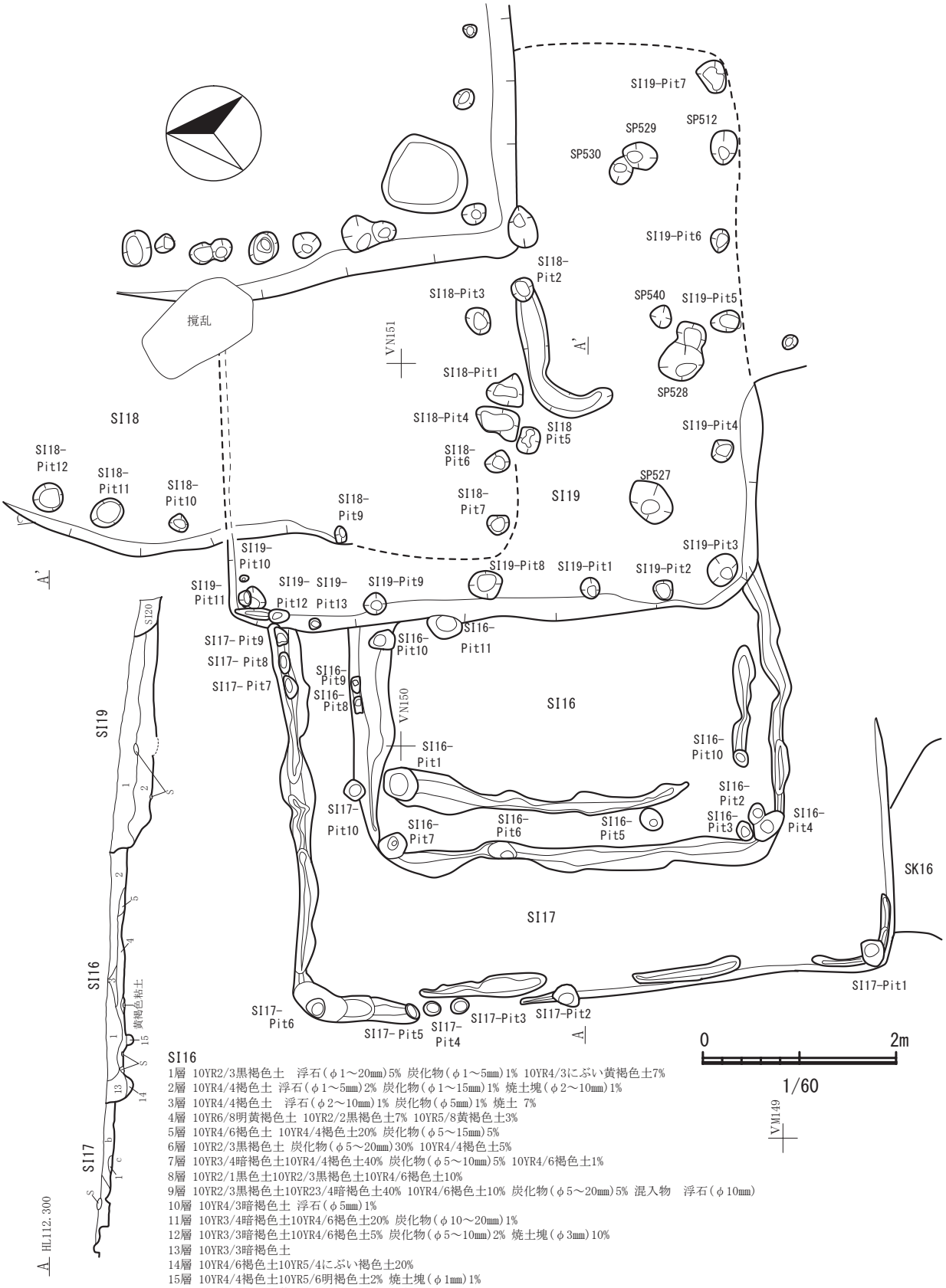
以下平成９年度弘前市教育委員会による発掘調査図に加筆・
再トレース（平成 10 年『弘前市内遺跡発掘調査報告書 2』）



B12 第２号住居跡（A-A'）

1層 黒褐色土10YR3/2しまりあり。湿性ややあり。炭化物、焼土、Ⅳ層の粒を含む。
2層 灰黄褐色土10YR4/2しまりあり。湿性少ない。焼土を多量に含む。
3層 黒褐色土10YR3/2しまりあり。湿性ややあり。炭化物・焼土、Ⅳ層の粒を含む。
4層 暗褐色土10YR3/3しまり、湿性ややあり。炭化物、焼土、Ⅳ層の粒を含む。
5層 黒褐色土10YR2/2しまり、湿性あり。炭化物、焼土、Ⅳ層の粒を含む。
6層 にぶい黄褐色土10YR4/3しまりあり。湿性ややあり。Ⅳ層のブロックの混入が目立つ。炭化物、焼土を含む。
7層 暗褐色土10YR3/3しまりゆるく、湿性ややあり。Ⅳ層のブロックの混入が目立つ。炭化物、焼土を含む
8層 黒褐色土10YR3/3しまりゆるく、湿性ややあり。炭化物を含む。
9層 黒褐色土10yR3/2しまりややあり。湿性あり。Ⅳ層のブロックを多量に含む。
10層 にぶい黄褐色土10YR4/3しまりあり。湿性少ない。炭化物、Ⅳ層の粒を含む。
11層 にぶい黄褐色土10YR4/3とてもよくしまっている。湿性少ない。炭化物、Ⅳ層の粒を含む。
12層 黒褐色土10YR3/2しまりあり。湿性ややあり。Ⅳ層のブロック、炭化物を含む。
13層 黒褐色土10YR3/2しまりややあり。湿性あり。Ⅳ層の粒を含む。
14層 黒褐色土 10YR2/2 しまりややあり、湿性あり。Ⅳ層の混入が目立つ

図25　第13・14号竪穴建物跡



SI16
1層 10YR2/3黒褐色土　浮石（φ1～20mm）5% 炭化物（φ1～5mm）1% 10YR4/3にぶい黄褐色土7%
2層 10YR4/4褐色土 浮石（φ1～5mm）2% 炭化物（φ1～15mm）1% 焼土塊（φ2～10mm）1%
3層 10YR4/4褐色土　浮石（φ2～10mm）1% 炭化物（φ5mm）1% 焼土 7%
4層 10YR6/8明黄褐色土 10YR2/2黒褐色土7% 10YR5/8黄褐色土3%
5層 10YR4/6褐色土 10YR4/4褐色土20% 炭化物（φ5～15mm）5%
6層 10YR2/3黒褐色土 炭化物（φ5～20mm）30% 10YR4/4褐色土5%
7層 10YR3/4暗褐色土10YR4/4褐色土40% 炭化物（φ5～10mm）5% 10YR4/6褐色土1%
8層 10YR2/1黒色土10YR2/3黒褐色土10YR4/6褐色土10%
9層 10YR2/3黒褐色土10YR23/4暗褐色土40% 10YR4/6褐色土10% 炭化物（φ5～20mm）5% 混入物　浮石（φ10mm）
10層 10YR4/3暗褐色土 浮石（φ5mm）1%
11層 10YR3/4暗褐色土10YR4/6褐色土20% 炭化物（φ10～20mm）1%
12層 10YR3/3暗褐色土10YR4/6褐色土5% 炭化物（φ5～10mm）2% 焼土塊（φ3mm）10%
13層 10YR3/3暗褐色土
14層 10YR4/6褐色土10YR5/4にぶい褐色土20%
15層 10YR4/4褐色土10YR5/6明褐色土2% 焼土塊（φ1mm）1%
16層 10YR6/4にぶい黄橙色土 10YR3/2黒褐色土40%
17層 10YR6/4にぶい黄褐色土

SI17
a層 10YR3/3暗褐色土10YR3/4暗褐色土30% 浮石（φ1～5mm）2% 炭化物（φ1～5mm）1%
b層 10YR3/3暗褐色土10YR3/4暗褐色土30% 10YR4/6褐色土10% 10YR5/8黄褐色土3% 浮石（φ1～10mm）1%
c層 10YR4/4褐色土固く締まっている

SI19
1層 10YR4/4褐色土10YR5/6黄褐色土30% 焼土（φ3～10mm） 炭化物（φ5～20mm） 浮石（φ2～10mm）
2層 10YR4/4褐色土10YR5/6黄褐色土20% 7.5YR4/6褐色土（φ10～15mm） 炭化物（φ5～20mm）2% 浮石（φ5mm）1%　焼土1%

図26　第16・17・18・19号竪穴建物跡

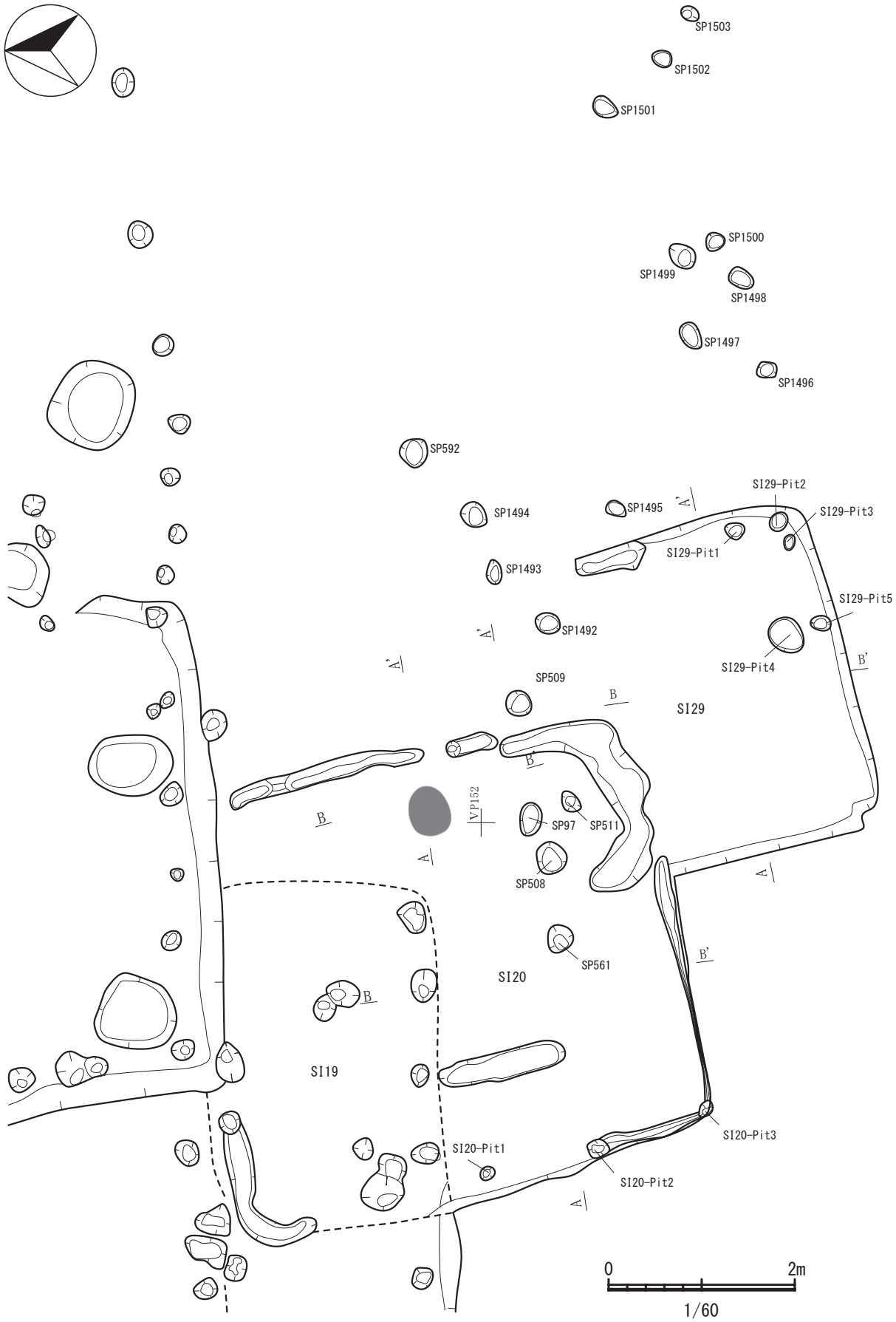
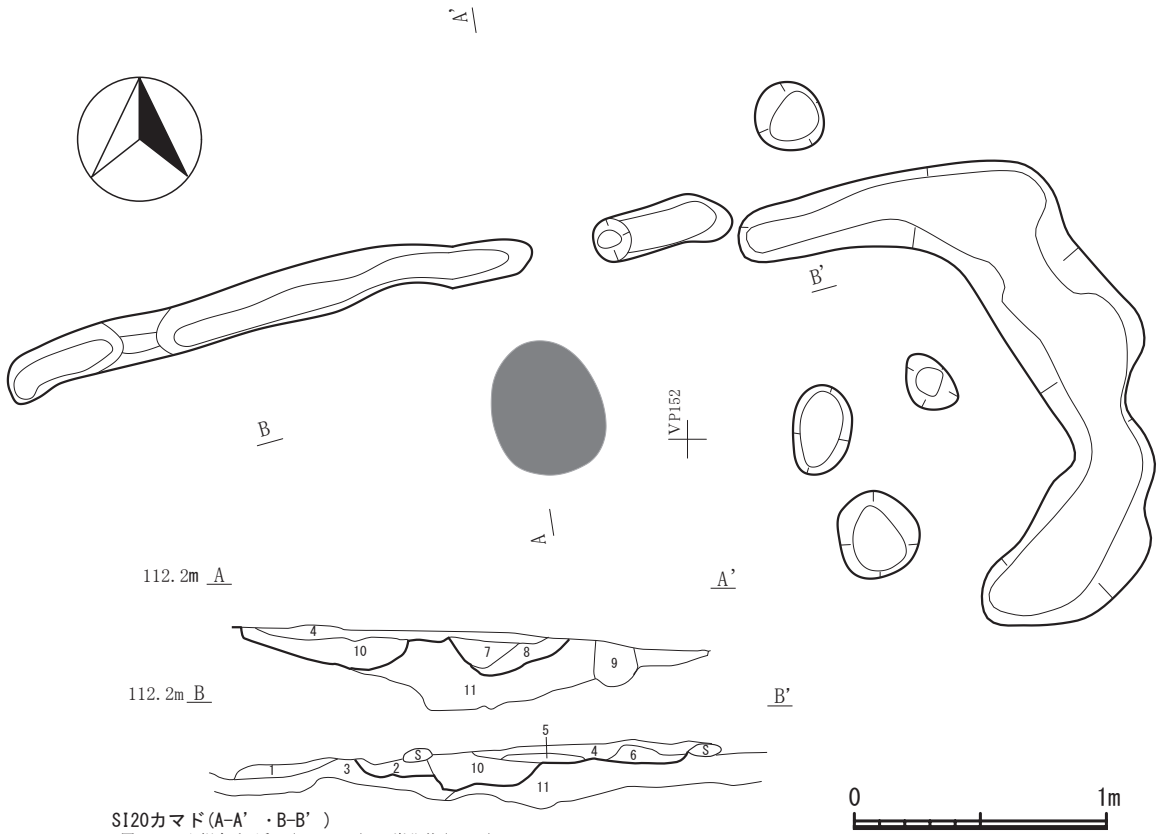
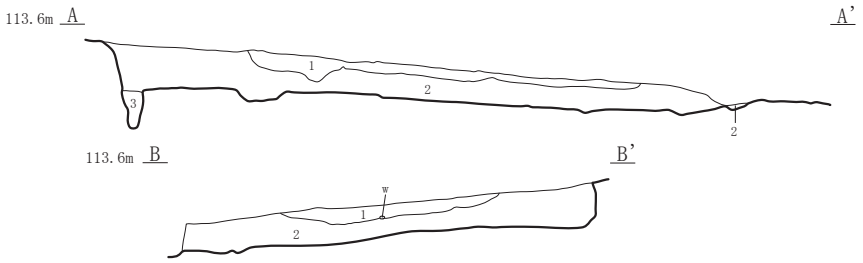


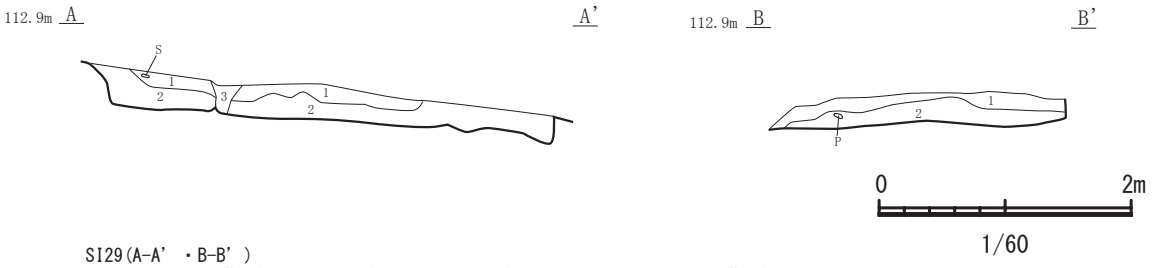
図27　第20・29号竪穴建物跡（１）



SI20カマド(A-A'・B-B')
1層 10YR4/6褐色土 浮石(φ1～5mm)1% 炭化物(φ1mm)1%
2層 10YR4/6褐色土 10YR4/4褐色土20%
3層 10YR5/4にぶい褐色土 10YR4/4褐色土20% 炭化物(φ1mm)1%
4層 10YR4/4褐色土 10YR4/3にぶい褐色土30% 10YR5/6黄褐色土塊(φ20mm)炭化物(φ1mm)3% 5YR4/6赤褐色土30% 5YR3/4暗褐色焼土30%
5層 10YR4/4褐色土 5YR6/4赤褐色土30% 5YR4/4にぶい赤褐色焼土20%
6層 10YR5/6黄褐色土 10YR5/4にぶい黄褐色土30%締まりあり 10YR4/6褐色土10%
7層 10YR4/6褐色土 10YR3/4暗褐色土20%
8層 10YR4/4褐色土 10YR4/3にぶい黄褐色土20% 炭化物(φ1mm)1%
9層 10YR4/3にぶい黄褐色土 10YR3/4暗褐色土20% 10YR4/4褐色土20% 炭化物(φ1mm～3mm)1%
10層 5YR4/6赤褐色土(焼土粒) 7.5YR4/4褐色土10% 炭化物(φ1mm)1%
11層 10YR4/6褐色土 10YR6/8明黄褐色土(φ2～3mm)1% 炭化物(φ1～2mm)1% 浮石(φ1～10mm)1%

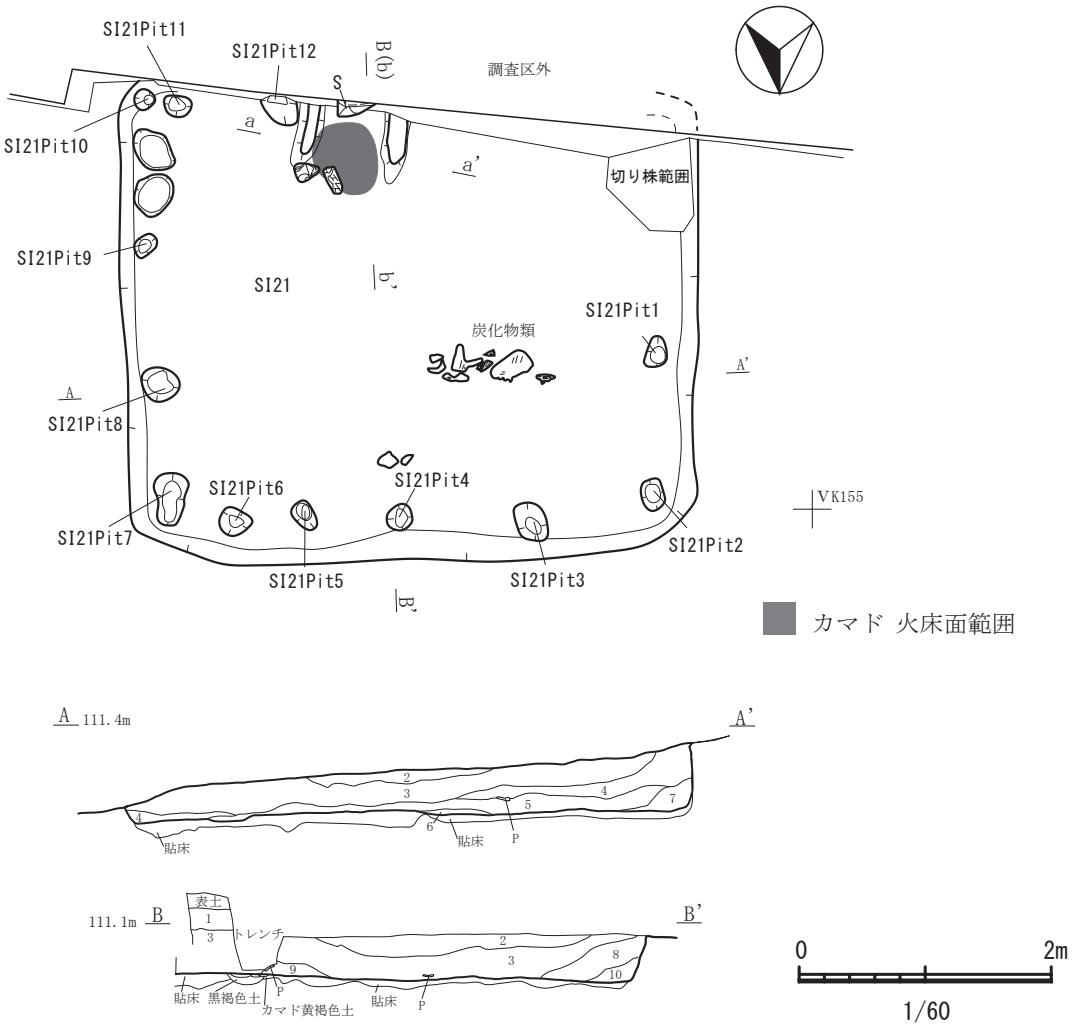


SI20(A-A'・B-B')
1層 10YR4/3にぶい黄褐色土 10YR4/2灰黄褐色土30%10YR4/4褐色土10%
2層 10YR4/3にぶい黄褐色土 10YR4/4褐色土40% 10YR4/6褐色土20% 10YR5/6黄褐色土20%締まりあり 炭化物(φ5～30mm)5%
3層 10YR4/2灰黄褐色土



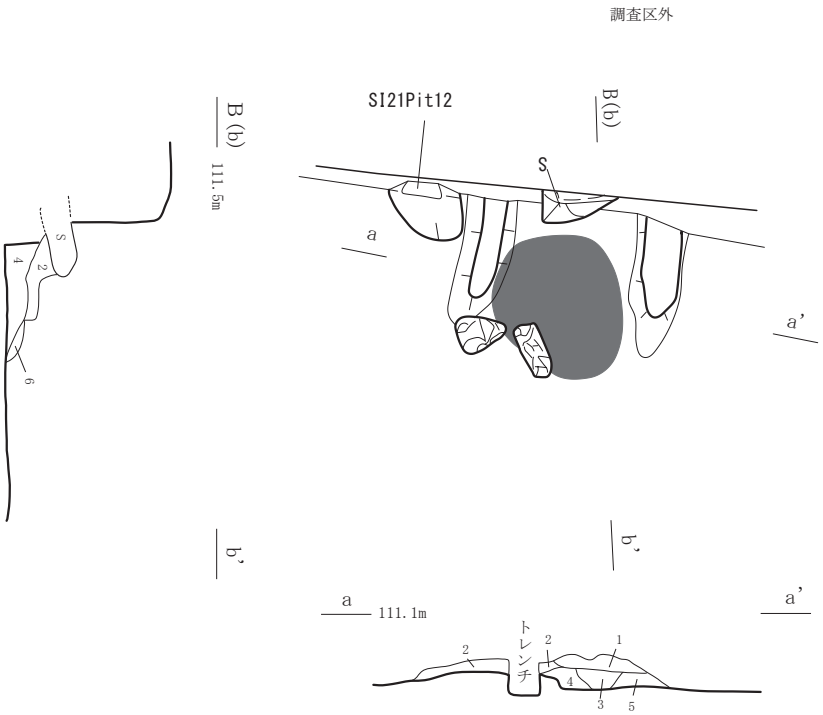
SI29(A-A'・B-B')
1層 10YR5/4にぶい黄褐色土 10YR4/4褐色土30% 10YR4/6褐色土小塊(φ25～50mm) 10YR7/8黄褐色土(φ10mm) 炭化物(φ5～7mm)1% 浮石(φ5～10mm)3%
2層 10YR4/3にぶい黄褐色土 10YR5/4にぶい黄褐色土30% 10YR4/6褐色土小塊(φ40mm)1% 炭化物(φ2～15mm)3% 浮石(φ2～20mm)3%
3層 10YR3/4暗褐色土 10YR2/3黒褐色土30% 10YR4/4褐色土15% 浮石(φ1mm)1% 炭化物(φ1mm)1%

図28　第20・29号竪穴遺構（２）



SI21
1層 10YR3/2 黒褐色 ピンクローム φ2～3mm3% 黄褐色ローム φ10～30mm1% 焼土(1mm)% 炭化物(2～5mm)%
2層 10YR5/3 にぶい黄褐色 ローム(にぶい黄橙10YR7/4) φ5～50mm5% 浮石 φ5～10mm1% 粘土状の炉壁塊を含む φ5mm以下2% 球状の鉄滓を含む φ2mm以下1%
3層 10YR4/4 褐色 ローム5～30mm10% 浮石 φ3～30mm3% 5～10mmの礫を少量含む 炭化物 φ2～8mm1%
4層 10YR5/4 にぶい黄褐色 黄褐色ローム(10YR5/6) φ10～30mm3% ピンクローム 褐色10YR4/6 φ10mm1% 炭化物 φ2～3mm3%
5層 10YR3/4 暗褐色 ローム φ2～20mm1～2% ピンクローム φ30mm2% 炭化物 φ1～10mm3%
6層 10YR3/4 暗褐色 炭化物 φ1～30mm50%以上を含む ピンクローム φ20mm1%
7層 10YR4/4 褐色 ローム φ1～3mm2%　炭化物 φ1mm3%
8層 10YR5/4 にぶい黄褐色　ピンクロームブロック φ20～70mm20%　明黄褐色ローム φ20～40mm10% にぶい黄橙色ローム φ5～20mm5% 炭化物10mm以下1%
9層 10YR3/4 暗褐色 明黄褐色ローム φ5～20mm5% ピンクロームブロック(30mm以下)3% 炭化物(φ1～2mm)1% 焼土(φ1mm)1%
10層 10YR3/4 暗褐色 黄褐色ローム φ10～40mm10% ピンクローム φ10～40mm5% 炭化物 φ1mm1%
貼床覆土　黒褐色土60%　千曳浮石層10%(Ⅴ層) ピンクローム10%(Ⅶ層) Ⅵ層20%の混土層

図29　第21号竪穴建物跡（１）

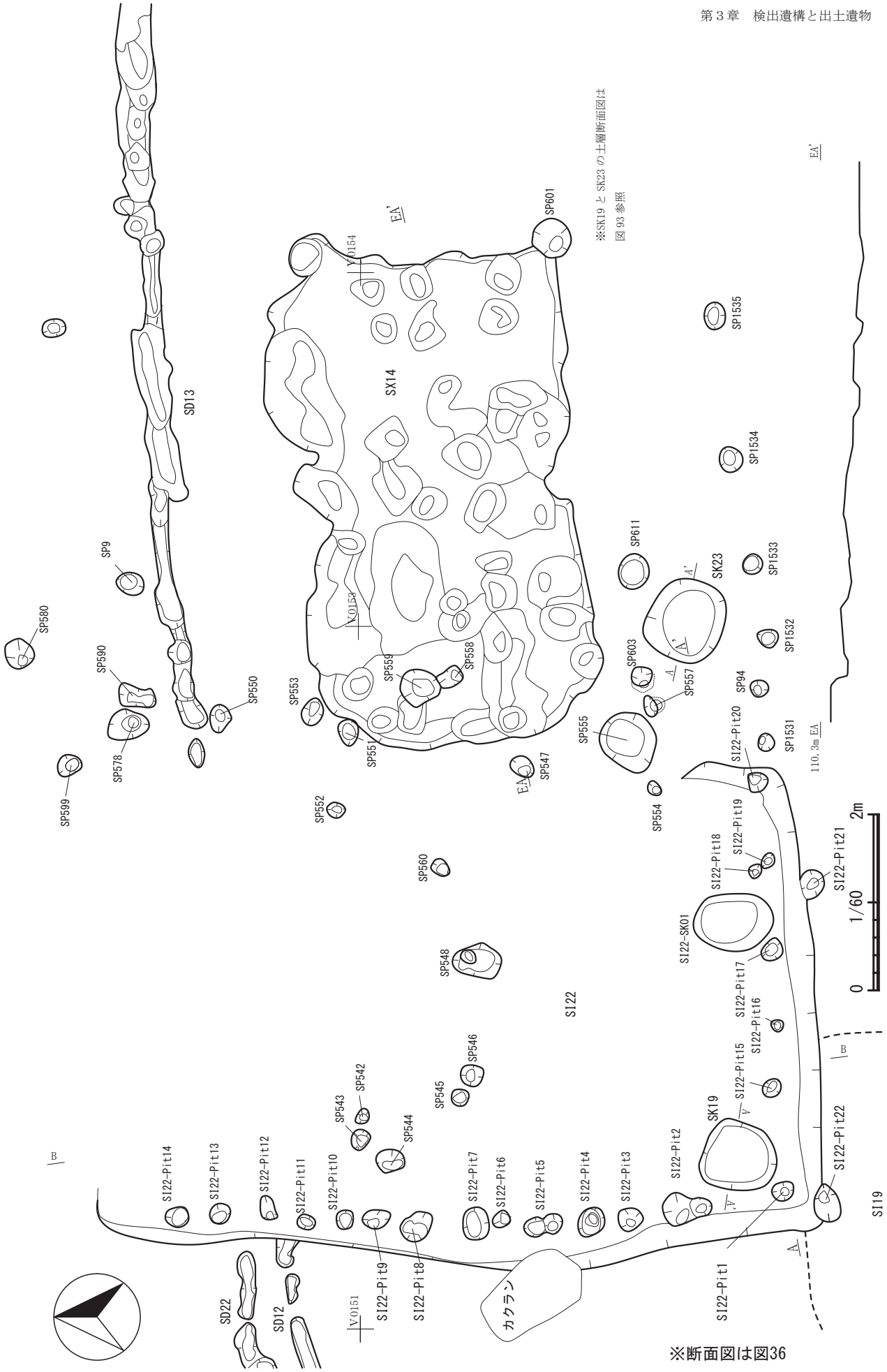


SI21カマド

1層 10YR4/3 にぶい黄褐色　焼土 褐色(7.5YR4/3)φ1～30㎜の塊あり30%
黄褐色ローム(10YR5/6)φ1～10㎜1% 灰黄褐色(10YR4/2)少量含む カマド天井部崩落粘土
2層 10YR3/4 暗褐色 炭が土壌化したものに少量のロームが混入 炭化物φ1～5㎜2% 焼土少量混入
3層 10YR3/3 暗褐色 焼土φ1～5㎜30% ロームφ1～40㎜10% 土壌化した炭を少量含む 流入土
4層 10YR2/3 黒褐色 ロームφ2～10㎜3% 炭化物φ2～10㎜以下10% 焼土φ2～5㎜1% 流入土
5層 10YR3/4 暗褐色 にぶい黄褐色ローム(10YR5/6)少量含む 一部に焼土塊有り 土壌化した炭が一部混じる カマドソデの一部
6層 10YR4/3 にぶい黄褐色 土壌化した炭にロームが少量混じる 焼土φ5～20㎜3% 炭化物φ1～3㎜以下1% カマド天井部崩落土

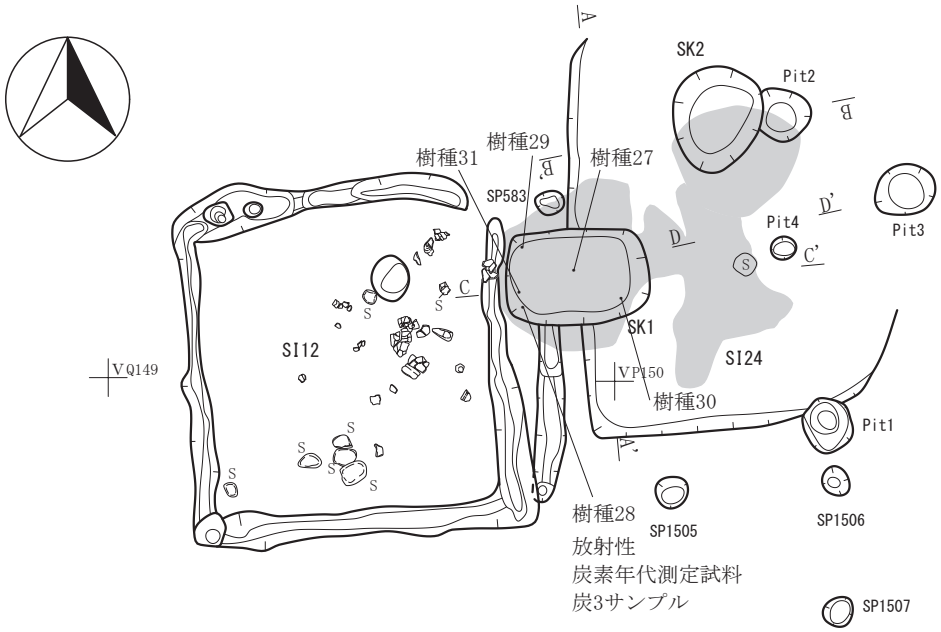
SI21 カマド遺物出土状況

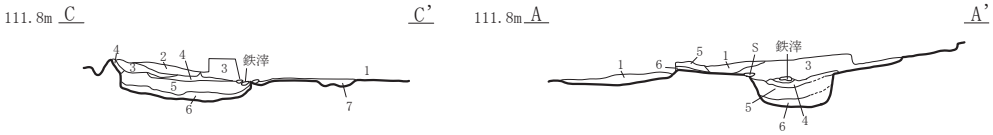
図30　第21号竪穴建物跡（２）



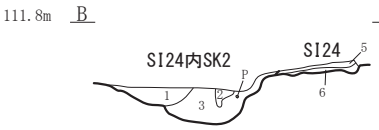
※断面図は図36

図31　第22号竪穴遺構・第14号性格不明遺構



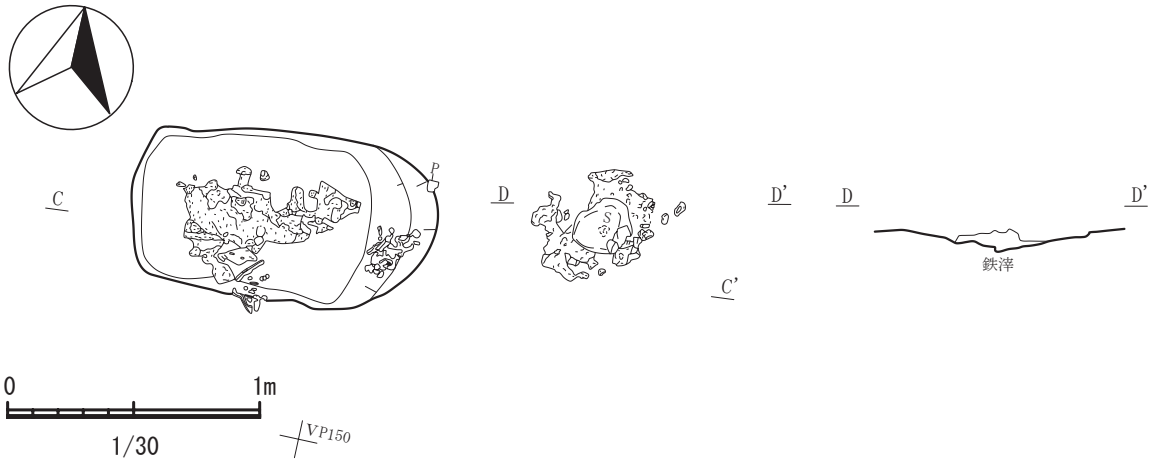


SI24内SK1(A-A'・C-C')
1層 10YR2/3黒褐色土 10YR5/4にぶい黄褐色粘土(φ2～10mm) 1% 5YR4/4にぶい赤褐色土(φ20mm)1% 浮石(φ2～4mm)1% 炭化物(φ1～5mm)1%(焼土)
2層 鉄滓層 7.5YR3/4暗褐色土 10YR2/1黒色土20% 黒褐色土30% 5YR3/6暗赤褐色土(焼土)10% 10YR5/8黄褐色土5% 炭化物(φ5mm)10%
3層 10YR3/4暗褐色土 10YR2/3黒褐色土5% 10YR5/8黄褐色土1% 7.5YR4/6褐色土(φ5mm)1% 炭化物(φ1～15mm)1% 浮石(φ1～10mm)1%
4層 7.5YR3/4暗褐色土 10YR3/4暗褐色土50% V層土由来
5層 7.5YR5/4にぶい褐色土(焼土) 7.5YR4/6褐色土40% 浮石(φ1mm)1% 炭化物(φ1mm)1%
6層 2.5YR4/2 オリーブ褐色土10(灰) 炭化物小塊20% 7.5YR5/8明褐色土(焼土)5% 鉄滓
7層 鉄滓層



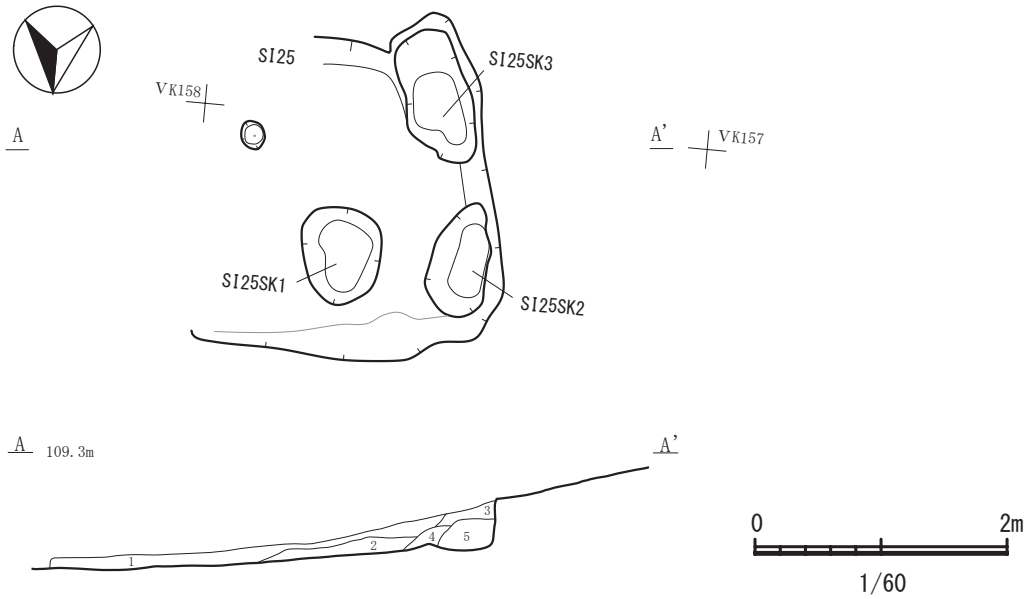
SI24内SK2(B-B')
1層 10YR3/4暗褐色土 10YR2/2黒褐色土10% 10YR4/4炭化物(φ1～5mm)1%
2層 10YR1.7/1黒色土 10YR2/3黒褐色土30% 10YR5/4にぶい黄褐色土30%
3層 10YR2/3黒褐色土 10YR2/2黒褐色土30% 10YR8/2灰色粘土混合の小塊φ30mm1%
炭化物(φ2～30mm)5% 浮石(φ1mm)1%

0 2m
1/60



0 1m
1/30

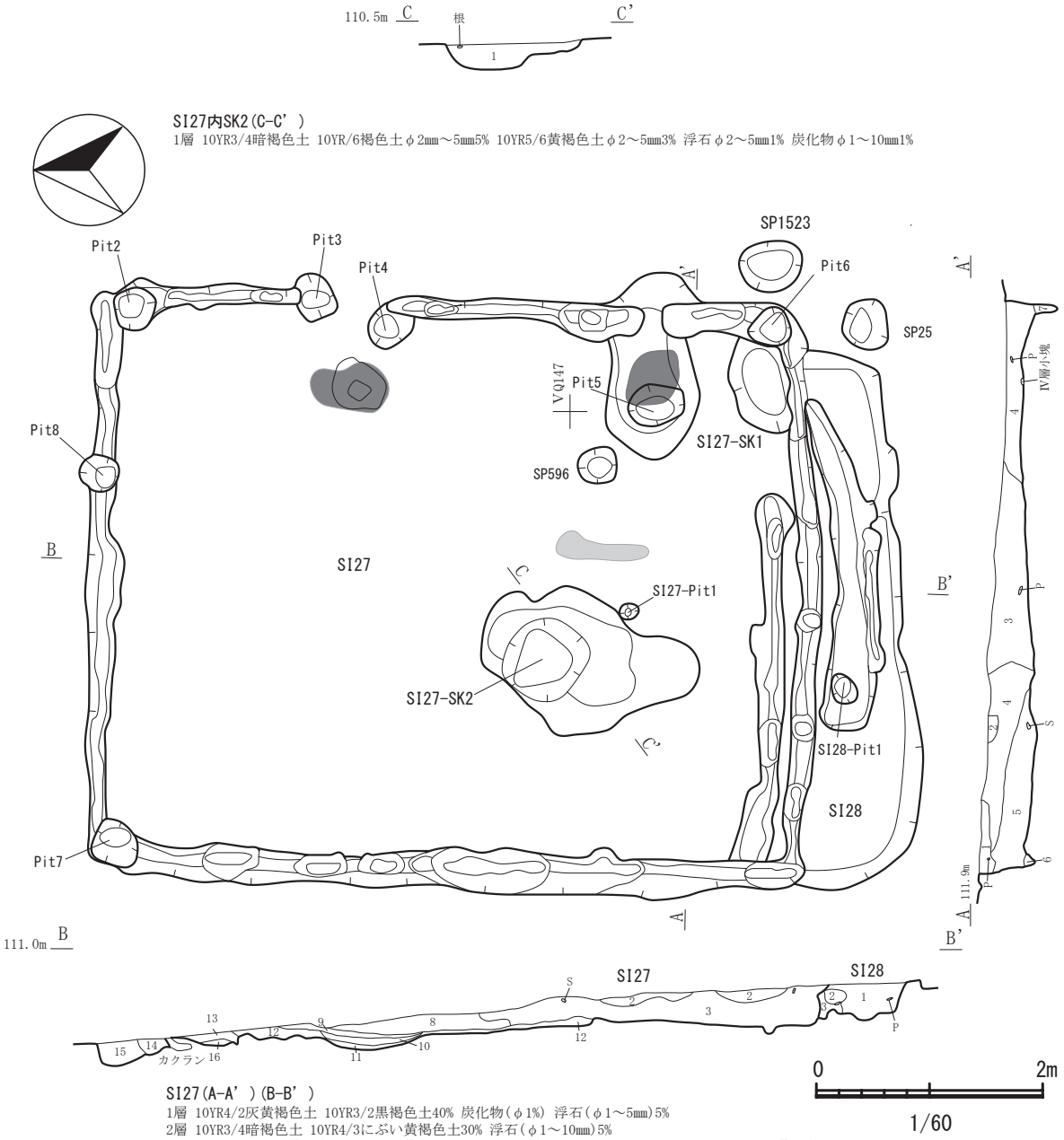
図32 第24号竪穴建物跡



SI25
1層 10YR4/4 褐色 黄褐色ロームφ10㎜以下1% ピンクロームφ30㎜以下1% 炭化物φ10㎜以下3% 焼土粒φ2㎜以下微量
2層 10YR3/4 暗褐色 ピンクロームφ20㎜以下5% 黄褐色ロームφ10㎜以下2% 炭化物φ10㎜以下1% 焼土φ10㎜以下微量
3層 10YR3/3 暗褐色 ピンクロームφ15㎜以下5% 黄褐色ロームφ20㎜以下1% 炭化物φ10㎜以下1% 焼土φ10㎜以下微量
4層 10YR3/4 暗褐色 ピンクロームブロックφ30㎜以下20% 炭化物φ5㎜以下微量
5層 10YR3/3 暗褐色 ピンクロームφ20㎜以下5% 黄褐色ロームφ10㎜以下1% 焼土φ10㎜以下微量 炭化物φ10㎜以下微量

SI25 調査状況

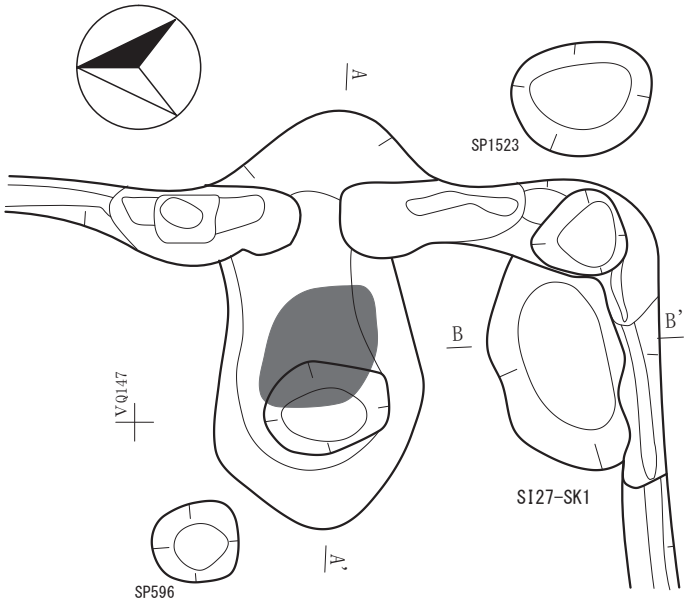
図33　第25号竪穴建物跡

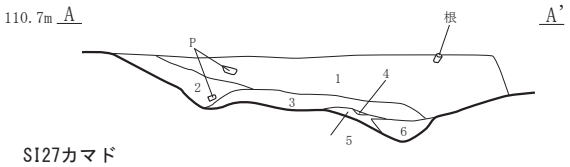


SI27(A-A')(B-B')
1層 10YR4/2灰黄褐色土 10YR3/2黒褐色土40% 炭化物(φ1%) 浮石(φ1～5mm)5%
2層 10YR3/4暗褐色土 10YR4/3にぶい黄褐色土30% 浮石(φ1～10mm)5%
3層 10YR4/3にぶい黄褐色土 10YR5/6黄色土6% 10YR4/6褐色土3% 10YR3/2黒褐色土7% 10YR7/6明黄褐色土2% 浮石(φ30mm)
4層 10YR4/2灰黄褐色土 10YR4/3にぶい黄褐色土40% 10YR2/3黒褐色土5%
5層 10YR4/3にぶい黄褐色土 10YR4/4褐色土40% 10YR3/3暗褐色土20% 浮石(φ80mm)1%
6層 10YR4/3にぶい黄褐色土 10YR4/4浮石30%
7層 10YR4/2灰黄褐色土 10YR3/3暗黄褐色土30% 10YR4/6褐色土10%
8層 10YR4/4褐色土 Ⅵ層由来ローム小塊20% Ⅶ層由来ローム小塊10% 炭化物(φ1～2mm)焼土粒あり1%
9層 10YR4/4褐色土 Ⅵ層由来ローム小塊20% Ⅶ層由来ローム小塊10% 炭化物(φ1～2mm)1% 浮石(φ1～5mm)1%
10層 10YR6/8明黄褐色土 炭化物(φ10% Ⅵ層由来小塊) 浮石(φ1mm)1% 10YR4/4褐色土1%
11層 10YR6/8明黄褐色土 炭化物(φ20%) 焼土小塊(φ1%) Ⅵ層由来粒1%
12層 10YR4/6褐色土 10YR3/4暗褐色土10% 10YR5/8黄褐色土1% 7.5YR4/6褐色土1% 浮石(φ1～5mm)1% 炭化物(φ1～2mm)1%
13層 10YR4/4褐色土 Ⅴ層由来 浮石φ5mm1% 炭化物(φ1～5mm)1%
14層 10YR3/4暗褐色土 10YR4/4褐色土2% 浮石(φ1～3mm)1% 炭化物(φ1～2mm)1%
15層 10YR6/8明黄褐色土 10YR2/3黒褐色土1% 浮石(φ1mm)1% 炭化物(φ1mm)1%
16層 10YR4/4褐色土 10YR3/3暗褐色土5% 浮石(φ1mm)1% 炭化物(φ1mm)1%

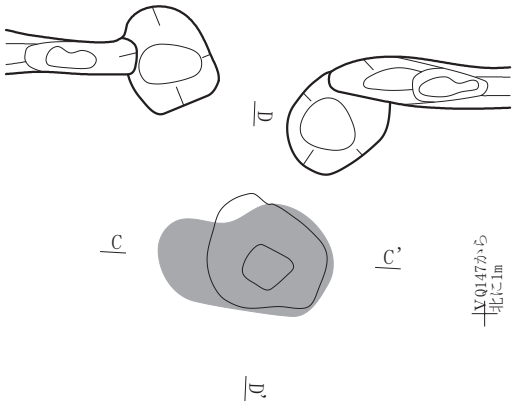
SI28(B-B')
1層 10YR4/3にぶい黄褐色土 Ⅵ層由来ローム小塊10% 炭化物(φ1～5mm)1% 浮石(φ10mm)1%
2層 10YR6/8明黄褐色土 粘土質あり 浮石あり(φ1～5mm)1% 炭化物(φ1mm)1%
3層 10YR3/4暗褐色土 Ⅶ層由来ローム小塊30% 焼土粒(5YR4/4にぶい赤褐色土)1% 炭化物(φ1～5mm)1% Ⅴ層由来ローム小塊1%

図34　第27・28号竪穴建物跡

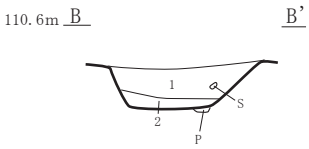




SI27カマド
1層 10YR3/3暗褐色土 7.5YR4/6褐色土1% Ⅴ層由来 浮石(φ1～10mm)2%
炭化物(φ1～5mm)1%
2層 Ⅴ層土 10YR2/3黒褐色土20% 7.5YR4/6褐色土(φ2mm)1% 浮石(φ1mm)1%
炭化物(φ1～2mm)1%
3層 10YR3/4暗褐色土 10YR4/4褐色土20% 10YR5/4にぶい黄褐色土小塊7%
5YR3/6暗赤褐色土(焼土)1% 浮石(φ1～10mm)1% 10YR2/1黒色土1% 炭化物(φ1mm)1%
4層 10YR4/2灰黄褐色土 10YR6/2灰黄褐色土20%
5層 10YR6/1灰褐色土 10YR4/3にぶい黄褐色土10% 7.5YR5/6明褐色土(焼土)1%
炭化物小塊1%
6層 10YR2/1黒色土 10YR3/4暗褐色土2% 10YR4/6褐色土(φ5mm)1% 炭化物
(φ1～20mm)2%



SI27　2号カマド(C-C'・D-D')
1層 10YR4/4褐色土 10YR5/4にぶい黄褐色土30% 2.5YR3/2黒褐色土20% 7.5YR5/6明褐色土φ1～7mm1%(焼土) 炭化物φ1～5mm1% 浮石φ1mm1%



SI27内SK1(B-B')
1層 10YR4/3にぶい黄褐色土 Ⅴ層由来ブロック1% 浮石(φ1mm)1% 焼石φ50mm10% 焼土粒あり1%
2層 10YR4/3にぶい黄褐色土 Ⅶ層由来ブロック1% 炭化物(φ5mm)Ⅴ層由来 浮石(φ1mm)1% 土器1点

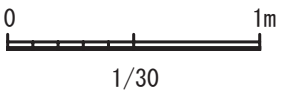
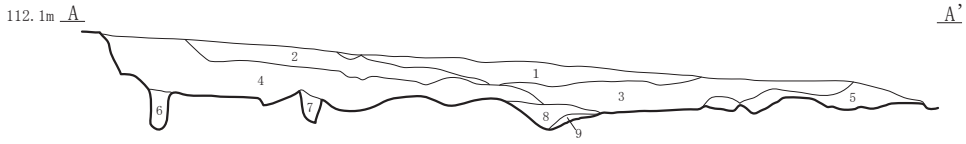
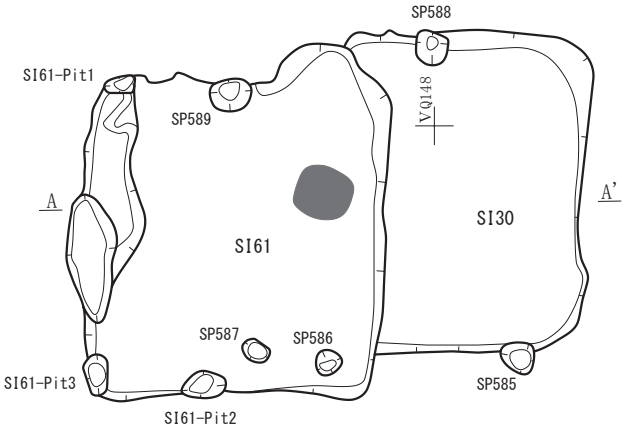


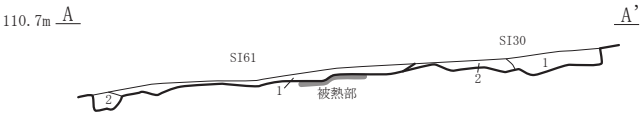
図35　第27号竪穴建物跡

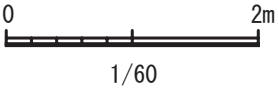


SI22(A-A'・B-B')
1層 10YR3/4暗褐色土 10YR4/6暗褐色土30% 浮石(φ5～15mm)2% 焼土塊(φ5mm)1%
2層 10YR3/4暗褐色土 10YR4/6暗褐色土5% 炭化物(φ5mm～10mm)2%浮石(φ5～15mm)1%
3層 10YR4/4褐色土 10YR2/3黒褐色土25% 10YR5/6黄褐色土5% 浮石(φ10～20mm)3% 焼土塊(φ20mm)1%
4層 10YR4/4褐色土 10YR3/4暗褐色土7% 浮石φ15～40mm5% 炭化物(φ5～10mm)1%
5層 10YR3/4暗褐色土 10YR4/4褐色土30% 10YR5/6にぶい黄褐色土20% 炭化物 (φ1～10mm) 3% 焼土塊(φ5mm)
6層 10YR4/4褐色土締まり無し
7層 10YR4/4褐色土 10YR4/6黄褐色土10% 10YR5/8黄褐色土1%
8層 10YR3/4暗褐色土 10YR4/6褐色土7%締まりあり 炭化物(φ1～10mm) 浮石(φ5mm)1%
9層 10YR3/4暗褐色土 10YR4/6褐色土30% 焼土塊(φ10mm)2% 炭化物(φ10mm)1%
10層 10YR3/4暗褐色土 10YR4/4褐色土15% 10YR5/3にぶい褐色土５% 10YR5/2灰黄褐色土1% 10YR6/4にぶい黄橙色1%炭化物(φ1mm～10mm)3% 浮石(φ5mm)1%
11層 10YR3/4暗褐色土(φ1～3mm)炭化物粒3%

※SI22 平面図は図 31



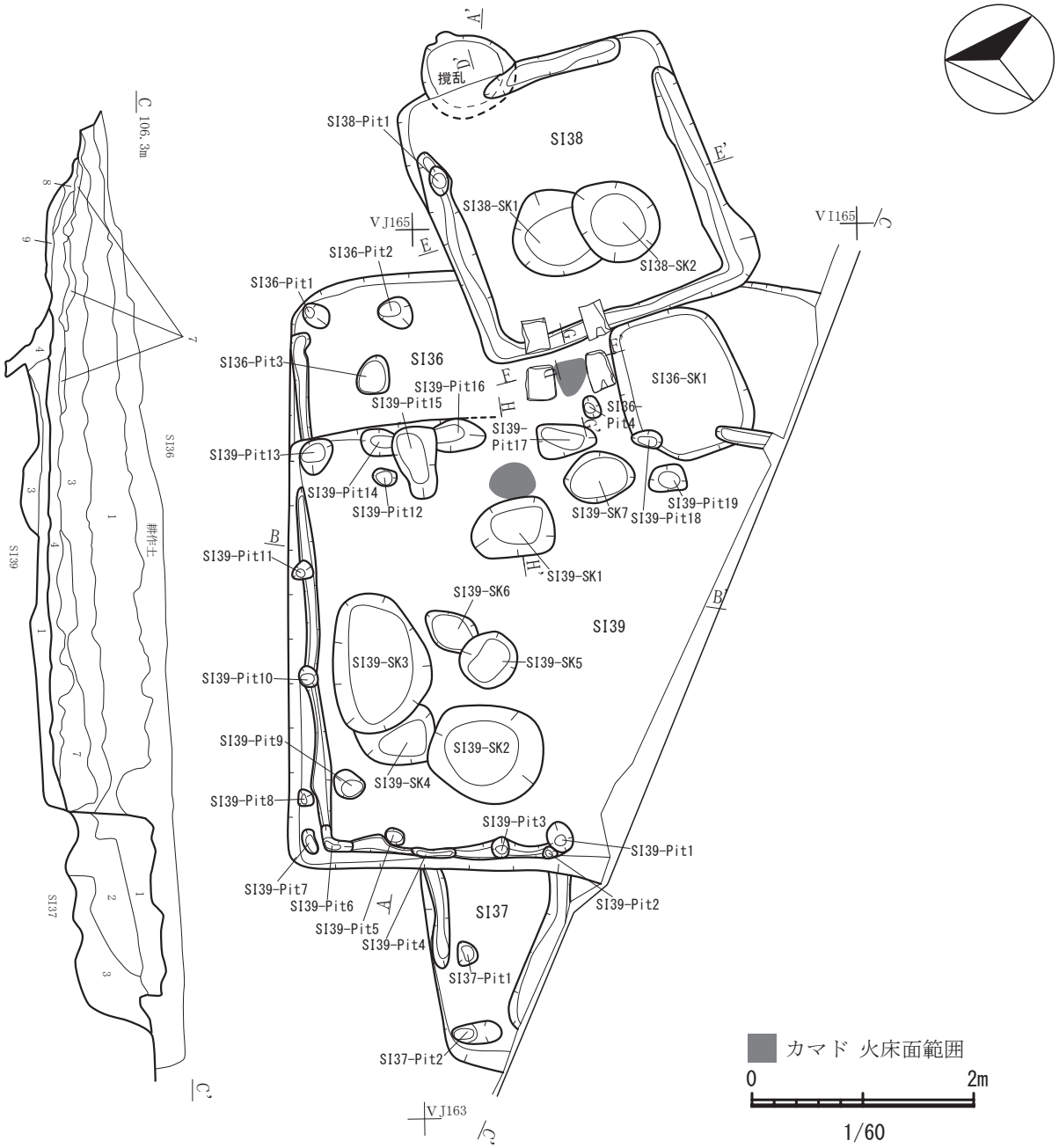




SI30
1層 10YR3/4暗褐色土 10YR4/4褐色土小塊(φ50mm)1% 炭化物(φ2mm)1%
2層 10YR3/4暗褐色土 Ⅴ層由来 7.5YR4/6褐色土(焼土)小塊2% 炭化物(φ2～5mm)3% 浮石φ1～5mm1%

SI61
1層 10YR3/4暗褐色土 10YR4/4褐色土(φ5～10mm)10% 10YR2/1黒色土10% 7.5YR4/6褐色土(焼土)1% 炭化物(φ1～5mm1)% 浮石(φ1～10mm)1%
2層 10YR4/4褐色土 10YR3/4暗褐色土2%

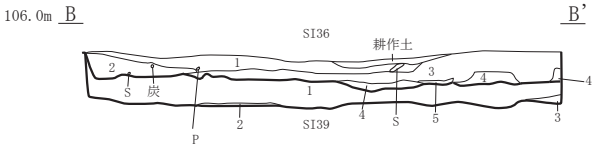
図36　第30・61号竪穴建物跡



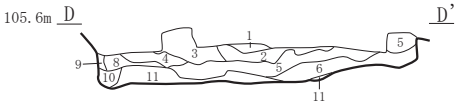
SI36
1層 10YR3/4暗褐色土　Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～5㎜）1%　Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～20㎜）10%　炭化物（φ1～30㎜）7%　焼土ブロック（φ1～2㎜）2%
2層 10YR2/3黒褐色土　Ⅴ層由来ロームブロック（φ～1㎜）1%　Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～3㎜）2%　炭化物（φ2～20㎜）5%、焼土ブロック（φ1～5㎜）1%
3層 5YR5/6 暗赤褐色土　Ⅶ層由来ロームブロック（φ～30㎜）3%　焼土ブロック（φ1～5㎜）1%　炭化物（φ1～5㎜）1%
4層 10YR2/3 暗褐色土　Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～10㎜）1%　焼土ブロック（φ1～100㎜）10%　炭化物（φ1～70㎜）7%
5層 10YR1.7/1 黒色土　Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～10㎜）2%　焼土（φ1～5㎜）2%　炭化物（φ1～10㎜）50%
6層 10YR2/3 褐色土　Ⅴ層由来ロームブロック（φ2～5㎜）3%　焼土ブロック（φ1～5㎜）1%　炭化物（φ1～5㎜）1%　Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～100㎜）30%
7層 10YR3/3 暗褐色土　Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～40㎜）10%　Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～30㎜）10%　粘土ブロック（φ1～20㎜）10%
　焼土ブロック（φ1～20㎜）2%　炭化物（φ1～20㎜）7%
8層 10YR2/3 黒褐色土　Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～2㎜）1%　Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～20㎜）3%　焼土ブロック（φ1～10㎜）2%　炭化物（φ1～10㎜）2%
9層 10YR2/3 暗褐色土　Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～10㎜）1%　Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～20㎜）15%　炭化物（φ1～10㎜）30%

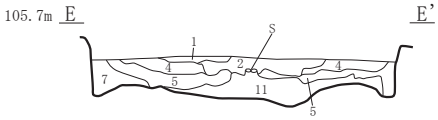
SI37
1層 10YR3/4 暗褐色土　Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～5㎜）1%　Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～20㎜）10%　炭化物（φ1～30㎜）7%　焼土ブロック（φ1～2㎜）2%　SI77 覆土
2層 10YR2/3 黒褐色土　Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～20㎜）5%　Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～30㎜）3%　焼土ブロック（φ1～20㎜）2%　炭化物（φ1～10㎜）3%
3層 10YR4/4 褐色土　Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～25㎜）7%　Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～30㎜）15%　粘土ブロック（φ1～20㎜）7%　炭化物（φ1～10㎜）7%

図37　第36・37・38・39号竪穴建物跡（１）

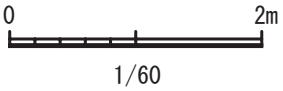


SI39
1層 10YR3/4 暗褐色土 Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～30㎜）3% 焼土ブロック（φ1～10㎜）1% 炭化物（φ1～5㎜）1%
2層 10YR4/3にぶい黄褐色土 Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～10㎜）1% 炭化物（φ1～20㎜）2%
3層 10YR3/3 暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～20㎜）2% Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～30㎜）10% 粘土ブロック（φ1～10㎜）2%
焼土ブロック（φ1～20㎜）3% 炭化物（φ1～20㎜）3%
4層 10YR4/4 褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～20㎜）7% Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～40㎜）15% 炭化物（φ1～10㎜）5%



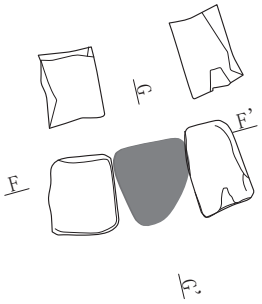


SI38
1層 10YR1.7/1黒色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～5㎜）3% Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～5㎜）2% 炭化物（φ～1㎜）1%
2層 10YR2/2黒褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～20㎜）3% Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～40㎜）2% 炭化物（φ1～5㎜）3%
3層 10YR3/4暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～40㎜）30% Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～25㎜）3% 焼土ブロック（φ1～10㎜）1% 炭化物（φ1～10㎜）3%
4層 10YR3/3暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～30㎜）40% 焼土ブロック（φ1～10㎜）3% 炭化物（φ1～10㎜）5%
5層 10YR2/2黒褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～20㎜）30% Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～20㎜）5% 焼土ブロック（φ1～20㎜）5% 炭化物（φ1～30㎜）20%
6層 10YR2/3黒褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～30㎜）10% 焼土ブロック（φ1～10㎜）1% 炭化物（φ1～10㎜）2%
7層 10YR3/4暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～20㎜）15% 焼土ブロック（φ～1㎜）1% 炭化物（φ1～5㎜）3%
8層 7.5YR4/4褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～50㎜）30% 焼土ブロック（φ1～100㎜）40% 炭化物（φ1～2㎜）10%
9層 10YR3/2黒褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～5㎜）10% 焼土ブロック（φ1～2㎜）1% 炭化物（φ1～2㎜）1%
10層 10YR4/4褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～25㎜）10% 焼土ブロック（φ1～10㎜）2% 炭化物（φ1～2㎜）1%
11層 10YR2/1黒色土 炭化物（φ1～20㎜）100%

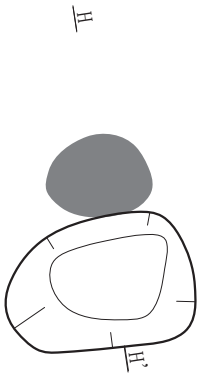


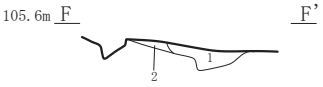
1/60

SI36カマド

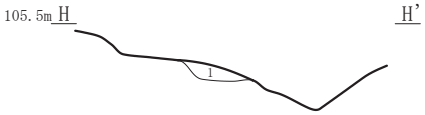


SI39カマド



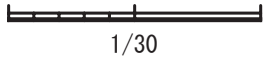


SI36カマド
1層 5YR4/8 赤褐色土 火床面
2層 SI36の4層



SI39カマド
1層 5YR5/8明赤褐色土 火床面

カマド 火床面範囲



1/30

図38　第36・37・38・39号竪穴建物跡（２）

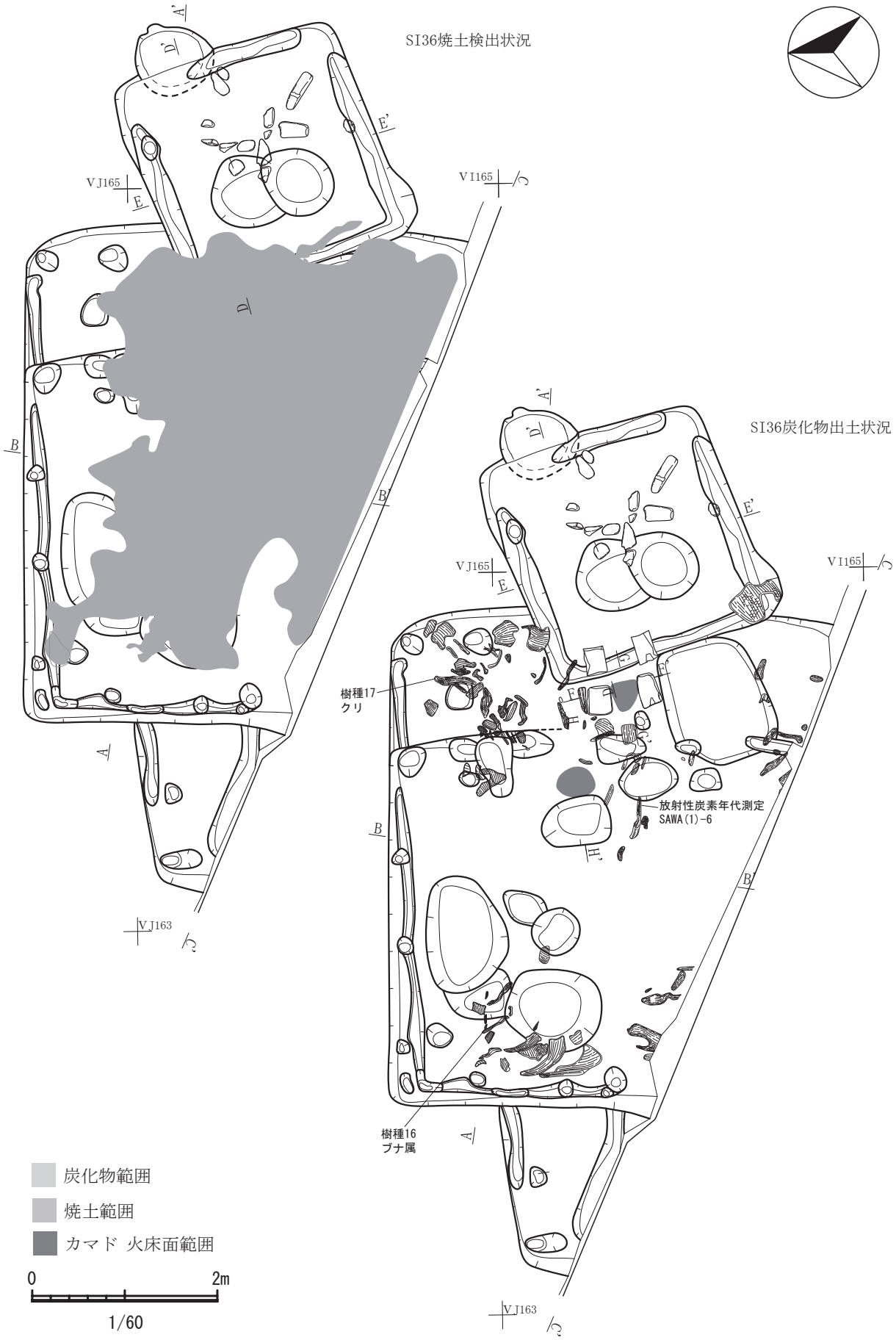


図39　第36・37・38・39号竪穴建物跡（３）

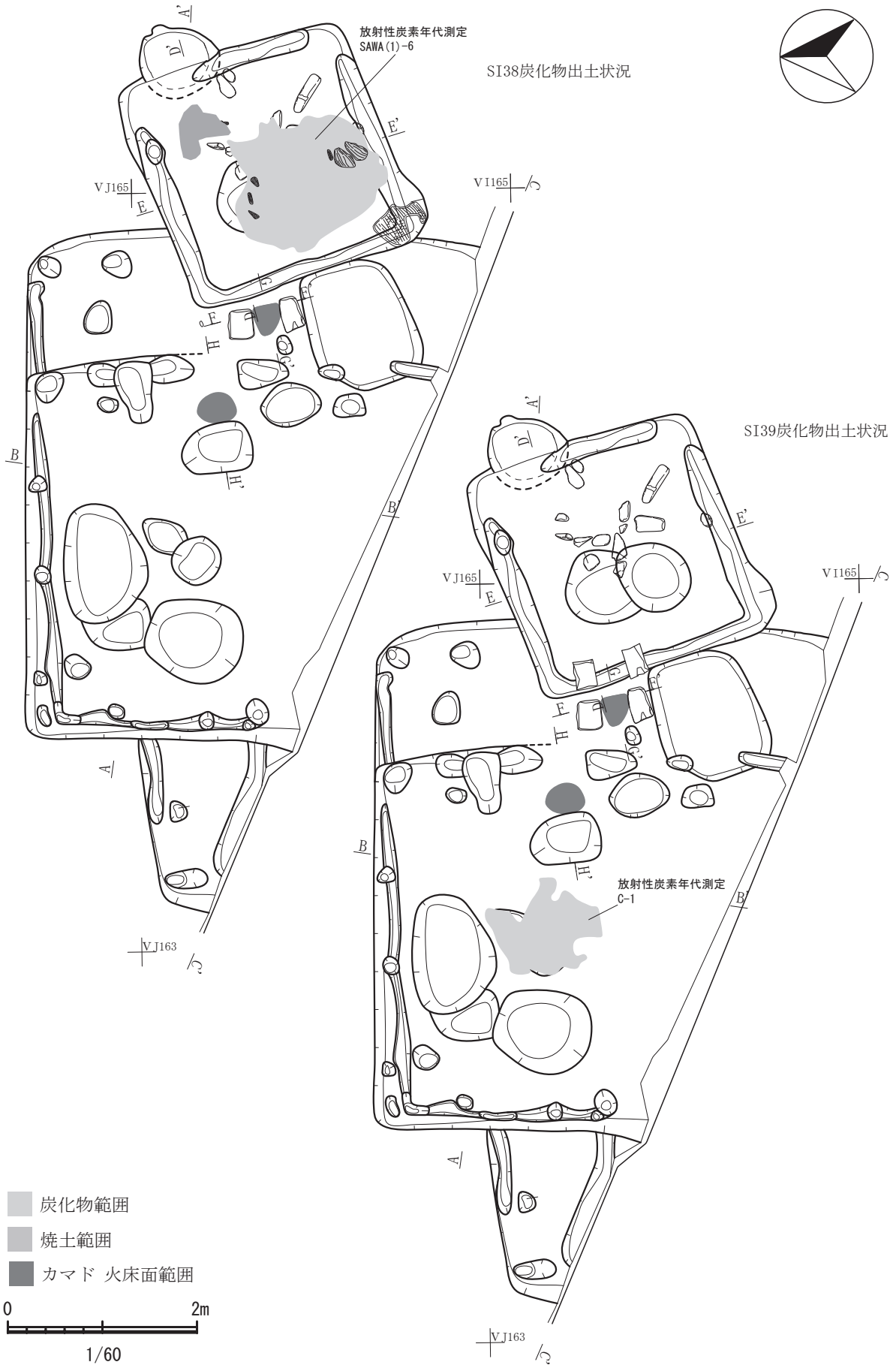
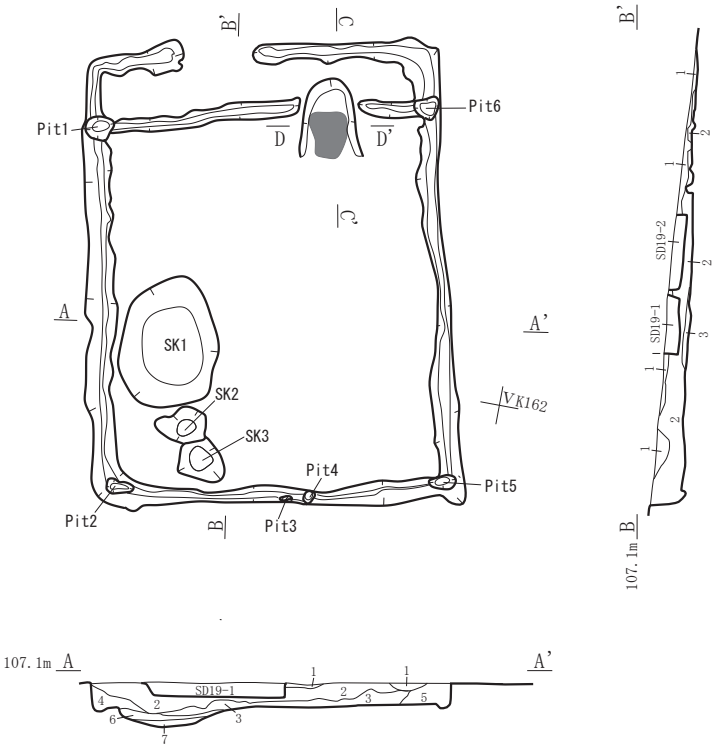
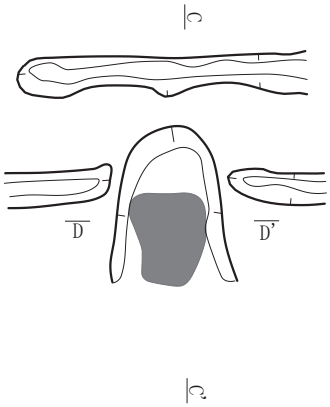


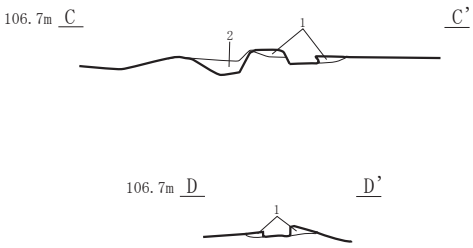
図40　第36・37・38・39号竪穴建物跡（４）



SI40
1層 10YR2/3黒褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ1～30㎜)7% Ⅶ層由来ロームブロック(φ1～100㎜)10% 炭化物(φ1～5㎜)3% 焼土ブロック(φ1～10㎜)1%
2層 10YR3/3暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ1～50㎜)1% Ⅶ層由来ロームブロック(φ1～70㎜)10% 焼土ブロック(φ1～5㎜)1% 炭化物(φ1～5㎜)1%
3層 10YR2/3黒褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ1～10㎜)3% Ⅶ層由来ロームブロック(φ1～10㎜)1% 炭化物(φ1～5㎜)1%
4層 10YR2/3黒褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ1～20㎜)5% Ⅶ層由来ロームブロック(φ1～50㎜)7% 炭化物(φ～1㎜)1%
5層 10YR3/4暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ1～50㎜)5% Ⅶ層由来ロームブロック(φ1～40㎜)7% 炭化物(φ1～3㎜)1%
6層 10YR3/4暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ1～20㎜)7% Ⅶ層由来ロームブロック(φ1～70㎜)10% 焼土ブロック(φ～5㎜)1% 炭化物(φ1～5㎜)1%
7層 10YR4/6褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ1～10㎜)1% Ⅶ層由来ロームブロック(φ1～70㎜)10% 焼土ブロック(φ1～20㎜)5% 炭化物(φ1～5㎜)1%

カマド 火床面範囲
0　2m
1/60





SI40 カマド
1層 5YR4/4にぶい赤褐色土 火床面
2層 SI40の2層

カマド 火床面範囲
0　1m
1/30

図41　第40号竪穴建物跡

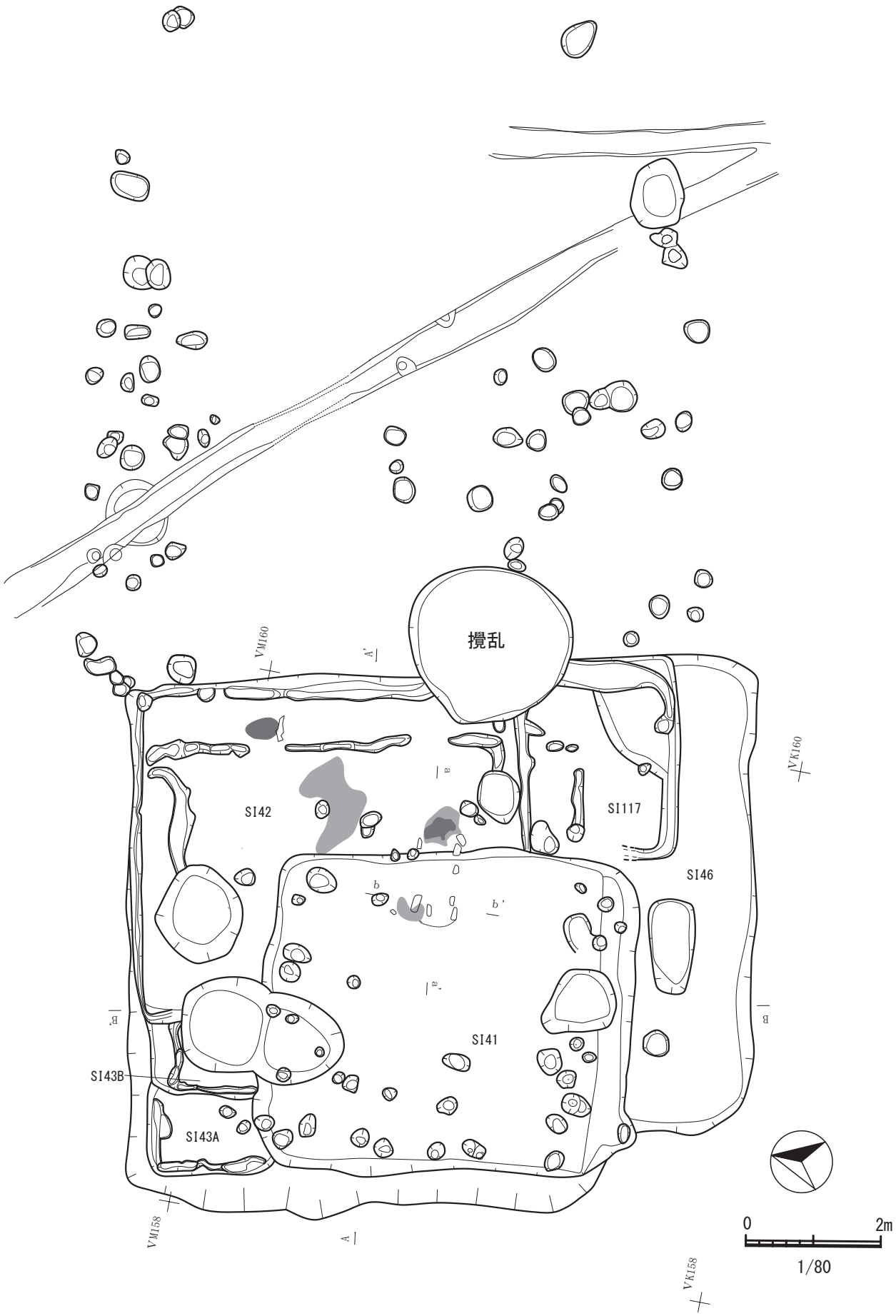
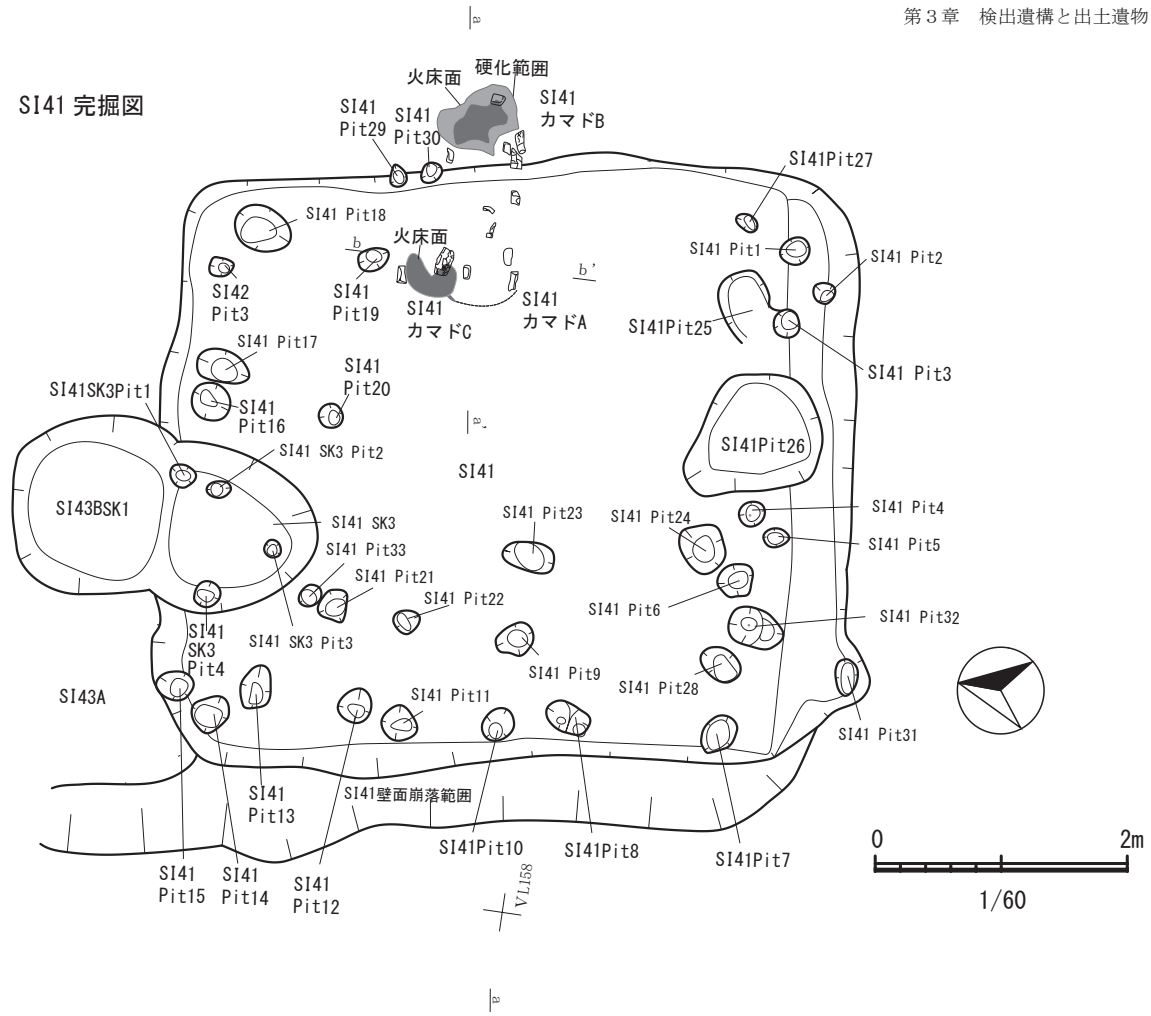


図42　第41・42・43・46・117号竪穴建物跡（1）



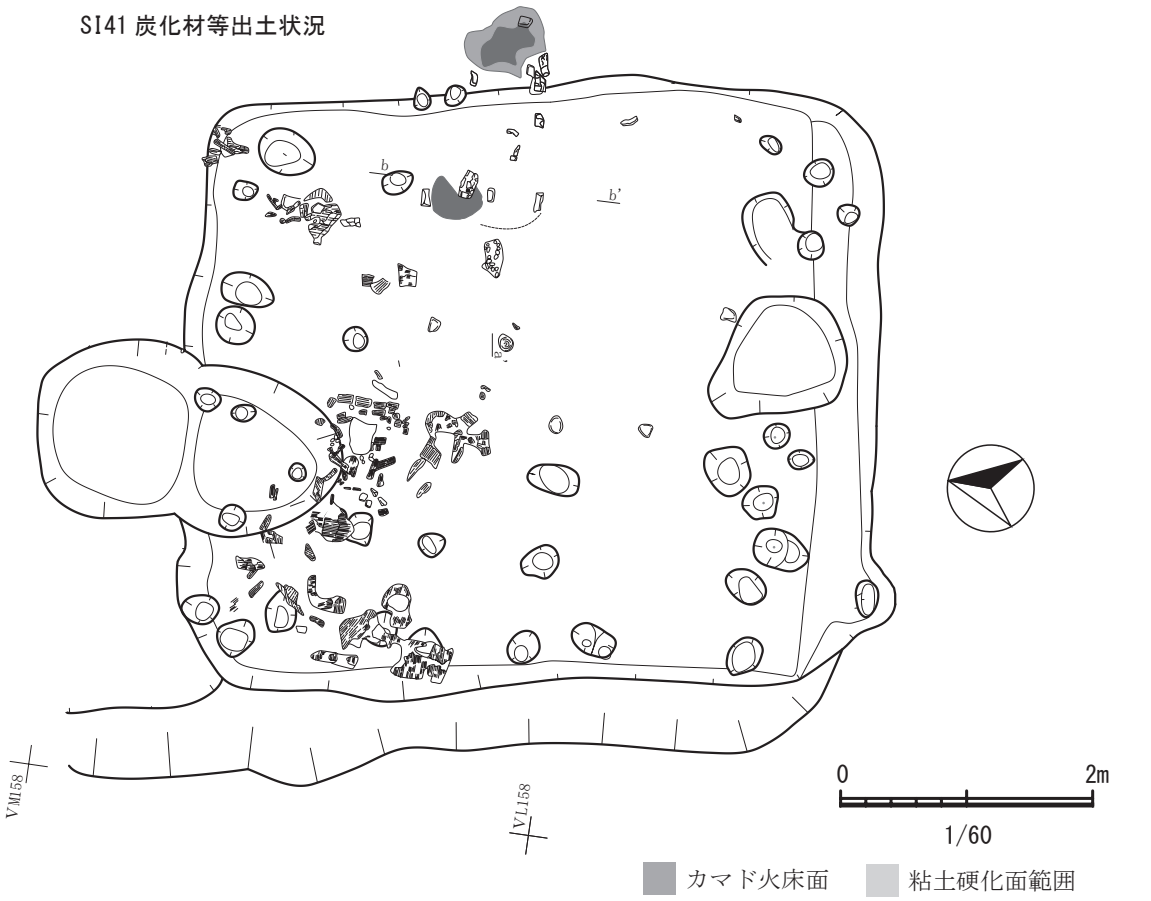
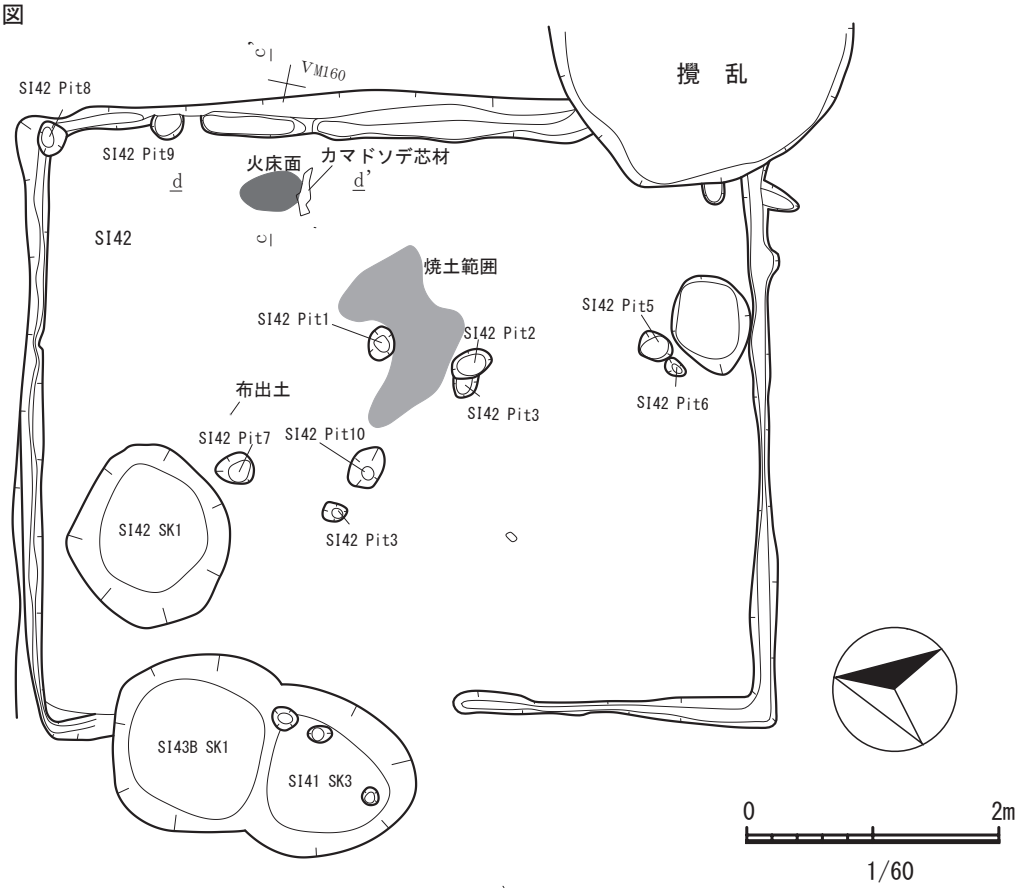


図43　第41・42・43・46・117号竪穴建物跡（２）

SI42 完掘図



SI42 炭化材等出土状況

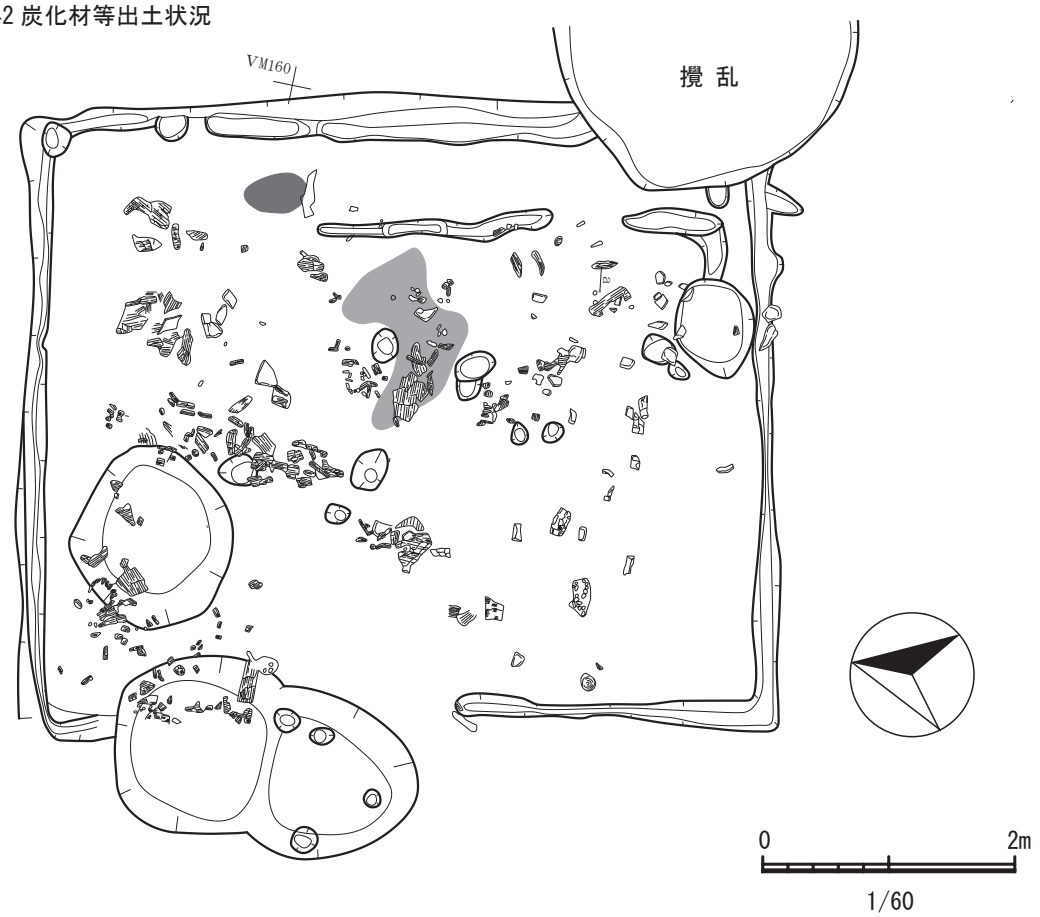


図44　第41・42・43・46・117号竪穴建物跡（３）

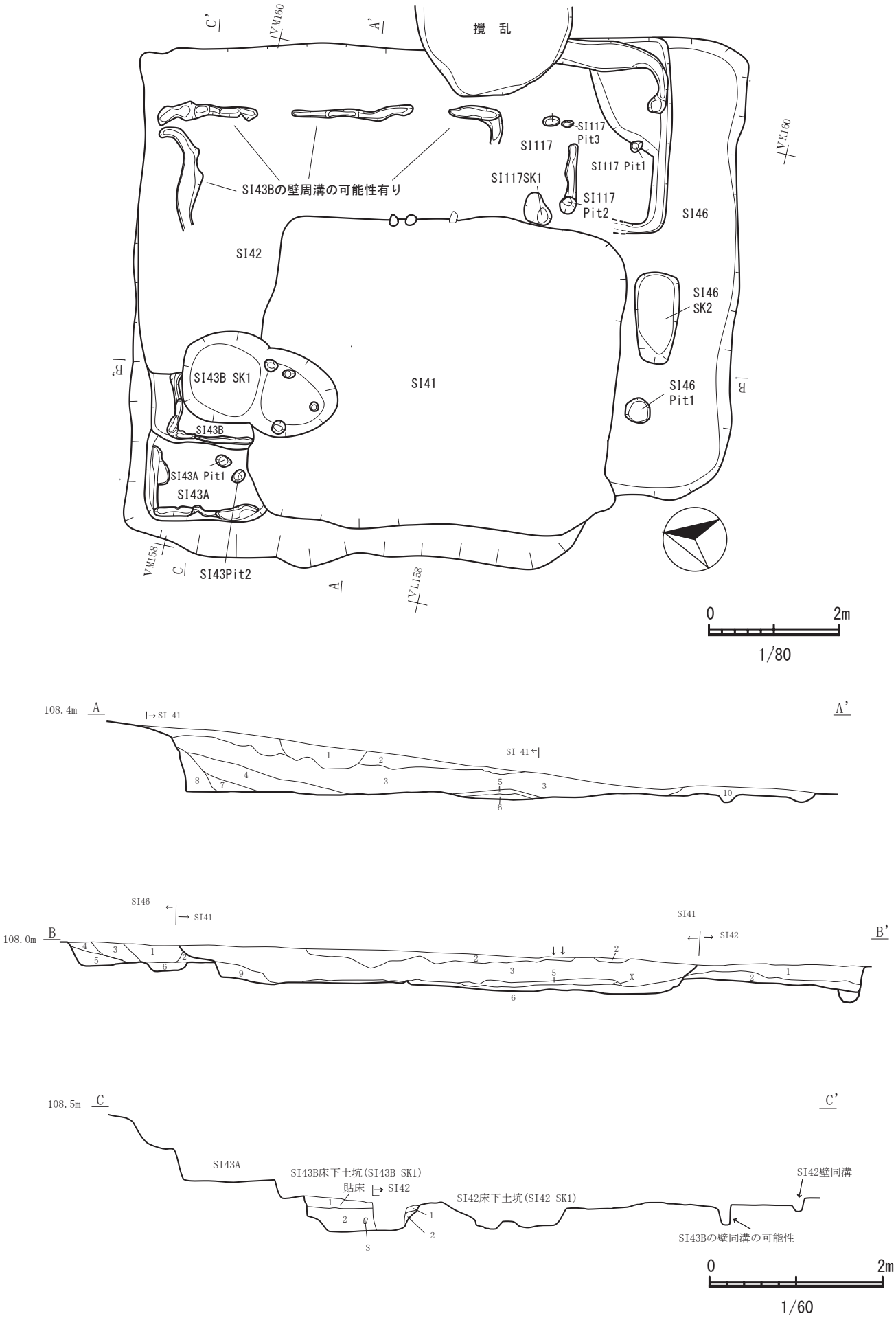


図45　第41・42・43・46・117号竪穴建物跡（４）

SI41

1層 10YR3/4 暗褐色 粘土（10YR4/6 褐色）φ1～80㎜ 30% Ⅴ層由来ローム（10YR7/6 明黄褐色）φ1～200㎜ 25% 炭化物φ1㎜少量 焼土粒φ1㎜微量
2層 10YR2/3 黒褐色 Ⅴ層由来ロームブロックφ1～100㎜ 粘土（10YR4/6 褐色）φ0.5～30㎜ 5% 炭化物φ0.5～15㎜ 2% 焼土粒微量
3層 10YR3/4 暗褐色 粘土（10YR4/6 褐色）φ0.5～10㎜ 10% 炭化物φ0.3～30㎜ 2% Ⅴ層由来ロームφ1～2㎜少量 焼土粒φ1㎜以下少量 浮石少量
4層 10YR3/4 暗褐色 粘土（7.5YR4/6 褐色）φ0.2～20㎜ 7% 粘土（10YR5/6 黄褐色）φ0.2～15㎜ 5% 炭化物φ2㎜以下少量 Ⅴ層由来ロームφ2㎜以下少量
5層 10YR3/4 暗褐色 炭化物φ0.1～15㎜ 10% 粘土（7.5YR4/6 褐色）φ10㎜少量 粘土（10YR5/6 黄褐色）φ10㎜少量 Ⅴ層由来ローム微量 炭化材を多量に含む層
6層 10YR3/4 暗褐色 粘土（7.5YR4/6 褐色）φ0.3～40㎜ 3% 粘土（10YR5/6 黄褐色）φ10㎜以下少量 炭化物粒少量 焼土（5YR3/6 暗赤褐色）φ0.5～10㎜ 3% 一部混じる
7層 10YR3/4 暗褐色 粘土（7.5YR4/6 褐色）φ2㎜以下少量 粘土（10YR5/6 黄褐色）φ2㎜以下少量 炭化物φ2㎜以下少量 Ⅴ層由来ロームφ1㎜以下微量
8層 10YR3/4 暗褐色 粘土（10YR5/8 黄褐色）φ0.5～100㎜ 30%（中に褐色粘土混じる） 炭化物φ0.1～0.5㎜ 3% Ⅴ層由来ロームφ0.1～10㎜ 2% 浮石微量 焼土粒微量
9層 10YR3/4 暗褐色 炭化粒混じりの土 50% 粘土（7.5YR4/6 褐色）φ1㎜少量 粘土（10YR5/8 黄褐色）φ1㎜少量 Ⅴ層由来ローム少量 炭化物微量
10層 10YR3/4 暗褐色 粘土（7.5YR4/6 褐色）φ0.2～15㎜ 3% 粘土（10YR5/4 にぶい黄褐色）φ0.2～15㎜ 3% 炭化物φ0.1～20㎜ 5% Ⅴ層由来ロームφ15㎜以下 1%
黒褐色土（10YR2/3）の中に暗褐色土（10YR3/4）混じる 焼土粒少量

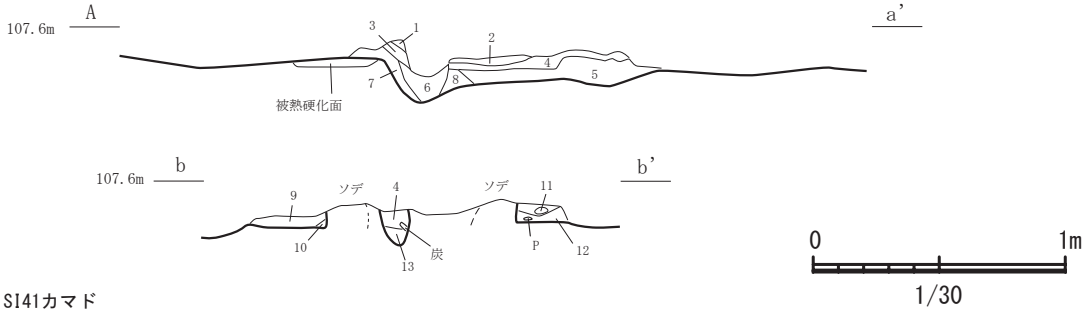
SI42

1層 10YR4/6 褐色 10YR5/6 黄褐色土ブロックφ100㎜ 粘土（10YR4/6 褐色）φ1～30㎜ 3% Ⅴ層由来ロームφ0.3～15㎜ 2% 炭化物φ0.1～15㎜ 2% 焼土粒少量
炭化材を多量に含む層
2層 10YR3/4 暗褐色 炭化物φ0.1～40㎜ 25% 粘土（7.5YR4/6 褐色）φ25㎜以下 2% 黄褐色土ブロック（10YR5/6）（中に炭化物少量混）φ70㎜以下 Ⅴ層由来ローム少量
浮石少量

SI46

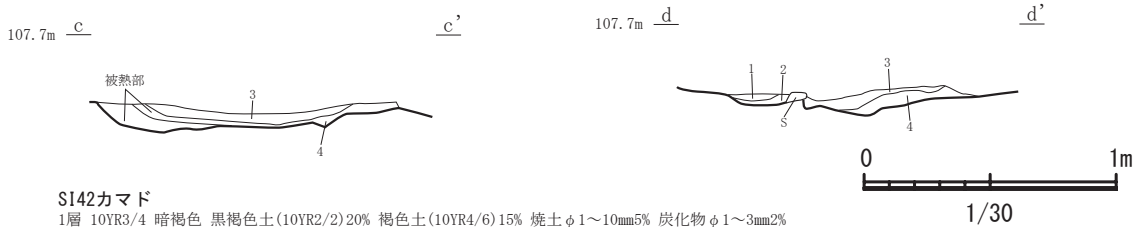
1層 10YR3/4 暗褐色 Ⅴ層由来ロームφ0.1～40㎜ 5% 粘土（7.5YR5/6 明褐色）φ40㎜以下 2% 炭化物少量 浮石少量
2層 10YR3/4 暗褐色 粘土（7.5YR5/8 明褐色）φ2㎜以下少量 Ⅴ層由来ロームφ0.1㎜以下少量 炭化物微量
3層 10YR3/4 暗褐色 褐色土ブロック（10YR4/6）φ100㎜ Ⅴ層由来ロームφ0.5～30㎜ 7% 粘土（10YR5/6 黄褐色）（7.5YR4/6 褐色）φ20㎜以下 7% 炭化物少量 浮石少量
4層 10YR3/4 暗褐色 Ⅴ層由来ロームφ0.4～10㎜以下 2% 炭化物少量 浮石微量
5層 10YR3/4 暗褐色 Ⅴ層由来ロームφ0.1～30㎜以下 10% 炭化物φ0.1～10㎜ 1% 粘土（7.5YR4/6 褐色）φ10㎜以下 1%
6層 10YR3/4 暗褐色 Ⅴ層由来ロームφ0.5～20㎜以下 2% 炭化物φ0.5㎜以下 1% 柱痕フク土

SI41カマド a-a' b-b' 断面図



SI41カマド
1層 10YR4/6 褐色 Ⅴ層由来φ1～2㎜5% カマド煙道の崩落土
2層 7.5YR4/6 褐色 暗褐色土(10YR3/4)20% 炭化物φ1～15㎜2% Ⅴ層由来土少量含む
3層 10YR3/4 暗褐色 焼土φ1～2㎜3% 炭化物少量含む Ⅴ層由来土少量含む
4層 10YR3/4 暗褐色 褐色ブロック(7.5YR4/6)φ20㎜1点 炭化物φ1～15㎜3% 焼土少量含む Ⅴ層由来土少量含む
5層 10YR4/6 褐色 Ⅴ・Ⅵ層混じりφ5～15㎜5% 炭化物φ1～5㎜5% 焼土φ1～20㎜2% 火床面上面の土
6層 10YR2/3 黒褐色 暗褐色土(10YR3/4)10% 焼土φ1～10㎜5% 炭化物少量含む Ⅴ層由来土少量含む
7層 10YR3/4 暗褐色 褐色土(10YR4/6)2% 焼土φ1～15㎜7% 炭化物少量含む
8層 10YR3/4 暗褐色 Ⅴ・Ⅵ層混じりφ1～10㎜7% 焼土,炭化物少量含む
9層 10YR4/6 褐色 黄褐色土(10YR5/8)40% 炭化物φ1～3㎜2% 焼土少量含む
10層 10YR3/4 暗褐色 炭化物,焼土少量含む
11層 10YR2/1 黒色 暗褐色土(10YR3/3)40% 4 焼土φ1～10㎜3% 炭化物少量含む
12層 7.5YR3/4 暗褐色 50㎜大の土器片含む 暗褐色土(10YR3/4)20% 焼土φ1～10㎜3% 炭化物少量含む Ⅴ・Ⅵ層由来土φ1～10㎜5%
13層 10YR4/6 褐色 暗褐色土(10YR3/4)10% 焼土φ2～15㎜5% Ⅴ・Ⅵ層由来土φ10㎜少量 炭化物少量含む 被熱硬化面(5YR4/8赤褐色)

SI42カマド c-c' d-d' 断面図



SI42カマド
1層 10YR3/4 暗褐色 黒褐色土(10YR2/2)20% 褐色土(10YR4/6)15% 焼土φ1～10㎜5% 炭化物φ1～3㎜2%
2層 10YR2/3 黒褐色 黒色土(10YR2/1)10% 褐色土(10YR4/6)3% Ⅵ層由来土φ5㎜少量 焼土φ1～10㎜3% 炭化物φ1～15㎜1%
3層 10YR2/2 黒褐色 黒褐色土(10YR3/1)10% 炭化物φ3～10㎜15% 焼土φ1～10㎜10% Ⅴ層由来土φ1～5㎜5% Ⅵ層由来土φ2㎜少量
4層 10YR2/3 黒褐色 黒褐色土(10YR2/2)2% 焼土φ1～20㎜3% 炭化物φ1～30㎜2% Ⅴ層由来土φ1～3㎜少量 Ⅵ層由来土φ1～3㎜少量

図46 第41・42・43・46・117号竪穴建物跡（5）

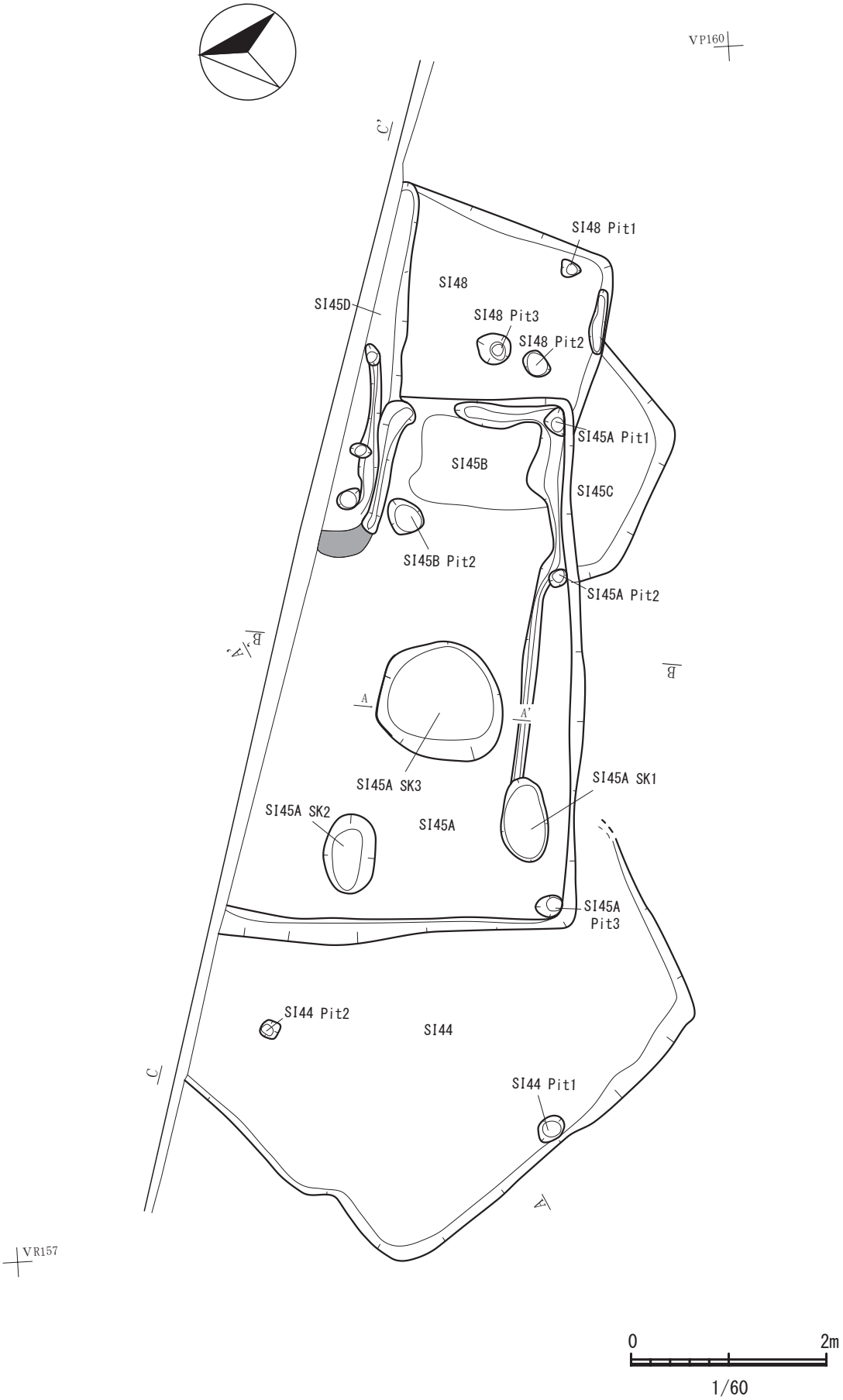
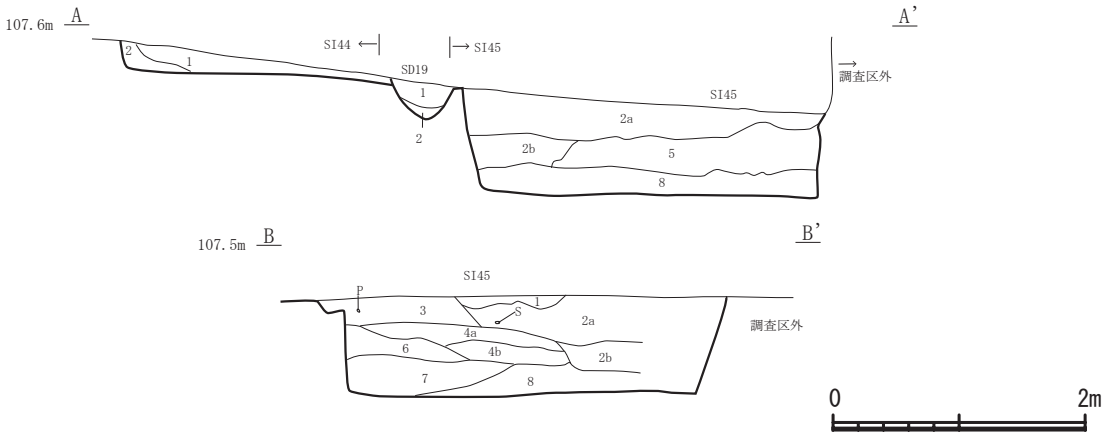


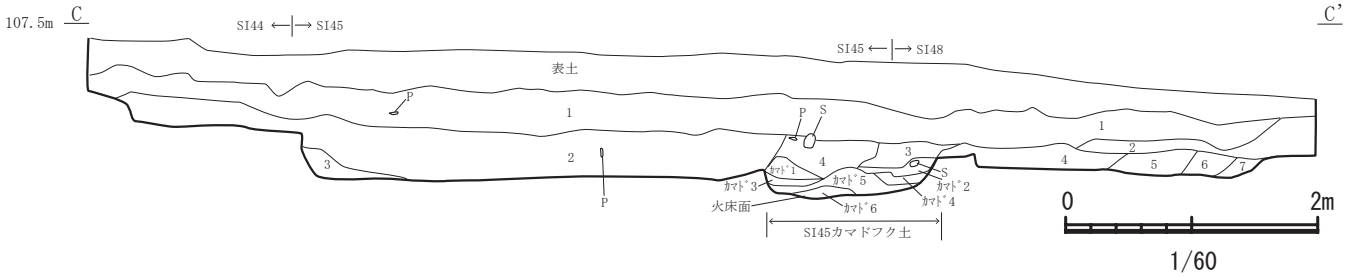
図47　第44・45・48号竪穴建物跡（１）



SI44 A-A'
1層 10YR3/4 暗褐色 Ⅶ層由来土15% 炭化物φ3～8mm少量 焼土φ10mm含む
2層 10YR3/3 暗褐色 Ⅶ層由来土10% 炭化物φ5mm以下1% 焼土φ5mm以下少量

SD19
1層 10YR3/3 暗褐色 Ⅶ層由来土φ3mm以下1%およびφ30mmブロック有り 炭化物φ2mm以下1%
2層 10YR3/4 暗褐色 Ⅶ層由来土30%

SI45 A-A' B-B'
1層 10YR4/3 にぶい黄褐色 Ⅶ層由来ブロック有り50% Ⅴ層由来φ5mm以下1% 炭化物φ5mm以下少量 焼土ブロックφ5mm少量
2a層 10YR3/3 暗褐色 Ⅴ層由来土φ7mm以下少量 Ⅵ層由来土φ20mm以下25% 炭化物φ8mm以下少量 焼土φ8mm以下少量 礫φ10mm以下5%
2b層 10YR3/3 暗褐色 Ⅵ層由来土30%およびφ30mmブロック有り 炭化物φ5mm以下少量 礫φ5mm以下5%
3層 10YR3/4 暗褐色 Ⅴ層由来土φ5～20mm3% Ⅵ層由来土φ20mm以下3% 炭化物φ1mm少量 礫φ10mm以下1%
4a層 10YR3/4 暗褐色 Ⅴ層由来土φ15mm以下2% Ⅵ層由来土φ20mm以下1%
4b層 10YR3/4 暗褐色 Ⅴ層由来土φ10mm2点 Ⅵ層由来土φ15mm以下30% Ⅶ層由来土φ80mmブロック１点 炭化物φ2mm以下少量
5層 10YR3/4 暗褐色 Ⅴ層由来土φ10mm以下3% Ⅴ層Ⅵ層由来土φ20mm以下1% 炭化物φ15mm少量 焼土φ3mm以下少量 礫φ5mm以下少量
6層 10YR3/3 暗褐色 Ⅴ層由来土φ5mm以下1% Ⅴ・Ⅵ層由来土φ10mm以下少量 φ10mm以下2% 炭化物φ3mm以下少量 焼土φ10mm以下少量 礫φ3mm以下少量
7層 10YR2/3 黒褐色 Ⅴ層由来土φ50mm以下2% Ⅵ層由来土φ20mm以下3% 焼土φ5mm以下少量 炭化物φ5mm以下少量
8層 10YR3/4 暗褐色 Ⅴ層由来土φ5mm以下少量 ⅤⅥ由来土ブロック20% Ⅵ層由来土φ20mm以下1% 炭化物φ10mm以下1% 焼土φ3mm少量

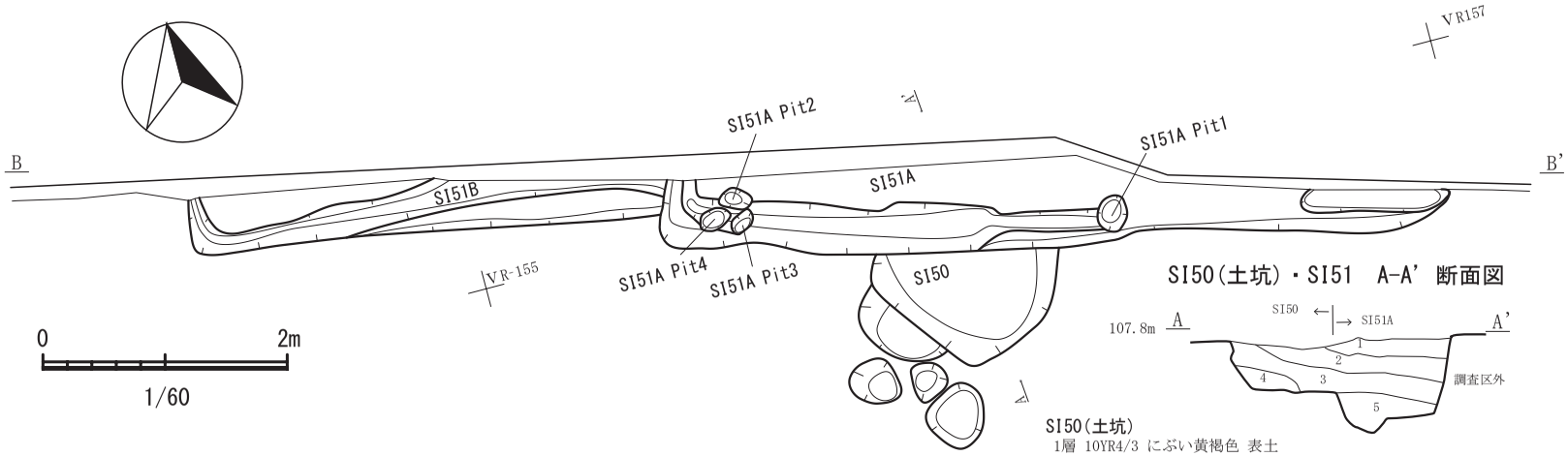


SI44・45 C-C'
1 層 10YR3/3 暗褐色 Ⅵ層由来φ10 ～ 50 ㎜ 1% Ⅶ層由来φ10 ～ 20 ㎜ 1% Ⅴ層由来少々 炭化物Φ1 ～ 3 ㎜少量 レキφ5 ㎜～ 20 ㎜ 1% 焼土少量 P 有り
2 層 10YR3/4 暗褐色 Ⅶ層由来φ10 ～ 80 ㎜ 7% Ⅵ層由来φ10 ～ 30 ㎜ 1% Ⅴ層由来φ5 ～ 20 ㎜ 1% 炭化物φ5 ～ 20 ㎜ 1% レキφ5 ㎜～ 20 ㎜少量 焼土 3 ～ 15 ㎜ 1% P 有り
3 層 10YR4/3 にぶい黄褐色 Ⅶ層由来φ3 ～ 20 ㎜ 10% 炭化物φ1 ～ 5 ㎜ 2% 焼土φ10 ㎜ 1 つ
4 層 10YR3/3 暗褐色 Ⅶ層由来 40% 炭化物φ5 ㎜少々 レキφ5 ㎜～ 10 ㎜少々 焼土少量 S 有り P 有り

SI45 カマド
1 層 10YR3/4 暗褐色 Ⅶ層由来土φ150 ㎜ブロック有り Ⅵ層由来土φ10 ～ 30 ㎜ 1% Ⅴ層由来土・焼土・炭化物少量
2 層 10YR4/3 にぶい黄褐色 Ⅶ層由来土φ5 ～ 30 ㎜ 3% Ⅴ・Ⅵ層由来土φ5 ～ 10 ㎜少々 焼土・炭化物・礫φ5 ㎜少量
3 層 10YR4/3 にぶい黄褐色 Ⅶ層由来土φ3 ～ 10 ㎜ 3% Ⅴ層由来土φ1 ～ 3 ㎜少量 焼土φ1 ～ 3 ㎜少量 礫φ5 ～ 10 ㎜少量
4 層 10YR4/3 にぶい黄褐色 Ⅵ層由来土 50% Ⅶ層由来土 15%
5 層 10YR2/3 黒褐色 Ⅵ層由来土φ10 ～ 30 ㎜ 1% Ⅶ層由来土φ5 ～ 20 ㎜ 1% Ⅴ層由来土φ1 ～ 10 ㎜ 1% 焼土・炭化物少々 礫φ5 ㎜以下少量
6 層 10YR2/3 黒褐色 板状の炭化物φ20 ～ 50 ㎜ 3 点有り 焼土φ5 ㎜以下少量 Ⅶ層由来土φ50 ㎜大有り

SI48
1 層 10YR3/3 暗褐色 Ⅶ層由来土φ5 ～ 15 ㎜ 1% 炭化物φ1 ～ 3 ㎜少量 礫φ3 ㎜～ 5 ㎜ 1% Ⅴ層由来土少量 炭化物φ5 ～ 10 ㎜少量 焼土少量
2 層 10YR3/3 暗褐色 Ⅵ層由来土φ10 ～ 20 ㎜ 1% Ⅴ層由来土Φ10 ～ 20 ㎜ 1% 炭化物φ3 ～ 5 ㎜少量 礫・焼土少量
3 層 10YR3/3 暗褐色 Ⅶ層由来土φ1 ～ 5 ㎜ 3% Ⅵ層由来土φ5 ～ 20 ㎜ 1% Ⅴ層由来土φ5 ～ 10 ㎜ 1% 礫φ5 ㎜以下少量
4 層 10YR3/4 暗褐色 Ⅵ層由来土φ10 ～ 40 ㎜ 5% Ⅶ層由来土φ10 ～ 30 ㎜ 1% 炭化物φ3 ～ 5 ㎜少量 礫φ5 ㎜以下少量
5 層 10YR4/3 にぶい黄褐色 Ⅶ層由来土φ10 ～ 80 ㎜ 2% Ⅵ層由来土φ10 ～ 20 ㎜ 1% Ⅴ層由来土φ5 ～ 10 ㎜少量 炭化物φ10 ㎜少量
6 層 10YR3/3 暗褐色 Ⅵ層由来Φ10 ～ 20 ㎜ 1% Ⅶ層由来土φ20 ㎜ 1 点
7 層 10YR3/3 暗褐色 焼土 炭化物少量 Ⅴ層由来土少量

図48　第44・45・48号竪穴建物跡（２）



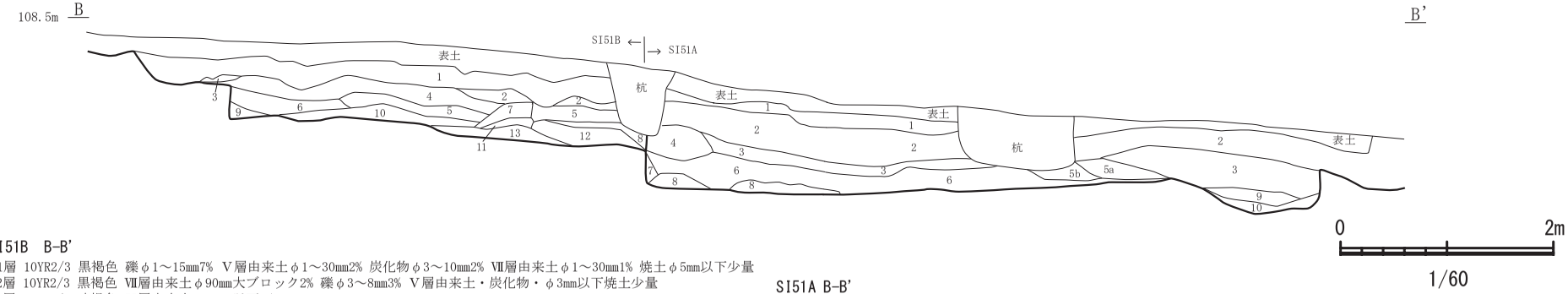
SI50(土坑)・SI51　A-A' 断面図

SI50(土坑)

1層　10YR4/3 にぶい黄褐色 表土
2層　10YR3/4 暗褐色 炭化物φ1mm1% Ⅴ層由来土φ3mm1% 礫φ3mm1% Ⅶ層由来土φ3mm1%
3層　10YR3/3 暗褐色 Ⅴ層由来土φ5mm以下3% Ⅶ層由来土φ5～10mm1%
炭化物φ5mm以下1% 礫φ10mm1%
4層　10YR3/3 暗褐色 Ⅶ層由来土φ5～20mm1% 炭化物φ3mm以下1% 礫φ5mm1% 焼土φ1mm1%

SI51A

5層　10YR3/3暗褐色 Ⅶ層由来φ10mm ブロック有り10% 炭化物φ2mm1%



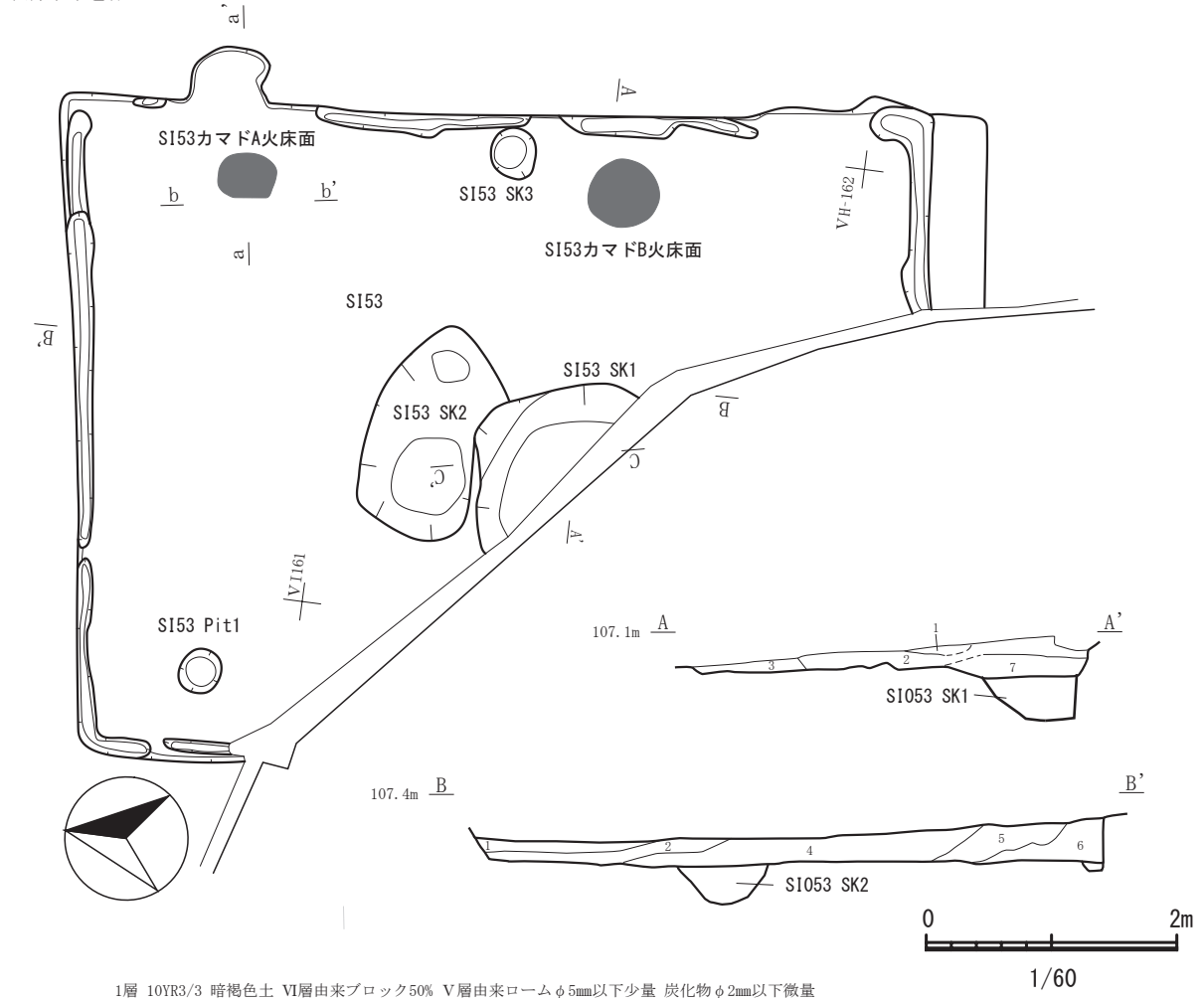
SI51B　B-B'

1層　10YR2/3 黒褐色 礫φ1～15mm7% Ⅴ層由来土φ1～30mm2% 炭化物φ3～10mm2% Ⅶ層由来土φ1～30mm1% 焼土φ5mm以下少量
2層　10YR2/3 黒褐色 Ⅶ層由来土φ90mm大ブロック2% 礫φ3～8mm3% Ⅴ層由来土・炭化物・φ3mm以下焼土少量
3層　10YR3/4 暗褐色 Ⅴ層由来土φ10mm以下1%
4層　10YR3/4 暗褐色 Ⅶ層由来土φ10～40mm1% 礫φ2～8mm2% 炭化物φ2～10mm1% 焼土φ2～10mm1%
5層　10YR3/4 暗褐色 褐色土(10YR4/4)40% 黄褐色土(10YR5/6)15% 礫φ2～8mm2% 炭化物φ5mm以下少量
6層　10YR3/4 暗褐色 褐色土(10YR4/6)40% 炭化物・焼土φ5mm以下 礫φ3mm以下少量
7層　10YR3/4 暗褐色 褐色土(10YR4/6)10% 礫φ2～10mm1% 炭化物φ5mm以下少量 Ⅴ層由来土φ5mm以下少量
8層　10YR5/6 黄褐色
9層　10YR3/4 暗褐色 褐色土(10YR4/6)φ50mm大ブロック 礫φ3～5mm1% 焼土φ3mm以下 炭化物少量
10層　10YR3/4 暗褐色 褐色土(10YR4/6)φ120mmブロック 炭化物φ10mm以下1% 焼土φ10mm以下少量
11層　10YR3/4 暗褐色 褐色土(10YR4/6)φ2～20mm10% Ⅴ層由来土φ3mm以下少量
12層　10YR4/4 褐色 黄褐色土(10YR5/6)10% Ⅴ層由来土φ10～40mm1% 礫φ5mm以下少量
13層　10YR4/4 褐色 黄褐色土(10YR5/8)30% Ⅵ層由来土φ60mm以下7%

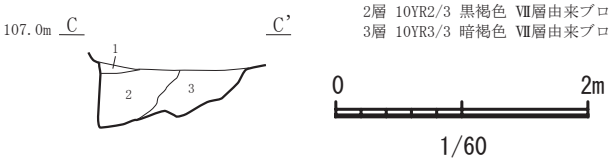
SI51A B-B'

1層　10YR2/3 黒褐色 礫φ1～15mm7% Ⅴ層由来土φ1～30mm2% 炭化物φ3～10mm2% Ⅶ層由来土φ1～30mm1% 焼土φ5mm以下少量
2層　10YR3/4 暗褐色 礫φ2～10mm5% Ⅶ層由来土φ3～30mm5% 炭化物φ1～10mm3% Ⅴ層由来土φ30mm大1点 焼土少量
3層　10YR4/4 褐色 Ⅶ層由来土φ10～60mm10% 礫φ2～10mm5% 炭化物φ5mm以下2% 焼土φ3mm以下少量
4層　10YR5/8 黄褐色 暗褐色土(10YR3/4)10% 礫φ5mm以下少量
5a層　10YR5/8 黄褐色 褐色(10YR4/4)10% 礫φ10mm以下少量
5b層　10YR4/6 褐色 暗褐色土(10YR3/4)40% 礫φ5mm以下1%
6層　10YR4/6 褐色 Ⅶ層由来土φ5～70mm40% 礫φ2～15mm3% 炭化物φ10mm以下1% 焼土φ5mm以上少量
7層　10YR3/4 暗褐色 黄褐色(10YR5/8)φ5mm以上少量
8層　10YR5/8 黄褐色 礫φ10mm大１点
9層　10YR4/6 暗褐色 Ⅶ層由来土φ2～10mm5% 黒褐色(10YR2/3)3% 礫φ5mm以下1%
10層　10YR4/6 褐色

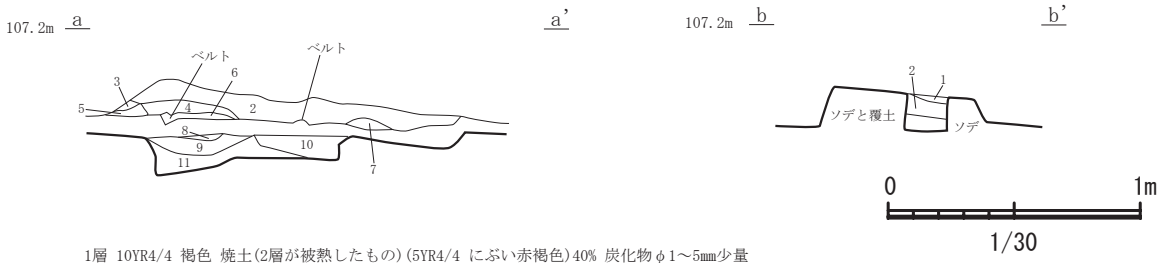
図49　第50・51号竪穴建物跡



1層 10YR3/3 暗褐色土 Ⅵ層由来ブロック50% Ⅴ層由来ローム φ5mm以下少量 炭化物φ2mm以下微量
2層 10YR3/3 暗褐色土 Ⅴ層由来ローム φ3cm以下3% 炭化物φ5mm以下少量 Ⅵ層由来ブロック φ15cm以下40%
3層 10YR3/3 暗褐色土 Ⅶ層由来土φ20mm3% Ⅵ層由来土φ20mm以下2% Ⅴ層由来ローム φ10mm以下2% 炭化物φ3mm以下少量 焼土φ2mm以下微量
4層 10YR3/4 暗褐色土 Ⅵ層由来ブロック φ100mm以下25% Ⅴ層由来土φ20mm以下2% Ⅴ層由来ローム φ10mm以下2% 炭化物φ3mm以下少量 焼土φ2mm以下微量
5層 10YR3/4 暗褐色土 Ⅵ層由来50%以上 Ⅶ層由来土φ20mm以下 炭化物φ1mm以下微量 Ⅴ層由来土φ10mm以下 焼土
6層 10YR3/4 暗褐色土 黒褐色土(10YR2/2)5% Ⅵ層由来ブロック φ10mm以下40% Ⅴ層由来土φ20mm以下2% 炭化物φ2mm以下微量
7層 10YR3/4 暗褐色土 Ⅵ層由来ブロック φ80mm以下50%以上 Ⅴ層由来土φ10mm以下1% 炭化物φ2mm以下微量
貼床なし 基本層序Ⅵ層が床面

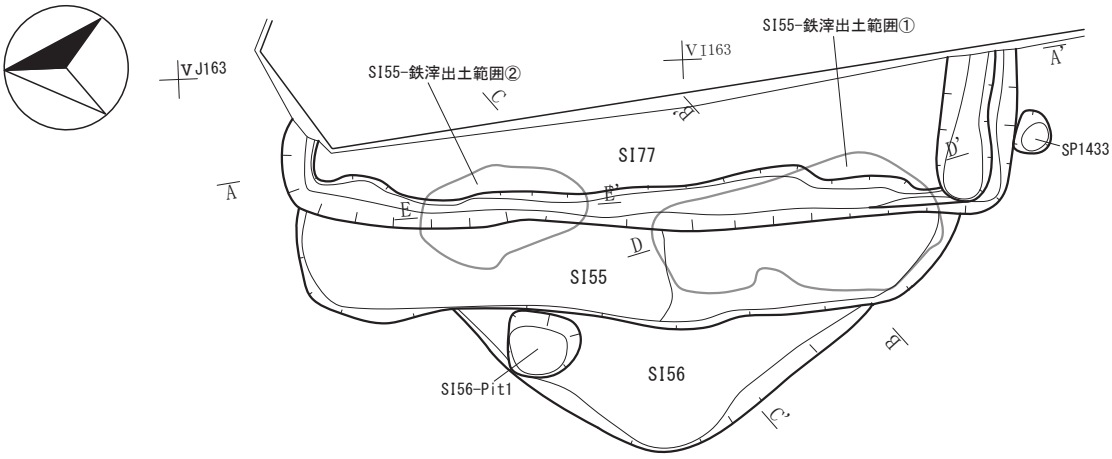


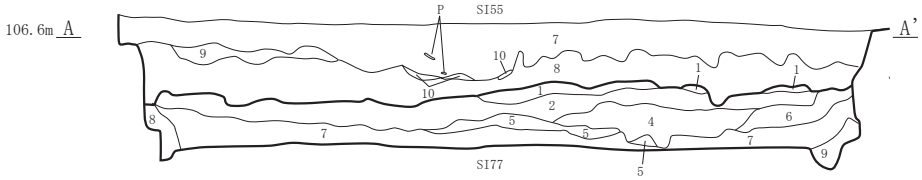
1層 10YR4/4 褐色 Ⅴ層由来土φ30mm以下3% Ⅵ層土主体の層
2層 10YR2/3 黒褐色 Ⅶ層由来ブロック φ80mm以下40% Ⅴ層由来土φ20mm以下3% 炭化物φ2mm以下少量
3層 10YR3/3 暗褐色 Ⅶ層由来ブロック φ100mm以下30% Ⅴ層由来土φ100mm以下20% 黒褐色土(10YR2/3)3% 炭化物φ2mm微量

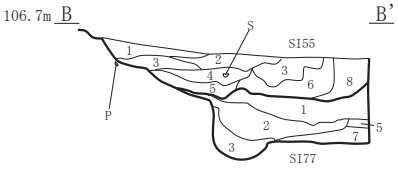


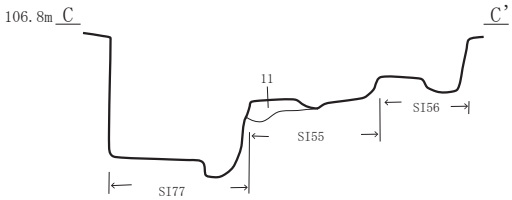
1層 10YR4/4 褐色 焼土(2層が被熱したもの)(5YR4/4 にぶい赤褐色)40% 炭化物φ1～5mm少量
2層 10YR4/6 褐色 暗褐色土(10YR3/3)3% Ⅴ層由来土φ1～10mm1% 炭化物φ2mm微量 Ⅵ層由来土φ20mm少量 カマド粘土
3層 10YR4/6 褐色 褐色土(10YR4/6)10% 炭化物φ1～2mm微量
4層 10YR4/4 褐色 黒褐色土(10YR2/2)5% Ⅴ層由来土φ1～10mm少量
5層 10YR4/4 褐色 Ⅵ層由来土φ30mm10%
6層 7.5YR4/4 褐色 焼土(5YR3/4暗赤褐色)20%
7層 10YR4/4 褐色 Ⅵ層由来土80%以上
8層 10YR4/6 褐色 暗褐色土(10YR3/4)2%に炭化物混ざる 焼土少量
9層 5YR3/6 暗赤褐色 焼土(5YR4/6 赤褐色)3% 炭化物φ1～2mm カマド火床面被熱層
10層 10YR4/4褐色 黒褐色土(10YR2/2)の炭化物混じった土 炭化物φ1～3mm3% Ⅴ層少量
11層 10YR6/6 明黄褐色 明褐色土(7.5YR5/6)2% 褐色土(10YR4/4)1% 炭化物少量

図50 第53号竪穴建物跡







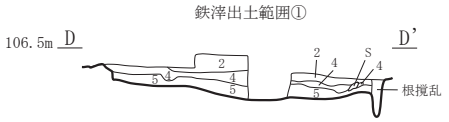


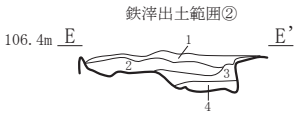
SI55

1層 10YR3/3暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ1～10mm)3% Ⅶ層由来ロームブロック(φ1～25mm)3% 焼土ブロック(φ～1mm)1% 炭化物(φ1～5mm)2%
2層 10YR2/2黒褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ1～5mm)3% 焼土ブロック(φ1～40mm)5% 炭化物(φ1～10mm)10%
3層 10YR3/3暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ1～30mm)5% 焼土ブロック(φ1～5mm)1% 炭化物(φ1～10mm)5%
4層 10YR1.7/1黒色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ1～10mm)1% Ⅵ層由来ロームブロック(φ1～40mm)5% 焼土ブロック(φ1～25mm)3% 炭化物(φ1～10mm)80%
5層 10YR3/3暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ1～50mm)10% 炭化物(φ1～20mm)10%
6層 10YR4/4褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ1～30mm)5% Ⅶ層由来ロームブロック(φ1～20mm)3% 焼土ブロック(φ1～2mm)1% 炭化物(φ1～10mm)2%
7層 10YR4/3にぶい黄褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック(φ1～100mm)50% 炭化物(φ1～10mm)1% 耕作土
8層 10YR3/4暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ1～20mm)3% 炭化物(φ1～10mm)2%
9層 10YR2/3黒褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ1～20mm)3% Ⅵ層由来ロームブロック(φ1～10mm)2% 焼土ブロック(φ1～2mm)1% 炭化物(φ1～5mm)2%
10層 10YR3/2黒褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック(φ1～10mm)5% 焼土ブロック(φ1～2mm)1% 炭化物(φ1～5mm)80%
11層 10YR4/6褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ1～50mm)5% 炭化物(φ1～5mm)3% 焼土ブロック(φ1～5mm)1% 貼床

SI77

1層 10YR4/6褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ1～20mm)3% 炭化物(φ1～20mm)1%
2層 10YR4/6褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ1～10mm)10% Ⅵ層由来ロームブロック(φ1～10mm)5% 粘土ブロック(φ1～50mm)5% 炭化物(φ1～20mm)10%
3層 10YR5/8黄褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ1～60mm)7% Ⅵ層由来ロームブロック(φ1～30mm)3% Ⅶ層由来ロームブロック(φ1～100mm)50% 炭化物(φ1～20mm)15%
4層 10YR4/4褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ1～10mm)2% Ⅵ層由来ロームブロック(φ1～30mm)3% Ⅶ層由来ロームブロック(φ1～40mm)15%
焼土ブロック(φ1～20mm)1% 炭化物(φ1～10mm)7%
5層 10YR4/6褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ1～20mm)3% Ⅶ層由来ロームブロック(φ1～100mm)90% 炭化物(φ1～2mm)1%
6層 10YR4/3にぶい黄褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ2～10mm)2% Ⅶ層由来ロームブロック(φ1～50mm)10% 炭化物(φ1～5mm)3%
7層 10YR3/3暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ1～200mm)20% Ⅵ層由来ロームブロック(φ～30mm)2% Ⅶ層由来ロームブロック(φ1～50mm)7%
炭化物(φ1～3mm)10%
8層 10YR3/4褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ1～20mm)7% Ⅵ層由来ロームブロック(φ1～30mm)10% Ⅶ層由来ロームブロック(φ1～50mm)5%
炭化物(φ1～5mm)2%
9層 10YR3/2黒褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ1～60mm)10% Ⅶ層由来ロームブロック(φ1～50mm)15% 炭化物(φ1～2mm)2%





SI55鉄滓出土範囲①・②

1層 10YR2/3黒褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ1～25mm)3% Ⅶ層由来ロームブロック(φ1～25mm)3% 焼土ブロック(φ1～10mm)3% 炭化物(φ1～20mm)7% 鉄滓多量
2層 10YR3/3暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ1～20mm)3% 焼土ブロック(φ1～2mm)1% 炭化物(φ1～20mm)2%
3層 10YYR4/3にぶい黄褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ1～20mm)50% 焼土ブロック(φ1～3mm)1% 炭化物(φ1～5mm)1%
4層 10YR4/4褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ1～30mm)80% 炭化物(φ1～3mm)2%
5層 10YR3/3暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ1～50mm)10% 炭化物(φ1～20mm)10%

□ 貼床範囲
□ 鉄滓出土範囲

0　2m
1/60

図51　第55・56・77号竪穴建物跡

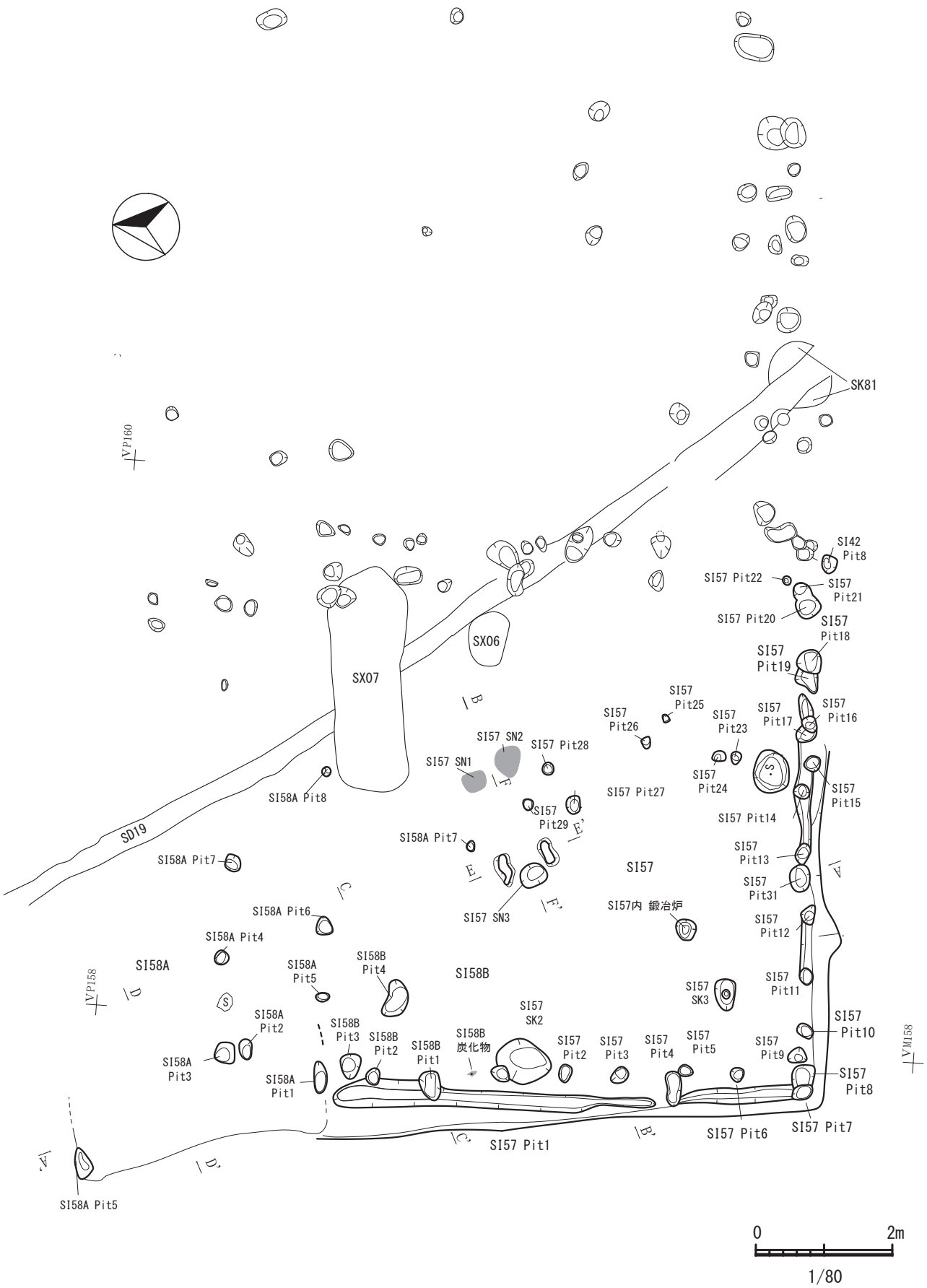
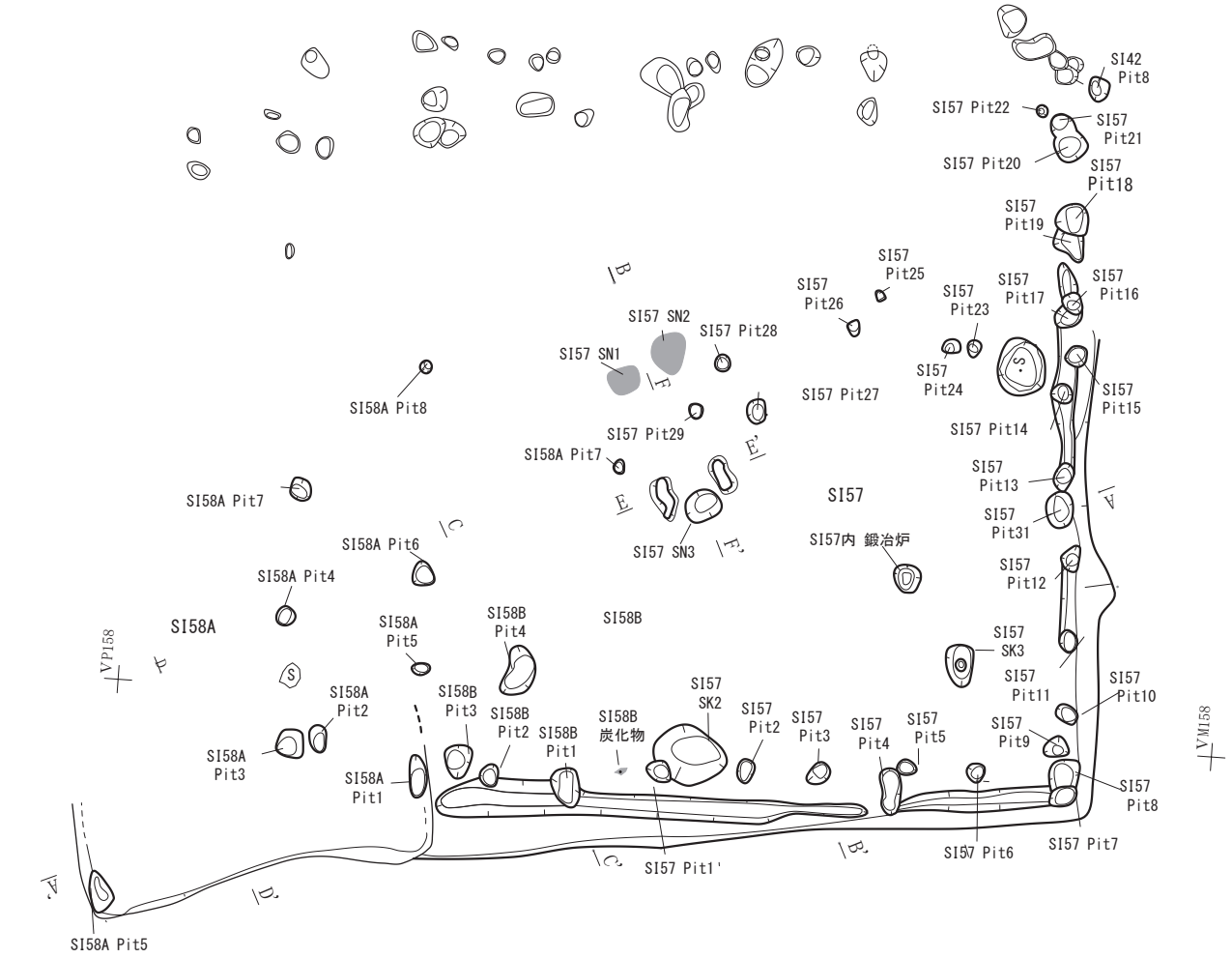
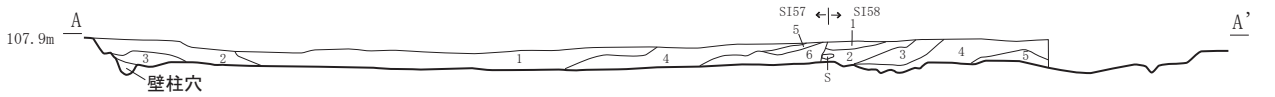
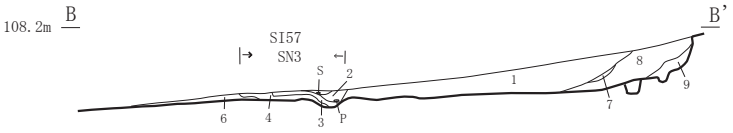
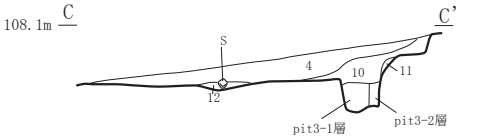


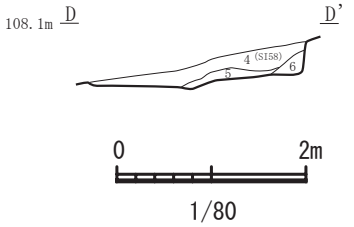
図52　第57・58A・58B号竪穴建物跡（1）











SI57

1層 10YR3/2 黒褐色 Ⅵ層由来土φ30mm以下20% Ⅴ層由来土φ20mm以下10% 炭化物φ20mm以下2% 焼土φ10mm以下少量
2層 10YR3/3 暗褐色 Ⅴ層由来土φ40mm以下10% Ⅵ層由来土φ15mm以下2% 炭化物φ5mm以下1% 焼土φ5mm以下少量
3層 10YR4/6 褐色 Ⅴ層由来土φ7mm以下1% 焼土φ5mm以下微量
4層 10YR3/3 暗褐色 Ⅵ層由来土φ70mm以下30% Ⅴ層由来土φ10mm以下2% 炭化物φ10mm以下1% 焼土φ3mm以下少量
5層 10YR4/4 褐色 Ⅵ層由来土φ70%占める 炭化物φ1mm以下微量 焼土粒φ1mm以下微量
6層 10YR3/4 暗褐色 Ⅵ層由来土φ50mm以下20% Ⅴ層由来土φ10mm以下2% 炭化物φ5mm以下2% 焼土φ10mm以下少量
7層 10YR3/4 暗褐色 Ⅵ層由来土φ50mm以下20% Ⅴ層由来土φ20mm以下1% 炭化物φ1mm以下1%
8層 10YR3/2 黒褐色 Ⅴ層由来土φ15mm以下10% Ⅵ層由来土φ40mm以下7% 炭化物φ15mm以下2% 焼土φ5mm以下1%
9層 10YR3/2 黒褐色 Ⅶ層由来土φ20mm以下5% Ⅴ層由来土φ10mm以下2% 炭化物φ5mm以下1%
10層 10YR3/2 黒褐色 Ⅵ層由来土φ40mm以下20% Ⅴ層由来土φ20mm以下1% 炭化物φ7mm以下1%
11層 10YR3/2 黒褐色 Ⅴ層由来土φ5mm以下1% 炭化物φ2mm以下少量
12層 10YR3/3 暗褐色 Ⅴ層由来土φ20mm以下3% Ⅵ層由来土φ15mm以下2% 炭化物φ2mm以下少量

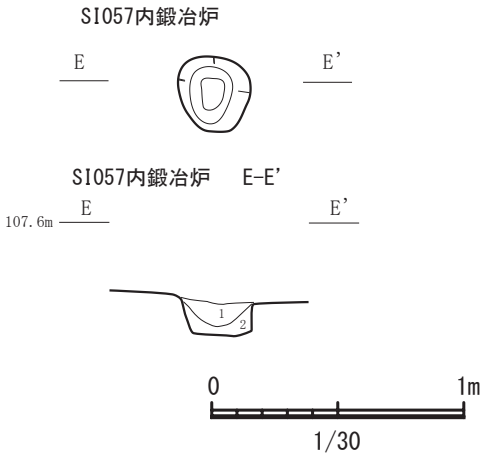
SI57 Pit3

1層 10YR3/4 暗褐色 Ⅵ層由来φ20mm以下2% Ⅶ層由来φ10mm以下 炭化物φ5mm以下少量
2層 Ⅵ層由来土

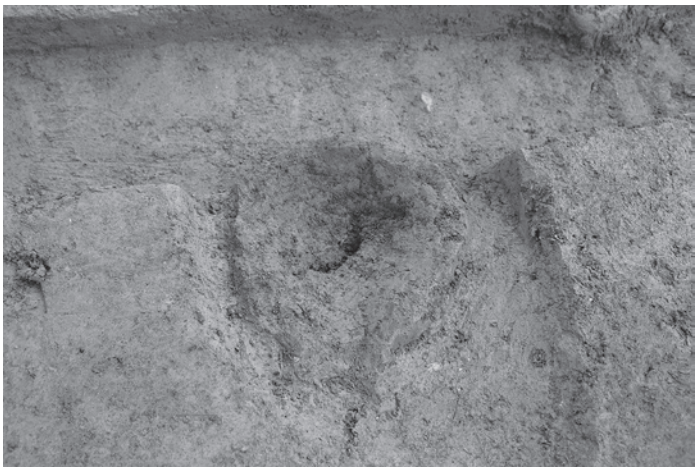
SI58

1層 10YR3/3 暗褐色 Ⅵ層由来土φ40mm以下3% Ⅴ層由来土φ20mm以下2% 炭化物φ2mm以下1% 焼土φ2mm以下微量
2層 10YR3/3 暗褐色 Ⅵ層由来土φ50mm以下30% Ⅴ層由来土φ20mm以下2% 炭化物φ5mm以下1%
3層 10YR3/3 暗褐色 黒褐色土(10YR3/2)30% Ⅵ層由来土φ60mm以下30% Ⅴ層由来土φ10mm以下1% 炭化物φ2mm以下1% 焼土φ5mm以下微量
4層 10YR3/2 黒褐色 Ⅵ層由来土φ160mm以下30% Ⅴ層由来土φ20mm以下3% 炭化物φ8mm以下2% 焼土粒φ10mm以下1%
5層 10YR3/3 暗褐色 Ⅵ層由来土φ50mm以下5% Ⅴ層由来土φ15mm以下1% 炭化物φ3mm以下少量 焼土粒φ2mm以下微量
6層 10YR3/4 暗褐色 Ⅵ層由来土φ30mm以下10% Ⅴ層由来土φ15mm以下2%

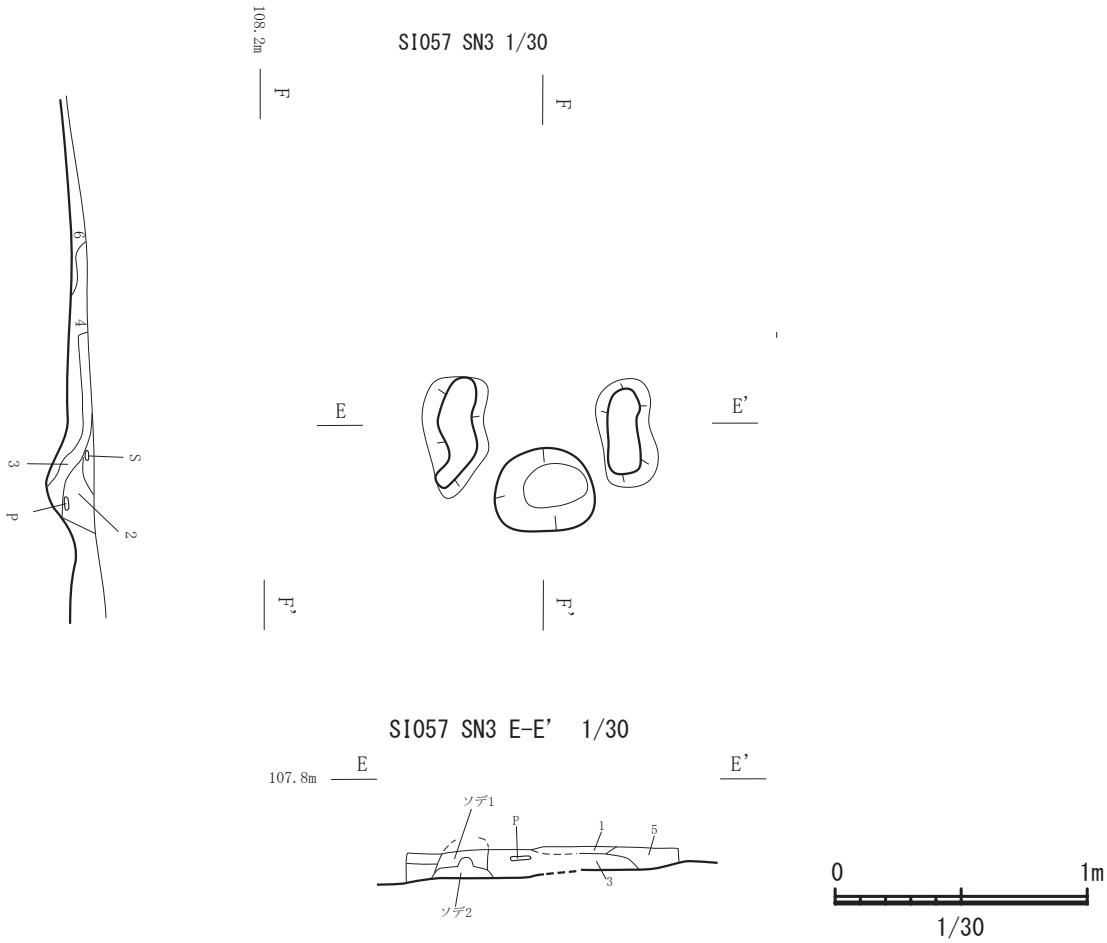
図53　第57・58A・58B号竪穴建物跡（２）



1層 5GY7/1 明オリーブ灰色　2.5Y4/6 オリーブ褐色 40% 鍛冶炉還元面
2層 10YR4/6 褐色 礫φ1㎜以下少量

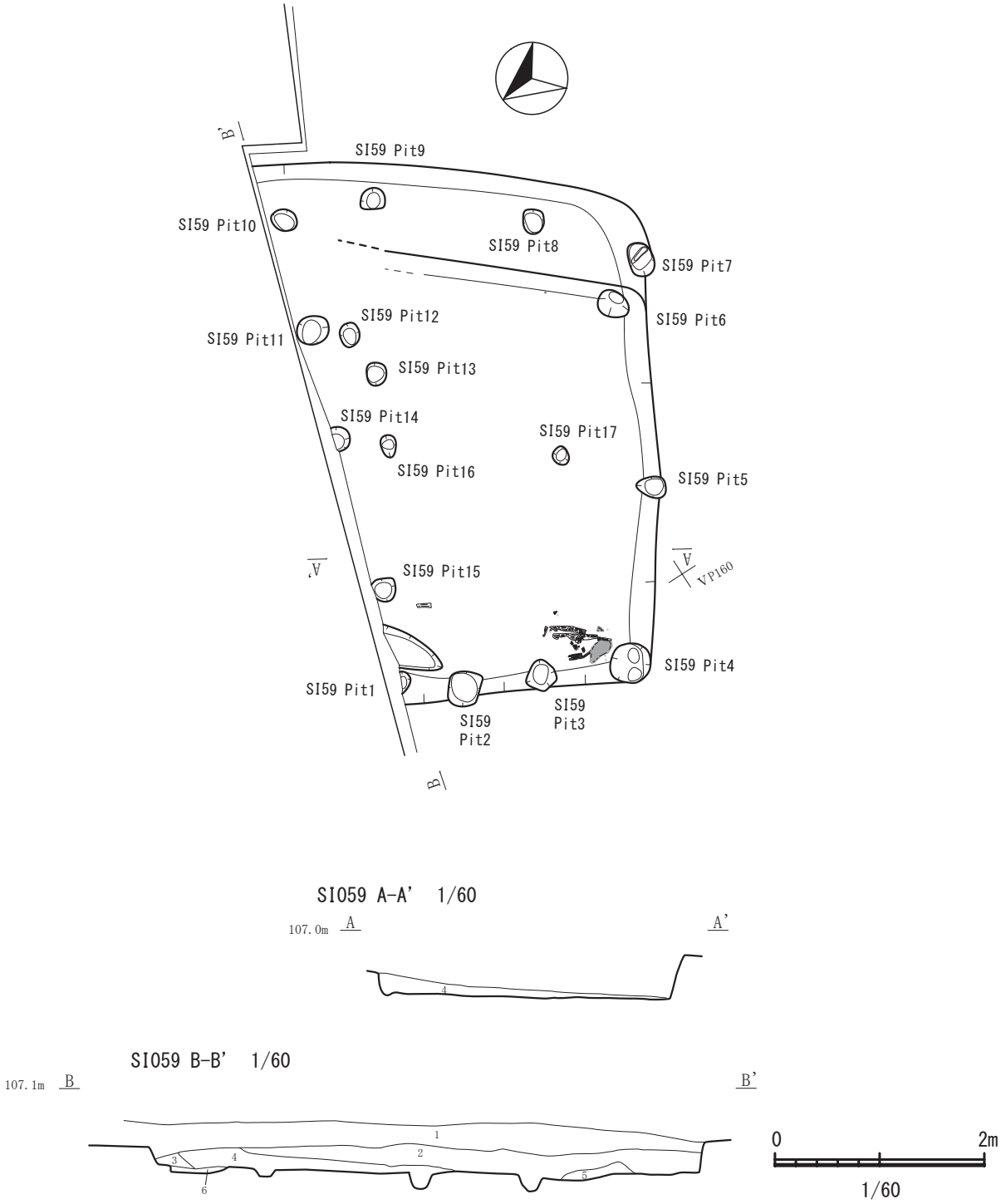


SI057内鍛冶炉　完掘状況



SI57 SN3
1層 10YR3/4 暗褐色 焼土φ20㎜以下30% 炭化物φ10㎜以下1%
2層 10YR3/4 暗褐色 Ⅵ層由来土φ10㎜以下1% Ⅴ層由来土φ5㎜以下1% 焼土φ30㎜以下2%
3層 10YR4/4 褐色 焼土(2.5YR4/4 にぶい赤褐色)90% 炭化物φ2㎜以下少量 礫片含む
4層 10YR3//2 黒褐色 焼土φ20㎜以下30% 炭化物φ5㎜以下1%
5層 10YR3/4 暗褐色 Ⅴ層由来土φ2㎜以下少量 焼土粒φ15㎜以下1% 炭化物φ5㎜以下少量
6層 10YR3/4 暗褐色 右40cmⅥ層由来土90%以上占める Ⅵ層由来土φ20㎜以下50% 炭化物φ8㎜以下少量 焼土φ10㎜以下2%
袖1層 7.5YR4/4 褐色 焼土φ10㎜以下少量
袖2層 10YR3/4 暗褐色 Ⅴ層由来土φ10㎜以下2% 焼土φ3㎜以下1% 炭化物φ1㎜微量

図54　第57・58A・58B号竪穴建物跡（３）



SI59
1層 10YR2/2 黒褐色 Ⅴ層由来土φ2～10mm1% Ⅵ層由来土φ1～12mm1% 炭化物少量 焼土少量
2層 10YR2/2 黒褐色 Ⅵ層由来土φ10～25mm1% Ⅴ層由来土φ2～10mm1% 炭化物φ3～10mm1% 焼土少量
3層 10YR2/3 黒褐色 Ⅵ層由来土φ10～25mm5% Ⅴ層由来土φ65mm以下2% 炭化物φ3～10mm1% 焼土少量
4層 10YR2/3 黒褐色 Ⅵ層由来土φ10～50mm15% Ⅴ層由来土φ2～40mm7% 炭化物φ6～30mm2% 焼土少量
5層 10YR2/2 黒褐色 Ⅵ層由来土φ10mm以下1% 炭化物φ1～10mm少量 焼土少量
6層 10YR3/3 暗褐色 Ⅵ層由来土φ10～40mm5% Ⅴ層由来土φ25mm以下3% 焼土少量

図55　第59号竪穴建物跡

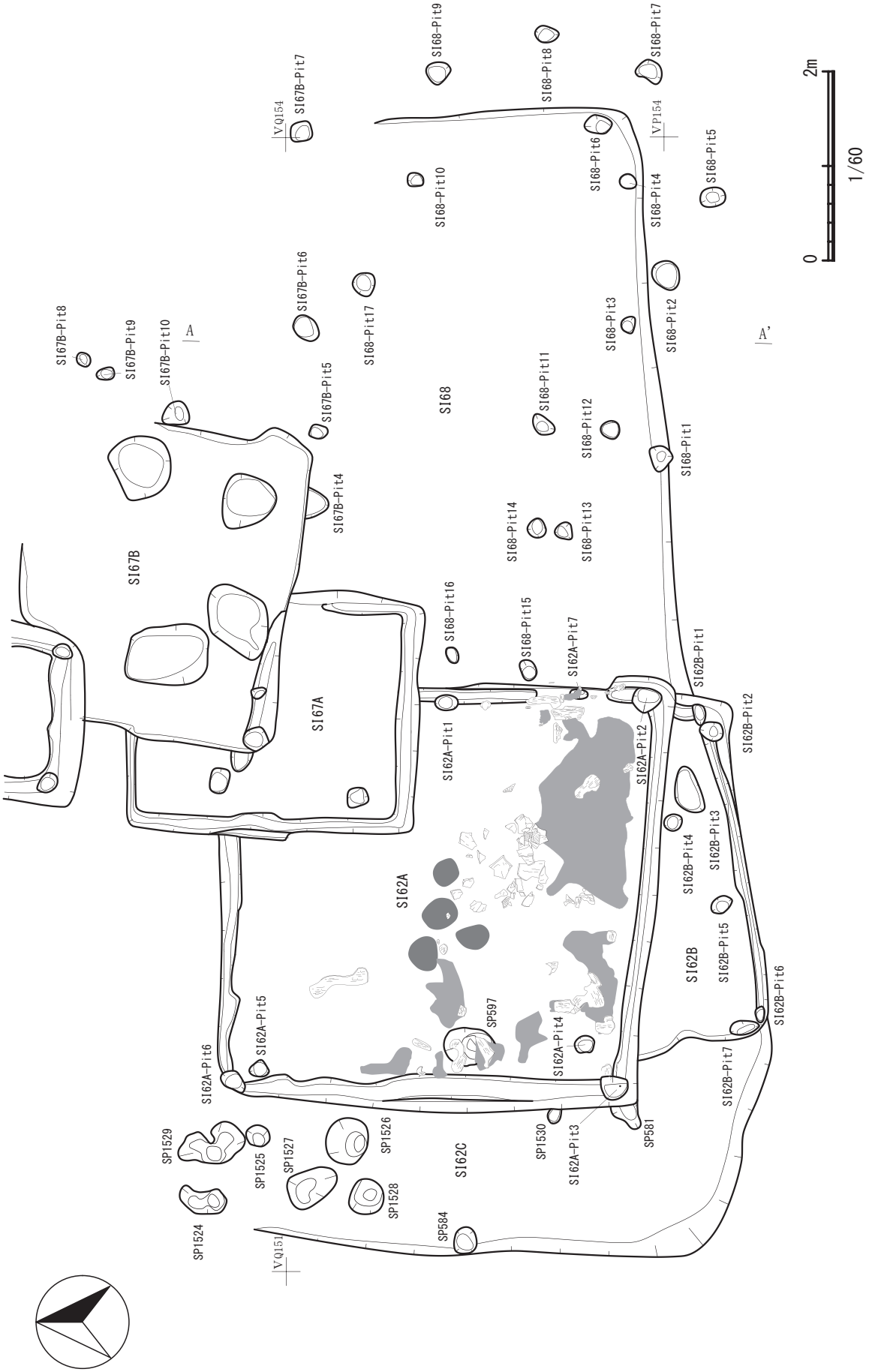
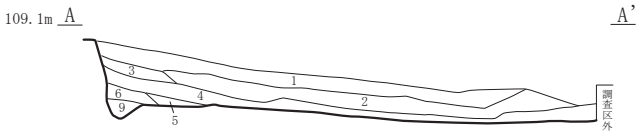
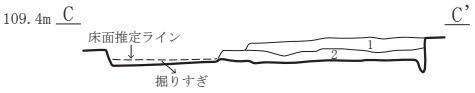
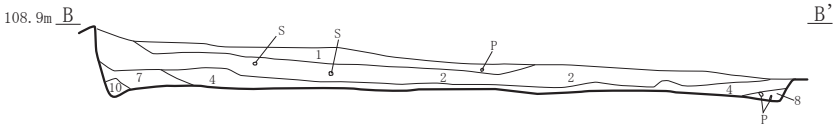


図56　第62･68号竪穴建物跡



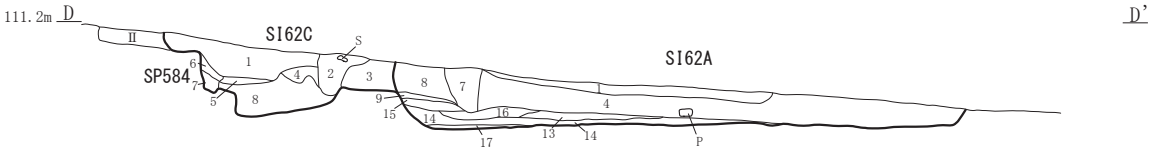


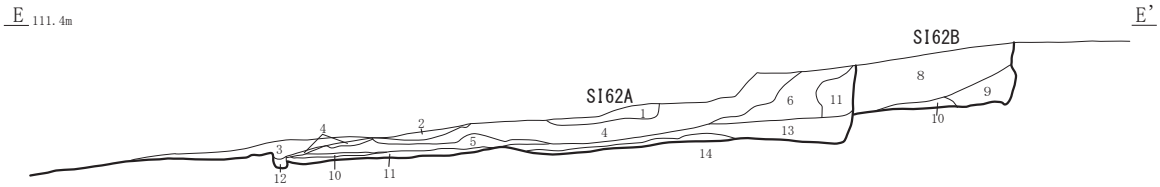
SI67A(C-C')
1層 7.5YR4/3褐色土 礫(φ10mm以下)1% 焼土(φ10mm以下)1% 炭化物(φ2～10mm)
2層 10YR4/4褐色土 Ⅵ層由来(φ10～40mm)20% 礫(φ5～15mm)1% 炭化物(φ5～10mm)



SI66A(A-A'・B-B')
1層 10YR4/4褐色土 Ⅵ層由来小塊(φ2～50mm)10% Ⅶ層由来小塊(φ20mm)1% 炭化物(φ1～10mm)2% 焼土(φ2～5mm)1%
2層 10YR3/4暗褐色土 Ⅵ層由来小塊(φ120mm以下とφ2～50mm以下)30% 炭化物(φ2～30mm)5% 焼土(φ2～5mm)1%
3層 10YR4/3にぶい黄褐色土 Ⅵ層由来小塊(φ2～20mm)5% 炭化物(φ2～8mm)1%
4層 10YR3/4暗褐色土 10YR2/2黒褐色 下部に炭混じりの土30% Ⅵ層由来小塊(φ10～80mm)10% Ⅶ層由来(φ5～40mm)10%
炭化物(φ2～10mm)2% 焼土(φ2～10mm)2%
5層 10YR4/3にぶい黄褐色土 Ⅵ層由来小塊(φ10～30mm)30% Ⅶ層由来小塊(φ10～30mm)5% 炭化物(φ2～5mm)1%
6層 10YR3/3暗褐色土 Ⅵ層由来小塊(φ10～40mm)(5% Ⅶ層由来小塊(φ2～20mm)3% 炭化物(φ3～15mm)(1%
7層 10YR3/4暗褐色土 Ⅵ層由来小塊(φ2～10mm)10% 炭化物(φ2～10mm)1%
8層 10YR3/4暗褐色土 Ⅵ層由来小塊(φ2～10mm)(10% Ⅴ層由来小塊(φ15mm)(1%
9層 10YR3/4暗褐色土 Ⅵ層由来小塊(φ2～15mm)10% Ⅶ層由来小塊(φ2～20mm)2% 炭化物(φ1～5mm)1% 焼土(φ2mm)1%
10層 10YR4/3にぶい黄褐色土 Ⅵ層由来小塊(φ2～50mm)30% 炭化物(φ2～5mm)1%
11層 10YR3/2黒褐色土　Ⅳ層由来小塊(φ3～5mm)30%

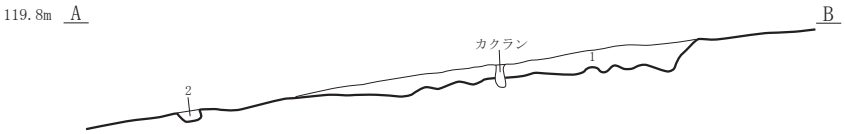
※SI66・67の平面図は図59

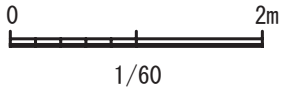




SI62B・C(D-D'・E-E')
1層 10YR2/3黒褐色土 10YR6/8明黄褐色土20% 焼土塊(φ10mm)1%
2層 10YR3/4暗褐色土 10YR4/4褐色土30% 焼土塊1%(φ10mm)
3層 10YR2/3黒褐色土
4層 10YR4/6褐色土 10YR3/4暗褐色土40% 10YR2/3黒褐色土25% 浮石(φ30mm)3%
5層 10YR4/6褐色土 10YR3/4暗褐色土40% 10YR2/3黒褐色土40% 浮石(φ5mm)1%
6層 10YR2/3黒褐色土10mm 浮石1%
7層 10YR2/2黒褐色土 浮石(φ1mm～5mm)15%
8層 10YR4/2灰黄褐色土 Ⅳ層起源小塊3%
9層 10YR2/1黒色土 Ⅴ層小塊3% Ⅳ層起源中塊(φ5～6cm)10%
10層 10YR3/4暗褐色土　10YR4/6褐色土45%浮石(φ5mm)3%焼土塊(φ5mm)1%
11層 10YR4/6 褐色土10YR3/4暗褐色土40%浮石(φ2mm)15%

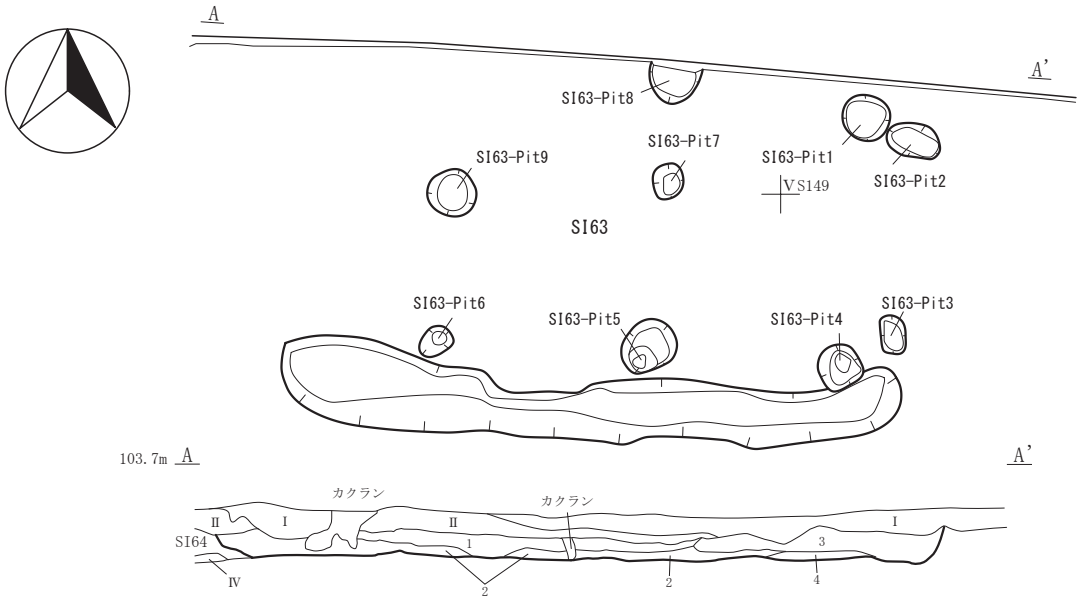
SI62A(D-D'・E-E')
1層 10YR2/3黒褐色土(φ5mm)焼土塊3% (φ15mm)浮石1%
2層 10YR3/4暗褐色土(φ5mm～10mm)浮石2%
3層 10YR2/3黒褐色土 10YR4/4 40% (φ5mm～15mm)浮石2%
4層 10YR4/4褐色土 10YR4/6褐色土20% (φ5mm～10mm)焼土塊3% (φ5mm)炭化物1%
5層 10YR3/4暗褐色土 5YR3/6暗赤褐色土　40%10YR5/8黄褐色土3%(φ5～10mm)炭化物2%、
(φ10mm)焼土塊1%
6層 10YR3/4暗褐色土 10YR4/6褐色土15%(φ3mm)炭化物6%(φ5mm)焼土塊1%
7層 10YR3/3暗褐色土 10YR5/6黄褐色土30% (φ3mm)焼土塊1%
8層 10YR2/3黒褐色土 10YR4/4褐色土40% 10YR4/4 40% (φ10mm)炭化物1%
9層 10YR3/2黒褐色土
10層 10YR3/4暗褐色土10YR4/4褐色土40%(φ1～10mm)炭化物１%
11層 10YR5/4にぶい黄褐色土　粘性強
12層 10YR4/2灰黄褐色土　炭化物粒　1%
13層 5YR 5/6明赤褐色土
14層 5YR4/6赤褐色土
15層 10YR4/2灰黄褐色土
16層 10YR4/2灰黄褐色土Ⅳ層10%炭化物(φ5～10mm)10%
17層 10YR1.7/1黒色土　炭化物50%



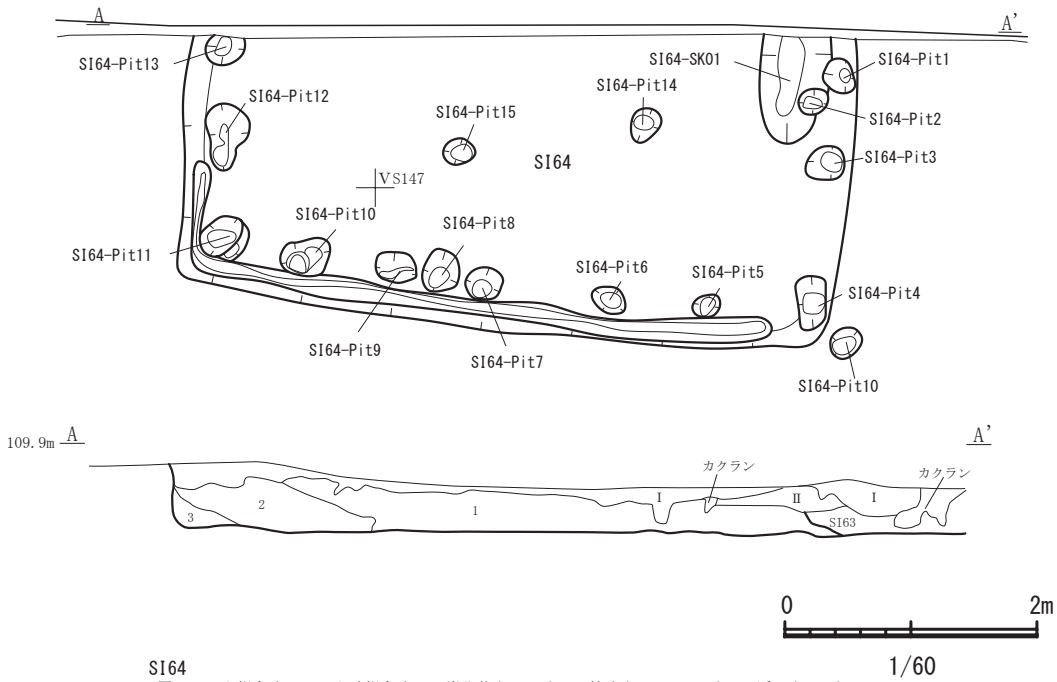


SI68
1層 10YR4/2灰色土 Ⅴ層由来浮石3% 炭化物小塊(φ10mm)1%
2層 10YR5/2灰褐色土 炭化物粒1%

図57　第62A・62B・62C・66A号竪穴建物跡



SI63
1層　10YR3/3暗褐色土　10YR4/3にぶい黄褐色土10%焼土粒（φ5mm）1%
2層　10YR6/6明黄褐色土　10YR4/4褐色土10%
3層　10YR4/3にぶい黄褐色土　炭化物（φ1mm～3mm）1%
4層　10YR4/4 褐色土　炭化物粒（φ1mm）1%



SI64
1層　10YR4/4褐色土　10YR3/4暗褐色土10%　炭化物（φ10mm）10%　焼土（φ1mm～10mm）1%　浮石（φ1mm）1%
2層　10YR4/4褐色土　10YR5/6黄褐色土10%　Ⅵ層由来ローム10%　炭化物（φ10mm）1%　Ⅴ層由来1%　浮石（φ5mm）1%
3層　10YR4/4褐色土　Ⅵ層由来ローム30%　10YR3/4暗褐色土1%　浮石（φ5mm）1%　焼土粒（φ1mm）1%

図58　第63・64号竪穴建物跡

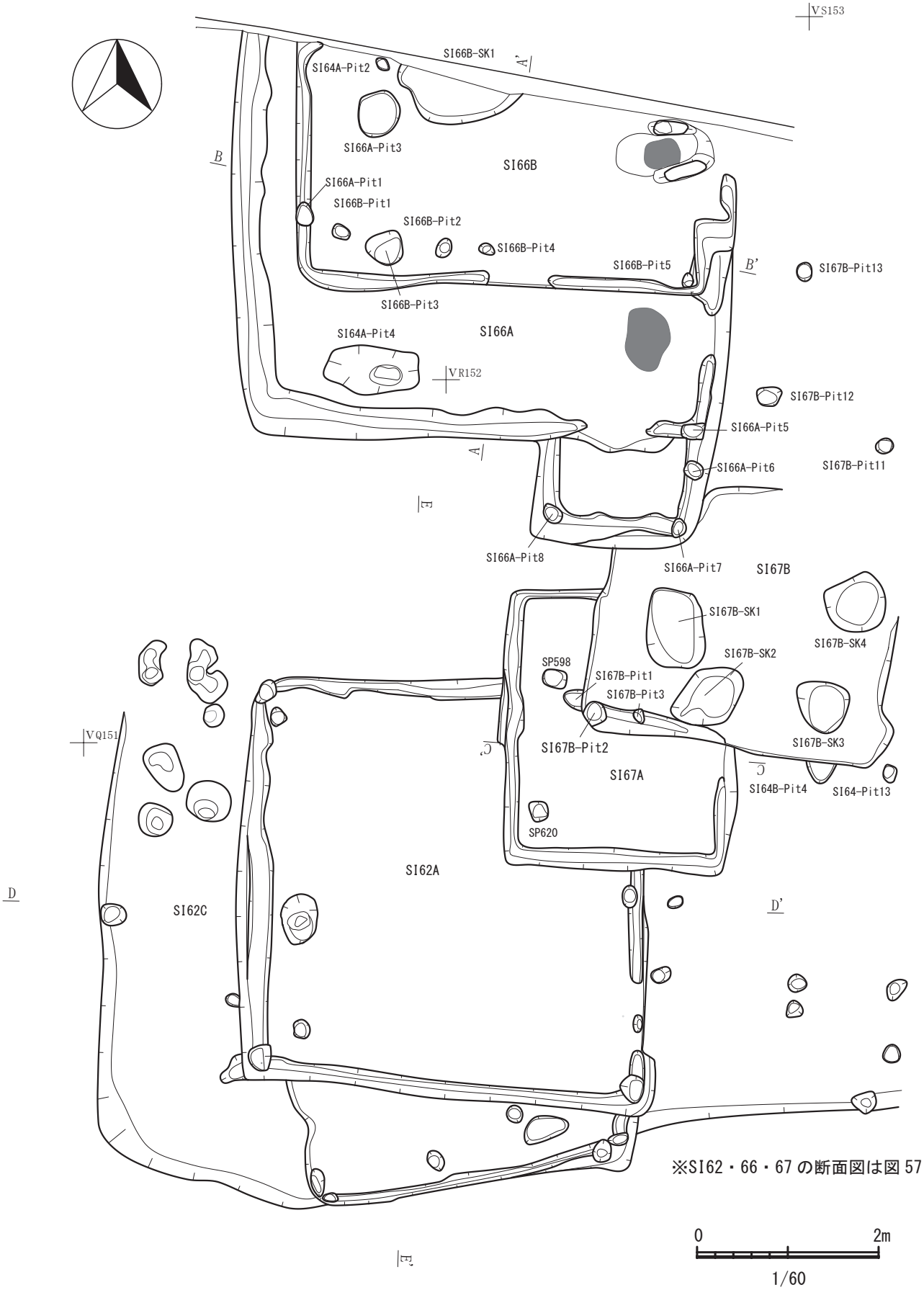
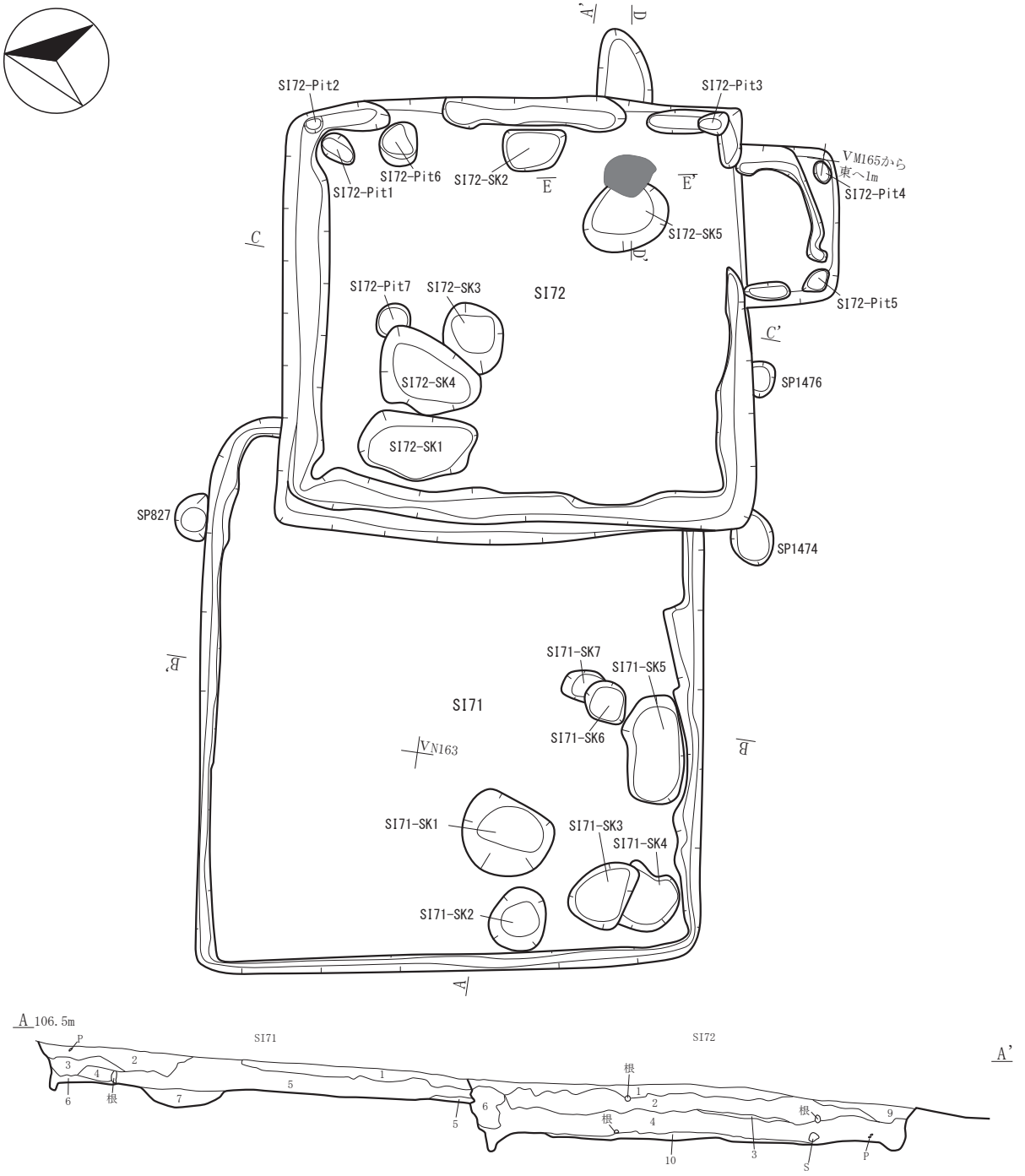


図59　第66A・66B・67A・67B号住居跡



SI71

1層 10YR2/2黒褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～10㎜）2% Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～50㎜）3% Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～5㎜）1%
焼土ブロック（φ1～3㎜）1% 炭化物（φ1～10㎜）2%

2層 10YR3/3暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～15㎜）3% Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～50㎜）10% Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～2㎜）1%
焼土ブロック（φ1～5㎜）1% 炭化物（φ1～30㎜）2%

3層 10YR3/4暗褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～30㎜）5% 焼土ブロック（φ1～50㎜）30% 炭化物（φ1～30㎜）40%

4層 10YR3/4暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～40㎜）5% Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～100㎜）30% Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～5㎜）1%
焼土ブロック（φ1～20㎜）2% 炭化物（φ1～50㎜）20%

5層 10YR4/3にぶい黄褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～100㎜）60% Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～40㎜）10% 焼土ブロック（φ～1㎜）1% 炭化物（φ1～3㎜）2%

6層 10YR4/4褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～30㎜）1% Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～100㎜）40% 焼土ブロック（φ1～3㎜）1% 炭化物（φ1～2㎜）1%

7層 10YR3/2黒褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～30㎜）2% Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～20㎜）5% 焼土ブロック（φ～1㎜）1% 炭化物（φ1～2㎜）1%

8層 10YR2/2黒褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～2㎜）7% Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～50㎜）5% 焼土ブロック（φ1～5㎜）1% 炭化物（φ1～5㎜）3%

9層 10YR3/3 暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～3㎜）1% Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～30㎜）3% 焼土ブロック（φ5～20㎜）1% 炭化物（φ1～3㎜）1%

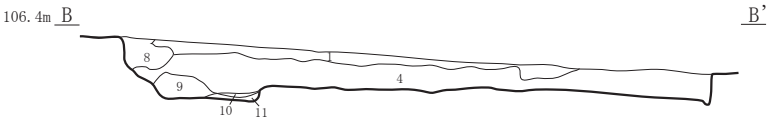
10層 10YR2/1 黒色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～60㎜）15% 炭化物（φ1～20㎜）80%

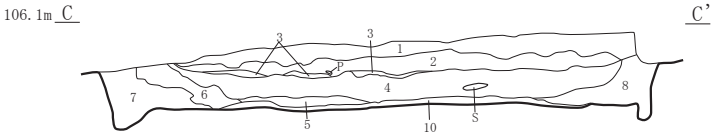
■ カマド 火床面範囲

0 2m

1/60

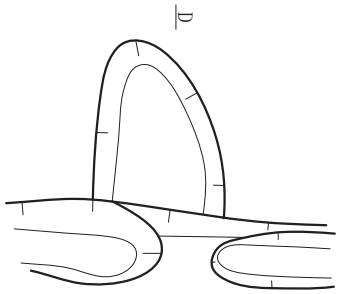
図60 第71・72号竪穴建物跡（1）

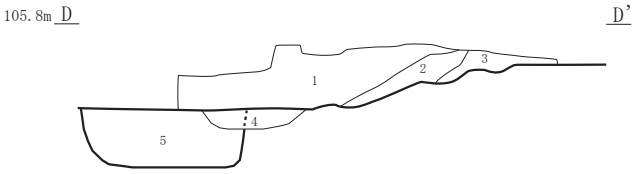


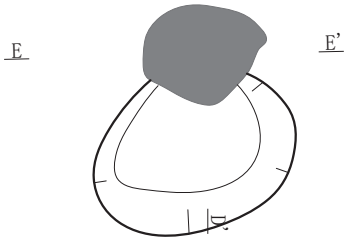


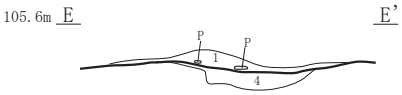
SI72
1層 10YR2/2黒褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～10mm）2% Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～50mm）3% Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～5mm）1%
焼土ブロック（φ1～3mm）1% 炭化物（φ1～10mm）2%
2層 10YR2/3 黒褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～50㎜）15% Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～20㎜）1% 焼土ブロック（φ1～30㎜）1% 炭化物（φ1～15㎜）1%
3層 10YR2/3 黒褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ10～15㎜）1% Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～50㎜）15% 炭化物（φ1～10㎜）1% 焼土ブロック（φ1～2㎜）極少
4層 10YR3/3 暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～40㎜）1% Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～50㎜）50% 炭化物（φ1～10㎜）1% 焼土ブロック（φ1～10㎜）1%
5層 10YR2/1 黒色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～10㎜）1% 焼土ブロック（φ1～3㎜）1% 炭化物（φ1～20㎜）90%
6層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～5㎜）1% Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～50㎜）70% 炭化物（φ1～20㎜）20%
7層 10YR2/2 黒褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～10㎜）1% Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～50㎜）5% 焼土ブロック（φ5～40㎜）1% 炭化物（φ～1㎜）極少
8層 10YR2/3黒褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～5mm）2% Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～30mm）3% Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～2mm）1% 焼土ブロック（φ1～3mm）1%
炭化物（φ1～3mm）2%
9層 10YR3/3暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～10mm）3% Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～30mm）3% 焼土ブロック（φ～1mm）1% 炭化物（φ1～3mm）5%
10層 10YR3/4にぶい黄褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ～1mm）1% Ⅵ層由来（φ1～10mm）2% 焼土ブロック（φ1～5mm）2% 炭化物（φ1～20mm）60%
11層 10YR4/6褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～2mm）1% 焼土ブロック（φ1～30mm）2% 炭化物（φ1～20mm）2%

0　2m
1/60





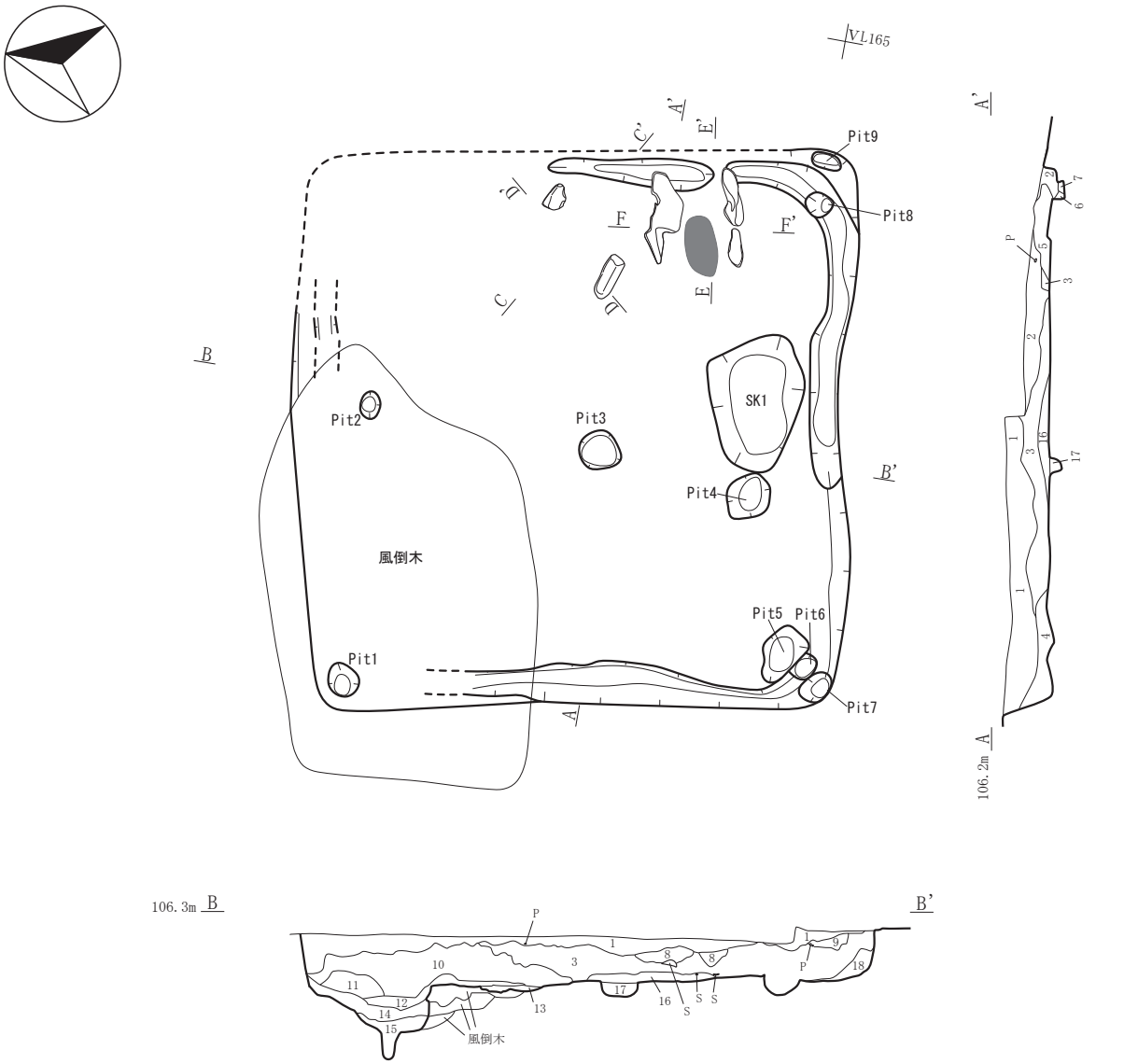




SI72カマド
1層 10YR3/4暗褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～100mm）30% 焼土ブロック（φ1～30mm）30% 炭化物（φ1～5mm）5%
2層 10YR4/4褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～10mm）3% 焼土ブロック（φ1～20mm）5% 炭化物（φ1～10mm）10%
3層 10YR2/3黒褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～2mm）1% Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～10mm）1%
焼土ブロック（φ1～2mm）1% 炭化物（φ1～2mm）1%
4層 5YRにぶい赤褐色4/4　火床面
5層 10YR3/3暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～2mm）1% Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～10mm）1%　SI72-SK5覆土

カマド 火床面範囲
0　1m
1/30

図61　第71・72号竪穴建物跡（２）



SI73

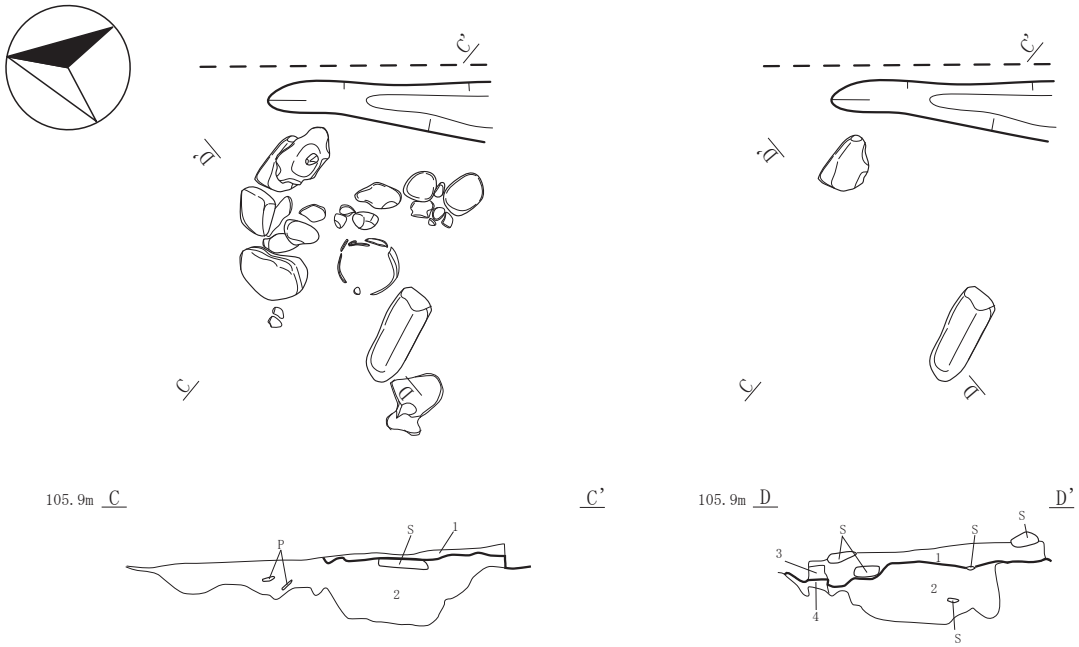
1層 10YR2/3黒褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～40mm）5% Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～20mm）5% 焼土ブロック（φ1～20mm）3% 炭化物（φ1～10mm）3%
2層 10YR4/3暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～20mm）3% Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～50mm）10% 焼土ブロック（φ1～5mm）3% 炭化物（φ1～10mm）5%
3層 10YR3/3暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～5mm）1% Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～20mm）20% Ⅶ層由来ロームブロック（φ2～10mm）2%
焼土ブロック（φ1～5mm）1% 炭化物（φ1～5mm）5%
4層 10YR3/4暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～20mm）2% Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～30mm）15% Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～20mm）5%
焼土ブロック（φ～1mm）1% 炭化物（φ1～10mm）5%
5層 10YR4/4褐色土 カマド②粘土
6層 10YR2/2黒褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～10mm）15% 炭化物（φ1～5mm）30%
7層 10YR4/6褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～2mm）25% 炭化物（φ1～3mm）10%
8層 10YR2/3黒褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ8～10mm）1% Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～15mm）1%
9層 10YR3/4暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ10mm）1% 焼土ブロック（φ1～5mm）1% 炭化物（φ1～2mm）1% Ⅶ層由来ロームブロック（φ3～10mm）1%
10層 10YR3/3暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～30mm）1% Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～80mm）2% 焼土ブロック（φ1～15mm）1% 炭化物（φ1～10mm）1% 小礫極少
11層 10YR3/3暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ～5mm）1% Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～30mm）3% 焼土ブロック（φ1～15mm）1% 炭化物（φ1～10mm）
12層 10YR3/4暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ5～10mm）1% Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～200mm）20% 焼土ブロック（φ1～50mm）40% 炭化物（φ1～20mm）20%
13層 10YR3/4暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～30mm）1% Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～50mm）80% 焼土ブロック（φ1～10mm）1% 炭化物（φ1～10mm）3%
14層 10YR4/4褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～10mm）1% Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～30mm）2% 焼土ブロック（φ1～10mm）1% 炭化物（φ1～5mm）1%
15層 10YR3/4暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ～10mm）1% Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～110mm）20% 炭化物（φ1～10mm）2%
16層 10YR3/3暗褐色 Ⅴ層由来ロームブロック（φ3～8mm）1% Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～40mm）2% 焼土ブロック（φ1～5mm）1% 炭化物（φ1～5mm）1%
17層 10YR3/1黒褐色 Ⅴ層由来ロームブロック（φ5～30mm）2% Ⅶ層由来ロームブロック（φ10～50mm）15%
18層 10YR3/4暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ10～50mm）30% Ⅶ層由来ロームブロック（φ10～20mm）7% 炭化物極少

■ カマド 火床面範囲

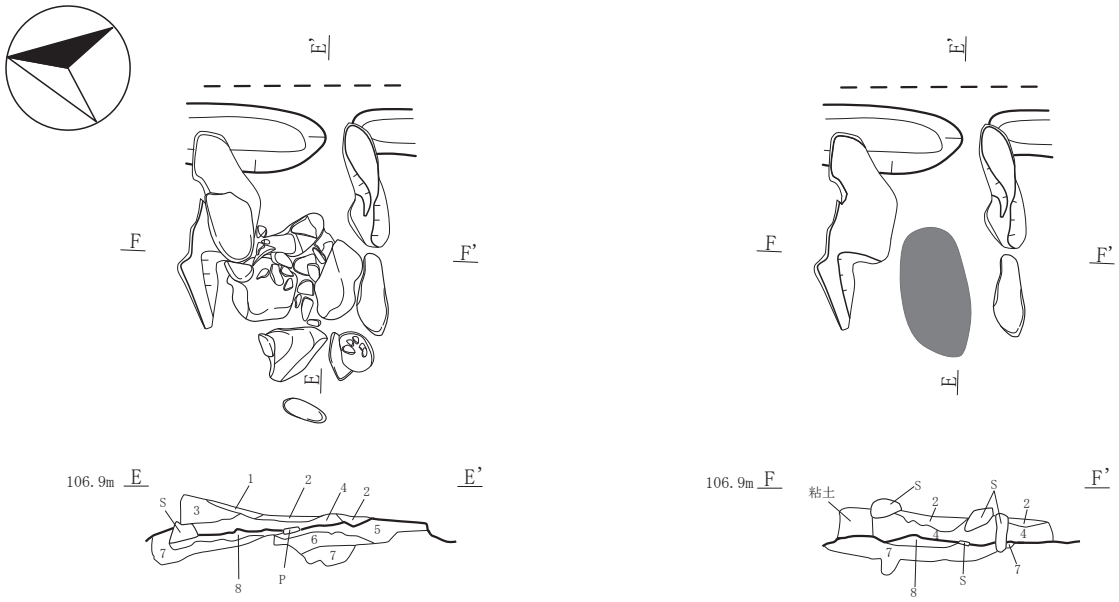
0 2m

1/60

図62 第73号竪穴建物跡（1）



SI73カマド①
1層　10YR4/3にぶい黄褐色土　Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～5mm）2%　Ⅵ層由来ロームブロック（φ2～10mm）2%　Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～15mm）5%
　　焼土ブロック（φ1～8mm）3%　炭化物（φ1～5mm）2%
2層　7.5YR4/4褐色土　Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～5mm）1%　Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～10mm）2%　Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～20mm）5%
　　焼土ブロック（φ1～20mm）5%　炭化物（φ1～10mm）2%
3層　10YR4/3にぶい黄褐色土　焼土ブロック（φ1～2mm）1%　炭化物（φ1～2mm）1%
4層　10YR3/2黒褐色土　Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～10mm）10%　焼土ブロック（φ～1mm）

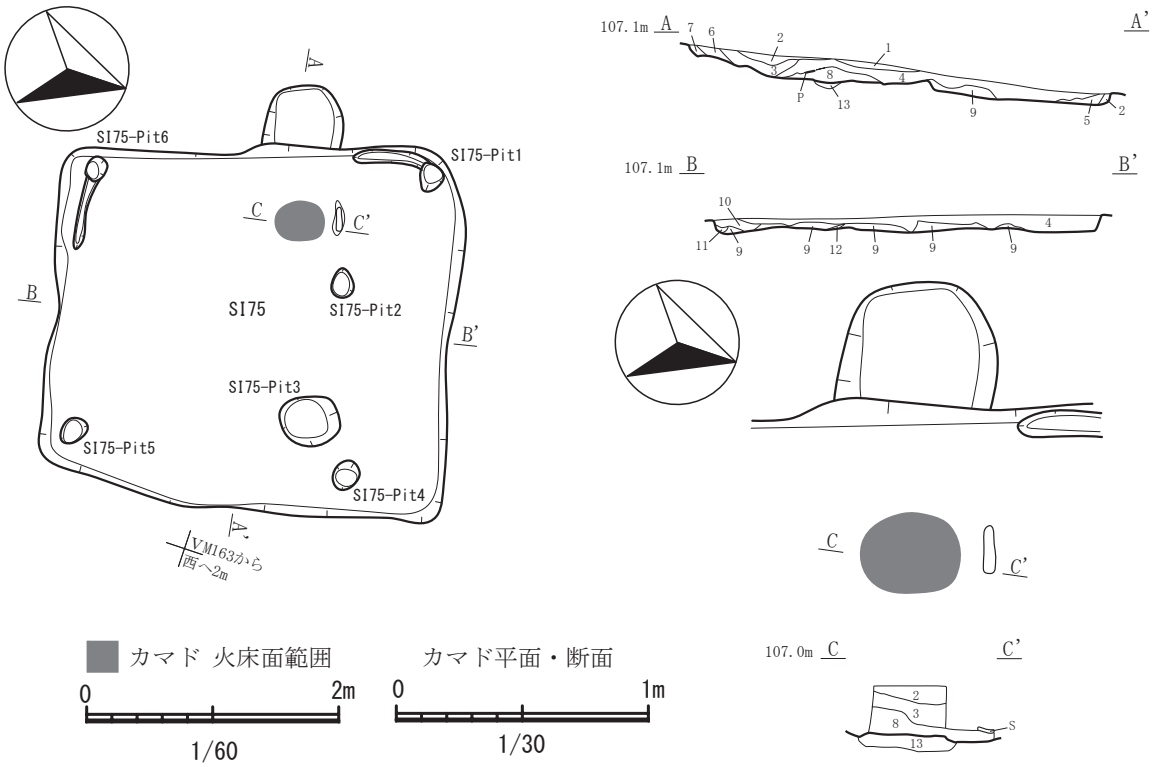


SI73カマド②
1層　10YR2/3黒褐色土　Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～5mm）1%　Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～20mm）5%　焼土ブロック（φ～1mm）1%　炭化物（φ1～5mm）1%
2層　10YR3/3暗褐色土　Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～3mm）1%　Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～20mm）3%　焼土ブロック（φ1～20mm）5%　炭化物（φ～1mm）1%
3層　10YR3/4暗褐色土　Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～5mm）1%　Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～20mm）5%　焼土ブロック（φ1～20mm）3%　炭化物（φ1～10mm）1%
4層　7.5YR3/4暗褐色土　Ⅴ層由来ロームブロック（φ～1mm）1%　Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～10mm）2%　炭化物（φ～1mm）1%
5層　10YR2/3黒褐色土　Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～5mm）1%　Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～10mm）3%　焼土ブロック（φ1～10mm）3%　炭化物（φ1～5mm）1%
6層　10YR3/4暗褐色土　Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～10mm）1%　Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～20mm）3%　焼土ブロック（φ1～10mm）1%　炭化物（φ～1mm）1%
7層　10YR2/2黒褐色土　Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～20mm）3%　Ⅶ層由来ロームブロック（φ5～30mm）10%　炭化物（φ～1mm）1%
8層　5YR5/8明赤褐色土

カマド　火床面範囲

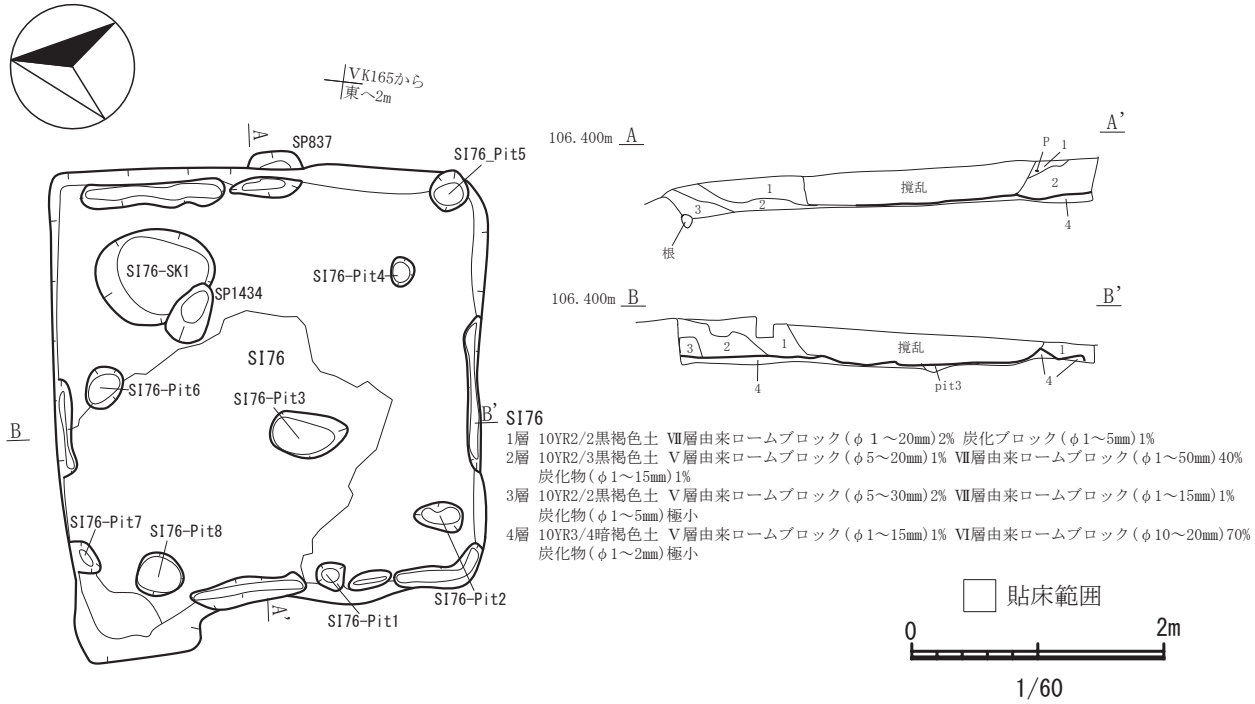
0　1m
1/30

図63　第73号竪穴建物跡（２）



SI75

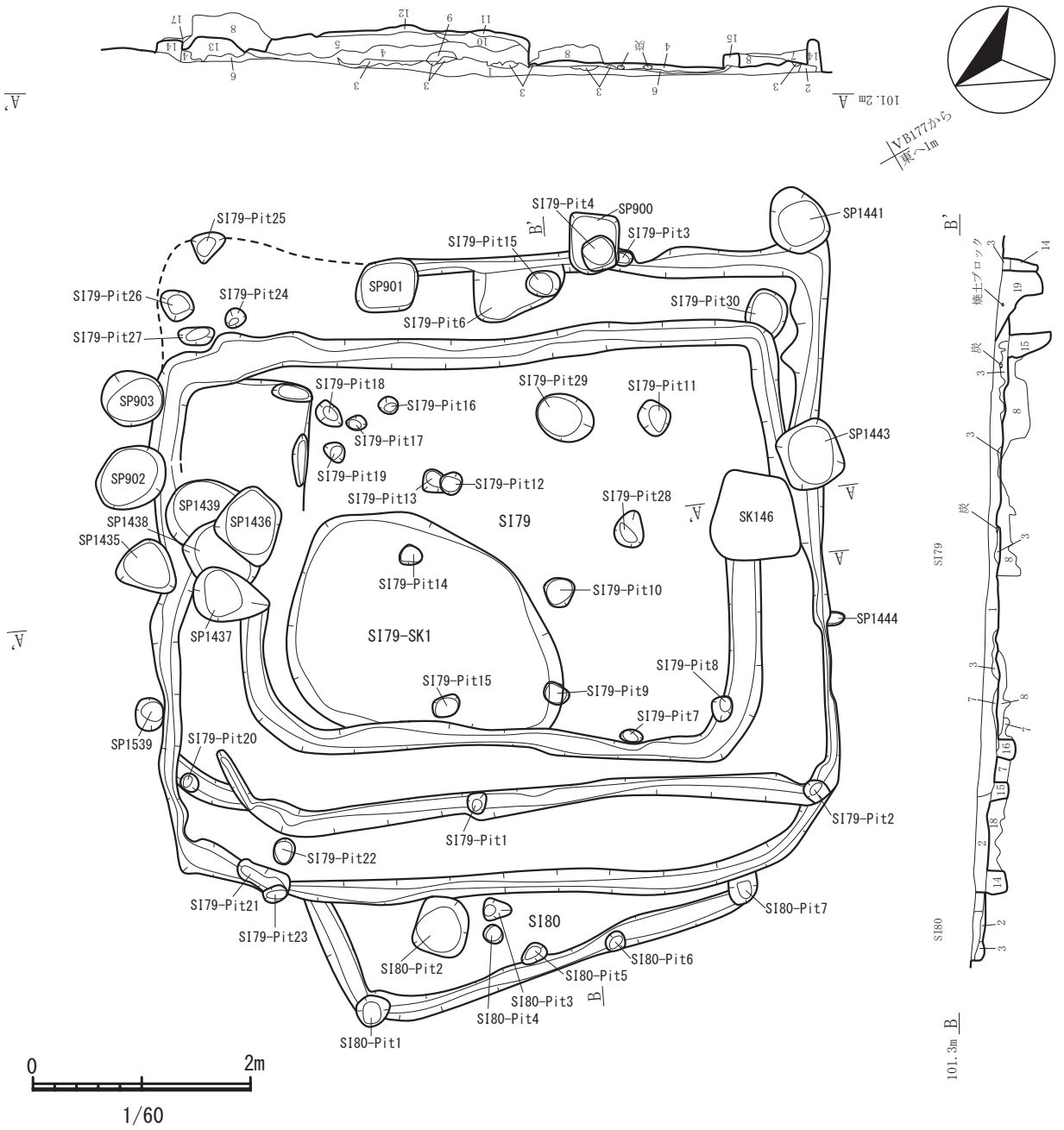
1層 10YR2/3黒褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～5mm）1% Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～50mm）7% 焼土ブロック（φ1～10mm）1% 炭化物（φ1～5mm）1%
2層 10YR3/3暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～10mm）1% Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～5mm）3% 粘土ブロック（φ1～50mm）10%
焼土ブロック（φ1～10mm）1% 炭化物（φ1～10mm）1%
3層 10YR3/4暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ～1mm）1% Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～100mm）10% 焼土ブロック（φ1～20mm）7% 炭化物（φ1～5mm）1%
4層 10YR2/3黒褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～10mm）5% Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～10mm）5% 粘土ブロック（φ～10mm）1% 焼土ブロック（φ1～30mm）1%
炭化物（φ1～10mm）1%
5層 10YR4/6褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ2～50mm）3% 焼土ブロック（φ～1mm）1% 炭化物（φ～1mm）1%
6層 10YR2/3 黒褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～10mm）1% Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～5mm）1% 粘土ブロック（φ1～50mm）10%
焼土ブロック（φ1～30mm）15% 炭化物（φ1～10mm）1%
7層 10YR3/4暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～30mm）10% Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～10mm）5% 焼土ブロック（φ1～3mm）1% 炭化物（φ1～3mm）1%
8層 10YR2/3 黒褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～15mm）1% Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～150mm）7% 粘土ブロック（φ1～20mm）3%
焼土ブロック（φ1～30mm）25% 炭化物（φ1～5mm）1%
9層 10YR3/4 暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～30mm）3%
10層 10YR2/3黒褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～10mm）3% Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～50mm）15% 焼土ブロック（φ～1mm）1% 炭化物（φ～1mm）1%
11層 10YR2/3黒褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ～10mm）1% 炭化物（φ～1mm）1%
12層 10YR3/4暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ 1 ～20mm）25% Ⅵ層由来ロームブロック（φ～20mm）20% 炭化物（φ1～5mm）1%
13層 2.5YR5/8明赤褐色土 火床面



SI76

1層 10YR2/2黒褐色土 Ⅶ層由来ロームブロック（φ 1 ～20mm）2% 炭化ブロック（φ1～5mm）1%
2層 10YR2/3黒褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ5～20mm）1% Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～50mm）40%
炭化物（φ1～15mm）1%
3層 10YR2/2黒褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ5～30mm）2% Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～15mm）1%
炭化物（φ1～5mm）極小
4層 10YR3/4暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～15mm）1% Ⅵ層由来ロームブロック（φ10～20mm）70%
炭化物（φ1～2mm）極小

図64　第75・76号竪穴建物跡



SI79

1層 10YR2/3黒褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ1～20mm)2% Ⅵ層由来ロームブロック(φ1～30mm3)% 焼土ブロック(φ1～40mm)5% 炭化物(φ1～30mm)3%
2層 10YR3/3暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ1～15mm)5% Ⅵ層由来ロームブロック(φ1～20mm)7% 焼土ブロック(φ1～2mm)1% 炭化物(φ1～5mm)2%
3層 10YR3/3暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ1～2mm)1% Ⅵ層由来ロームブロック(φ1～30mm)30% 炭化物(φ1～10mm)5%
4層 10YR3/3暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ1～30mm)80% Ⅵ層ロームブロック(φ1～10mm)5% 焼土ブロック(φ1～2mm)1% 炭化物(φ1～5mm)1%
5層 10YR2/3黒褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ1～20mm)5% Ⅵ層由来ロームブロック(φ1～20mm)7% 焼土ブロック(φ1～15mm)2% 炭化物(φ1～2mm)1%
6層 5YR4/4にぶい赤褐色土 焼土(φ1～25mm)70% 炭化物(φ1～5mm)7%
7層 10YR3/4暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ1～20mm)20% Ⅵ層由来ロームブロック(φ1～5mm)1% 焼土ブロック(φ1～3mm)1% 炭化物(φ1～30mm)3%
8層 10YR2/3暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ2～20mm)20% Ⅵ層由来ロームブロック(φ1～3mm)1% 焼土ブロック(φ1～2mm)1% 炭化物(φ1～5mm)3% 貼床
9層 10YR2/3黒褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ1～20mm)7% Ⅵ層由来ロームブロック(φ1～40mm)7% 焼土ブロック(φ1～2mm)1% 炭化物(φ1～3mm)3%
10層 10YR3/4暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ1～20mm)20% Ⅵ層由来ロームブロック(φ1～50mm)7% 焼土ブロック(φ1～3mm)1% 炭化物(φ1～5mm)2%
11層 10YR4/4褐色土 焼土ブロック(φ～1mm)1% 炭化物(φ～1mm)1%
12層 10YR4/6褐色土 焼土ブロック(φ～1mm)1% 炭化物(φ～1mm)1%
13層 10YR3/1黒褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ1～10mm)2% Ⅵ層由来ロームブロック(φ1～5mm2)% 焼土ブロック(φ1～30mm)3% 炭化物(φ1～5mm)3%
14層 10YR3/1暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ1～10mm)3%
15層 10YR3/1暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ1～10mm)3%
16層 10YR3/3暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ1～5mm)1%
17層 10YR3/3暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ1～5mm)20% Ⅵ層由来ロームブロック(φ1～2mm)2% 炭化物(φ1～2mm)1%
18層 10YR2/3暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ2～30mm)5% Ⅵ層由来ロームブロック(φ1～10mm)2% 焼土ブロック(φ1～5mm)1% 炭化物(φ1～5mm)3%
19層 10YR2/3黒褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ1～40mm)10% Ⅵ層由来ロームブロック(φ1～10mm)7% 焼土ブロック(φ1～2mm)1% 炭化物(φ1～5mm)2% SP1437覆土

SI80

1層 10YR2/2黒褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ1～10mm)2% Ⅵ層由来ロームブロック(φ1～10mm)2% 炭化物(φ1～2mm)2%
2層 10YR3/4暗褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック(φ1～10mm)10% 焼土ブロック(φ1～3mm)1% 炭化物(φ1～20mm)3%
3層 10YR2/3暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ1～5mm)3% Ⅵ層由来ロームブロック(φ1～5mm)3% 焼土ブロック(φ～1mm)1% 炭化物(φ1～3mm)2%

図65　第79・80号竪穴建物跡（１）

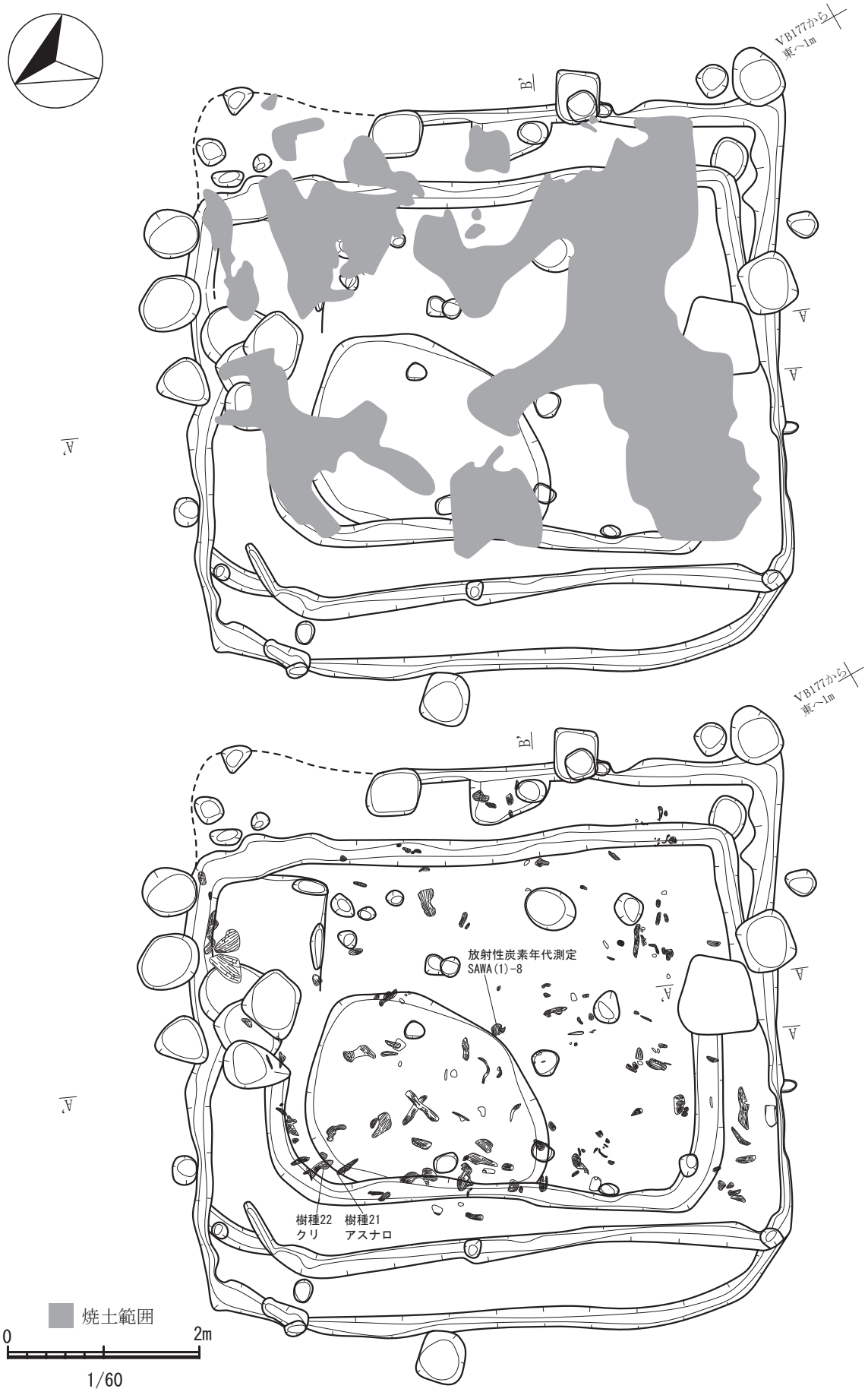
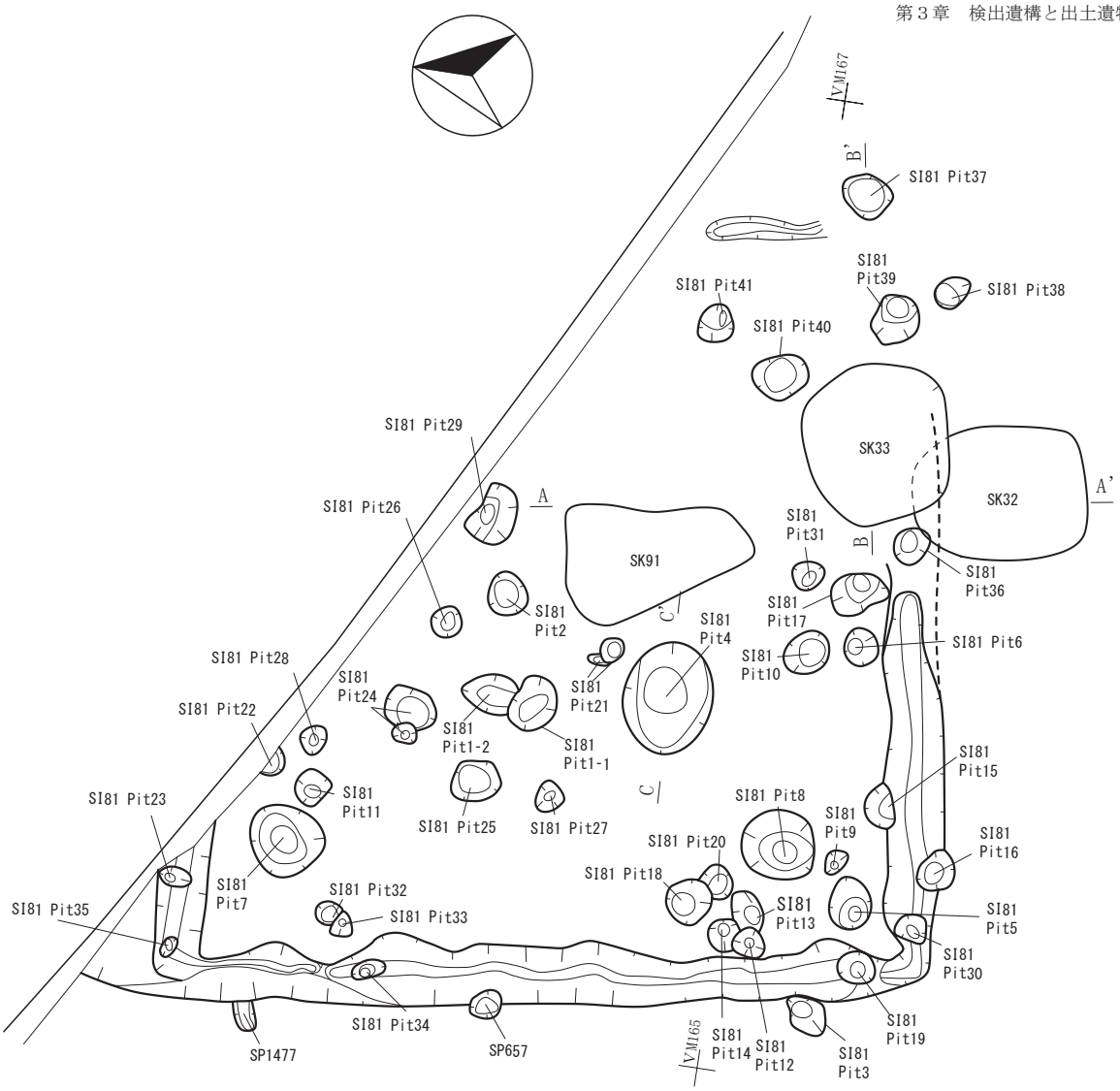
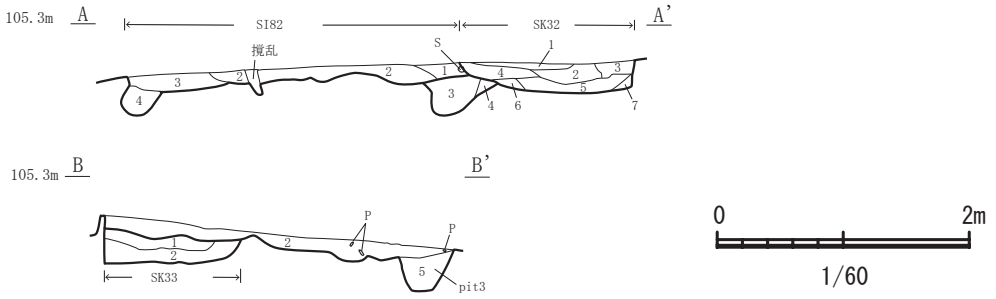


図66　第79・80号竪穴建物跡（２）



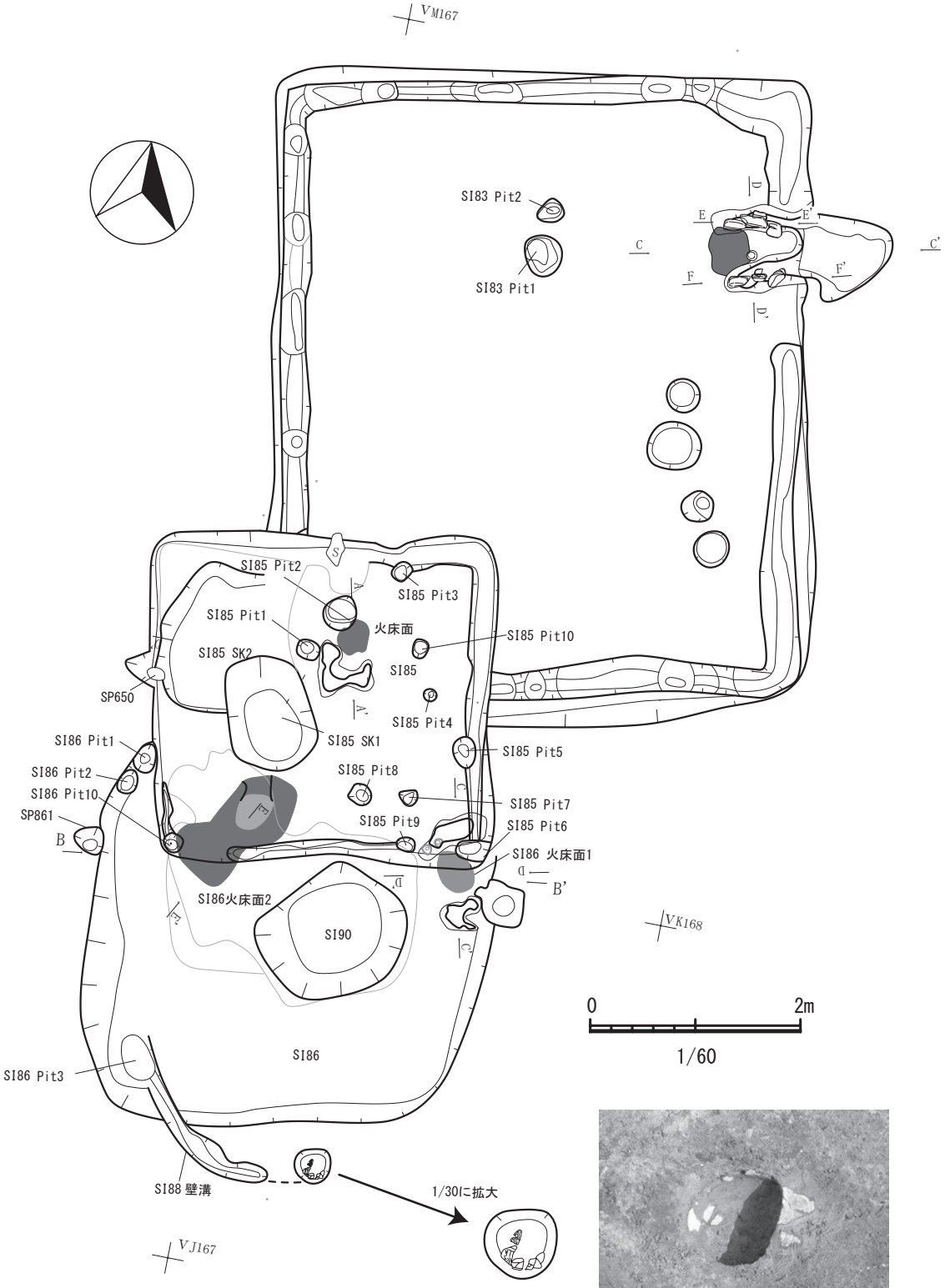


SI82
1層 10YR2/3 黒褐色土 黄褐色土(10YR5/8)1% 丸礫φ50mm1点 浮石φ1～10mm1% 土器1点
2層 10YR3/4 暗褐色土 にぶい褐色土(7.5YR5/4)2% 黄褐色土(10YR5/8)中塊φ20% 浮石φ2～10mm1% 炭化物φ1～5mm 土器片3点
3層 10YR3/4 暗褐色土 黒褐色土(10YR2/2)20% 黄褐色土(10YR5/6)極小粒1% 浮石φ1mm1% 炭化物φ5mm1%
4層 10YR4/4 褐色土 暗褐色土(10YR3/4)10% 褐色土(10YR4/6)10% 浮石φ1mm1%
5層 10YR2/3 黒褐色土　褐色土(10YR4/6)1% 黄褐色土(10YR5/8)1% 浮石φ1mm1% 炭化物φ1mm1%

SK32
1層 10YR3/4 暗褐色土 褐色土(10YR4/6)極小粒1% 浮石φ1～2mm1% 炭化物φ1～2mm1%
2層 10YR2/2 黒褐色土 褐色土(10YR4/6)10% 浮石φ1mm1% 炭化物φ5mm1%
3層 10YR2/3 黒褐色土 褐色土(10YR4/6)極小粒1% 赤褐色土(5YR4/8)φ3mm1% 炭化物φ1～3mm1%
4層 10YR3/3 暗褐色土 褐色土(10YR4/6)5% 浮石φ10mm1% 炭化物φ1～5mm1%
5層 10YR2/3 黒褐色土 褐色土(10YR4/4)10% 浮石φ10mm1% 炭化物φ1mm1%
6層 10YR3/4 暗褐色土 黄褐色土(10YR5/8)15% 褐色粘土(10YR4/6)小塊φ20mm 炭化物φ1～2mm1%
7層 10YR3/4 暗褐色土 褐色土(10YR4/6)極小粒混合 浮石φ1～5mm1%

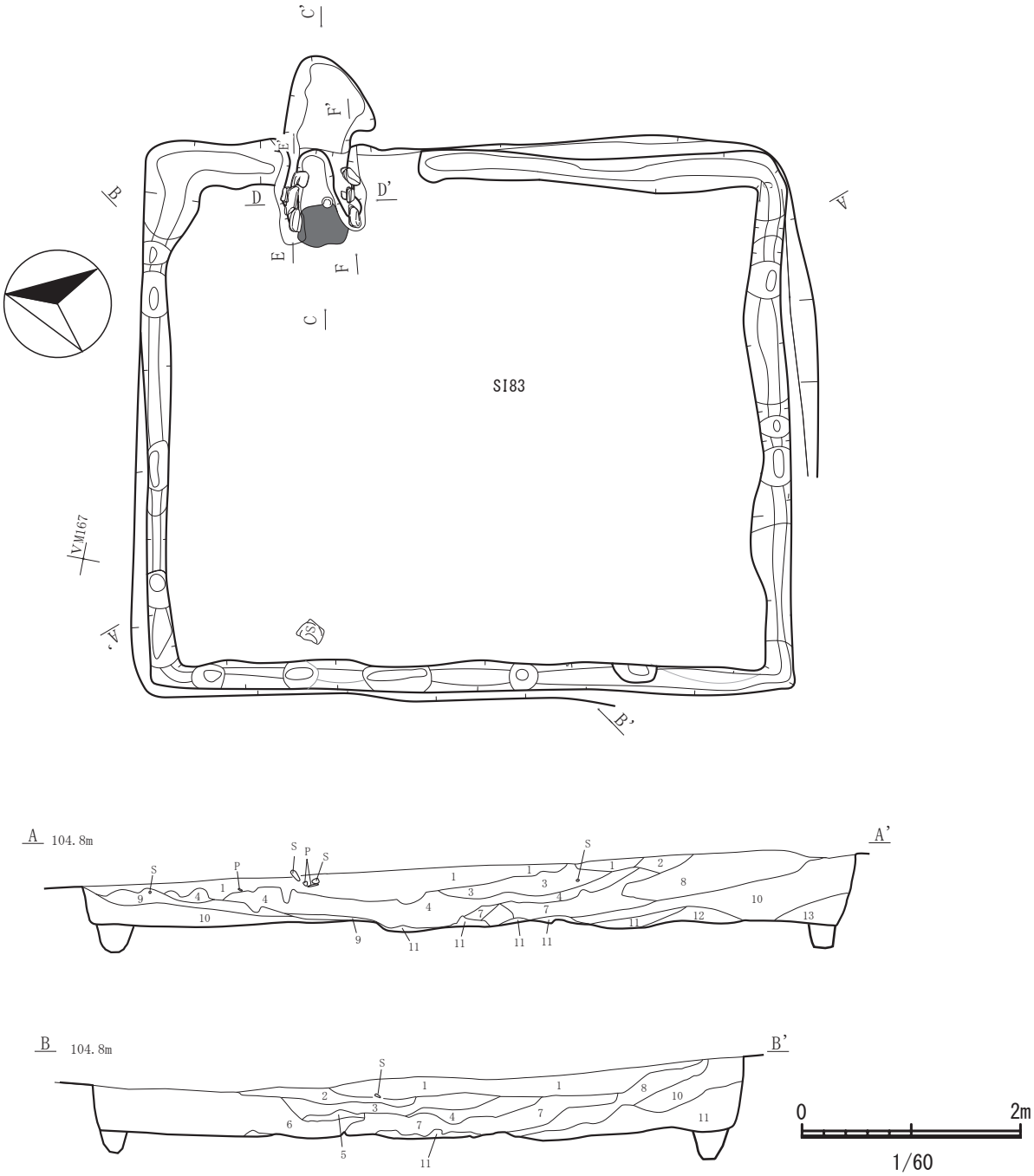
SK33
1層 10YR3/4 暗褐色土 褐色土(10YR4/6)10% 黄褐色土(10YR5/8)1% 浮石φ3～20mm1% 炭化物φ1～5mm1%
2層 10YR3/4 暗褐色土 褐色土(10YR4/6)10% 浮石φ1～10mm1% 炭化物φ1～5mm1%
3層 10YR3/3 暗褐色土 褐色土(10YR4/6)15% 赤褐色土(5YR4/8)φ5mm1% 浮石φ1～2mm1% 炭化物φ1～2mm1%
4層 10YR3/4 暗褐色土 黄褐色土(10YR5/8)2%　浮石φ1mm1% 炭化物φ5mm1%

図67　第81・82号竪穴建物跡



縄文時代晩期初頭の土器出土状況

図68　第83・85・86・88号竪穴建物跡（1）



SI83
1層 10YR2/2 黒褐色土 褐色土(10YR4/6)15% 浮石φ1～10mm10% 炭化物φ1～3mm1% 角礫1点 土器片1点
2層 10YR4/6 褐色土 黒褐色土(10YR2/3)5% 黄褐色粘土(10YR5/8)(Ⅶ層由来)5% 浮石φ1～15mm1% 炭化物φ1～2mm1%
3層 10YR2/1 黒色土 褐色土(10YR4/6)10% 黄褐色土(10YR5/8)1% 浮石φ1～5mm10% 炭化物φ1mm1% 丸礫1点
4層 10YR4/6 褐色土 黒褐色土(10YR2/3)5% にぶい黄褐色土(10YR5/4)1% 浮石φ1～5mm1% 炭化物φ1～2mm1%
5層 10YR5/4 にぶい黄褐色土(Ⅶ層由来) 黒色土(10YR2/1)1% 浮石φ1mm1%
6層 10YR2/2 黒褐色土 黄褐色粘土(10YR4/6)(Ⅶ層由来)40% 黄褐色土(10YR5/8)1% 浮石φ1～5mm5% 炭化物φ1～5mm1%
7層 10YR4/6 褐色土 黄褐色粘土(10YR5/8)(Ⅴ～Ⅶ層由来)15% 黒色土(10YR2/1)1% 浮石φ1～10mm5%
8層 10YR4/6 褐色土 黒褐色土(10YR2/2)10% 黄褐色土(10YR5/8)1% 浮石φ1～10mm5% 炭化物φ1～2mm1%
9層 10YR3/4 暗褐色土 褐色土(10YR4/6)20% 黒褐色土(10YR2/3)1% 黄褐色土(10YR5/8)1% 浮石φ1～5mm1% 炭化物φ1～5mm 丸礫φ20mm1点
10層 10YR4/6 褐色土 暗褐色粘土(10YR3/4)(Ⅶ層由来)10% 浮石φ1～10mm5% 炭化物φ1～2mm1%
11層 10YR3/4 暗褐色土 褐色土(10YR4/6)20% 黄褐色土(10YR5/8)5% 褐色土(10YR4/4)1% 黒色土(10YR2/1)1%　浮石φ1～5mm2% 炭化物φ1～3mm1%
12層 10YR4/4 褐色土 黄褐色土(10YR5/8)5% 黒褐色土(10YR2/3)1% 浮石φ1～3mm1%
13層 10YR4/6 褐色土(Ⅶ層由来) にぶい黄褐色土(10YR5/4)5% 浮石φ1～2mm1% 炭化物φ1mm1%

図69　第83・85・86・88号竪穴建物跡（２）

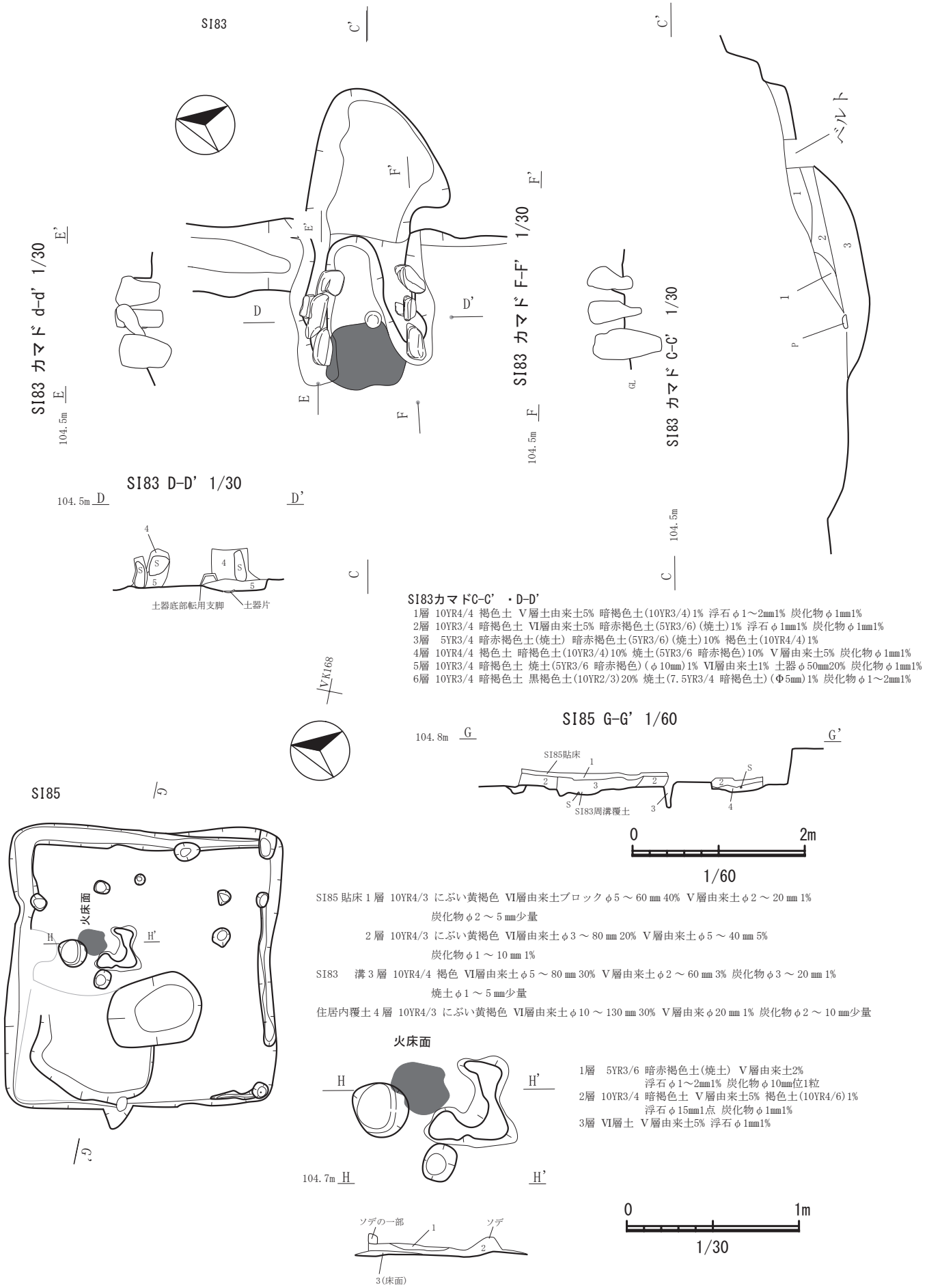
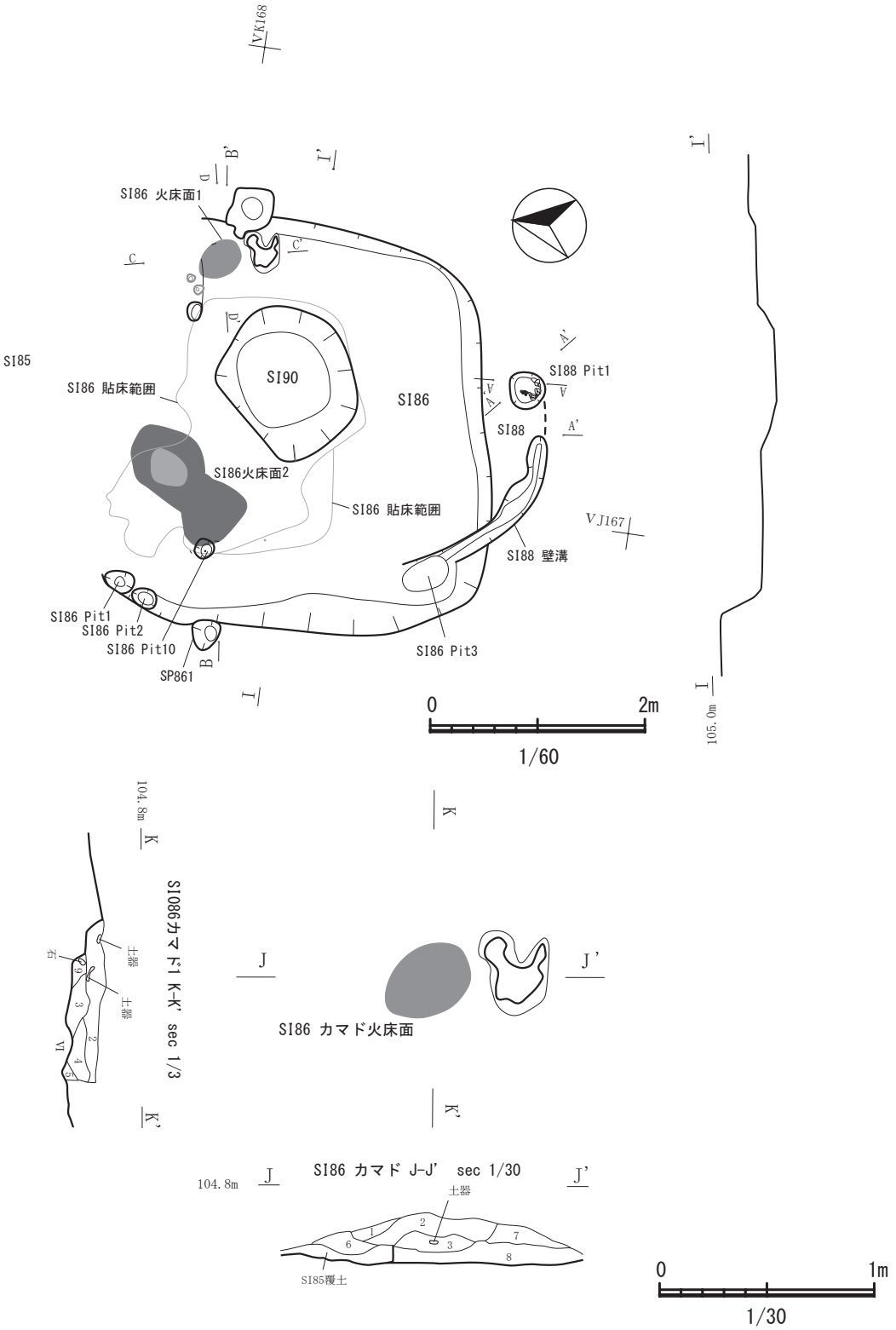


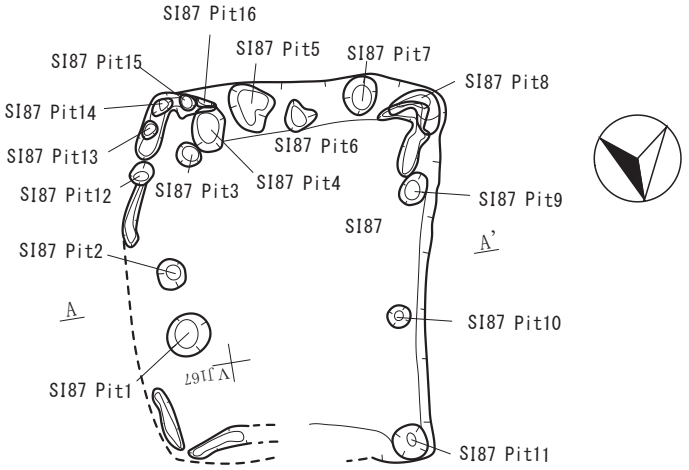
図70 第83・85・86・88号竪穴建物跡（3）

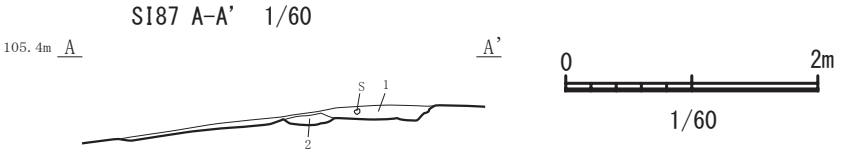


SI86カマド

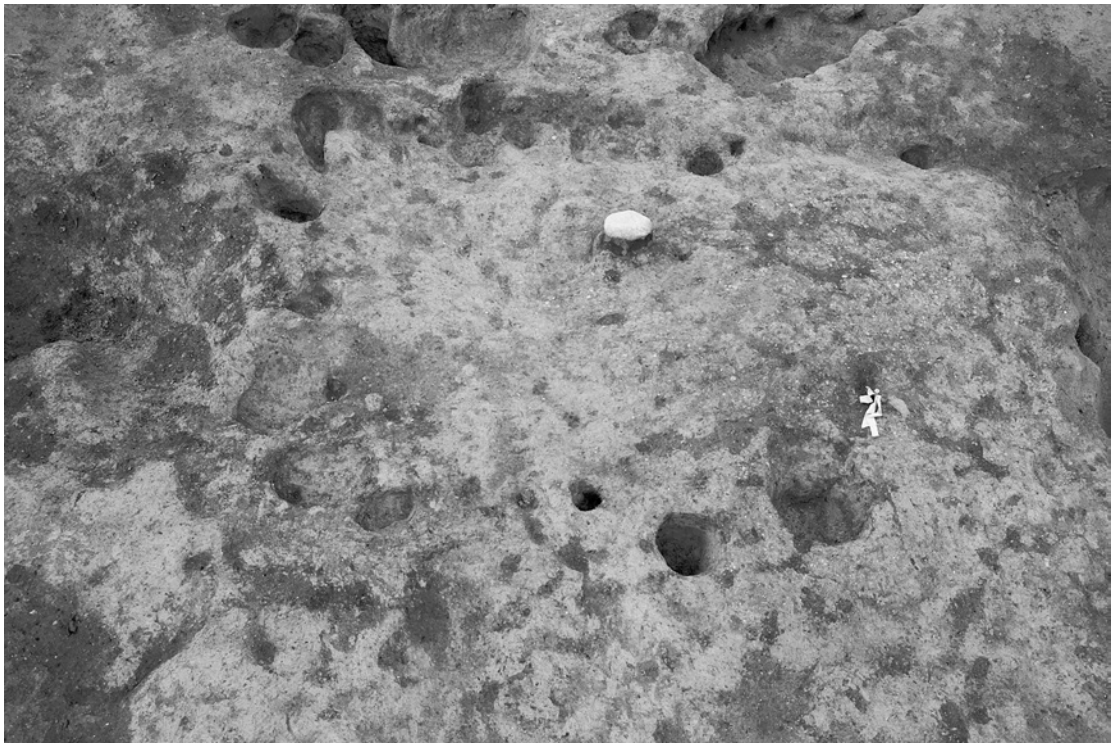
1層 10YR3/3 暗褐色 黒褐色土(10YR2/3)40%　浮石(φ5mm)1% Ⅵ層由来土1% 炭化物φ1mm～5mm1%
2層 10YR3/4 暗褐色 焼土(5YR3/6 暗赤褐色)φ10mm10% 黒褐色土(10YR2/3)10% Ⅴ層由来土1% Ⅵ層由来土1% 炭化物φ1mm～2mm1%　浮石φ10mm1%
3層 5YR4/4 にぶい赤褐色 にぶい黄褐色土(10YR4/3)10% 浮石φ1mm～2mm1% 炭化物φ1mm1%
4層 10YR2/3 黒褐色 Ⅵ層由来土20% 焼土(5YR4/8 赤褐色)10% 焼土(5YR4/4 にぶい赤褐色)φ5mm1% 炭化物φ5mm1%
5層 10YR2/3 黒褐色 炭化φ5mm1% 焼土(5YR4/4 にぶい赤褐色φ5mm)1%
6層 10YR4/4 褐色 暗褐色土(10YR3/4)20% Ⅵ層由来土5% Ⅴ層由来土1% 炭化物φ5mm1% 焼土(5YR4/4 にぶい赤褐色)1% 浮石φ5mm1%
7層 10YR4/4 褐色 黒褐色土(10YR2/3)30% 炭化物φ1mm1% 浮石φ10mm1% Ⅴ層由来土1%
8層 10YR4/6 褐色 暗褐色土(10YR3/4)5% 浮石φ10mm1%→Ⅵ層相当
9層 Ⅵ層由来土 褐色土(10YR4/6)5% 浮石φ10mm～30mm20%
SI85覆土 10YR3/4 暗褐色 焼土(5YR4/6 赤褐色) Ⅵ層由来土5% Ⅴ層由来土5% 浮石φ1mm～10mm1%

図71　第83・85・86・90号竪穴建物跡（４）





SI87
1層 10YR2/2 黒褐色 黄褐色土(10YR5/6)極少粒1% 赤褐色土(5YR4/6)極少粒1% 浮石φ1～5mm1% 炭化物φ1～5mm1% 角礫1点
2層 10YR2/3 黒褐色土 黄褐色土(10YR5/8)φ5mm1% 赤褐色土(5YR4/8)φ10mm1% 浮石φ5～10mm1%



SI87完掘状況　東から

図72　第87号竪穴建物跡

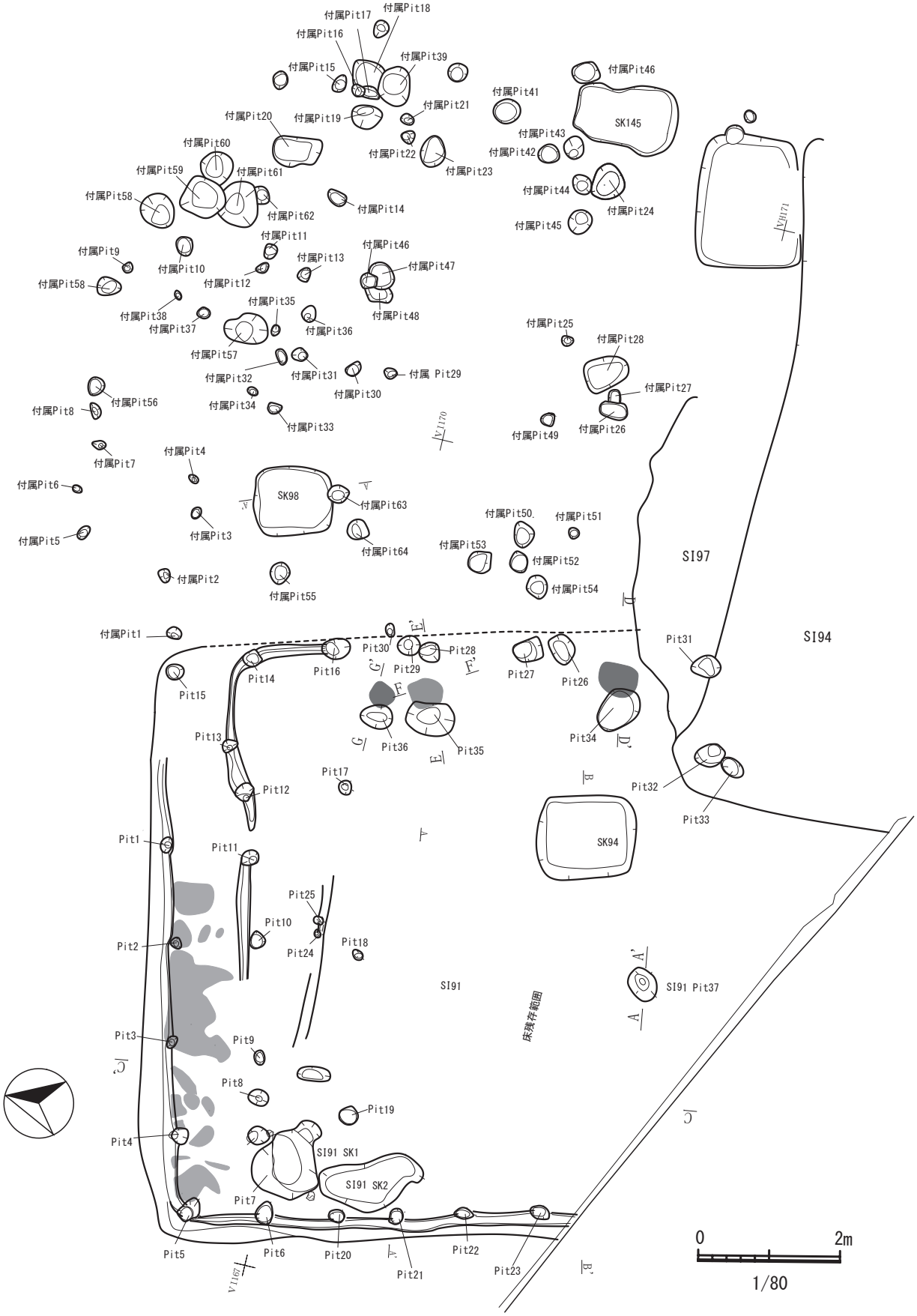
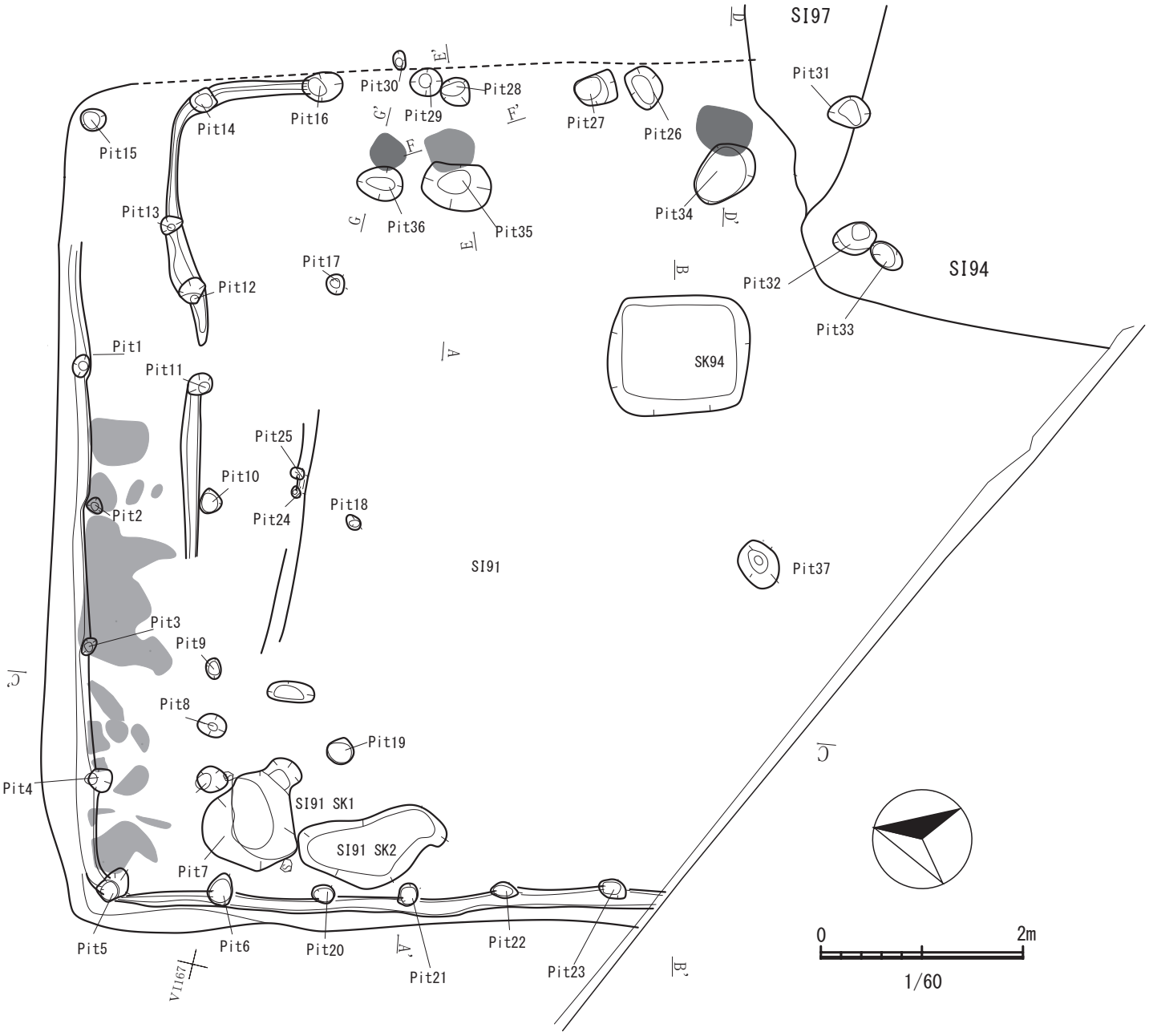
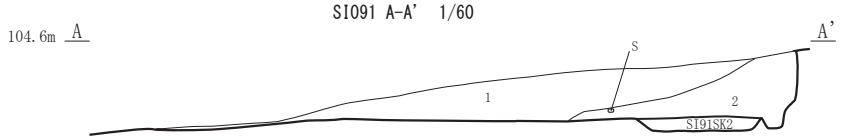


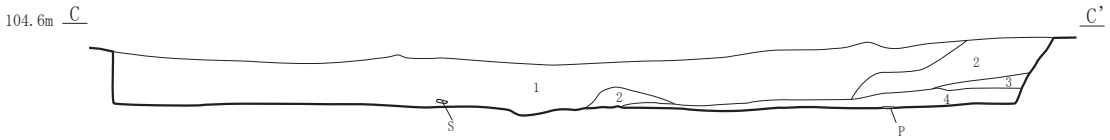
図73　第91号竪穴建物跡（１）



SI091 A-A' 1/60

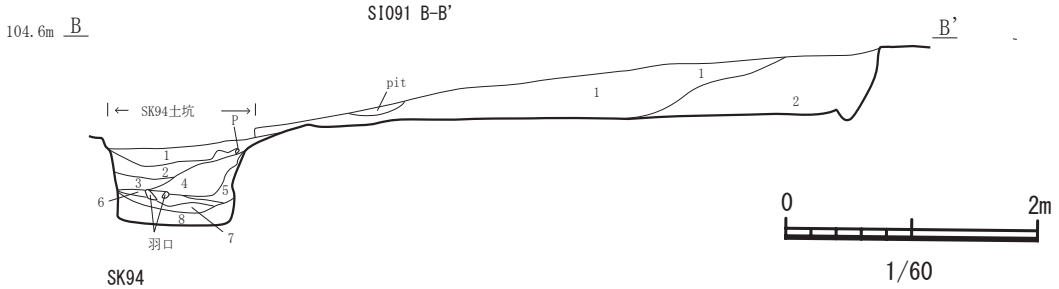


SI91 C-C' 1/60

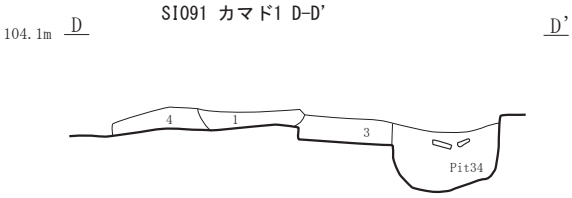


SI91
1層 10YR3/3 暗褐色 黄橙色土(10YR7/8)1% 褐色土(10YR4/6)1% 褐色土(7.5YR4/6) 浮石φ1～10mm5% 炭化物φ1～5mm1%
2層 10YR3/3 暗褐色 褐色粘土(10YR4/6)・黄褐色粘土(10YR5/8)(Ⅴ層土由来)7% 赤褐色土(5YR4/8)小塊1点 鉄滓小塊φ50mm1点 浮石φ1～5mm5% 炭化物φ1～10mm1%
3層 10YR3/3 暗褐色 Ⅴ層由来粘土1% 炭化物φ3～15mm1% 浮石φ1mm1%
4層 10YR3/3 暗褐色 Ⅴ層由来粘土10% 赤褐色土(5YR4/8)1% 炭化物小塊1% 浮石φ1～10mm1% 土器1片点

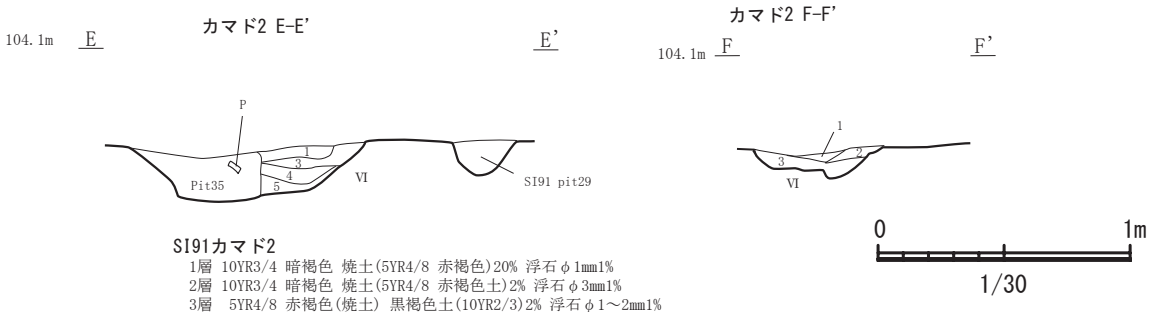
図74　第91号竪穴建物跡（２）



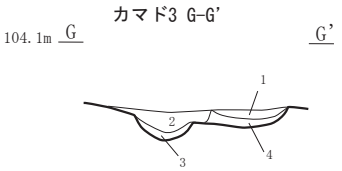
SK94
1層 10YR3/4 暗褐色 褐色土(10YR4/4)1% 浮石φ1～2mm1% 炭化物φ2～4mm1%
2層 10YR3/4 暗褐色 Ⅴ層由来土20% 褐色土(10YR4/6)1% 浮石φ1～2mm1% 炭化物φ3～5mm1% 土器片1点
3層 10YR3/4 暗褐色 Ⅴ層由来土10% 浮石φ1～2mm1% 炭化物φ10～20mm1%
4層 10YR3/4 暗褐色 Ⅴ層由来土20% 黒褐色土(10YR2/2)5% 浮石φ1mm1% 炭化物φ1mm1%
5層 Ⅵ層土 浮石φ1mm1% 炭化物φ1mm1%
6層 10YR1.7/1 黒土(炭) 褐色土(7.5YR4/6)1% 羽口片2点
7層 10YR4/4 褐色土 暗褐色土(10YR3/4)10% Ⅶ層土粘土5% 炭化物φ1～2mm1%
8層 10YR4/4 褐色土 Ⅶ層土粘土10% 炭化物φ5～10mm1%



SI91カマド１
1層 10YR3/4 暗褐色土 赤褐色土(5YR4/8)1% 浮石2～5mm1% 炭化物φ10mm1%
2層 10YR3/4 暗褐色土 焼土(5YR4/8 赤褐色)1% 黒褐色土(10YR2/2)5% 浮石φ2mm1% 炭化物φ1mm1% 土器片2点
3層 5YR4/8 赤褐色土(焼土) 暗褐色土(10YR3/4)10% 炭化物φ1mm1%
4層 Ⅵ層土 10YR3/4 暗褐色土5% 浮石φ2～3mm1%



SI91カマド2
1層 10YR3/4 暗褐色 焼土(5YR4/8 赤褐色)20% 浮石φ1mm1%
2層 10YR3/4 暗褐色 焼土(5YR4/8 赤褐色土)2% 浮石φ3mm1%
3層 5YR4/8 赤褐色(焼土) 黒褐色土(10YR2/3)2% 浮石φ1～2mm1%
4層 10YR2/3 黒褐色 褐色土(10YR4/6)10% 焼土(5YR4/8 赤褐色土)1% 浮石φ1mm1%
5層 Ⅵ層土 暗褐色土(10YR/4)2%
SI91 Pit29
1層 10YR3/4 暗褐色 Ⅵ層由来土10% 褐色土(7.5YR4/6)1% 浮石φ1～5mm1% 炭化物φ1～3mm1%
SI91 Pit35
1層 10YR3/4 暗褐色 Ⅵ層由来土2% 焼土(5YR4/8 赤褐色土)1% 炭化物φ5～10mm1% 土器片2点 浮石φ1～3mm1%



SI91カマド3
1層 5YR4/8 赤褐色土(焼土) 褐色土(10YR4/6)40%
2層 10YR3/4 暗褐色土 褐色土(10YR4/6)5% 赤褐色土(5YR4/8)1% 炭化物φ5mm1%
3層 Ⅵ層土
4層 Ⅵ層土 浮石φ2mm～3mm1%

図75　第91号竪穴建物跡（３）

SI94・97竪穴建物跡・付属建物平面図

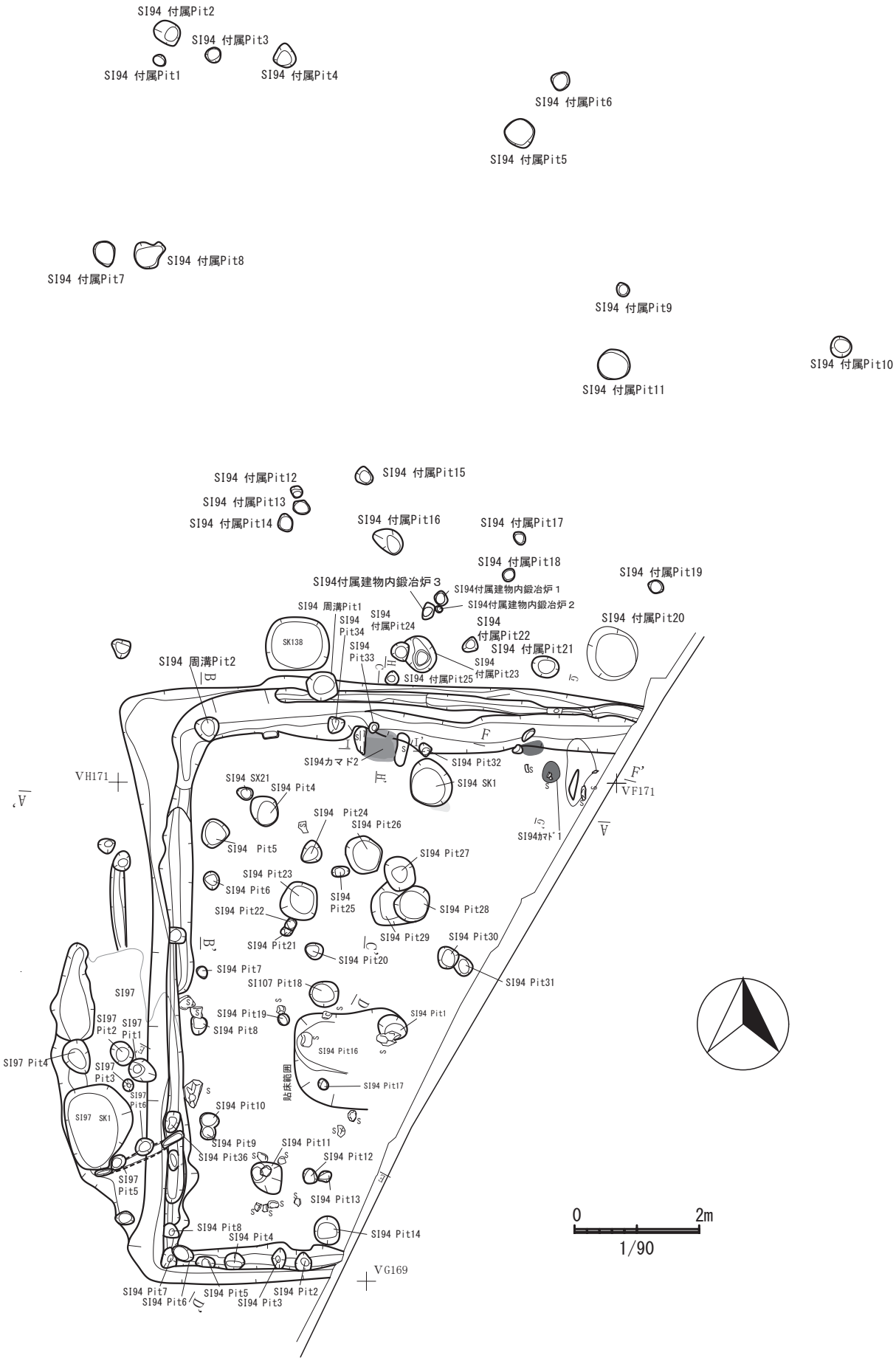


図76　第94・97号竪穴建物跡（１）

SI9・97　竪穴建物跡平面図

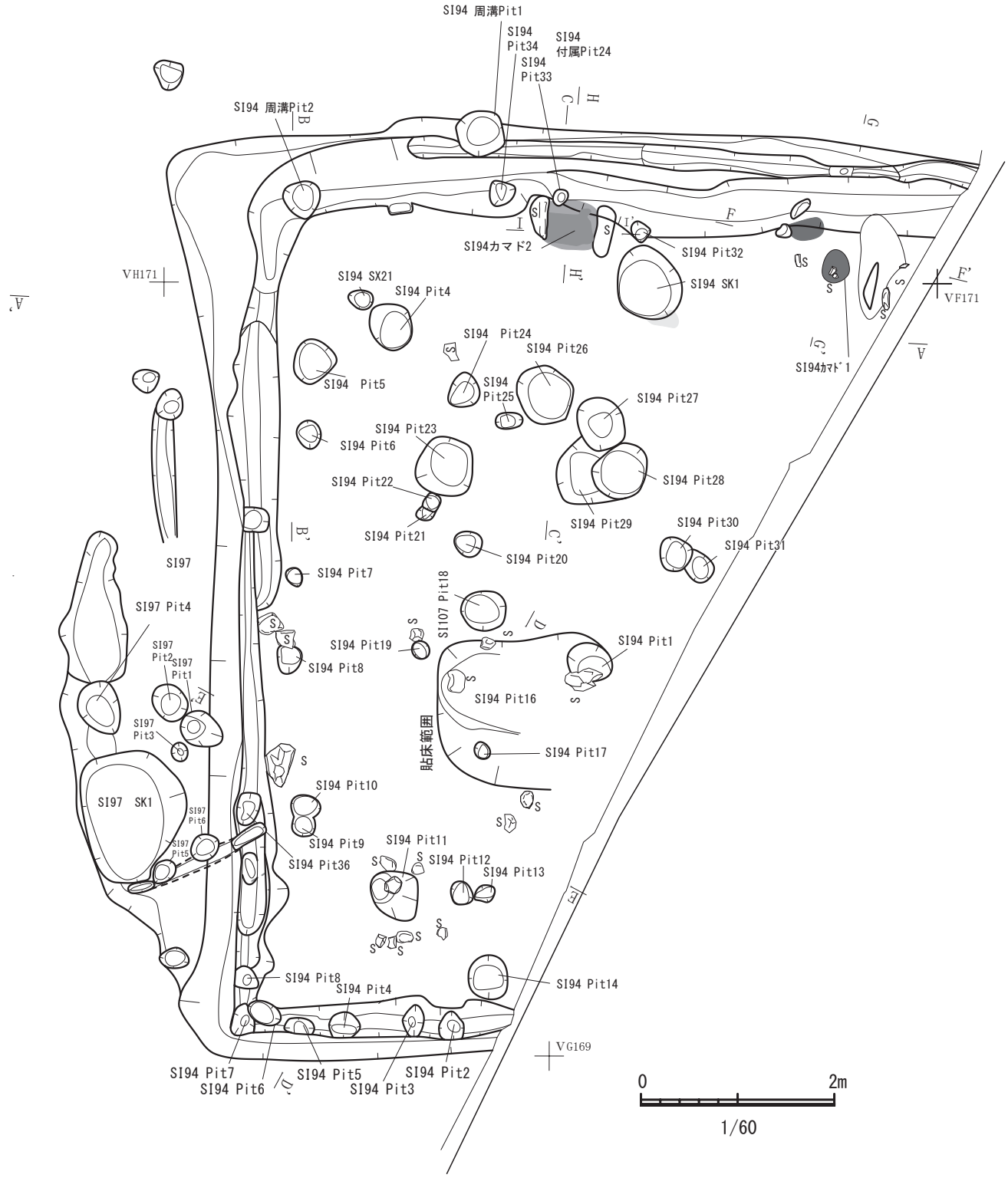
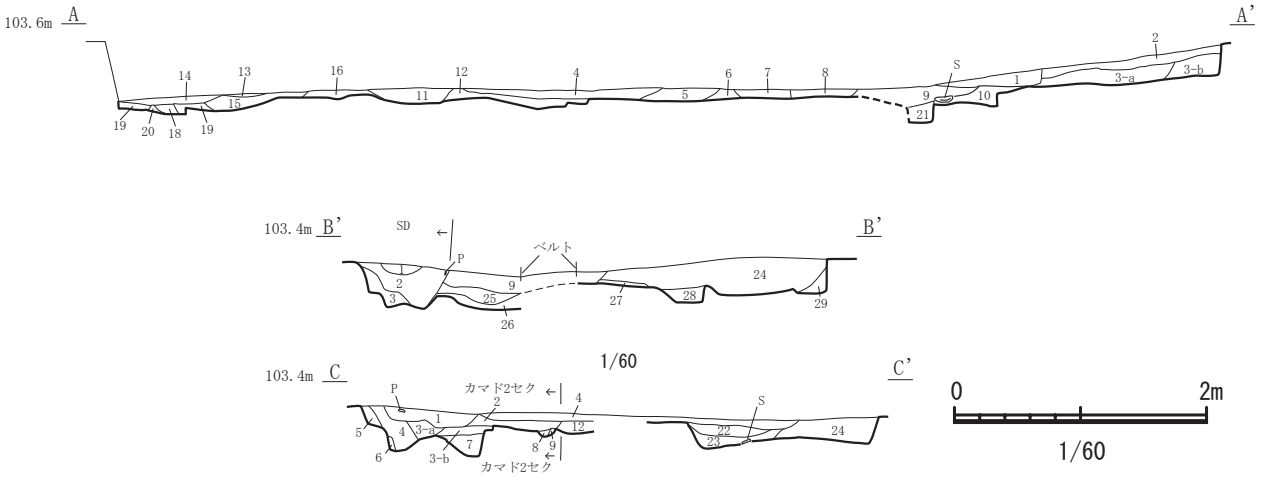


図77　第94・97号竪穴建物跡（２）



SI94

1 層 10YR4/2 灰黄褐色 Ⅵ層由来土φ1～30㎜30% Ⅶ層由来土φ5～15㎜3% 礫φ5～15㎜3% 炭化物φ1～10㎜2%　焼土粒φ2～7㎜微量

2 層 10YR3/3 暗褐色 Ⅶ層由来土φ1～30㎜20% Ⅵ層由来土φ10㎜～20㎜1% Ⅴ層由来土φ8～10㎜1% 炭化物φ1～20㎜7% 焼土粒φ1～5㎜少量 礫φ1～20㎜10%

3 層 a 10YR4/3 にぶい黄褐色 Ⅶ層由来土φ1～40㎜30% Ⅵ層由来土φ10～30㎜20% Ⅴ層由来土φ10㎜少量 炭化物φ1～10㎜3% 焼土粒φ1㎜微量 礫φ2～20㎜1%

3 層 b 10YR4/4 褐色 Ⅴ層由来土φ10～30㎜1% Ⅵ層由来土φ7～15㎜1% 炭化物φ1～5㎜1%

4 層 10YR2/3 黒褐色 Ⅶ層由来土φ5～50㎜30% Ⅵ層由来土φ5～30㎜10% Ⅴ層由来土φ1～20㎜3% 緑色凝灰岩φ50㎜ 焼土φ1～90㎜2% 炭化物φ1～15㎜2%

5 層 10YR4/3 にぶい黄褐色 Ⅵ層由来土φ10～40㎜2% Ⅶ層由来土φ2～30㎜1% 炭化物φ1～10㎜1% 焼土粒φ5㎜少量

6 層 10YR4/3 にぶい黄褐色 Ⅶ層由来土φ5～20㎜50% Ⅵ層由来土φ5～15㎜2% 炭化物φ1～5㎜1% 焼土粒φ2～5㎜少量

7 層 10YR2/3 黒褐色 Ⅶ層由来土φ2～20㎜20% 炭化物φ2～10㎜1% 焼土粒φ2～3㎜少量

8 層 10YR2/3 黒褐色 Ⅶ層由来土φ1～5㎜5% 炭化物φ1～15㎜20% 焼土φ2～10㎜10%

9 層 10YR3/4 暗褐色 Ⅵ層由来土φ2～20㎜7% Ⅶ層由来土φ7～30㎜2% Ⅴ層由来土φ1～3㎜少量 炭化物φ2～15㎜3% 焼土φ1～10㎜2%

10 層 10YR3/3 暗褐色 Ⅶ層由来土φ5～40㎜40% Ⅵ層由来土φ2～10㎜1% 炭化物土φ2～5㎜1% 焼土粒φ2㎜微量

11 層 10YR4/2 灰黄褐色 Ⅶ層由来土φ2～40㎜5% Ⅵ層由来土φ2～20㎜2% Ⅴ層由来土φ5～20㎜1% 緑色凝灰岩φ1～25㎜1% 炭化物φ2～10㎜1% 焼土φ1～20㎜1% 上面に土器片あり

12 層 10YR4/2 灰黄褐色 Ⅶ層由来土φ2～40㎜7% Ⅵ層由来土φ2～10㎜3% 炭化物φ2～10㎜2% 焼土φ2～5㎜少量

13 層 10RY3/4 暗褐色 Ⅴ層由来土φ2～30㎜3% 炭化物φ1～5㎜少量 焼土φ1～30㎜7%

14 層 10YR4/3 にぶい黄褐色 Ⅴ層由来土φ5～30㎜5% Ⅵ層由来土φ20～90㎜5% 炭化物φ2～5㎜1% 焼土φ1～50㎜7%

15 層 10YR4/3 にぶい黄褐色 Ⅵ層由来土φ2～40㎜3% 炭化物φ2～5㎜微量 焼土φ2～70㎜30%

16 層 10YR3/4 暗褐色 Ⅵ層由来土φ5～30㎜5% Ⅵ層由来土φ1～30㎜5% Ⅴ層由来土φ2～10㎜1% 炭化物φ2～5㎜少量 焼土φ1～10㎜1% 緑色凝灰岩φ5㎜少量

17 層 10YR3/4 暗褐色 Ⅵ層由来土φ10～20㎜3% 焼土φ2～30㎜30%

18 層 10YR3/4 暗褐色 焼土φ2～10㎜2%

19 層 10YR4/3 にぶい黄褐色 Ⅵ層由来土φ2～30㎜3% 炭化物φ2～10㎜1% 焼土φ1～20㎜2%

20 層 10YR4/4 褐色（Ⅵ層由来） 炭化物φ3㎜少量 焼土φ3㎜少量

21 層 10YR4/3 にぶい黄褐色 Ⅵ層由来ブロックφ80～120㎜60% 炭化物φ2～3㎜少量 焼土φ2㎜少量

22 層 10YR3/3 暗褐色 Ⅵ層由来土φ2～40㎜20% Ⅴ層由来土φ5～20㎜1% 炭化物φ2～10㎜1% 焼土φ2～5㎜少量

23 層 10YR4/2 灰黄褐色 Ⅵ層由来土φ2～20㎜7% 炭化物φ2～10㎜5% 焼土φ2～5㎜1%

24 層 10YRY3/3 暗褐色 Ⅴ層由来土φ2～25㎜20% Ⅵ層由来土φ5～40㎜20% Ⅶ層由来土φ5～40㎜20% 炭化物φ2～35㎜5% 焼土φ2㎜1%

25 層 10YR3/4 暗褐色 Ⅵ層由来土φ5～30㎜5% Ⅴ層由来土φ3㎜微量 炭化物φ2～15㎜1% 焼土φ2㎜微量

26 層 10YR4/4 褐色（Ⅵ層由来）

27 層 10YR4/3 にぶい黄褐色 Ⅶ層由来土φ20～30㎜3% Ⅴ層由来土φ5㎜微量 炭化物φ2㎜微量

28 層 10YR4/3 にぶい黄褐色 Ⅴ層由来土φ5～15㎜1% 炭化物φ5㎜微量

29 層 10YR4/3 にぶい黄褐色 Ⅴ層由来土φ2～10㎜3% Ⅵ層由来土φ10～20㎜2%

SI94 カマド2

1 層 7.5YR3/3 暗褐色 Ⅵ層由来土φ5～120㎜5% 炭化物φ1～10㎜1% 焼土φ2～50㎜20%

2 層 10YR3/3 暗褐色 Ⅵ層由来土φ10～30㎜7% Ⅶ層由来土φ2～15㎜3% 炭化物φ2～10㎜1% 焼土φ1～20㎜3% 緑色凝灰岩φ1～10㎜1%

3 層 a 10YR3/4 暗褐色 Ⅵ層由来φ3～10㎜2% 炭化物φ2～10㎜1% 焼土φ1～20㎜3%

3 層 b 10YR4/3 にぶい黄褐色 炭化物φ1～5㎜1% 焼土φ1～10㎜2% 緑色凝灰岩φ1～5㎜少量

4 層 10YR3/3 暗褐色 Ⅴ層由来土φ2～40㎜3% Ⅵ層由来土φ2～20㎜2% 炭化物φ1～10㎜1% 焼土φ1～10㎜少量

5 層 10YR4/2 灰黄褐色 Ⅵ層由来ブロックφ60㎜40% Ⅴ層由来土φ2～5㎜1% 炭化物φ1～5㎜1% 焼土φ2㎜微量

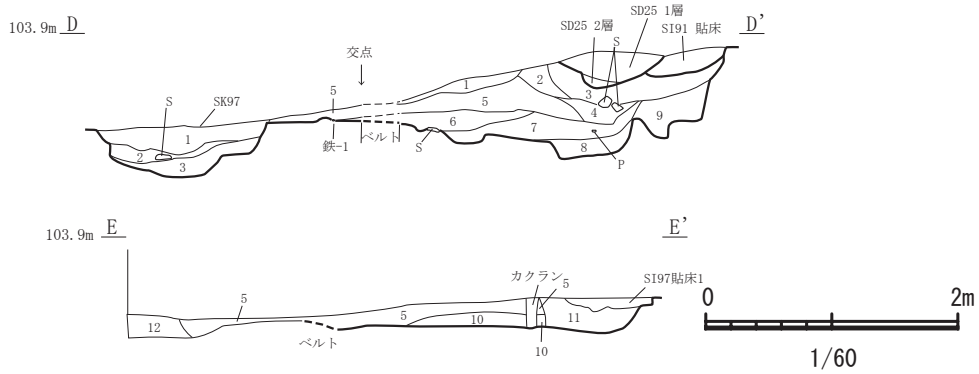
6 層 10YR5/3 にぶい黄褐色

7 層 10YR4/3 にぶい黄褐色 Ⅶ層由来土φ15㎜1% 炭化物φ1～2㎜少量 焼土φ1～15㎜7%

8 層 10YR2/2 黒褐色 Ⅵ層由来土φ5～15㎜5% 炭化物φ2～3㎜1% 焼土φ10㎜1%

9 層 10YR4/4 褐色 炭化物φ1㎜微量

図78　第94・97号竪穴建物跡（3）

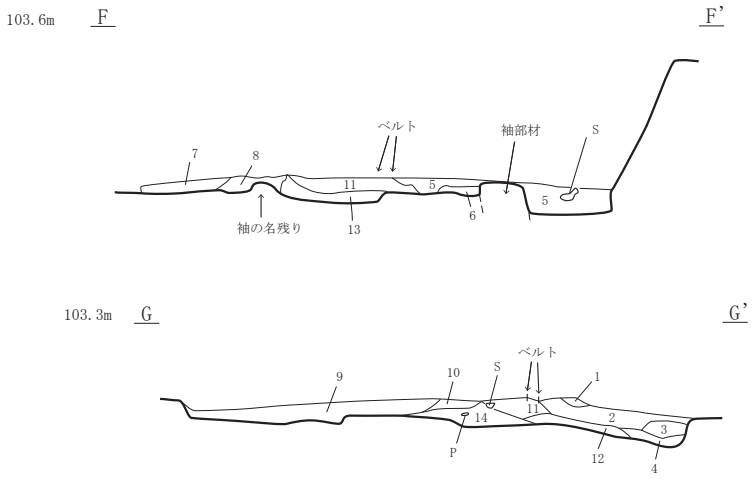


SI94
1層 10YR2/3 黒褐色 にぶい黄褐色土(10YR4/3)1% 浮石φ1mm1% 炭化物φ2mm1%
2層 10YR4/4 褐色 粘土小塊 浮石φ1～3mm1% 炭化物φ1～5mm1%
3層 10YR3/3 暗褐色土 Ⅴ層由来土1% 赤褐色土(5YR4/8)1% にぶい黄褐色粘土(10YR4/3)1% 浮石φ1～5mm1% 炭化物φ1～5mm3% 礫1点
4層 10YR2/3 黒褐色土 Ⅴ層由来土1% 黒色土(炭)(10YR2/1)20% 浮石φ1mm1% 礫1点
5層 10YR4/4 褐色土 にぶい黄褐色粘土(10YR5/4)小塊 明褐色粘土(7.5YR5/8)小塊 明褐色粘土(7.5YR5/8)1% Ⅴ層由来土1% 浮石φ1～10mm1% 炭化物φ1mm1%
6層 10YR3/3 暗褐色土 黒褐色土(10YR2/2)5% Ⅴ層由来土1% Ⅶ層土 浮石φ1～5mm1%
7層 10YR3/3 暗褐色土 Ⅴ層由来土粘土5% 明褐色土(7.5YR5/8)1% 浮石φ1～2mm1% 炭化物φ1～5mm1% 土器片1点
8層 10YR3/4 暗褐色土 Ⅴ層由来土粘土10%
9層 10YR4/6 褐色土 Ⅴ層由来土40% 浮石φ5～10mm1% 炭化物φ2～5mm 1%
10層 10YR4/6 褐色土 にぶい黄褐色土(10YR5/4)1% Ⅴ層由来土1% 浮石φ1mm1% 炭化物φ1mm1%
11層 10YR3/4 暗褐色土 Ⅴ層由来土10% 褐色粘土(10YR4/6)極小塊　浮石φ1～5mm1% 炭化物φ5mm1%

SI97 貼床
1層 Ⅴ層土 10YR3/4暗褐色土10% 褐色土(10YR4/6)1% 浮石φ1～2mm1% 炭化物φ2mm1%

SD25
1層 10YR3/2 黒褐色 焼土粒少量 炭化物φ5～20mm少量
2層 10YR4/6 褐色 ロームブロック主体 焼土粒微量

SK97
1層 10YR 2/3 黒褐色 Ⅴ層由来土5% 浮石φ1～5mm1% 炭化物φ1～5mm1% 礫1点
2層 10YR2/3 黒褐色 Ⅴ層由来土1% 浮石φ1～10mm1% 黒色土(10YR2/1)1% 炭化物φ1～5mm1% 礫1点
3層 10YR4/6褐色 Ⅴ層由来土5% 浮石φ1～2mm1% 炭化物φ1mm1%



SI94カマド１
1層 10YR3/4 暗褐色 Ⅵ層由来土φ20mm以下10% 炭化物φ5mm以下1% 焼土50%
2層 7.5YR3/4 暗褐色 Ⅵ層由来土φ20mm以下7% Ⅴ層由来土φ10mm以下1% 炭化物φ8mm以下1% 緑色凝灰岩φ10mm以下あり 焼土φ30mm以下10%
3層 10YR2/3 黒褐色 炭化物φ5mm以下7% 焼土φ5mm以下3%
4層 10YR4/3 にぶい黄褐色 焼土混じりの土が左側1/3 炭化物φ8mm以下少量
5層 10YR3/4 暗褐色 Ⅵ層由来土φ30mm以下3% 炭化物φ8mm以下1% 焼土φ30mm以下20% 緑色凝灰岩φ25～80mmあり
6層 10YR4/6 褐色
7層 10YR3/3 暗褐色 Ⅵ層由来土φ30mm以下2% 炭化物φ5mm以下1% 焼土φ5mm以下1%
8層 10YR3/4 暗褐色 Ⅵ層由来土φ80mm以下40% 炭化物φ2mm以下1% 焼土φ5mm以下1%
9層 10YR3/3 暗褐色 Ⅴ層由来土φ10mm以下2% 炭化物φ3mm以下1% 焼土φ10mm以下3% Ⅵ層由来土φ20mm以下1%　SDの覆土
10層 10YR3/3 暗褐色 Ⅴ層由来土φ8mm以下1% 炭化物φ3mm以下1% 焼土φ5mm以下2%
11層 2.5YR4/8 赤褐色
12層 5YR3/6 暗赤褐色 7.5YR4/6褐色20%
13層 7.5YR4/4 褐色 赤褐色(5YR3/6)30% 極暗褐色(7.5YR2/3)40% 炭化物φ3mm微量
14層 10YR3/4 暗褐色 Ⅵ層由来土φ20mm以下1% Ⅴ層由来土φ3mm以下少量 炭化物φ5mm以下2% 焼土φ2mm以下1%

図79　第94・97号竪穴建物跡（４）

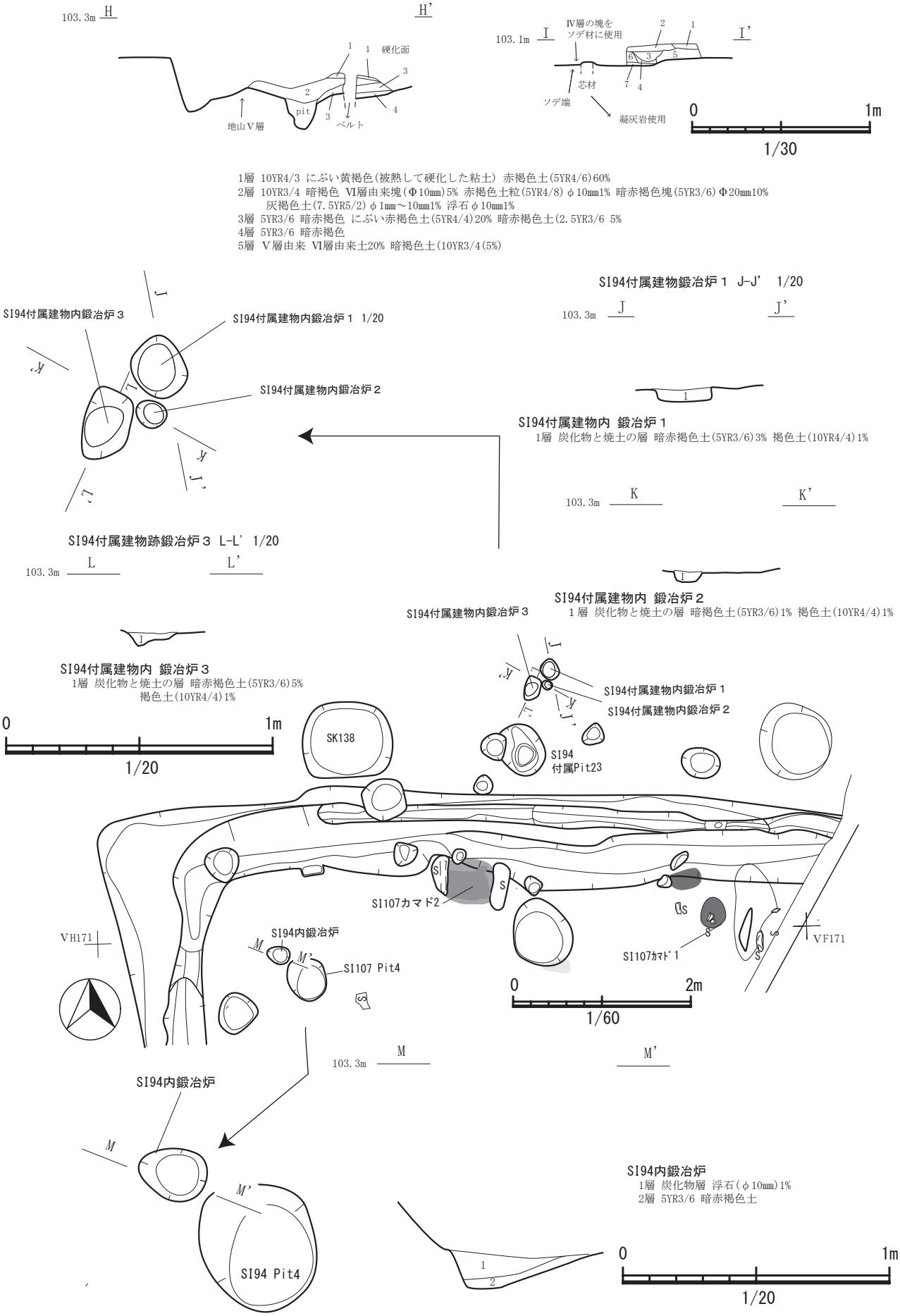
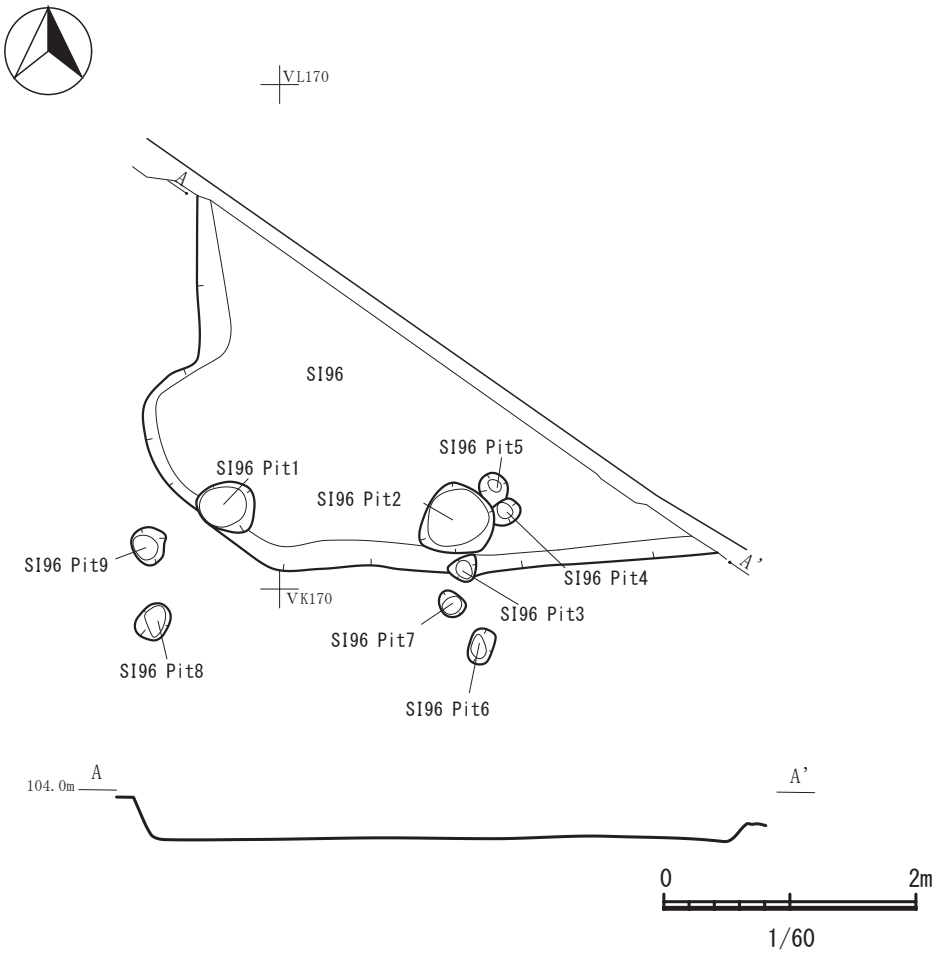


図80　第94・97号竪穴建物跡（５）



SI96 完掘状況

図81　第96号竪穴建物跡

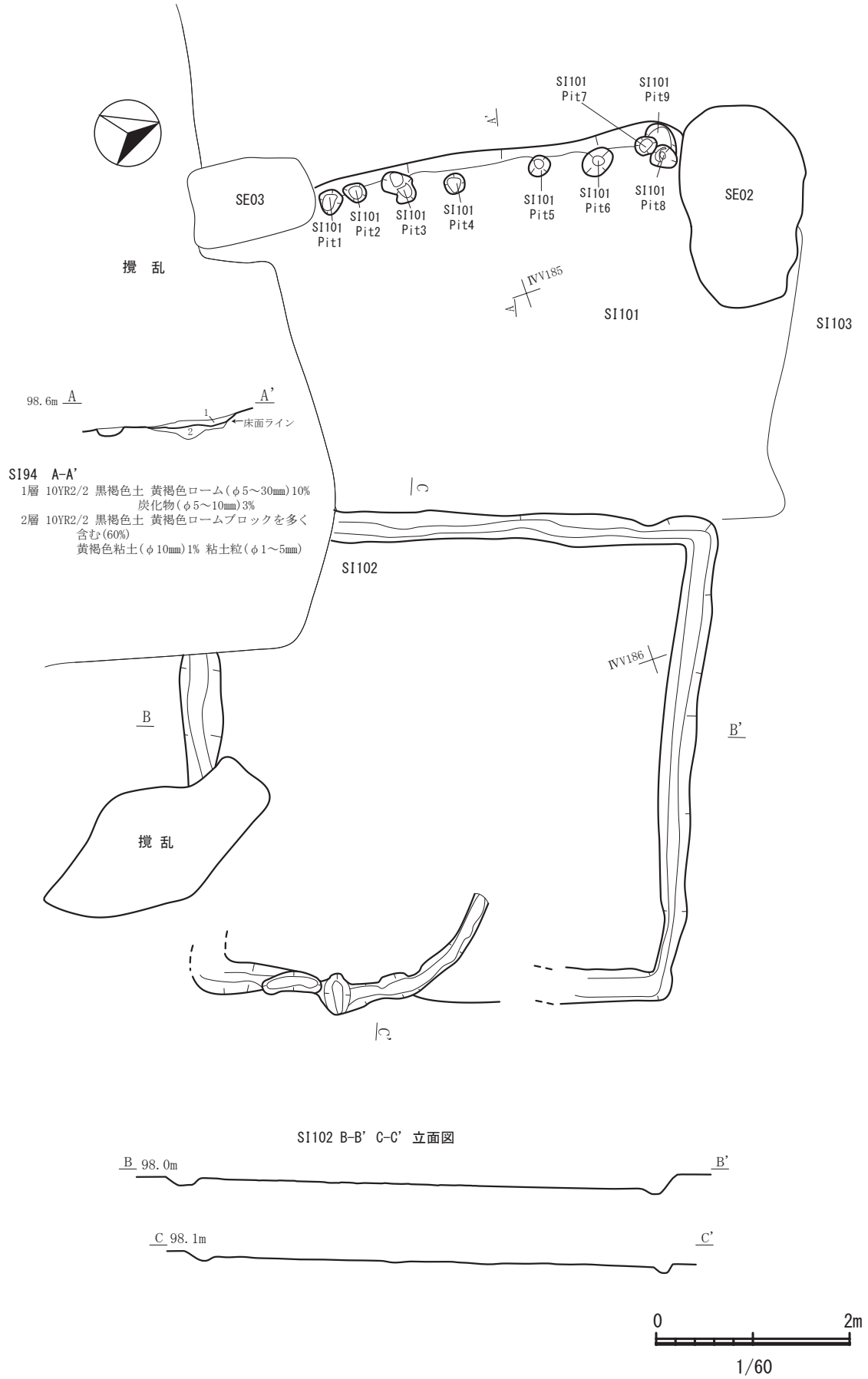
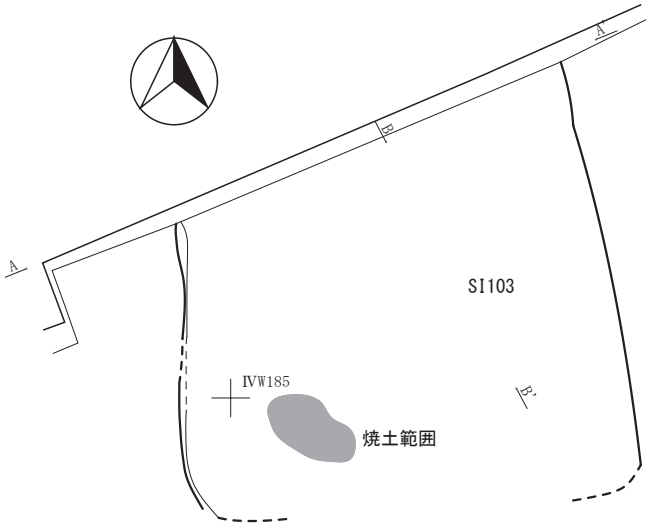
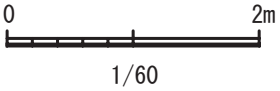
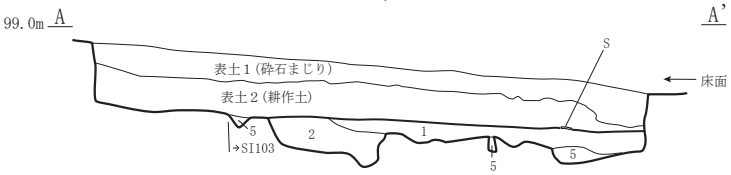


図82　第101・102号竪穴建物跡





SI103 A-A'　1/60



SI103 B-B'　1/60

SI103 B-B' 貼床覆土層

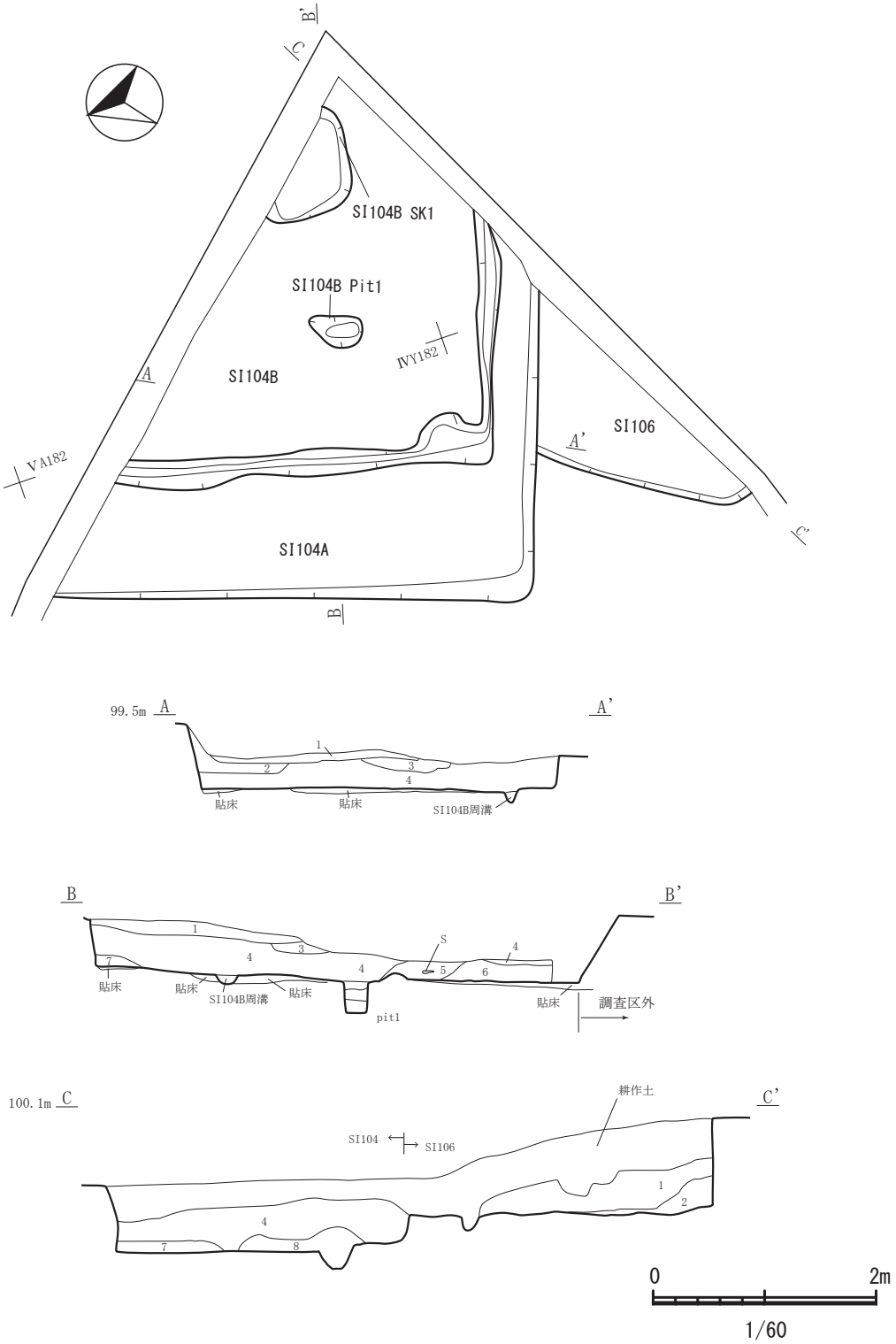
SI103 A-A' B-B'

1層 10YR2/2 黒褐色 黄褐色ロームφ20mm以下20% 炭化物φ10mm以下2% 焼土粒φ1mm微量 浮石粒φ3mm微量
球状の鉄滓粒φ2mm以下僅かに含む ピンクロームφ20mm以下1%　貼床覆土
2層 10YR3/2 黒褐色 黄褐色ロームブロックφ60mm以下40% 炭化物φ10mm以下1% 焼土粒φ1mm微量　貼床覆土
3層 10YR2/3 黒褐色 黄褐色ロームブロックφ50mm以下30% 炭化物φ5mm以下微量 焼土粒φ5mm以下微量 浮石粒φ5mm以下微量 黒土10%混入　貼床覆土
4層 10YR3/3 暗褐色 黄褐色ロームφ30mm以下7% ピンクロームφ40mm以下5% 炭化物φ3mm以下微量　貼床覆土
5層 10YR2/2 黒褐色 黄褐色ロームブロックφ30mm以下5% 炭化物φ2mm以下微量 焼土粒φ1mm微量　貼床覆土

SD106覆土

10YR3/3 暗褐色 千曳含むロームΦ20mm以下5% 炭化物φ1mm微量 焼土粒φ1mm微量

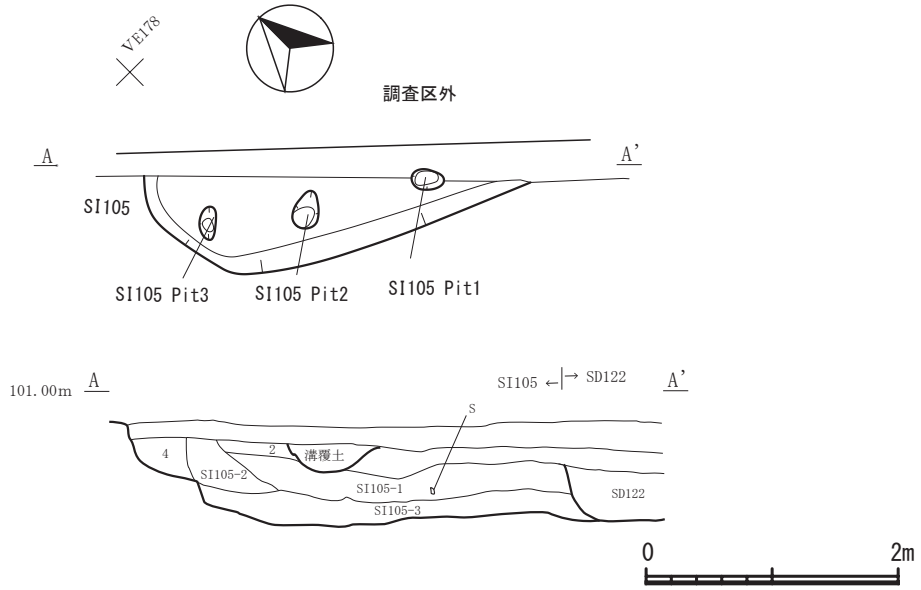
図83　第103号竪穴建物跡



SI104A・104B
1層 10YR3/1 黒褐色 Ⅴ層由来土φ40㎜以下20% Ⅴ層由来土φ20㎜以下1% 炭化物φ5㎜以下小量
2層 10YR2/2 黒褐色 Ⅴ層由来土φ60㎜以下20% 炭化物φ3㎜以下1% Ⅵ層由来土φ30㎜以下2%
3層 10YR2/2 黒褐色 Ⅴ層由来土φ40㎜以下30% Ⅵ層由来ブロックφ80㎜以下2% 炭化物φ3㎜以下少量
4層 10YR3/2 黒褐色 Ⅴ層由来ブロックφ120㎜以下40% 炭化物φ2㎜以下小量
5層 10YR2/2 黒褐色 Ⅴ層由来土φ30㎜以下20% Ⅵ層由来土φ20㎜以下5% 炭化物土φ5㎜以下1% 焼土粒φ3㎜以下微量
6層 10YR2/3 黒褐色 Ⅴ層由来土φ60㎜以下30% Ⅵ層由来土φ50㎜以下10% 炭化物φ5㎜以下1% 焼土粒φ8㎜以下少量
7層 10YR2/3 黒褐色 Ⅴ層由来土φ80㎜以下50%以上 Ⅵ層由来土φ50㎜以下10%
8層 10YR3/3 暗褐色 Ⅴ層由来土φ40㎜以下30% 炭化物φ10㎜以下少量

SI106
1層 10YR2/3黒褐色 Ⅴ層由来土φ40㎜以下30% Ⅵ層由来土φ20%以下1% 炭化物土φ20㎜以下2%
2層 10YR2/2黒褐色 Ⅴ層由来土φ100㎜以下20% Ⅵ層由来土φ100㎜以下10% 炭化物φ1㎜微量 焼土粒φ2㎜以下微量

図84　第104A・B・106号竪穴建物跡

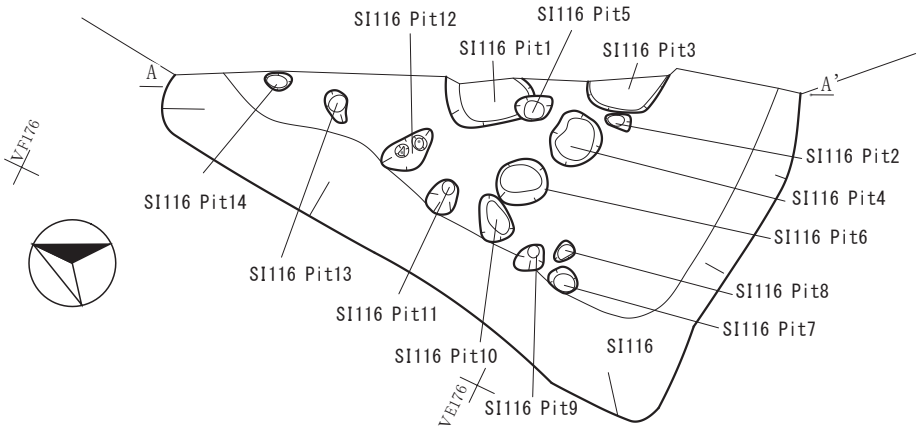


SI105

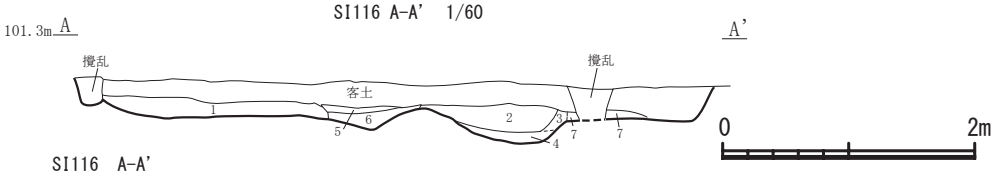
1 層 10YR2/3 黒褐色 Ⅵ層由来土φ60 ㎜以下 3% Ⅴ層由来φ10 ㎜以下 3% 焼土粒φ2 ㎜以下 1% 炭化物φ2 ㎜以下 1% 焼土粒 2 ㎜以下微量

2 層 10YR2/3 黒褐色 Ⅵ層由来土φ30 ㎜以下 10% 焼土粒φ1 ㎜微量 炭化物φ2 ㎜以下 1%

3 層 10YR3/3 暗褐色 Ⅴ層由来土ブロックφ160 ㎜以下 30% Ⅵ層由来φ60 ㎜以下 10% 炭化物φ3 ㎜以下 1%



SI116 A-A'　1/60



SI116　A-A'

1/60

1 層 10YR2/3 黒褐色 Ⅵ層由来土φ50 ㎜塊 10%

2 層 10YR2/2 黒褐色 Ⅵ層由来土φ2 ㎜粒 1% 焼土粒φ1 ㎜～ 5 ㎜ 褐色土 (7.5YR4/6)1% 浮石φ10 ㎜ 1%

3 層 10YR2/2 黒褐色 Ⅵ層由来土φ5 ㎜ 1% 暗褐色土 (10YR3/3)10% 浮石φ5 ㎜ 1%

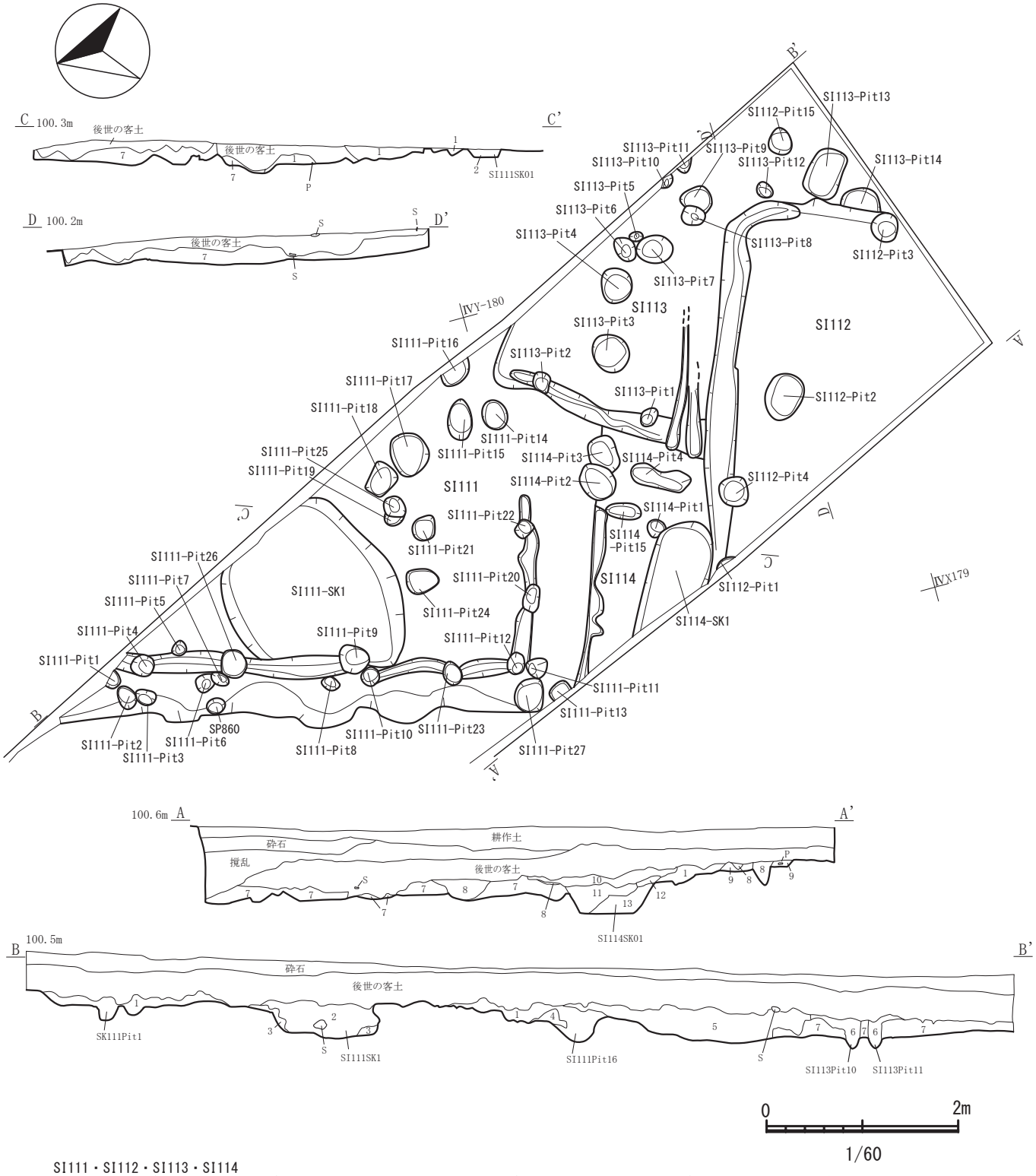
4 層 7.5YR3/1 黒褐色 Ⅵ層由来土 10% 浮石φ10 ㎜ 1%

5 層 10YR3/1 黒褐色 Ⅵ層由来土φ20 ㎜ 塊 5%

6 層 10YR2/3 黒褐色 Ⅵ層由来土φ50 ㎜　塊 10% Ⅴ層由来土φ10 ㎜粒 1%

7 層 10YR2/3 黒褐色 Ⅵ層由来土φ20 ㎜塊 1%

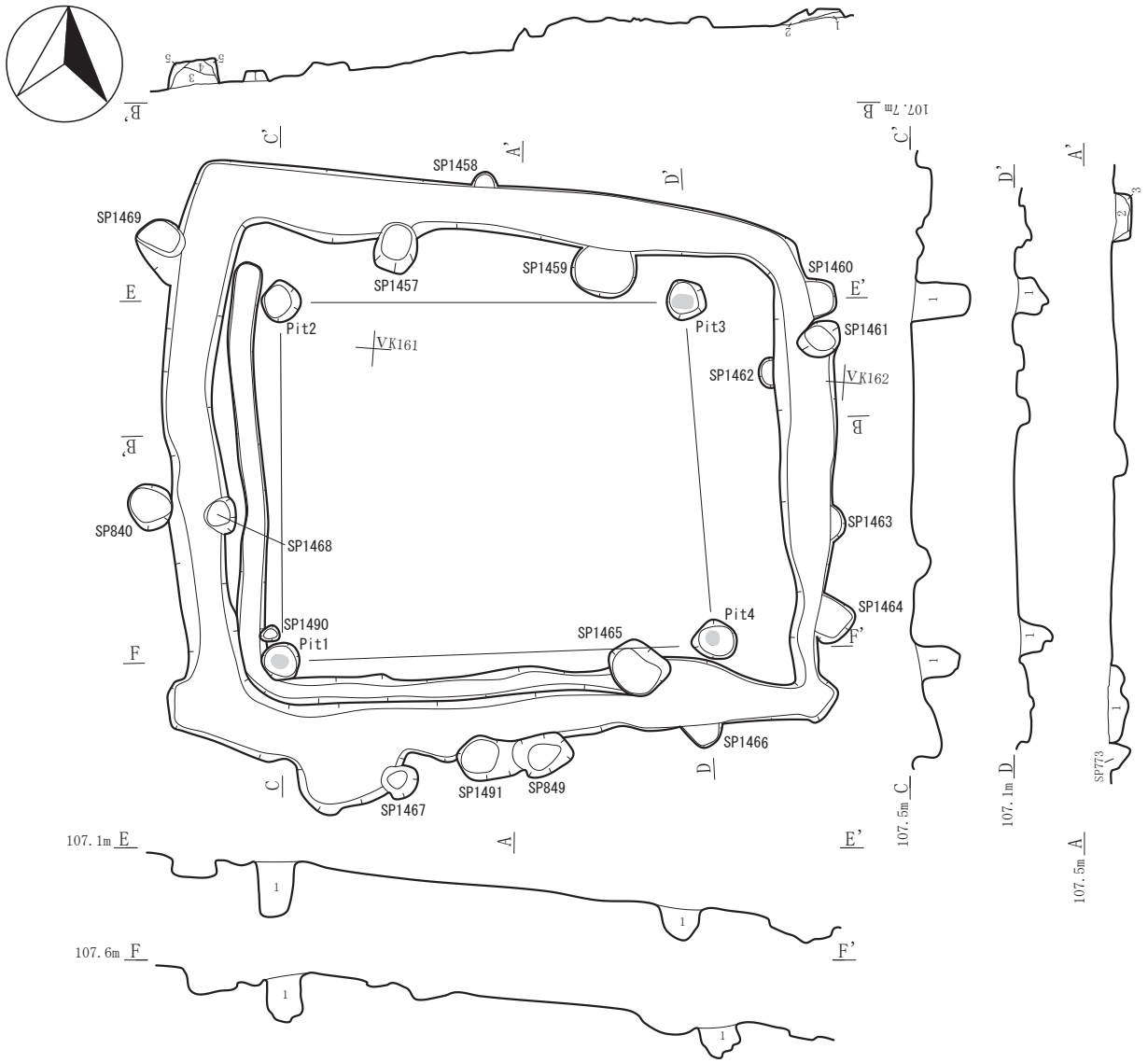
図85　第105・116号竪穴建物跡



SI111・SI112・SI113・SI114

1 層 10YR2/2 黒褐色土 V層由来ロームブロック（φ5～50㎜）10% VI層由来ロームブロック（φ5～20㎜）2% 焼土ブロック（φ1～5㎜）1% 炭化物（φ1～10㎜）1%
2 層 10YR2/1 黒色土 V層由来ロームブロック（φ5～20㎜）1% VI層由来ロームブロック（φ～1㎜）1% 焼土ブロック（φ～1㎜）1%以下 炭化物（φ～1㎜）1%
3 層 10YR4/6 褐色土 V層由来ロームブロック（φ1～5㎜）2%
4 層 10YR2/3 黒褐色土 V層由来ロームブロック（φ10～150㎜）80%
5 層 10YR2/2 黒褐色土 V層由来ロームブロック（φ5～100㎜）20% VI層由来ロームブロック（φ5～10㎜）2% 焼土ブロック（φ1～5㎜）1% 炭化物（φ～1㎜）1%
6 層 10YR2/2 黒褐色土 V層由来ロームブロック（φ1～20㎜）2% VI層ロームブロック（φ1～2㎜）1% 焼土ブロック（φ～1㎜）1% 炭化物（φ～1㎜）1%
7 層 10YR2/3 暗褐色土 V層由来ロームブロック（φ1～100㎜）50% VI層由来ロームブロック（φ1～2㎜）1% 焼土ブロック（φ1～2㎜）1% 炭化物（φ1～2㎜）1%
8 層 10YR3/1 黒褐色土 V層由来ロームブロック（φ1～30㎜）5% 炭化物極少
9 層 10YR2/2 黒褐色土 V層由来ロームブロック（φ1～10㎜）50%
10 層 10YR2/1 黒褐色土 V層由来ロームブロック（φ1～30㎜）2% 焼土ブロック（φ1～10㎜）2% 炭化物（φ1～5㎜）1%
11 層 10YR2/2 黒褐色土 V層由来ロームブロック（φ1～10㎜）1% 焼土ブロック（φ1～10㎜）1% 炭化物（φ1～5㎜）1% VI層由来ロームブロック（φ5～30㎜）1%
12 層 10YR3/1 黒褐色土 V層由来ロームブロック（φ1～5㎜）1%
13 層 10YR2/2 黒褐色土 V層由来ロームブロック（φ1～5㎜）1% 焼土ブロック（φ1～10㎜）1% 炭化物（φ1～5㎜）1%

図86　第111・112・113・114号竪穴建物跡



SB01周溝

1層 10YR3/3暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ1～50㎜)5% Ⅶ層由来ロームブロック(φ1～15㎜)3% 焼土ブロック(φ～1㎜)1% 炭化物(φ1～3㎜)1%
2層 10YR3/4暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ1～30㎜)5% Ⅶ層由来ロームブロック(φ1～30㎜)5% 炭化物(φ1～10㎜)1%
3層 10YR3/3暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ1～30㎜)3% Ⅶ層由来ロームブロック(φ1～50㎜)10% 焼土ブロック(φ～2㎜)1% 炭化物(φ1～5㎜)1%
4層 10YR3/4暗褐色土 Ⅶ層由来ロームブロック(φ1～10㎜)1% Ⅴ層由来ロームブロック(φ～1㎜)1% 炭化物(φ～1㎜)1%
5層 10YR4/3にぶい黄褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ1～50㎜)1% Ⅶ層由来ロームブロック(φ1～50㎜)10% 炭化物(φ1～2㎜)1%

SB01(Pit1～Pit4)

1層 10YR3/1黒褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ～20㎜)1%

柱痕範囲

0　2m
1/60

図87　第１号掘立柱建物跡

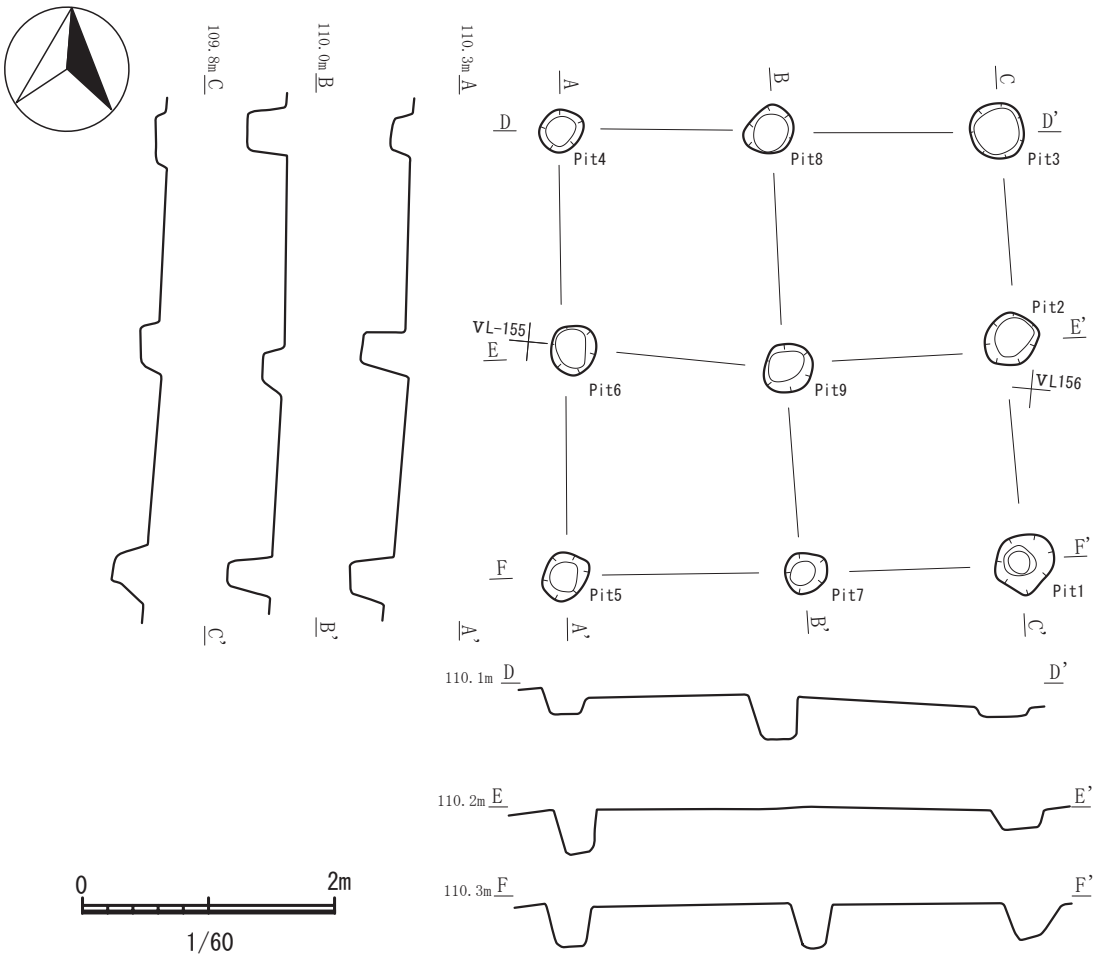
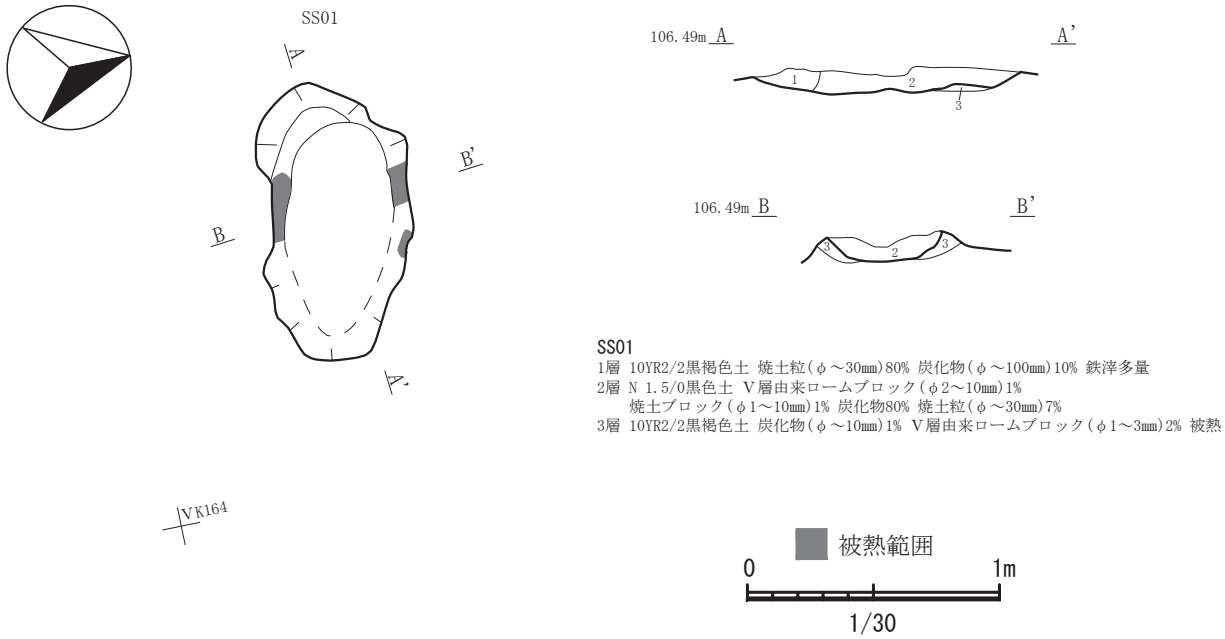


図88　第２号掘立柱建物跡



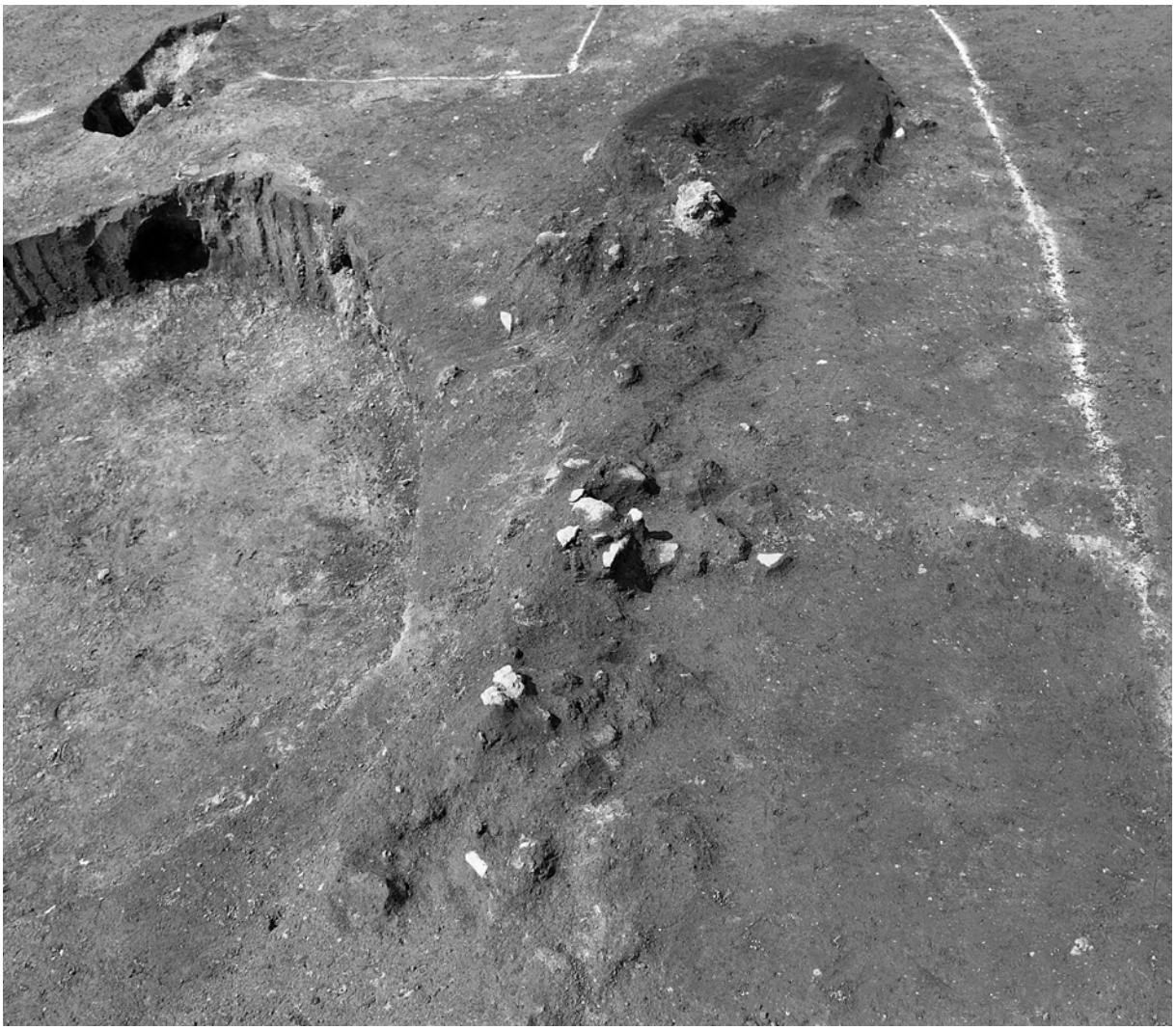


図89　第１号製鉄関連遺構

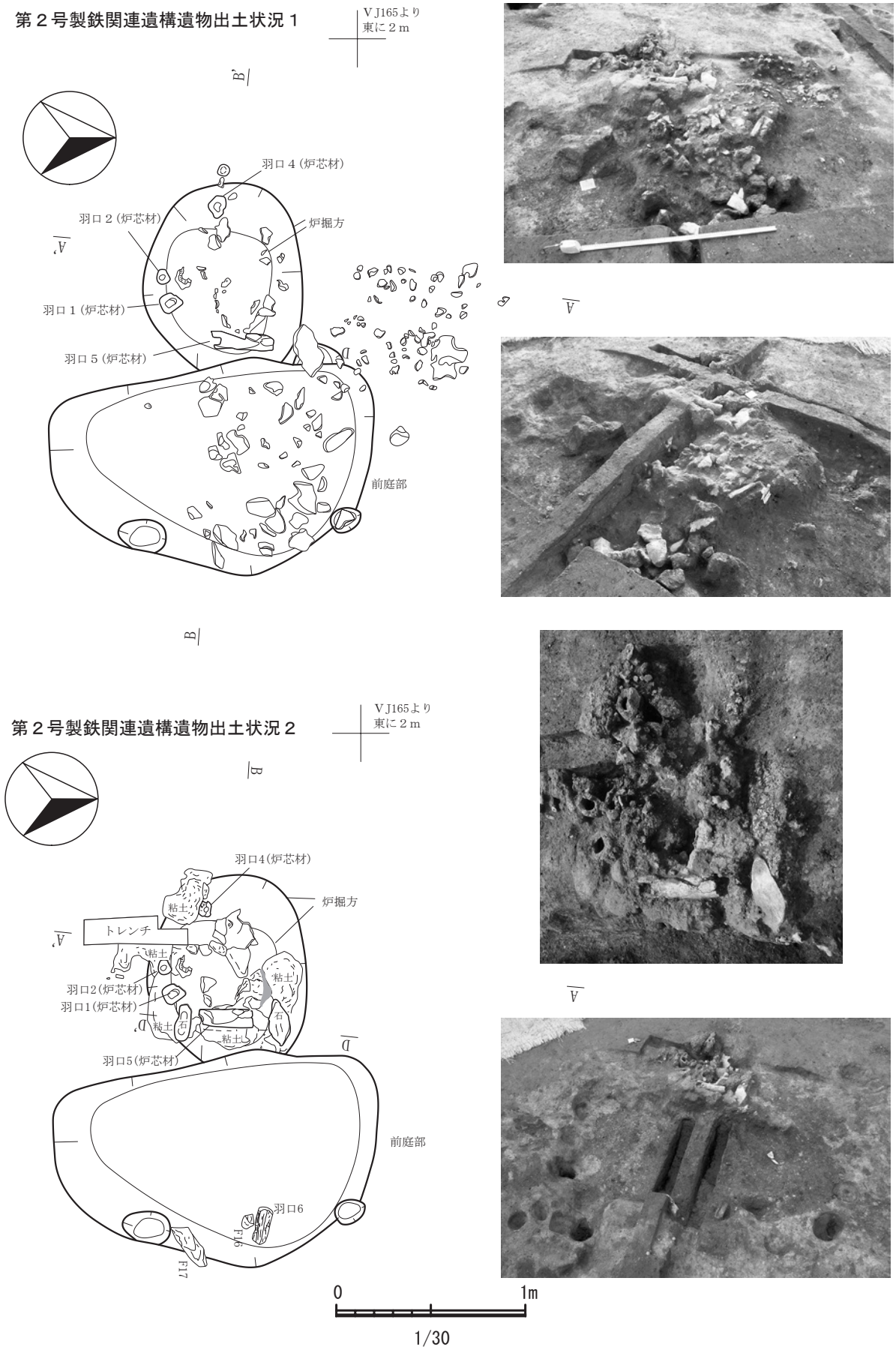
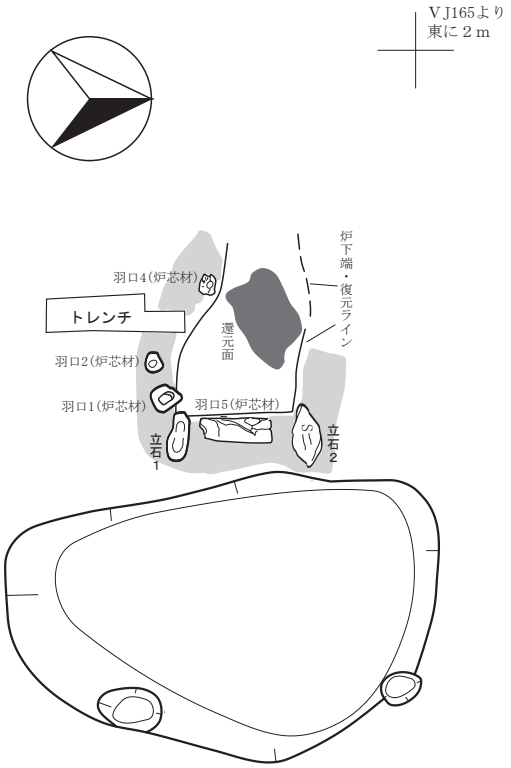
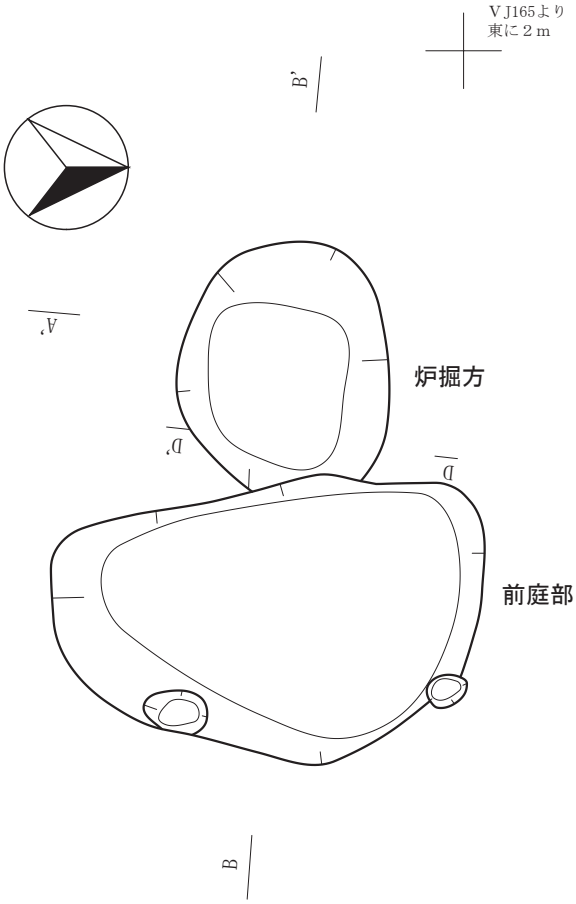


図90　第２号製鉄関連遺構１

第２号製鉄関連遺構 製錬炉下部構造図

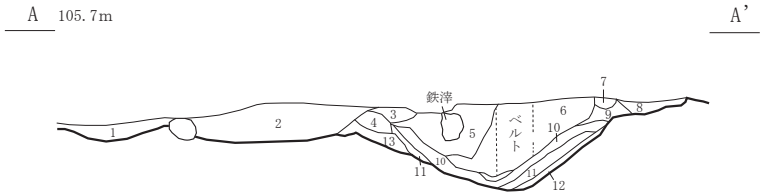


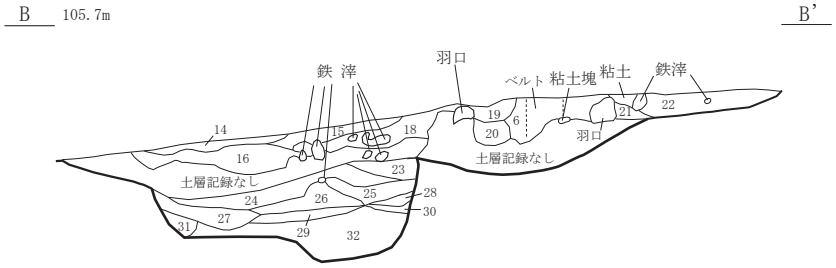
第２号製鉄関連遺構 製錬炉掘方図



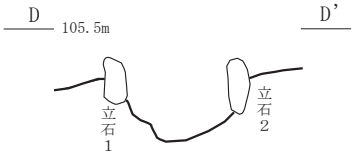
0　1m
1/30

図91　第２号製鉄関連遺構２





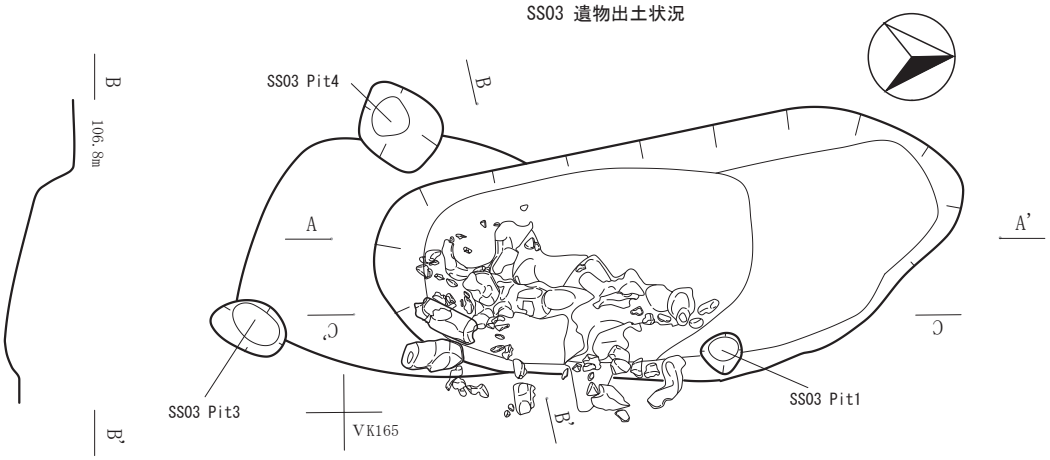
SS02
1層 10YR2/3 黒褐色 褐色土(10YR4/6)2% 炭化物φ1～5mm1% 浮石φ1mm1%
2層 10YR2/3 黒褐色 明褐色土(7.5YR5/6)φ1～15mm1% 褐色土(10YR4/6)1% 炭化物φ5～15mm1% 浮石φ1～5mm1%
3層 7.5YR5/3 にぶい褐色 炭化物φ1～2mm1% 浮石φ15mm1%
4層 7.5YR3/3 暗褐色(焼土) 褐色土(7.5YR4/6)20%(焼土) 浮石φ5mm1%
5層 10YR2/3 黒褐色 流動滓φ100mm大塊 明黄褐色(10YR6/6)粘土ブロックφ40mm
6層 10YR3/4 暗褐色 明黄褐色土(10YR6/6)小塊φ5～10mm
7層 7.5YR4/3 褐色(焼土) 褐色土(7.5YR4/6)20%(焼土)
8層 10YR3/2 黒褐色 黄褐色土(10YR5/6)小塊φ5mm1% 褐色土(7.5YR4/6)(焼土)小塊φ2mm
9層 10YR2/3 黒褐色
10層 5YR4/4 にぶい赤褐色(焼土) 明褐色土(7.5YR5/8)20% 浮石φ1～10mm1%
11層 10YR3/4 暗褐色
12層 10YR4/6 褐色 浮石φ1mm1%
13層 10YR4/6 褐色 Ⅵ層土由来40% 褐色土(7.5YR4/6)(焼土)1%
14層 10YR2/3 黒褐色 明黄褐色土(10YR6/8)φ1mm1%
15層 10YR2/3 黒褐色 褐色土(7.5YR4/6)φ5～10mm1% 黄褐色土(10YR5/6)φ1～10mm2%
16層 10YR3/3 暗褐色 黄褐色土(10YR5/6)20%
17層 10YR2/1 黒色 暗褐色土(10YR3/4)φ10mm1%
18層 10YR2/3 黒褐色 褐色土(10YR4/6)φ20mm10% 褐色土(7.5YR4/6)(焼土)φ20mm1% 炭化物φ2～20mm1%
19層 10YR5/4 にぶい黄褐色 暗褐色土(10YR3/4)30% 明褐色土(7.5YR5/6)(焼土)φ15mm1% 黄橙色土(10YR8/6)φ3～5mm1%
20層 10YR7/4 にぶい黄橙色 黄褐色土(10YR5/8)中塊φ30mm にぶい黄橙色土(10YR5/4)小塊φ30mm
21層 10YR2/3 黒褐色 明褐色土(7.5YR5/8)(焼土)小塊5% 黄橙色土(10YR8/6)粘土小塊1%
22層 10YR2/3 黒褐色 黄橙色土(10YR7/8)φ20mm小塊 明褐色土(7.5YR5/8)φ15mm小塊 浮石φ2mm1% 流動滓φ30mm1点 炭化物φ5mm1%
23層 5YR2/4 極暗赤褐色 砂混じり土 赤褐色土(5YR4/6)(焼土)10% Ⅴ層土由来1% 浮石φ1mm1%
24層 5YR2/4 極暗赤褐色 砂混じり土 赤褐色土(5YR4/8)(焼土)極小粒少量 黒褐色土(5YR2/1)1% 浮石φ1mm5% 鉄滓含む
25層 5YR2/4 極暗赤褐色 砂混じり土 黒褐色土(5YR2/1)10% 暗赤褐色土(5YR3/6)(焼土)1%
26層 5YR2/4 極暗赤褐色土 赤褐色土(5YR4/8)(焼土)極少粒少量 炭化物φ2～3mm2% 鉄滓φ15mm1%
27層 5YR2/2 黒褐色 Ⅴ層土由来2% 赤褐色土(5YR4/8)(焼土)1% 浮石φ1～3mm1%
28層 10YR4/6 褐色粘土
29層 10YR2/1 黒色 褐色(10YR4/6)粘土1% 鉄滓(砂混じり)5%
30層 10YR2/3 黒褐色 赤褐色土(5YR4/8)(焼土粒混じり)1% 褐色(10YR4/6)粘土1%
31層 10YR4/6 褐色 Ⅴ層土由来2% 炭化物φ1～2mm1%
32層 10YR2/3 黒褐色土 Ⅴ層土由来10% 赤褐色土(5YR4/8)(焼土粒混じり)10% 炭化物φ1～2mm2% 浮石φ1mm1%

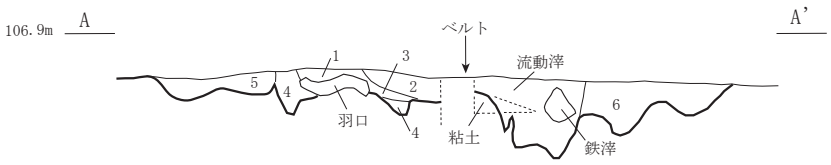


0 1m
1/30

図92 第２号製鉄関連遺構３

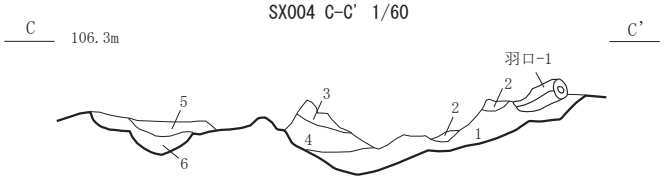
SS03 遺物出土状況





SS03 A-A'
1層 10YR2/2 黒褐色土 明赤褐色土(2.5YR5/6)45%φ10～20mm 炭化物10%φ10～20mm 礫5%
2層 10YR3/4 暗褐色土 暗褐色土(10YR3/3)30%φ1～5mm 炭化物10%
3層 2.5YR5/6 明赤褐色土 赤黒色土(2.5YR 2/1)φ30mm20% 鉄塊3% 焼土層
4層 10YR3/4 暗褐色土 褐色土(10YR4/6)φ5mm10% 焼土1%未満
5層 10YR2/3 黒褐色土 褐色土(10YR4/6)φ5mm5% 焼土φ1mm1% 炭化物1%未満
6層 10YR2/3 黒褐色土 黒褐色土(10YR2/2)φ5～20mm40% 焼土φ5～20mm5% 浮石φ2～5mm5% 炭化物2%
※ C-C' 断面の同名層とは対応しない。

SX004 C-C' 1/60



SS03 C-C'
1層 10YR2/3 黒褐色 褐色土(10YR4/6)φ10～70mm7% 焼土φ2～20mm2% 炭化物φ2～5mm以下2% Ⅴ層由来土少々
2層 10YR4/6 褐色
3層 10YR2/3 黒褐色 上面に赤化した土(2.5YR4/6 赤褐色) Ⅳ層由来土のブロック(7.5YR5/6 明褐色土)
炭化物φ25mm以下3% 10YR6/8明黄褐色土
4層 10YR2/3 黒褐色 明黄褐色土(10YR6/8)1～15mm以下3%
5層 10YR2/3 黒褐色
6層 10YR5/6 黄褐色 黒褐色土(10YR2/3)を少量含む
※A-A' 断面の同名層とは対応しない。

SS03 完掘図

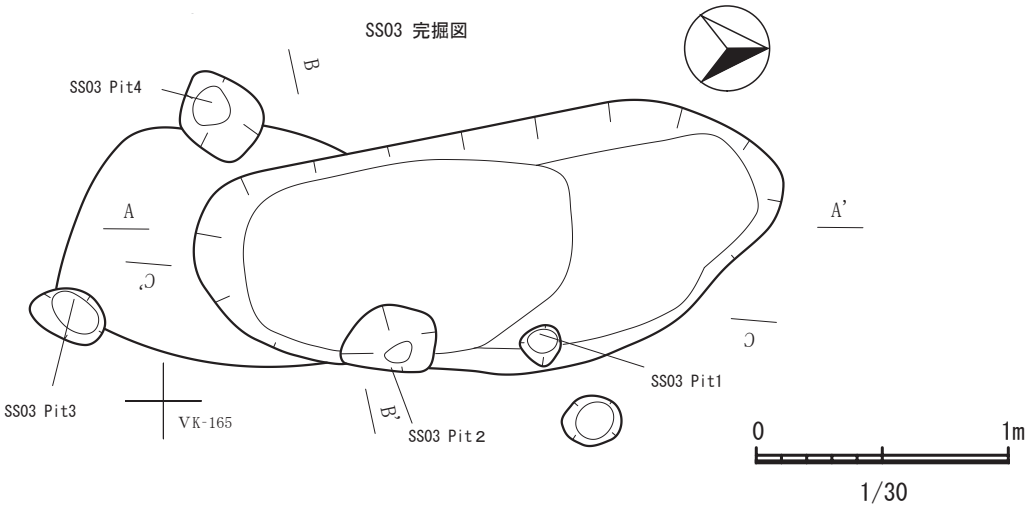
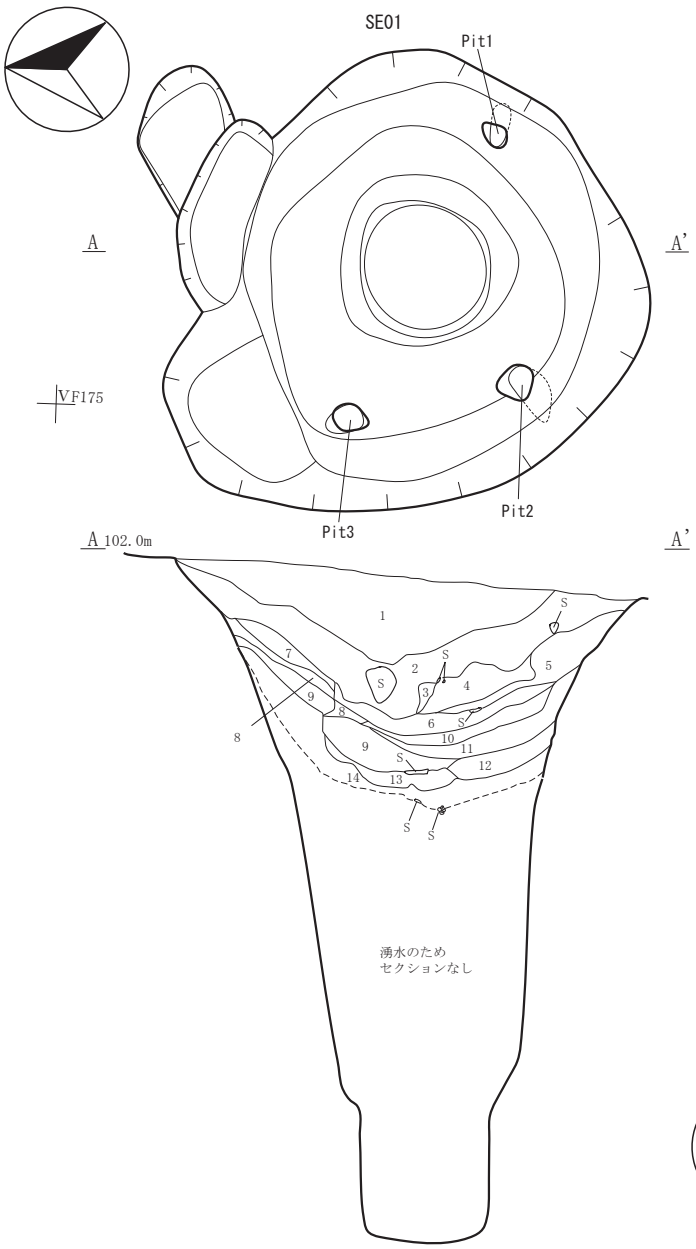
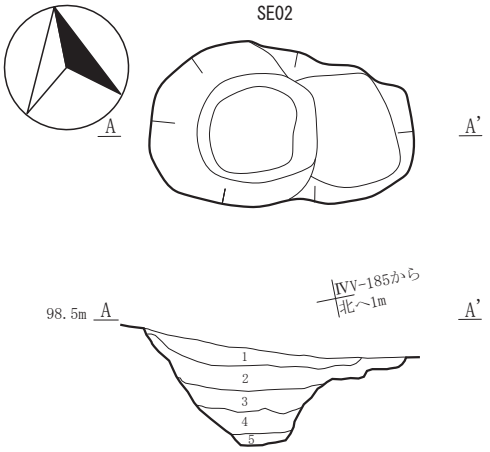


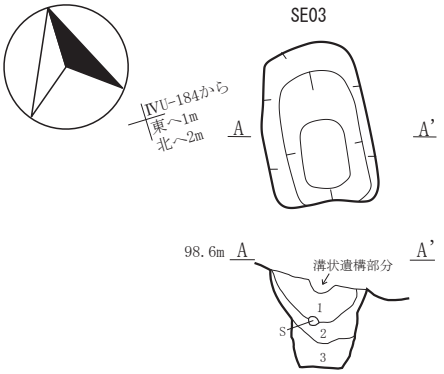
図93　第３号製鉄関連遺構



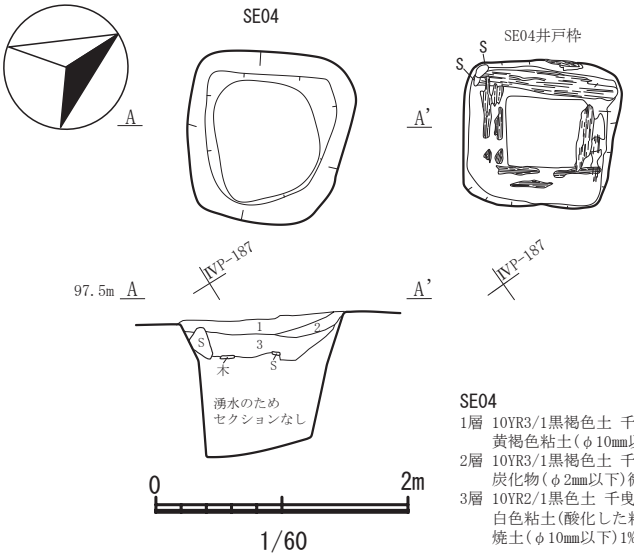
SE01(SI78)
1層 10YR2/2黒褐色土 炭化物(φ1～30mm)8% 焼土塊(φ1～20mm)5%
浮石(φ5～10mm)3% 礫(φ～2mm)1%
2層 10YR3/1黒褐色土 浮石(φ30～50mm)8% 炭化物(φ1～30mm)7%
V層由来ロームブロック(φ～2mm)5% 焼土塊(φ～5mm)1%
3層 10YR2/3黒褐色土 VI層由来ロームブロック(φ1～8mm)10%
VII層由来ロームブロック(φ1～8mm)5%
4層 10YR3/4暗褐色土 炭化物(φ1～2mm)2% 焼土塊(φ～5mm)1%
5層 10YR2/2黒褐色土 浮石 (φ～20mm)3%
6層 10YR3/1黒褐色土 炭化物(φ1～2mm)3% 焼土塊(φ～5mm)1%
7層 10YR3/1黒褐色土 炭化物(φ5～20mm)2% 焼土塊(φ～5mm)1%
8層 10YR5/4にぶい黄褐色土
9層 10YR3/1黒褐色土 炭化物(φ5～15mm)2% 焼土塊(φ～1mm)1%
10層 10YR3/1黒褐色土 浮石(φ5～20mm)5% 炭化物(φ1～50mm)3%
11層 10YR2/2黒褐色土 浮石(φ15～30mm)8% 炭化物(φ～1mm)2%
焼土塊(φ～5mm)1%
12層 10YR2/3黒褐色土 浮石(φ5～15mm)2% 炭化物(φ～5mm)1%
13層 10YR2/3黒褐色土
14層 10YR4/2灰黄色土 VII層由来ロームブロック(φ～1mm)20%
浮石(φ5～25mm)5% 炭化物(φ～1mm)3%
下部→自然堆積の下に人為堆積



SE02
1層 10YR2/2黒褐色土 炭化物(φ10mm以下)1%
ロームブロック明黄褐色6/8(φ1～10mm)2% 焼土(φ3mm)1%
2層 10YR2/1黒色土 炭化物(φ4mm以下)1%
ロームブロック明黄褐色6/8(φ2～10mm)2% レキ(φ15mm位)1%
3層 10YR2/1黒色土 ローム(φ5mm以下)7% 炭化物(φ1～3mm)1%以下
4層 10YR3/2黒褐色土 ローム(φ20mm以下)20%
5層 10YR3/2黒褐色土 ローム(φ30mm以下)40%

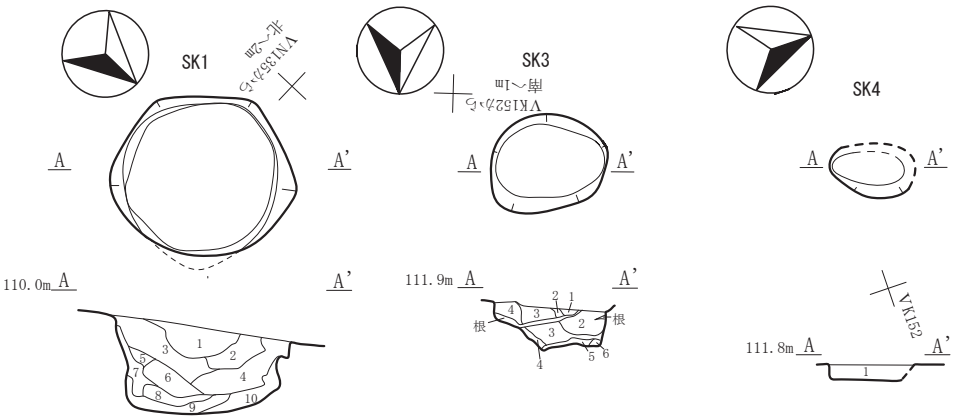


SE03
1層 10YR2/2黒褐色土 炭化物(φ3～20mm)3%
黄褐色ローム(φ5～40mm)10% 焼土(φ1～3mm)1%
2層 10YR2/1黒色土 ロームブロック(φ5～15mm)2%
3層 10YR1.7/1黒色土 ロームブロック(φ10～50mm)20%
下から湧水多い



SE04
1層 10YR3/1黒褐色土 千曳を含むローム(φ80mm以下)10% 白色粘土(φ40mm以下)3%
黄褐色粘土(φ10mm以下)1% 炭化物(φ2mm以下)微量 焼土粒(φ2mm以下)微量
2層 10YR3/1黒褐色土 千曳を含むローム(φ10mm以下)5% 白色粘土(φ10mm以下)3%
炭化物(φ2mm以下)微量 焼土粒(φ1mm)微量
3層 10YR2/1黒色土 千曳を含むローム(酸化したロームを含む)(φ10mm以下)10%
白色粘土(酸化した粘土を含む)(φ60mm以下)5% 炭化物(φ2mm以下)微量
焼土(φ10mm以下)1% 木片あり

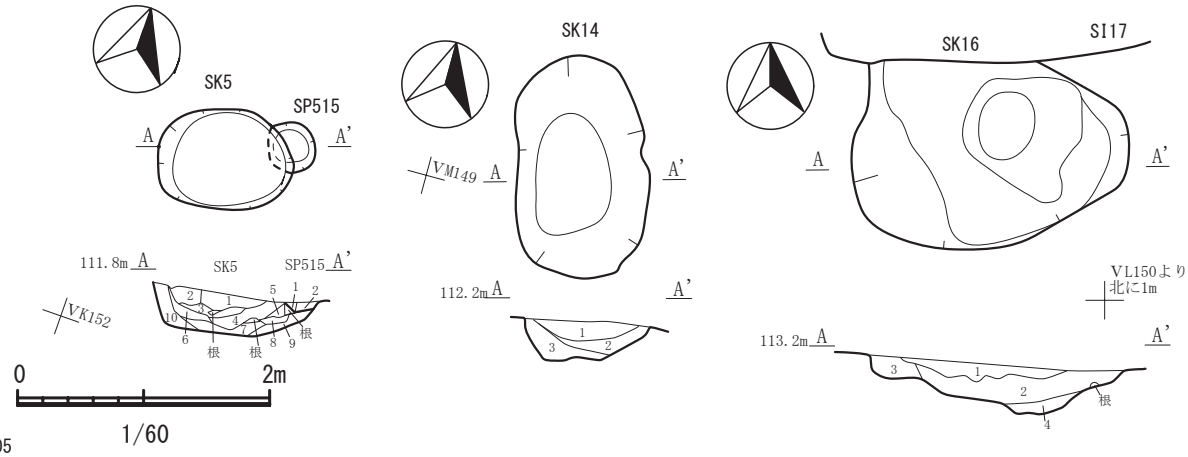
図94 第1・2・3・4号井戸跡



SK1
1 層 10YR3/4 暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1 ～ 10 ㎜）3% 炭化物（φ1 ～ 3 ㎜）1%
2 層 10YR4/4 褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1 ～ 7 ㎜）5% 炭化物（φ3 ～ 10 ㎜）1%
3 層 10YR3/4 暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1 ～ 10 ㎜）5% 炭化物（φ5 ～ 10 ㎜）1%
4 層 10YR3/3 暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ～ 50 ㎜）5% 炭化物（φ10 ～ 20 ㎜）5%
5 層 10YR4/4 褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ～ 1 ㎜）1% 炭化物（φ1 ～ 3 ㎜）1%
6 層 10YR3/4 暗褐色土 Ⅶ層由来ロームブロック（φ3 ～ 5 ㎜）8% 炭化物（φ3 ～ 5 ㎜）3%
7 層 10YR5/8 黄褐色土 炭化物（φ3 ～ 5 ㎜）3%
8 層 10YR3/4 暗褐色土 Ⅶ層由来ロームブロック（φ1 ～ 8 ㎜）3% 炭化物（φ3 ～ 5 ㎜）3%
9 層 10YR4/6 褐色土 Ⅶ層由来ロームブロック（φ～ 35 ㎜）炭化物（φ3 ～ 5 ㎜）1%
10 層 10YR3/4 暗褐色土 Ⅶ層由来ロームブロック（φ5 ～ 10 ㎜）5% 炭化物（φ3 ～ 5 ㎜）1%

SK4
1層 10YR3/4暗褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～5㎜）1%
炭化物（φ1～5㎜）1%

SK3
1 層 10YR4/4 褐色土 焼土ブロック（φ15 ～ 30 ㎜）30%
2 層 10YR4/6 褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ1 ～ 20 ㎜）40% 炭化物（φ3 ～ 10 ㎜）1%
3 層 10YR3/4 暗褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ1 ～ 35 ㎜）30% 炭化物（φ1 ～ 5 ㎜）1% 焼土ブロック（φ～ 1 ㎜）1%
4 層 10YR4/4 褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ1 ～ 20 ㎜）1%Ⅶ層由来ロームブロック（φ～ 20 ㎜）1%
5 層 10YR4/4 褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ1 ～ 10 ㎜）1%Ⅶ層由来ロームブロック（φ2 ～ 20 ㎜）1% 炭化物（φ～ 1 ㎜）1%
6 層 10YR4/6 褐色土



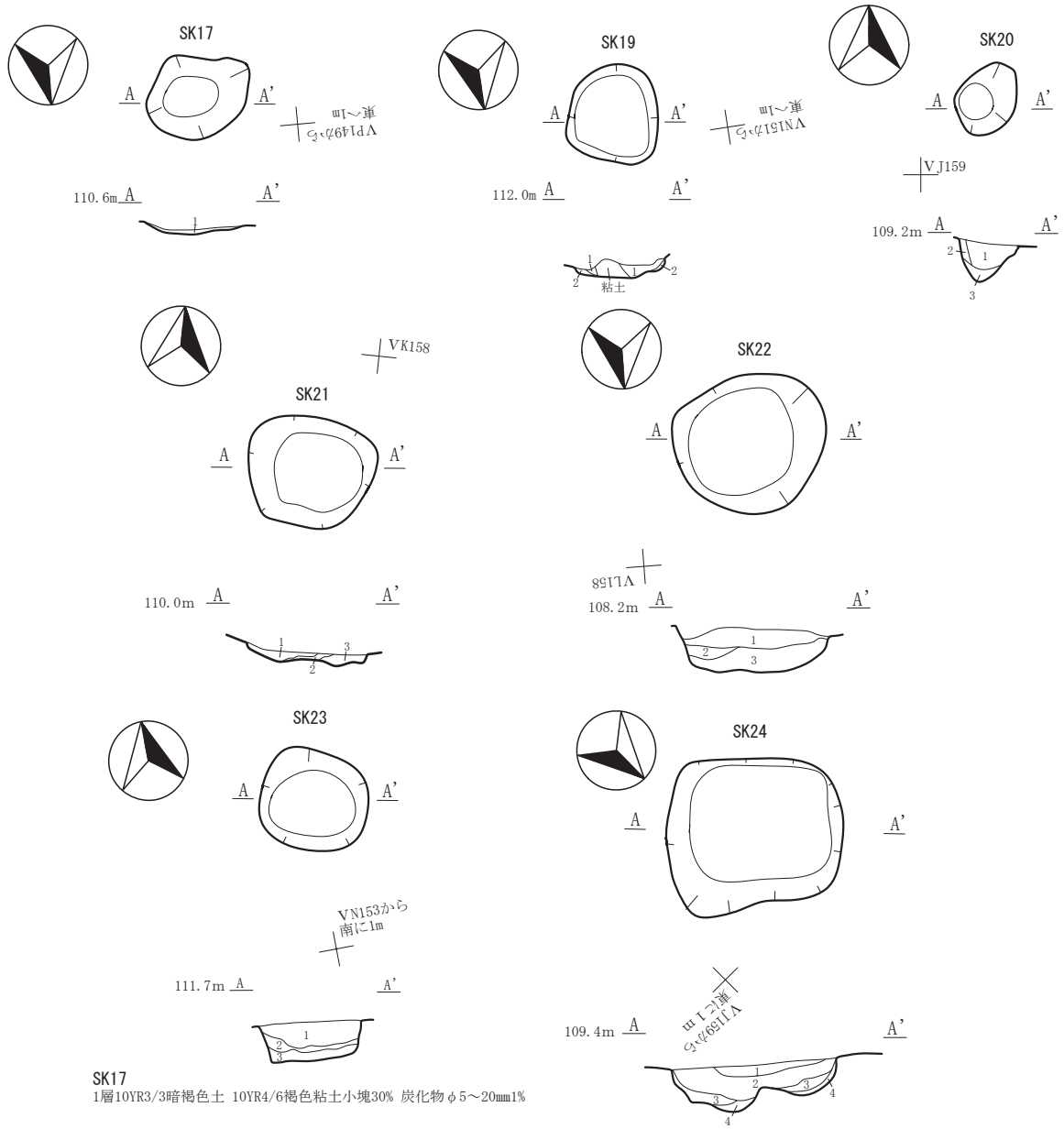
SK05
1層 10YR3/4暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ1～10㎜)1%Ⅵ層由来ロームブロック(φ1～30㎜)3% 炭化物(φ5～10㎜)1%
2層 10YR5/4にぶい黄褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ1～10㎜)1%Ⅵ層由来ロームブロック(φ20～50㎜)20% 炭化物(φ～1㎜)1%
3層 10YR3/4暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ～20㎜)1% Ⅵ層由来ロームブロック(φ～20㎜)10%
4層 10YR2/3黒褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ～20㎜)1%
5層 10YR3/4暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ～1㎜)1%
6層 10YR4/6褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック(φ～20㎜)1% 炭化物(φ～5㎜)1%
7層 10YR3/4暗褐色土 炭化物(φ～5㎜)1% Ⅴ層由来ロームブロック(φ～10㎜)1%Ⅵ層由来ロームブロック(φ20～50㎜)20% 炭化物(φ～1㎜)1%
8層 10YR4/4褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ～10㎜)1% 粘土ブロック(φ5～50㎜)30%Ⅶ層由来ロームブロック(φ～30㎜)3%
9層 10YR4/6褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ5～20㎜)1% Ⅵ層由来ロームブロック(φ～50㎜)30%
10層 10YR3/4 暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ～5㎜)1% Ⅵ層由来ロームブロック(φ～10㎜)1%

SP515
1層 10YR3/4暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ～5㎜)1% 炭化物(φ～5㎜)1%Ⅶ層由来ロームブロック(φ～5㎜)1%
2層 10YR3/4暗褐色土 炭化物(φ～1㎜)1% Ⅴ層由来ロームブロック(φ1～10㎜)1% Ⅵ層由来ロームブロック(φ～10㎜)1%

SK14
1層 10YR2/3黒褐色土 10YR5/6黄褐色土1%
2層 10YR3/4暗褐色土 10YR4/4褐色粘土2% 10YR5/6黄褐色土1% 炭化物(φ1～3㎜)1%
3層 10YR2/3黒褐色土 10YR4/6褐色土1% 炭化物(φ1㎜)1%

SK16
1 層 10YR3/3 暗褐色土 10YR5/6 黄褐色土φ30 ㎜以下 5% 10YR5/8 黄褐色土φ10 ㎜以下 3% 炭化物φ2 ㎜以下 2% 5YR5/8 明赤褐色 φ5 ㎜以下 1% 浮石φ2 ㎜以下 2%
2 層 10YR3/4 暗褐色土 10YR5/6 黄褐色土 φ10 ～ 50 ㎜ 30% 黄褐色土 10YR5/8 黄褐色土φ30 ㎜以下 7% 炭化物φ5 ㎜以下 2% 5YR5/8 明赤褐色φ1 ㎜以下 1% 浮石φ2 ㎜以下 2%
3 層 10YR4/6 褐色土 10YR4/4 褐色土 30% 10YR5/8 黄褐色土φ15 ㎜以下 2% 浮石φ1 ㎜以下 1% 炭化物φ1 ㎜以下 1%
4 層 10YR4/6 褐色土 10YR5/6 黄褐色土φ10 ㎜以下 2% 10YR5/8 黄褐色土φ7 ㎜以下 1% 炭化物φ1 ㎜以下 2% 5YR5/8 明赤褐色φ1 ㎜以下 1% 浮石φ2 ㎜以下 1%

図95　土坑（１）



SK17
1層10YR3/3暗褐色土 10YR4/6褐色粘土小塊30% 炭化物φ5～20mm1%

SK19
1 層 10YR4/6 褐色土 10YR5/6 黄褐色土 30% 炭化物φ5 mm 1% 5YR4/6 赤褐色土 20%
2 層 10YR4/6 褐色土 5YR5/8 明赤褐色土 50% 5YR4/8 赤褐色土 20%

SK20
1層 10YR3/3 暗褐色土 Ⅴ層由来ロームφ30mm以下10% Ⅶ層由来ロームφ10mm以下1% 炭化物φ2mm以下微量 焼土ブロックφ10mm以下2%
2層 10YR3/4 暗褐色土 Ⅴ層由来ローム粒1% 炭化物φ1mm以下微量
3層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 Ⅴ層由来ロームφ50mm以下20% Ⅶ層由来ロームφ10mm以下2% 炭化物φ20mm以下1%

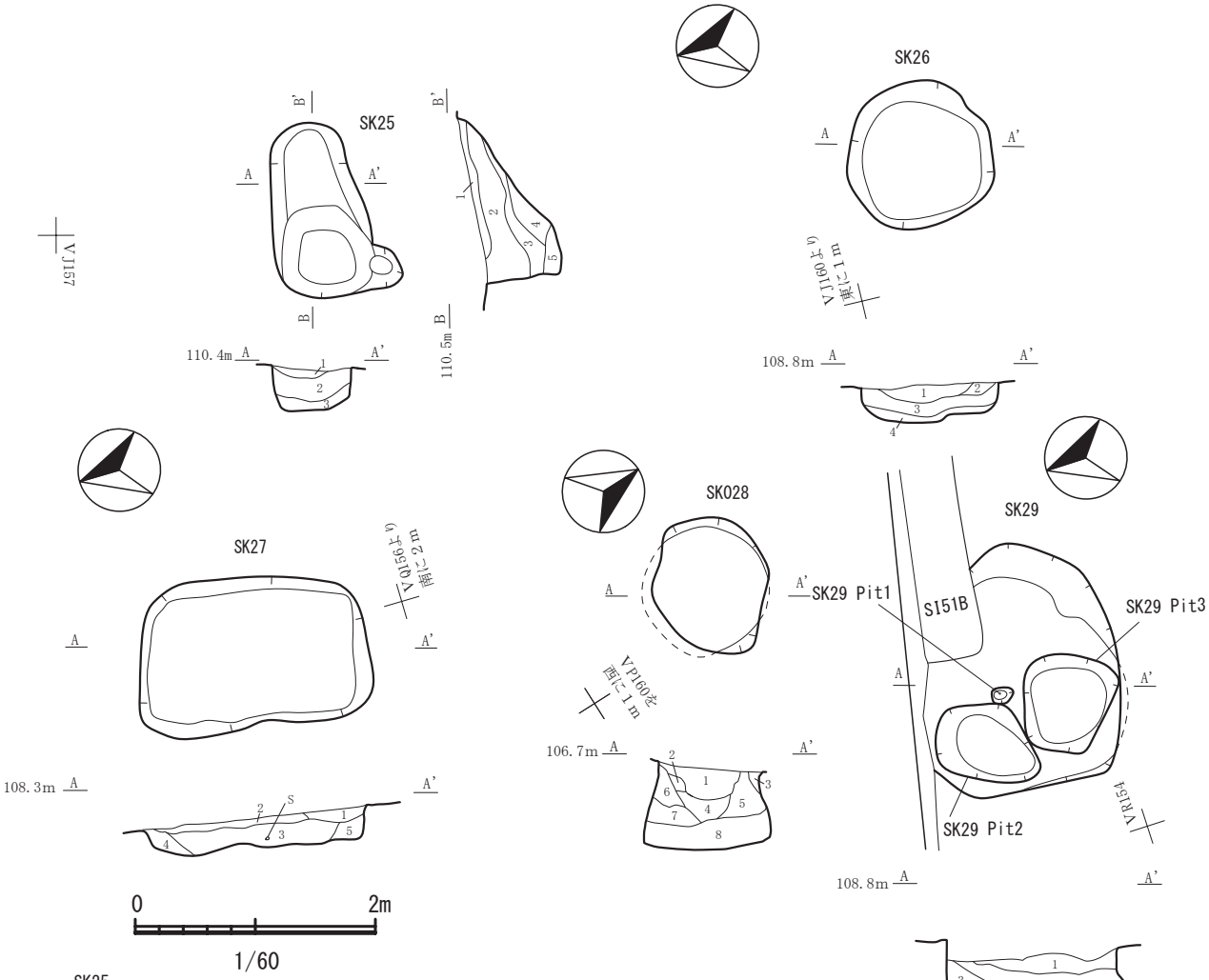
SK21
1層 10YR3/4 暗褐色土 下部にⅦ層由来ローム粒1% Ⅴ層由来ロームφ2mm以下1%炭化物φ1mm微量 φ2mm程度の浮石1%含む
2層 10YR3/4 暗褐色土 Ⅶ層由来ローム粒10% 炭化物φ1mm以下微量
3層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 Ⅶ層由来ローム粒1% 炭化物φ5mm以下微量Ⅴ層由来ロームφ3mm以下1% 焼土粒φ2mm微量

SK22
1層 10YR2/3 黒褐色土 Ⅵ層由来φ1～30mm20% Ⅴ層由来φ1～20mm7% 炭化物φ1～5mm1%
2層 10YR2/3 黒褐色土 Ⅵ層由来φ1～20mm7% Ⅴ層由来φ1～3mm2%
3層 10YR2/2 黒褐色土 Ⅴ層由来φ1～10mm5% Ⅴ層由来φ1～5mm3% 炭化物φ1～2mm微量

SK23
1層 10YR3/3暗褐色土 10YR4/4褐色土40% 10YR4/6褐色土10% 浮石(φ1mm～5mm)5% 10YR2/1黒褐色土1% 炭化物(φ1mm～2mm)1%
2層 10YR3/3暗褐色土 炭化物(φ30mm～40mm)30% 10YR4/4褐色土10% 焼土5YR3/6暗赤褐色土(φ1mm～3mm)1% 浮石(φ1mm～10mm)1%
3層 10YR3/4暗褐色土 10YR5/4にぶい黄褐色土30% 10YR4/4褐色土30% 炭化物(φ10mm)1% 5YR3/4暗赤褐色土(φ10mm)1%

SK24
1層 10YR3/3 暗褐色土 Ⅴ層由来ロームφ15mm以下5% 炭化物φ3mm以下微量
2層 10YR2/2 黒褐色土 Ⅴ層由来ロームφ20mm以下10% 炭化物φ8mm以下微量
3層 10YR2/3 黒褐色土 Ⅴ層由来ロームφ50mm以下7% 炭化物φ2mm以下微量 焼土粒φ1mm以下微量
4層 10YR3/4 暗褐色土 Ⅶ層由来ロームφ40mm以下3%

図96土坑（２）



SK25
1層 10YR3/3 暗褐色土 Ⅴ層由来ローム φ10mm以下2% 炭化物 φ1mm1%
2層 10YR3/2 黒褐色土 Ⅴ層由来ローム φ40mm以下7% 炭化物 φ1mm1% Ⅵ層由来ローム φ20mm以下1%
3層 10YR3/2 黒褐色土 Ⅴ層由来ローム φ20mm以下5% Ⅵ層由来ローム φ20mm以下2% 焼土 φ30mm以下1% 炭化物 φmm以下1%
4層 10YR2/3 黒褐色土 Ⅵ層由来ローム φ20mm以下5% Ⅴ層由来ローム φ20mm以下2% 炭化 φ1mm以下微量 焼土粒 φ1mm1%
5層 10YR3/3 暗褐色土 Ⅵ層由来ローム φ20mm以下5% 炭化物 φ2mm以下1% Ⅴ層由来ローム φ10mm以下3%

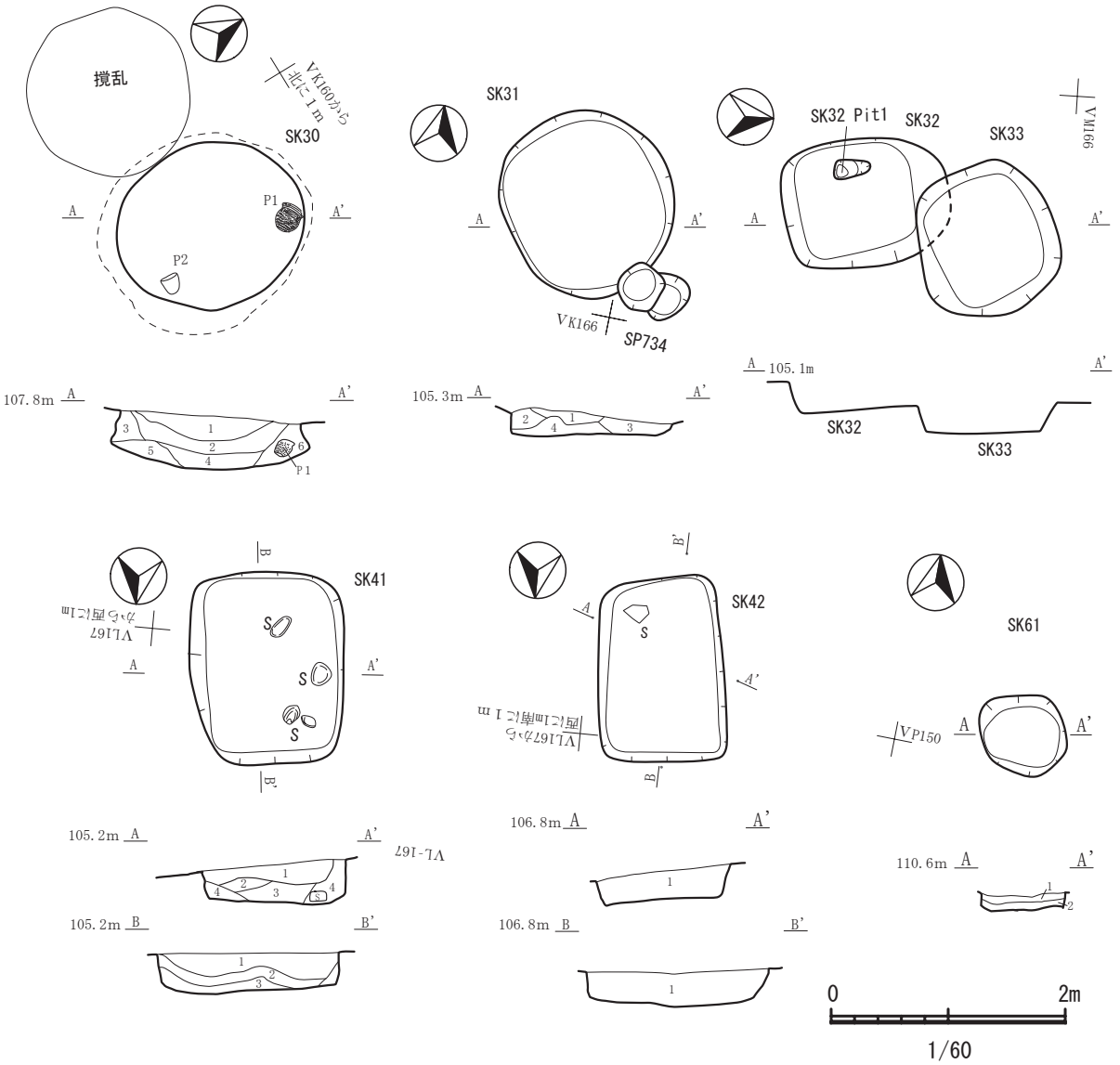
SK26
1層 10YR3/4 暗褐色土 Ⅴ層由来ローム φ5mm以下3% Ⅶ層由来ローム φ5mm1% 炭化物 φ3mm以下1%
2層 10YR3/4 暗褐色土 白色粘土ブロック φ80mm50%以上 Ⅴ層由来ローム φ5mm以下1%
3層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 Ⅴ層由来ローム φ10mm以下3% 焼土粒 φ3mm以下1% 炭化物 φ8mm以下1%
4層 10YR3/3 暗褐色土 炭化物 φ3mm以下1%

SK27
1層 10YR3/3 暗褐色 Ⅴ層由来 φ5mm以下5% Ⅶ層由来 φ40mm以下30% 炭化物 φ5mm以下2%
2層 10YR4/3 にぶい黄褐色 Ⅴ層由来 φ30mm以下10% Ⅶ層由来 φ40mm以下25% 炭化物 φ5mm以下2% 礫 φ30mm以下3% 焼土 φ5mm以下2%
3層 10YR4/4 褐色 Ⅴ層由来 φ40mm以下15% Ⅶ層由来 φ30mm以下30% 炭化物 φ3mm以下1% 礫 φ30mm以下5%
4層 10YR3/4 暗褐色 Ⅴ層由来 φ20mm以下3% Ⅶ層由来 φ30mm以下5%
5層 10YR3/3 暗褐色 Ⅴ層由来 φ30mm以下3% Ⅶ層由来 φ50mm以下20% 炭化物 φ3mm以下1%

SK28
1層 10YR2/2 黒褐色土 Ⅴ層由来 φ5mm以下3% 炭化物 φ3mm以下1%
2層 10YR3/1 黒褐色土 Ⅴ層由来 φ4mm以下40%
3層 10YR4/2 灰黄褐色土 Ⅴ層由来ブロック20%
4層 10YR2/1 黒色土 Ⅴ層由来 φ5mm以下1% Ⅶ層由来 φ6mm以下1%
5層 10YR2/2 黒褐色土 Ⅴ層由来 φ3mm以下5%
6層 10YR2/2 黒褐色土 Ⅴ層由来 φ5mm以下3% Ⅶ層由来ブロック φ20mm混入
7層 10YR2/2 黒褐色土 Ⅴ層由来ブロック20% Ⅶ層由来ブロック3%
8層 10YR2/1 黒色土 Ⅴ層由来3mm以下2% Ⅶ層由来ブロック1%

SK29
1層 10YR3/3 暗褐色土 Ⅶ層由来ロームブロック50%以上 浮石 φ1mm以下2% レキ φ15mm以下2% 焼土 φ7mm以下1% 炭化物 φ5mm以下2%
2層 10YR3/3 暗褐色土 焼土粒 φ30mm以下1% 炭化物 φ5mm以下1% Ⅶ層由来ロームブロック φ45mm
3層 10YR3/4 暗褐色土 焼土 φ5mm以下1% 炭化物 φ3mm以下1% Ⅴ層由来 φ15mm以下5% Ⅶ層由来 φ25mm以下2%
4層 10YR4/4 褐色土 炭化物 φ2mm以下1% Ⅶ層由来ローム50%以上

図97　土坑（３）



SK30
1層 10YR3/3 暗褐色土 10YR3/4暗褐色土φ60mm以下40% 焼土粒φ1mm以下1% 炭化物φ1mm以下1% 浮石少量
2層 10YR2/3 黒褐色土 10YR3/4暗褐色土混じる（φ50mm以下5%） Ⅴ層由来ロームφ10mm以下1% 炭化物φ10mm以下少量 浮石少量
3層 10YR2/3 黒褐色土 Ⅵ層由来ロームφ60mm以下50%以上 炭化物φ3mm以下微量 浮石少量
4層 10YR2/2 黒褐色土 Ⅴ層由来ロームφ10mm以下7% Ⅵ層由来ロームφ15mm以下10% 炭化物φ2mm以下少量
5層 10YR2/2 黒褐色土 Ⅴ層由来ロームブロックφ60mm以下50% Ⅵ層由来ローム20mm以下3% 炭化物φ1mm以下少量 Ⅶ層由来ロームφ3mm以下少量
6層 10YR2/3 黒褐色土 10YR4/6褐色土φ80mm以下混じる10% 炭化物φ1mm微量 焼土φ2mm微量 縄文時代晩期完形土器出土

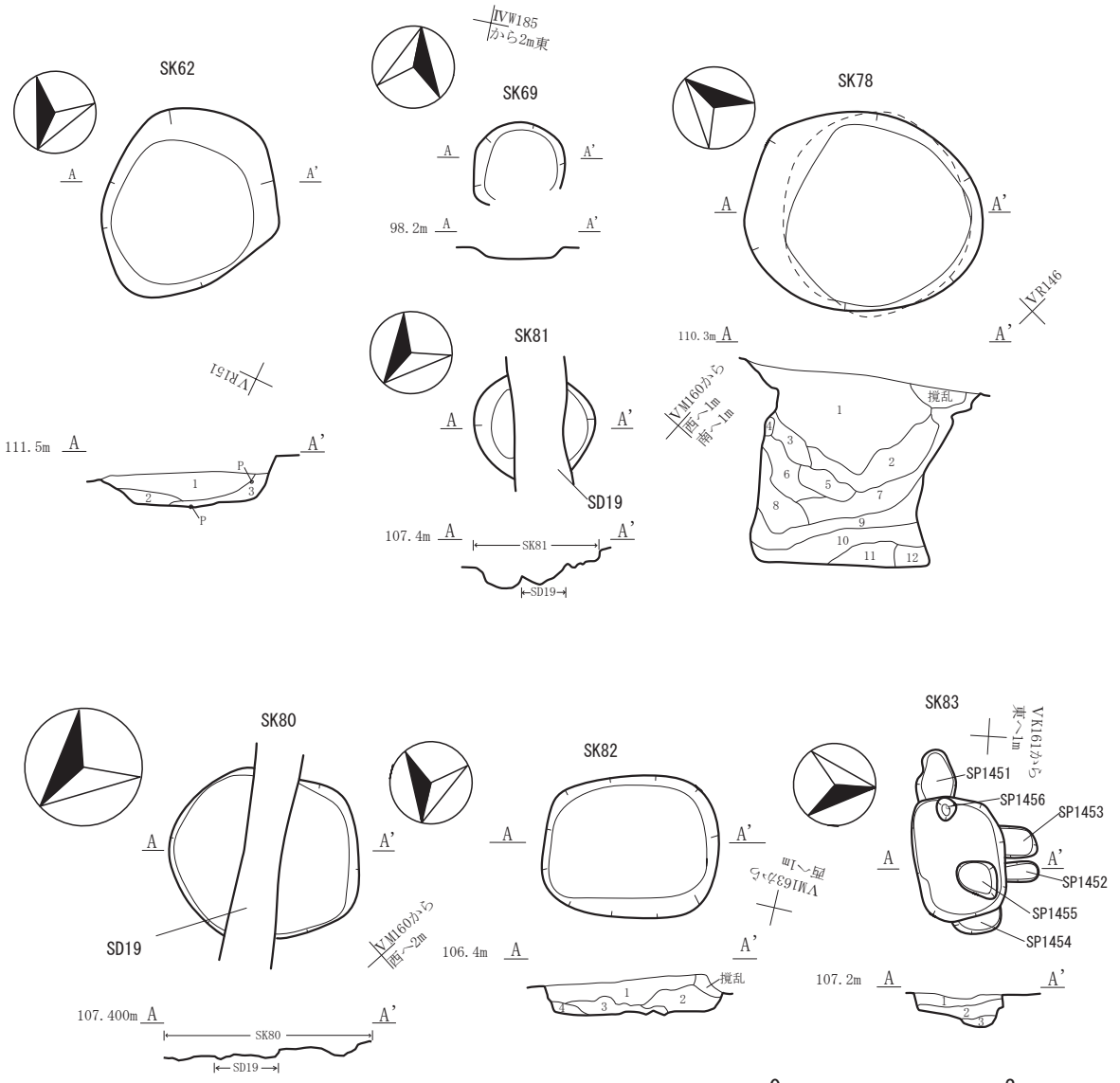
SK31
1層 10YR3/1 黒褐色土 10YR2/1 黒色土15% 10YR5/6 黄褐色土10% φ5～10mm1% 炭化物1% φ1～5mm焼土1%未満
2層 10YR2/3 黒褐色土 φ10～25mm浮石15% 10YR2/2 黒褐色土10% φ5mm焼土1%未満
3層 10YR2/3 黒褐色土 10YR4/3 にぶい黄褐色土35% 10YR2/2 黒褐色土10% φ5～20mm浮石5% φ5～20mm炭化物2%
4層 10YR2/2 黒褐色土 10YR4/6 褐色土20% φ15mm炭化物1% φ1mm焼土1%未満

SK41
1層 10YR3/2 黒褐色土 10YR3/4 暗褐色土30% φ炭化物1～20mm1% φ2～5mm焼土1%未満
2層 10YR2/1 黒色土 10YR4/3 にぶい黄褐色30% φ炭化物1～3mm1% φ1mm焼土1%未満
3層 10YR2/2 黒褐色土 10YR1.7/1 黒色土25% φ1～10mm浮石5% φ1mm炭化物1%未満
4層 10YR2/3 黒褐色土 10YR4/6 褐色土25%

SK42
1層 10YR3/2 黒褐色土 10YR3/4 暗褐色土30% φ炭化物1～20mm1% φ2～5mm焼土1%未満

SK61
1層 10YR4/4褐色土 Ⅴ層由来土（φ10mm）1% 浮石（φ5mm）1% 炭化物（φ1～10mm）5% Ⅵ層由来土（φ30mm）10%
2層 10YR4/4褐色土 Ⅶ層由来土 10YR4/6褐色土1% 炭化物（φ1～10mm）1% Ⅴ層由来土（φ5mm）1% 浮石（φ1～10mm）1%

図98　土坑（4）



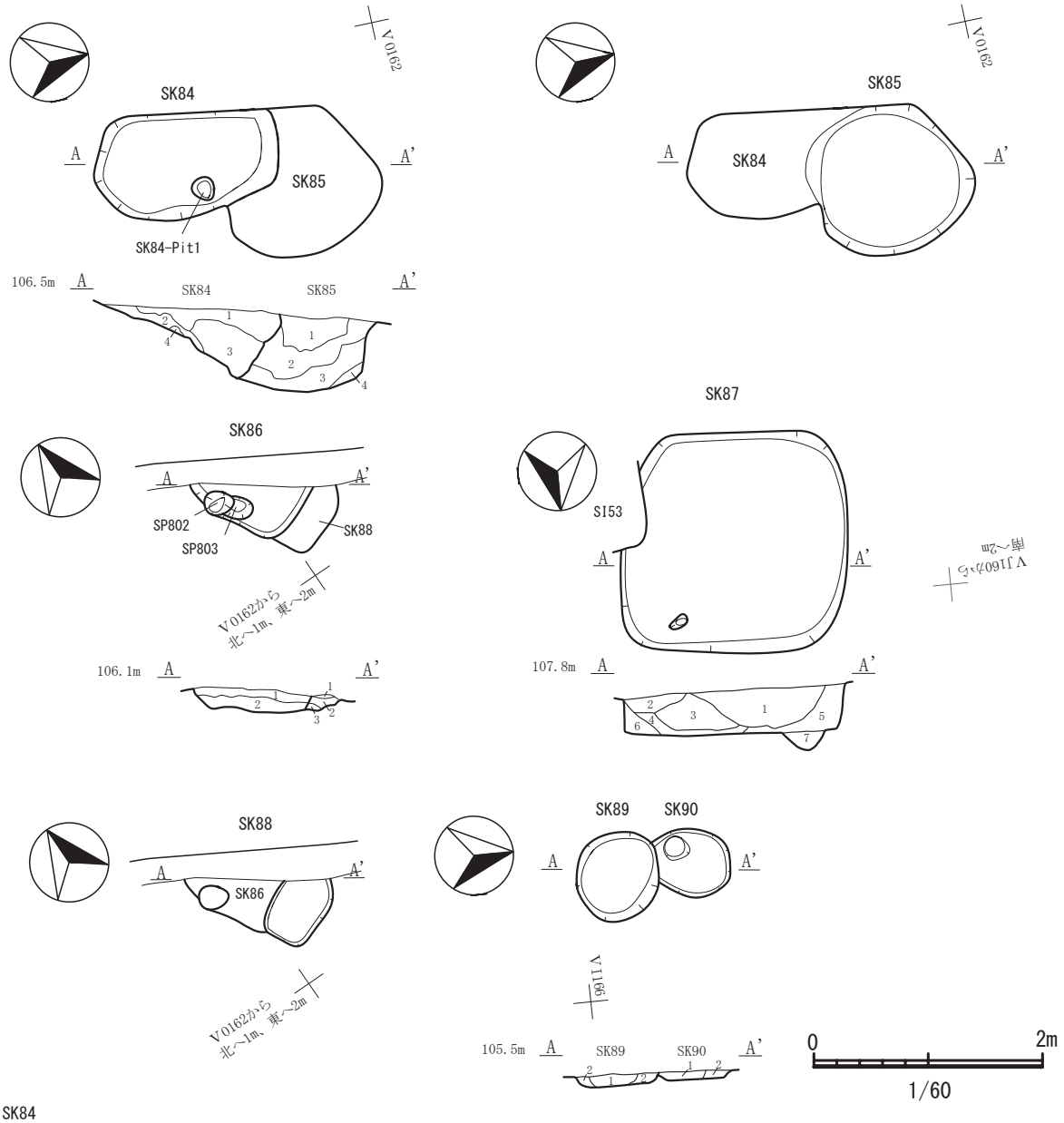
SK62
1層 10YR4/4褐色土 10YR5/6黄褐色土5% 炭化物φ1～10mm1% 焼土粒φ1mm～10mm1% 浮石φ1～5mm1%
2層 10YR4/4褐色土 10YR5/6黄褐色土5% 炭化物φ1mm1% 焼土粒φ1mm1%
3層 10YR4/4褐色土 10YR5/6黄褐色土1% 7.5YR4/3褐色土1% 炭化物φ1～10mm1% 焼土粒φ1mm1%

SK78
1層 10YR1.7/1黒色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ1～10mm)2% Ⅵ層由来ロームブロック(φ1～50mm)10% 焼土ブロック(φ1～3mm)10% 炭化物(φ1～5mm)2%
2層 10YR2/2黒褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ1～20mm)5% Ⅵ層由来ロームブロック(φ1～5mm)7% Ⅶ層由来ロームブロック(φ1～5mm)2%
焼土ブロック(φ1～5mm)1% 炭化物(φ1～10mm)5%
3層 10YR3/4暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ1～5mm)2% 焼土ブロック(φ5～80mm)20% 炭化物(φ1～3mm)3%
4層 10YR3/3暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ1～6mm)3% Ⅵ層由来ロームブロック(φ1～5mm)1%
5層 10YR3/4暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ～40mm)10% 粘土ブロック(φ1～20mm)3% 炭化物(φ1～3mm)2% 焼土ブロック(φ1～2mm)1%
6層 10YR5/4にぶい黄褐色土 焼土ブロック(φ～1mm)1% 炭化物(φ～1mm)1% 粘土ブロック(φ2～25mm)90%
7層 10YR3/3暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ1～10mm)5% Ⅶ層由来ロームブロック(φ1～10mm)10% 粘土ブロック(φ5～20mm)3% 炭化物(φ2～10mm)3%
8層 7.5YR3/3褐色土 粘土ブロック(φ5～30mm)90% 炭化物(φ1～2mm)1% 焼土ブロック(φ1～2mm)1%
9層 7.5YR4/4褐色土 粘土ブロック(φ5～500mm)90% 炭化物(φ1～10mm)8%
10層 10YR2/2黒褐色土 粘土ブロック(φ5～150mm)15% 炭化物(φ1～15mm)5%
11層 7.5YR5/8明褐色土 粘土ブロック(φ5～10mm)30% 炭化物(φ1～10mm)2%
12層 10YR5/6黄褐色土 粘土ブロック(φ5～100mm)40% 炭化物(φ1～3mm)1%

SK82
1層 10YR2/3黒褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ1～30mm)3% Ⅶ層由来ロームブロック(φ1～40mm)5% 焼土ブロック(φ～1mm)1% 炭化物(φ～1mm)1%
2層 10YR2/2黒褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ1～3mm)1% Ⅶ層由来ロームブロック(φ1～3mm)1% 炭化物(φ～1mm)1%
3層 10YR2/3黒褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ1～5mm)1% Ⅶ層由来ロームブロック(φ1～20mm)3% 炭化物(φ1～3mm)1%
4層 10YR3/3暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ1～5mm)1% Ⅶ層由来ロームブロック(φ1～50mm)80% 炭化物(φ1～2mm)1%

SK83
1層 10YR3/3暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ2～20mm)7% Ⅵ層由来ロームブロック(φ1～20mm)10% 焼土ブロック(φ1～2mm)1% 炭化物(φ1～5mm)2%
2層 10YR3/3暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ2～20mm)3% Ⅶ層由来ロームブロック(φ2～15mm)5% 炭化物(φ1～5mm)1%
3層 10YR3/2黒褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ1～15mm)2% Ⅵ層由来ロームブロック(φ1～50mm)30% 炭化物(φ1～5mm)1%

図99　土坑（５）



SK84
1層 10YR2/3黒褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～30mm）5% Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～3mm）1% 炭化物（φ1～5mm）1%
2層 10YR3/4暗褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～3mm）1% Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～3mm）1% 炭化物（φ1～5mm）1%
3層 10YR4/4褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ10～50mm）10% Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～3mm）1% 炭化物（φ1～3mm）2%
4層 10YR5/8黄褐色土 炭化物（φ～1mm）1%

SK85
1層 10YR2/1黒色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ～1mm）1% Ⅴ層由来ロームブロック（φ～1mm）1% 炭化物（φ～1mm）1% 焼土ブロック（φ1～3mm）1%
2層 10YR2/3黒褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～10mm）1% Ⅶ層由来ロームブロック（φ～1mm）1% 炭化物（φ1～3mm）1%
3層 10YR3/3暗褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～3mm）1% Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～3mm）1% 炭化物（φ1～3mm）1%
4層 10YR2/2黒褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ～1mm）1% 炭化物（φ～1mm）1%

SK86
1層 10YR3/4暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～20mm）5% Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～10mm）3% 焼土ブロック（φ1～8mm）1% 炭化物（φ1～5mm）2%
2層 10YR2/3黒褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～5mm）2% Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～3mm）1% 焼土ブロック（φ1～5mm）1% 炭化物（φ1～10mm）1%

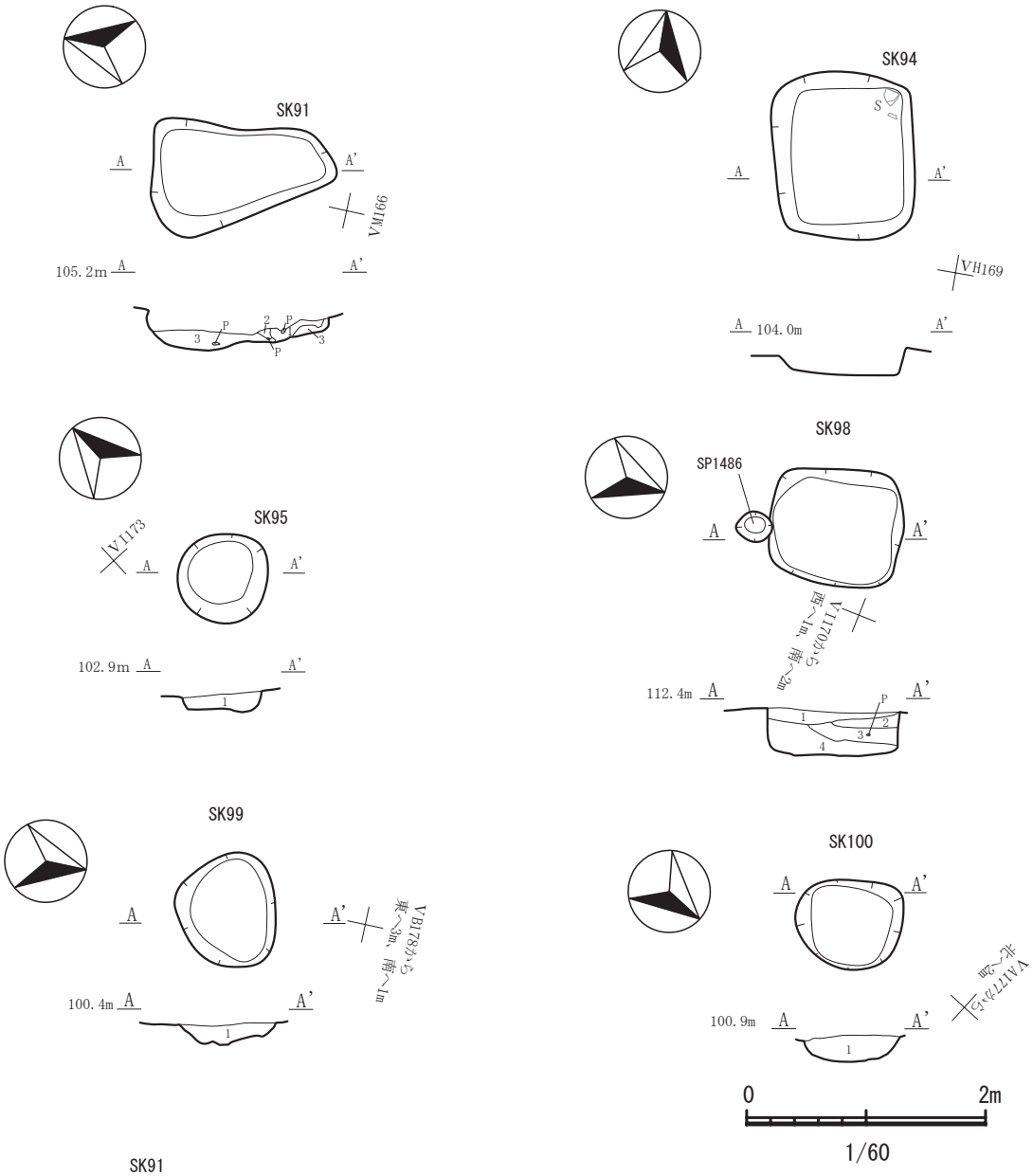
SK87
1層 10YR2/3黒褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～10mm）1% Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～50mm）2% 焼土ブロック（φ1～10mm）1% 炭化物（φ1～10mm）1%
2層 10YR3/3暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～15mm）1% Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～10mm）60% 炭化物（φ1～3mm）1%
3層 10YR4/4褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～30mm）2% Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～100mm）90% 炭化物（φ1～2mm）1%
4層 10YR3/3暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～10mm）1% Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～50mm）60% Ⅶ層由来ロームブロック（φ～40mm）1% 炭化物（φ1～2mm）1%
5層 10YR2/2黒褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～15mm）1% Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～50mm）50% 炭化物（φ1～10mm）1%
6層 10YR2/2黒褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～30mm）7% Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～5mm）1% 炭化物（φ1～2mm）1%
7層 7.5YR4/4褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ～50mm）50% Ⅶ層由来ロームブロック（φ～50mm）50%

SK88
1層 10YR2/3黒褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～10mm）10%
2層 10YR4/6褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ10～50mm）50%
3層 10YR2/2黒褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ～1mm）1% Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～10mm）10% 炭化物（φ1～3mm）2%

SK89
1層 10YR2/3黒褐色土 Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～30mm）20%
2層 10YR3/4暗褐色土 Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～20mm）50%

SK90
1層 10YR4/3にぶい黄褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～20mm）2%
Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～10mm）10%
2層 10YR3/2黒褐色土 Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～30mm）15%

図100 土坑（6）



SK91
1層 10YR3/4 暗褐色土 10YR3/3 暗褐色土30% 2.5YR3/6 暗赤褐色土(焼土)8% φ5㎜～15㎜炭化物3% 10YR4/6 褐色土1%未満
2層 10YR2/2 黒褐色土 10YR5/6 黄褐色土40%
3層 10YR3/3 暗褐色土 10YR4/6 褐色土30% 10YR2/3 黒褐色土10% 10YR5/6 黄褐色土8% 7.5YR4/6 褐色土5% φ20㎜礫1%未満

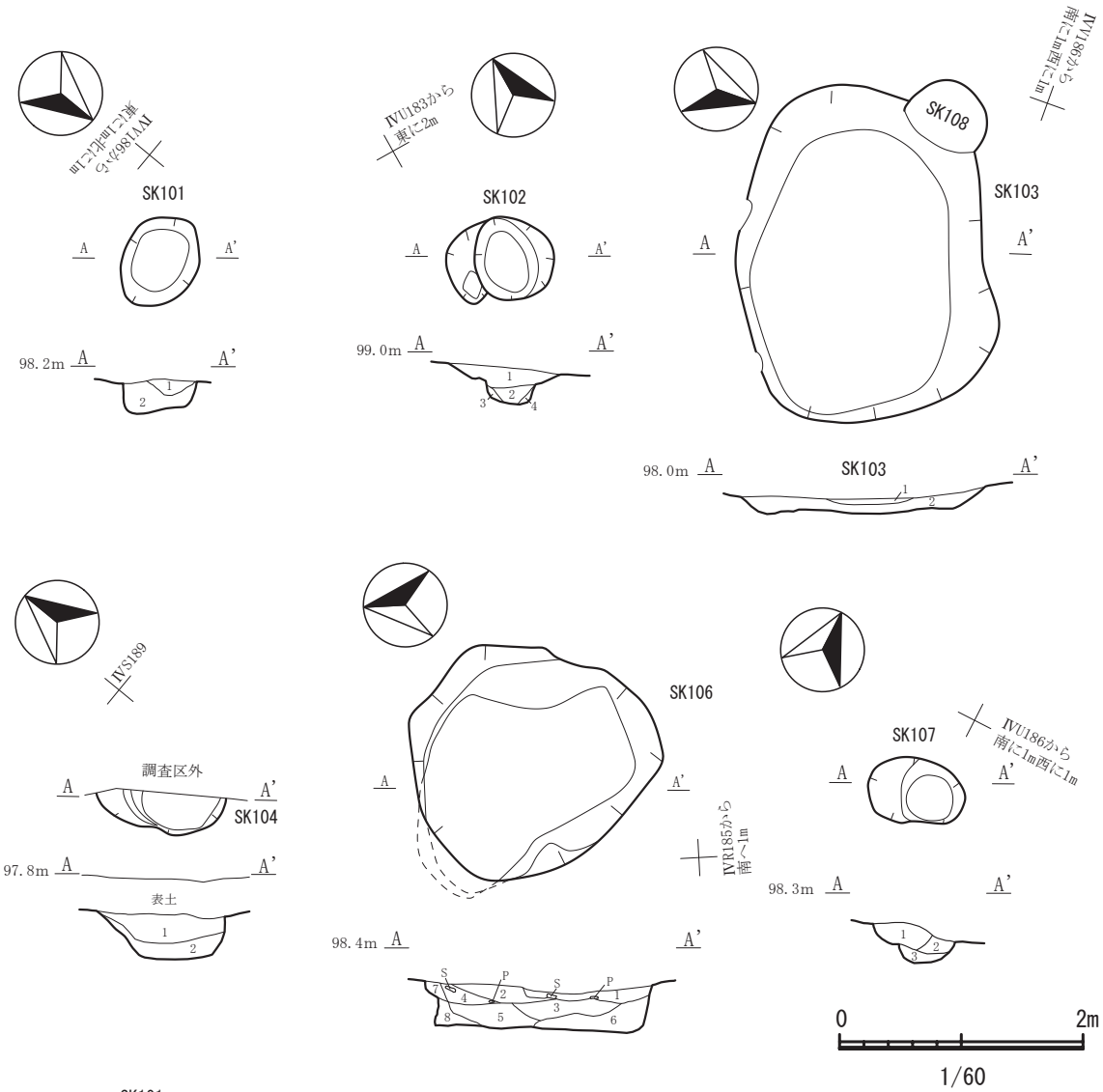
SK95
1層 10YR3/3 暗褐色 Ⅶ由来φ5～30㎜5% 炭化物φ1～2㎜少々 礫φ5㎜少量

SK98
1層 10YR3/4暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ～10㎜)10% Ⅵ層由来ロームブロック(φ～10㎜)5% 炭化物(φ～10㎜)10%
2層 10YR3/4暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ～5㎜)1% 炭化物(φ～3㎜)1% 焼土ブロック(φ～5㎜)1% 浮石(φ～5㎜)1%
3層 10YR3/3暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ～5㎜)5% 炭化物(φ～10㎜)10%
4層 10YR4/6褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ～20㎜)5% Ⅵ層由来ロームブロック(φ～20㎜)10% 炭化物(φ～10㎜)10% 浮石(φ1～20㎜)5%

SK99
1層10YR1.7/1黒色土 Ⅴ層由来ロームブロック(φ1～10㎜)1%

SK100
1層 10YR3/4暗褐色土 Ⅶ層由来ロームブロック(φ1～30㎜)30%

図101　土坑（７）



SK101
1層 10YR2/3 黒褐色土 にぶい黄褐色粘土(10YR5/4)3% 焼土粒(φ1mm)1% 炭化物(φ3～5mm)1% 褐色土(10YR4/6)φ20mm1%
2層 10YR2/3 黒褐色土 粘土粒(φ2～5mm)10% 焼土粒(φ5mm)1% 炭化物(φ5mm)

SK102
1層 10YR2/2 黒褐色土 ロームブロック黄褐色(φ5～30mm)3%
2層 10YR2/1 黒色土 ローム(φ1～3mm)1%
3層 10YR2/3 黒褐色土 ローム(φ1～10mm)2.5%
4層 10YR2/2 黒褐色土 ローム(φ1～10mm)50%

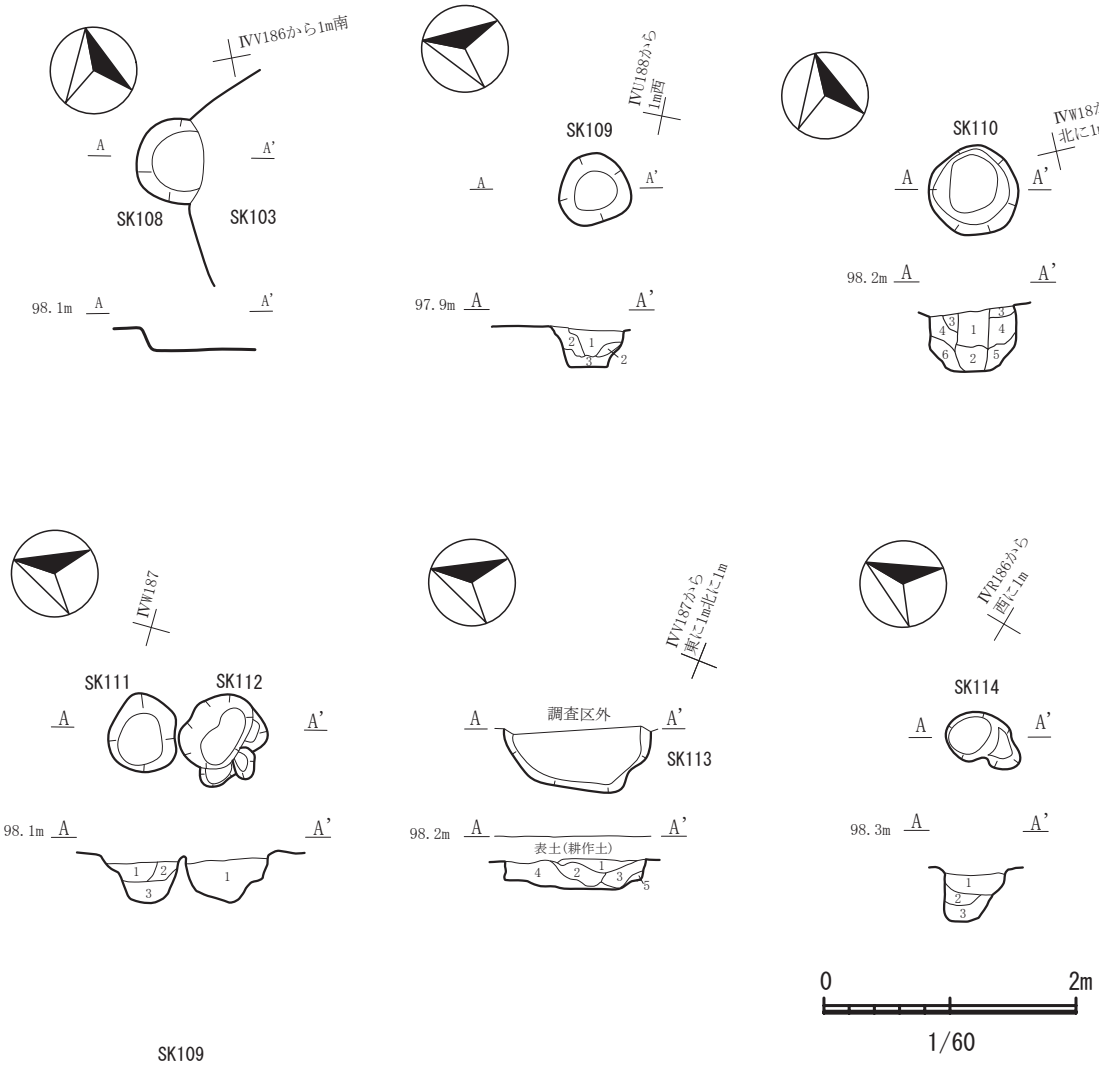
SK103
1層 10YR2/1 黒色土 黄褐色ロームφ1～20mm3% 炭化物φ5～10mm1%
2層 10YR3/2 黒褐色土 黄褐色ロームφ1～30mm15% 黄褐色粘土φ10～20mm1% 炭化物φ5mm1%

SK104
1層 10YR2/1 黒色土 黄褐色ローム(10YR5/6)φ5mm以下1% 焼土φ1～2mm1%以下 明褐色浮石(7.5YR5/6)φ5～10mm1% 炭化物φ1～2mm1%
2層 10YR2/2 黒褐色土 黄褐色粘土(10YR5/8)φ2～10mm30%

SK106
1層 10YR2/2 黒褐色土 黄褐色ローム(φ5～40mm)10% にぶい黄褐色ローム(φ30mm以下)2% 炭化物1%
2層 10YR2/1 黒色土 黄褐色ローム(φ20mm以下)3% にぶい黄褐色ローム(φ20mm以下)1% 炭化物1%
3層 10YR2/1 黒色土 黄褐色ローム(φ0～80mm以下)20% にぶい黄褐色ローム(φ10～60mm)5%
4層 10YR3/1 黒褐色土 黄褐色ローム(φ10mm以下)1% 焼土粒(φ2mm)微量 炭化物(φ2mm)1%
5層 10YR3/1 黒褐色土 黄褐色ローム(φ5～50mm)25% 白色粘土ブロック(φ20mm以下)1%
6層 10YR3/2 黒褐色土 黄褐色ローム(φ10～60mm)40% にぶい黄褐色ローム(φ10～30mm)30%
7層 10YR2/1 黒色土 黄褐色ローム(φ10mm以下)1%
8層 10YR2/1 黒色土 にぶい黄褐色ローム(φ5mm以下)2% 焼土粒(φ2mm以下)1%

SK107
1層 10YR3/1 黒褐色土 黄褐色ロームφ60mm以下30% 炭化物φ5mm以下3% 焼土粒φ2mm以下1%
2層 10YR3/2 黒褐色土 黄褐色ロームφ20mm以下50%以上 炭化物φ2mm以下1%
3層 10YR4/2 灰黄褐色土 黄褐色ロームφ15mm以下40%以上 炭化物φ2mm以下1%

図102 土坑（8）



SK109
1層 10YR3/2 黒褐色土 黄褐色ロームφ20mm以下5% 炭化物φ10mm以下微量 焼土粒φ2mm以下1%
2層 10YR3/4 暗褐色土 ピンク粘土ブロックφ30mm～80mm50% φ100×100mmのロームブロック 焼土塊φ10～30mm
3層 10YR3/3 暗褐色土 黄褐色ロームφ50mm以下10% 焼土粒φ1mm1%

SK110
1層 10YR3/2 黒褐色土 黄褐色ロームφ2mm～5mm3% 炭化物φ2mm以下2% 焼土粒 1%
2層 10YR2/3 黒褐色土 黄褐色ロームφ2mm～30mm10% 炭化物φ2mm以下1% 焼土粒 1%
3層 10YR3/3 暗褐色土 黄褐色ロームφ2mm～20mm3% 炭化物φ2mm以下微量 焼土粒φ1mm以下1%
4層 10YR3/2 黒褐色土 黄褐色ロームφ30mm以下20% 炭化物φ2mm以下微量 焼土粒φ1mm1%
5層 10YR2/3 黒褐色土 黄褐色ロームブロックφ5mm～60mm30% 黄白粘土φ20mm以下1% ピンクロームφ10mm1%

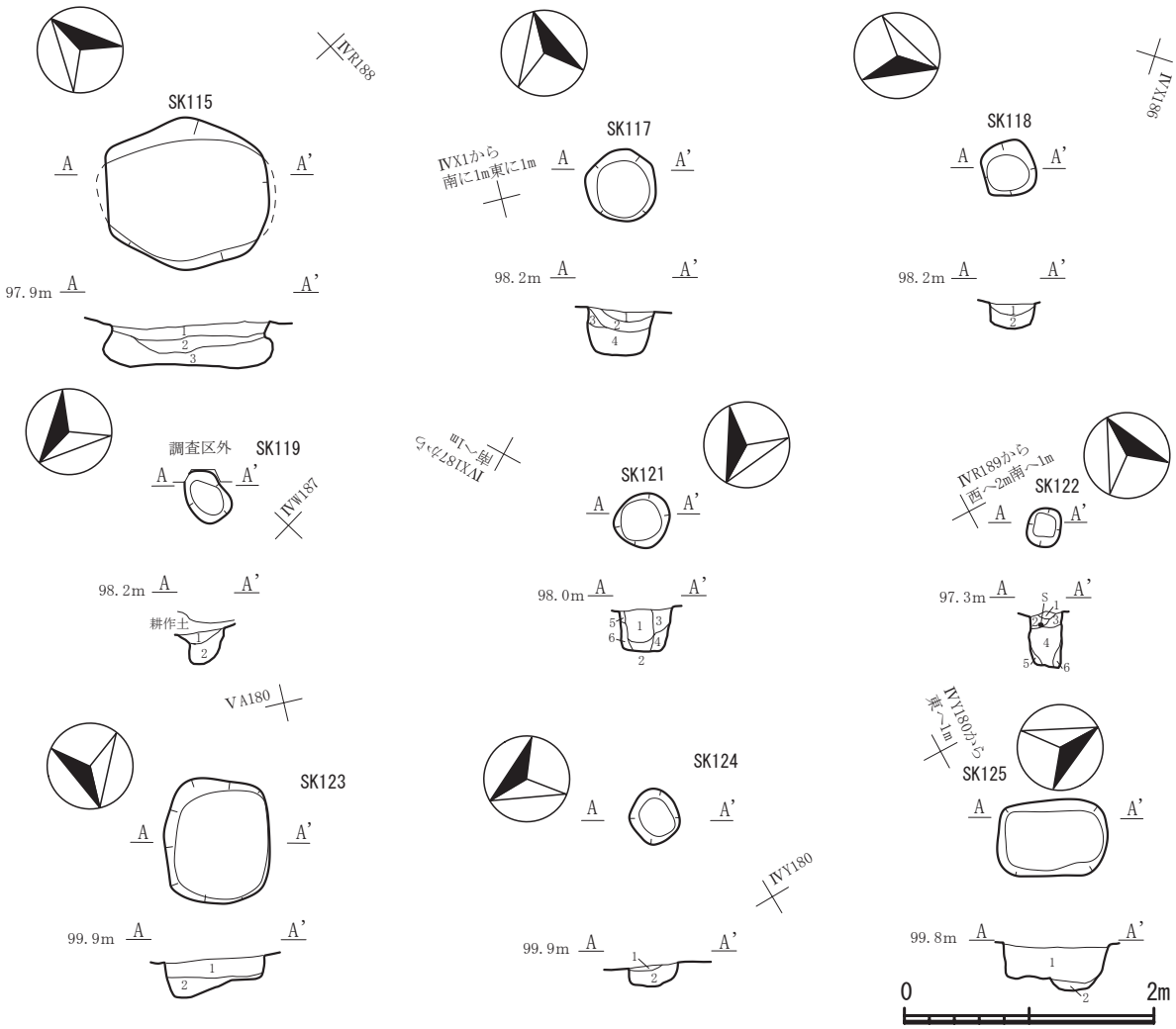
SK111
1層 10YR3/3 暗褐色土 ロームφ10mm以下3% 炭化物φ10mm以下1% 焼土φ3mm以下1%
2層 10YR3/3 暗褐色土 ロームφ30mm以下30% 炭化物φ5mm以下1%
3層 10YR3/4 暗褐色土 ロームφ60mm以下50%以上 ピンクロームφ10mm以下2%

SK112
1層 10YR2/3 黒褐色土 ロームφ30mm以下30% 炭化粒φ2mm以下1% 焼土粒φ1mm以下1% ピンクロームφ30mm2%

SK113
1層 10YR3/2 黒褐色土 黄褐色ロームφ20mm以下2% 炭化物φ2mm1% 焼土粒φ1mm1%
2層 10YR2/2 黒褐色土 黄褐色ロームφ30mm以下10% 焼土粒φ1mm1%
3層 10YR2/2 黒褐色土 黄褐色ロームφ10mm以下3%
4層 10YR2/3 黒褐色土 黄褐色ロームブロックφ60mm以下50%
5層 10YR5/8 黄褐色 ローム

SK114
1層 10YR2/2 黒褐色土 ロームφ20mm以下10% ピンクロームφ10mm以下5%
白色粘土φ10mm以下1% 炭化粒φ5mm以下1%) 焼土φ50mm5%
2層 10YR1.7/1 黒色土 ロームφ10mm以下2%
3層 10YR1.7/1 黒色土 ロームφ2mm以下10%

図103　土坑（９）



SK115
1層 10YR2/2 黒褐色土 黄褐色ロームが帯状に見られるφ20～60mm 黄褐色ローム粒φ30mm以下炭化物粒φ5mm以下1% 焼土粒φ1mm以下1% 白色粘土φ20mm以下5%
2層 10YR2/1 黒色土 黄褐色ロームブロックφ50mm以下 焼土粒φ1mm以下1%
3層 10YR5/8 黄褐色土 白色粘土ブロックφ10mm

SK117
1層 10YR3/2 黒褐色土 黄褐色ロームφ30mm以下15% ピンクロームφ5～10mm3% 炭化物φ2mm微量 焼土粒φ1mm 1%
2層 10YR3/2 黒褐色土 黄褐色ロームφ10mm以下5% ピンクロームφ20mm1% 炭化物φ2mm以下1%
3層 10YR3/2 黒褐色土 黄褐色ロームφ5mm以下7%
4層 10YR3/2 黒褐色土 黄褐色ロームφ20mm以下10% 黒色土1%

SK118
1層 10YR3/2 黒褐色土 黄褐色ロームφ30mm以下5% 焼土粒φ1mm1% 炭化物φ1mm1%
2層 10YR2/2 黒褐色土 黄褐色ロームφ20mm以下7%

SK119
1層 10YR2/2 黒褐色土 黄褐色ロームφ10mm以下5% 炭化物φ20mm以下1% 焼土粒φ2mm以下1%
2層 10YR3/2 黒褐色土 黄褐色ロームφ30mm以下10% 炭化物φ2mm以下1%

SK121
1層 10YR2/2 黒褐色土 黄褐色ロームφ2mm以下5% ピンクロームφ20mm以下少量 白土粘土φ10mm以下少量炭化物φ10mm以下1% 焼土粒φ1mm以下1% 柱痕覆土
2層 10YR3/2 黒褐色土 黄褐色ロームφ20mm以下40% 柱痕覆土
3層 10YR2/2 黒褐色土 黄褐色ロームφ５mm以下10% 焼土粒φ5mm1% 炭化物φ2mm以下1%
4層 10YR3/2 黒褐色土 黄褐色ロームφ20mm以下30% 焼土粒φ10mm1%
5層 10YR3/2 黒褐色土 黄褐色ロームφ5mm以下40%
6層 10YR2/2 黒褐色土 黄褐色ロームφ30mm以下50% 焼土粒φ1mm1%

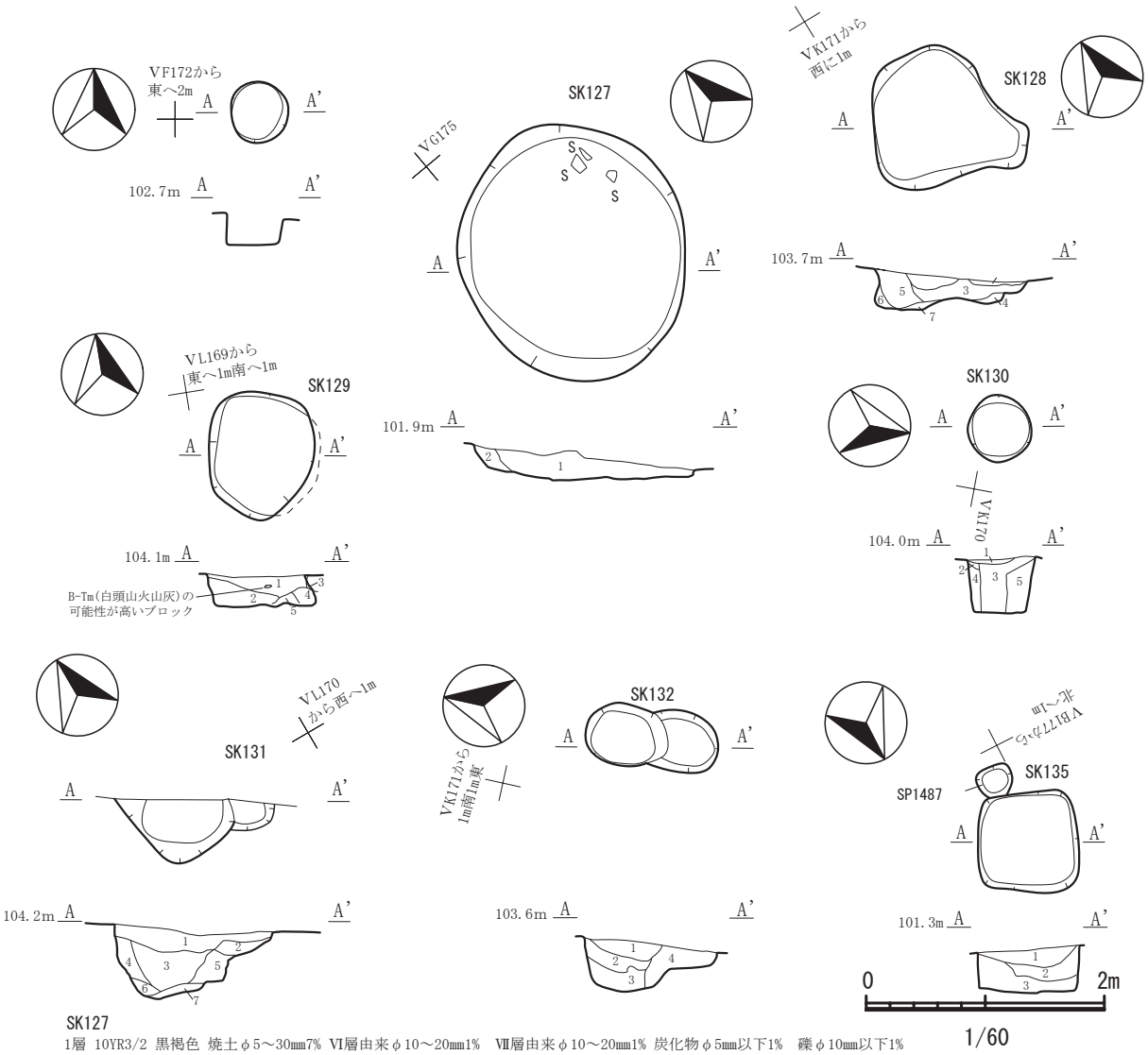
SK122
1層 粘土塊 焼土粒φ1mm1%
2層 10YR2/2 黒褐色 焼土60mm×60mm 焼土粒φ1mm1%
3層 10YR2/1 黒色 黄褐色ロームφ10mm以下2% 焼土粒φ1mm1%
4層 10YR2/1 黒色 黄褐色ロームφ30mm以下10% 焼土粒φ1mm1%
5層 10YR3/2 黒褐色 黄褐色ロームφ30mm以下20%
6層 10YR3/2 黒褐色 黄褐色ロームφ10mm以下7% 焼土粒φ1mm1%

SK123
1層 10YR3/1黒褐色 Ⅴ層由来φ1～35mm以下5% 炭化物1%
2層 Ⅴ層由来土層 10YR3/1黒褐色φ20mm以下 Ⅶ層由来2% 焼土1%

SK124
1層 10YR3/1 黒褐色 Ⅶ層由来ブロックφ30% 焼土φ70mm以下5% 炭化物1%
2層 10YR3/1 黒褐色 Ⅴ層由来φ30mm以下3% 炭化物φ1～3mm小量 焼土1%

SK125
1層 10YR2/2 黒褐色 Ⅴ層由来φ50mm以下20% 炭化物φ2～5mm以下2% Ⅶ層由来φ15mm以下
2層 Ⅴ由来土 Ⅶ層由来φ40mm以下

図104 土坑（10）



SK127
1層 10YR3/2 黒褐色 焼土φ5～30mm7% Ⅵ層由来φ10～20mm1%　Ⅶ層由来φ10～20mm1% 炭化物φ5mm以下1%　礫φ10mm以下1%
2層 10YR3/3 暗褐色 Ⅵ層由来φ3～10mm1% 炭化物φ3～25mm1%　焼土φ1～10mm1%　礫φ3mm以下1%

SK128
1層 10YR3/2 黒褐色 焼土φ3～5mm以下微量 Ⅶ層由来φ5mm以下1%　礫φ5mm以下1%　炭化物φ3mm以下1%
2層 10YR3/2 黒褐色 Ⅶ層由来φ10～40mm2% Ⅴ層由来φ10mm以下1%　礫φ5mm以下1%　焼土・炭化物φ3mm以下1%
3層 10YR3/4 暗褐色 Ⅶ層由来φ5～15mm1% 礫φ5mm以下1%　焼土・炭化物φ3mm以下1%
4層 10YR4/6 褐色 礫φ5mm以下1%

SK129
1層 10YR2/3 黒褐色 Ⅴ層由来φ2～8mm5% 礫5～10mm1%　炭化物φ5mm以下1%
2層 10YR2/2 黒褐色 Ⅴ層由来φ10～40mm3% 礫φ5mm以下1%
3層 10YR4/6 褐色 Ⅴ層由来土と黒褐色土が混入
4層 10YR2/1 黒色 Ⅴ層由来φ5mm以下1%
5層 10YR5/8 黄褐色 10YR3/4暗褐色土30%

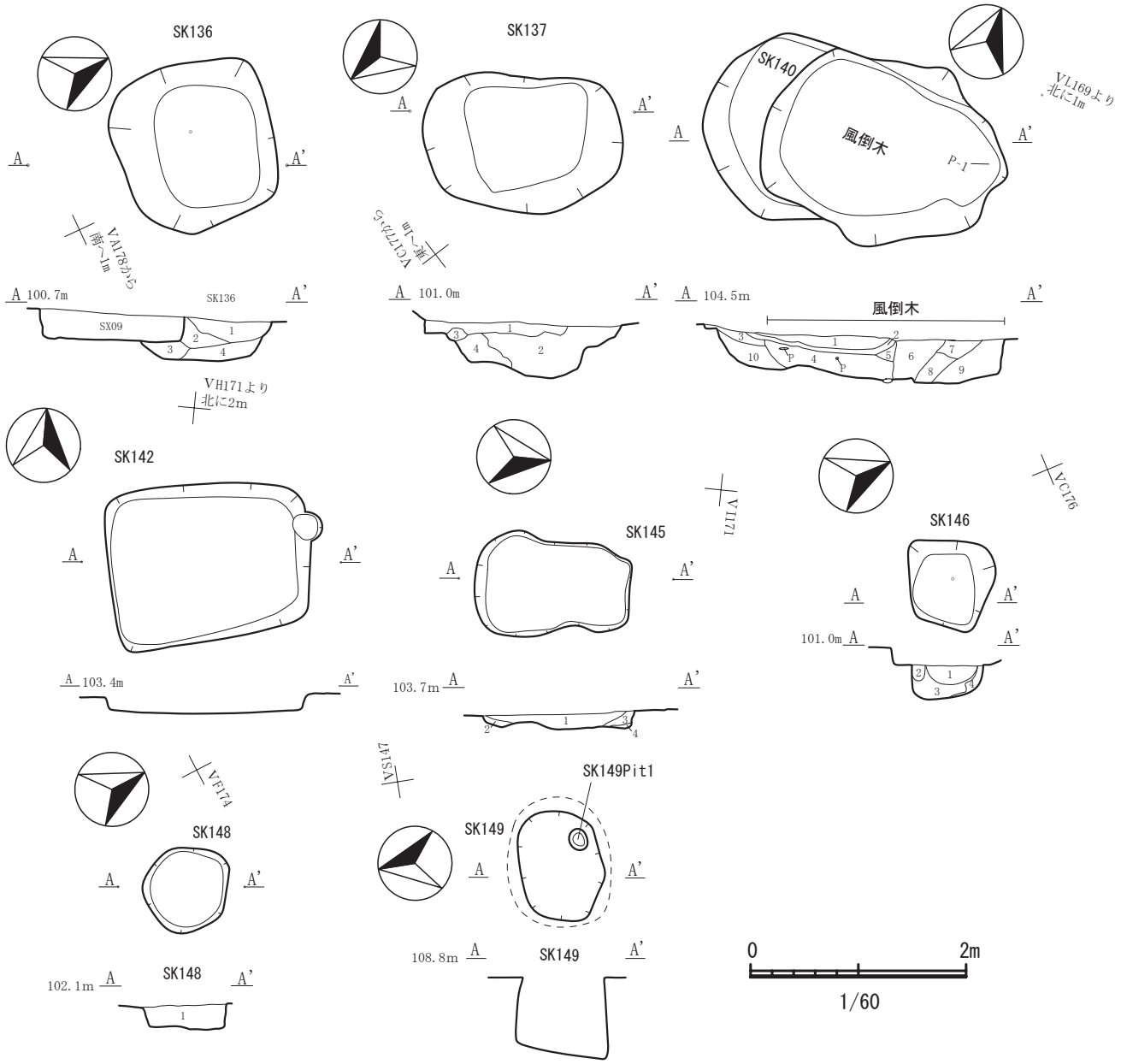
SK130
1層 10YR2/2 黒褐色 Ⅵ層由来φ25～45mm3% Ⅴ層由来φ1～10mm3% 炭化物φ2mm少量 焼土粒φ2mm以下1%
2層 10YR4/4 褐色 Ⅴ層由来φ20mm以下5% Ⅵ層由来φ20mm以下5% 黒褐色土(10YR2/2)少量 暗褐色土(10YR3/4)1%
3層 10YR2/2 黒褐色 Ⅴ層由来φ3～5mm5%
4層 10YR3/4 暗褐色 Ⅴ層由来φ2～7mm2%
5層 10YR3/3 暗褐色 Ⅵ層由来φ10～40mm7% Ⅴ層由来φ10～20mm3% 炭化物φ2mm以下少量 Ⅶ層由来ブロックφ70mm3%

SK131
1層 10YR3/4 暗褐色 黒色土(10YR2/1)2% Ⅴ層由来φ1～10mm3% 礫φ3～10mm1% 焼土・炭化物φ3mm以下1%
2層 10YR3/3 暗褐色 黒色土(10YR2/1)30% Ⅴ層由来φ5mm以下3% 礫φ3mm以下1%
3層 10YR3/3 暗褐色 黒色土(10YR2/1)5% Ⅴ層由来φ1～10mm2% Ⅶ層由来φ40mmブロック混入
礫φ10mm以下1%　焼土・炭化物φ3mm以下1%
4層 10YR2/2 黒褐色 10YR2/1黒色3% Ⅴ層由来φ1～10mm7% 礫φ5mm以下1%　炭化物φ3mm以下1%
5層 10YR3/3 暗褐色 Ⅴ層由来φ10mm以下2% 礫φ5～10mm以下1%　炭化物φ3mm以下
6層 10YR3/3 暗褐色 Ⅴ層由来90×90mmブロック Ⅶ層由来60×60mmブロック10%
7層 10YR3/3 暗褐色 Ⅴ層由来φ10mm以下1%　炭化物φ3mm以下1%　焼土φ2～4mm以下1%

SK132
1層 10YR2/2 黒褐色 Ⅴ層由来φ2～10mm Ⅵ層由来φ10mm以下1%
2層 10YR2/2 黒褐色 Ⅵ層由来φ3～10mm1% Ⅴ層由来φ1～10mm1% 焼土φ10mm以下少量 Ⅶ層由来φ20mm以下1%
3層 10YR3/1 黒褐色 黒褐色土(10YR3/2)混入 Ⅵ層由来φ15mm以下3% Ⅴ層由来φ5～20mm2% 炭化物φ30mm1%
4層 10YR3/2 黒褐色 Ⅵ層由来φ10mm以上のブロック20% Ⅴ層由来φ25mm以下2% Ⅶ層由来φ30mm以下3%

SK135
1層 10YR2/3黒褐色土 Ⅴ層由来ローム ブロック(φ1～10mm)1%　Ⅶ層由来ローム ブロック(φ1～20mm)1% 焼土ブロック(φ1～20mm)1%
炭化物(φ1～5mm)1%
2層 10YR2/2黒褐色土 Ⅴ層由来ローム ブロック(φ1～10mm)1%　Ⅶ層由来ローム ブロック(φ1～20mm)1% 焼土ブロック1%　炭化物1%
3層 10YR2/2黒褐色土 Ⅴ層由来ローム ブロック(φ1～20mm)3%　Ⅶ層由来ローム ブロック(φ1～10mm)1% 炭化物1%

図105　土坑（11）



SK136
1層 10YR2/2黒褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～30mm）3% Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～20mm）1% 炭化物（φ1～3mm）1%
2層 10YR2/2黒褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～20mm）25%
3層 10YR3/4暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～20mm）70%
4層 10YR2/3黒色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～30mm）1%

SK137
1層 10YR2/2黒褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～10mm）3% Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～10mm）2% Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～10mm）3% 焼土ブロック（φ1～2mm）1% 炭化物（φ1～2mm）1%
2層 10YR2/3黒褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～30mm）5% Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～5mm）2% 焼土ブロック（φ1～2mm）1% 炭化物（φ1～5mm）1%
3層 10YR2/3暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～2mm）1% Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～2mm）1% 炭化物（φ～1mm）1%
4層 10YR2/2黒褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～20mm）1% Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～2mm）1% 炭化物（φ1～2mm）1%

SK140
3層 10YR2/2 黒褐色 暗褐色土（10YR3/4）10% 浮石φ5mm～10mm1% Ⅴ層由来粒φ5mm1%
10層 10YR3/3 暗褐色 Ⅵ層由来10% 炭化物φ1mm1%

SK145
1層 10YR3/3 暗褐色 炭化物φ2～5mm2% 黄褐色土粒φ5mm2%
2層 10YR5/3 にぶい黄褐色 黄褐色土粒φ2～3mm1%
3層 10YR4/3 にぶい黄褐色 炭化物φ2mm1%
4層 10YR5/3 にぶい黄褐色

SK146
1層 10YR2/2黒褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～5mm）1% Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～20mm）7% 焼土ブロック（φ1～20mm）1% 炭化物（φ1～20mm）1%
2層 10YR2/3黒褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～5mm）1% Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～15mm）3% 焼土ブロック（φ1～20mm）1% 炭化物（φ1～25mm）3%
3層 10YR3/3暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～20mm）3% Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～20mm）7% 焼土ブロック（φ1～10mm）3% 炭化物（φ1～20mm）5%
4層 10YR4/4褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～10mm）2% Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～60mm）30% 焼土ブロック（φ1～5mm）1% 炭化物（φ1～5mm）1%

SK148
1層 10YR3/2 黒褐色 にぶい黄褐色土（10YR4/3）φ5～50mm5% Ⅵ層由来φ2～60mm3% Ⅴ層由来φ1～20mm1% 炭化物・焼土微量

図106 土坑（12）

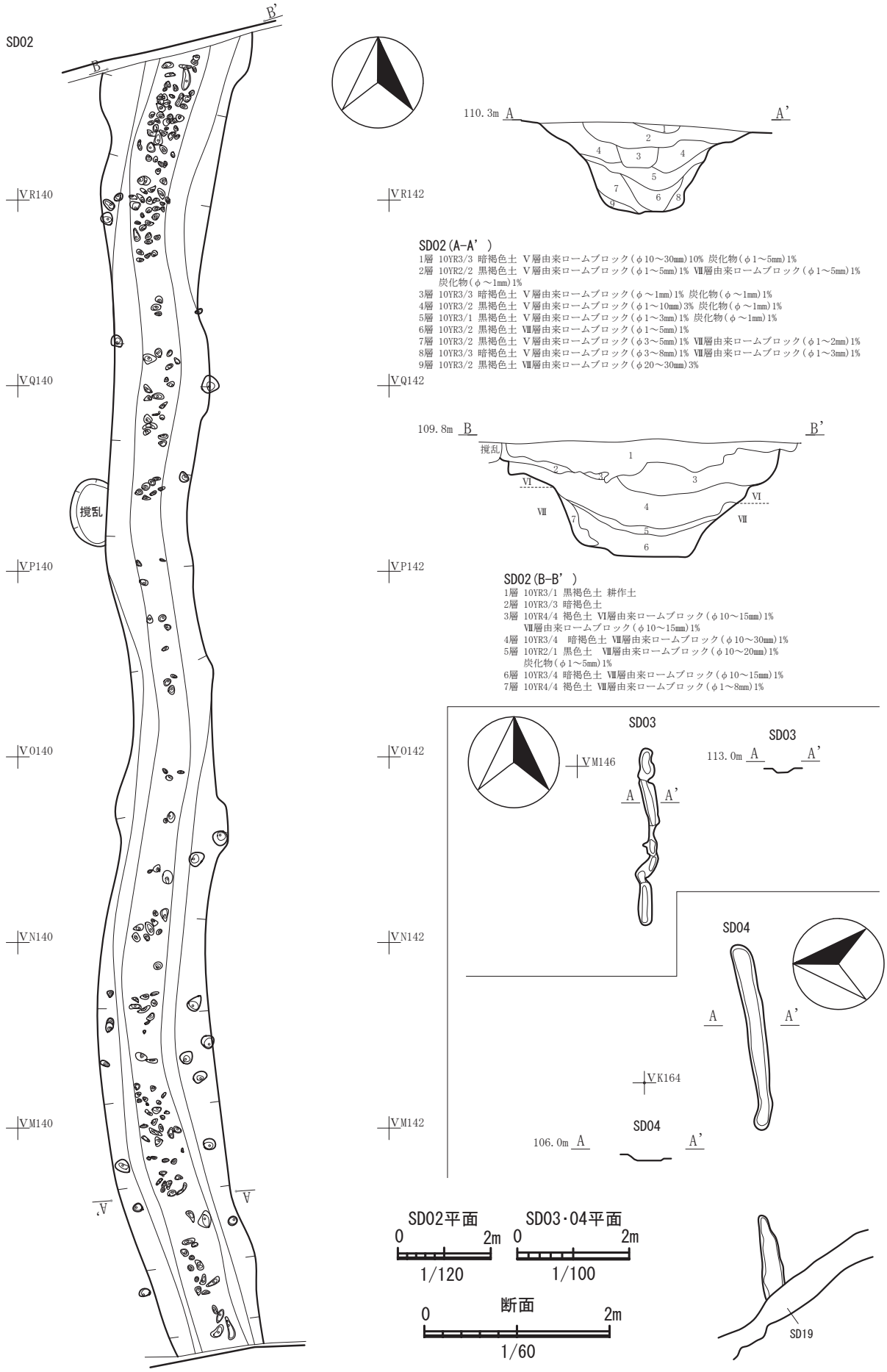
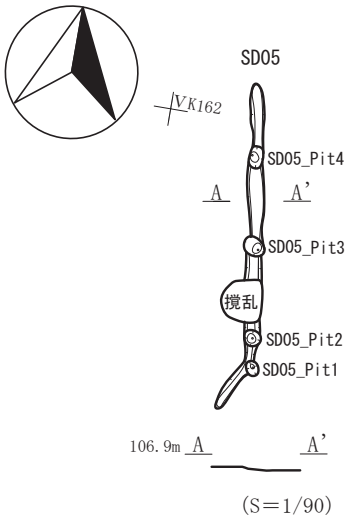
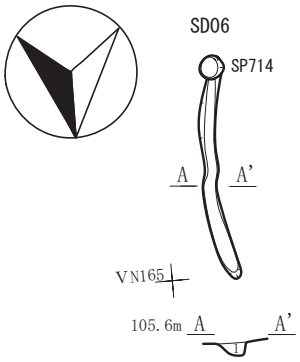
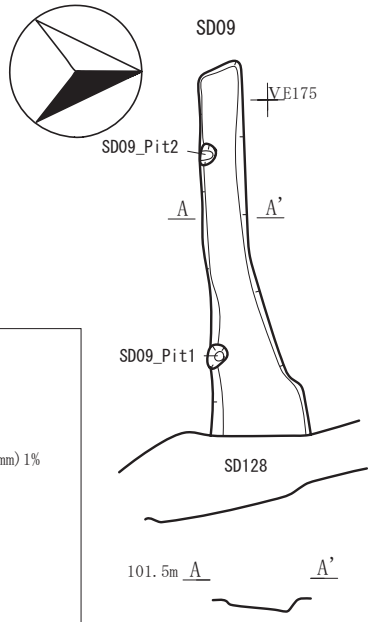


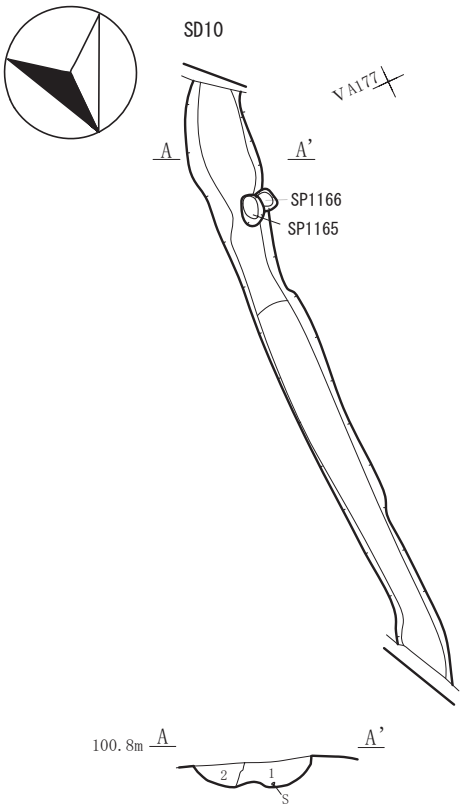
図107　第２・３・４号溝跡





SD06
1層 10YR3/1 黒褐色土 VI層由来ロームブロック（φ1～5mm）1%
炭化物（φ1～5mm）1%





SD10
1層 10YR2/1 黒色土 V層由来ロームブロック（φ1～3mm）極少
2層 10YR2/2 黒褐色土 V層由来ロームブロック（φ1～30mm）7%
炭化物（φ1～5mm）極少

図108　第５・６・９・10号溝跡

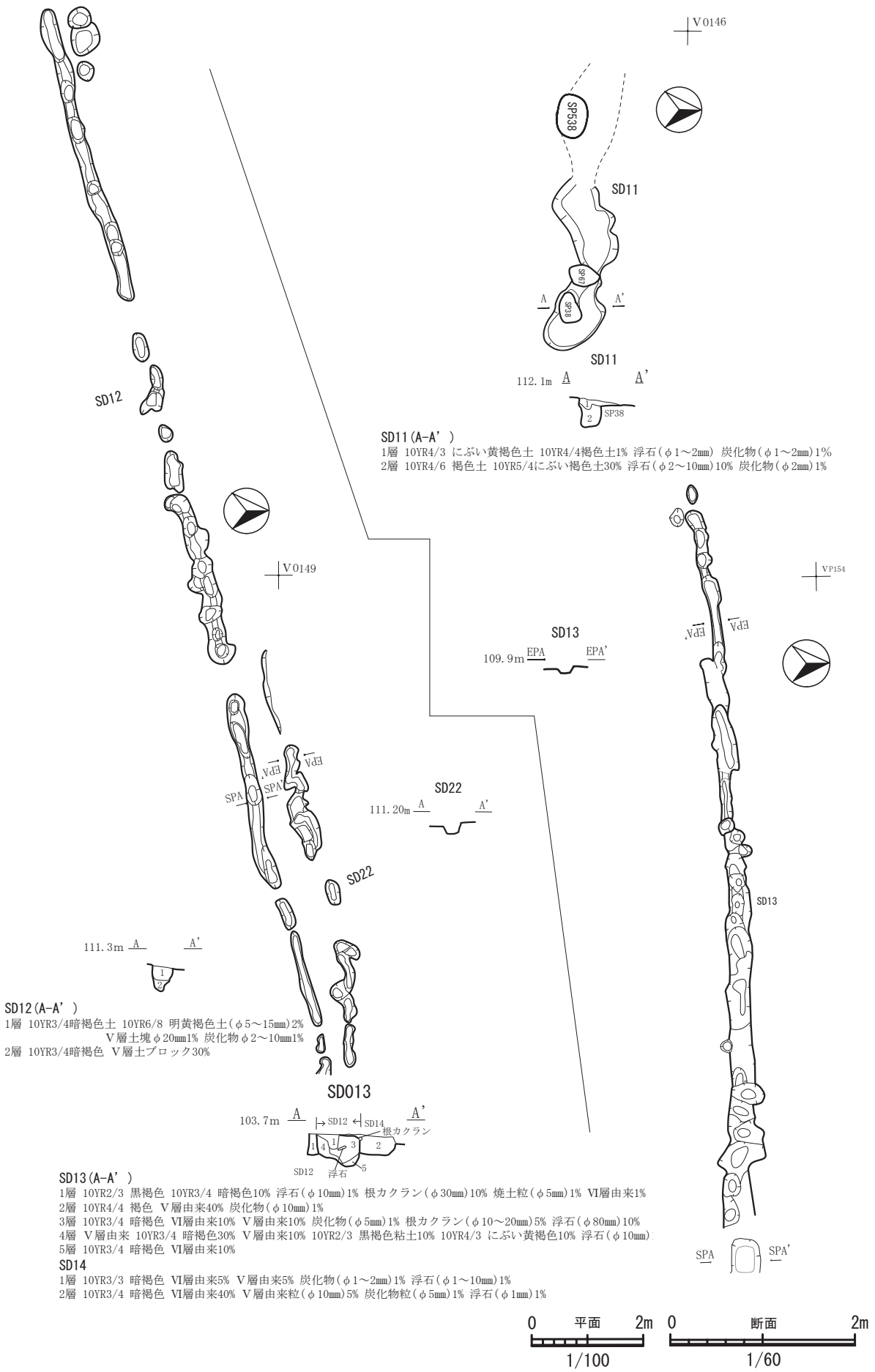


図109　第11・12・13・22号溝跡

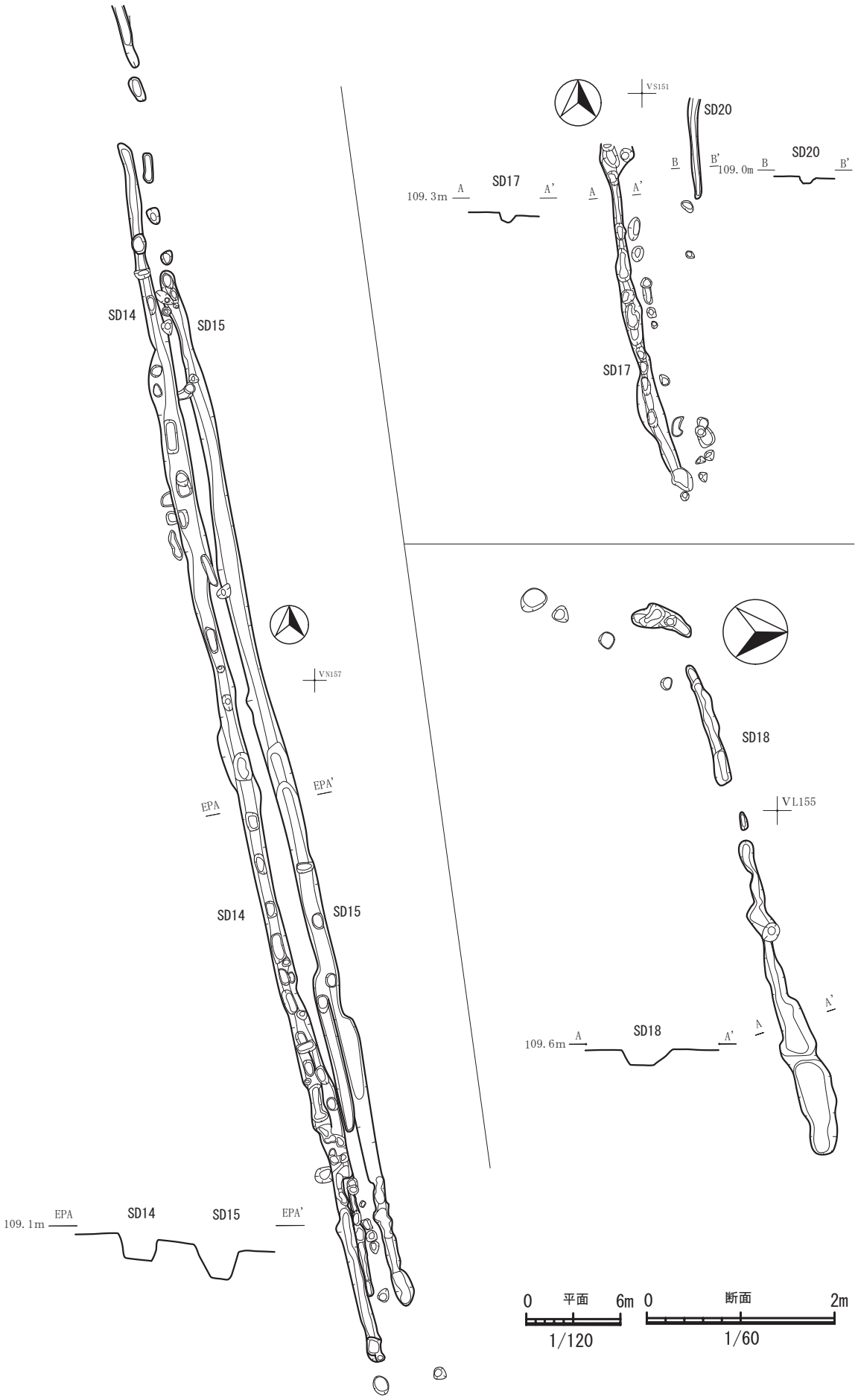


図110　第14・15・17・18・20号溝跡

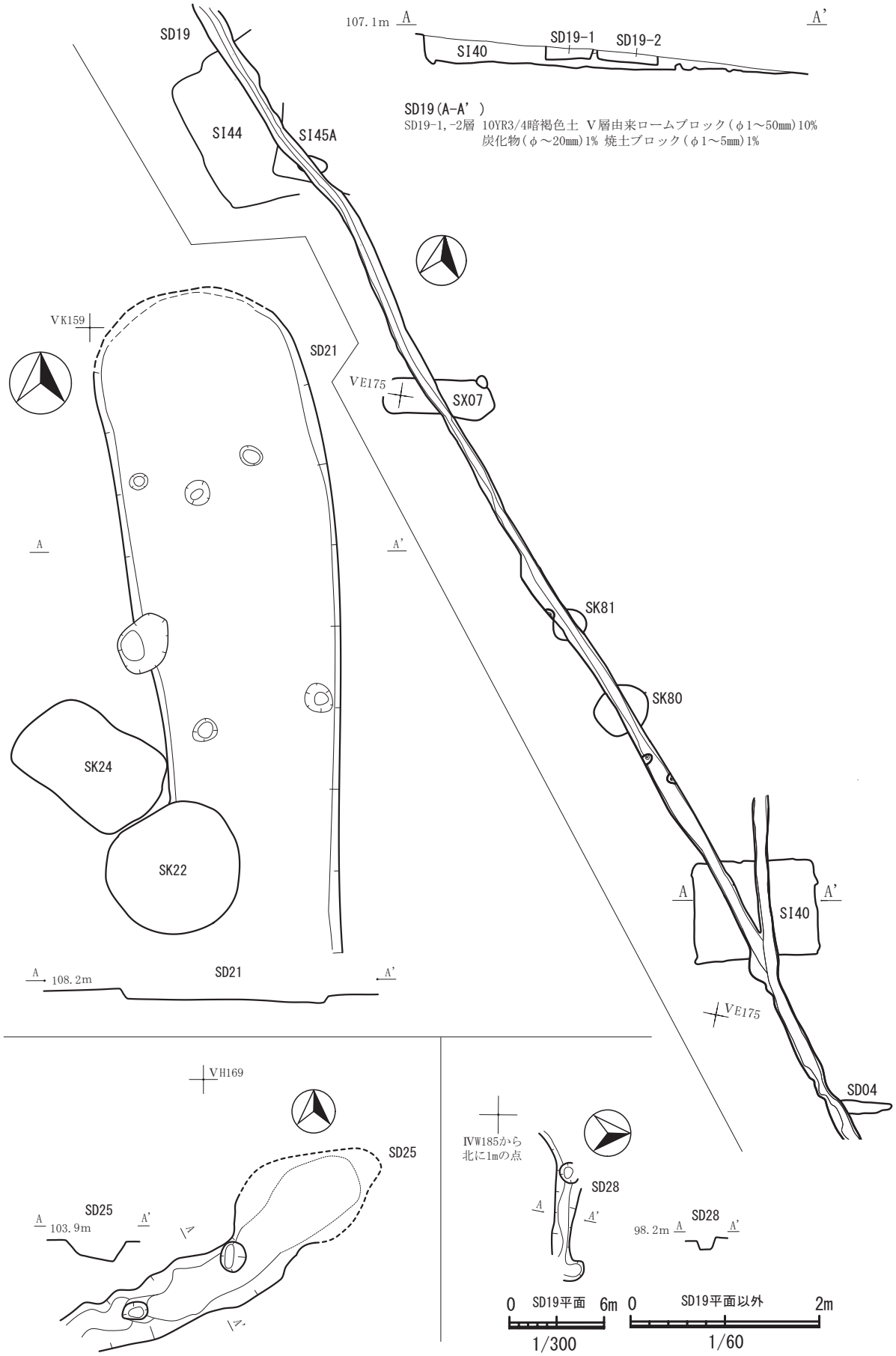


図111　第19・21・25・28号溝跡

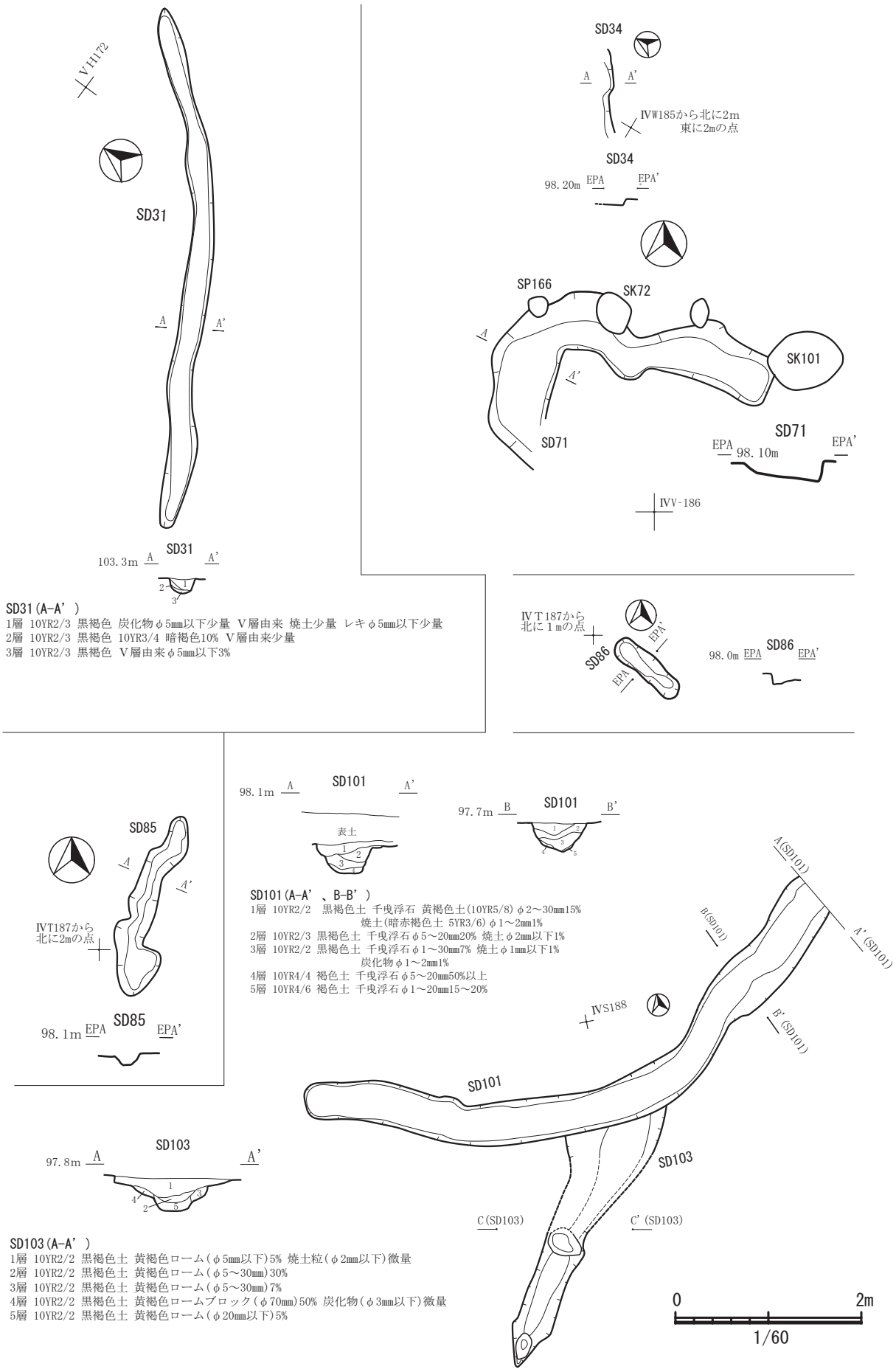


図112　第31・34・71・85・86・101・103号溝跡

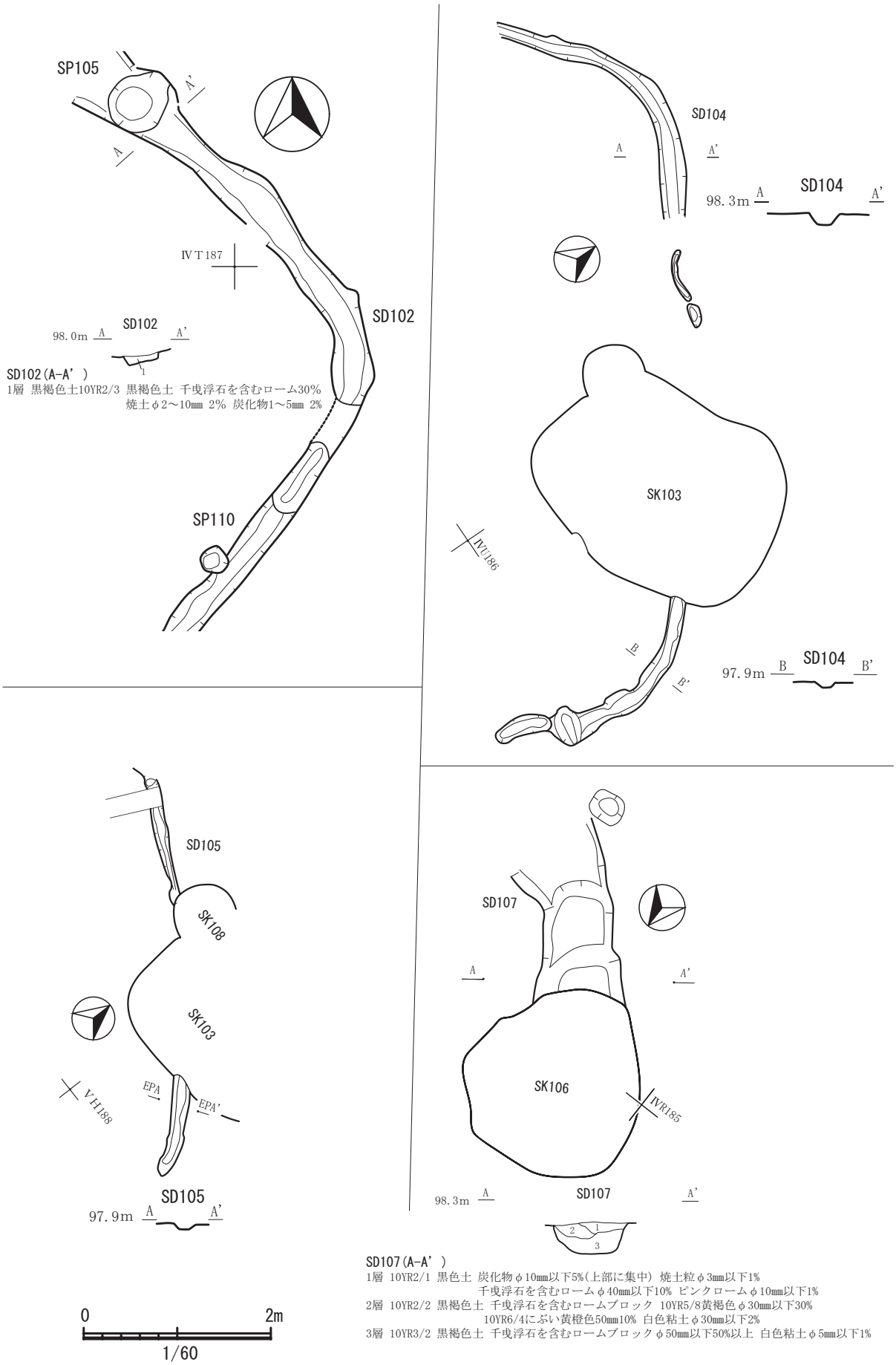


図113　第102・104・105・107号溝跡

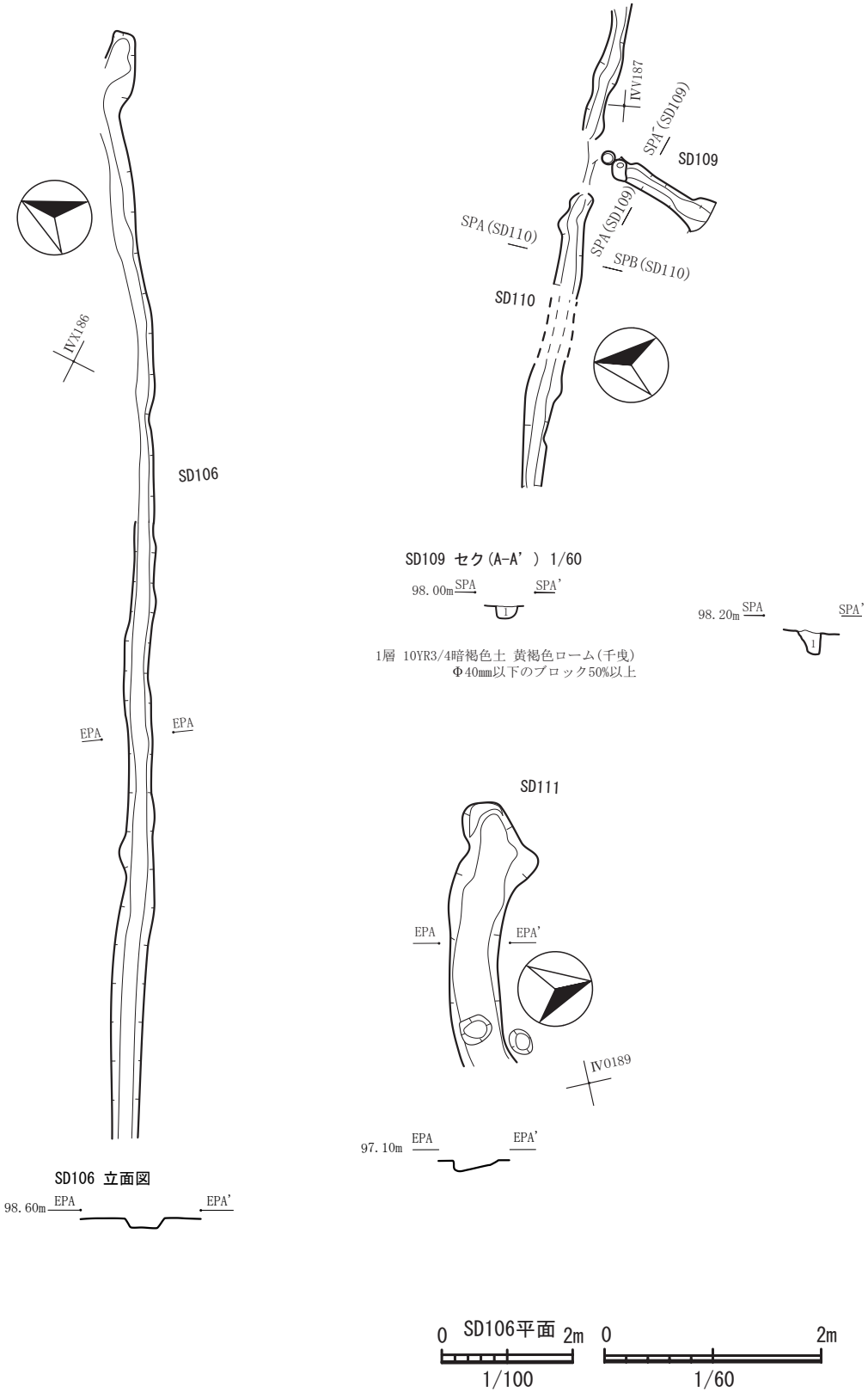


図114　第106・109・111号溝跡平面図

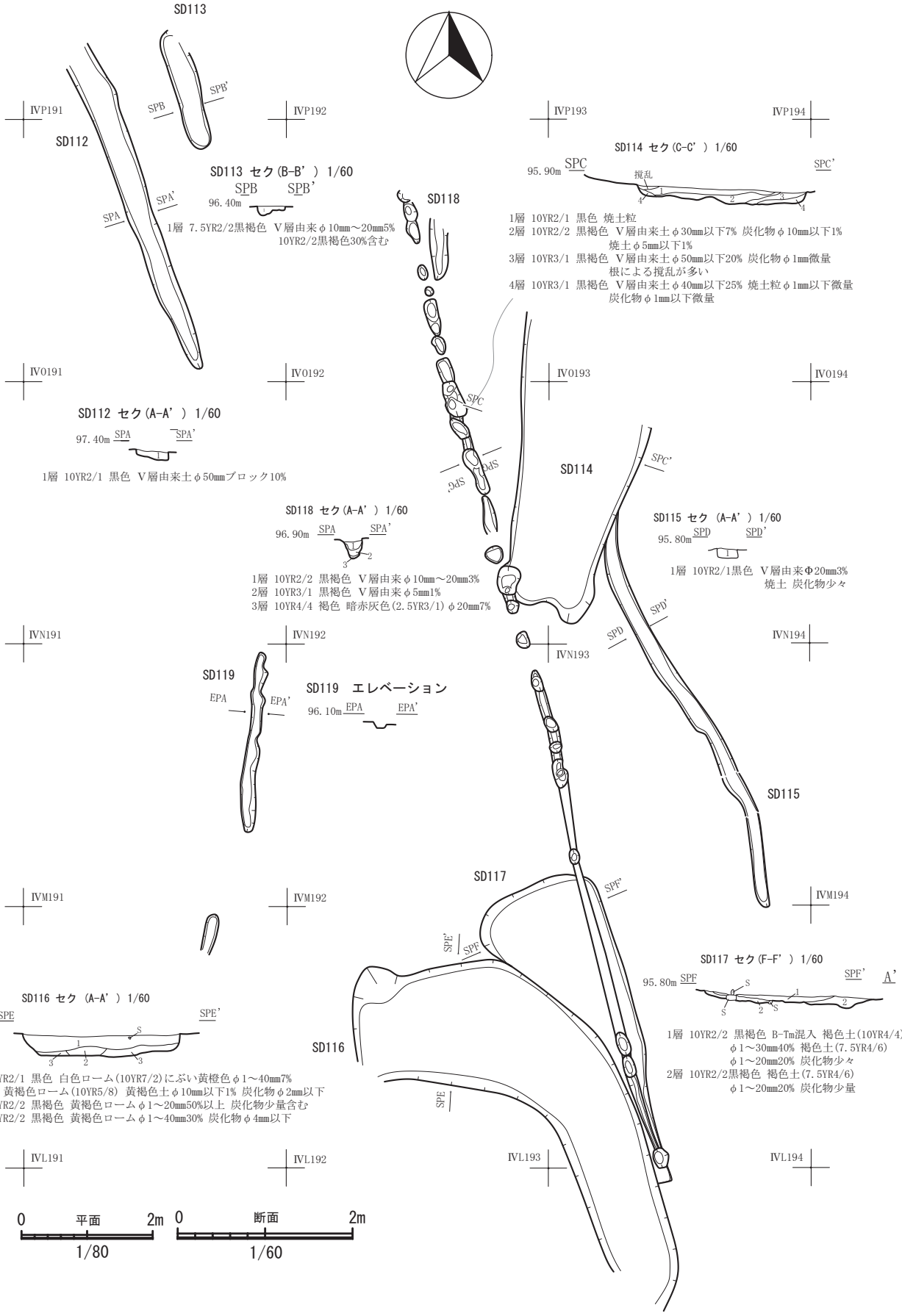
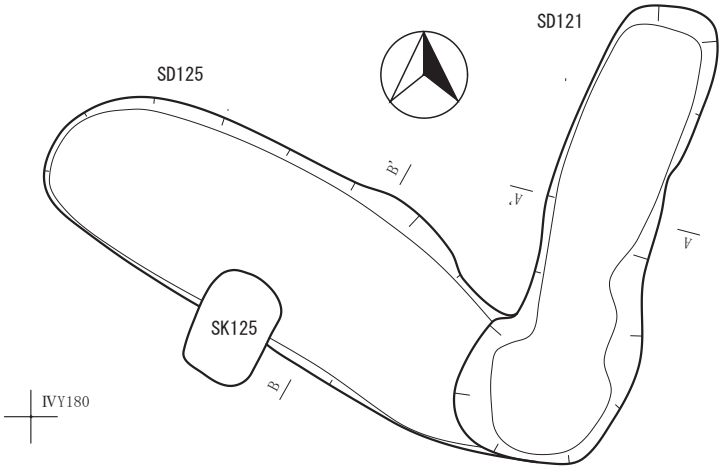
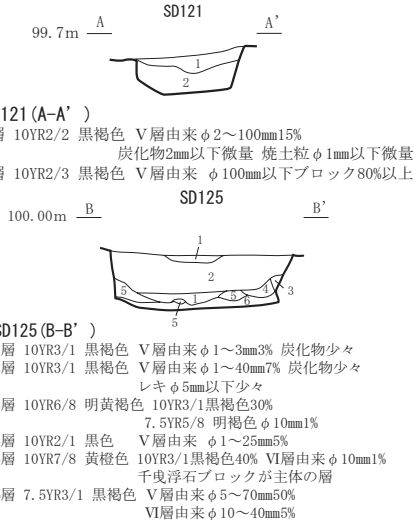
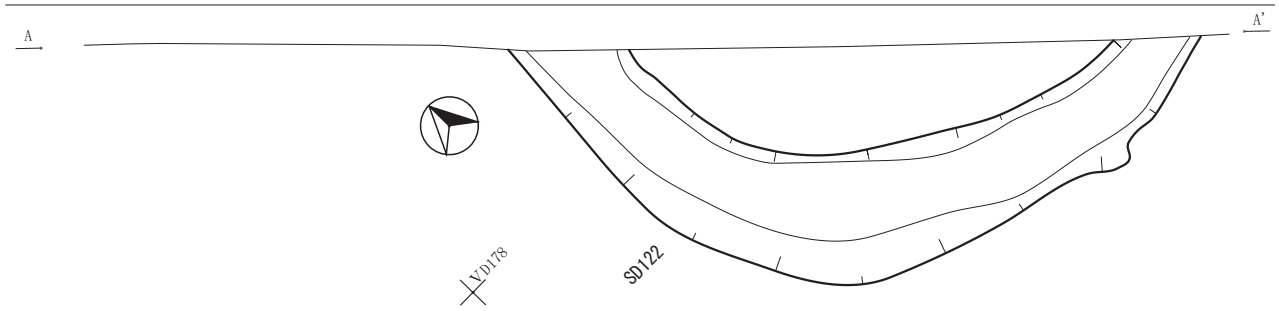
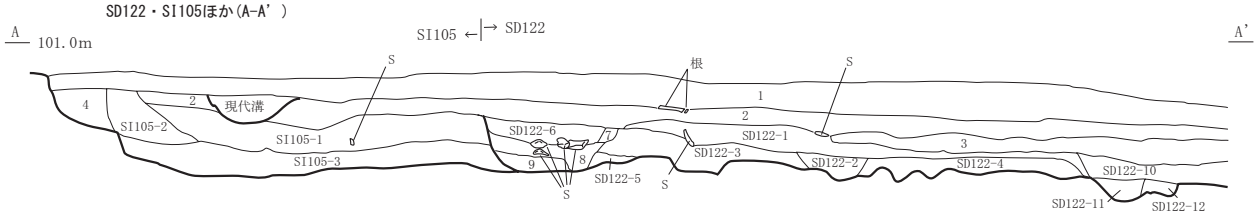


図115　第112～118号溝跡平面図









SD122

1 層 10YR2/3 黒褐色 Ⅵ層由来φ20 mm以下 7% Ⅴ層由来φ10 mm以下 5% 炭化物φ5 mm以下 1% 焼土粒φ1 mm以下微量 マウンド土の可能性有り やや明るい土

2 層 10YR3/3 暗褐色 Ⅴ層由来φ20 mm以下 20% 炭化物φ2 mm以下 1%

3 層 10YR3/3 暗褐色 Ⅴ層由来φ20 mm以下 10% 炭化物φ2 mm以下少量

4 層 10YR2/2 黒褐色 Ⅵ層由来ブロックφ200 mm以下 50% Ⅴ層ブロック由来φ100 mm以下 20% 炭化物φ2 mm以小量 焼土粒φ2 mm以下微量

5 層 10YR2/1 黒色 Ⅴ層由来φ2 mm以下 3% Ⅵ層由来φ2 mm以下 3% 炭化物φ2 mm以下微量

6 層 10YR2/3 黒褐色 Ⅵ層由来φ7 mm以下 30% Ⅴ層由来φ2 mm以下 10% 炭化物φ2 mm以下微量 焼土粒φ1 mm以下微量

7 層 10YR3/3 暗褐色 Ⅵ層由来φ20 mm以下 20% Ⅴ層由来φ10 mm以下 5%

8 層 10YR3/3 暗褐色 Ⅴ層由来φ10 mm以下 7% Ⅵ層由来φ60 mm以下 5% 炭化物φ2 mm以下 1%

9 層 10YR3/2 黒褐色 Ⅵ層由来φ10 mm以下 30%

6, 7, 8, 9 層 周溝覆土

10 層 10YR2/3 黒褐色 Ⅴ層由来φ10 mm以下 3% Ⅵ層由来φ5 mm以下少量 炭化物φ5 mm以下微量 焼土粒φ2 mm以下微量

11 層 10YR3/2 黒褐色 Ⅴ層由来φ20 mm以下 20% Ⅵ層由来φ10 mm以下少量 炭化物φ1 mm以下少量

12 層 10YR2/2 黒褐色 Ⅴ層由来φ20 mm以下 30% 炭化物φ2 mm以下少量

10, 11, 12 層 周溝フク土

A-A' 土層

1 層 耕作土

2 層 10YR2/2 黒褐色 Ⅴ層由来φ20 mm以下 5% 焼土粒φ2 mm以下小量 炭化物φ1 mm以下微量

3 層 10YR2/3 黒褐色 Ⅴ層由来φ5 mm以下 3% 焼土粒φ2 mm以下小量 炭化物φ10 mm以下 2%

4 層 10YR2/2 黒褐色 Ⅴ層由来φ30 mm以下 20% Ⅵ層由来φ30 mm以下 5% 焼土粒φ2 mm以下小量 炭化物φ10 mm以下 2%

溝覆土 10YR2/3 黒褐色 Ⅵ層由来φ15 mm以下 10% Ⅴ層由来φ5 mm以下小量 炭化物φ2 mm以下小量

SI105

1 層 10YR2/3 黒褐色 Ⅵ層由来φ60 mm以下 3% Ⅴ層由来φ10 mm以下 3% 焼土粒φ2 mm以下 1% 炭化物φ2 mm以下 1% 焼土粒 2 mm以下微量

2 層 10YR2/3 黒褐色 Ⅵ層由来φ30 mm以下 10% 焼土粒φ1 mm微量 炭化物φ2 mm以下 1%

3 層 10YR3/3 暗褐色 Ⅴ層由来ブロックφ160 mm以下 30% Ⅵ層由来φ60 mm以下 10% 炭化物φ3 mm以下 1%

0 2m
1/60

図116 第121・122・125号溝跡平面図

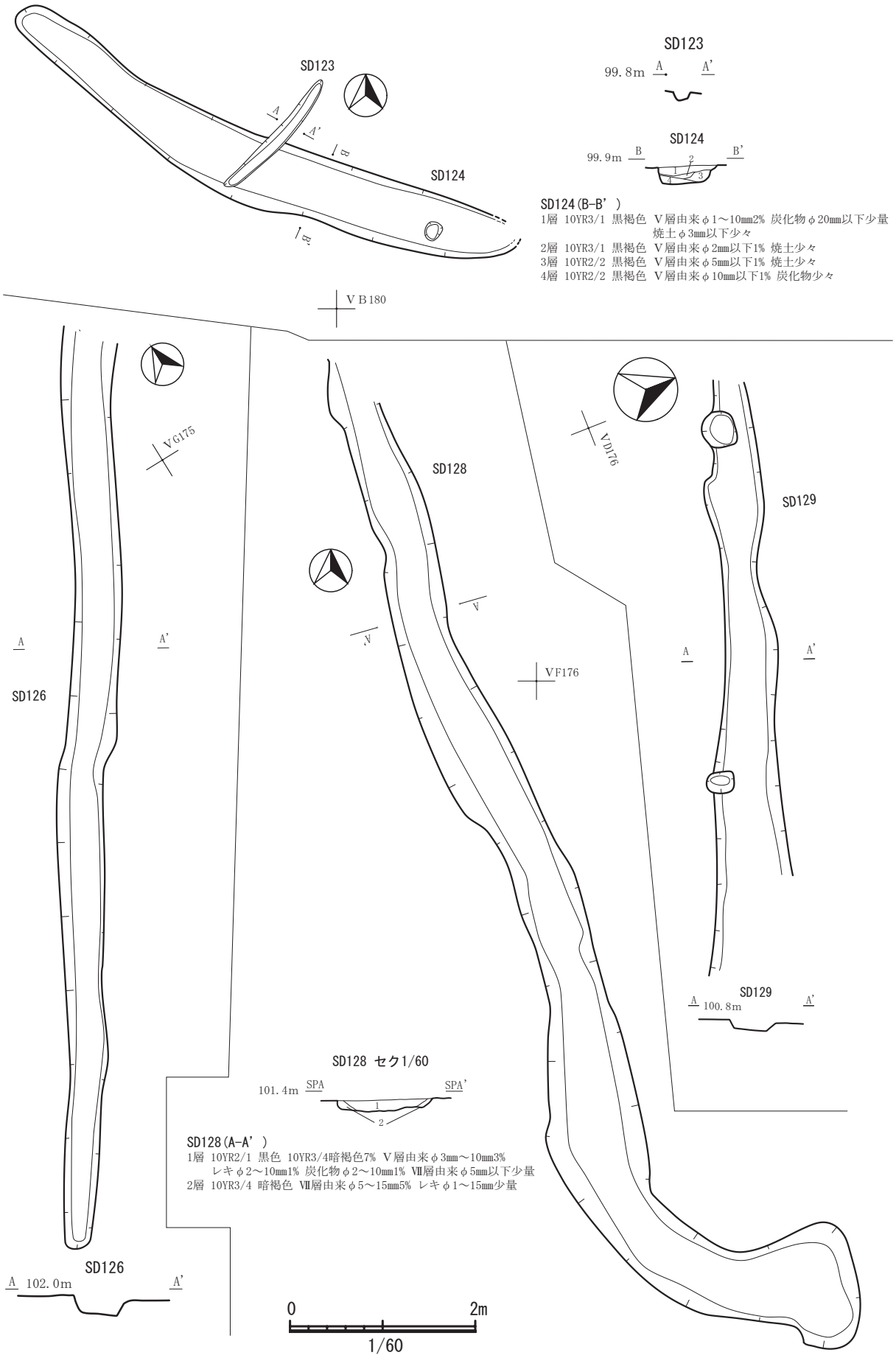
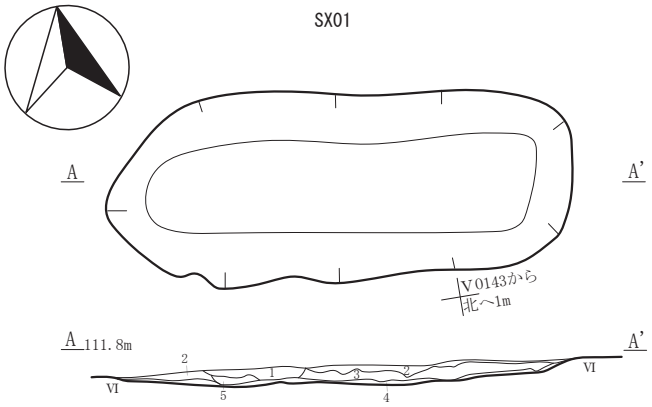
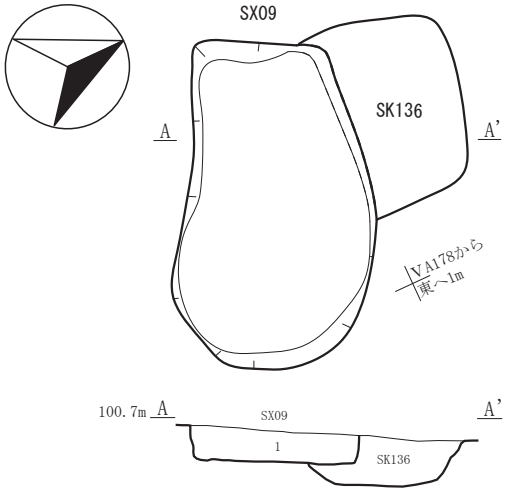


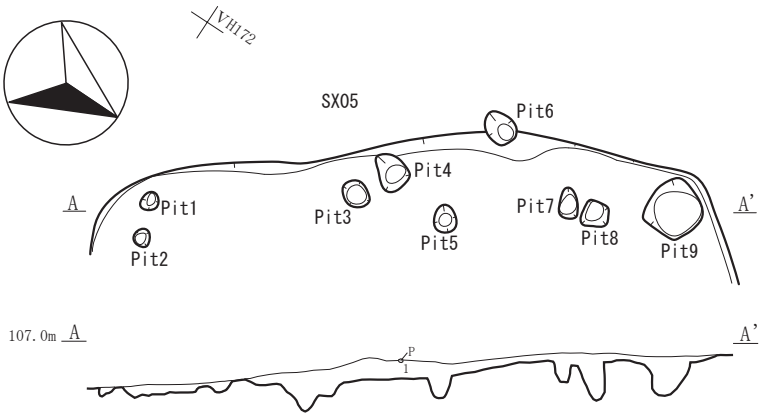
図117　第126・128・129号溝跡平面図



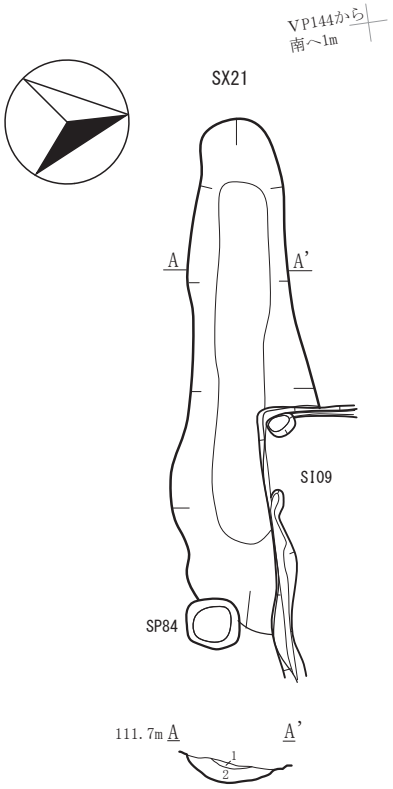
SX01
1層 10YR3/4暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～5mm）1%
2層 10YR3/4暗褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ3～15mm）3%
3層 10YR4/4褐色土 Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～5mm）10% 炭化物（φ～8mm）1%
4層 10YR3/4暗褐色 Ⅵ層由来ロームブロック（φ5～10mm）15%
5層 10YR3/4暗褐色土 炭化物（φ3～5mm）5%



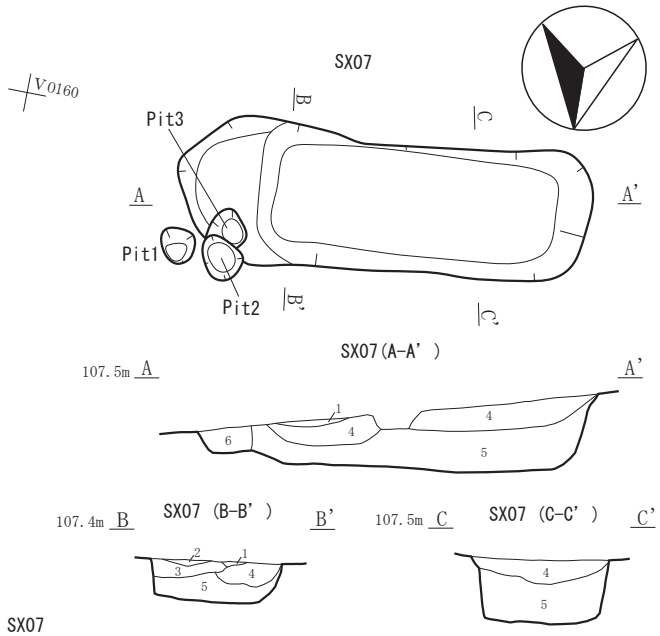
SX09
1層 10YR2/2黒褐色土 Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～30mm）5%
Ⅵ層由来ロームブロック（φ1～30mm）2% 炭化物（φ1～10mm）1%



SX05
1層 10YR2/3黒褐色土 10YR4/6褐色土6% 浮石（φ10～15mm）3% 焼土（φ2mm）1%未満



SX21
1層 10YR2/3黒褐色土
Ⅴ層由来ロームブロック（φ1～50mm）10%
Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～40mm）7%
炭化物（φ1～10mm）1%
2層 10YR2/3黒褐色土 炭化物（φ～1mm）1%
Ⅶ層由来ロームブロック（φ1～30mm）3%



SX07
1層 10YR4/4褐色土 炭化物（φ5mm以下）少量 焼土少量
2層 10YR3/4暗褐色土 Ⅵ層由来（φ10mm以下）5% 焼土（φ5mm以下）1% 炭化物（φ1mm以下）微量
3層 10YR4/4褐色土 Ⅵ層由来（φ30mm以下）10% Ⅴ層由来（φ10mm以下）2% 炭化物（φ10mm以下）1% 焼土少量
4層 10YR2/3黒褐色土 Ⅵ層由来（φ50mm以下）30% Ⅴ層由来（φ20mm以下）10% 炭化物（φ20mm以下）5% 焼土粒（φ10mm以下）3%
5層 10YR4/4褐色土 Ⅵ層由来（φ30mm以下）30% Ⅴ層由来（φ110mm以下）5% 炭化物（φ10mm以下）2% 焼土粒（φ50mm以下）20%
6層 10YR3/3暗褐色土 Ⅵ層由来（φ50mm以下）20% Ⅴ層由来（φ30mm以下）7% 炭化物（φ10mm以下）3% 焼土粒（φ10mm以下）1%

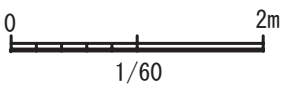
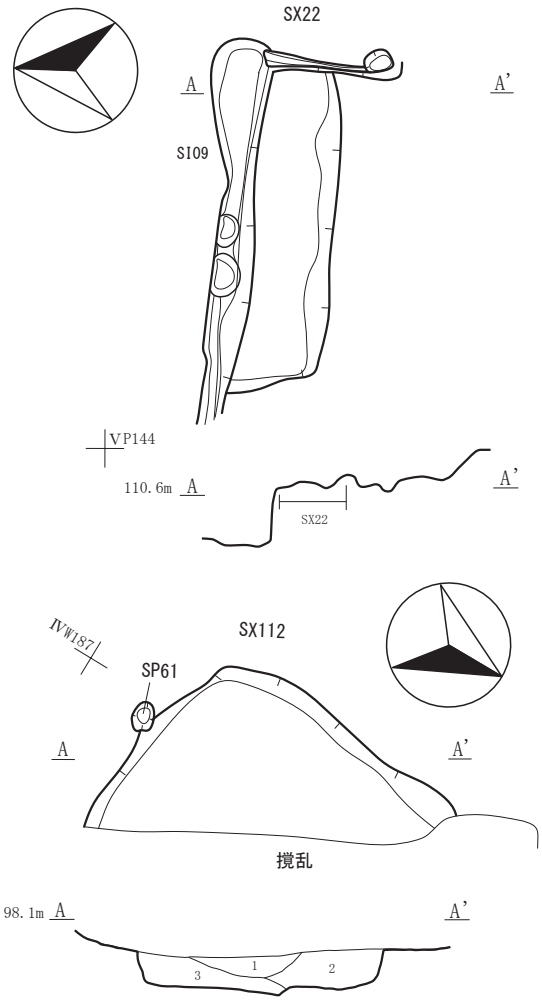
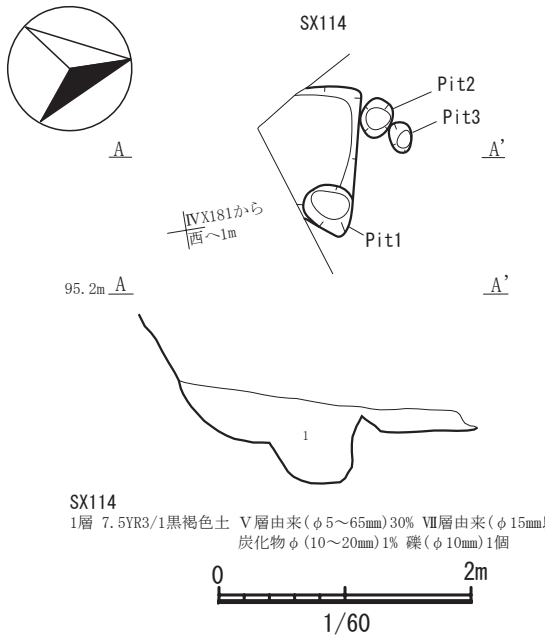


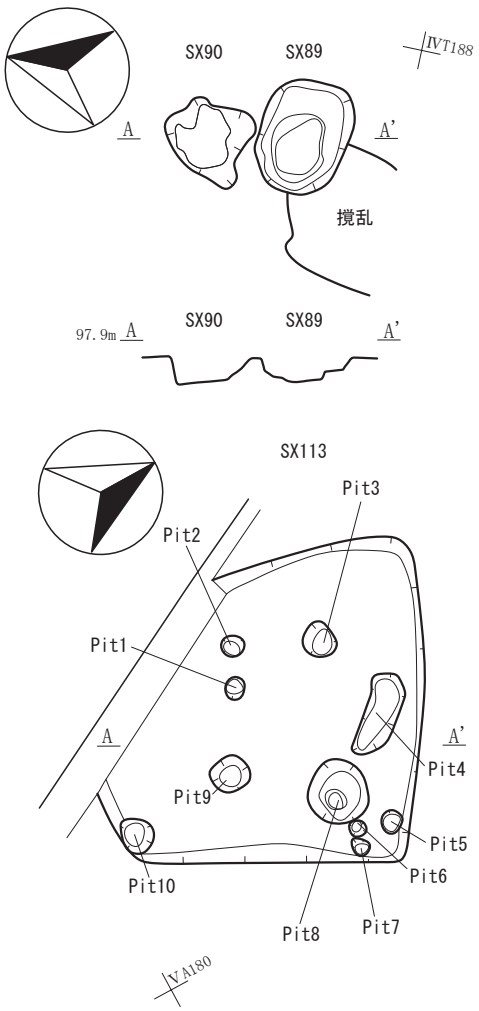
図118 第1・5・7・9・21号性格不明遺構



SX112
1層 10YR3/3 暗褐色土 千曳浮石を含むローム(φ2～30mm)10% 炭化物(φ2mm)少量
焼土粒(φ1mm)微量 ピンクローム(φ2～20mm)2%
2層 10YR2/3 黒褐色土 千曳浮石を含むローム(φ90mm)40% 炭化物(φ2mm)微量
焼土粒(φ1mm)微量
3層 10YR3/3 暗褐色土 千曳浮石を含むローム(φ5～50mm)30% 炭化物(φ2mm)微量
焼土ブロック(φ20mm)2%



SX114
1層 7.5YR3/1黒褐色土 Ⅴ層由来(φ5～65mm)30% Ⅶ層由来(φ15mm以下)1%
炭化物φ(10～20mm)1% 礫(φ10mm)1個



SX113
1層 10YR2/1黒色土 Ⅴ層由来(φ5～40mm)15% Ⅶ層由来(φ30～70mm)2%
礫(φ5mm以下)少々 焼土少量
2層 10YR2/2黒褐色土 Ⅶ層由来に黒色土混じる15% Ⅴ層由来(φ1～20mm)7%
Ⅶ層由来(φ10～40mm)5% 礫(φ5mm以下)少量
3層 Ⅴ層由来95% 黒色土混じる
4層 Ⅶ層由来 10YR2/1黒色土15% 礫10mm1個
5層 10YR2/2黒褐色土 Ⅶ層由来(φ5～30mm)7% Ⅴ層由来(φ5～10mm)2% 焼土少量
6層 10YR1.7/1黒色土 Ⅶ層由来(φ5～30mm)3% Ⅴ層由来(φ5～20mm)1% 礫有り

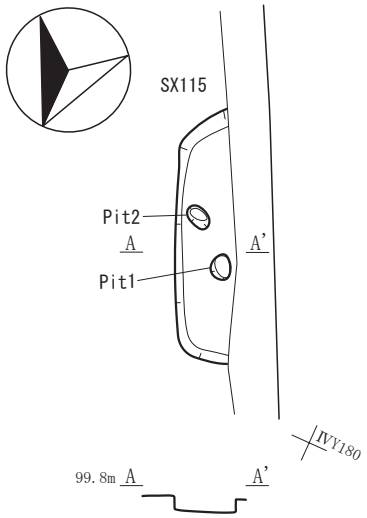


図119　第22・89・90・112・113・114・115号性格不明遺構

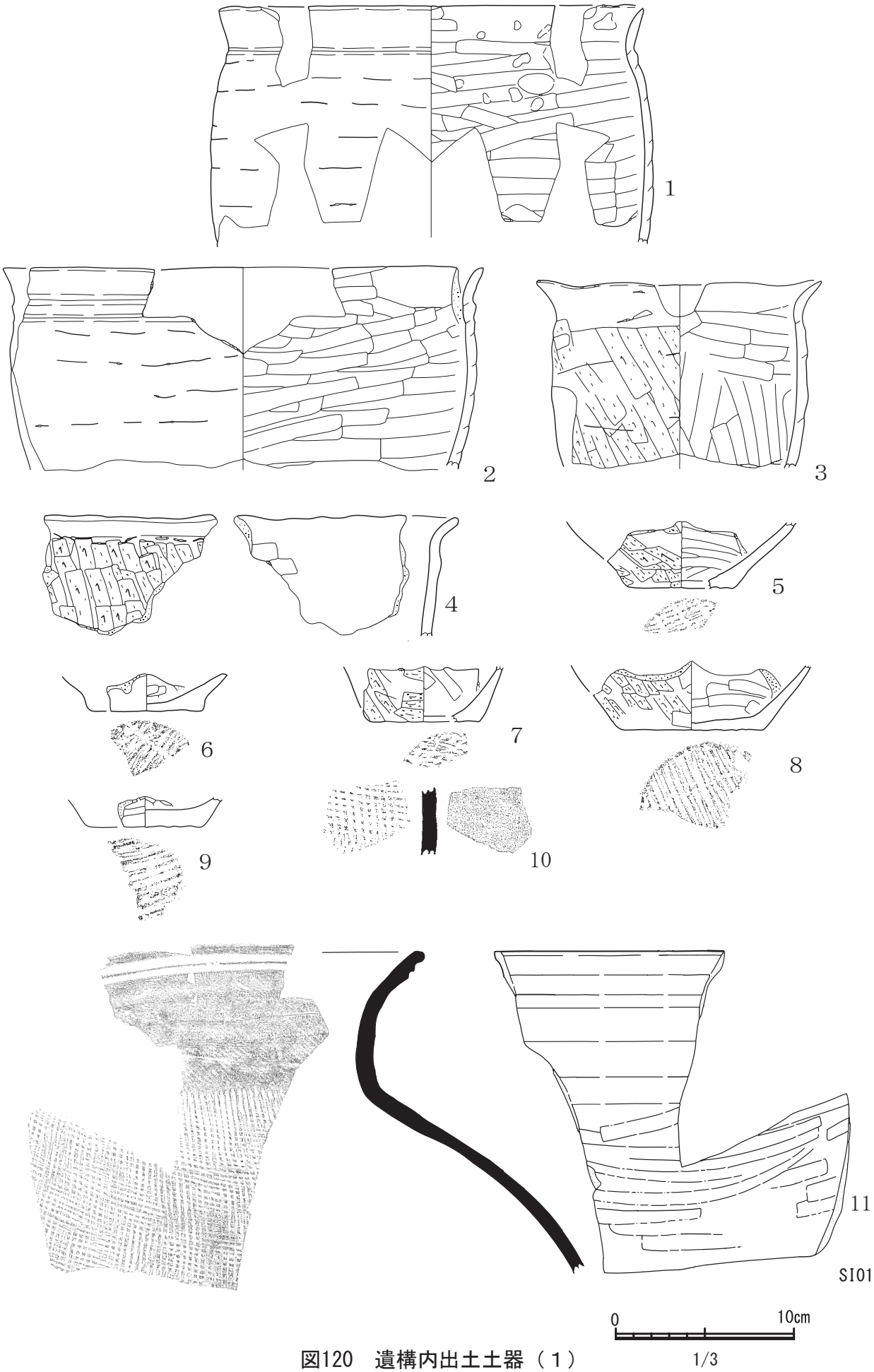


図120　遺構内出土土器（1）

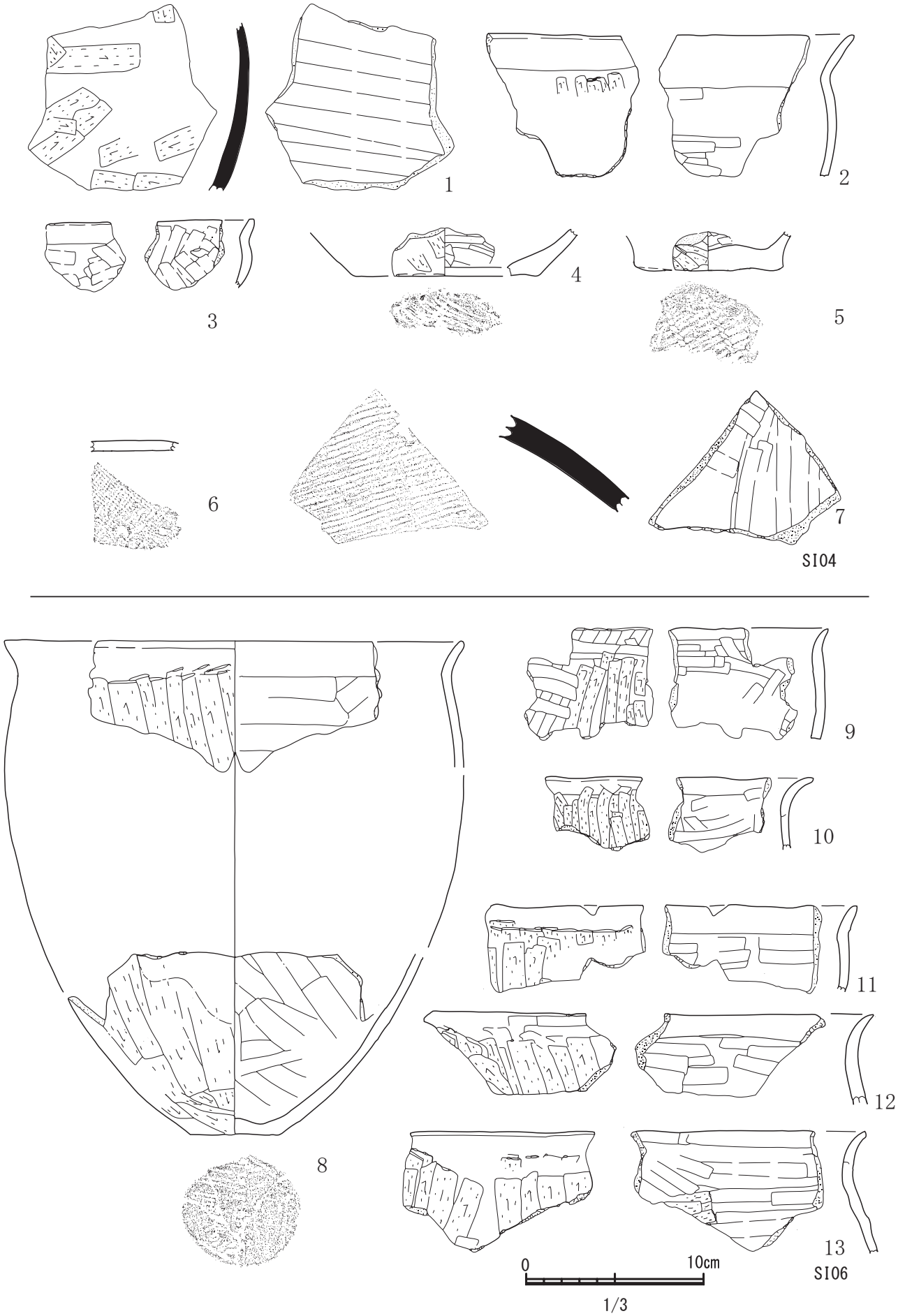


図121　遺構内出土土器（２）

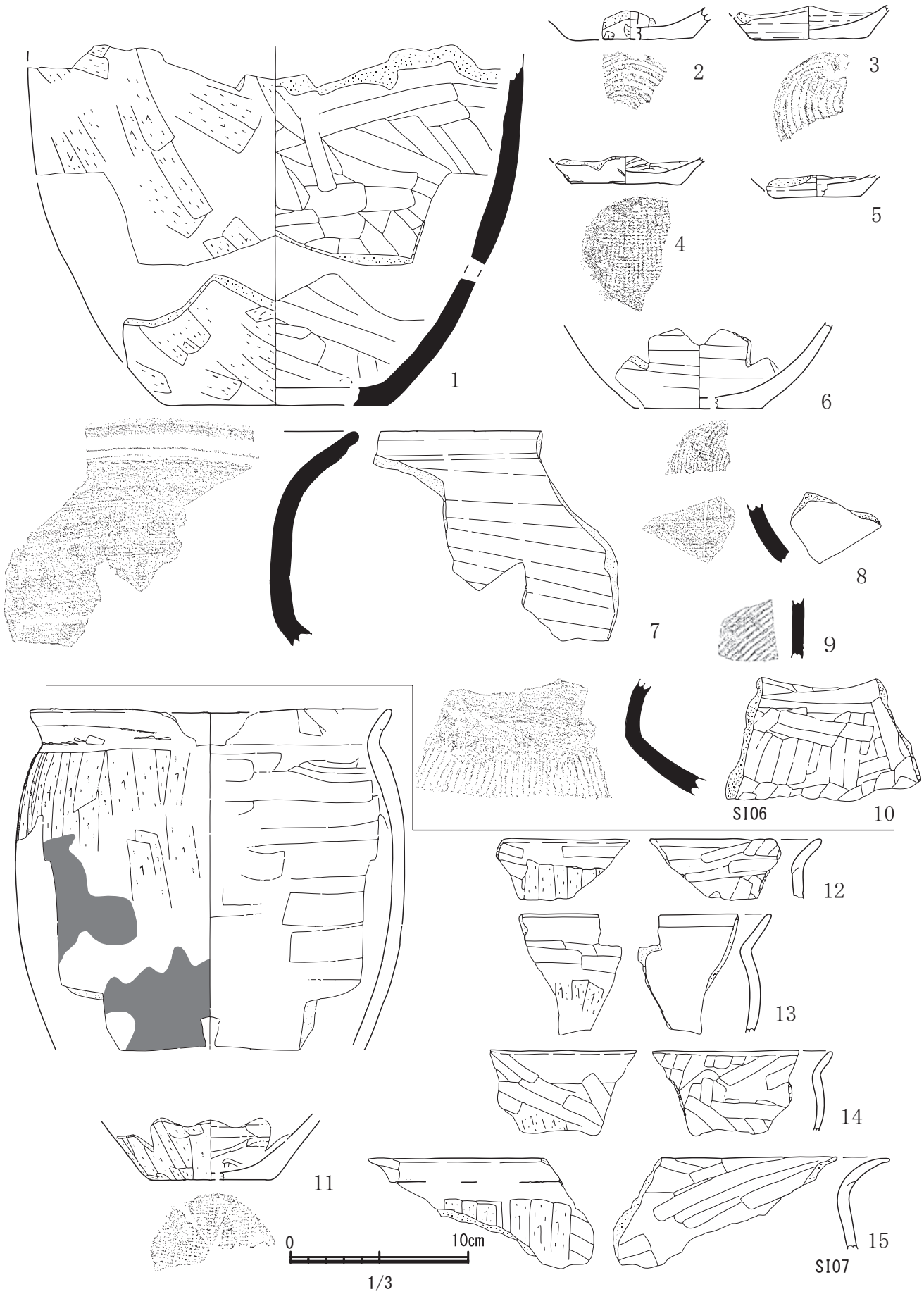


図122　遺構内出土土器（３）

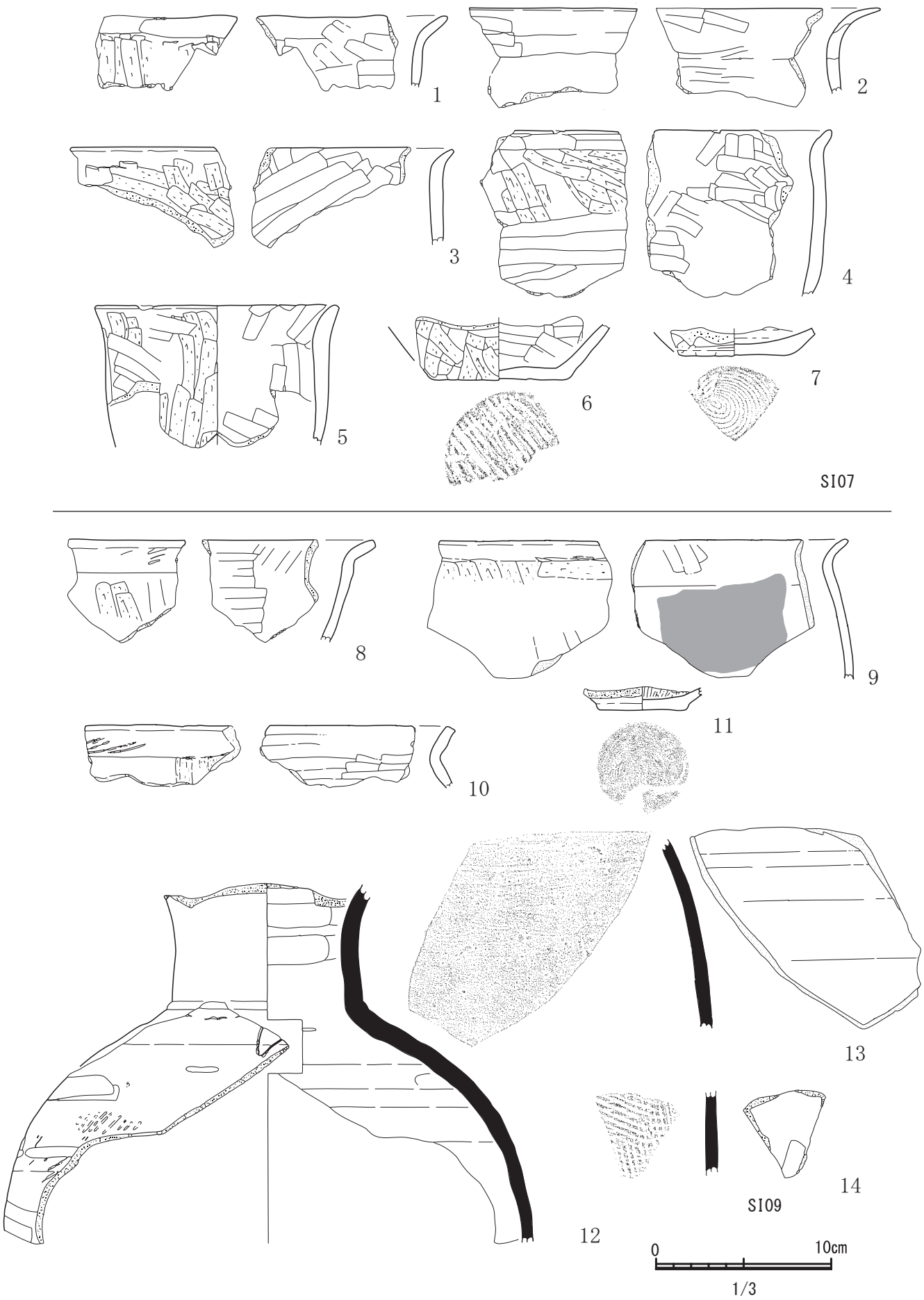


図123　遺構内出土土器（４）

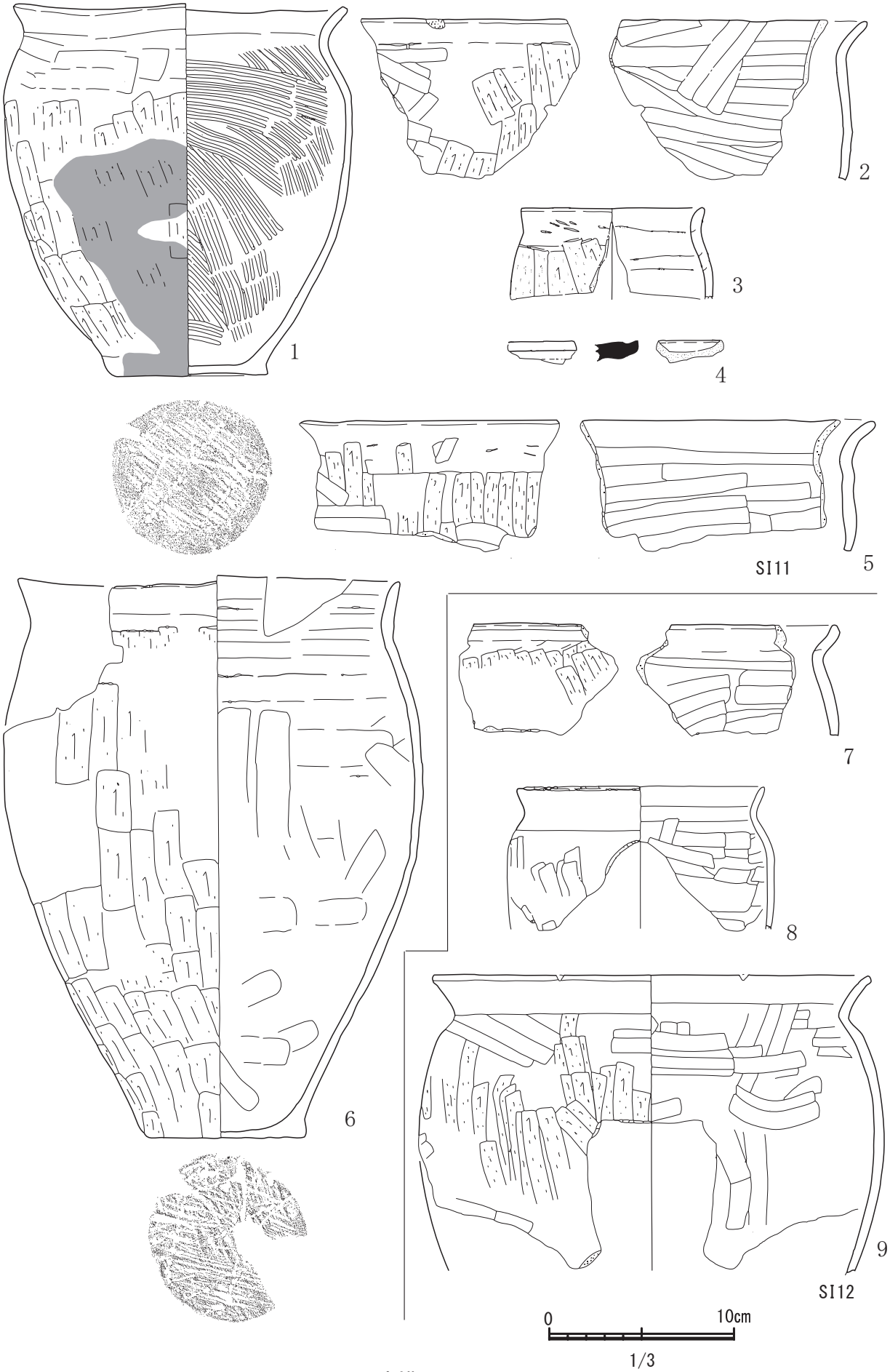


図124　遺構内出土土器（５）

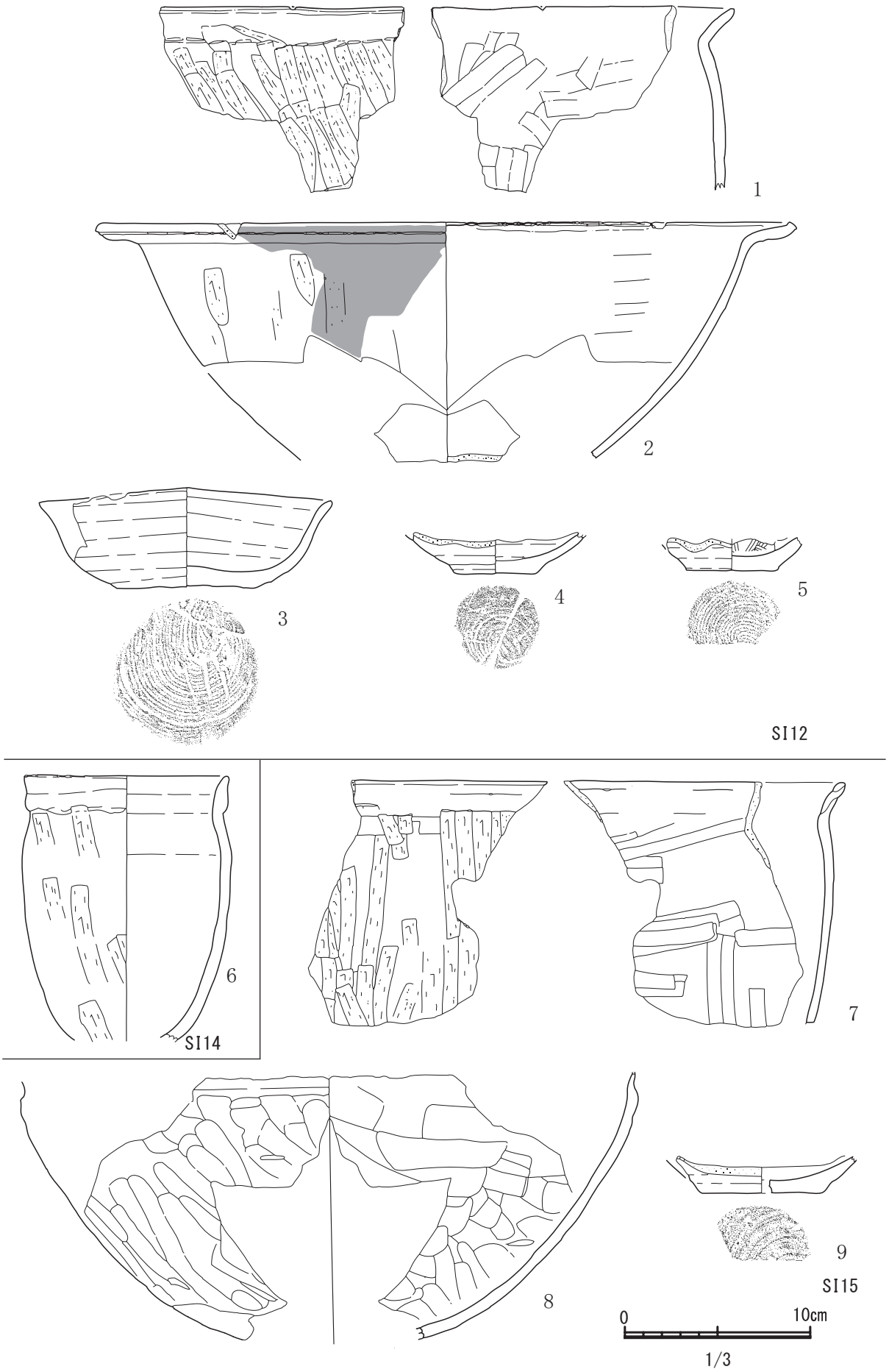


図125　遺構内出土土器（６）

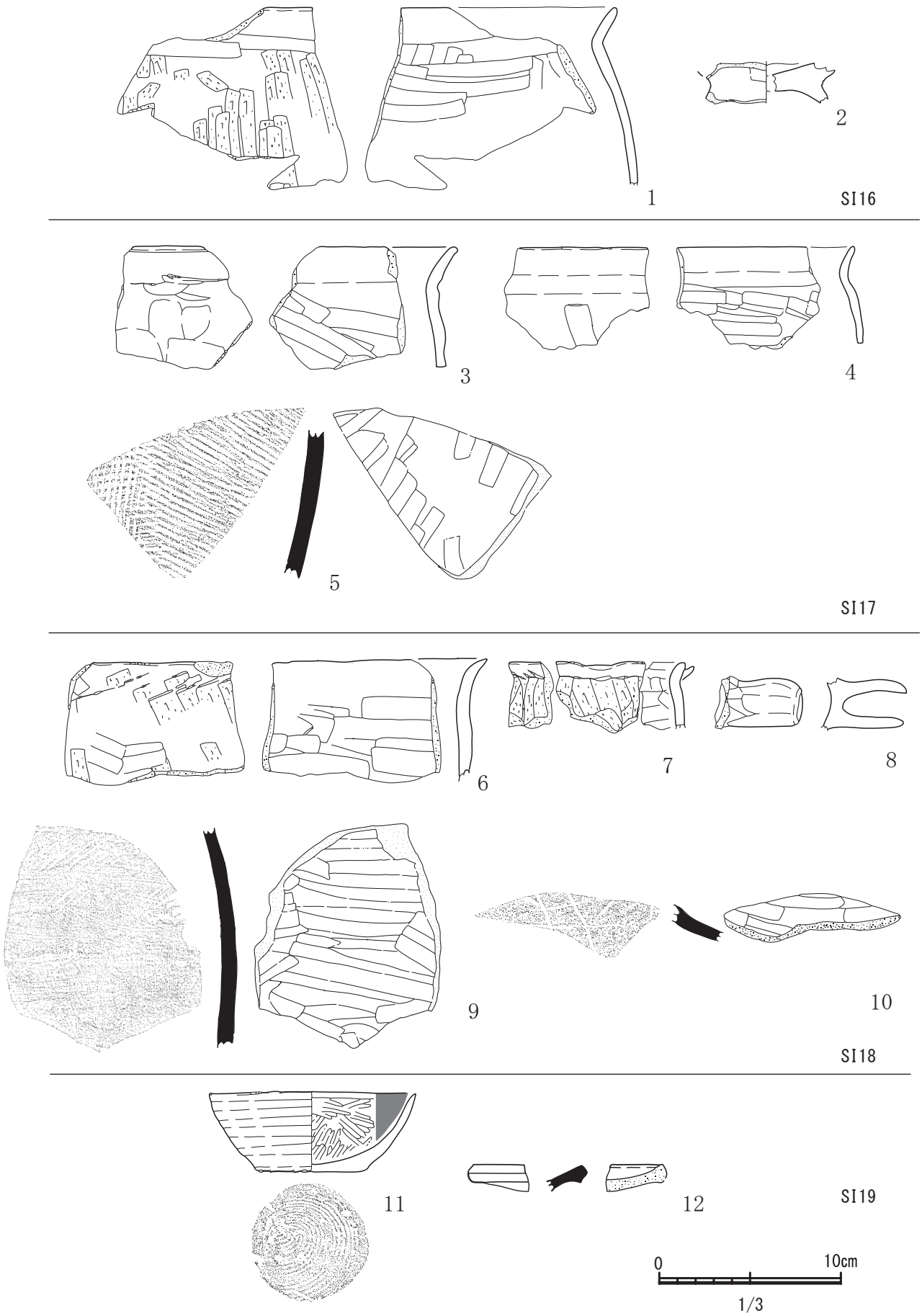


図126　遺構内出土土器（7）

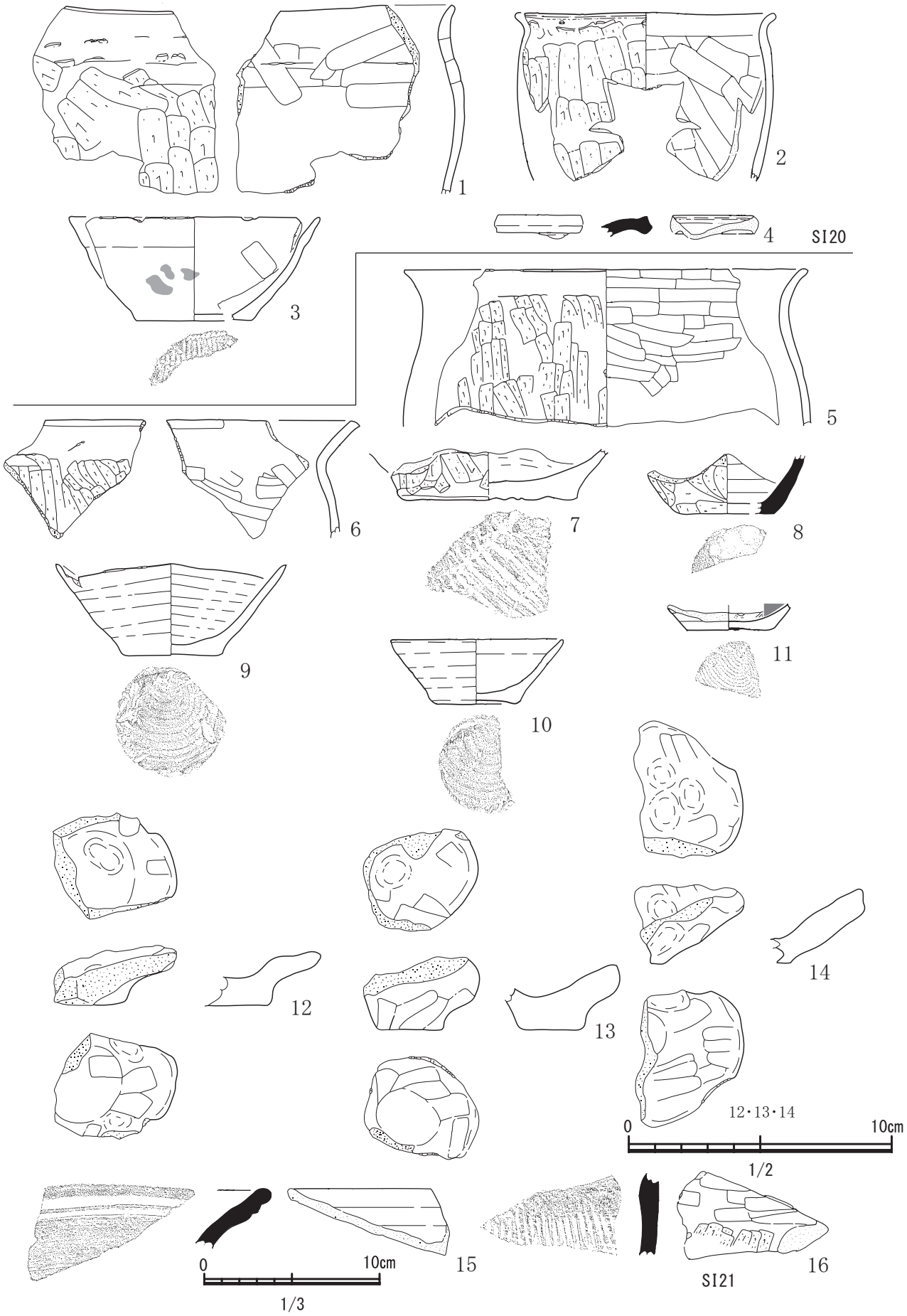


図127　遺構内出土土器（８）

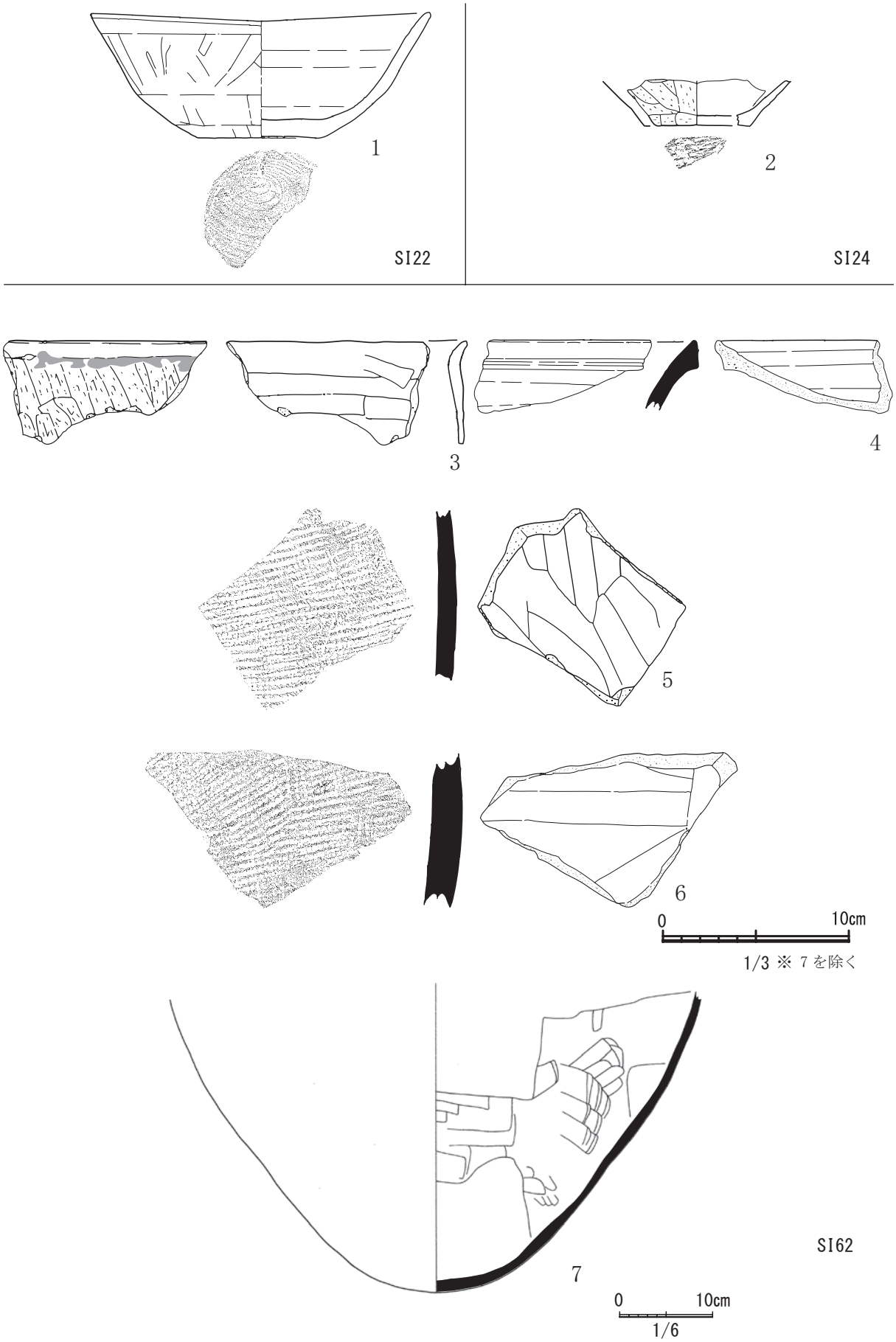


図128　遺構内出土土器（９）

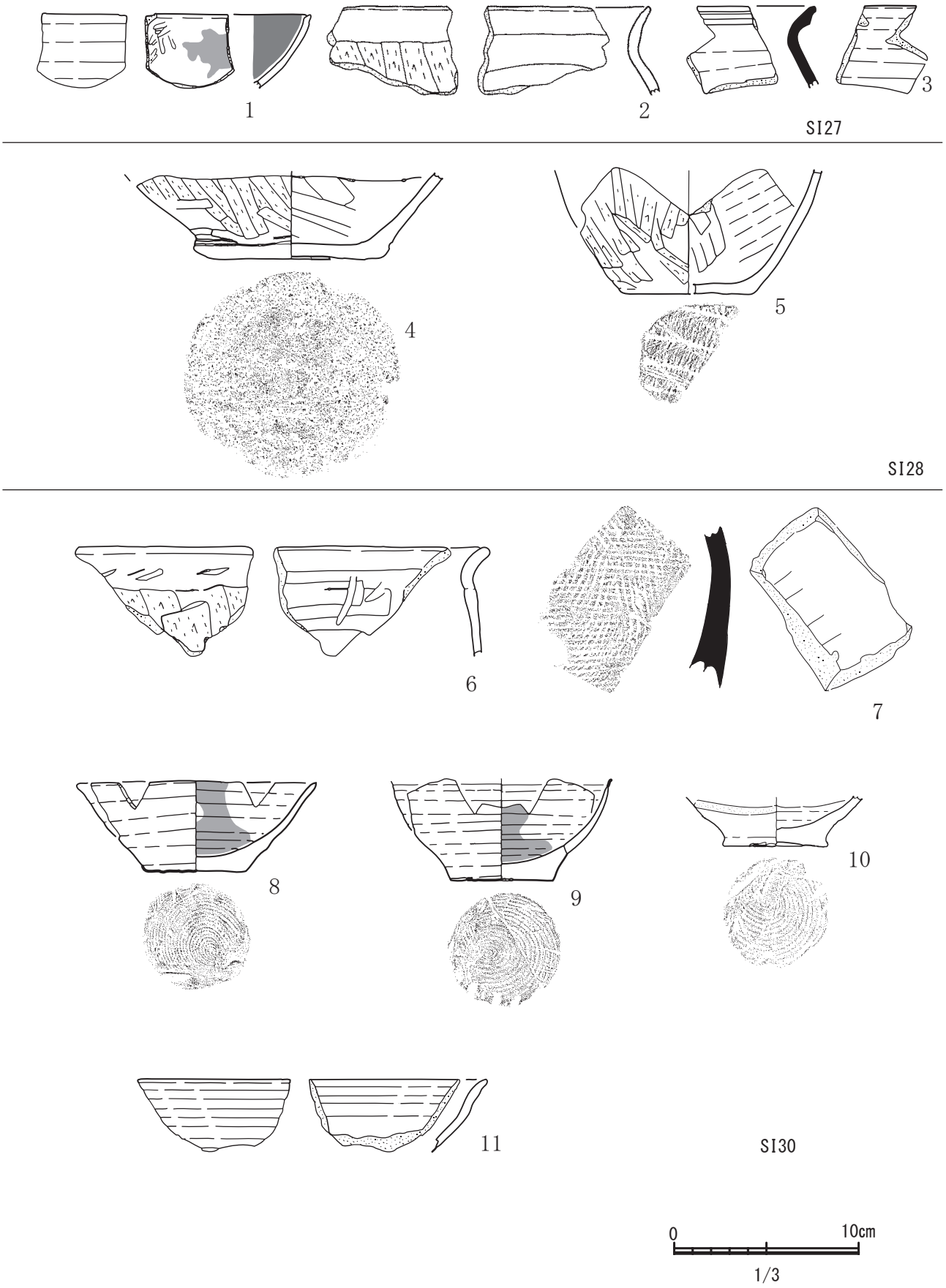


図129　遺構内出土土器（10）

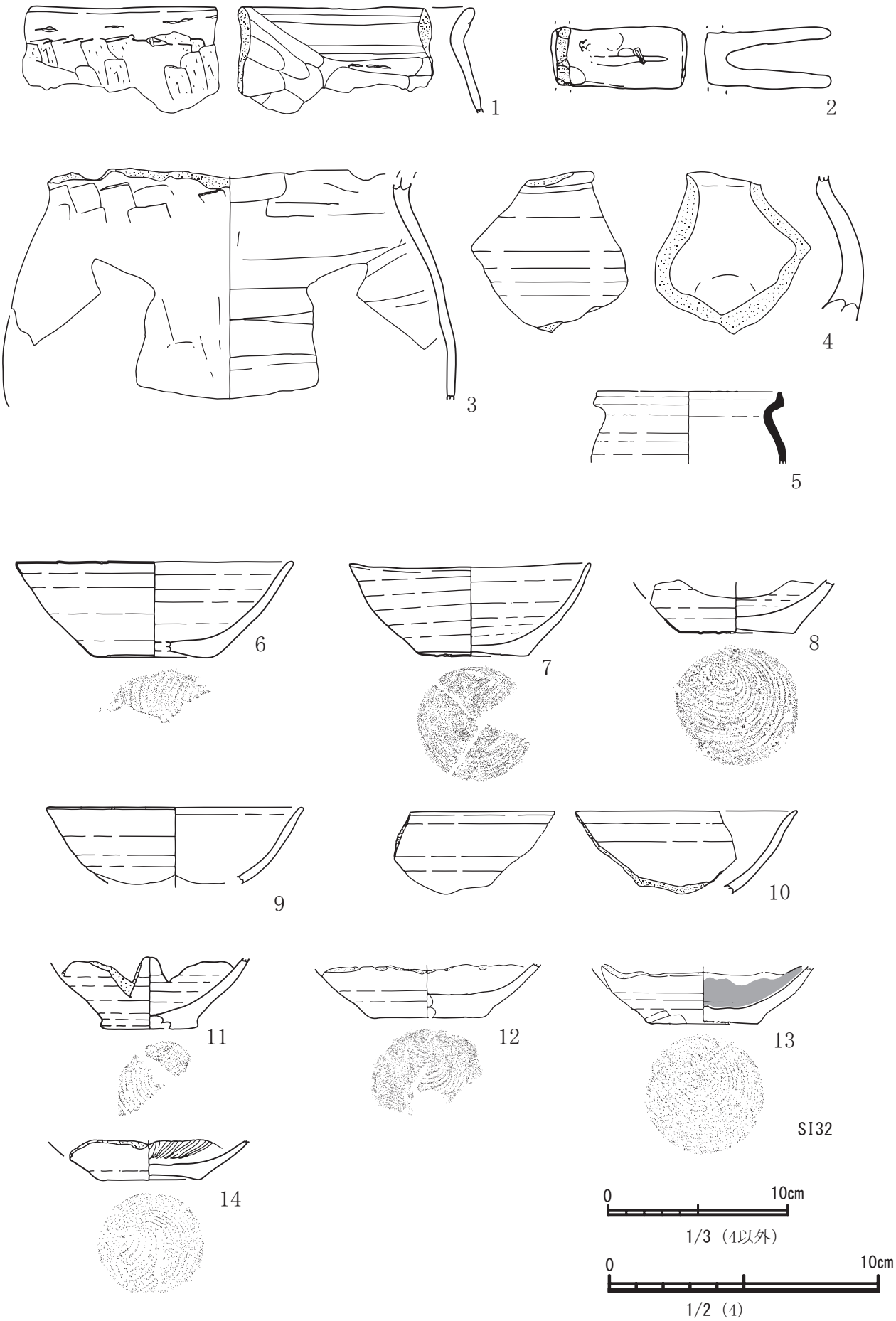


図130　遺構内出土土器（11）

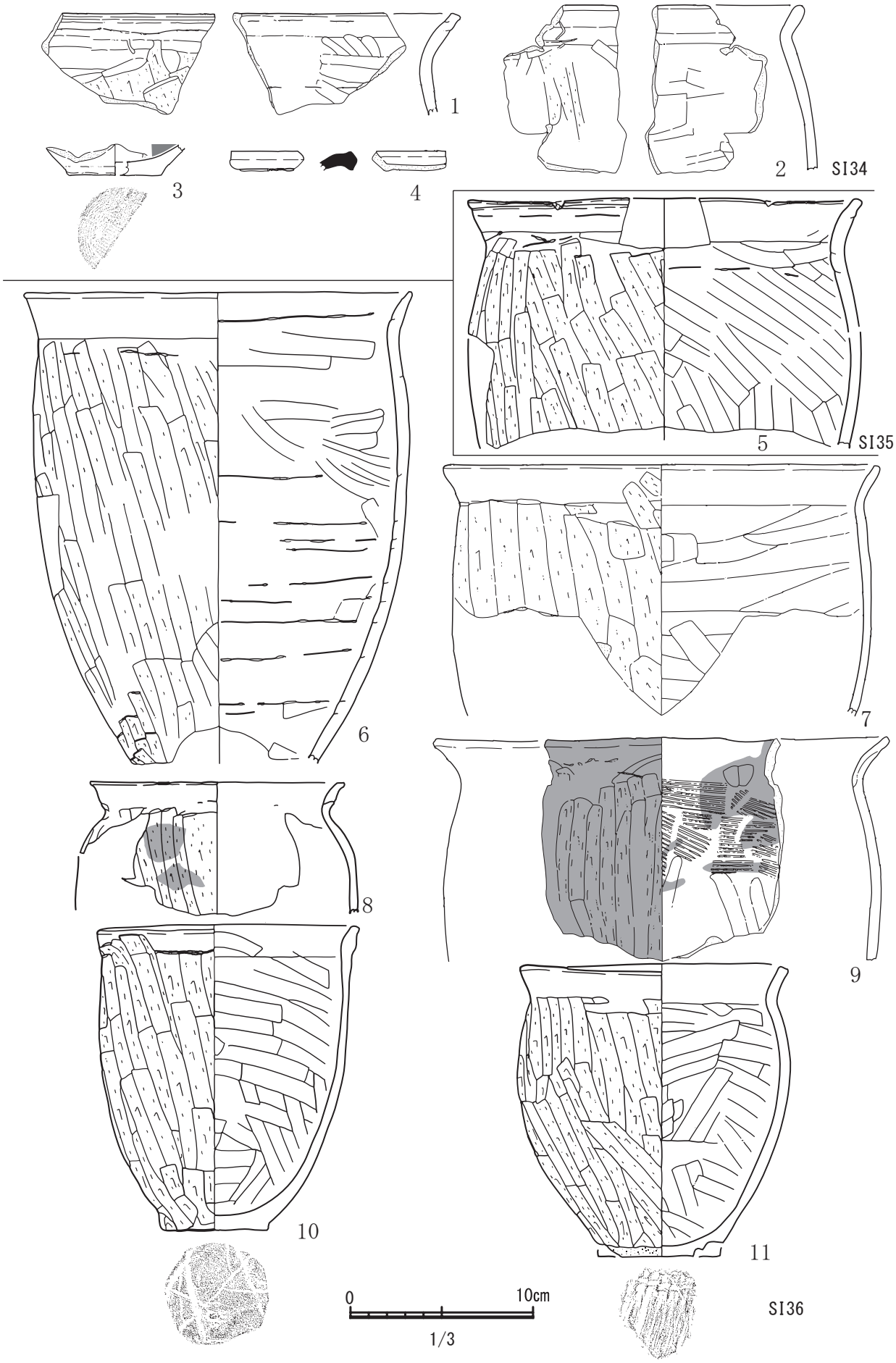


図131　遺構内出土土器（12）

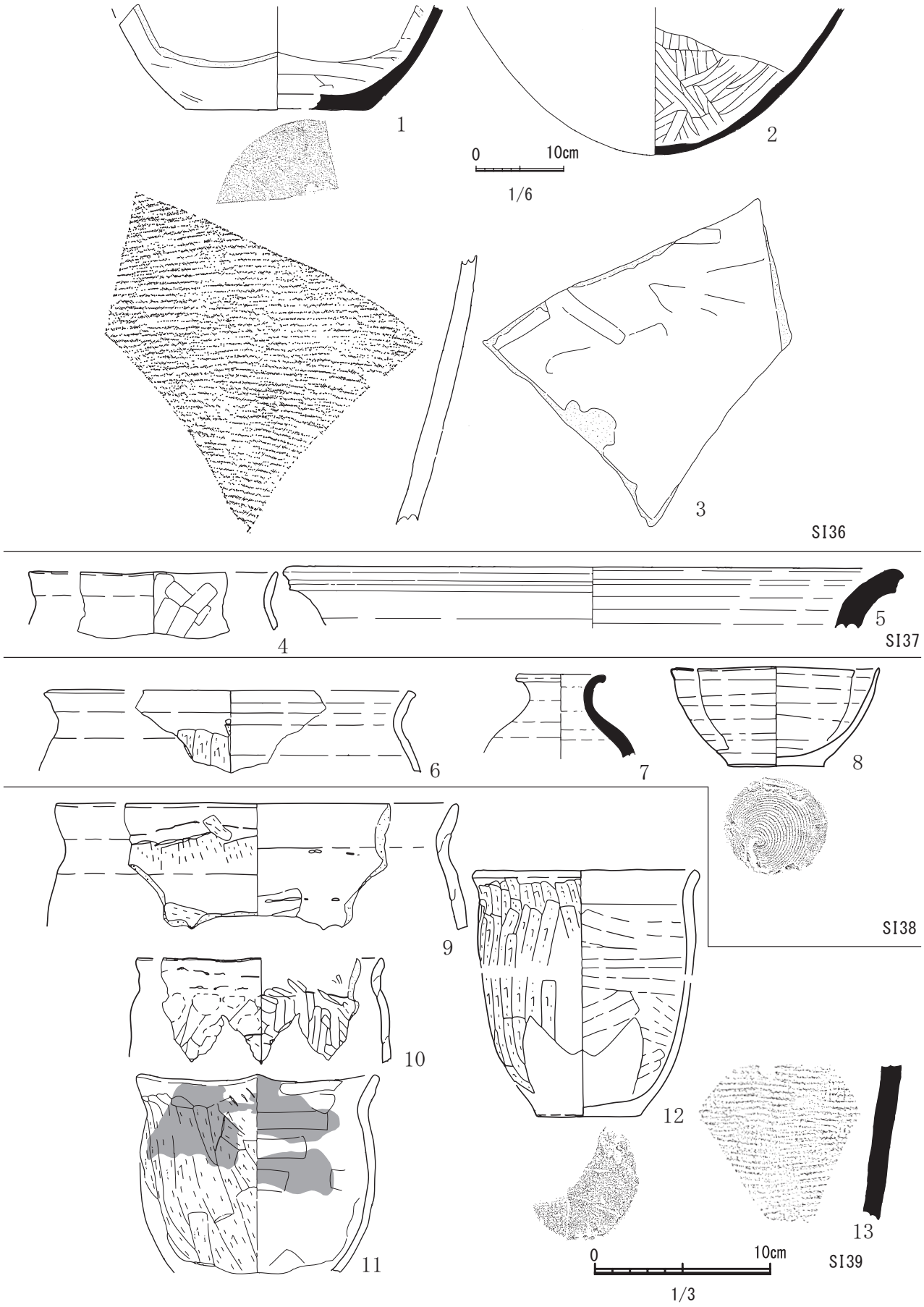


図132　遺構内出土土器（13）

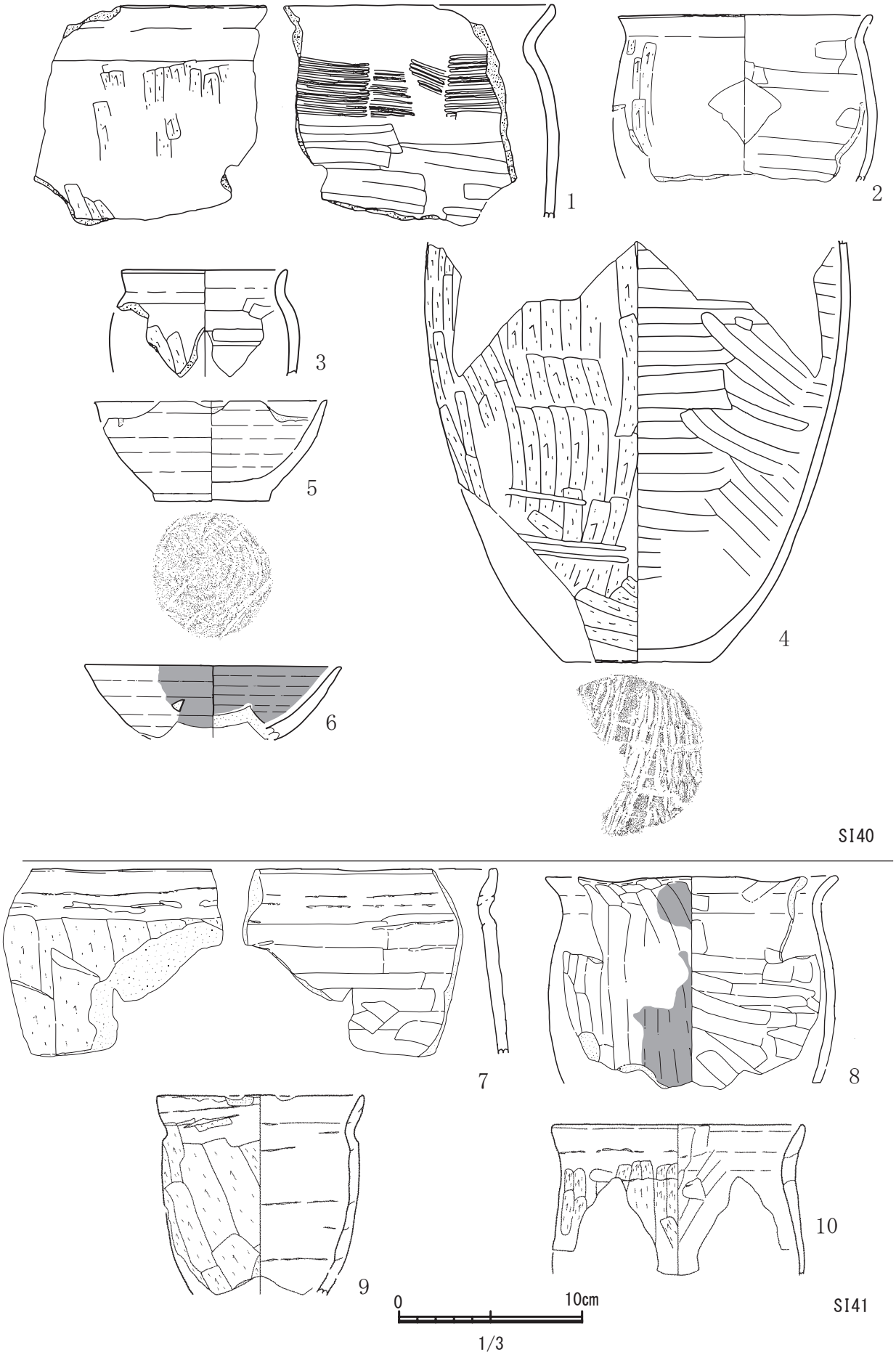


図133　遺構内出土土器（14）

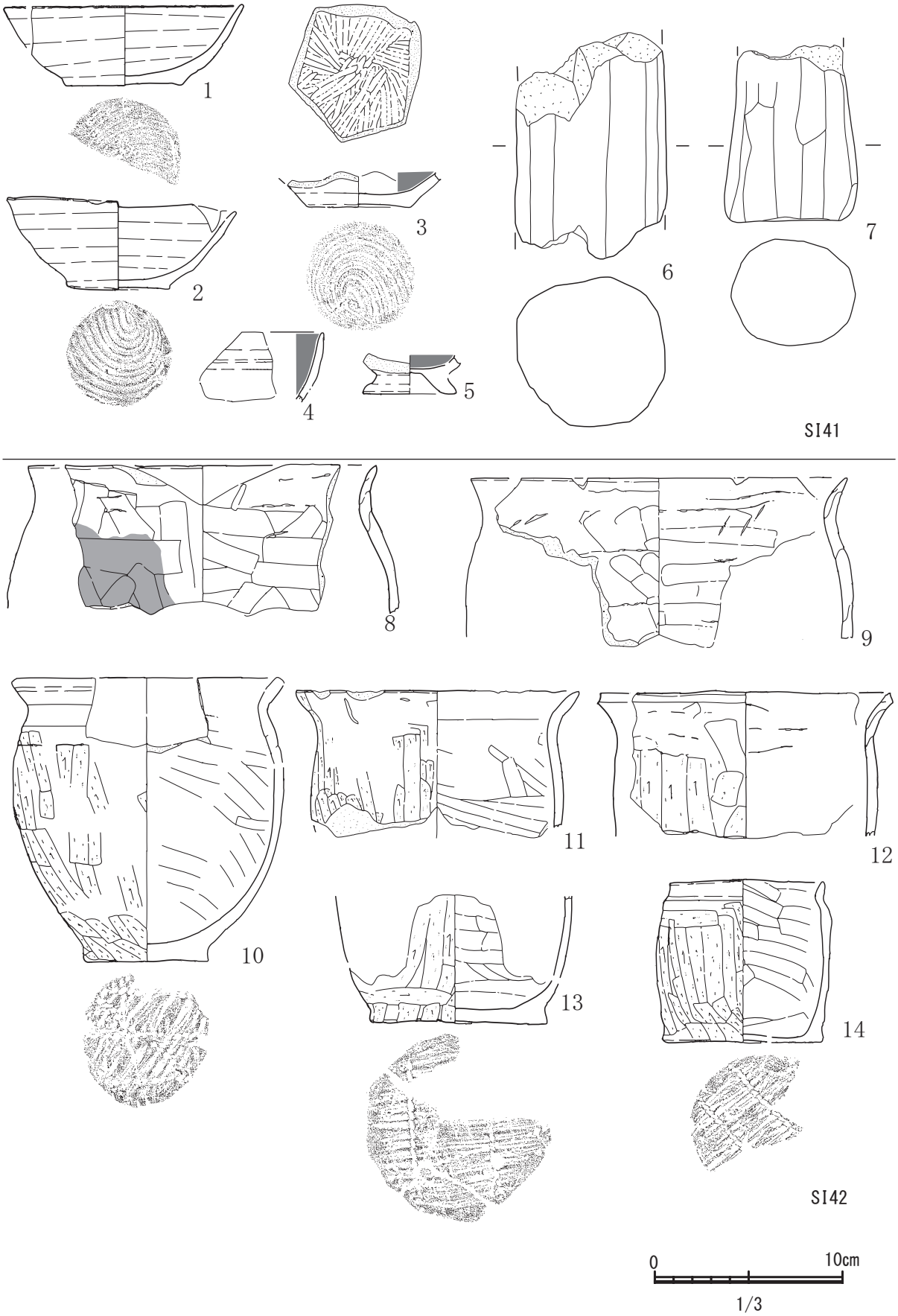


図134　遺構内出土土器（15）

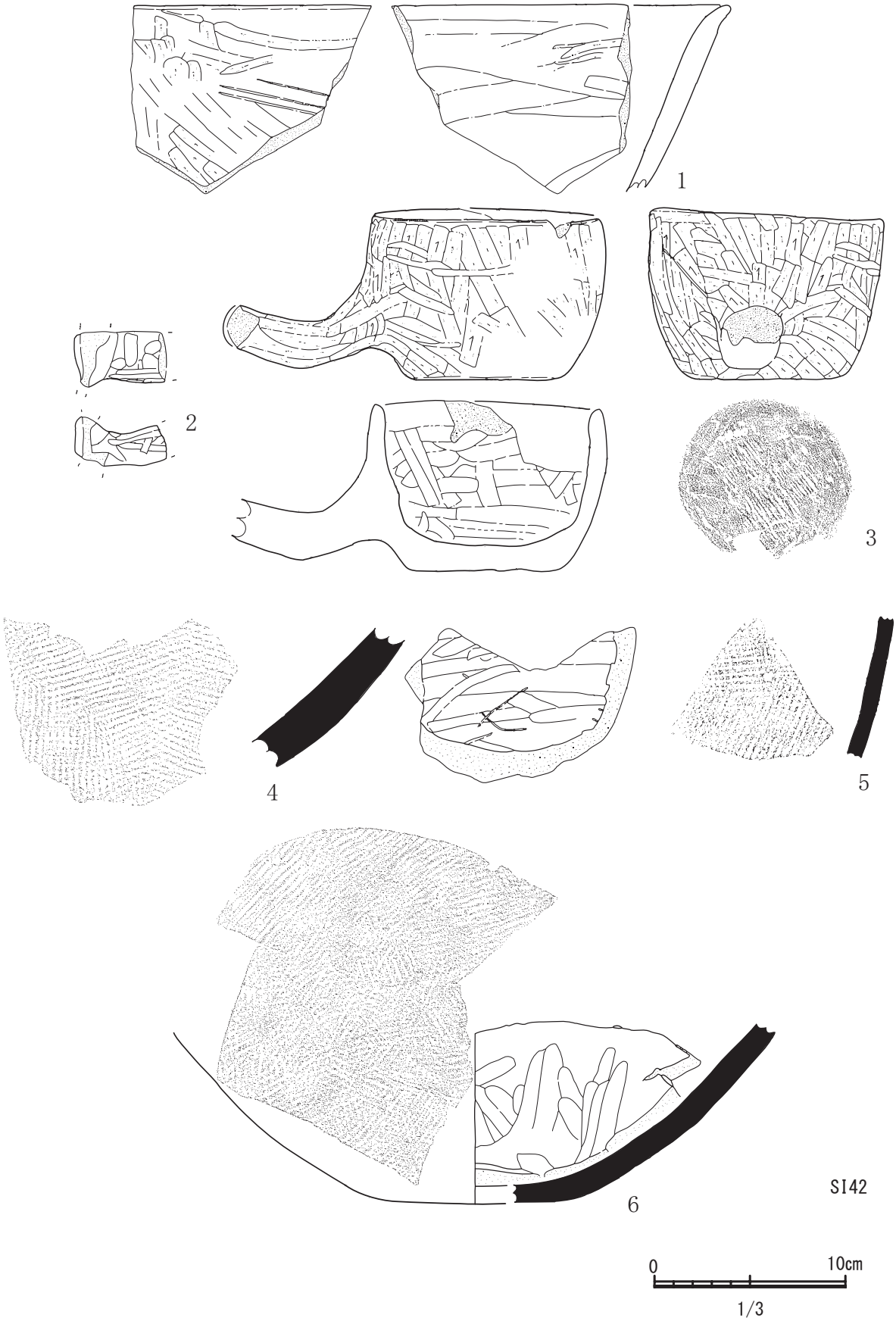


図135　遺構内出土土器（16）

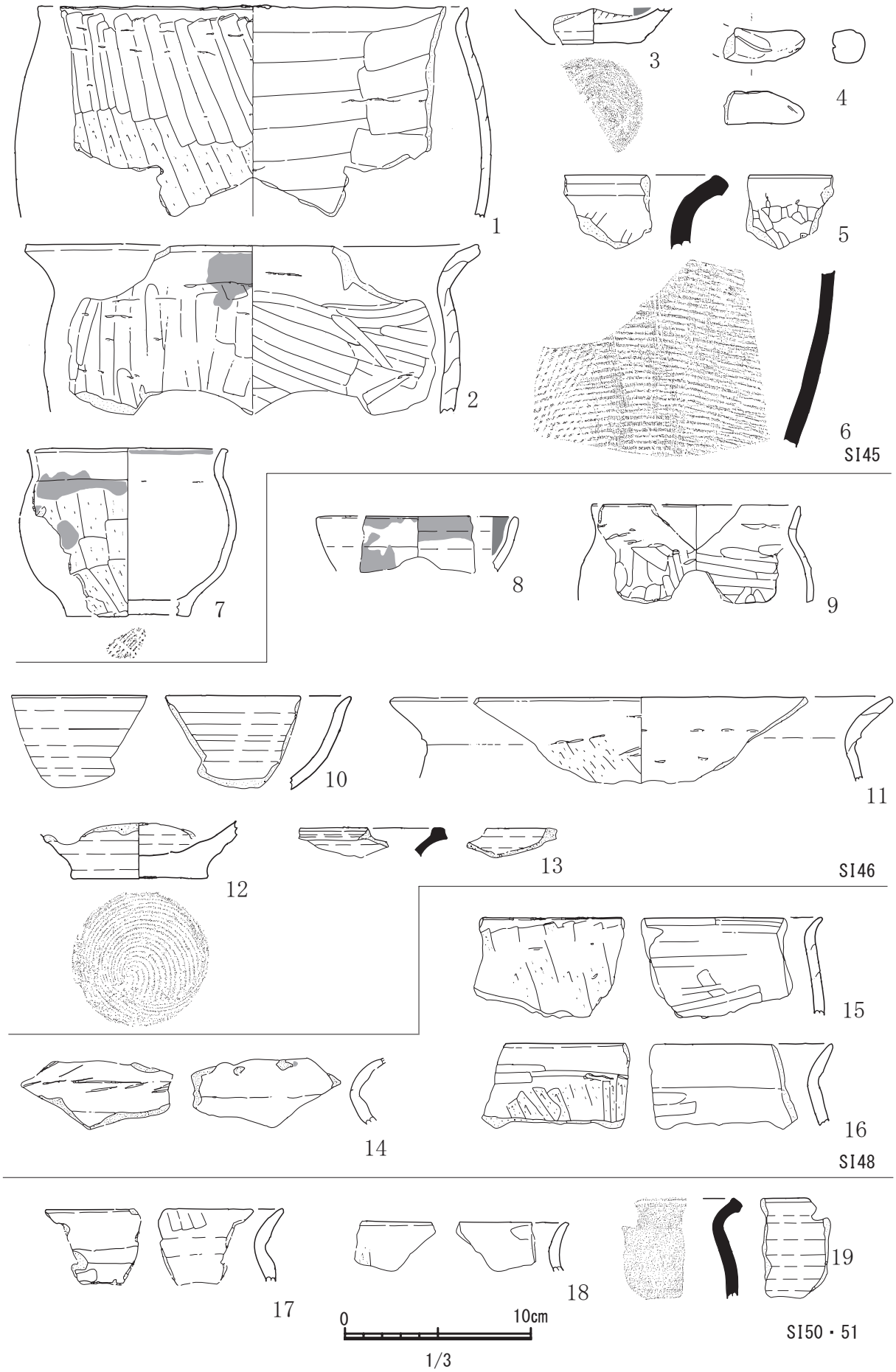


図136　遺構内出土土器（17）

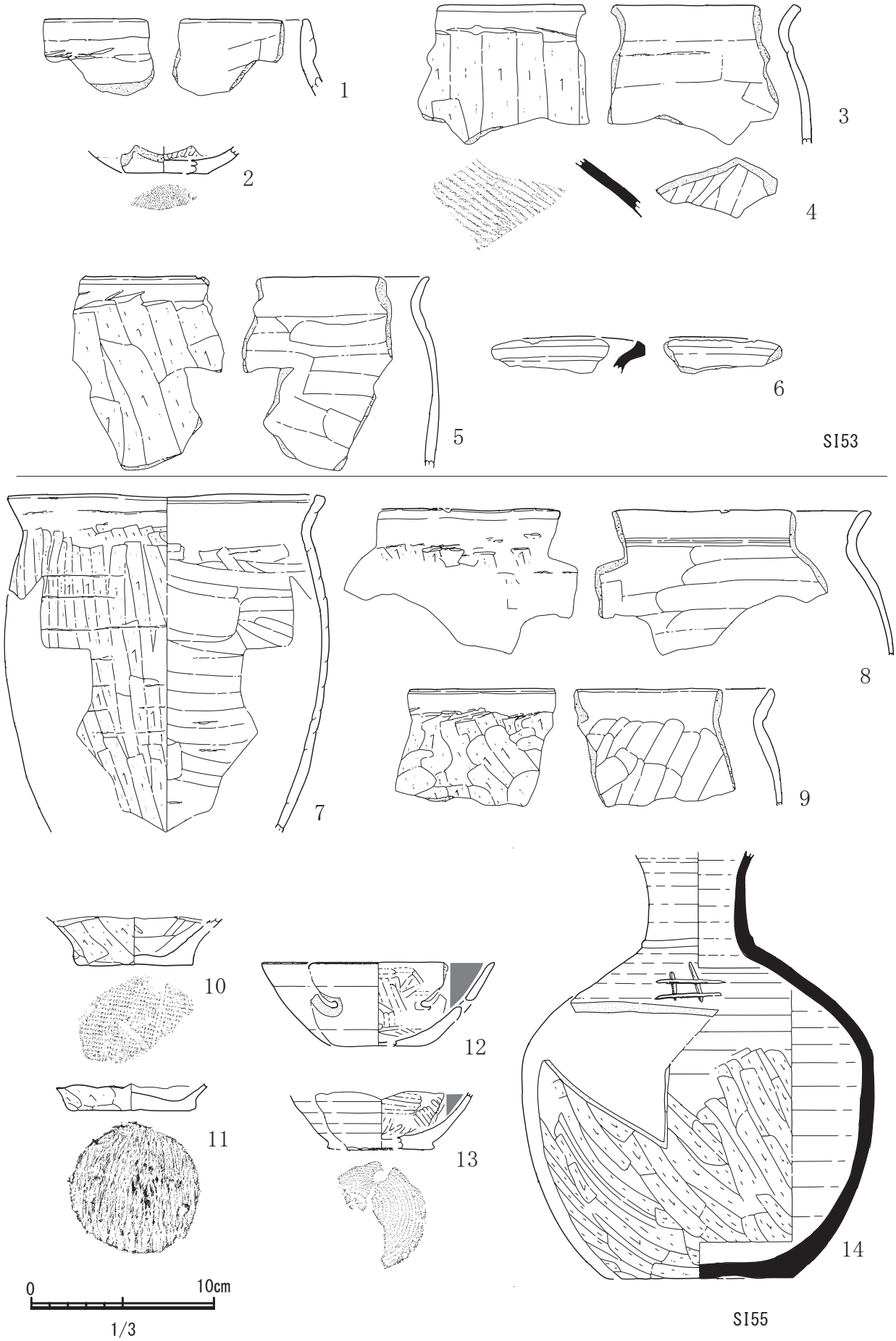


図137　遺構内出土土器（18）

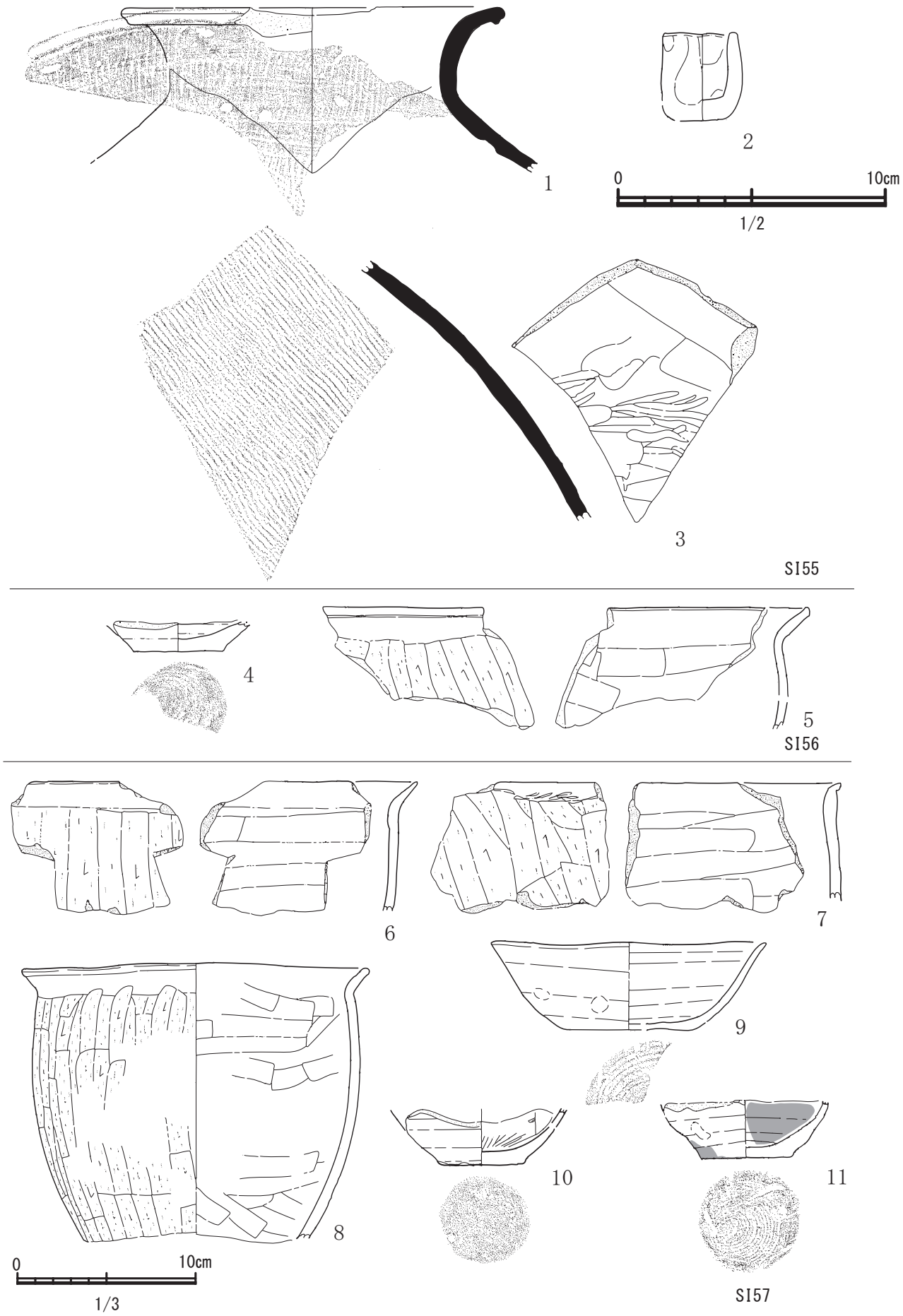


図138　遺構内出土土器（19）

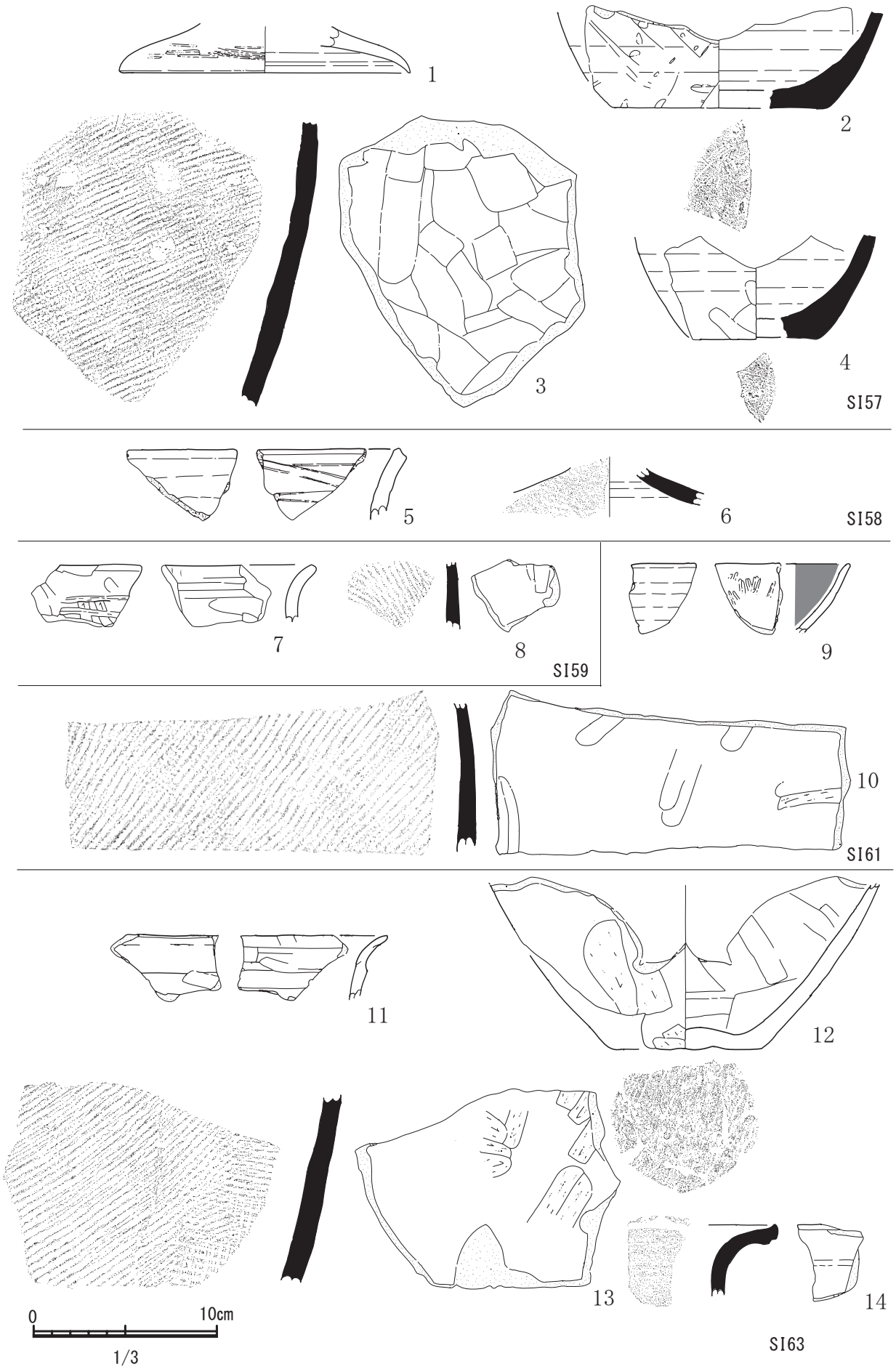


図139　遺構内出土土器（20）

図140　遺構内出土土器（21）

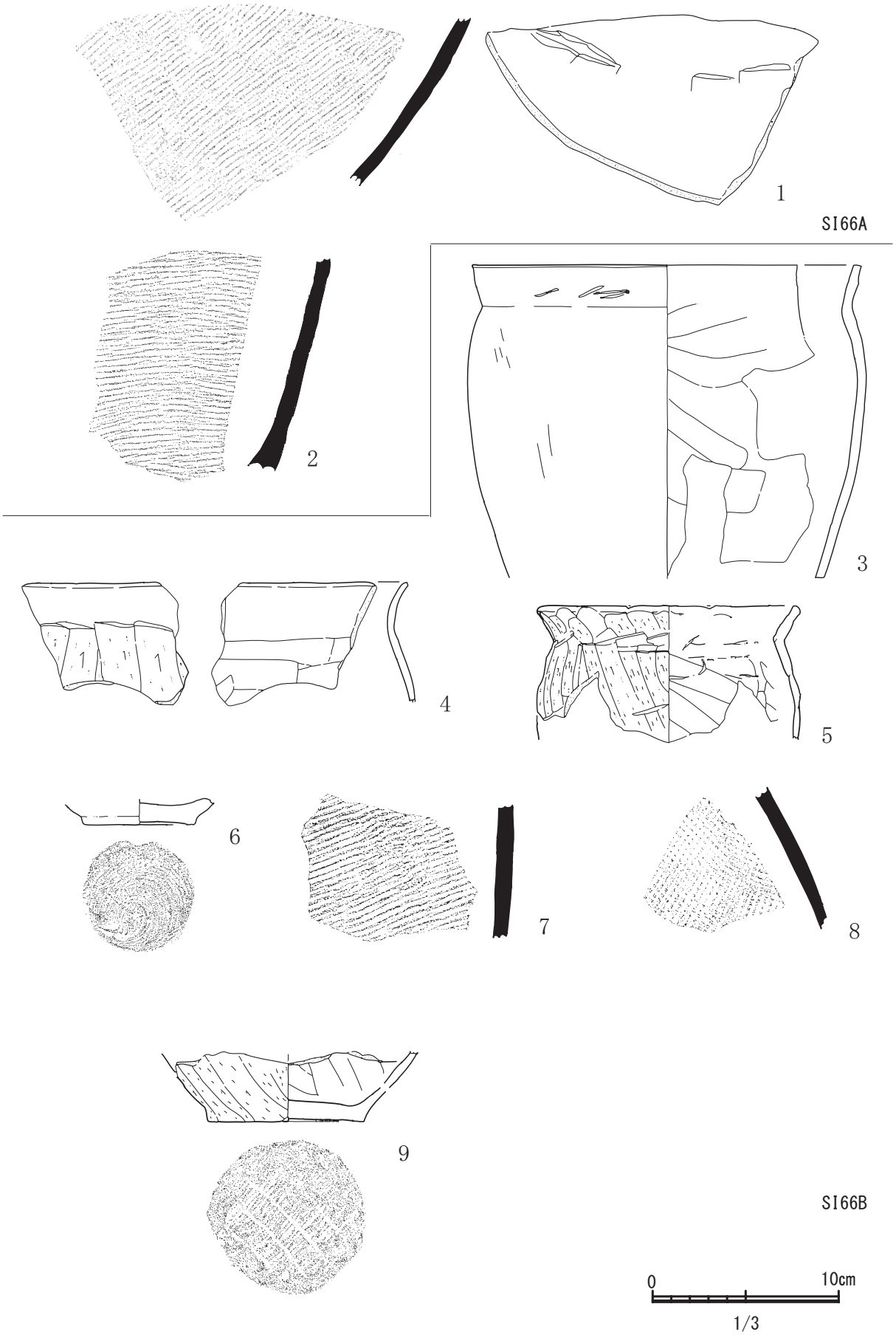


図141　遺構内出土土器（22）

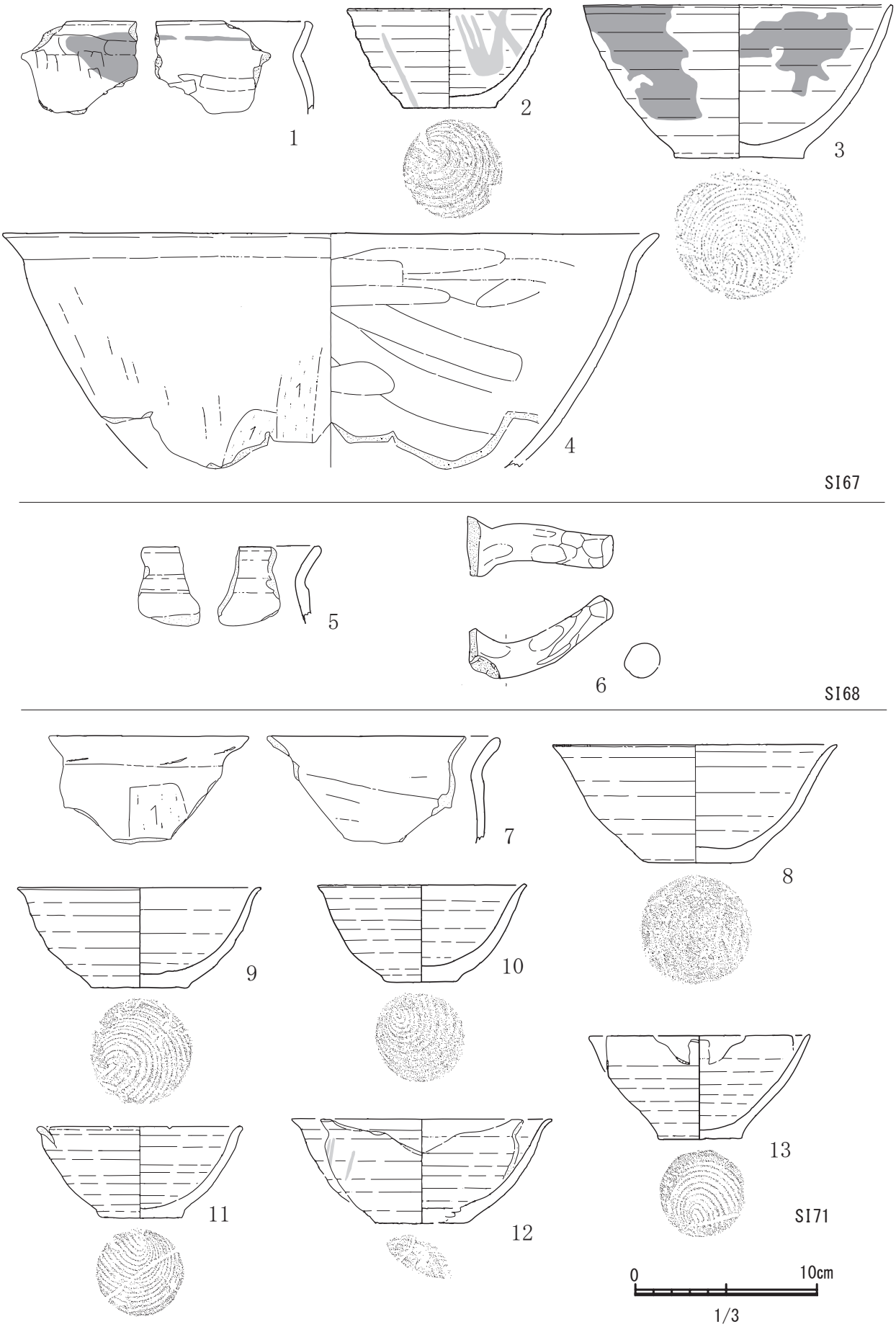


図142　遺構内出土土器（23）

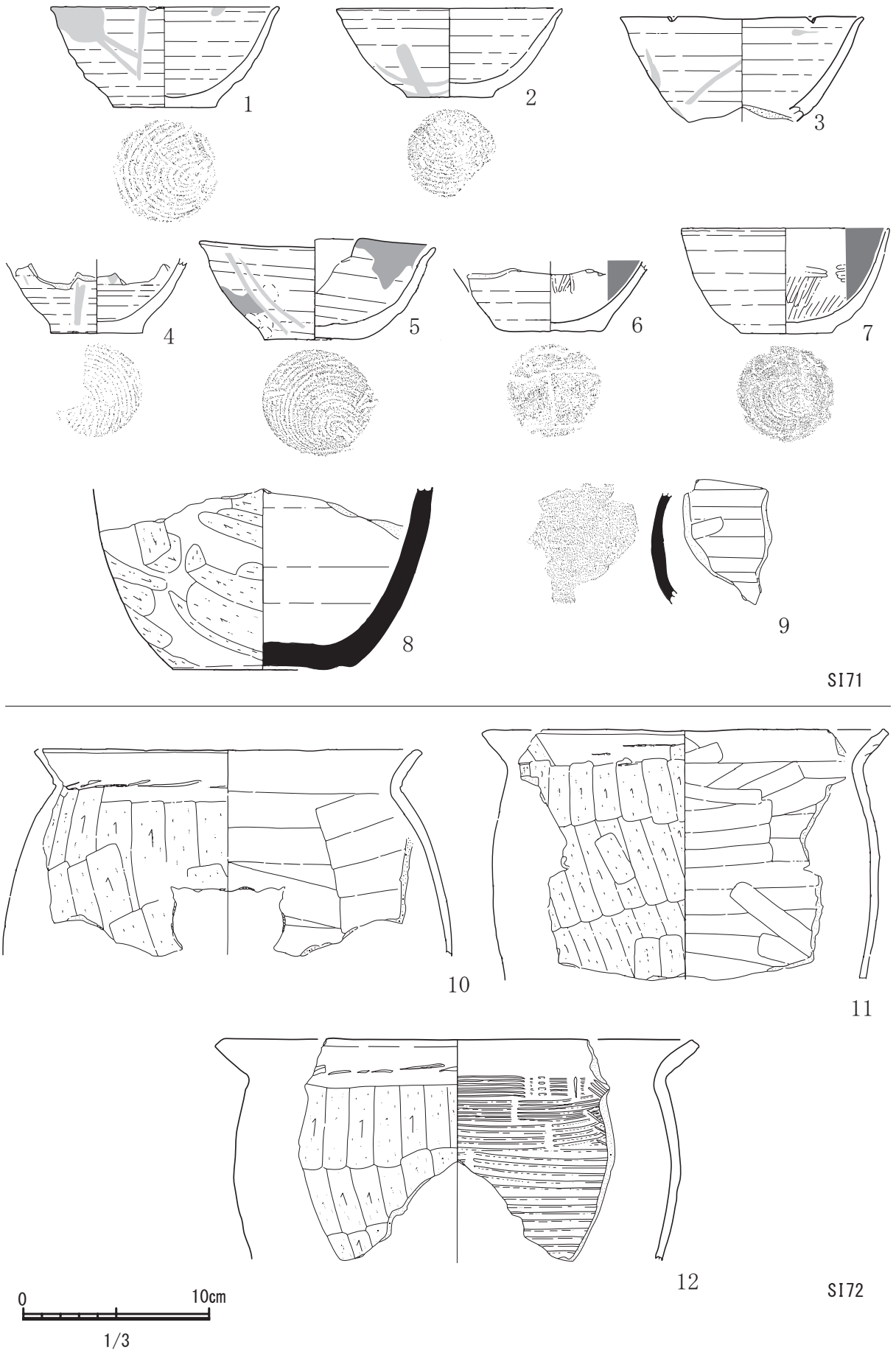


図143　遺構内出土土器（24）

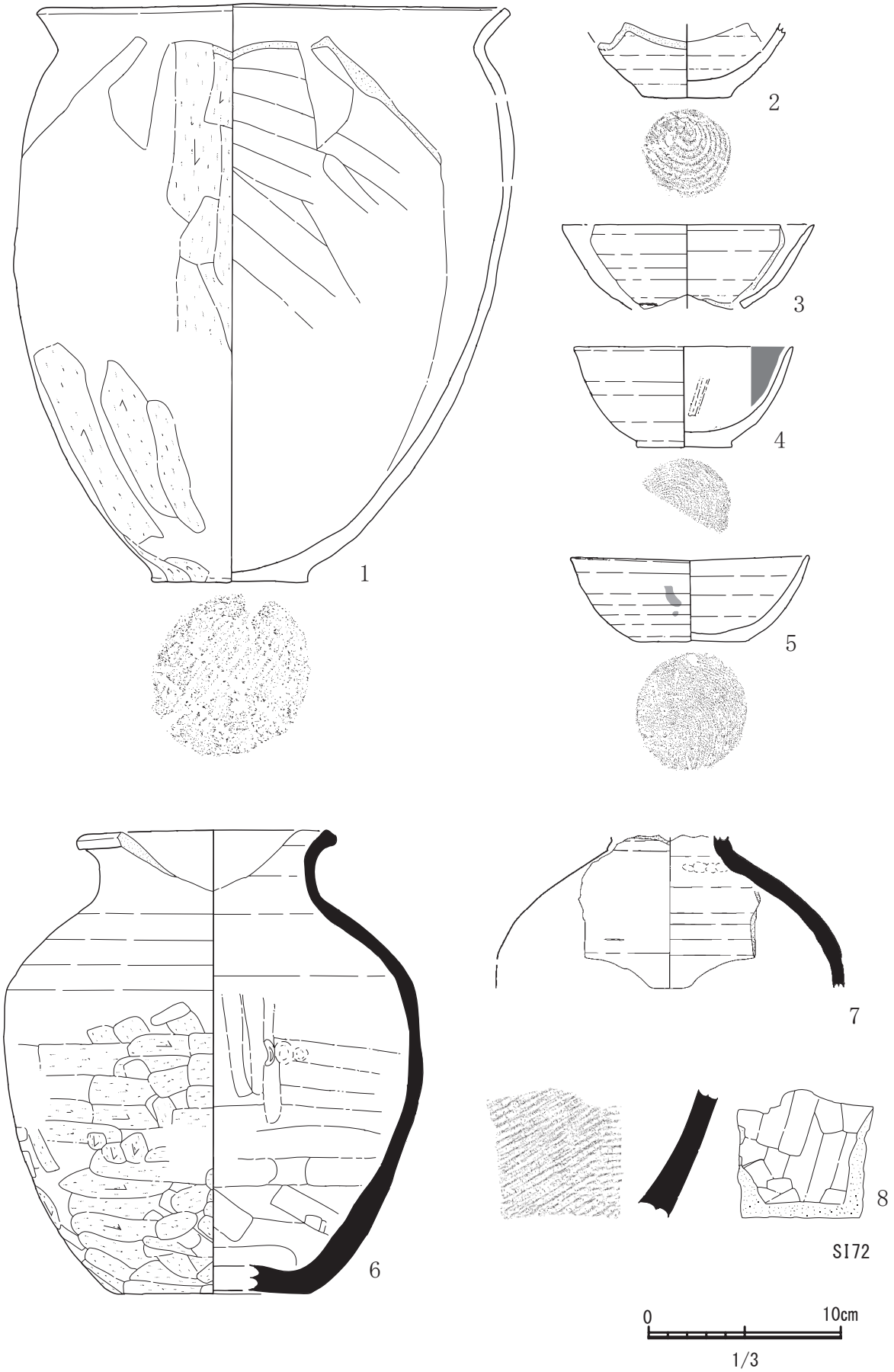


図144　遺構内出土土器（25）

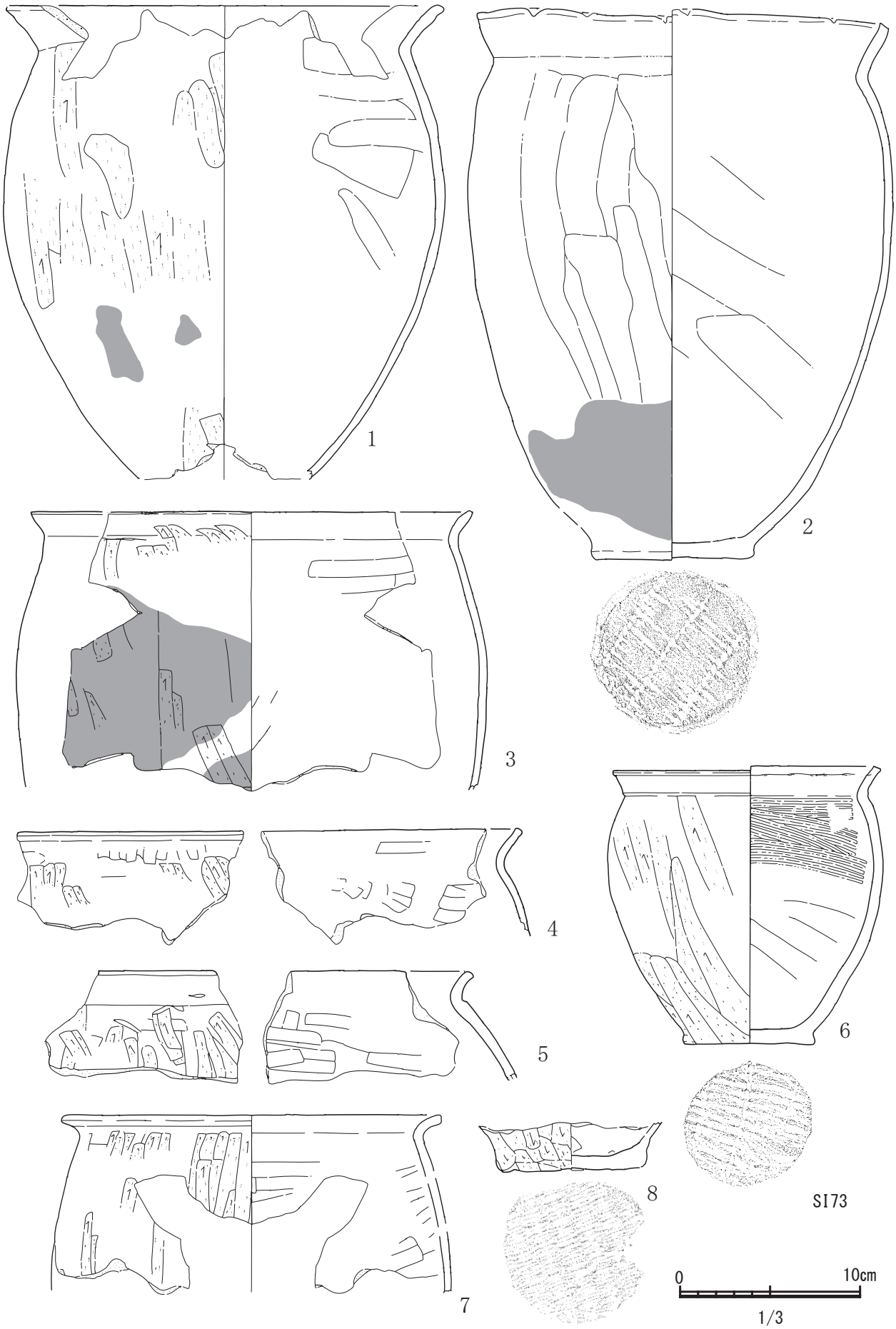


図145　遺構内出土土器（26）

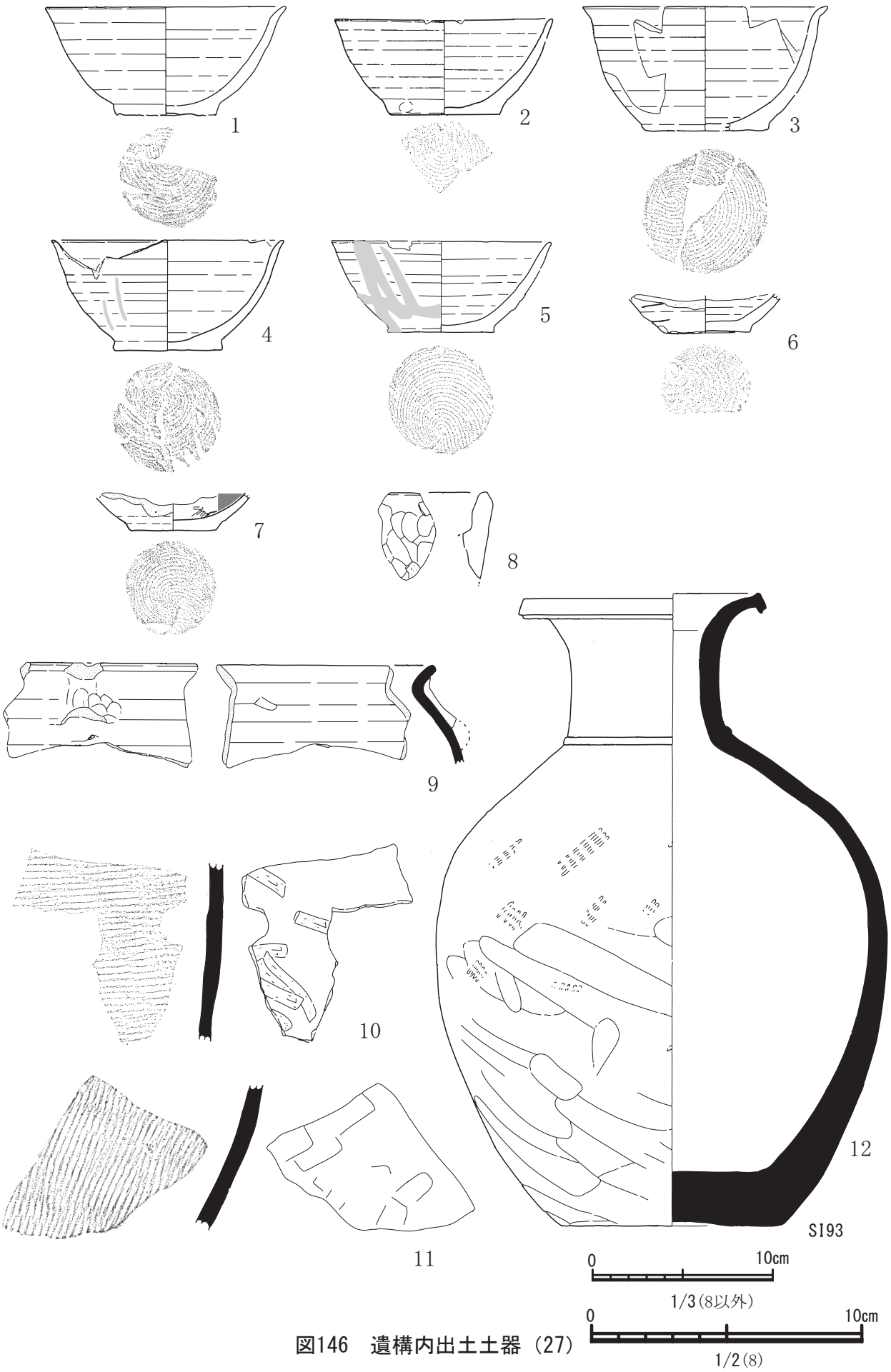


図146　遺構内出土土器（27）

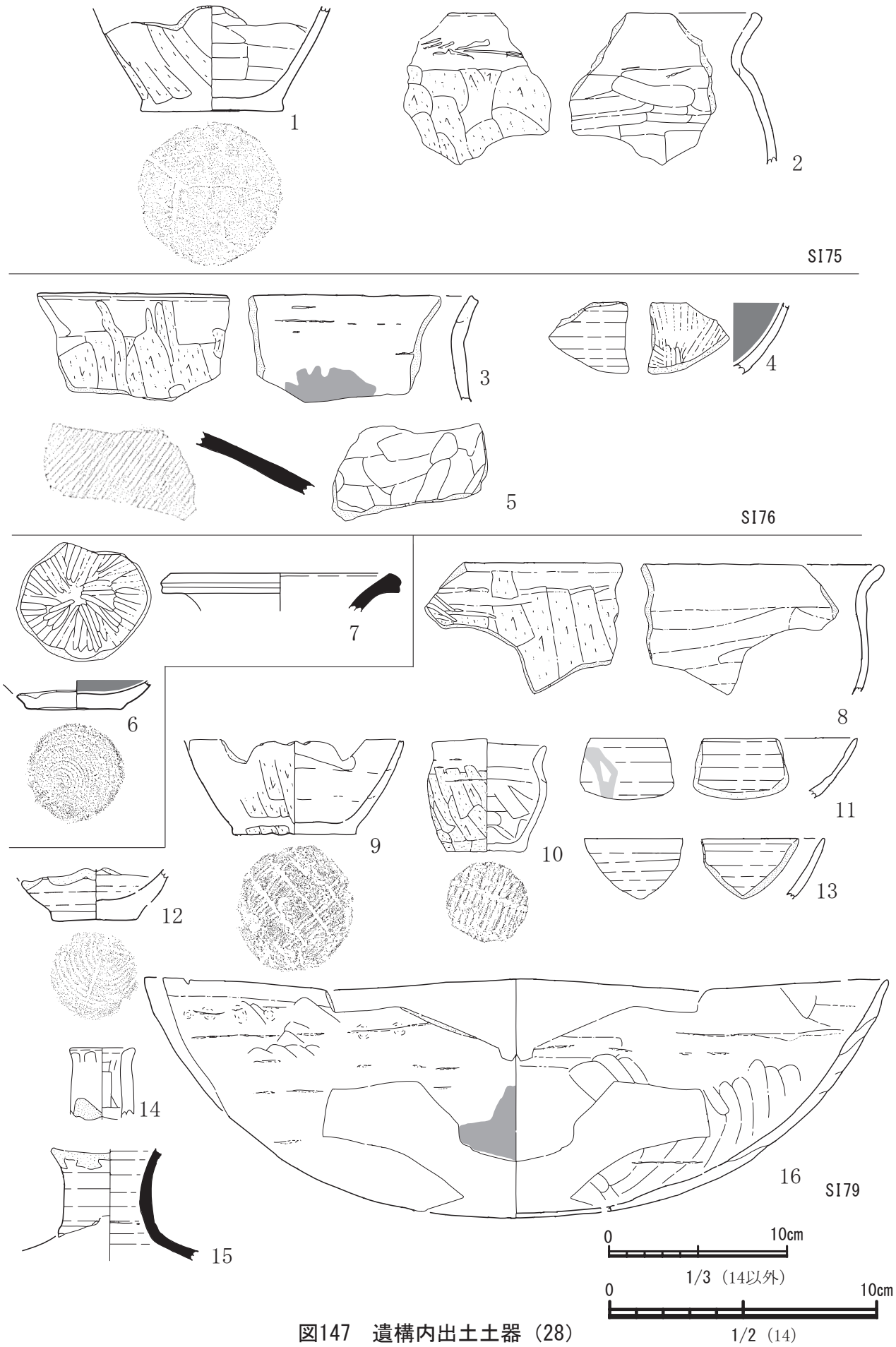


図147　遺構内出土土器（28）

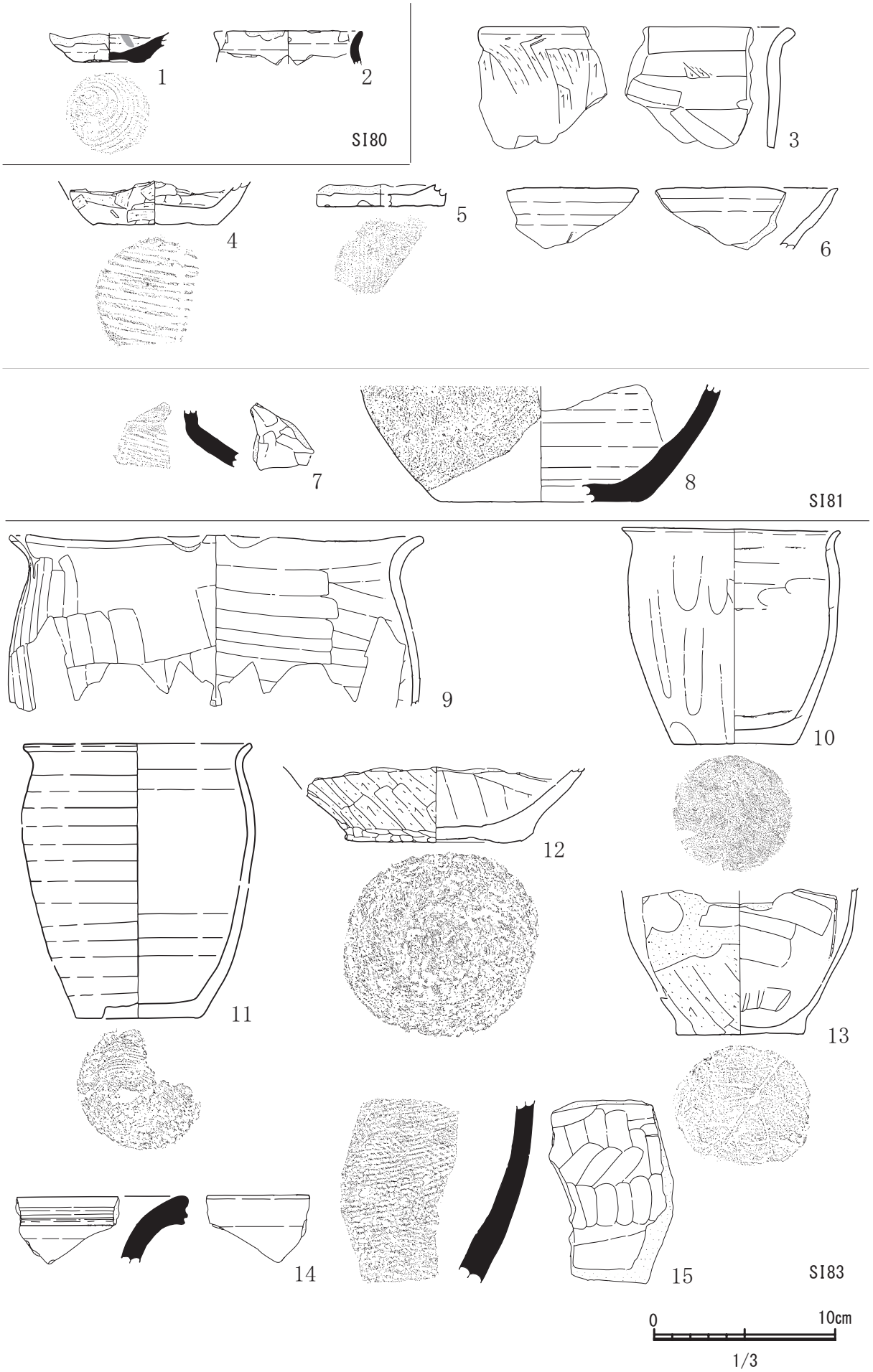


図148　遺構内出土土器（29）

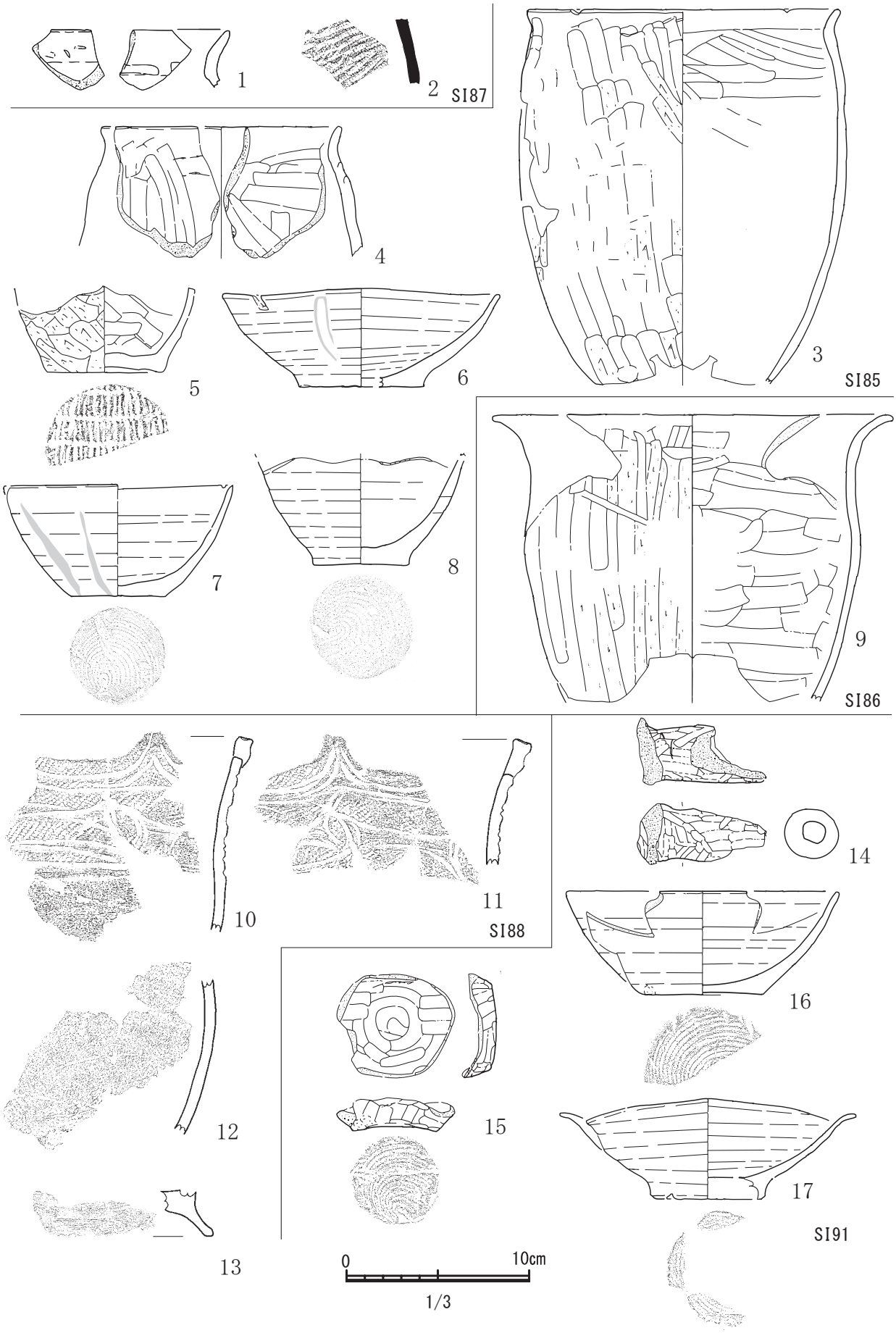


図149　遺構内出土土器（30）

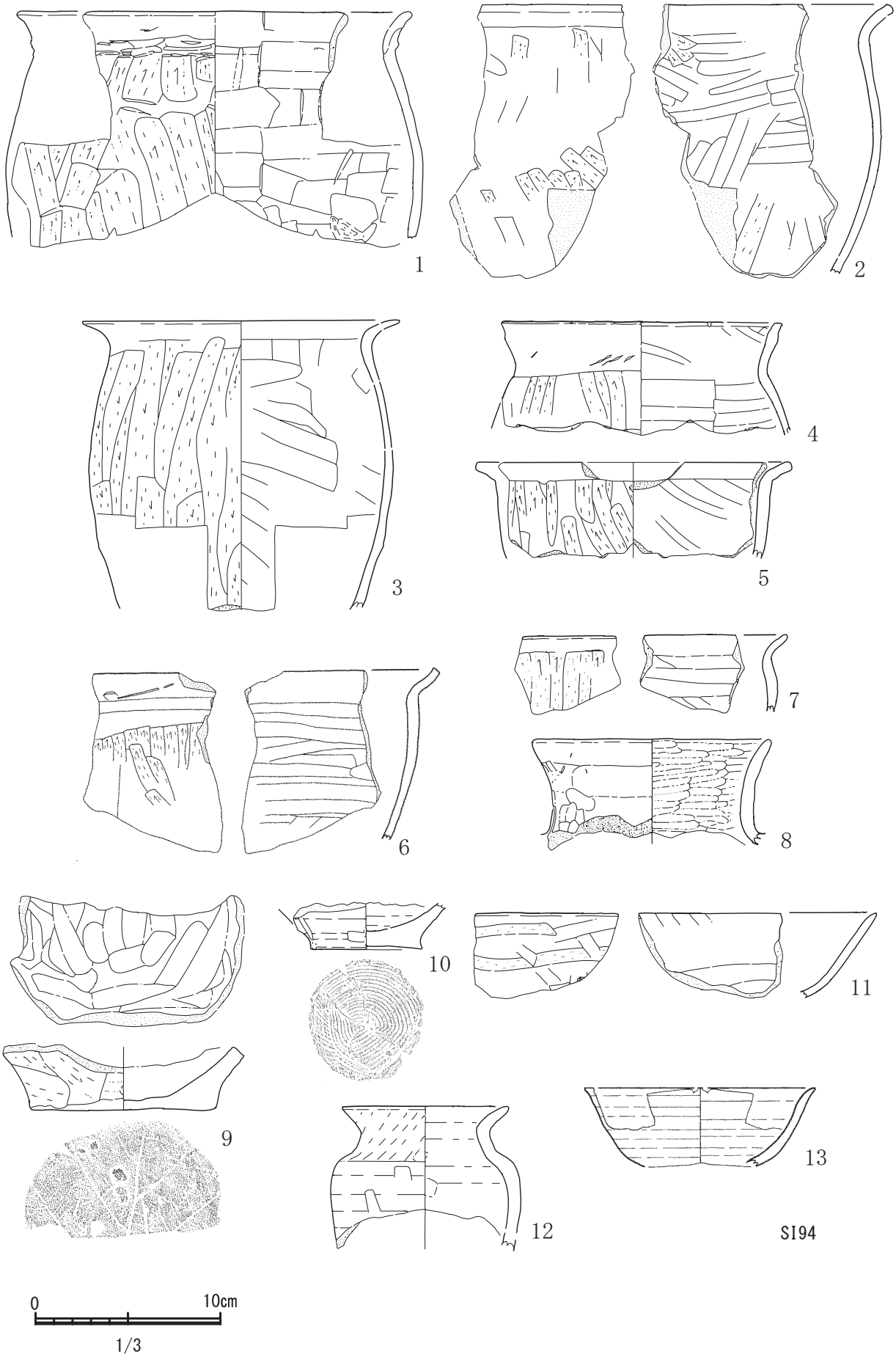


図150　遺構内出土土器（31）

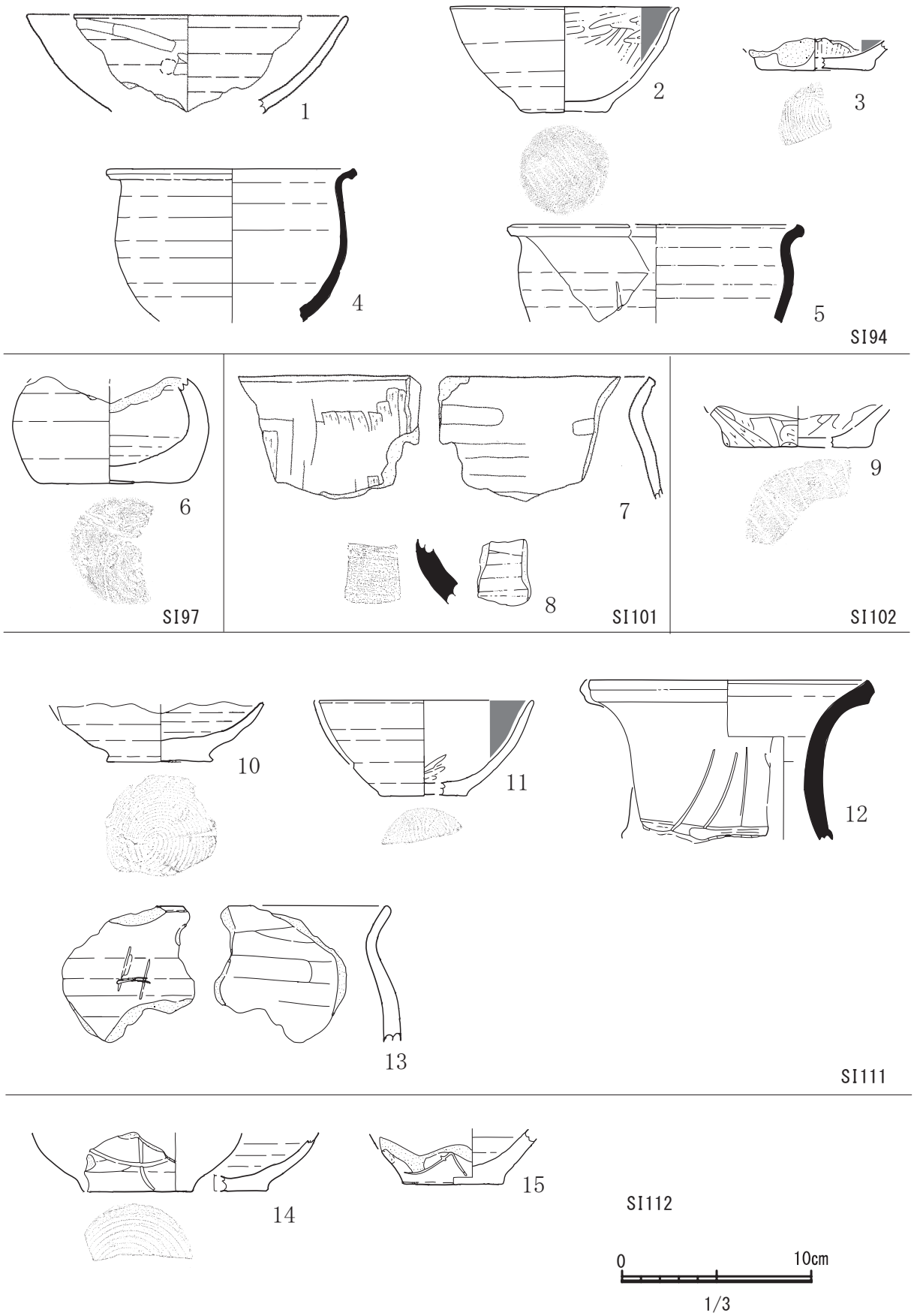


図151　遺構内出土土器（32）

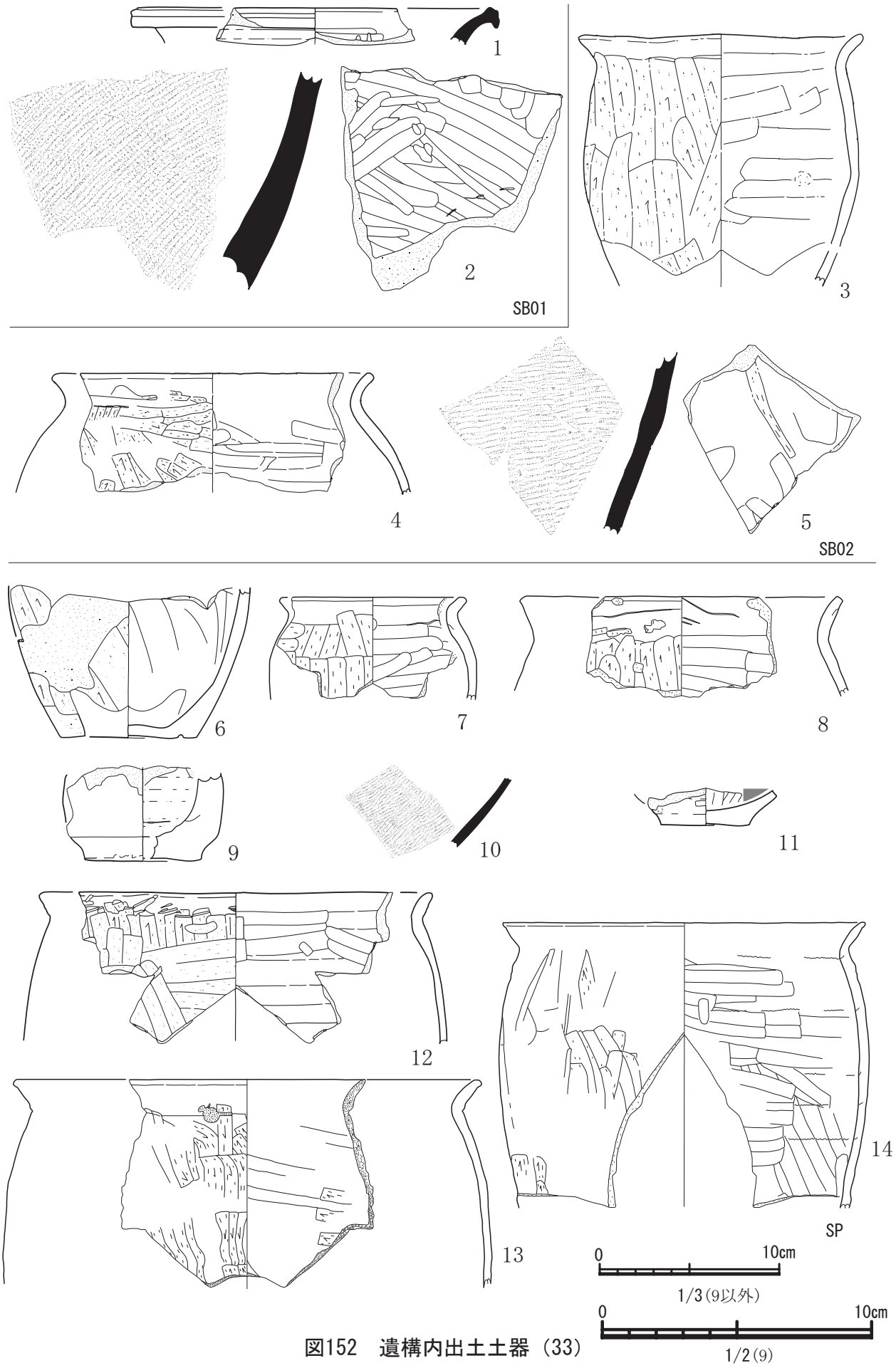


図152　遺構内出土土器（33）

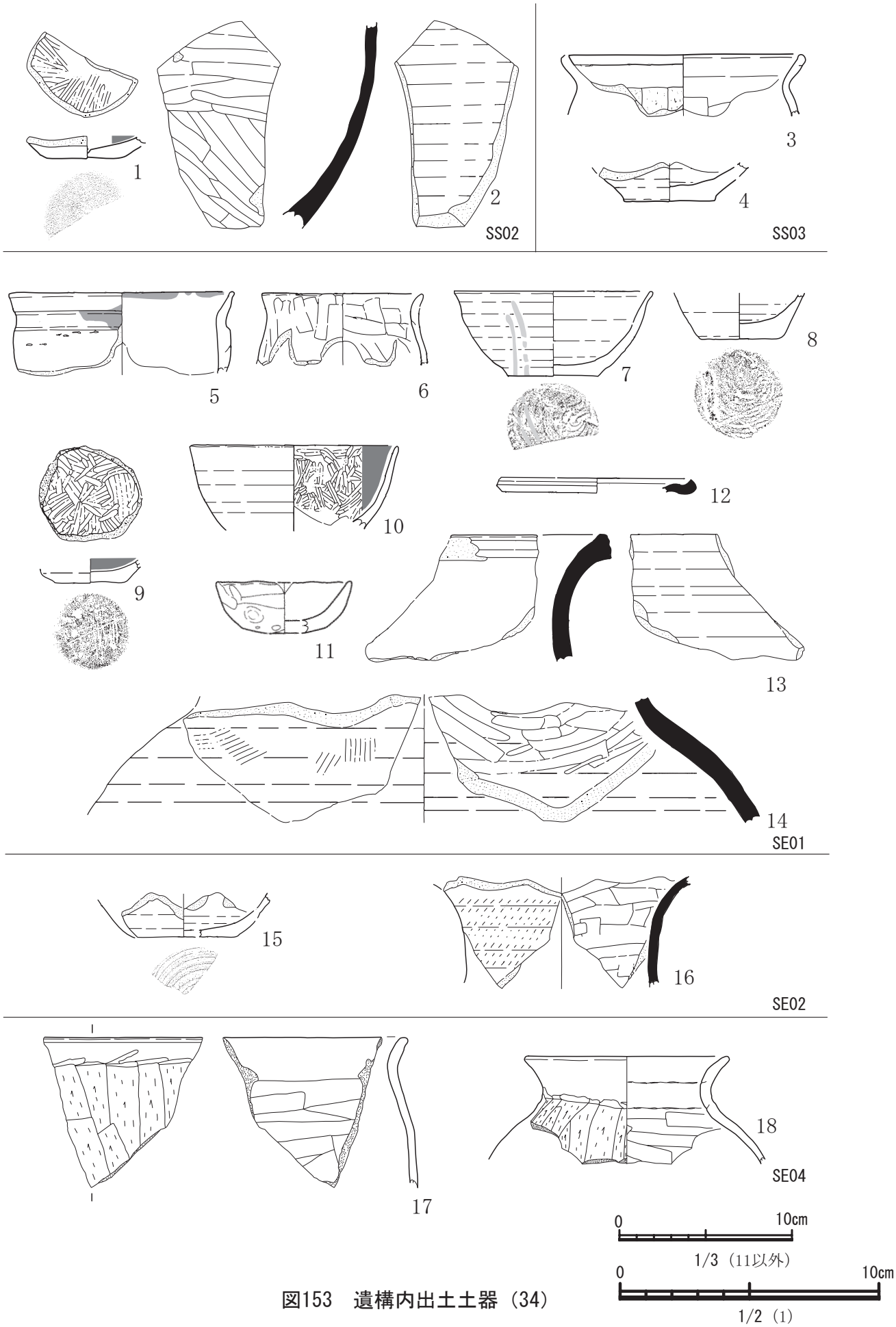


図153　遺構内出土土器（34）

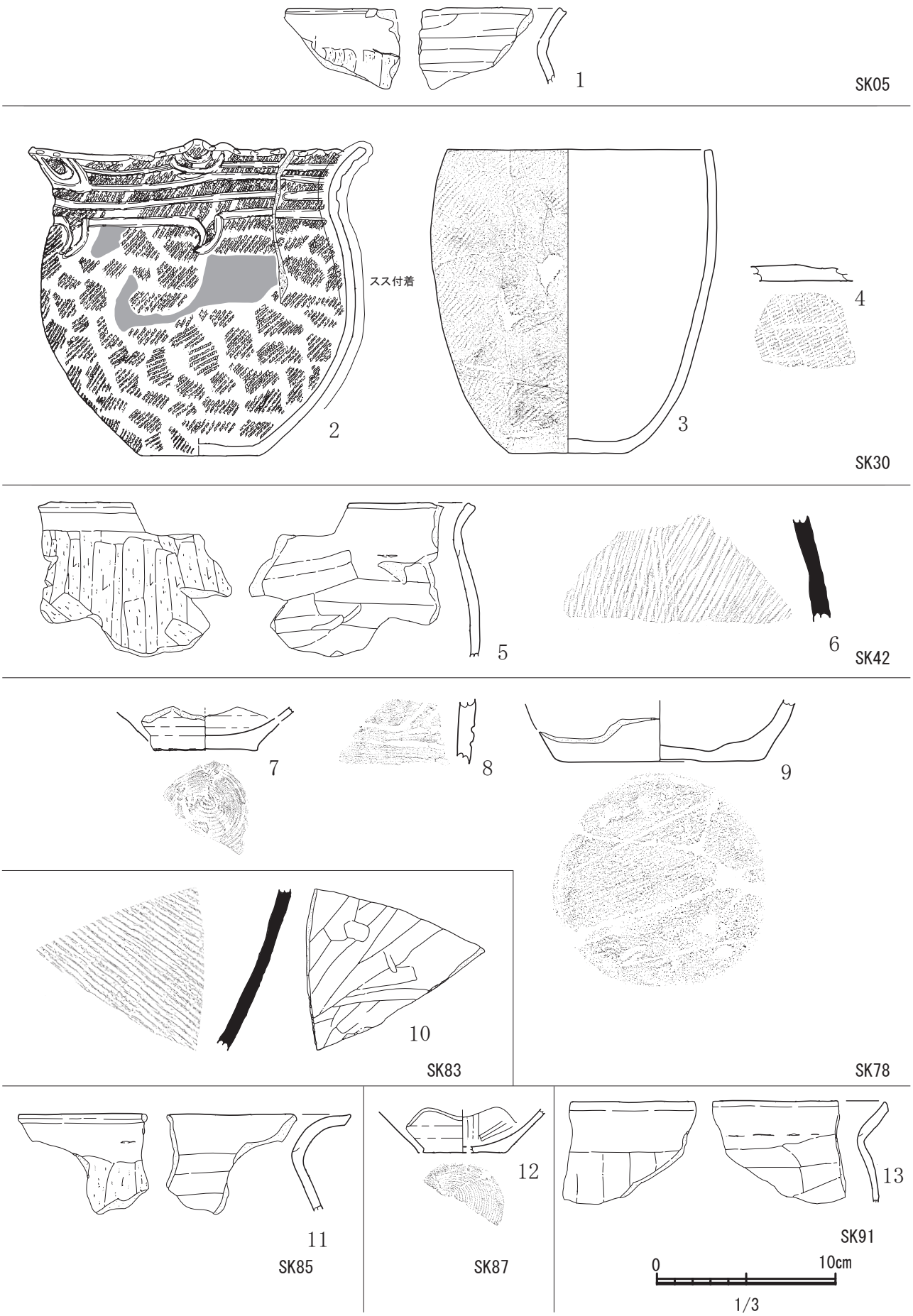


図154　遺構内出土土器（35）

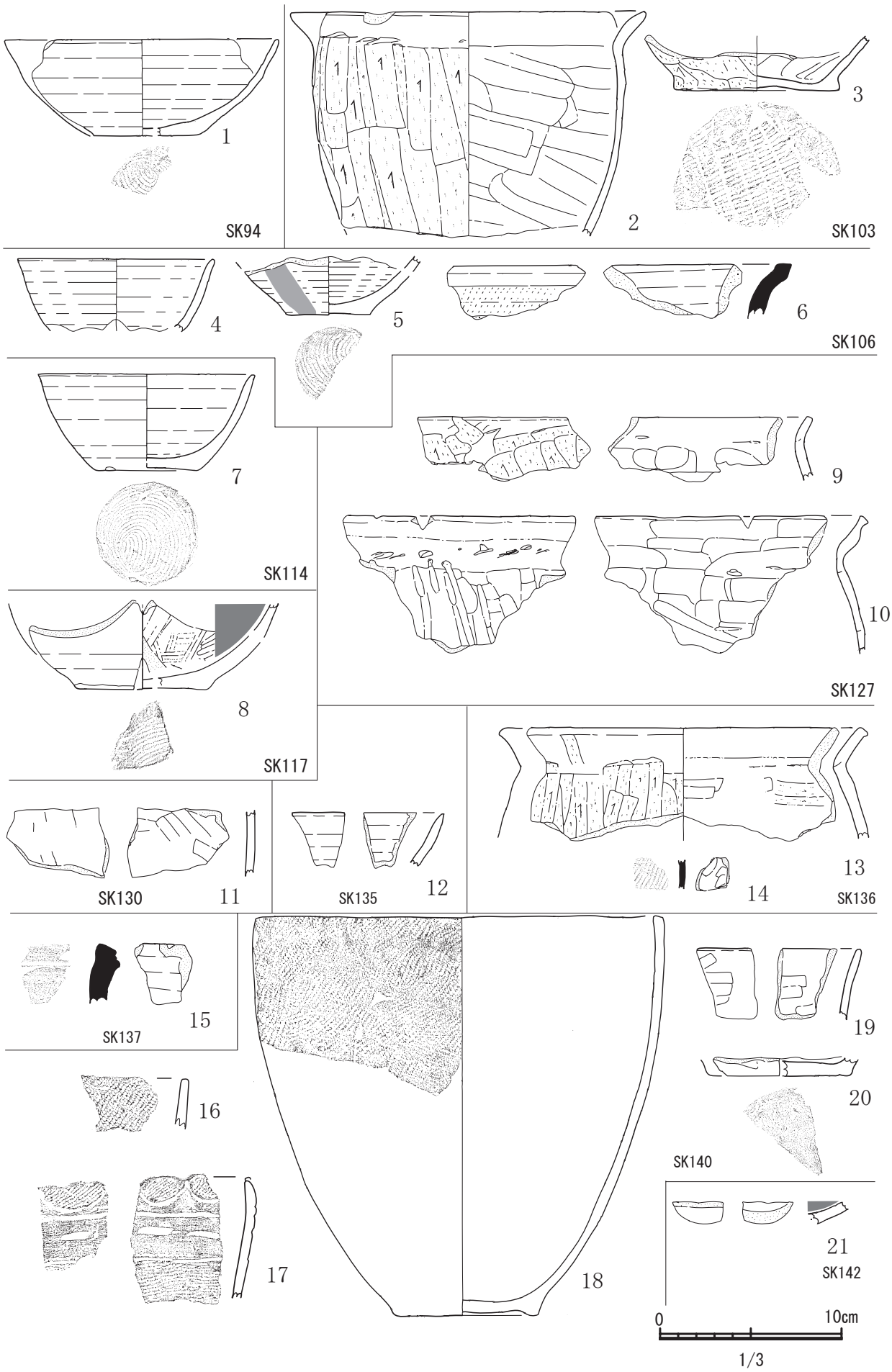


図155　遺構内出土土器（36）

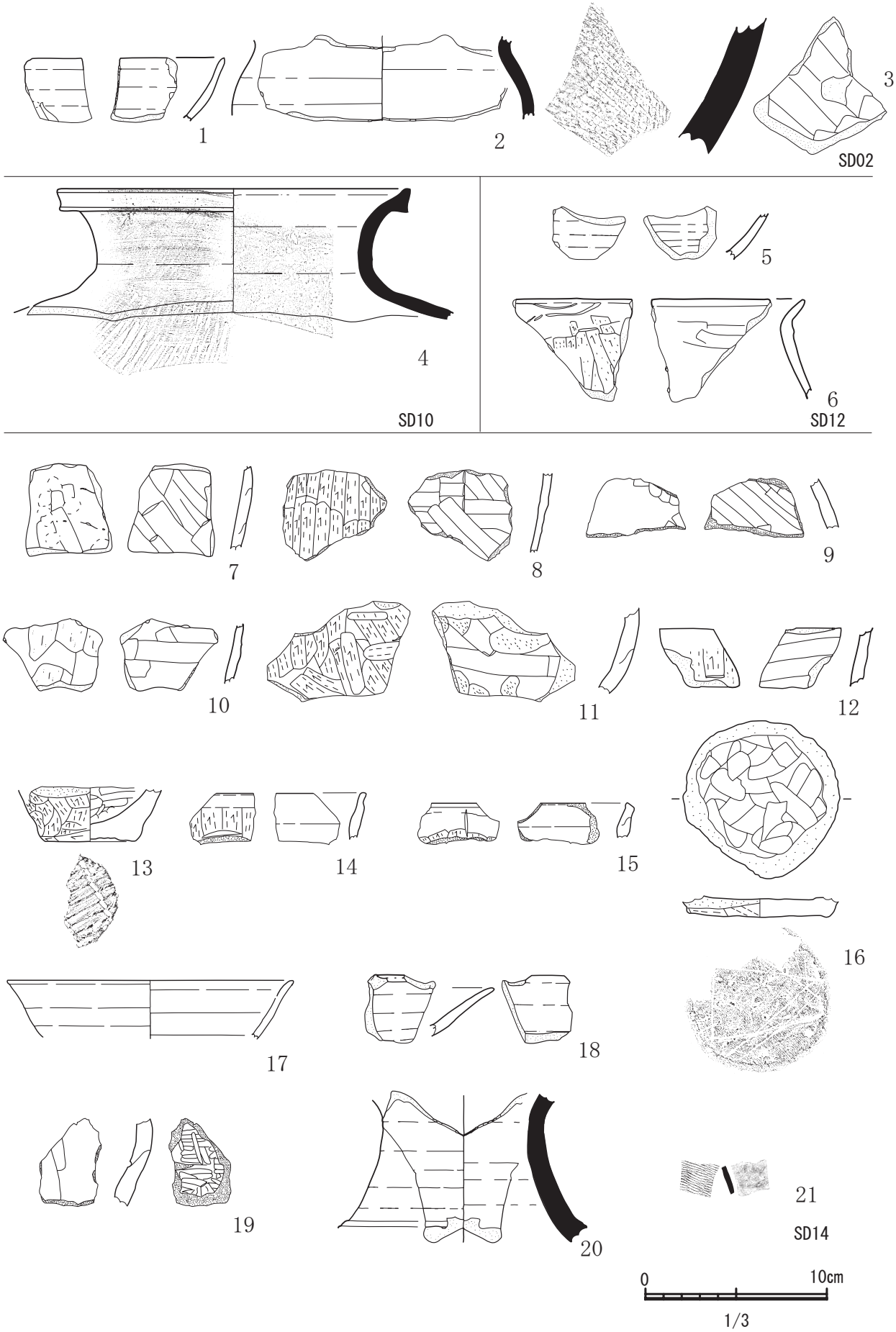


図156　遺構内出土土器（37）

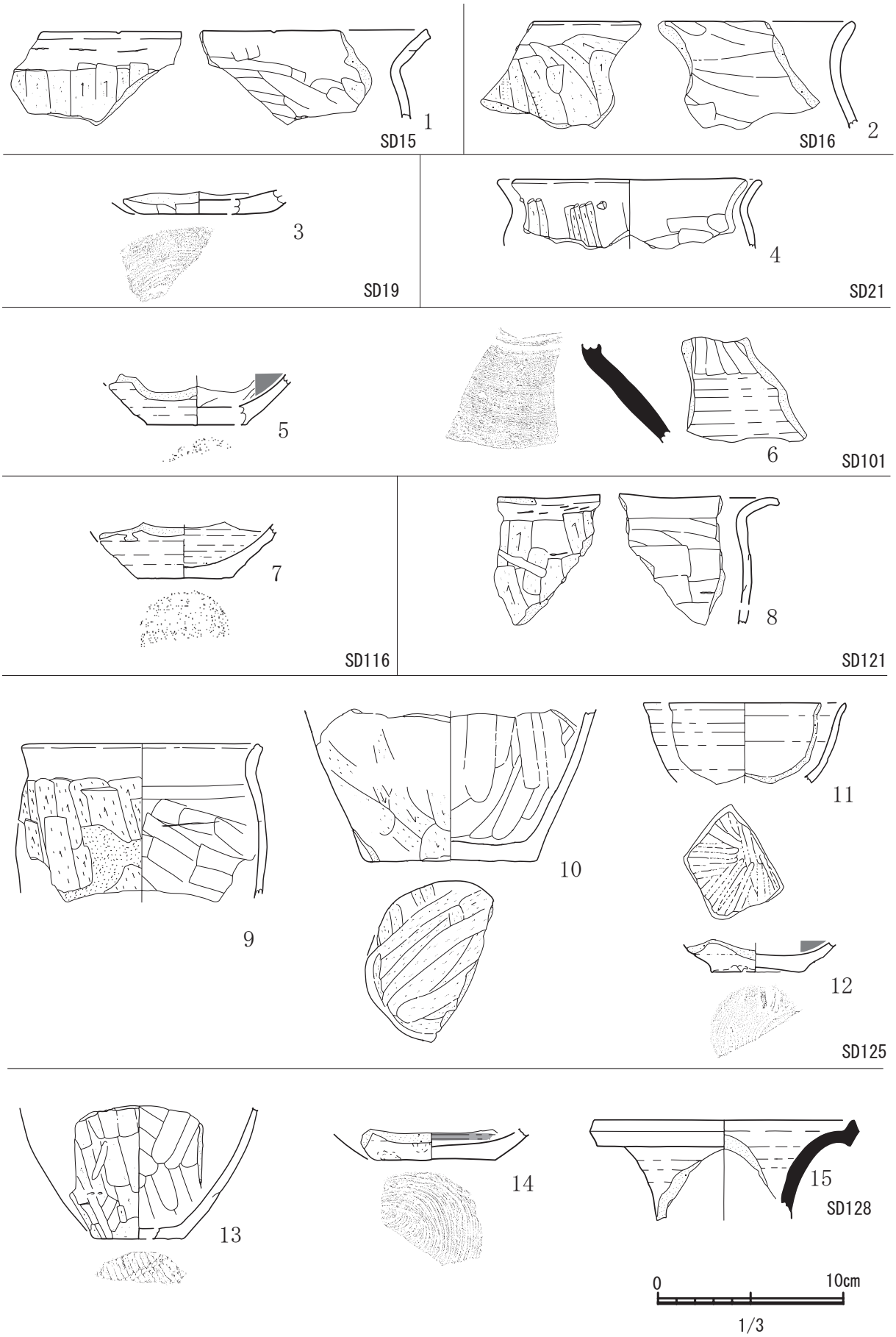


図157　遺構内出土土器（38）

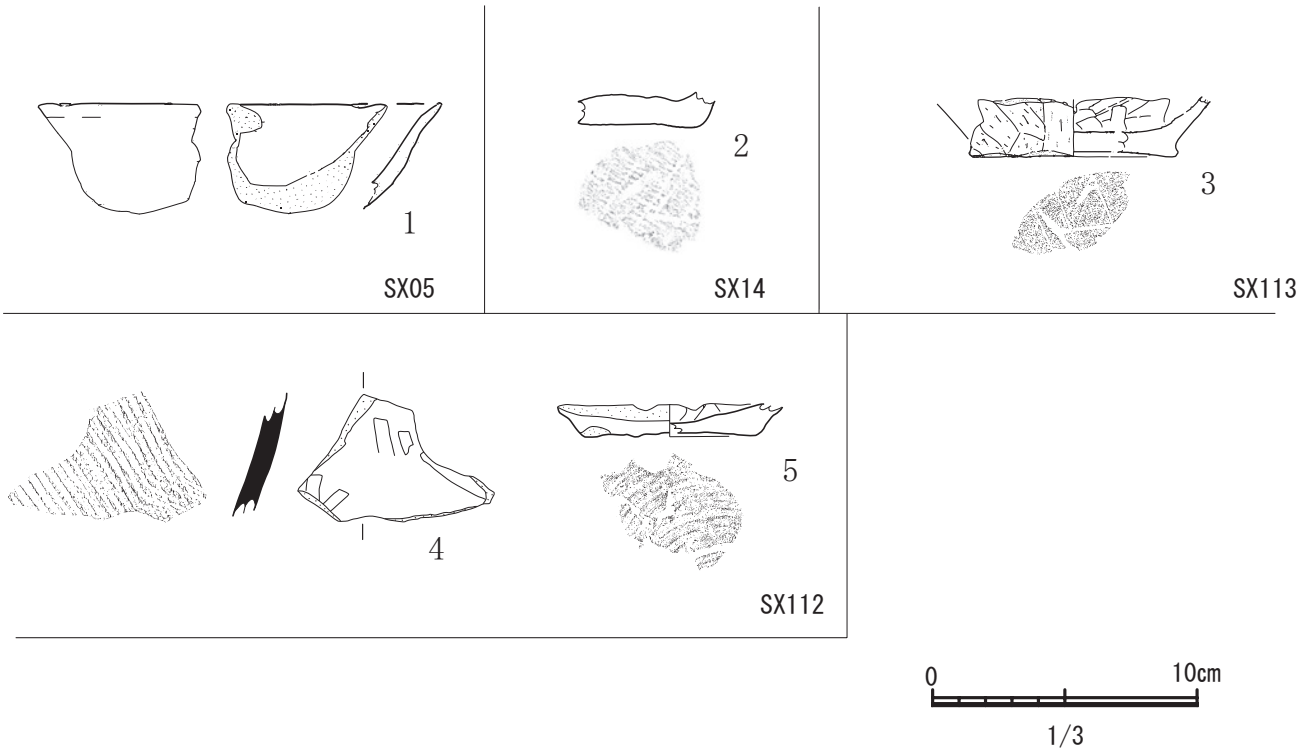


図158　遺構内出土土器（39）

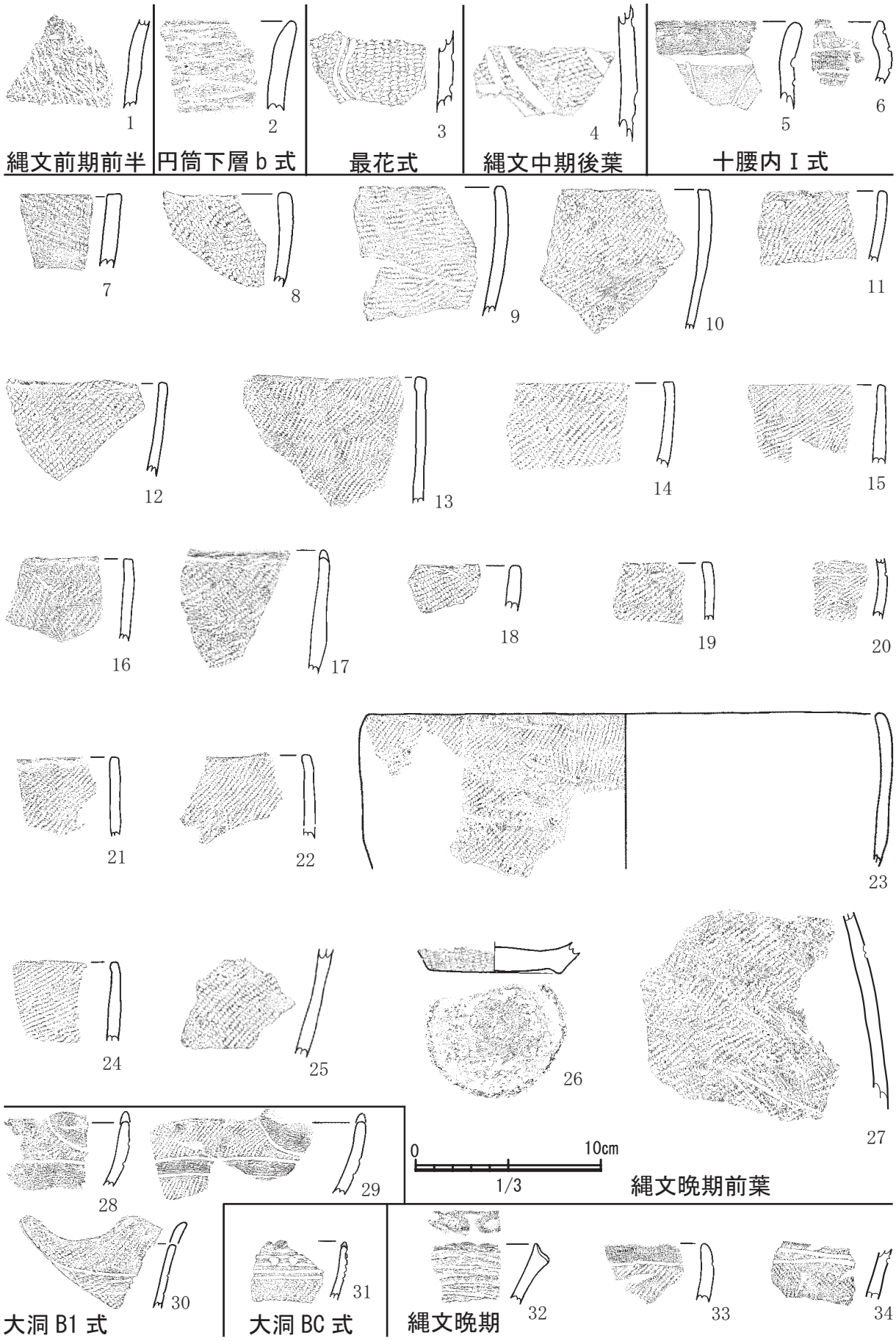


図159　遺構外出土土器（１）

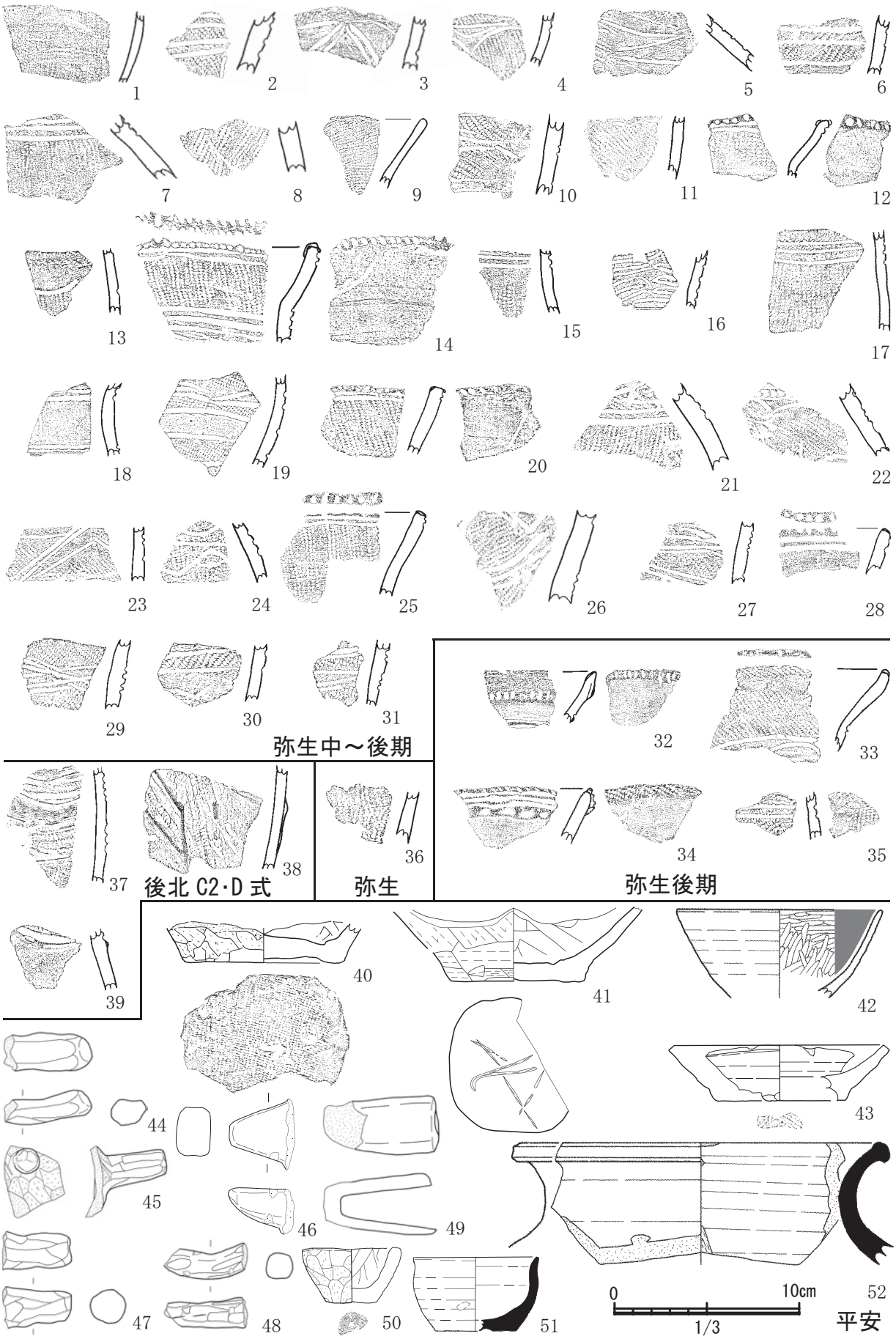


図160　遺構外出土土器（２）

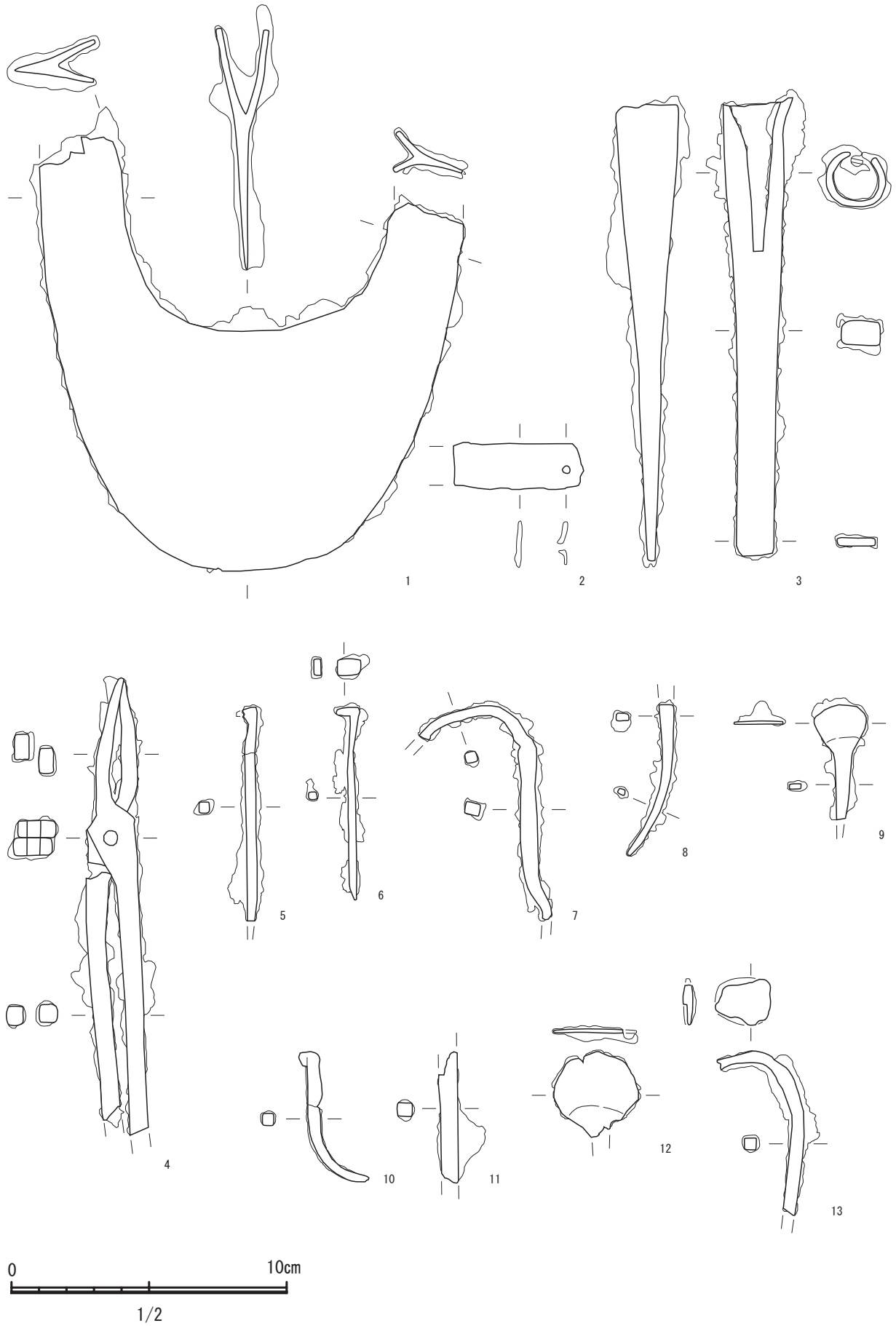


図161　鉄製品（１）

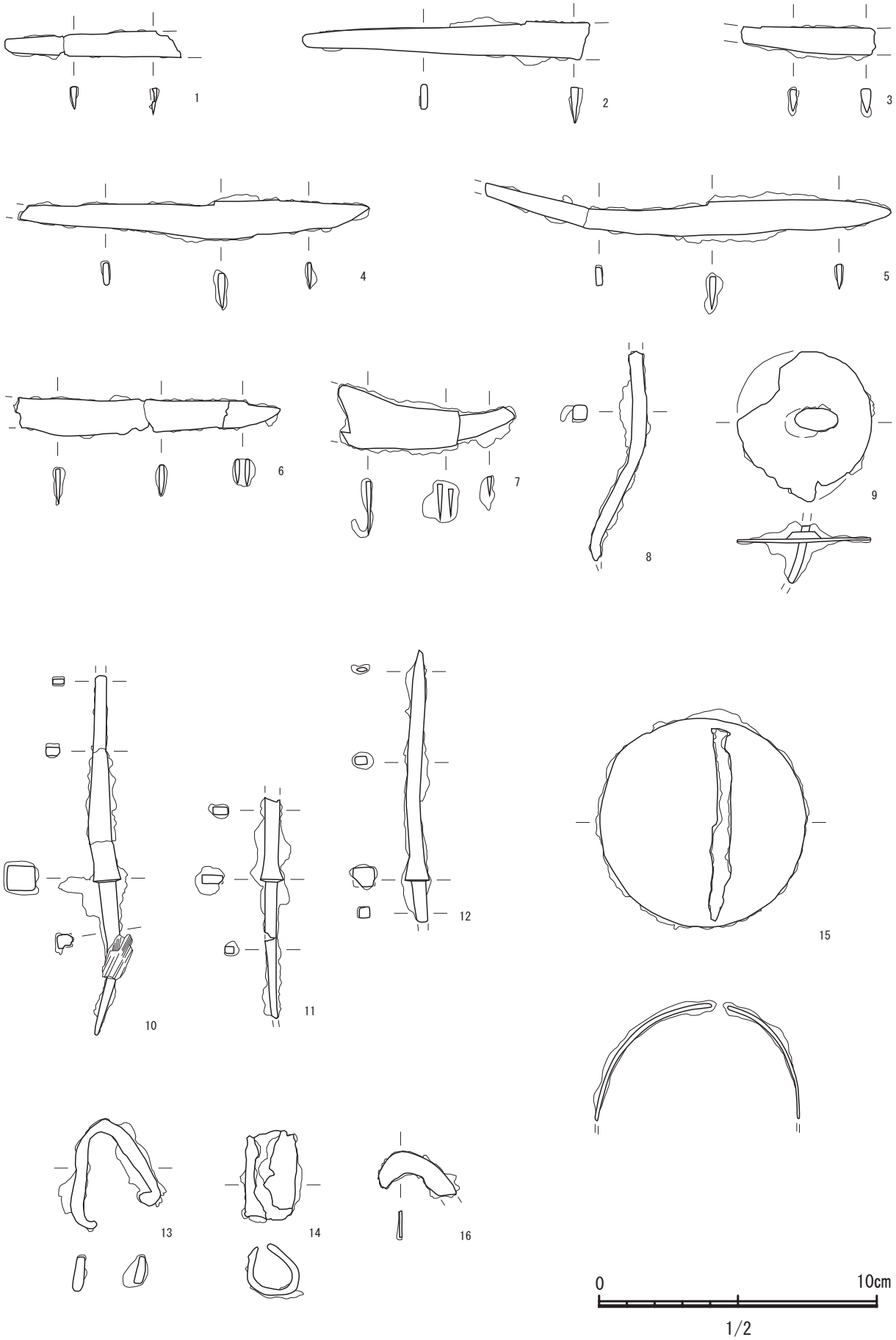


図162　鉄製品（２）

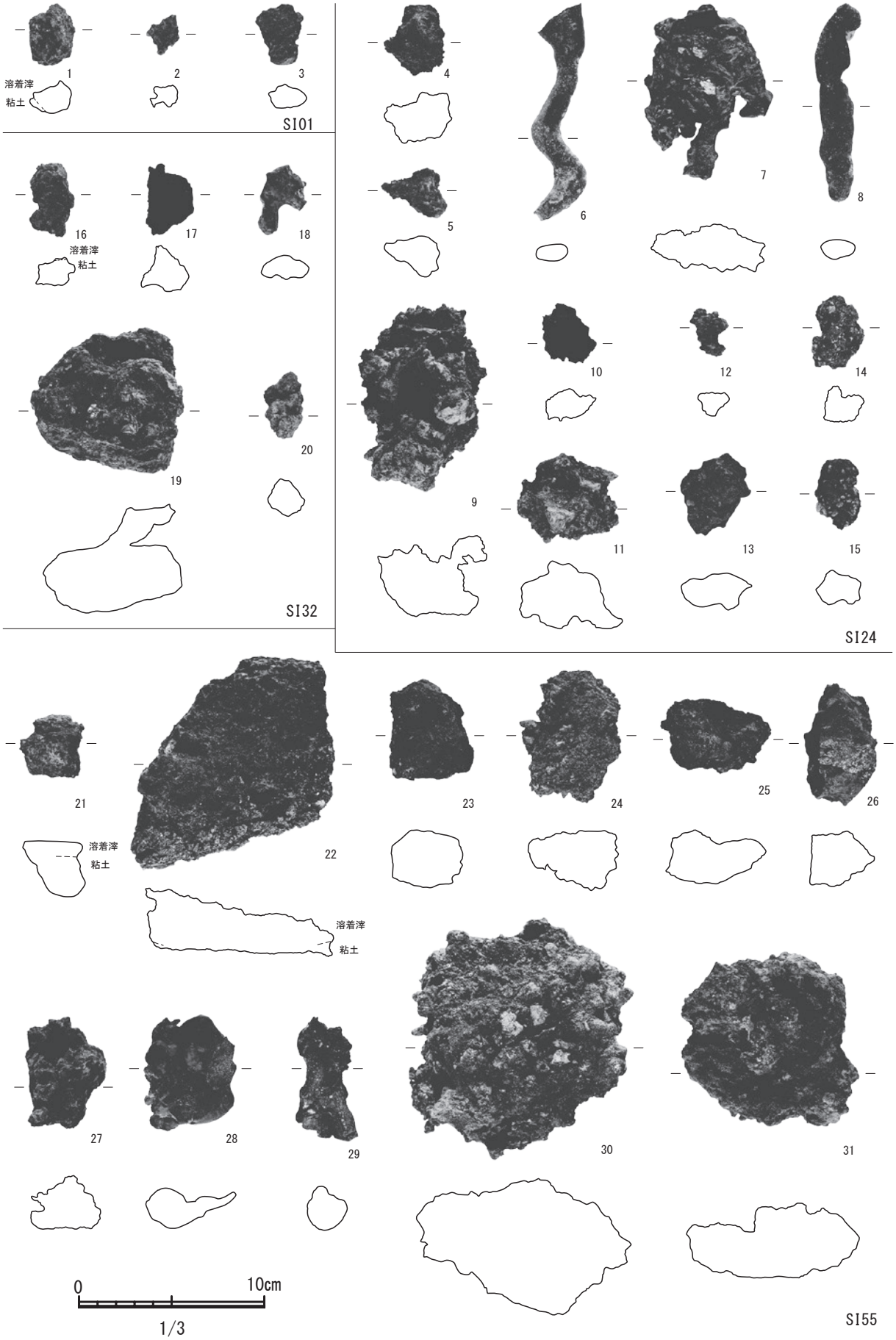

1
2
3
溶着滓
粘土
SI01
4
5
6
7
8
16
17
18
溶着滓
粘土
19
20
SI32
9
10
11
12
13
14
15
SI24
21
22
23
24
25
26
溶着滓
粘土
溶着滓
粘土
27
28
29
30
31
0
10cm
1/3
SI55

図163　鉄滓（１）

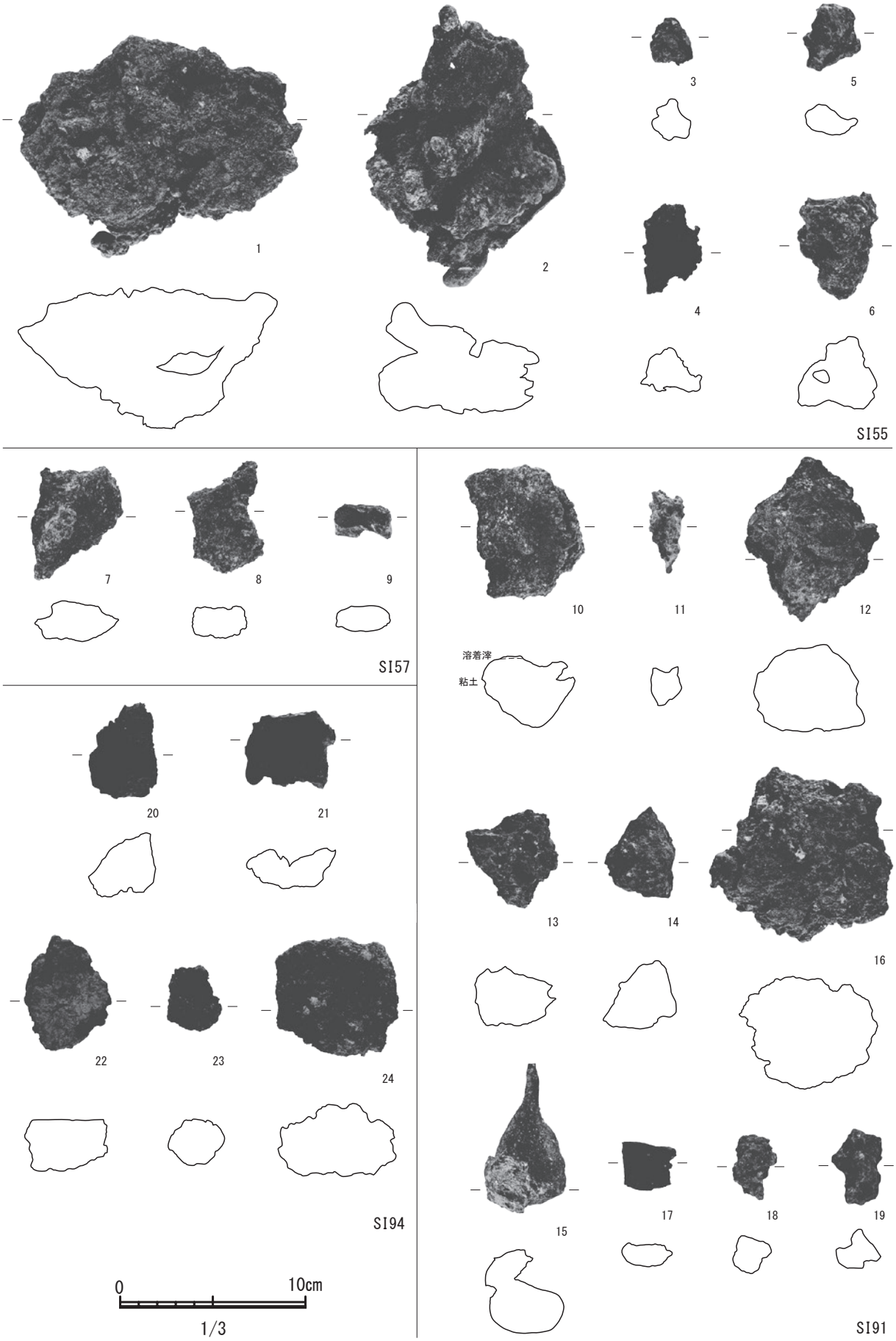

1
2
3
4
5
6
SI55
7
8
9
SI57
10
11
12
溶着滓
粘土
13
14
15
16
17
18
19
SI91
20
21
22
23
24
SI94
0
10cm
1/3

図164　鉄滓（２）

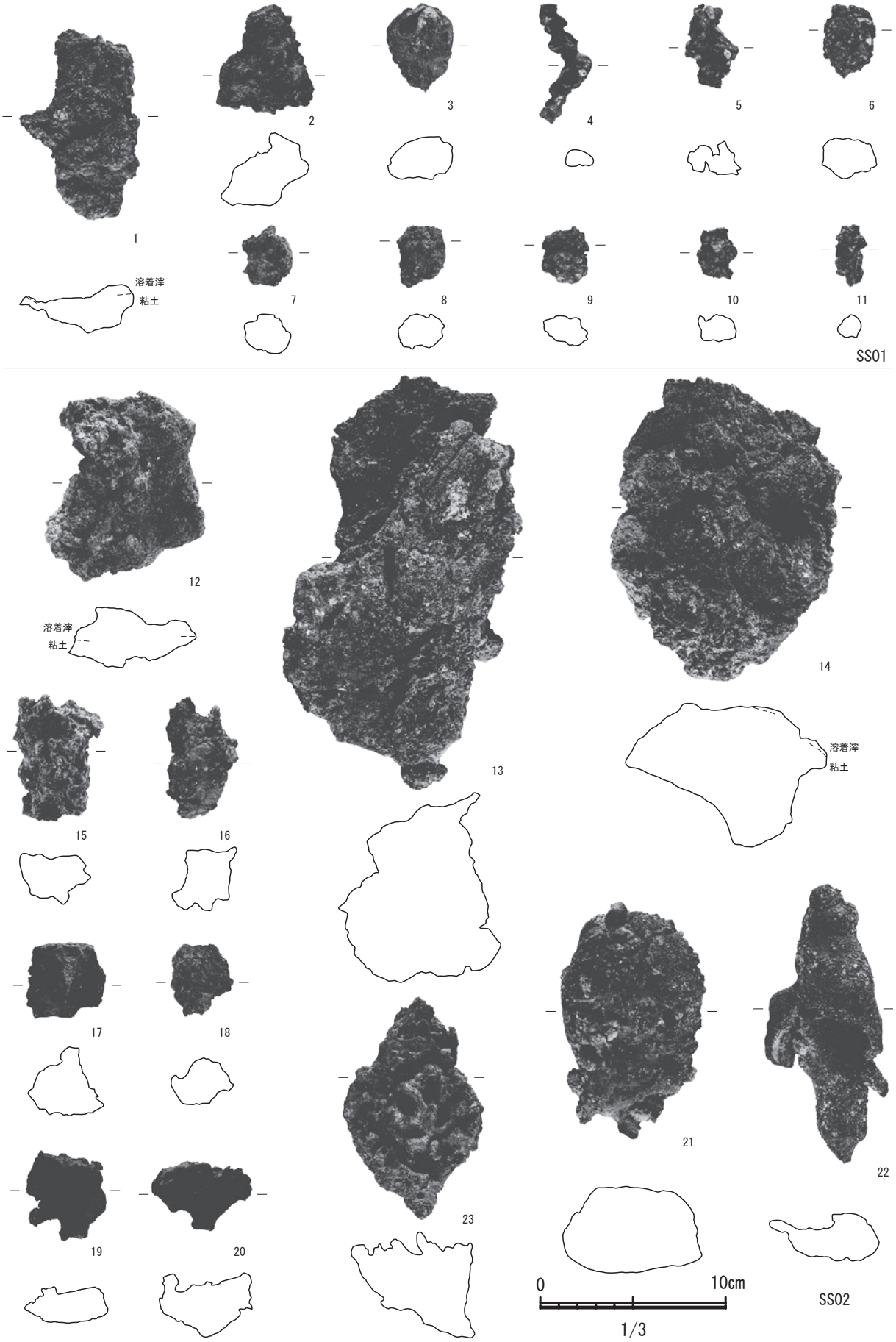

1
2
3
4
5
6
溶着滓
粘土
7
8
9
10
11
SS01
12
溶着滓
粘土
13
14
溶着滓
粘土
15
16
17
18
19
20
21
22
23
0
10cm
1/3
SS02

図165　鉄滓（３）

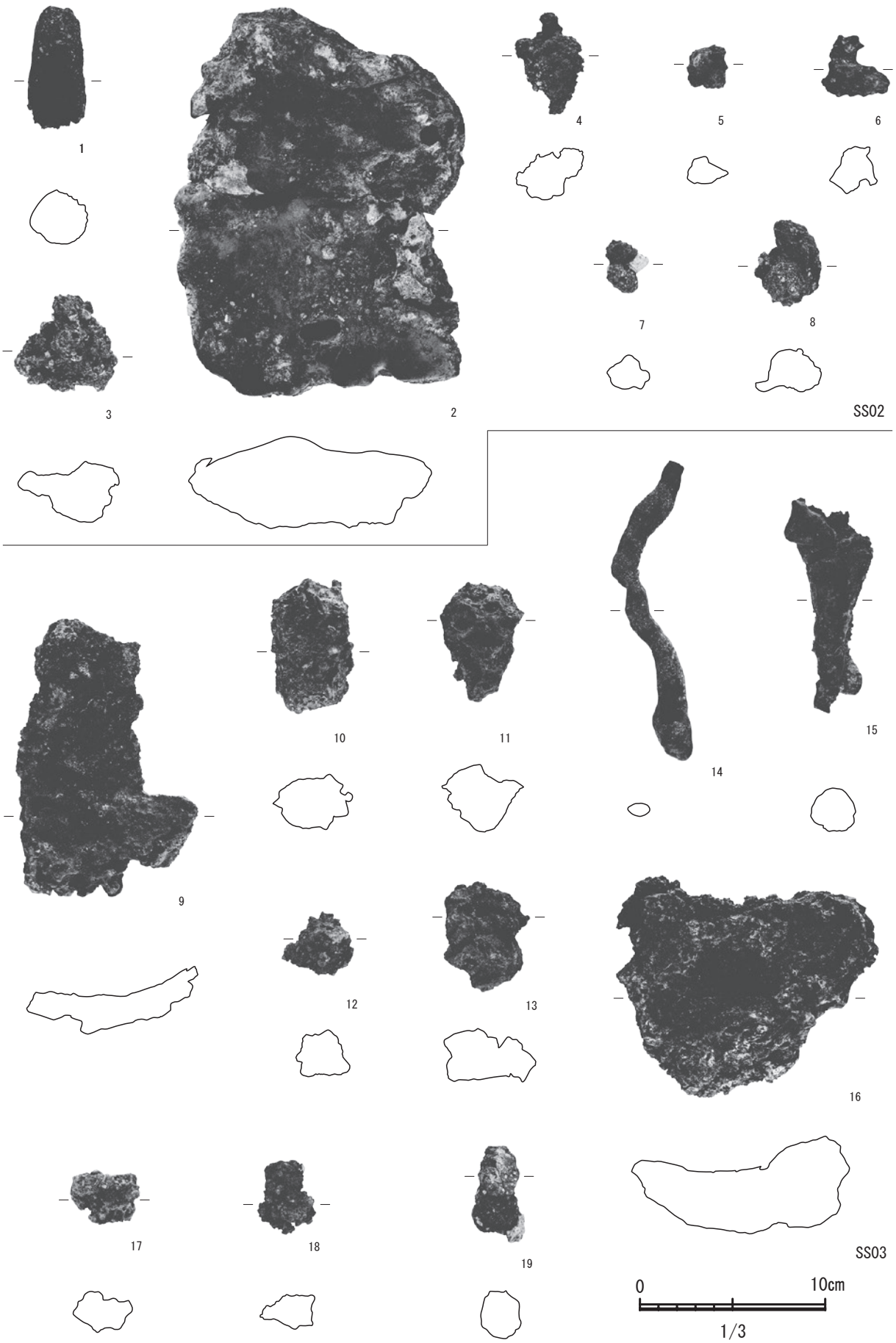


図166　鉄滓（4）

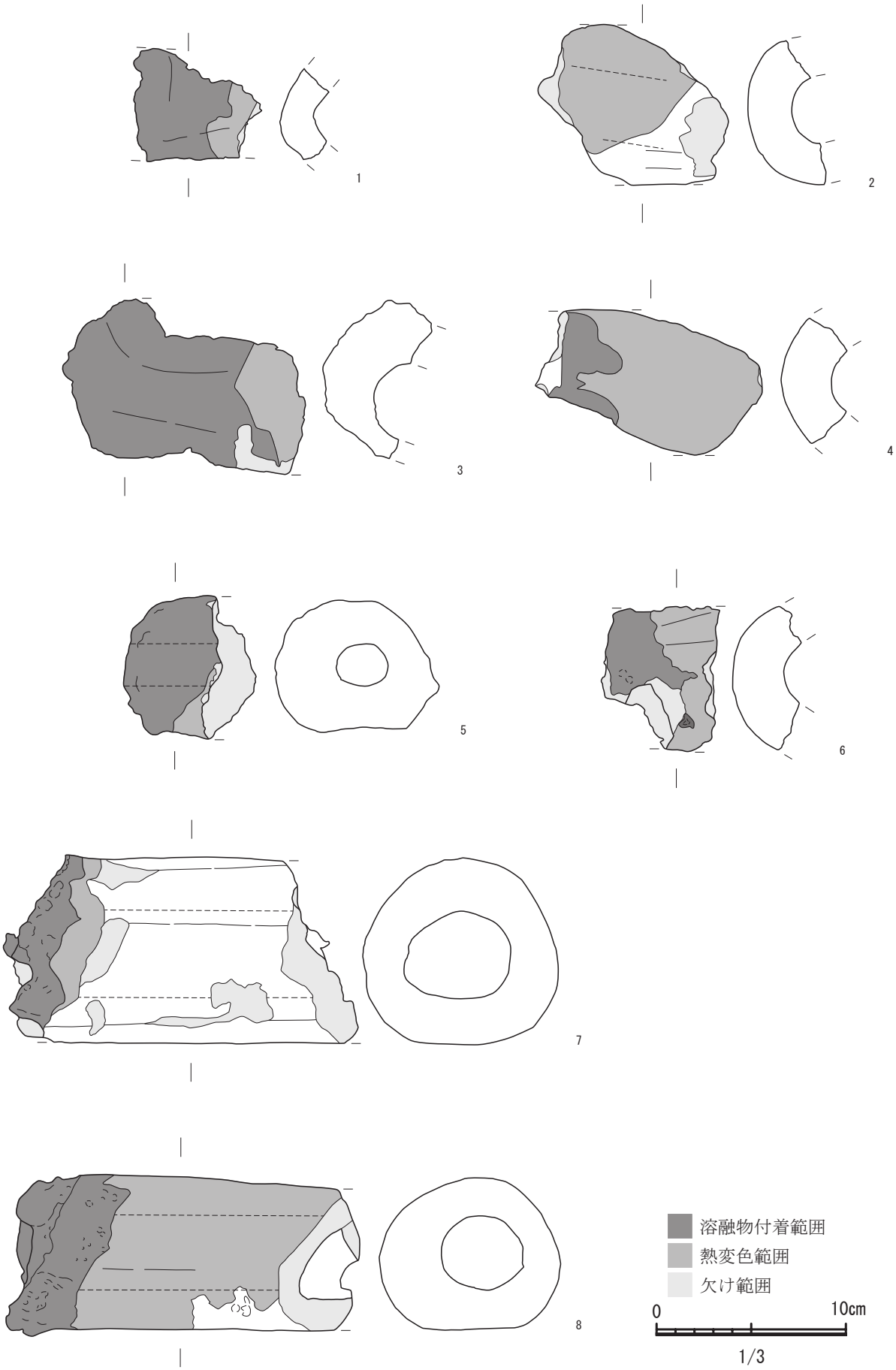


図167　羽口（１）

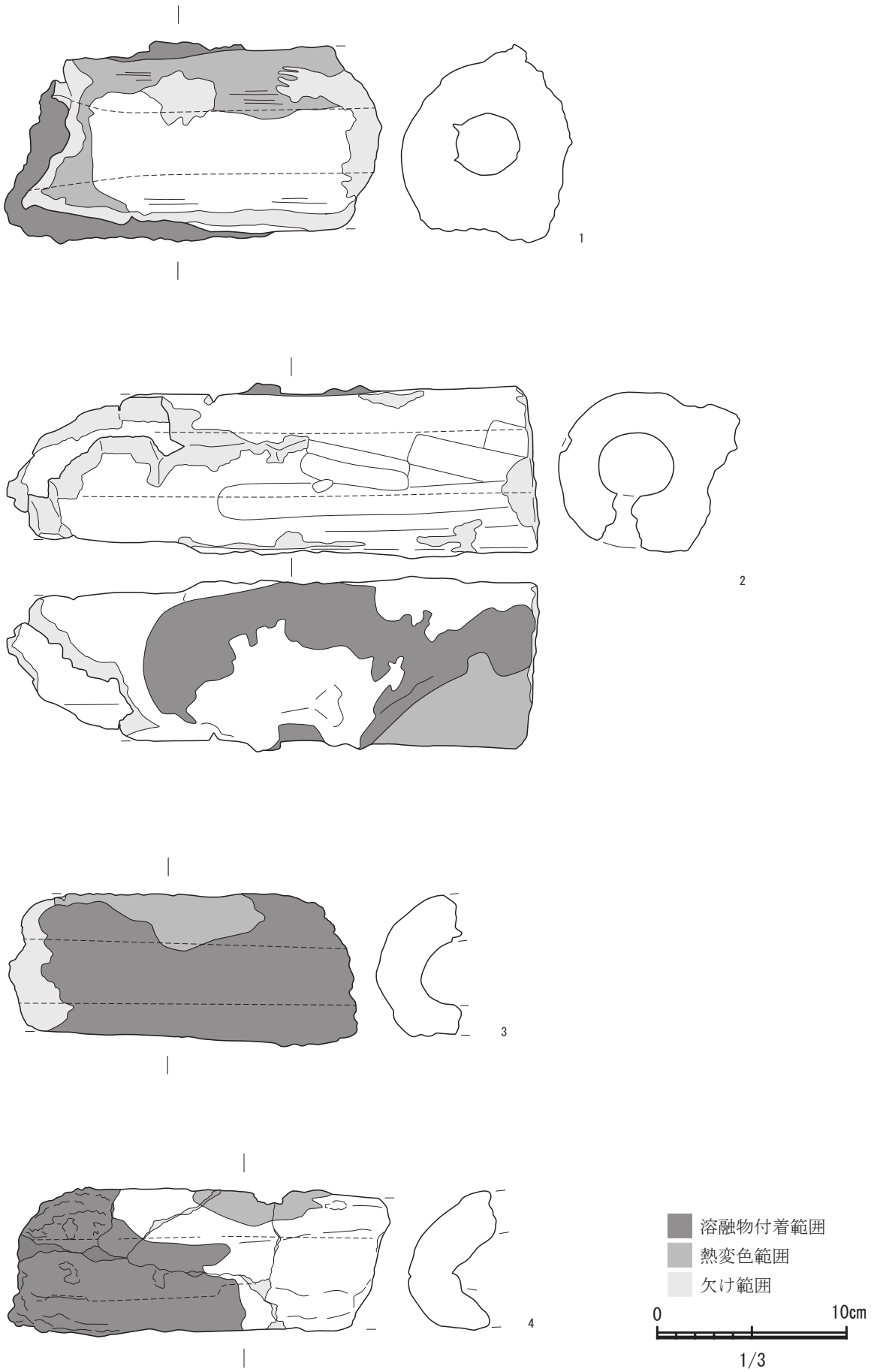


図168　羽口（２）

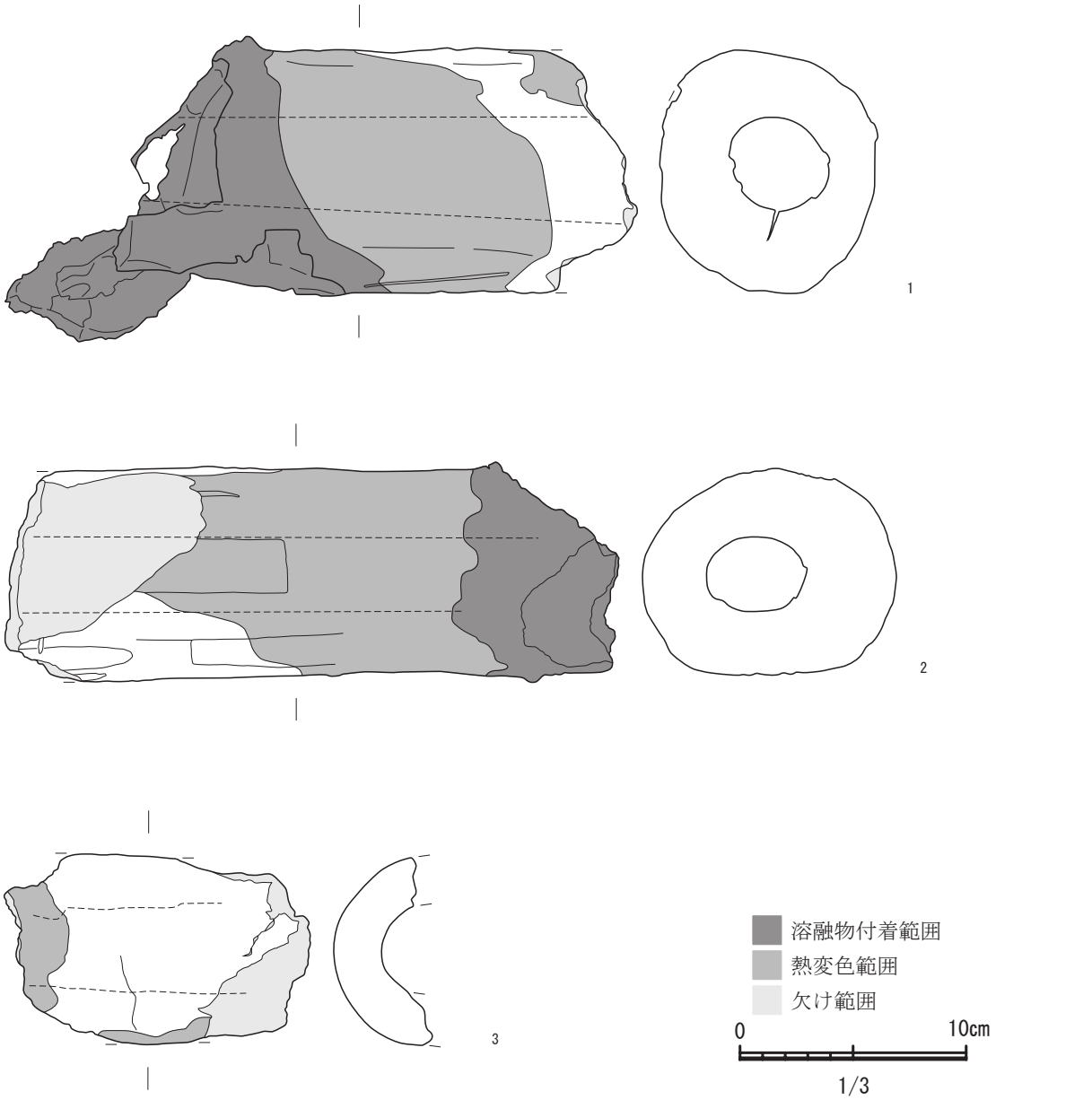


図169　羽口（３）

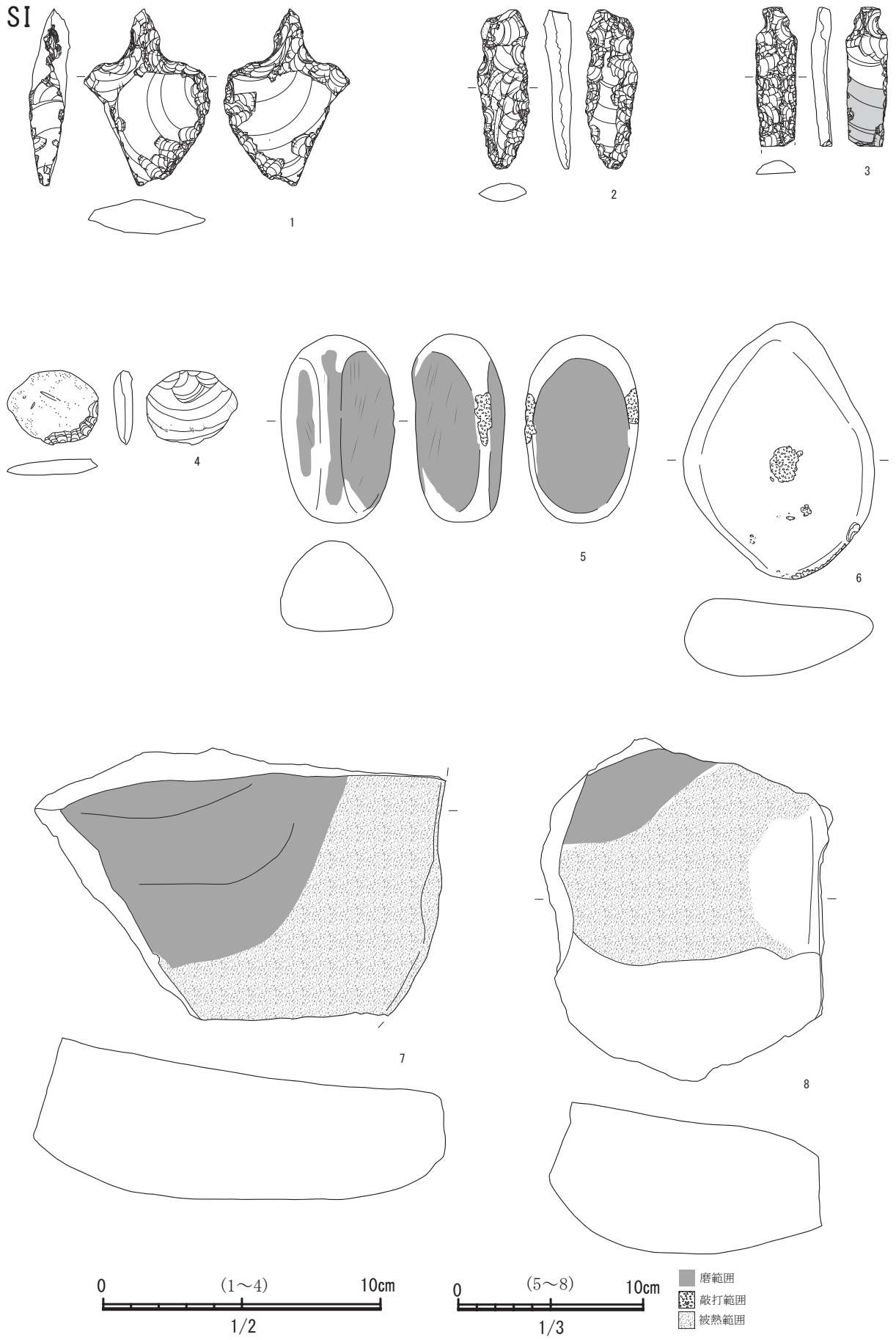


図170　遺構内出土石器（1）

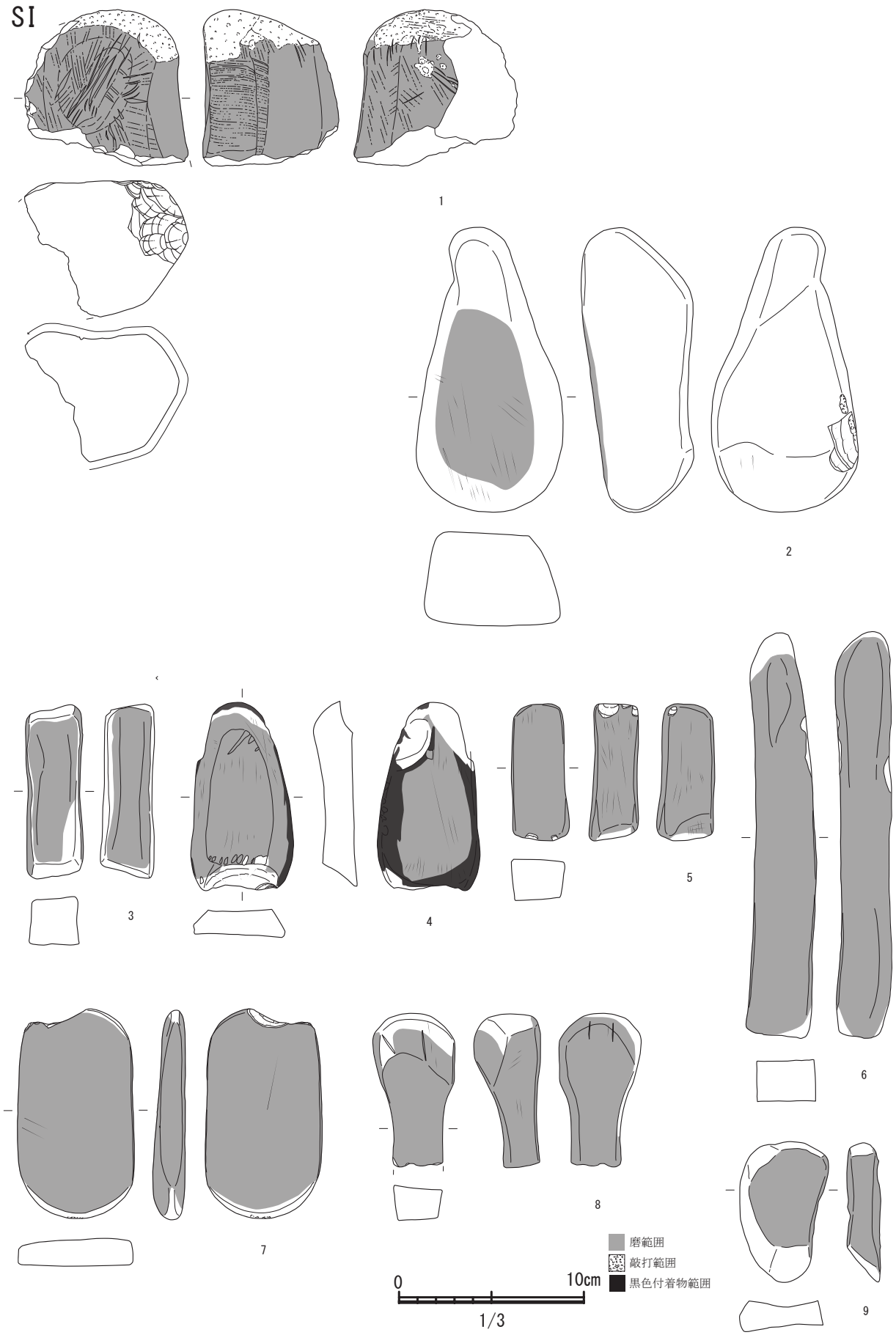
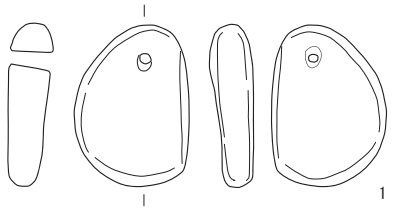
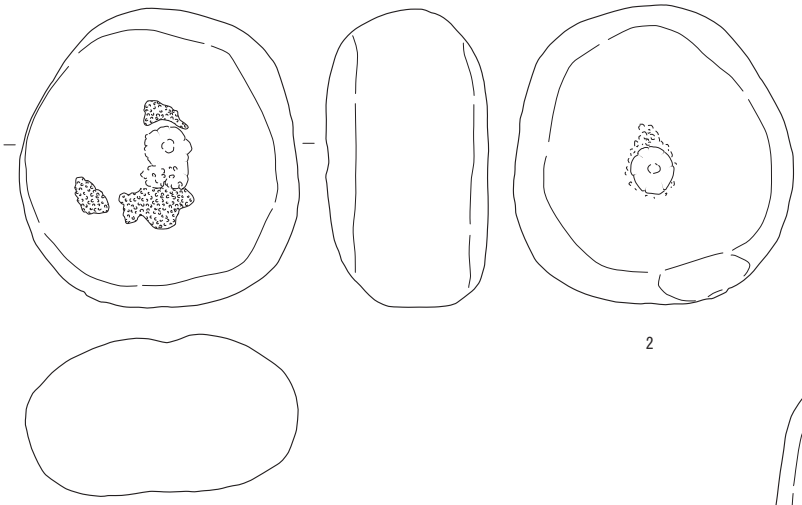


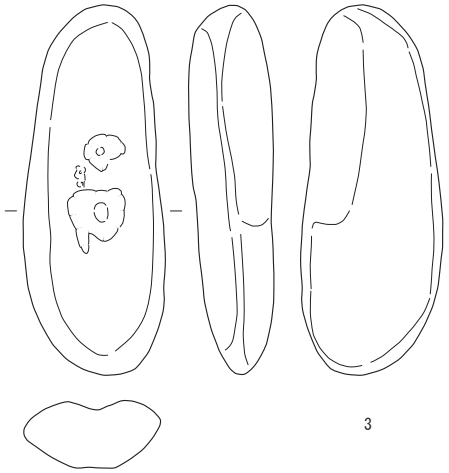
図171　遺構内出土石器（２）

SB

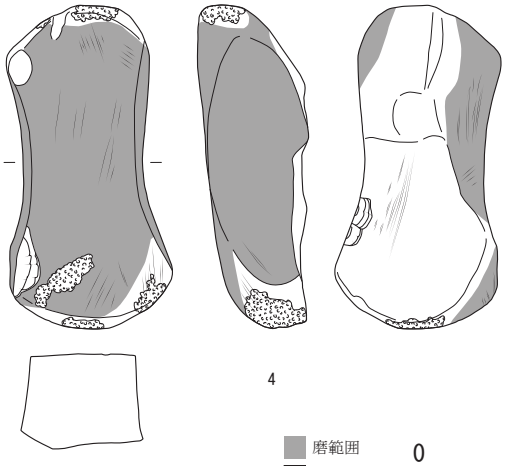


SD





SP



0 (1) 10cm
1/3

磨範囲
敲打範囲

0 (2～4) 10cm
1/2

図172　遺構内出土石器（３）・遺構内出土石製品

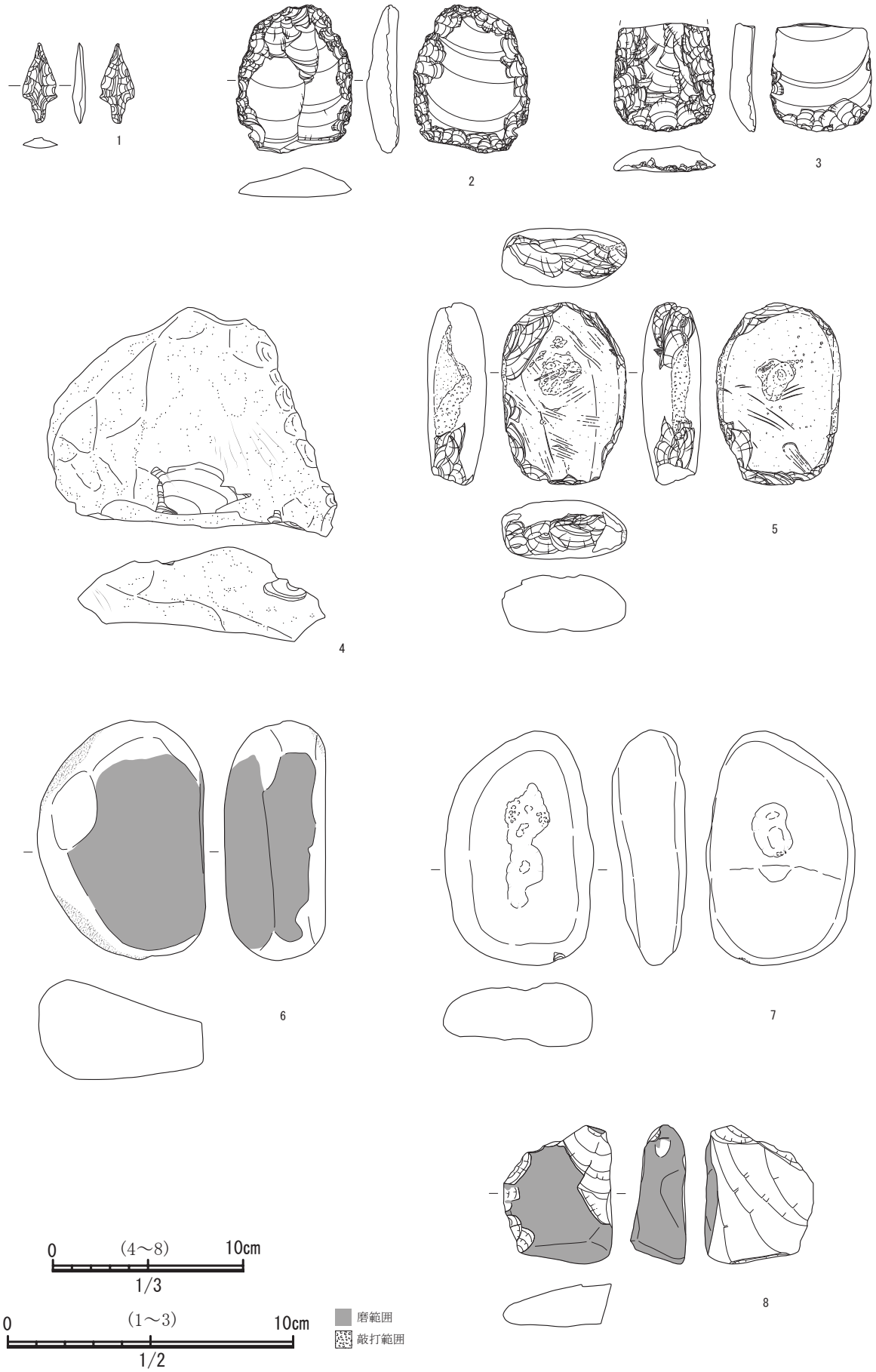


図173　遺構外出土石器

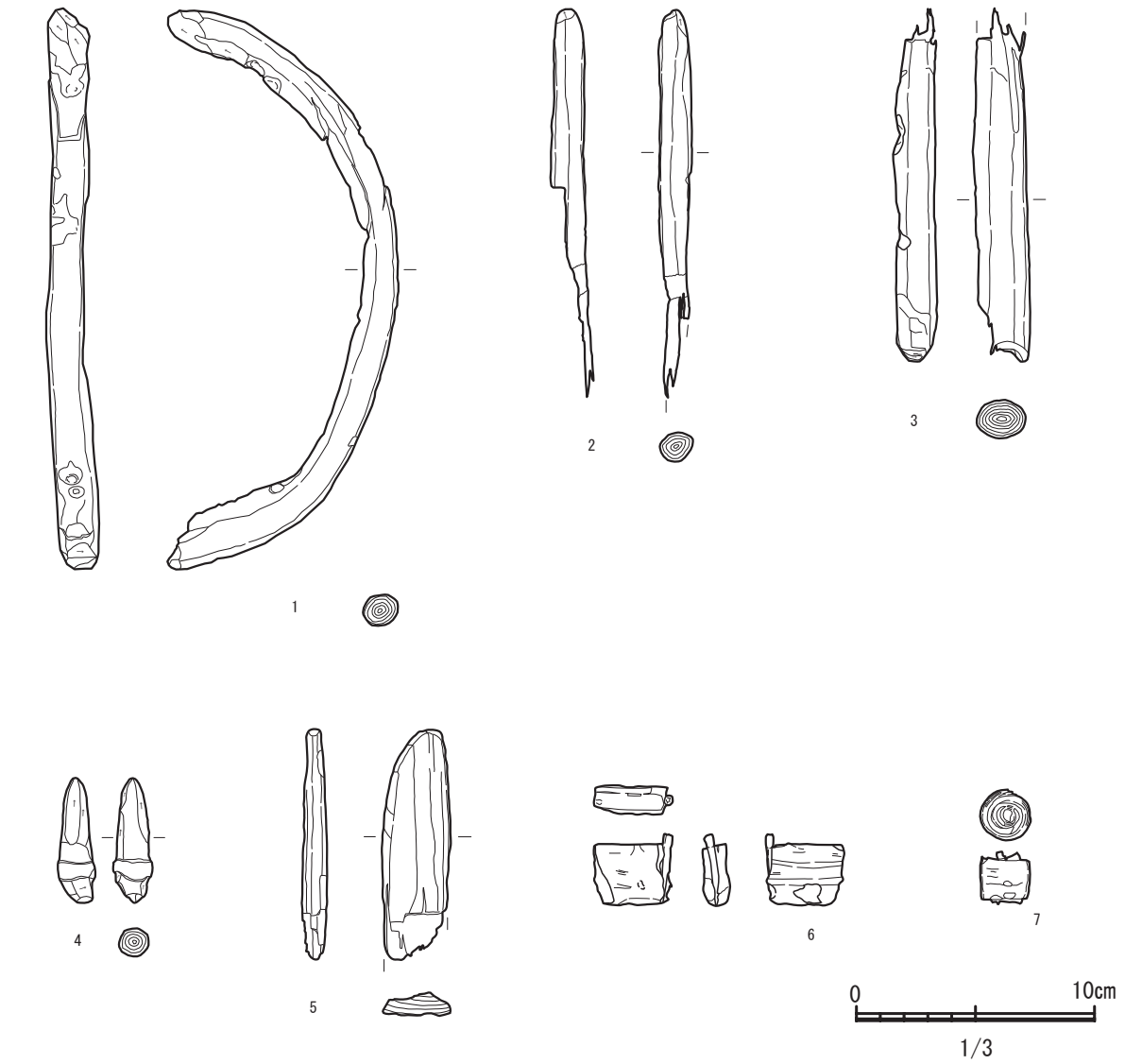


図174　木製品

第３節　遺構外出土遺物

１　土器（図 159･160）

遺構外からは縄文時代前期～平安時代にかけての遺物が出土した。

縄文時代の土器（図 159）

前期（１・２）

２点図示した。１は深鉢の体部片で、絡条体が充填される。前期前半に比定されると考えられる。２は深鉢の口縁部で、短軸絡条体６類により施文されている。円筒下層ｂ式に比定される。

中期（３・４）

２点図示した。３は深鉢の体部片で、２本一対の沈線により懸垂文が施されている。最花式に比定される。４は幅広の沈線による施文がみられ、中期後葉に比定されると考えられる。

後期（159- ５・６）

２点図示した。いずれも十腰内Ⅰ式に比定され、沈線による施文がみられる。

晩期（７～ 34）

29 点図示した。７～ 27 は晩期前葉に比定される。７～ 19・21 ～ 24 は深鉢の口縁部で、口唇部が面取されている。28 ～ 30 は大洞 B1 式に比定され、縄文充填後に沈線が施文される。沈線間は磨消がみられる。31 は大洞 BC 式に比定される。口唇部に刻目、口縁部に沈線と刺突がみられる。32 ～ 34 は晩期と思われるが、時期の詳細は不明である。32 は鉢の口縁部と考えられる。外面に条痕がみられ、口唇部は肥厚し指頭押厚が施される。

弥生時代の土器（図 160- １～ 36）

36 点図示した。１～ 31 は中期～後期、32 ～ 35 は後期に比定され、36 は詳細な時期は不明である。いずれも甕や壺と考えられる。全体的に縄文充填後に沈線が重層しており、３・23・24 には山形文がみられる。12･14･20･25･28･32 ～ 34 は口唇部に刻みがみられる。34 は口縁部に指頭押圧がみられ、34 と 35 は内面にも縄文が施されている。

続縄文時代の土器（図 160-37 ～ 39）

３点図示した。いずれも後北 C2-D 式に比定される。外面に微隆起線文が施され、それに沿うように帯縄文が施されている。

平安時代の土器（図 160-40 ～ 52）

13 点図示した。40･41 は土師器甕で､底面に 40 は布目圧痕､41 は刻書がみられる。42 は土師器坏で、内面黒色処理が施されている。43 は皿で、比較的硬質で口唇部にケズリが施されている。44・45・47 ～ 49 は把手付土器の把手である。49 のみ中空で、その他は中実である。46 は甑の把手で、ナデとケズリにより成形されている。50 は土師器のミニチュア土器で、手づくね成形である。51 は須恵器のミニチュア土器で、鉢形を呈する。52 は須恵器甕で、口縁部のみの出土である。

（久保）

２　鉄関連遺物

鉄製品は風化が激しいものや破片が多いことから図化しなかったが、器種ごとの出土点数・重量については表１で提示している。鉄滓類・羽口は鉄関連遺構出土資料を中心に図化していること、また、

遺構からの流れ込みの可能性が高いことから遺構外出土資料の図化は行わなかった。グリッドごとの鉄滓類・羽口の重量は表３で提示している。（久保）

３　石器・石製品

石器は、平安時代の遺構の覆土から散発的に出土したものが多い。遺構外出土石器は整理用コンテナで１箱程度と量的に少ない。砥石と台石は平安時代と考えられる。他の石器は縄文時代から弥生時代の複数の土器型式が出土しており詳細時期は不明である。（齋藤）

第４章　自然科学分析

第１節　沢部（1）遺跡出土イネの分析

上條信彦・小泉翔太・佐藤綾美（弘前大学人文社会科学部）・
田中克典（弘前大学農学生命科学部）

１．形状分析試料と分析方法

沢部（１）遺跡 SI06 検出の出土イネのうち、任意の 100 粒について形状分析を実施した。なお、試料は種子の入った土壌をフルイによって選別したものである。

方法は、イネ種子１粒ごと 200mm のマクロレンズ（Ai AF Micro-Nikkor 200mm f/4D IF-ED,（株）ニコン）を装着したカメラ（FinePix S1 Pro, フジフイルム（株））で撮影した。種子の長さと幅を Image J 1.47（National Institute of Mental Health, USA）を用いて計測した。粒大と粒型を、それぞれ長幅積と長幅比により算出した後、佐藤敏也氏の方法に従って種子を分類した。なお、粒大と粒型、集団内の平均、標準偏差や変動係数および集団間の有意差検定は EXCEL 統計 ver. 7.0（（株）エスミ）により実施した。

出土米の粒型と粒大の分類基準は、松本（1994）に依拠し、各遺跡の割合を検討した（表１）。

２．形状分析の結果（表２・３、図１・２）

観察の結果、100 粒の種子の状態は、籾片・小枝梗・種皮が付着するものが 34%、一部損失あるいは断片付着が 44% ある。よって、種子の多くはもともと籾の状態であり、塊が火災などにより焼失、種皮が融着したものが埋没後に粒が遊離したと判断される。

完全粒 90 粒の種子長は 4.72 ± 0.38mm、種子幅は 2.42 ± 0.20mm で、それらの相関間係数は 0.389 でやや相関が認められる。種子長と種子幅との比は 1.63 から 2.53 まで認められ、その比に基づくと、粒型は中短粒、長短粒、短長粒、中長粒の４つに分類された（図１左）。なかでも、長短粒と短長粒の割合が高い。

一方、種子長と種子幅の積は 6.57 から 14.25 までで、その値に基づくと粒大は極小型、小型、中型で構成され、小型が多い（図１右）。また、粒型と粒大を組み合わせると、長短粒の小型で 27 粒（30%）が最も多く、短長粒の小型・中型が各 16 粒（各 18%）と続く（表２）。

３.DNA 分析の方法

分析の方法は田中・上條（2014）による。

４.DNA 分析の結果

葉緑体ゲノムの２つの領域ならびに核ゲノムの２つの領域について、それぞれの特異的プライマーセットで PCR 増幅したが、期待サイズの DNA 断片は認められなかった。以上のことから、本遺跡の出土米は被熱などにより、標的とした DNA 領域が劣化していることを示すとみられる。

５．周辺遺跡と比較

田中・上條（2014）および田中・上條ほか（2015）の北東北３県のデータと比較すると、長粒かつ小型の傾向がある。同様の傾向は五所川原市十三盛遺跡、田舎館村前川遺跡、弘前市境関館遺跡にみられる。これらの遺跡は同じ津軽平野にあり、所属時期も重なる。したがって、本遺跡の結果は、古代における津軽平野の開発に伴って導入されたイネ品種を探るうえで注目される。

田中克典・上條信彦 2014『日本の出土米Ⅰ』弘前大学人文学部北日本考古学研究センター

田中克典・上條信彦・佐藤洋一郎 2015『日本の出土米Ⅱ　佐藤敏也コレクションの研究』六一書房

松本　豪 1994「日本の稲作遺跡と古代米に関する研究」『大阪府立大学紀要』第 46 号 . 135-194 頁

Katsunori Tanaka, Nobuhiko Kamijo, Hiroaki Tabuchi, Kuniko Hanamori, Ryuji Matsuda, Junko Suginomori, Yo-Ichiro Sato, Tetsuro Udatsu, Ryuji Ishikawa (2015) “Morphological and molecular genetics of ancient remains and modern rice (Oryza sativa) confirm diversity in ancient Japan” *Genetic Resources and Crop Evolution*, 63-3, pp. 447-464

表1 出土米の粒型と粒大の分類基準

粒型		長幅比
長粒	長	2.6-3.6
	中	2.3-2.6
	短	2.0-2.3
短粒	長	1.8-2.0
	中	1.6-1.8
	短	1.4-1.6
円粒	長	1.2-1.4
	中	1.0-1.2
	短	1.0以下

粒大タイプ	長幅積
極大	20以上
大	16-20
中	12-16
小	8-12
極小	8以下

松本（1994)の一部を改変

表2　沢部（1）遺跡SI06検出のイネ種子の形態

遺構	粒型		粒大 極小	小	中	大	極大	計
SI06	長粒	長						0
		中		3				3
		短		25	11			36
	短粒	長	1	16	16			33
		中	1	11	6			18
		短						0
	円粒	長						0
		中						0
		短						0
計			2	55	33	0	0	90

図１　粒型と粒大

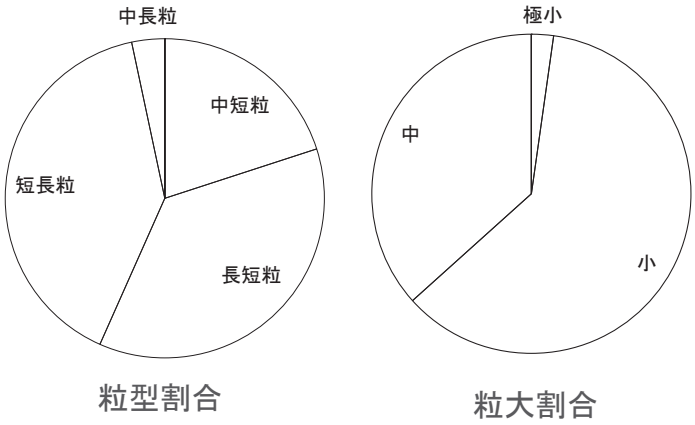


表3　沢部（１）遺跡SI06検出のイネ種子の観察表

番号	長さ (mm)	幅 (mm)	粒型		粒大		備考	番号	長さ (mm)	幅 (mm)	粒型		粒大		備考
			長幅比	型	長幅積	型					長幅比	型	長幅積	型	
1	4.39	2.37	1.85	長短粒	10.40	小	一部破壊	**51**	4.84	2.60	1.86	長短粒	12.58	中	一部破壊
2							横部破壊	**52**	4.95	2.40	2.06	短長粒	11.88	小	土付
3	4.97	2.40	2.07	短長粒	11.93	小	一部破壊	**53**							破壊
4	5.16	2.66	1.94	長短粒	13.73	中		**54**	4.62	2.44	1.89	長短粒	11.27	小	土付
5	4.98	2.43	2.05	短長粒	12.10	中	一部破壊、土付	**55**	5.22	2.34	2.23	短長粒	12.21	中	
6	4.36	2.66	1.64	中短粒	11.60	小	一部破壊	**56**	4.74	2.82	1.68	中短粒	13.37	中	土付
7	4.71	2.34	2.01	短長粒	11.02	小	土付	**57**	4.87	2.56	1.90	長短粒	12.47	中	一部破壊
8	5.19	2.66	1.95	長短粒	13.81	中		**58**	5.32	2.56	2.08	短長粒	13.62	中	断片付着
9	5.26	2.53	2.08	短長粒	13.31	中	種皮付	**59**							破壊
10	5.03	1.99	2.53	中長粒	10.01	小	一部破壊	**60**	4.58	2.28	2.01	短長粒	10.44	小	断片付着
11	4.62	2.56	1.80	長短粒	11.83	小	一部破壊	**61**							横部破壊
12	4.74	2.37	2.00	短長粒	11.23	小		**62**	4.84	2.34	2.07	短長粒	11.33	小	土付
13	4.20	2.31	1.82	長短粒	9.70	小		**63**	5.22	2.72	1.92	長短粒	14.20	中	一部破壊
14	4.58	2.50	1.83	長短粒	11.45	小	一部破壊	**64**	5.00	2.56	1.95	長短粒	12.80	中	一部破壊
15	4.65	2.21	2.10	短長粒	10.28	小	種皮付	**65**	4.33	2.40	1.80	長短粒	10.39	小	一部破壊
16	4.68	2.53	1.85	長短粒	11.84	小	断片付着	**66**	5.16	2.76	1.87	長短粒	14.24	中	一部破壊
17	5.06	2.63	1.92	長短粒	13.31	中	一部破壊	**67**							破壊
18	4.52	2.56	1.77	中短粒	11.57	小	土付	**68**	4.46	2.50	1.78	中短粒	11.15	小	一部破壊
19	5.06	2.76	1.83	長短粒	13.97	中	一部破壊、土付	**69**	4.81	2.50	1.92	長短粒	12.03	中	土付
20	4.39	2.40	1.83	長短粒	10.54	小	一部破壊	**70**	4.58	2.12	2.16	短長粒	9.71	小	
21	5.26	2.47	2.13	短長粒	12.99	中	断片付着	**71**							破壊
22	5.03	2.34	2.15	短長粒	11.77	小	土付	**72**	4.94	2.50	1.98	長短粒	12.35	中	一部破壊、土付
23	4.33	2.15	2.01	短長粒	9.31	小	土付	**73**	4.23	2.47	1.71	中短粒	10.45	小	土付
24	4.39	2.34	1.88	長短粒	10.27	小	土付	**74**	5.29	2.47	2.14	短長粒	13.07	中	断片付着、土付
25	5.06	2.56	1.98	長短粒	12.95	中	土付	**75**	4.78	2.53	1.89	長短粒	12.09	中	断片付着、土付
26	4.26	2.34	1.82	長短粒	9.97	小	一部破壊	**76**							横部破壊
27	5.61	2.47	2.27	短長粒	13.86	中	断片付着	**77**	3.78	2.18	1.73	中短粒	8.24	小	土付
28	4.71	2.31	2.04	短長粒	10.88	小	一部破壊	**78**	4.65	2.05	2.27	短長粒	9.53	小	土付
29	4.94	2.31	2.14	短長粒	11.41	小	土付	**79**							頂部破壊
30	3.59	1.83	1.96	長短粒	6.57	極小	一部破壊	**80**	4.23	2.44	1.73	中短粒	10.32	小	一部破壊、土付
31	4.74	2.34	2.03	短長粒	11.09	小	土付	**81**	4.90	2.63	1.86	長短粒	12.89	中	一部破壊
32	5.26	2.24	2.35	中長粒	11.78	小		**82**	4.58	2.24	2.04	短長粒	10.26	小	土付
33	4.94	2.34	2.11	短長粒	11.56	小		**83**	4.20	2.18	1.93	長短粒	9.16	小	一部破壊
34	4.74	2.88	1.65	中短粒	13.65	中	土付	**84**	4.71	2.12	2.22	短長粒	9.99	小	種皮付
35	5.22	2.56	2.04	短長粒	13.36	中	一部破壊	**85**	5.13	2.47	2.08	短長粒	12.67	中	一部破壊
36	5.00	2.15	2.33	中長粒	10.75	小		**86**							横部破壊
37	4.33	2.44	1.77	中短粒	10.57	小	土付	**87**	4.74	2.28	2.08	短長粒	10.81	小	断片付着
38	4.38	2.57	1.70	中短粒	11.26	小	断片付着	**88**	4.42	2.50	1.77	中短粒	11.05	小	種皮付
39	5.48	2.60	2.11	短長粒	14.25	中	一部破壊、土付	**89**	4.26	1.99	2.14	短長粒	8.48	小	
40	4.55	2.66	1.71	中短粒	12.10	中	一部破壊	**90**	4.23	2.24	1.89	長短粒	9.48	小	断片付着
41	4.78	2.72	1.76	中短粒	13.00	中	一部破壊	**91**	4.81	2.34	2.06	短長粒	11.26	小	一部破壊
42	4.62	2.40	1.93	長短粒	11.09	小	断片付着	**92**	4.97	2.72	1.83	長短粒	13.52	中	断片付着、土付
43	4.49	2.21	2.03	短長粒	9.92	小		**93**	4.52	2.12	2.13	短長粒	9.58	小	断片付着
44	4.90	2.50	1.96	長短粒	12.25	中	土付	**94**	4.65	2.50	1.86	長短粒	11.63	小	土付
45	4.97	2.18	2.28	短長粒	10.83	小		**95**	4.33	2.66	1.63	中短粒	11.52	小	一部破壊
46	4.58	2.15	2.13	短長粒	9.85	小	土付	**96**	4.29	2.37	1.81	長短粒	10.17	小	
47	4.81	2.47	1.95	長短粒	11.88	小	一部破壊	**97**	4.84	2.69	1.80	中短粒	13.02	中	断片付着
48	4.62	2.24	2.06	短長粒	10.35	小	土付	**98**	3.65	2.15	1.70	中短粒	7.85	極小	土付
49							横部破壊	**99**	4.17	2.50	1.67	中短粒	10.43	小	一部破壊
50	5.03	2.47	2.04	短長粒	12.42	中	断片付着	**100**	4.65	2.82	1.65	中短粒	13.11	中	土付

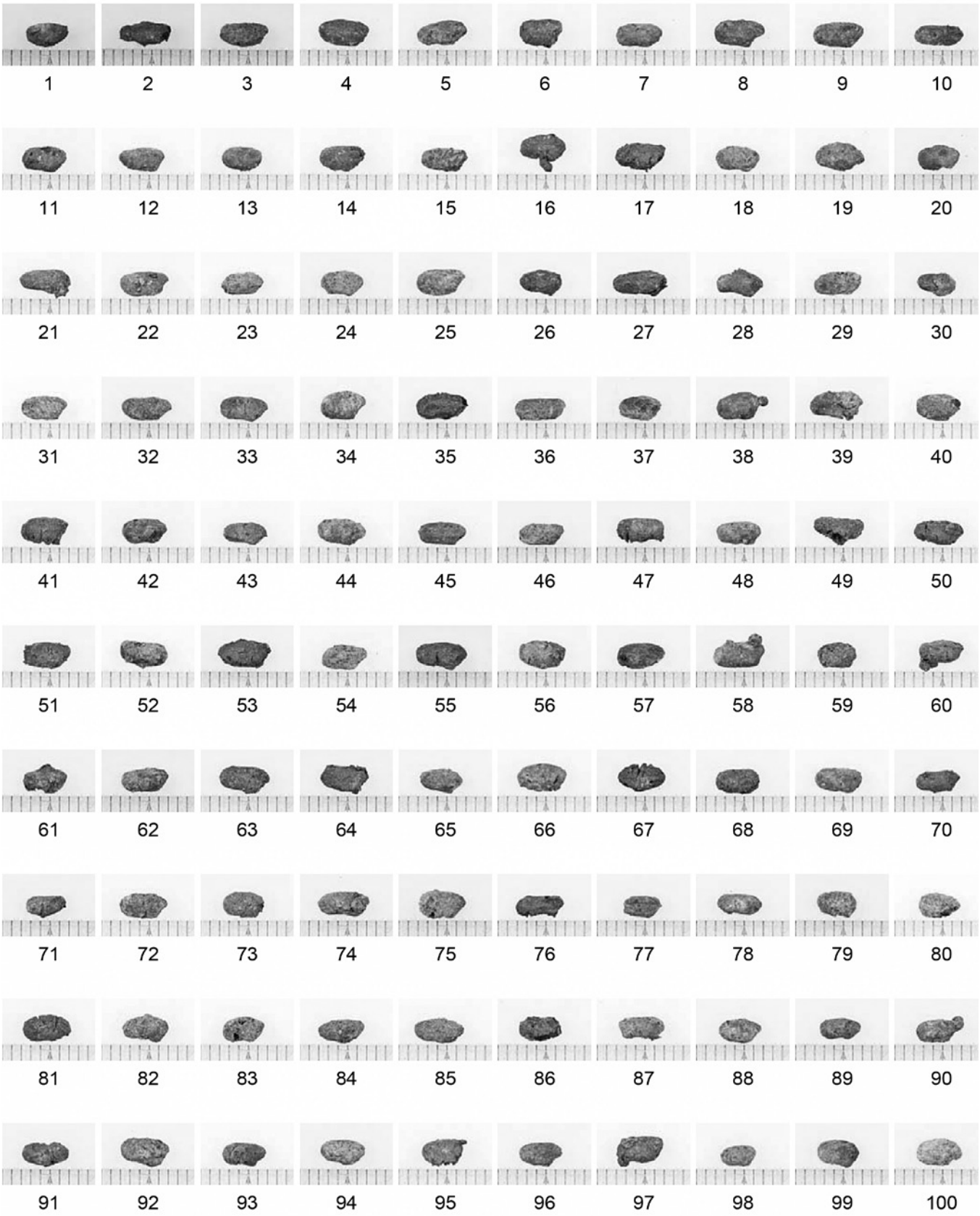


図２　沢部（１）遺跡 SI06 より出土したイネ種子

第２節　沢部（1）遺跡から出土した炭化種実塊の構造分析

（株）パレオ・ラボ

1．はじめに

弘前市大字小栗山に所在する沢部（1）遺跡は、大和沢川右岸の標高約 100 ～ 120m の段丘上に立地する、縄文時代および古代の複合遺跡である。ここでは、古代（10 世紀後半）の建物跡から出土した炭化種実塊の構造を観察し、種実塊の内容物や塊の形成過程について検討した。なお、炭化種実塊に付着していた炭化材の樹種同定も行われている。

2．試料と方法

試料は、竪穴建物跡である SI06 の床面直上から出土した炭化種実塊 2 点である。SI06 は焼失住居跡である。試料 No.1 は 1 個体、試料 No.2 は複数の破片に割れていた。試料 No.2 は、ある程度残りが良い破片と、細片となった破片が分けられて保管されていたため、それぞれ最も残りが良かった破片を試料 No.2-1、2-2 として抽出した。

試料の採取は、青森県埋蔵文化財調査センターが行った。炭化種実塊および炭化種実の同定および観察は、肉眼および実体顕微鏡下で行った。炭化種実塊が同一の分類群で構成されている場合は、重量から完形種子換算数を求めた。

試料 No.1 の炭化種実塊について、X 線 CT 画像解析を行った。X 線 CT 画像解析は、炭化種実塊を充分に乾燥させた後、ラップに包んで試料台に固定し、ヤマト科学株式会社製の三次元計測 X 線 CT 装置（TDM3000H-FP）を用いて X 線 CT 画像を撮影した。X 線管電圧は 300KV、X 線管電流は 0.140mA、ビュー数 1800、フレーム平均数 1、検出器の積分時間は 0.5sec である。それぞれ任意の直交する三方向（上面（xy）、正面（xz）、右側面（yz））について、数 mm 単位で断層写真撮影を行い、2DCT 画像（スライス画像）を構築した。コントラストは X 線が透過しやすい部分ほど濃いグレーで表示されている。断層像（CT 像）の再構成は装置付属のソフトウェアを用い、マトリックスサイズ（各 XYZ：1024pixel）、再構成視野サイズ（各 XYZ：107mm）、再構成画素サイズ（各 XYZ：0.104492mm）の条件で再構成した。断面図は、スライス画像で特徴的な部分をイラストレーターでトレースして作成した。

炭化種実塊を構成する種実の計測は、いずれも塊から遊離した完形個体を対象として、デジタルノギスで小数点第二位まで計測し、炭化種子の最小値、最大値、平均値、1 標準偏差を求めた。同定された試料は、青森県埋蔵文化財調査センターに保管されている。

表1　沢部（1）遺跡から出土した炭化種実塊（単位：mm，g）

試料No.	遺構	内容物	部位	長軸	短軸	厚さ	重量（g）	備考
No.1	SI06	イネ	炭化種子塊	94.6	51.2	40.6	48.8	
No.2-1	SI06	イネ・アワ	炭化種子塊	46.0	34.0	15.5	－	最大破片、材付着
No.2-2	SI06	イネ・アワ	炭化種子塊	43.1	28.6	12.9	－	最大破片

3．同定および観察結果

炭化種実塊の表面観察を行った結果、試料 No.1 にはイネ炭化種子（頴果）のみがみられた。試料 No.2 は細片に割れていたが、アワ炭化種子（頴果）とイネ炭化種子（頴果）が混ざった塊で、表面

の一部に木材が付着していた（表 1）。

以下、炭化種実塊について試料番号別に記載する（図版 1、2）。なお、試料 No. 1 の X 線照射方向を正面として、その上側を上面、側面を右側面と左側面に分けて記載する。試料 No. 2 は任意の方向を上面とした。

試料 No. 1：塊を構成している種実は、すべてイネ炭化種子であった。塊の外面形態を観察すると、上面はやや平坦で、下面は種子が変形かつ潰れていて、湾曲面を形成していた。正面および左側面は粒の形態が観察され、本来の形状から割れた面と推定された。試料 No. 1 から遊離したイネがなかったため、試料 No. 2-2 のイネ 10 点の重量（0.0765g）から換算した、試料 No. 1 のイネ炭化種子の完形種子換算数は、約 6380 点であった。

炭化種実塊を正面、右側面、上面から撮影した X 線 CT 画像を図版 1 に示す。画像の白色部分は種実を示し、黒色部分は内部の空洞を示す。

X 線 CT 画像による内部構造の観察の結果、中央よりやや右側の上面から下面方向に細長い不定形の空洞が見られた。上面からみると長軸 4mm 程度の小さい孔であるのに対し、内部の最大幅は 8mm で、底面には見られないため、炭化米塊内部に何らかの内容物が存在していた痕跡である可能性が高い。

遺跡から出土した炭化米塊の内部構造を X 線 CT で観察すると、おにぎりであったり、炊飯された米が容器に入っていた場合は塊の表面付近は米の密度が高くなるが、炭化米塊の内部の種子は粒の形状を保つ（佐々木ほか，2009）。しかし、沢部（1）遺跡の試料 No. 1 は内部まで密な状態で、内部の米も粒の形状をほとんど保っておらず、中実なイネが多かった。特に、塊に厚みがある左側の下面側は粒の形状がほとんど観察できず、CT 画像の輝度も高いため、粒の密度が高い様子が観察された。

試料 No. 2：元は同一個体と思われる破片が複数あり、最大の破片でも一辺 3 ～ 4cm 程度の大きさであった。どの破片も上下面が平坦で、厚さは 1.2 ～ 1.5cm であった。種実はイネとアワの炭化種子（穎果）が観察できた。イネは膨張して変形した個体が多く含まれ、粒同士が糊着している状況から判断して、炊飯後の塊と判断される。また、上面にはイネが多く、下面にはアワが多い傾向があり、下面には木材が部分的に付着していた。木材はアスナロの板材であり、容器の可能性が推定されている。上面は平坦だが、木材は観察できず、板のような偏平なもので種子の粒が潰れたような様子は見られなかった。

次に、炭化種実の記載を行って同定の根拠とする。

(1) イネ　*Oryza sativa* L.　炭化種子（穎果）　イネ科

上面観は両凸レンズ形、側面観は長楕円形。一端に胚が脱落した凹みがあり、両面に縦方向の 2 本の浅い溝がわずかに残る。試料 No. 2 の炭化種子の大きさは、長さ 4.7 ～ 5.7（平均 5.3 ± 0.3）mm、幅 2.5 ～ 3.0（平均 2.7 ± 0.1）mm（表 2）。

表2　炭化種実の大きさ

		長さ	幅	試料No.
イネ	炭化種子	5.0	2.6	2-2
	炭化種子	5.5	2.7	
	炭化種子	5.5	2.6	
	炭化種子	5.1	3.0	
	炭化種子	5.6	2.7	
	炭化種子	5.3	2.7	
	炭化種子	4.7	2.7	
	炭化種子	5.1	2.6	
	炭化種子	5.0	2.5	
	炭化種子	5.7	2.7	
	最小	4.7	2.5	
	最大	5.7	3.0	
	平均	5.3	2.7	
	標準偏差	0.3	0.1	
		長さ	幅	試料No.
アワ	炭化種子	1.0	1.2	
	炭化種子	1.2	1.2	
	炭化種子	1.1	1.2	
	炭化種子	1.2	1.4	
	炭化種子	1.0	1.0	
	炭化種子	1.2	1.4	
	炭化種子	1.3	1.4	
	炭化種子	1.2	1.2	
	炭化種子	1.2	1.1	
	最小	1.0	1.0	
	最大	1.3	1.4	
	平均	1.2	1.2	
	標準偏差	0.1	0.1	

(2) アワ　*Setaria italica* P.Beauv.　炭化種子（頴果）　イネ科

上面観は楕円形、側面観は円形に近い。腹面下端中央の窪んだ位置に細長い楕円形の胚がある。胚の長さは全長の 2/3 程度。全体の大きさは、長さ 1.0 ～ 1.3（平均 1.2 ± 0.1）mm、幅 1.0 ～ 1.4（平均 1.2 ± 0.1）mm（表 2)。

4. 考察

10 世紀後半の竪穴建物跡の床面から出土した炭化種実塊を同定したところ、試料 No.1 はイネの炭化種子塊、試料 No.2 はイネとアワが混ざった炭化種子塊と推定された。

試料 No.1 のイネの炭化種子塊の下面は粒が潰れて変形し、湾曲面が形成されていた。調理後の米が何らかの容器や包みに入れられ、押し付けられたと考えられる。また、全体的に内部の粒同士が糊着していて粒の形状がほとんど確認できず、粒の内部が中実な米が多く、下面近くや正面左側ではその傾向が顕著に観察された。調理された現生の米の CT 画像解析の結果を踏まえると、このように米の変形率および米の密度が高く、かつ種子塊の内部の種子が中実な個体が多いのは、低温で水分が多い影響を受けたためである可能性が推測される。水分を多く含んだ粥状の状態で容器に入った米が塊になったのかもしれない。また、炭化種実塊の下面の湾曲した形状から判断すると、木製椀や土器などの硬い容器に入れられた状態で炭化した可能性がある。

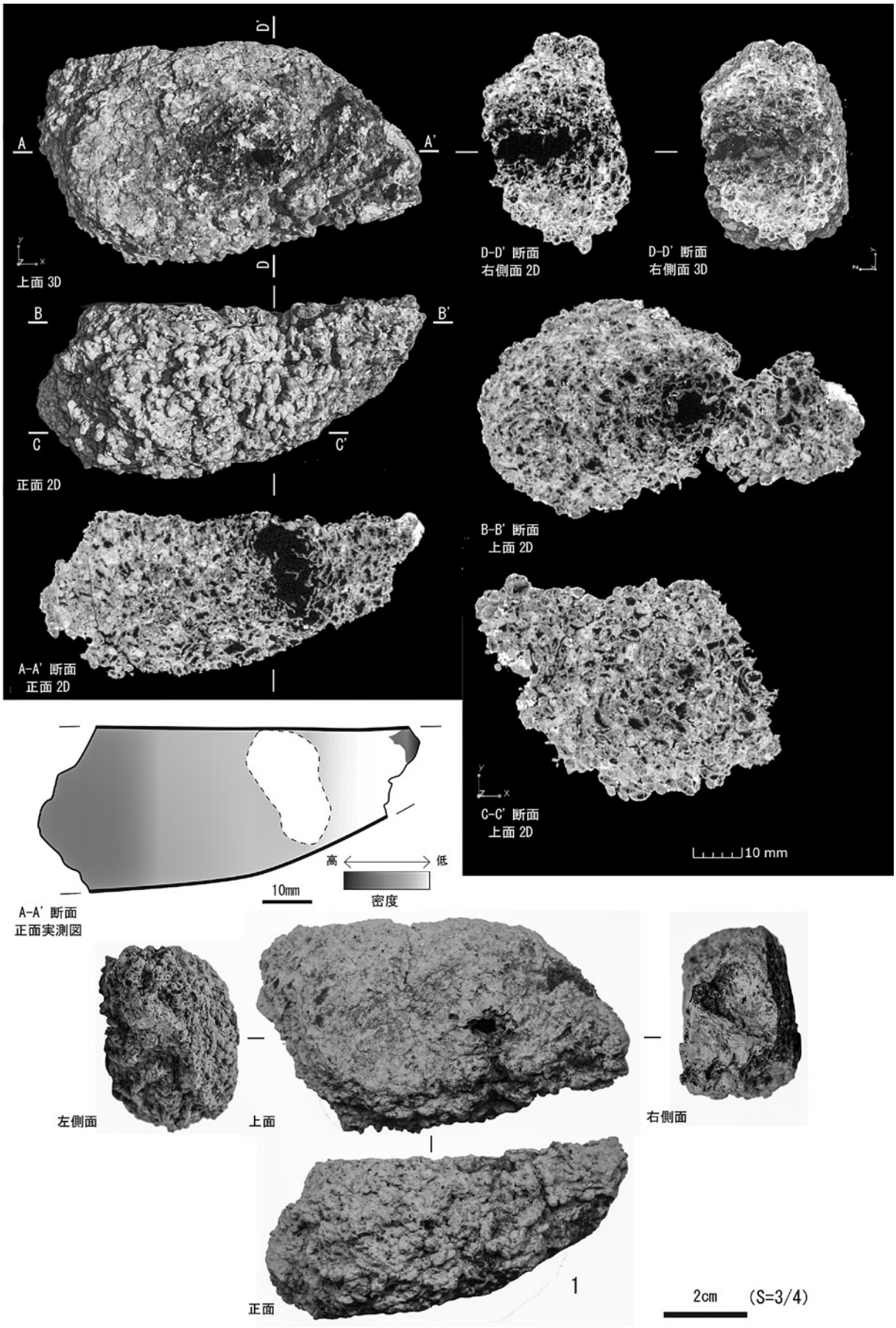
試料 No.2 では、イネとアワの 2 種が確認された。下面側は容器の可能性がある板材に押し付けられ、穀類は変形して平坦面を形成していた。また上面も平坦面を形成しているが、下面よりも粒の形状が保たれており、柔らかい道具などで平坦にならされた可能性がある。したがって、炊いた雑穀米が容器に入れられ、さらに柔らかい道具などで表面がならされ、平坦になった可能性がある。また、炭化種実塊に付着していた板材はアスナロであり、曲物などに入れられた可能性が推定されている。曲物は櫃や弁当箱など、調理後の雑穀米を保管する容器として用いられたかもしれない。

隣接する沢部（2）遺跡では、古代（10 世紀頃）の製炭土坑の可能性が高いと推定されている。土坑 2 基からアワがわずかに得られている（第 594 集　沢部（2）遺跡報告書参照)。当時、アワがどのように食べられたかを示す資料はほとんどなく、今回の沢部（1）遺跡のように米と混ぜて調理された状態での検出例も知られていない。

今回検討した炭化種実塊は、2 個体ともに調理後の状態を示しており、当時の食生活を知る上で重要な資料といえる。　（佐々木由香・米田恭子・バンダリ　スダルシャン）

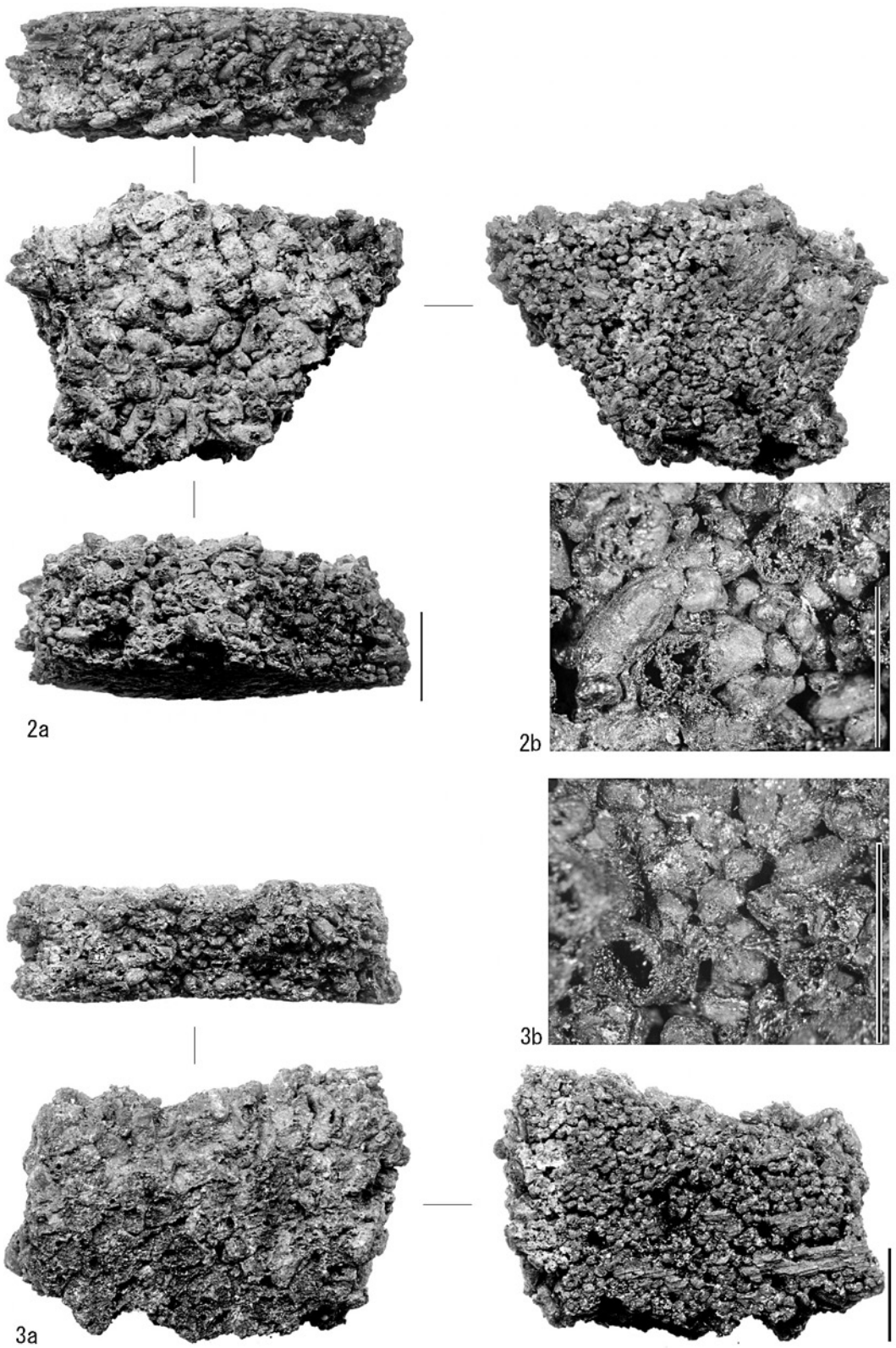
引用文献

佐々木由香・バンダリ　スダルシャン・米田恭子・村田健太郎・小石川　篤（2009）北川表の上遺跡出土炭化種実同定および炭化種実塊の X 線 CT 画像解析による検討．財団法人横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター編「港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告 42　北川表の上遺跡」: 423-435，横浜市教育委員会.



図版 1　沢部(1)遺跡出土の炭化種実塊の外面形態と内部構造の CT 画像および実測図

1．試料 No.1(SI06)



スケール　2a, 3a：10㎜, 2b, 3b：5㎜

図版２　沢部（1）遺跡出土の炭化種実塊の外面形態

2a. イネ・アワ炭化種子塊（試料No.2-1、SI06）、2b. イネ・アワ炭化種子塊の表面拡大（試料No.2-1、SI06）、3a. イネ・アワ炭化種子塊（試料No.2-2、SI06）、3b. イネ・アワ炭化種子塊の表面拡大（試料No.2-2、SI06）

第3節　沢部（1）遺跡出土の樹皮素材と布の素材植物の同定

（株）パレオ・ラボ

1．はじめに

弘前市に所在する沢部（1）遺跡から出土した樹皮素材6点と布1点について、樹脂包埋法による素材植物の同定を行った。

2．試料と方法

樹皮素材は、竪穴建物跡SI32のカマド①およびカマド①付近と、SI32内の土坑SK7から出土した計6点である。布は、建物跡SI42の床面から出土した。遺構の時期は、いずれも平安時代と推定されている。樹皮素材と布は、各試料に複数個体があったため、状態の良い1点を分析対象とした。

同定の方法は、まず肉眼と実体顕微鏡で試料を観察し、樹脂包埋試料として一部を採取した。なお、樹皮素材の観察方法は、（佐々木ほか，2015）を参考にした。樹脂包埋は、アセトンの上昇系列で脱水処理を行なった後、エポキシ樹脂に包埋した。樹脂包埋試料はミクロトームを用いて切片を作製し、プレパラートに封入した。プレパラートを光学顕微鏡下で観察し、現生標本と比較して同定を行った。プレパラートは、パレオ・ラボに保管されている。

3．結果

同定の結果、樹皮素材はカバノキ属の樹皮（コルク層）、布は経糸と緯糸どちらもアサの靭皮繊維であった。結果を表1と2に示す。カバノキ属の樹皮素材はいずれも自然の巻き込みがみられる。長さ（長軸）は9.2～59.9㎜、樹皮の厚さ0.6～6.2㎜、完形の試料の巻きの長さは約45～120㎜であった。樹皮1～4、6は一部が炭化、樹皮5は完全に炭化していた。状態が悪く、切断痕の有無は不明である。アサの布は平織で、分析試料のサイズは残存長2.3㎝×残存幅1.5㎝、布の糸は太さ約0.5㎜であった。

以下に、素材植物の特徴と同定根拠を示す。また、試料写真と光学顕微鏡写真を図版に示す。

(1) カバノキ属　Betula　カバノキ科　図版1　1-6（SI32　樹皮1～6）、図版2・3　1-6（SI32　樹皮1～6）

横断面では縞状の成長輪がみられる。細胞は1種類のみで、接線方向に長い長方形の細胞が配列している。接線断面では、樹幹に対して水平方向に長い紡錘形の細胞が隙間なく配列する。放射断面では、薄壁の方形の細胞と、厚壁の長方形の細胞によって、針葉樹の横断面のような成長輪がみられる。薄壁の細胞が連なる層で剥離する傾向がある。以上の特徴から、カバノキ属の樹皮（コルク層）と同定した。なお、樹皮5は炭化により組織がやや不明瞭であったため、カバノキ属樹皮？とした。

(2) アサ　Cannabis sativa L.　アサ科　図版１　7（SI42)、図版３　8-9（SI42)、7（現生）

布は平織で、経糸･緯糸ともに約 0.5 ㎜の糸で織られている。糸は多数の繊維が緩く撚られている。繊維細胞は消失して空洞化しているが、繊維の太さは 10 ～ 30 μ m ほどで、断面の形状は円～楕円形、多角形、数本がまとまってみられる（図版３　8d，9d の★印)。このほかに試料の状態が悪く、細胞群が壊れたと思われる大きな空洞が多くみられるが(図版３　8d，9d の■印)､繊維の太さと配列から、アサの靭皮繊維であると同定した。

表1　樹皮素材の同定結果

試料No.	遺構	層位	その他	枝番	素材(㎜) 長さ（長軸）	幅（短軸）	巻きの長さ	厚さ	素材	状態	観察
樹皮1	SI32	覆土	カマド①	1	20.6	16.3	約45	2.7	カバノキ属樹皮	一部炭化	剥離痕・切断痕・皮目
				2	16.1	12.5	(約23)	1.5	-	-	剥離痕・切断痕・皮目
樹皮2	SI32	覆土	カマド①	-	59.9	14.6	約60	2.0	カバノキ属樹皮	一部炭化	剥離痕・皮目
樹皮3	SI32	覆土	カマド①付近	1	11.6	18.3	(約30)	3.0	カバノキ属樹皮	一部炭化	剥離痕・皮目
				2	9.2	12.8	(約25)	1.9	-	-	剥離痕・皮目
				3	15.2	23.1	(約28)	2.7	-	-	剥離痕・皮目
樹皮4	SI32	覆土	カマド①付近	-	16.0	15.2	約55	6.2	カバノキ属樹皮	一部炭化	剥離痕・皮目
樹皮5	SK7（SI32内）	覆土	-	1	13.9	9.9	約75	0.7			剥離痕・切断痕？
				2	10.7	20.4	(約25)	0.6	カバノキ属樹皮？	炭化	剥離痕
樹皮6	SI32	覆土	カマド①付近	-	20.8	20.6	約120	2.4	カバノキ属樹皮	一部炭化	剥離痕・皮目

※カッコ内は残存している長さ

表2　布の素材同定結果

遺構	層位	遺物名	No.	サイズ（残存）	採取部位	繊維幅	備考	素材
SI42	床面	布1/2	A	1.8×1.5cm	-	-	一部炭化	-
			B	3×2cm？	-	-	一部炭化	-
			C	2.3×1.5cm	経糸	約0.5㎜	-	アサ
					緯糸	約0.5㎜	-	アサ
			D	1.1×0.9cm	-	-	炭化	-
			E	0.7×0.5cm	-	-	炭化	-
			F	0.9×0.5cm	-	-	-	-
			G	0.4×1.2cm	-	-	炭化	-
			H	0.8×0.6cm	-	-	炭化	-
			I	0.5×0.6cm	-	-	-	-

4. 考察

布に使用されていたアサ（Cannabis sativa L.）は、アサ科アサ属の１年生草本である。中央アジアが原産とされ、日本列島では縄文時代早期にアサの果実が確認されている（工藤・一木，2014)。青森県では、中津軽郡の川原平（1）遺跡で縄文時代後期後葉～晩期の漆漉し布の糸の素材としてアサが確認されている（鈴木ほか，2017)。また、近世では東京都新宿区の南元町遺跡や、群馬県長野原町の東宮遺跡などで布の素材としてアサの利用が確認されているが（小林ほか，2015；鈴木，2012)、平安時代の出土例や分析例はまだない。ただし、アサの果実は平安時代でも青森県内では弘前市の扇田（3）遺跡、野辺地町の向田（37）遺跡、東北町の赤平（3）遺跡、八戸市の潟野遺跡で確認されている（岡本ほか，2013)。

一方、樹皮素材はいずれもカバノキ属であった。樹皮は円周方向にはがされているため、横剥ぎ型剥離法もしくは螺旋型剥離法で剥されたと推測される。なお、組織は比較的水平であるため、横剥ぎ型剥離法の可能性が高い。剥ぎとる際に切り込みを入れた切断痕は､樹皮１と樹皮５で確認されたが、剥離痕はすべての試料で確認され、皮目は樹皮１～４と６で確認された。素材の長さ（長軸）は、樹皮１と３～６は幅１～２㎝程だが、樹皮２は幅６㎝であった。樹皮１～４と６は素材の幅が厚く、皮目が見られるため、採取段階の樹皮素材であると推測される。樹皮５は厚みが薄く、皮目も観察でき

ないので、加工段階の可能性も考えられる。このため、樹皮 5 の切断痕は整形時の加工痕の可能性もある。カバノキ属の樹皮素材は、青森県では縄文時代中期の三内丸山遺跡と、縄文時代後期～晩期の川原平（1）遺跡、山形県では縄文時代前期の押出遺跡、福島県では縄文時代晩期の荒屋敷遺跡で確認されている（鈴木，2015；鈴木ほか，2017）。平安時代のカバノキ属の樹皮素材の出土例はまだ確認されておらず、サクラ属の樹皮素材が黒石市赤坂遺跡、シナノキ属樹皮の縄が五所川原市十三盛遺跡で確認されている（鈴木，2015）。分析事例が少ないため、類例の出土が待たれる。

（黒沼保子・鈴木三男）

引用文献

小林和貴・佐々木由香・能城修一・鈴木三男（2015）南元町遺跡第 3 次調査出土繊維製品等の素材植物．国際文化財株式会社編「南元町遺跡Ⅲ」：248-254，住友不動産．

工藤雄一郎・一木絵里（2014）縄文時代のアサ出土例集成．工藤雄一郎編「国立歴史民俗博物館研究報告　第 187 集　縄文時代の人と植物の関係史」：425-440，国立歴史民俗博物館．

岡本　洋・浅田智晴・加藤隆則・藤根　久（2013）古代北奥の漆利用―青森県の漆付着土師器―．青森県埋蔵文化財調査センター編「研究紀要　第 18 号」：25-38，青森県埋蔵文化財調査センター．

篠崎茂雄（2014）アサ利用の民俗学的研究．工藤雄一郎編「国立歴史民俗博物館研究報告　第 187 集　縄文時代の人と植物の関係史」：405-420，国立歴史民俗博物館．

佐々木由香・小林和貴・能城修一・鈴木三男（2015）三内丸山遺跡北の谷出土の繊維製品・樹皮素材の技法．青森県教育庁文化財保護課「三内丸山遺跡 42」：152-159，青森県教育委員会．

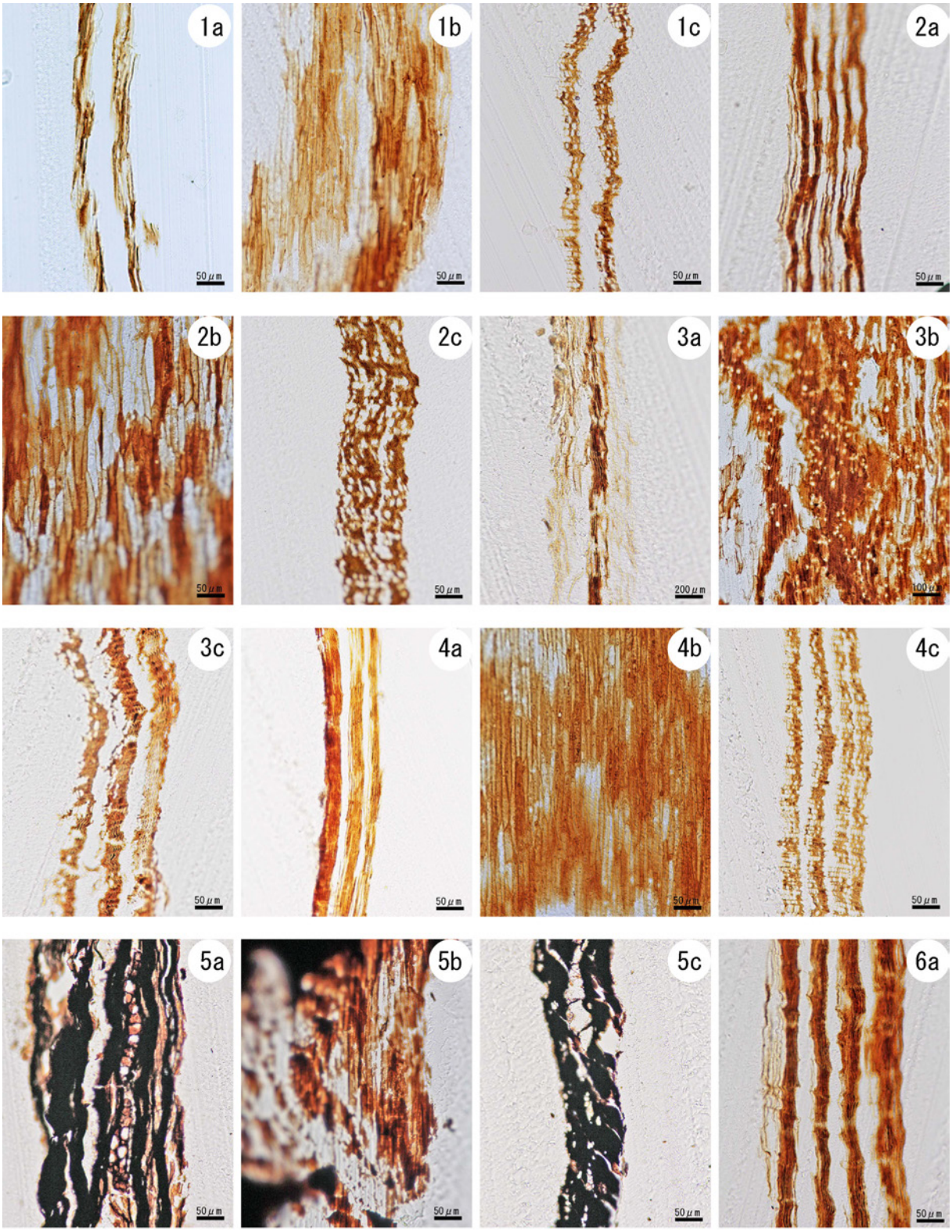
鈴木三男（2012）東宮遺跡出土織物の繊維素材．群馬県埋蔵文化財調査事業団編「東宮遺跡（2）－遺物編－」：478-479，群馬県埋蔵文化財調査事業団．

鈴木三男（2015）縄文・弥生時代の樹皮製品の素材とその地域性．あみもの研究会編「シンポジウム縄文・弥生時代の編組製品研究の新展開－植物資源利用・技法・用途－要旨集」：35-44，あみもの研究会．

鈴木三男・能城修一・小林和貴・佐々木由香（2017）木質遺物・繊維製品の素材植物同定．青森県埋蔵文化財調査センター編「川原平（1）遺跡Ⅷ」：124-148．青森県教育委員会．

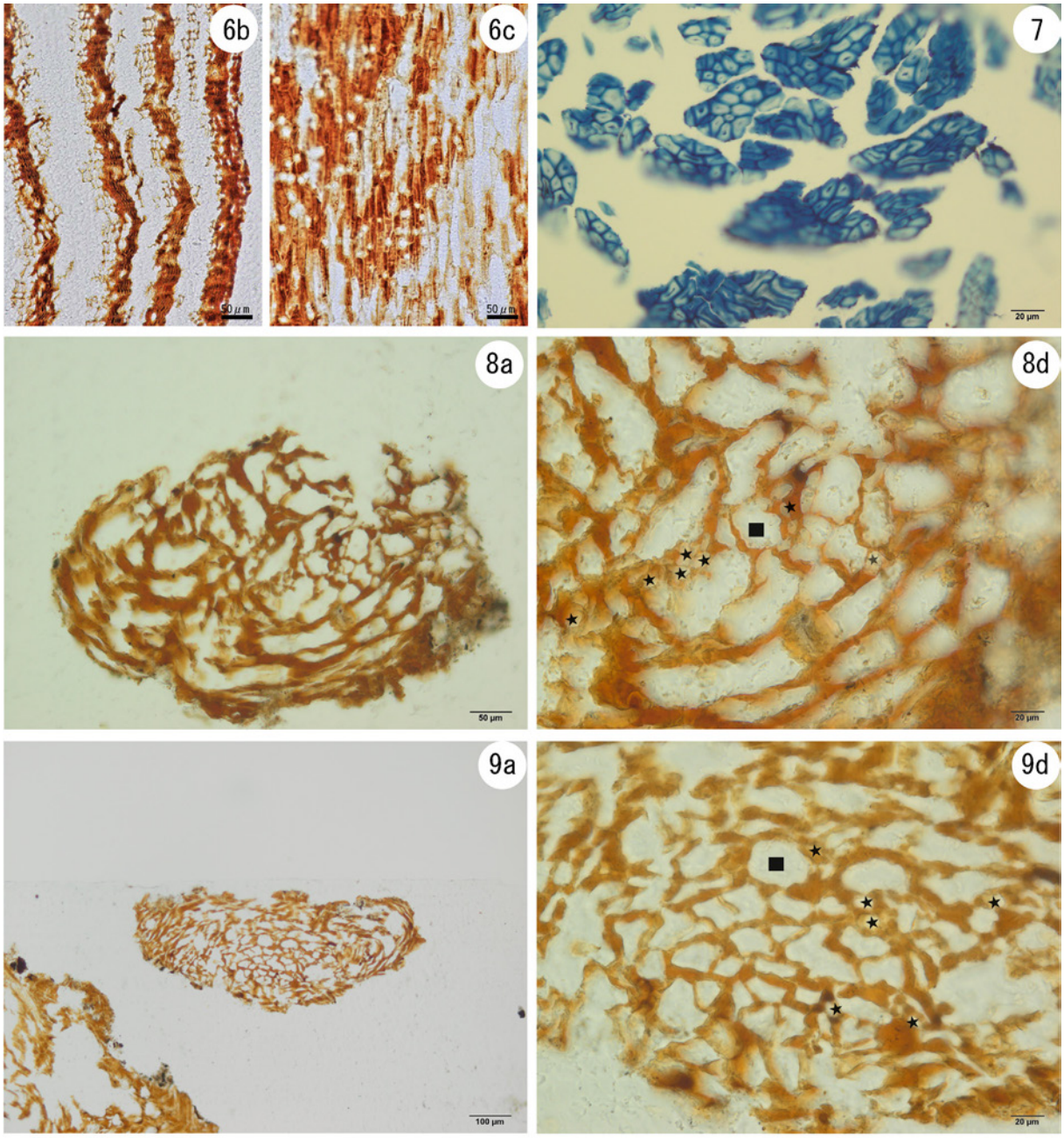
図版１　沢部（1）遺跡出土樹皮および布の試料写真

1. 樹皮 1-1、2. 樹皮 2、3. 樹皮 3-1、4. 樹皮 4、5. 樹皮 5-2、6. 樹皮 6、7. 布（a：試料全体、b：採取位置）



図版２　沢部（1）遺跡出土樹皮および布の顕微鏡写真（1）

1a-1c. カバノキ属樹皮（樹皮 1-1）、2a-2c. カバノキ属樹皮（樹皮 2）、3a-3c. カバノキ属樹皮（樹皮 3-1）、4a-4c. カバノキ属樹皮（樹皮 4）、5a-5c. カバノキ属樹皮？（樹皮 5-2）、6a. カバノキ属樹皮（樹皮 5-2）
a：横断面、b：接線断面、c：放射断面



図版３　沢部（1）遺跡出土樹皮および布の顕微鏡写真（2）

6b-6c. カバノキ属樹皮（樹皮 5-2）、7. 現生アサ、8a･8d. アサ靭皮繊維（布:経糸）、9a･9d. アサ靭皮繊維（布:緯糸）

a：横断面、b：接線断面、c：放射断面、d：横断面拡大

第4節　沢部（1）遺跡出土木材の樹種同定

（株）パレオ・ラボ

1．はじめに

弘前市南部を流れる大和沢川の右岸に立地する沢部（1）遺跡で、平安時代の竪穴建物跡から出土した炭化材27点と井戸枠の生材4点について、樹種同定を行った。

2．試料と方法

炭化材試料は、竪穴建物跡SI06とSI41、SI42、SI79と建物跡内のSI24SK1（製鉄関連）から出土した炭化材、計27点である。生材は、井戸SE04から出土した井戸枠が4点である。遺構の時期は、いずれも平安時代（10世紀半ば以降）と推測されている。なお、SI06は焼失住居で、建築部材の炭化材が床面に広がった状態で出土している。

炭化材試料は、まず肉眼観察と実体顕微鏡観察による形状の確認と残存径の計測を行った。その後、カミソリまたは手で3断面（横断面・接線断面・放射断面）を割り出し、直径1cmの真鍮製試料台に試料を両面テープで固定した。次に、イオンスパッタで金コーティングを施し、走査型電子顕微鏡（KEYENCE社製　VHX-D510）を用いて樹種の同定と写真撮影を行った。残りの試料は、青森県埋蔵文化財調査センターに保管されている。

生材試料は、剃刀を用いて3断面（横断面・接線断面・放射断面）の切片を採取し、ガムクロラールで封入してプレパラートを作製した。これを光学顕微鏡で観察および同定し、写真撮影を行った。残りの試料とプレパラートは、青森県埋蔵文化財調査センターに保管されている。

3．結果

樹種同定の結果、針葉樹のアスナロと、広葉樹のモクレン属、カツラ、エノキ属、クリ、ブナ属、コナラ属コナラ節（以下、コナラ節）、アサダ、ヌルデ、トネリコ属シオジ節（以下、シオジ節）、単子葉類のイネ科の、合計11分類群が確認された。

結果の一覧を付表1に示す。全体ではアスナロが13点で最も多く、クリが7点、コナラ節とアサダが各2点、モクレン属とカツラ、エノキ属、ブナ属、ヌルデ、シオジ節、イネ科が各1点であった。形状は、破片や不明が多いが、アスナロとエノキ属、クリ、ブナ属、ヌルデでは直径1～6.5cmほどの丸木？、アスナロでは板目材や角材、クリとモクレン属では割材？、アサダではみかん割り？もみられた。

以下に、同定根拠となった木材組織の特徴を記載し、走査型電子顕微鏡写真を図版に示す。

(1)アスナロ　*Thujopsis dolabrata*（L.f.）Siebold et Zucc.　ヒノキ科　図版1　1a-1c(樹種5)

仮道管と放射組織、樹脂細胞からなる針葉樹である。早材部から晩材部への移行は比較的緩やかである。樹脂細胞は晩材部に散在し、放射組織内にも豊富に樹脂を含む。分野壁孔は小型のスギ型～ヒノキ型で、1分野に不揃いに3～4個存在する。

アスナロは温帯に分布する常緑高木である。材は加工性や割裂性は中庸だが、耐朽性および保存性が高い。

(2) モクレン属　*Magnolia*　モクレン科　図版１　2a-2c（樹種 18）

小型の道管が、単独もしくは３～４個複合して均等に分布する散孔材である。木繊維の壁は薄い。道管相互壁孔は対列～階段状、道管の穿孔は単一である。放射組織は１～２列幅で、上下端の１～２細胞が直立もしくは方形細胞である異性である。

モクレン属は暖帯上部から温帯に分布する常緑または落葉の低木および高木で、タイサンボクやホオノキ、モクレン、コブシなどがある。材は一般にやや軽軟または中庸程度だが、緻密で狂いが少ない。

(3) カツラ　*Cercidiphyllum japonicum* Siebold et Zucc. ex Hoffm. et Schult.　カツラ科　図版１　3a-3c（樹種 28）

小型で角張った道管が、ほぼ単独で密に分布する散孔材である。道管の穿孔は階段状で、30 段程度となる。放射組織は１～３列幅で、平伏細胞と方形細胞からなる異性である。

カツラは暖帯から温帯に分布する落葉高木である。材は軽軟で靭性があり、加工は容易である。

(4) エノキ属　*Celtis*　アサ科　図版１　4a-4c（樹種 27）

大型の道管が年輪のはじめに配列し、晩材部では径を減じた薄壁の小道管が集団をなして接線から斜めに配列する環孔材である。軸方向柔組織は周囲状～翼状となる。道管の穿孔は単一である。小道管の内壁にらせん肥厚がみられる。放射組織は３～８列幅の異性で、鞘細胞がある。接線断面において放射組織と軸方向柔組織が層界状に配列する。

エノキ属は熱帯分布から温帯する落葉性の小高木から高木で、エゾエノキやエノキなど４種がある。材は比較的硬いが、強度や耐朽性は低く、狂いが出やすい。

(5) クリ　*Castanea crenata* Siebold et Zucc.　ブナ科　図版１　5a-5c（樹種 7）、6a（樹種 26）

大型の道管が年輪のはじめに数列並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、主に単列である。

クリは暖帯から温帯下部に分布する落葉高木である。材は重硬で、耐朽性および耐湿性に優れ、保存性が高い。

(6) ブナ属　*Fagus*　ブナ科　図版２　7a-7c（樹種 16）

小型で単独の道管が密に分布し、晩材部ではやや径を減ずる散孔材である。道管の穿孔は単一のものと階段状の２種類がある。放射組織はほぼ同性で、単列のもの、２～数列のもの、広放射組織の３種類がある。

ブナ属は温帯に分布する落葉高木で、ブナとイヌブナがある。材は、堅硬および緻密で、靭性があるが保存性は低い。

(7) コナラ属コナラ節　*Quercus sect*. Prinus　ブナ科　図版２　8a-8c（樹種 2）

大型の道管が年輪のはじめに１列程度並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、単列と広放射組織の２種類がある。

コナラ節は暖帯から温帯下部に分布する落葉高木で、カシワとミズナラ、コナラ、ナラガシワがあ

る。材は全体的に重硬で、加工困難である。

(8) アサダ　*Ostrya japonica* Sarg.　カバノキ科　図版２　9a-9c（樹種 29）

径が中型の道管が、単独あるいは放射方向に数個複合して、ややまばらに分布する散孔材である。軸方向柔組織は短接線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、１～４列幅である。

アサダは温帯の山地に生育する落葉高木である。材は極めて重硬であり、切削加工および割裂は困難である。

(9)ヌルデ　*Rhus javanica L. var. chinensis*（Mill.）T.Yamaz.　ウルシ科　図版２　10a-10c(樹種 12)

大型の道管が、年輪のはじめに単独もしくは数個複合して配列する半環孔材である。晩材部では道管の大きさは徐々に減じ、年輪の終わりでは小道管が集団をなして接線状～斜線状に配列する。道管の穿孔は単一である。放射組織は平伏細胞と直立細胞が混在する異性で、１～３列幅である。

ヌルデは熱帯から温帯に分布する落葉高木である。材は､耐朽性および保存性はあまり高くないが、吸水しにくく、切削および加工が容易である。

(10) トネリコ属シオジ節　*Fraxinus sect. Fraxinaster*　モクセイ科　図版２　11a-11c（樹種 30）

年輪のはじめに大型の道管が数列並ぶ環孔材で、晩材部では厚壁の小道管が単独もしくは放射方向に２～３個複合して散在する。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、１～３列幅である。

シオジ節は温帯に分布する落葉高木で、シオジとヤチダモがある。材はやや重硬で粘りがあり、加工性および保存性は中庸である。

(11) イネ科　Poaceae　図版２　12a（樹種 15）

柔細胞と維管束で構成される単子葉類である。維管束が柔細胞中に散在する不斉中心柱で、維管束を囲む維管束鞘は薄い。稈の組織のみから属や種を識別するのは難しい。

4. 考察

遺構別の樹種同定結果を表１に示す。竪穴建物跡 SI06 の床面直上から出土した炭化材は、アスナロが 10 点、コナラ節が２点、クリとヌルデ、イネ科が各１点であった。アスナロとクリ、ヌルデは直径３～5cm の丸木がみられた。アスナロは幅 4cm の板目材もみられた。いずれも建築部材と考えられる。SI36 から出土した炭化材は、ブナ属が直径 6.5cm の丸木？、クリが幅 6cm の割材？であった。床面直上から出土しており、建築部材と考えられる。SI41 の覆土から出土した炭化材は、モクレン属が幅 4cm ほどの割材？、アスナロが幅 4.5cm の角材？であった。モクレン属は垂木の可能性があるが、アスナロは建築部材ではないと考えられている。SI79 の床面直上から出土した炭化材は、アスナロとクリであった。クリは半径 1cm ほどの丸木？で、アスナロは形状不明である。用途は不明である。建物跡 SI42 の Pit1 覆土から出土した炭化材は、アスナロであった。形状や用途は不明である。

平安時代の建築部材は、弘前市に隣接する黒石市で多くの分析が行われており、高館遺跡ではサクラ属やトネリコ属、モクレン属などの広葉樹、板留（2）遺跡でもカツラやクリ、モクレン属などの多様な広葉樹が確認されている（伊東・山田編，2012)。また、山元（2）遺跡ではスギやクリ、モクレン属、山元（1）遺跡ではアスナロやクリ、モクレン属などが確認されており（伊東・山田編,

2012)、今回分析を行った沢部（1）遺跡の建築部材の樹種構成とも類似している。

井戸 SE04 の井戸枠は 4 点ともクリであった。弘前市の泉田遺跡では平安時代の井桁にスギやアスナロ、クリが使用されており、五所川原市の隠川（4）遺跡では平安時代の井戸材にクリが利用されていた（伊東･山田編, 2012)。クリは重硬な材で、心材の耐朽性が極めて高く、水湿に耐えるため（平井，1996)、井戸枠としても適していたと考えられる。

製鉄関連の建物跡 SI24 の 4 層出土のエノキ属は、直径 2.5cm の丸木で、燃料材と考えられている。6 層ではアサダとカツラ、シオジ節が確認され、これらは吸湿材と考えられている。形状は、アサダが形状不明と半径 3cm のみかん割状、カツラとシオジ節が形状不明であった。青森県では平安時代の燃料材にモクレン属やクリを中心とした多様な広葉樹を利用する傾向がある（伊東・山田編，2012)。吸湿材としての炭化材は分析例が確認できないが、燃料材と同様に、遺跡周辺に生育していた樹木が利用されたと推測される。（黒沼保子）

引用文献

平井信二（1996）木の大百科．394p，朝倉書店．

伊東隆夫・山田昌久編（2012）木の考古学－出土木製品用材データベース－．449p，海青社．

表1　遺構別の樹種同定結果

	炭化材						井戸枠	
樹種／遺構名	SI06	SI36	SI41	SI79	SI42	SI24	SE04	計
アスナロ	10		1	1	1			13
モクレン属			1					1
カツラ						1		1
エノキ属						1		1
クリ	1	1		1			4	7
ブナ属		1						1
コナラ属コナラ節	2							2
アサダ						2		2
ヌルデ	1							1
トネリコ属シオジ節						1		1
イネ科（稈）	1							1
計	15	2	2	2	1	5	4	31